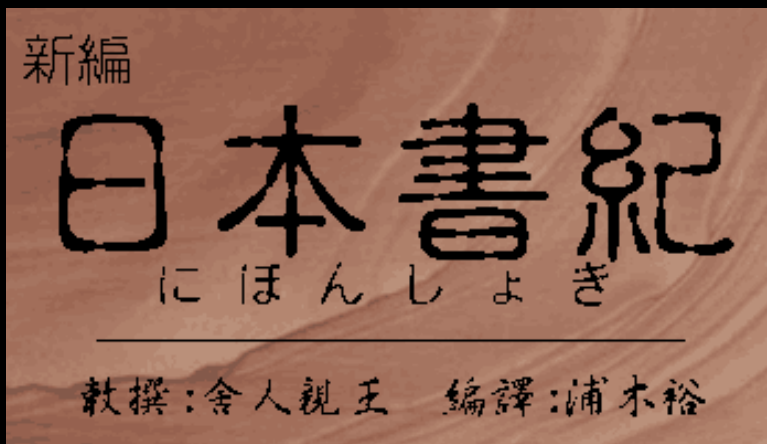


[新編 日本書紀]



新編[日本書紀] 敕撰: 舍人親王 / 註譯: 浦木裕

[\[01\]](#) [\[02\]](#) [\[03\]](#) [\[04\]](#) [\[05\]](#) [\[06\]](#) [\[07\]](#) [\[08\]](#) [\[09\]](#) [\[10\]](#) [\[11\]](#) [\[12\]](#) [\[13\]](#) [\[14\]](#) [\[15\]](#)
[\[16\]](#) [\[17\]](#) [\[18\]](#) [\[19\]](#) [\[20\]](#) [\[21\]](#) [\[22\]](#) [\[23\]](#) [\[24\]](#) [\[25\]](#) [\[26\]](#) [\[27\]](#) [\[28\]](#) [\[29\]](#) [\[30\]](#)

卷第一 神代[上]

[天地開闢與三柱神](#)

[四對偶之八神](#)

[神世七代](#)

[磐馭慮島中的聖婚與八大洲國的誕生](#)

[天照大神・月夜見尊・素戔嗚尊的誕生](#)

[素戔嗚尊與天照大神的誓約](#)

[素戔嗚尊的暴行與放逐](#)

[素戔嗚尊退治八岐大蛇](#)

卷第二 神代[下]

[葦原中國的平定,皇孫降臨與木花之開耶姬](#)

[海幸・山幸故事與鸕鷀草葺不合尊的誕生](#)

[神日本磐余彥尊等四男神的誕生](#)

卷第三 神武天皇 神日本磐余彥天皇

[神武天皇的東征](#)

[天皇軍的進擊 靈劍布都御魂與頭八咫烏](#)

[兄狹與弟狹](#)

[兄磯城與弟磯城](#)

[與長髓彥的決戰 金鷄飛來](#)

[大和的平定](#)

[營造橿原宮](#)

[即位與立后](#)

卷第四 綏靖天皇、安寧天皇、懿德天皇、孝昭天皇

孝安天皇、孝靈天皇、孝元天皇、開化天皇 [欠史八代]

[神淳名川耳天皇 綏靖天皇](#)

[磯城津彥玉手看天皇](#) [安寧天皇](#)
[大日本彥耜友天皇](#) [懿德天皇](#)
[觀松彥香殖稻天皇](#) [孝昭天皇](#)
[日本足彥國押人天皇](#) [孝安天皇](#)
[大日本根子彥太瓊天皇](#) [孝靈天皇](#)
[大日本根子彥國牽天皇](#) [孝元天皇](#)
[稚日本根子彥大日日天皇](#) [開化天皇](#)

卷第五 崇神天皇 御間城入彥五十瓊殖天皇

[即位與遷都](#)
[疾疫的流行與敬神祭祀](#)
[四道將軍與五埴安彥的反叛,三輪山的傳說](#)
[課役,御肇國天皇之稱號,嗣子決定](#)
[出雲神寶之獻上,造池勸農與任那朝貢](#)

卷第六 垂仁天皇 活目入彥五十狹茅天皇

[誕生與即位](#)
[任那與新羅的抗爭](#)
[狹穗彥王的謀反](#)
[當麻蹶速與野見宿禰,立后](#)
[譽津別王](#)
[伊勢祭祀的開端,出雲神寶檢校](#)
[殉死的禁令](#) [埴輪](#)
[石上神宮與神寶](#)
[天日槍與神寶](#)
[田道間守與非時香果](#)

卷第七 景行天皇、成務天皇

[大足彥忍代別天皇](#) [景行天皇](#)
[即位與立后](#)
[諸妃與八十人的皇子、皇女](#)
[天皇西征與神夏磯媛的提言](#)
[碩田國的土蜘蛛討伐](#)
[熊襲平定與九州巡幸](#)
[日本武尊的熊襲征討](#)
[日本武尊東征與弟橘媛入水](#)
[日本武尊病歿與白鳥陵](#)
[稚足彥天皇](#) [成務天皇](#)
[即位與詔勅](#)
[造長、稻置的設置](#)

卷第八 仲哀天皇 足仲彥天皇

[天皇即位,追慕其父日本武尊](#)
[熊襲征討](#)
[天皇質疑神託,崩御](#)

卷第九 神功皇后 氣長足姬尊

[神功皇后獲得神託,熊襲征討](#)
[得神相助之新羅親征](#)

[凱旋途中,麿阪・忍熊二王謀反](#)
[譽田別皇子立太子](#)
[與百濟國間的親交與契機](#)
[相互朝貢,百濟・新羅的爭執](#)
[再征討新羅](#)

卷第十 應神天皇 譽田天皇

[誕生與即位](#)
[甘美內宿彌關於武內宿禰的讒言](#)
[日向的髮長媛](#)
[弓月君・阿直岐等來歸](#)
[追隨妃兄媛歸省之吉備行幸](#)
[枯野船與縫工女渡來,太子立位問題](#)

卷十一 仁德天皇 大鷦鷯天皇

[菟道稚郎子謙讓與皇位辭退](#)
[仁德天皇即位與立后](#)
[民灶炊煙盛起](#)
[築堀江造池堤](#)
[天皇與皇后的不和](#)
[八田皇后立后,隼別皇子濫職](#)
[新設鷹甘部與雁之產卵](#)
[與新羅間的紛爭,蝦夷的反叛](#)
[冰室](#)
[飛驒的宿儺](#)
[百舌鳥野陵與天皇的崩御](#)

卷十二 履中天皇、反正天皇

[去來穗別天皇 履中天皇](#)
[去來穗別皇子立為太子與仲皇子的反亂](#)
[即位磐余雉櫻宮,諸國設置國史](#)
[天皇崩御稚櫻宮](#)
[瑞齒別天皇 反正天皇](#)
[天皇之即位與御崩](#)

卷十三 允恭天皇、安康天皇

[雄朝津間稚子宿禰天皇 允恭天皇](#)
[天皇即位](#)
[立后與皇子女,天皇病癒](#)
[盟神探湯與校正姓氏](#)
[討伐玉田宿禰](#)
[衣通郎姬在住茅渟](#)
[赤石的真珠](#)
[木梨輕皇子與輕大娘皇女的戀情](#)
[允恭天皇崩御](#)
[穴穗天皇 安康天皇](#)
[木梨輕太子自滅](#)
[大草香皇子之死](#)

卷十四 雄略天皇 大泊瀨幼武天皇

[眉輪王報父仇](#)
[天皇即位與諸妃](#)
[行幸吉野宮,肉人部貢上](#)
[栲幡皇女自殺](#)
[葛城山遇一事主神](#)
[吉野的蜻蛉](#)
[葛城山的狩獵](#)
[百濟軍君來朝](#)
[少子部螺贏捕三諸岳大蛇](#)
[吉備臣](#)
[稚媛與今來之才伎](#)
[救援新羅,擊破高麗](#)
[新羅征討開始](#)
[埴輪馬](#)
[鳥養部與豬名部,來自吳國的使者](#)
[根使主舊惡露見](#)
[秦臣與漢部,土師連](#)
[物部目連,討伐朝日郎](#)
[高麗,百濟破滅](#)
[天皇的遺詔](#)

卷十五 清寧天皇、顯宗天皇、仁賢天皇

[白髮武廣國押稚日本根子天皇](#) 清寧天皇

[星川皇子謀反](#)
[天皇即位](#)
[發現億計・弘計二皇子](#)
[風俗巡查與來自海外的使者](#)

弘計天皇 顯宗天皇

[弘計・億計二皇子的苦難](#)
[二皇子身分曝光](#)
[互讓皇位](#)
[弘計王的即位承諾](#)
[置目老嫗](#)
[放下復仇之心](#)
[任那與百濟的攻防](#)

億計天皇 仁賢天皇

[億計天皇即位](#)
[日鷹吉士遣使高麗](#)

卷十六 武烈天皇 小泊瀨稚鷦鷯天皇

[討伐平群真鳥・鮪父子的專橫,即位](#)
[武烈天皇的暴虐](#)

卷十七 繼體天皇 男大跡天皇

[擁立繼體天皇,即位與立后](#)
[任那四縣割讓予百濟](#)
[己汶・帶沙間的諸國相爭](#)
[物部彥鹿火鎮壓磐井反亂](#)
[近江毛野臣渡海](#)
[毛野臣,復興任那未果而死](#)

[繼體天皇崩御](#)

卷十八 安閑天皇、宣化天皇

[廣國押武金日天皇](#) [安閑天皇](#)

[安閑天皇之即位與立后](#)

[為后妃設置屯倉](#)

[大河內直味張贖罪](#)

[武藏國造紛爭決戰,天皇崩御](#)

[武小廣國押盾天皇](#) [宣化天皇](#)

[宣化天皇之即位與立后](#)

[於筑紫國那津整備官家](#)

卷十九 欽明天皇 天國排開廣庭天皇

[欽明天皇與秦大津父](#)

[天皇即位,立后與遷都](#)

[大伴金村失腳](#)

[五人妃子](#)

[百濟聖明王,協議任那復建](#)

[聖明王,戒慎新羅謀略](#)

[天皇,催促任那復建](#)

[百濟要求排除親新羅派官人](#)

[任那復建計劃](#)

[百濟,向日本要求救援](#)

[佛教公傳](#)

[聖明王之死,威德王繼位嗣立](#)

[新羅,殲滅任那](#)

[大葉子的悲劇](#)

[高麗的使者,漂至越濱](#)

[欽明天皇御崩](#)

卷二十 敏達天皇 淳中倉太珠敷天皇

[高麗的烏羽上表文](#)

[處罰吉備海部直難波](#)

[與新羅、百濟交涉](#)

[任那復興計劃,日羅進言](#)

[蘇武馬子崇佛](#)

[物部守屋等破佛](#)

卷廿一 用明天皇、崇峻天皇

[橘豐日天皇](#) [用明天皇](#)

[即位與立后](#)

[三輪逆之死](#)

[天皇崩御](#)

[泊瀨部天皇](#) [崇峻天皇](#)

[穴穗部王子之死](#)

[物部守屋滅亡](#)

[捕鳥部万的奮戰](#)

[法興寺創建](#)

[蘇我馬子暗殺天皇](#)

卷廿二 推古天皇 豐御食炊屋姫天皇

[推古天皇即位](#)
[聖德太子攝政,佛教遍布](#)
[新羅征討](#)
[施行冠位十二階](#)
[製作憲法十七條](#)
[佛師鞍作鳥](#)
[派遣遣隋使小野妹子](#)
[菟田野的藥獵](#)
[太子與飢者,撰錄天皇記．國記](#)
[聖德太子之死](#)
[策劃新羅征討](#)
[寺院．僧尼的統制](#)
[馬子,要請葛城縣](#)
[蘇我馬子之死](#)
[天皇崩御](#)

卷廿三 舒明天皇 息長足日廣額天皇

[推演先帝遺言,朝廷對立](#)
[山背大兄王,熱心協助蝦夷大臣](#)
[山背大兄王的支持者,境部摩理勢的終末](#)
[舒明天皇之即位與政治．外交](#)
[天地異變紛起](#)

卷廿四 皇極天皇 天豐財重日足姬天皇

[皇后即位](#)
[百濟與高句麗的政變](#)
[祈雨,入鹿失敗,天皇成功](#)
[天地異變續發](#)
[蘇我蝦夷．入鹿的專橫](#)
[蘇我入鹿襲擊斑鳩宮](#)
[中臣鎌子與中大兄皇子,互展胸襟](#)
[預兆與謠歌](#)
[時人之歌與秦河勝打懲常世神](#)
[蘇我氏由強轉弱之變兆](#)
[蘇我氏滅亡](#)

卷廿五 孝德天皇 天万豐日天皇

[王位禪讓](#)
[新政權的發動](#)
[東國國司發遣](#)
[鍾匱之制,男女之法,僧尼統制](#)
[古人皇子謀反,遷都難波](#)
[改立新詔](#)
[鍾匱之制與其後發展](#)
[東國國司論功行賞](#)
[薄葬令與舊俗的廢止](#)
[品部廢止](#)
[新冠位制施行](#)
[蘇我倉山田石川麻呂與造媛之死](#)

[白稚奉獻與改元,遷至難波宮](#)
[皇太子遷至飛鳥](#)

卷廿六 齊明天皇 天豐財重日足姬天皇

[天皇於飛鳥板蓋宮再登天位](#)
[營造與心狂的土木工程](#)
[有間皇子佯狂](#)
[皇孫建王薨去](#)
[有間皇子事件](#)
[比羅夫,討伐肅慎,蝦夷](#)
[遣唐使渡海,謁見唐高宗](#)
[百濟滅亡,遺臣之奮鬥](#)
[百濟,對日求援](#)
[天皇步上西征海路](#)
[天皇崩御與皇太子的輓歌](#)

卷廿七 天智天皇 天命開別天皇

[皇太子的稱制與救援百濟](#)
[歸國的百濟王豐璋,來自新羅的侵害](#)
[征討新羅之日軍,敗於白村江](#)
[廿六冠位之制定與內政,外交](#)
[遷都近江與天皇即位](#)
[近江京新政](#)
[藤原鎌足之死與火災,流言,盜賊續起](#)
[大友皇子體制人事發足](#)
[天皇御崩與大海人皇子出家](#)

卷廿八 天武天皇[上] 天淳中原瀛真人天皇

[大海人皇子出家入吉野](#)
[緊迫對立,決意出兵](#)
[壬申之亂爆發,大海人皇子進入東國](#)
[狼狽的近江朝廷與大友皇子的對策](#)
[大海人皇子於野上行宮發布作戰大號令](#)
[自大山到倭,由不破至近江出擊](#)
[敗於乃樂山,擊退於荊荻野](#)
[近江會戰與大友皇子自縊](#)
[近江軍逼近倭京,大伴吹負防衛成功](#)
[壬申之亂終結,大海人皇子凱旋回倭](#)

卷廿九 天武天皇[下] 天淳中原瀛真人天皇

[天皇即位與皇子女,各國賀騰極使來朝](#)
[志向律令國家,改革諸制舊弊](#)
[推進新政與神佛崇信](#)
[土市皇女急死](#)
[吉野的盟約](#)
[因皇后之病創藥師寺,病癒](#)
[撰定律令與記定帝紀,上古諸事](#)
[服裝禁令與僧綱制等之整備](#)
[整備僧綱制等](#)
[軍事進止與威儀高揚,制定八色姓](#)

[改定爵位・服制諸制](#)

[天皇患病與朱鳥改元,崩御](#)

卷三十 持統天皇 高天原廣野姬天皇

[皇后臨朝稱制](#)

[大津皇子事件](#)

[天武天皇殯宮儀禮與大葬](#)

[草壁皇子之死與淨御原令之施行](#)

[持統天皇即位與新政](#)

[增加食封,十八氏墓記上進,新益京鎮祭](#)

[伊勢行幸與三輪高市麻呂之諫爭](#)

[頻繁行幸吉野,新宮整地,軍事整備](#)

[遷都藤原京](#)

[新藤原宮之政治情勢](#)

[高市皇子之死,功臣之死](#)

[讓位予文武天皇](#)

底本文獻:小學館[新編日本古典文學全集『日本書紀』](#)

參考:大系『日本書紀』國史大系『日本書紀』等

[\[久遠・絆\]](#) [\[再臨・詔\]](#)

日本書紀 卷第一 神代[上]

一.天地開闢與三柱神

古天地未剖,陰陽不分,混沌如雞子,溟涬而含芽.及其清陽者,薄靡而為天;重濁者,淹滯而為地,精妙之合專易,重濁之凝竭難.故天先成而地後定,然後神聖生其中焉.

故曰:開闢之初,洲壤浮漂,譬猶游魚之浮水上也.

于時天地之中生一物,狀如葦芽,便化為神,號國常立尊.至貴曰尊,自餘曰命,並訓 . . . 也.下皆倣此.

次,國狹槌尊.

次,豐斟淳尊,凡三神矣.

乾道獨化,所以成此純男.

一書第一曰:天地初判,一物在於虛中.狀貌難言,其中自有化生神.

號,國常立尊,亦曰國底立尊.

次,國狹槌尊,亦曰國狹立尊.

次,豐國主尊,亦曰豐國野尊,亦曰豐齧野尊,亦曰葉木國野尊,亦曰見野尊.

一書第二曰:古國稚地稚之時,譬猶浮膏而漂蕩.

于時國中生物,狀如尾芽之抽出也,因此有化生之神.號,可美葦芽彥舅尊.

次,國常立尊.

次,國狹槌尊.葉木國,此云 ;可美,此云

一書第三曰:天地混成之時,始有神人焉.

號,可美葦芽彥舅尊.

次,國底立尊.彥舅,此云

一書第四曰:天地初判,始有俱生之神.

號,國常立尊.

次,國狹槌尊.

又曰,高天原所生神.

名曰,天御中主尊.

次,高皇產靈尊.

次,神皇產靈尊.皇產靈,此云

一書第五曰:天地未生之時,譬猶海上浮雲無所根係.其中生一物,如葦芽之初生泥中也.

便化為人.號,國常立尊.

一書第六曰:天地初判.有物若葦芽生於空中.

因此化神.號,天常立尊.

次,可美葦芽彥舅尊.

又有物若浮膏生於空中,因此化神.號,國常立尊.

二.四對偶之八神

次有神,泥土煮尊、沙土煮尊.此二神亦曰,泥土根尊、沙土根尊.泥土,此云 ;沙土,此云

次有神,大戶之道尊、大苦邊尊.此二神亦曰,大戶摩彥尊、大戶摩姬尊,亦曰,大富道尊、大富邊尊.大戶之道尊亦云,大戶之邊.

次有神,面足尊、惶根尊.惶根尊亦曰,吾屋惶根尊/忌檀城尊/青檀城根尊/吾屋檀城尊.

次有神,伊奘諾尊、伊奘冉尊.

一書第一曰:此二神,青檀城根尊之子也.

一書第二曰:國常立尊生天鏡尊.

天鏡尊生天万尊.

天万尊生沫蕩尊.

沫蕩尊生伊奘諾尊.沫蕩,此云

神世七代

國常立尊
神世一代

國狹槌尊
神世二代

豐斟淳尊
神世三代

泥土煮尊

神世四代

沙土煮尊

三.神世七代

凡八神矣.乾坤之道,相參而化,所以成此男女.自國常立尊,迄伊奘諾尊,是謂神世七代者矣.

一書第一曰:男女耦生之神,先有泥土煮尊、沙土煮尊.
次有,角杙尊、活杙尊.
次有,面足尊、惶足尊.
次有,伊奘諾尊、伊奘冉尊.杙,概也.

四.磐馭慮島中的聖婚與八大洲國的誕生

伊奘諾尊、伊奘冉尊立於天浮橋之上,共計曰:「底下豈無國歟?」乃以天之瓊矛瓊玉也,此云・指下而探之,是獲滄溟.其矛鋒滴瀝之潮,凝成一島.名之曰,磐馭慮島.

二神於是降居彼島,因欲共為夫婦,產生洲國,便以磐馭慮島為國中之柱.柱,此云・・・・.而陽神左旋,陰神右旋,分巡國柱,同會一面.時陰神先唱曰:「喜哉,遇可美少男焉!少男,此云・・・・」陽神不悅曰:「吾是男子,理當先唱,如何婦人反先言乎?事既不祥,宜以改旋.」於是二神卻更相遇.是行也,陽神先唱曰:「喜哉,遇可美少女焉!少女,此云・・・・」

因問陰神曰:「汝身有何成耶?」對曰:「吾身有一雌元之處.」陽神曰:「吾身亦有雄元之處.思欲以吾身元處,合汝身之元處.」於是陰陽始遵合為夫婦.



上立神岩
沼島之自凝神社,全島皆為御神體
之日本創世聖地.
上立神岩者,傳為天之御柱坐也.



伊奘諾神宮 大鳥居
祭神: 伊奘諾大神/ 伊奘冉大神
鎮座: 淡路國津名郡一宮町多賀



及至產時,先以淡路洲為胞.意所不快,故名之曰淡路洲.

乃生大日本豐秋津洲.日本,此云・・・・.下皆倣此.

次生,伊子伊豫二名洲.

次生,筑紫洲.

次,雙生億岐洲與佐度洲.世人或有雙生者,象此也.

次生,越洲.

次生,大洲.

次生,吉備子洲.由是始起大八洲國之號焉.

即對馬島、壹岐島及處處小島,皆是潮沫凝成者矣.亦曰,水沫凝而成也.

一書第一曰:天神謂伊奘諾尊、伊奘冉尊曰:「有豐葦原千秋五百秋瑞穗之地,宜汝往脩之!」乃賜天瓊戈.於是二神立於天上浮橋,投戈求地.

因畫滄海而引拳之,即戈豐垂落之潮,結而為島.名曰,磐馭慮島.

二神降居彼島,化作八尋之殿,又化豎天柱.陽神問陰神曰:「汝身有何成耶?」對曰:「吾身具成而有稱陰元者一處.」陽神曰:「吾身亦具成而有稱陽元者一處.思欲以吾身陽元,合汝身之陰元.」云爾.

即將巡天柱,約束曰:「妹自左巡,吾當右巡.」既而分巡相遇.陰神乃先唱曰:「妍哉,可愛少男歟!」陽神後和之曰:「妍哉,可愛少女歟!」遂為夫婦.

先生,蛭兒.便載葦船而流之.

次生,淡洲.此亦不以充兒數.

故還復上詣於天,具奏其狀.時天神以太占而卜合之,乃教曰:「婦人之辭,其已先揚乎.宜更還去!」乃卜定時日而降之.

故二神改復巡柱.陽神自左,陰神自右.既遇之時,陽神先唱曰:「妍哉,可愛少女歟!」陰神後和之曰:「妍哉,可愛少男歟!」然後同宮共住而生兒.

號,大日本豐秋津洲.

次,淡路洲.

次,伊豫二名洲.

次,筑紫洲.

次,億岐三子洲.

次,佐度洲.

次,越洲.

次,吉備子洲.由此謂之大八洲國矣.瑞,此云・・・・.妍哉,此云・・・・・.可愛,此云・・・・.太占,此云・・・・・.

一書第二曰:伊奘諾尊、伊奘冉尊二神,立于天霧之中曰:「吾欲得國.」

乃以天瓊矛指垂而探之,得磐馭慮島.

大戸之道尊 大苦 邊尊
神世五代

面足尊 惶根尊
神世六代

伊奘諾尊 伊奘冉尊
神世七代

伊奘諾神宮 本殿[幽宮]

據傳伊奘諾大神將統國之業予天照大御神所治.其後,己身退居淡路島多賀之地,築幽宮而隱也.



蛭兒神社

據傳水蛭子乘天磐樟船而流至此地,該船化作蒼鬱之森.

於此,傳因伊奘諾尊與伊奘冉尊嘆其子蛭兒不善,故其地有「奈氣木(嘆氣)之杜」之名.



阿伎留神社所藏

神伝鹿卜秘事記 / 太占之圖

鹿卜者,焚其鹿之肩胛骨等,依其龜裂之狀以為占卜之法.

則拔矛而喜之曰:「善乎,國之在矣!」

一書第三曰:伊奘諾、伊奘冉二神,坐于高天原曰:「當有國耶?」

乃以天瓊茅,畫成磐馭慮島.

一書第四曰:伊奘諾、伊奘冉二神相謂曰:「有物若浮膏,其中蓋有國乎?」

乃以天瓊茅探成一島,名曰,磐馭慮島.

一書第五曰:陰神先唱曰:「美哉,善少男!」時以陰神先言故,為不祥,更復改巡.則陽神先唱曰:「美哉,善少女!」

遂將交合而不知其術.時有鵲鴦飛來,搖其首尾.二神見而學之,即得交道.

一書第六曰:二神合為夫婦.

先以淡路洲、淡洲為胞,生,大日本豐秋津州.

次,伊豫洲.

次,筑紫洲.

次雙生,億岐洲與佐度洲.

次,越洲.

次,大洲.

次,子洲.

一書第七曰:先生,淡路洲.

次,大日本豐秋津州.

次,伊豫二名洲.

次,億岐洲.

次,佐度洲.

次,筑紫洲.

次,壹岐洲.

次,對馬洲.

一書第八曰:以磐馭慮島為胞,生,淡路洲.

次,大日本豐秋津州.

次,伊豫二名洲.

次,筑紫洲.

次,吉備子洲.

次雙生,億岐洲與佐度洲.

次,越洲.

一書第九曰:以淡路洲為胞,生,大日本豐秋津州.

次,淡洲.

次,伊豫二名洲.

次,億岐三子洲.

次,佐度洲.

次,筑紫洲.

次,吉備子洲.

次,大洲.

一書第十曰:陰神先唱:「妍哉,可愛少男乎!」便握陽神之手,遂為夫婦.

生,淡路洲.

次,蛭兒.

五.天照大神・月夜見尊・素戔鳴尊的誕生

次生,海.

次生,川.

次生,山.

次生,木祖-句句迺馳.

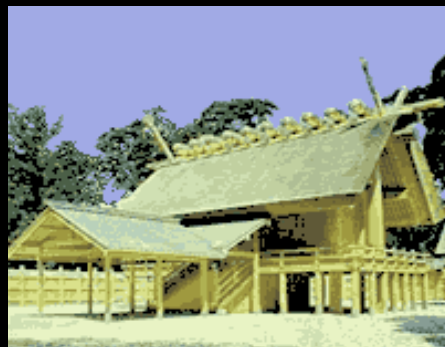
次生,草祖-草野姬,亦名,野槌.

繼而伊奘諾尊、伊奘冉尊共議曰:「吾已生大八洲國及山川草木,何不生天下之主者歟?」

於是共生日神,號大日靈貴.大日靈貴,此云.....靈,音-力丁反.一書云:天照大日靈尊.此子光華明彩,照徹於六合之內.故二神喜曰:「吾息雖多,未有若如此靈異之兒.不宜久留此國.自當早送于天,而授以天上之事.」是時天地相去未遠,故以天柱拳於天上也.

次生,月神.一書云:月弓尊,月夜見尊,月讀尊.其光彩亞日,可以配日而治.故亦送之於天.

次生,蛭兒.雖已三歲,腳猶不立.故載之於天磐馭樟船而順風放棄.



伊勢神宮

本宮祭祀天照大神,外宮祭祀豐受大神.自古以來繼承神事傳統的日本全國神社之總社.靈,力丁反,音同靈也.

次生,素戔鳴尊.一書云:神素戔鳴尊,速素戔鳴尊.此神有勇悍以安忍,且常以哭泣為行,故令國內人民多以夭折,復使青山變枯.

故其父母二神敕素戔鳴尊:「汝甚無道,不可以君臨宇宙.固當遠適之於根國矣!」遂逐之.

一書第一曰:伊奘諾尊曰:「吾欲生御寓之珍子。」

乃以左手持白銅鏡,則有化出之神.是謂,大日靈尊.

右手持白銅鏡,則有化出之神.是謂,月弓尊.

又,迴首顧眄之間,則有化生.是謂,素戔鳴尊.

即大日靈尊及月弓尊,並是質性明麗,故使照臨天地;

素戔鳴尊是性好殘害,故令下治根國.珍,此云・・・顧眄之間,此云・・・・・

一書第二曰:日月既生,次生蛭兒.此兒年滿三歲,腳尚不立.

初伊奘諾、伊奘冉尊巡柱之時,陰神先發喜言,既違陰陽之理,所以今生蛭兒.

次生,素戔鳴尊.此神性惡,常好哭恚.民眾多死,青山為哭.

故其父母敕曰:「假使汝治此國,必多所殘傷.故汝可以馭極限之根國。」

次生,鳥磐豫樟船.輒以此船載蛭兒,順流放棄.

次生,火神軻遇突智.

時伊奘冉尊為軻遇突智所焦而終矣,其且終之間,

臥生,土神-埴山姬及水神-罔象女.

即軻遇突智娶埴山姬.

生,稚產靈.此神頭上生蠶與桑,臍中生五穀.罔象,此云・・・

一書第三曰:伊奘冉尊生火產靈時,為子所焦而神退矣.亦云,神避矣.且其神退之時,則生水神-罔象女及土神-埴山姬.

又生,天吉葛.天吉葛,此云・・・・・;一云,・・・・・

一書第四曰:伊奘冉尊且生火神軻遇突智之時,悶熱懊惱,因為吐.

此化為神.名曰,金山彥.

次小便,化為神.名曰,罔象女.

次大便,化為神.名曰,埴山媛.

一書第五曰:伊奘冉尊生火神時,被灼而神退去矣.故葬於紀伊國熊野之有馬村焉.

土俗祭此神之魂者,花時亦以花祭;又用鼓,吹,幡旗,歌舞而祭矣.



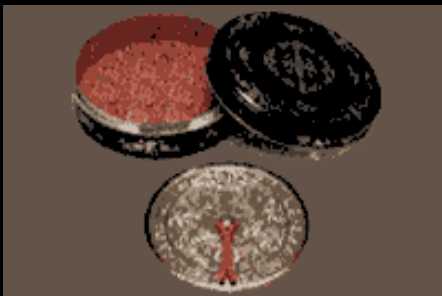
月讀神社

祭祀月夜見尊(亦云,月讀命)之神社,社內納有「古事記」中神宮皇后用以安產應神天皇的月延石(安產石).



熊野本宮大社

祭神為加津美御子大神(亦云熊野家武呂乃命,熊野奇靈御木野命),即為素戔鳴尊(建速須佐之男命)是也.



伊勢神宮所藏 御鏡

在白銅鏡(白銅:銅錫銀合金)上塗上水銀而俱光澤.此類圓鏡藏於伊勢神宮之皇大神宮及其別宮,於豐受大神宮及其別宮則藏有八花崎形之鏡.



産田神社

傳為伊奘冉尊為產火神軻遇突智之地,遂名産田.亦有云其地者,是為伊

一書第六曰:伊奘諾尊與伊奘冉尊共生八大洲國.

然後伊奘諾尊曰:「我所生之國,唯有朝霧而熏滿之哉。」

乃吹撥之氣,化為神.號曰,級長戶邊命.亦曰,級長津彥命.是風神也.

又,飢餓時生兒.號,蒼稻魂命.

又,生海神等.號,少童命.

山神等.號,山祇.

水門神等.號,速秋津日命.

木神等.號,句句迺馳.

土神.號,埴安神.然後悉生萬物焉.

至於火神軻遇突智之生也,其母伊奘冉尊見焦而化去.

于時伊奘諾尊恨之曰:「唯以一兒,替我愛之妹者乎?」則匍匐頭邊,匍匐腳邊,而為哭泣流涕焉.

其淚墮而為神,是即畝邱樹下所居之神.號,啼澤女命矣.

遂拔所帶十握劍,斬軻遇突智為三段.此各化成神也.

復劍刃垂血,是為天安河邊所在五百箇磐石也.即此,經津主神之祖矣.

復劍鐔垂血,激越為神.號曰,甕速日神.

次,燂速日神.

其甕速日神是武甕槌神之祖也.亦曰甕速日命.次,燂速日命.

次,武甕槌神.

復劍鋒垂血,激越為神.號曰,磐裂神.

次,根裂神.

次,磐筒男命.一云,磐筒男命與磐筒女命.

復劍頭垂血,激越為神.號曰,閻雷.

次,閻山祇.

次,閻罔象.

然後伊奘諾尊追伊奘冉尊,入於黃泉而及之共語.時伊奘冉尊曰:「吾夫君尊,何來

伊弉冉尊所神退去之地。



愛宕神社

主祭神:火產靈命

在火神軻遇突智為伊弉諾尊所斬後,
轉以防治火害之神的身分祀於此地。



黃泉國的伊弉冉尊

伊弉諾尊陰取湯津爪櫛之雄柱為秉炬。是見膿沸蟲流。因以今世人夜忌一片之火,又夜忌擲櫛。



伊弉冉尊脹滿太高,上有八色雷公。

之晚也?吾已食泉之灶矣。雖然吾當寢息,請勿視之。」

伊弉諾尊不聽,陰取湯津爪櫛,牽折其雄柱以為秉炬。而見之者,則膿沸蟲流。今世人夜忌一片之火,又夜忌擲櫛,此其緣也。

時伊弉諾尊大驚之曰:「吾不意,到於不須也凶目污穢之國矣!」乃急走迴歸。

於時伊弉冉尊恨曰:「何不用要言,令吾恥辱!」乃遣泉津醜女八人,一云,泉津日狹女。追留之。故伊弉諾尊拔劍背揮以逃矣。

因投黑鬘,此即化成蒲萄。醜女見而噉食之,噉了則更追。

伊弉諾尊又投湯津爪櫛,此即化成筍。醜女亦以拔噉之,噉了則更追。

後則伊弉冉尊亦自來追,是時伊弉諾尊已到泉津平阪。一云,伊弉諾尊乃向大樹放尿,此即化成巨川。泉津日狹女將渡其水之間,伊弉諾尊已至泉津平阪。故便以千人所引磐石,塞其阪路,與伊弉冉尊相向而立,遂建絕妻之誓。

時伊弉冉尊曰:「愛也吾夫君,言如此者,吾當縊殺汝所治國民,日將千頭!」伊弉諾尊乃報之曰:「愛也吾妹,言如此者,吾則當產日將千五百頭。」因曰:「自此莫過。」

即投其杖。是謂,岐神也。

又投其衣。是謂,煩神。

又投其褌。是謂,開齧神。

又投其履。是謂,道敷神。

其於泉津平阪。或所謂泉津平阪,不復別有處所,但臨死氣絕之際,是之謂歟。所塞之石,是謂泉門塞之大神也。亦名,道返大神矣。

伊弉諾尊既還,乃追悔之曰:「吾前到於不須也凶目污穢之處。故,當滌去吾身之濁穢。」則往至筑紫日向小戸橋之憶原而祓除焉。遂將盪滌身之所污,乃興言曰:「上瀨是太疾,下瀨是太弱。」便濯之於中瀨也。

因以生神。號曰,八十枉津日神。

次,將矯其枉而生神。號曰,神直日神。

次,大直日神。

又,沉濯於海底。

因以生神。號曰,底津少童命。

次,底筒男命。

又,潛濯於潮中。

因以生神。號曰,中津少童命。

次,中筒男命。

又,浮濯於潮上。

因以生神。號曰,表津少童命。

次,表筒男命。凡有九神矣。

其底筒男命、中筒男命、表筒男命,是即住吉大神矣。底津少童命、中津少童命、表津少童命,是阿曇連等所祭神矣。

然後洗左眼,因以生神。號曰,天照大神。

復洗右眼,因以生神。號曰,月讀尊。

復洗鼻,因以生神。號曰,素戔鳴尊。凡三神矣。

已而伊弉諾尊敕任三子曰:「天照大神者,可以治高天原也;月讀尊者,可以治蒼海原潮之八百重也;素戔鳴尊者,可以治天下也。」

是時素戔鳴尊年已長矣,復生八握鬚鬣。雖然不治天下,常以啼哭恚恨。

故伊弉諾尊問之曰:「汝何故恆啼如此耶?」對曰:「吾欲從母於根國,只為泣耳。」伊弉諾尊惡之曰:「可以任情行矣!」乃逐之。

一書第七曰:伊弉諾尊拔劍,斬軻遇突智為三段。

其一段是為,雷神;

一段是為,大山祇神。

一段是為,高靈。

又曰,斬軻遇突智時,其血激越,染於天八十河中所在五百箇磐石,因而化生成神。

號曰,磐裂神。

次,根裂神。

兒,磐筒男神。

次,磐筒女神。

兒,經津主神。倉稻魂,此云。。。。。。;少童,此云。。。。。。;頭邊,此云。。。。。。;腳邊,此

云。。。。。。;燐,火也。音。。。。。。反;靈,此云。。。。。。音。。。。。。反;吾夫君,此云。。。。。。;食泉之灶,此

云。。。。。。;秉炬,此云。。。。。。;不須也凶目污穢,此云。。。。。。;醜女,此云。。。。。。;背揮,



檜峰神社

此社之祭神者,八雷神計於其中。

此云・・・・・;泉津平阪,此云・・・・・;尿,此云・・・・・音・・・・・反;絕妻之誓,此云・・・・・;岐神,此云・・・・・;櫛,此云・・・・・

一書第八曰:伊奘諾尊斬軻遇突智命為五段,此各化成五山祇.

一則首.化為,大山祇.

二則身中.化為,中山祇.

三則手.化為,麓山祇.

四則腰.化為,正勝山祇

五則足.化為,繁山祇.

是時斬血激灑,染於石礫、樹草.此草木、沙石自含火之緣也.麓,山足曰麓.此云

・・・;正勝,此云・・・;一云・・・・・;繁,此云・・・;因・・・・・反.

一書第九曰:伊奘諾尊欲見其妹,乃到殯殮之處.

是時伊奘冉尊猶如生平,出迎共語.已而謂伊奘諾尊曰:「吾夫君尊,請勿視吾矣.」言訖忽然不見.

于時間也,伊奘諾尊乃拳一片之火而視之.時伊奘冉尊脹滿太高,上有八色雷公.

伊奘諾尊驚而走還,是時雷等皆起追來.時道邊有大桃樹,故伊奘諾尊隱其樹下,因採其實以擲雷者,雷等皆退走矣.此用桃避鬼之緣也.

時伊奘諾尊乃投其杖,曰:「自此以還,雷不敢來!」是謂岐神.此本號來名戶之祖神焉.

所謂八雷者,在首曰,大雷.

在胸曰,火雷.

在腹曰,土雷.

在背曰,稚雷.

在尻曰,黑雷.

在手曰,山雷.

在足上曰,野雷.

在陰上曰,裂雷.

一書第十曰:伊奘諾尊追至伊奘冉尊所在處,便與之曰:「悲汝故來!」

答曰:「族也,勿看吾矣.」伊奘諾尊不從,猶看之.故伊奘冉尊恥恨之曰:「汝已見我情,我復見汝情!」時伊奘諾尊亦羞焉,因將出返.于時不直默歸而盟之曰:「族離.」又曰:「不負於族.」

乃所唾之神.號曰,速玉之男.

此,掃之神.號,泉津事解之男.凡二神矣.

及與妹相鬥於泉平阪也,伊奘諾尊曰:「始為族悲及思哀者,是吾之怯矣.」時泉守道者白云:「有言矣.曰:『吾與汝已生國矣,奈何更求生乎?吾則當留此國,不可共去.』」是時菊理媛亦有白事,伊奘諾尊聞而善之,乃散去矣.

但,親見泉國,此既不祥.故欲濯除其穢惡,乃往見粟門及速吸名門.然此二門,朝既太急.故還向於橋之小門而私濯也.

于時入水.吹生,磐土命.

出水.吹生,大直日神.

又入.吹生,底土命.

出.吹生,大綾津命.

又入.吹生,赤土命.

出.吹生,大地海原之諸神矣.不負於族,此云・・・・・

一書十一曰:伊奘諾尊任三子曰:「天照大神者,可以御高天之原也;月夜見尊者,可以配日而知天事也;素戔鳴尊者,可以御滄海之原也.」

既而天照大神在於天上曰:「聞葦原中國有保食神,宜爾月夜見尊,就候之!」月夜見尊受敕而降,已到于保食神許.保食神乃迴首,嚮國則自口出飯,又嚮海則鰭廣-鰭狹亦自口出.夫品物悉備,儲之百机而饗之.

是時月夜見尊忿然作色曰:「穢哉,鄙矣!寧可以口吐之物,敢養我乎?」迺拔劍擊殺,然後復命具言其事.時天照大神怒甚之曰:「汝是惡神,不須相見!」乃與月夜見尊,一日一夜,隔離而住.

是後天照大神復遣天熊人往看之,是時保食神實已死矣,

唯有其神之頂,化為牛馬,

顙上生粟,

眉上生繭,

眼中生稗,

腹中生稻,



泉津平與泉門塞之大神

方伊奘冉尊來追,是以至乎泉津平阪之時,伊奘諾尊以千人能引磐石,塞其阪路.然後與伊奘冉尊相向而立,遂建絕妻之誓.

自此之後,陰陽相隔而不能互往;而大和國之者,日必亡去人草一千,日亦必產人草千五百矣.

『古事記』有云:「夫黃泉比良阪(泉津平阪)者,今出雲國之伊賦夜阪是也」是古事記為編時之伊賦夜阪者,今島根縣八束郡東出雲町邊也.



筑紫日向之小戶

夫筑紫日向小戶橋之櫛(音,阿波岐)原者,今日本九州宮崎縣小戶橋櫛原也.即大淀川流域河口一帶.



志賀海神社

此社祭神為綿津見大神.即上綿津見神(表津少童命),中綿津見神(中津少童命),底綿津見神(底津少童命).

陰生麥及大豆-小豆.

天熊人悉取持去而奉進之.於時天照大神喜之曰:「是物者,則顯見蒼生可食而活之也!」乃以粟-稗-麥-豆為陸田種子,以稻為水田種子.

又因定天邑君.即以其稻種始殖於天狹田及長田,其秋垂穎,八握莫莫然甚快也.又口裏含繭,使得抽絲,自此始有養蠶之道焉.保食神,此云.....顯見蒼生,此云.....



豐受大神宮
伊勢神宮外宮,而該宮之御祭神者,豐受大神(保食神)是也.

[\[久遠・絆\]](#) [\[卷三十\]](#) [\[其之二\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷第一 神代[上]

六.素戔鳴尊與天照大神的誓約



高天原 高千穗的日出

日本宮崎縣高千穗町,一般被視作日本神話之中,天津神所居住之高天原的所在地.有關高天原神話的史蹟,多半可以在此尋得,是為一座悠久古老而神秘曼妙的神話之町.



天真名井

作為天照大神與素戔鳴尊行其誓約之地而廣受大眾所知.然此史料之記載各皆不同.共同者,唯依所生之男女,斷其心之正邪爾.於『古事記』中,須佐之男(素戔鳴尊)之十握劍化生三女神,是知其心之清明.於『日本書紀』異之,素戔鳴尊於本文亦生三女,然此為其有邪心之證;其後,一書第一,素戔鳴尊生男,表無邪心;一書第二,素戔鳴尊生女,心有邪;一書第三,素戔鳴尊生男,心清明.

於是素戔鳴尊請曰:「吾今奉教,將就根國.故欲暫向高天原與姐相見,而後永退矣.」敕許之.乃昇詣之於天也.

是後,伊奘諾尊神功既畢,靈運當遷,是以構幽宮於淡路之洲,寂然長隱者矣.

亦曰,伊奘諾尊功既至矣,德亦大矣.於是登天報命,仍留宅於日之少宮矣.少宮,此云……

始素戔鳴尊昇天之時,溟渤以之鼓盪,山岳為之鳴响,此則神性雄健使之然也.

天照大神素知其神暴惡,至聞來詣之狀,乃勃然而驚曰:「吾弟之來,豈以善意乎?謂當有奪國之志歟!夫父母既任諸子,各有其境,如何棄置當就之國,而敢窺窬此處乎?」乃結髮為髻,縛裳為褌,便以八阪瓊之五百箇御統御統,此云……纏其髻、鬢及腕,又背負千箭之鞬千箭,此云……與五百箭之鞬,臂著稜威之高陌,稜威,此云…….振起弓弭,急握劍柄,蹈堅庭而陷股,若沫雪以蹴散,蹴散,此云…….奮稜威之雄誥,雄誥,此云…….發稜威之嘖讓,嘖讓,此云…….而徑詰問焉.

素戔鳴尊對曰:「吾元無黑心,但父母已有嚴敕,將永就乎根國.如不與姐相見,吾和能敢去?是以跋涉雲霧,遠自來參.不意,阿姐翻起嚴顏.」于時天照大神復問曰:「若然者,將何以明爾之赤心也?」對曰:「請與姐共誓.夫誓約之中,誓約之中,此云…….必當生子.如吾所生是女者,則可以為有濁心;若是男者,則可以為有清心.」

於是天照大神乃索取素戔鳴尊十握劍,打折為三段,濯於天真名井,嚙然咀嚼,嚙然咀嚼,此云…….而吹棄氣噴之狹霧吹棄氣噴之狹霧,此云…….所生神.

號曰,田心姬.

次,湍津姬.

次,市杵島姬.凡三女矣.

既而素戔鳴尊乞取天照大神髻、鬢及腕所纏八阪瓊之五百箇御統,濯於天真名井,嚙然咀嚼,而吹棄氣噴之狹霧所生神.

號曰,正哉吾勝勝速日天忍穗耳尊.

次,天穗日命.是出雲臣、土師連等祖也.

次,天津彥根命.是凡川內直臣、山代直等祖也.

次,活津彥根命.

次,熊野豫樟日命.凡五男矣.

是時,天照大神敕曰:「原其物根,則八阪瓊之五百箇御統者,是吾物也.故彼五男神,悉是吾兒.」乃取而子養焉.又敕曰:「其十握劍者,是素戔鳴尊之物也.故此三女神,悉是爾兒.」便授之素戔鳴尊,此則筑紫胸肩君等所祭神是也.

一書第一曰:日神本知素戔鳴尊有武健凌物之意,及其上至,便謂:「弟所以來者,非是善意.必當奪我天原.」乃設大夫武備,躬帶十握劍、九握劍、八握劍,又背上負鞬,又背著稜威高陌,手捉弓箭,親迎防禦.

是時素戔鳴尊告曰:「吾元無惡心,唯欲與姐相見,只為暫來耳.」於是日神共素戔鳴尊,相對而立誓曰:「若汝心明淨,不有凌奪之意者,汝所生兒,必當男矣.」

言訖,先食所帶十握劍生兒.號,瀛津島姬.

又食九握劍生兒.號,湍津姬.

又食八握劍生兒.號,田心姬.凡三女神矣.

已而素戔鳴尊以其頸所嬰五百箇御統之瓊,濯于天淳名井,亦云,去來之真名井.而食之.

乃生兒.號,正哉吾勝勝速日天忍骨尊.

次,天津彥根命.

次,活津彥根命.

次,天穗日命.

次,熊野忍蹈命.凡五男神矣.

故素戔鳴尊既得勝驗,於是日神方知素戔鳴尊固無惡意.乃以日神所生三女神,令降於筑紫國.因教之曰:「汝三神宜降居道中,奉助天孫而為天孫所祭也.」

一書第二曰：素戔鳴尊將昇天時，有一神，號，羽明玉。此神奉迎而進以瑞八阪瓊之曲玉。故素戔鳴尊持其瓊玉，而到之於天上也。

是時，天照大神疑弟有惡心，起兵詰問。素戔鳴尊對曰：「吾所以來者，實欲與姐相見，亦欲獻珍寶瑞八阪瓊之曲玉耳。不敢別有有意也。」時天照大神復問曰：「汝言虛實，將何以為驗？」對曰：「請吾與姐共立誓約。誓約之間，生女為惡心；生男為赤心。」乃掘天真名井三處，相與對立。

是時天照大神謂素戔鳴尊曰：「以吾所帶之劍，今當奉汝。汝以汝所持八阪瓊之曲玉，可以授予矣。」如此約束，共相換取。已而天照大神則以八阪瓊之曲玉，浮寄於天真名井。

齧斷瓊瑞，而吹出氣噴之中化生神，號，市杵島姬命。是居于遠瀛者也。

又齧斷瓊中，而吹出氣噴之中化生神，號，田心姬命。是居於中瀛者也。

又齧斷瓊尾，而吹出氣噴之中化生神，號，湍津姬命。是居於海濱者也。凡三女神矣。於是素戔鳴尊以所持劍，浮寄於天真名井。

齧斷劍末，而吹出氣噴之中化生神，號，天穗日命。

次，正哉吾勝勝速日天忍穗骨尊。

次，天津彥根尊。

次，活津彥根尊。

次，熊野豫樟日命。凡五男神云爾。

一書第三曰：日神與素戔鳴尊隔天安河而相對。乃立誓約曰：「汝若不有奸邪之心者，汝所生子必男矣。如生男者，予以為子而令治天原也。」

於是日神先食其十握劍，化生兒，瀛津島姬命。亦名，市杵島姬命。

又食九握劍，化生兒，湍津姬命。

又食八握劍，化生兒，田霧姬命。

已而素戔鳴尊含其左髻所纏五百箇統之瓊，而著於左手掌中便化生男矣。

則稱之曰：正哉吾勝。故因名之。曰，勝速日天忍穗耳尊。

復含右髻之瓊著於右手掌中，化生，天穗日命。

復含嬰頸之瓊，著於左臂中，化生，天津彥根命。

又自右臂中，化生，活津彥根命。

又自左足中，化生，熯之速日命。

又自右足中，化生，熊野忍蹈命。亦名，熊野忍隅命。

其素戔鳴尊所生之兒，皆已男矣。故日神方知素戔鳴尊元有赤心。便取其六男以為日神之子，使治天原；即以日神所生三女神者，使降居于葦原中國之宇佐島矣。今在海北道中。號曰，道主貴。此，筑紫水沼君等祭神是也。熯，干也。此云。



宗像大社

以玄海町之邊津宮，神湊海岸沖大島之中津宮，及玄界灘沖之島之沖津宮構成。祀神有市杵島姬命，湍津姬命，田霧姬命，併稱宗像三女神。



速日神社

栗駒町沼倉字桑田之速日神社。此社祭神，正哉吾勝勝速日尊。



高田神社

此社主神高魂命，而相殿神中有天津彥根命在也。



天石窟

此者天岩戶神社仰慕窟是也。夫天照大神以梭傷身而發慍，故入天石窟而閉其磐戶。是故，舉世闇暗，晝夜不判。

七.素戔鳴尊的暴行與放逐

是後素戔鳴尊之為行也甚無狀。何則天照大神以天狹田、長田為御田。

時素戔鳴尊春則重播種子，重播種子，此云……。且毀其畔。毀，此云……。秋則放天斑駒，使伏田中。復見天照大神當新嘗時，則陰放屎於新宮。

又見天照大神方織神衣居齋服殿，則剝天斑駒，穿殿薨而投納。是時天照大神驚動，以梭傷身。由此發慍，乃入于天石窟，閉磐戶而幽居焉。故六合之內常闇，而不知晝夜之相代。

于時八十萬神會合於天安河邊，計其可禱之方。

故思兼神深謀遠慮，遂聚常世之長鳴鳥，使互長鳴；亦以手力雄神立磐戶之側；而中臣連遠祖天兒屋命，忌部遠祖大玉命，掘天香山之五百箇真阪樹，而上枝懸八阪瓊之五百箇御統，中枝懸八咫鏡，一云，真經津鏡。下枝懸青和幣、白和幣，和幣，此云……。相與致其祈禱焉；又猿女君遠祖天鈿女命，則手持茅纏之矛，立於天石窟戶之前，巧作俳優；亦以天香山之真阪樹為鬢，以蘿蘿，此云……。為手次，手次，此云……。而火處燒，覆槽置覆槽，此云……。顯神明之憑談顯神明之憑談，此云……。

是時天照大神聞之而曰：「吾比閉居石窟，謂當豐葦原中國必為長夜，云何天鈿女命謔樂如此者乎？」乃以御手細開磐戶窺之。時手力雄神則奉承天照大神之手，引而奉出。於是中臣神、忌部神，則界以端出之繩。繩，亦云左繩端出。此云……。乃請曰：「勿復還幸。」

然後諸神歸罪過於素戔鳴尊，而科之以千座置戶，遂促徵矣。至使拔髮，以贖其罪。亦曰，拔其手足之爪贖之。已而竟逐降焉。



天安河

宮崎縣西臼杵郡高千穗町岩戶外,天安之河原.方天照入窟不出,天下恒闇而無復晝夜之殊.八十萬神恐,會於天安河,計其可禱之方.時有高皇產靈之子,思兼神.此神深謀遠慮而善為計,遂由其神策思可禱之法.

一書第一曰:是後稚日女尊坐于齋服殿而織神之御服也.

素戔鳴尊見之,則逆剝斑駒,投入之於殿內.稚日女尊乃驚而墮機,以所持梭傷体,而神退矣.

故天照大神謂素戔鳴尊曰:「汝猶有黑心,不欲與汝相見!」乃入于天石窟而閉著磐戶焉.於是天下恒闇,無復晝夜之殊.

故會八十萬神於天高市而問之.時有高皇產靈之息-思兼神云者,有思慮之智.乃思而白曰:「宜圖造彼神之象而奉招禱也.」故即以石凝姥為冶工,採天香山之金以作日矛.又全剝真名鹿之皮以作天羽皮吹.用此奉造之神,是即紀伊國所坐日前神也.石凝姥,此云.....全剝,此云.....

一書第二曰:日神尊以天垣田為御田.

時素戔鳴尊春則填渠毀畔;又秋穀以成,則以絡繩.且日神居織殿時,則生剝斑駒,納其殿內.凡此諸事,盡是無狀.

雖然日神恩親之意,不愠不恨,皆以平心容焉.及至日神當新嘗之時,素戔鳴尊則於新宮御席之下,陰自送糞.日神不知,徑坐席上.由是日神拳体不平,故以恚恨,乃居于天石窟,閉其磐戶.

于時諸神憂之,乃使鏡作部遠祖-天糠戶者造鏡;忌部遠祖-大玉者造幣;玉作部遠祖-豐玉者造玉.又使山雷者採五百箇真阪樹八十玉籤;野槌者採五百箇野薦八十玉籤.凡此諸物皆來聚集.

時中臣遠祖-天兒屋命,則以神祝祝之.於是日神方開磐戶而出焉.

是時以鏡入其石窟者,觸戶小瑕,其瑕於今猶存.此即伊勢崇祕之大神也.

已而科罪於素戔鳴尊而責其袂具.是以有手端吉棄物,足端凶棄物.亦以唾為白和幣,以洩為青和幣,用此解除竟,遂以神逐之理逐之.送糞,此云.....玉籤,此云.....袂具,此云.....手端吉棄,此云.....神祝祝之,此云.....逐之,此云.....

一書第三曰:是後日神之田有三處焉.號曰,天安田、天平田、天邑并田.此皆良田,雖經霖旱,無所損傷.

其素戔鳴尊之田,亦有三處.號曰,天櫛田、天川依田、天口銳田.此處皆礪地,雨則流之,旱則焦之.

故素戔鳴尊妒害姐田,春則廢渠槽及埋溝、毀畔,又重播種子;秋則捶籤、伏馬.凡此惡事曾無息時,雖然日神不愠,恒以平恕相容焉,云云.

至於日神閉居于天岩窟也,諸神遣道中臣連遠祖,與台產靈兒-天兒屋命而使祈焉.於是天兒屋命掘天香山之真阪木而上枝懸以鏡作遠祖,天拔戶兒-石凝戶邊所作八咫鏡;中枝懸以玉作遠祖,伊奘諾尊兒-天明玉所作八咫瓊之曲玉;下枝懸以粟國忌部遠祖,天日鷲所作木棉.乃使忌部首遠祖-大玉命執取而廣厚稱詞祈啟矣.

于時日神聞之曰:「頃者人雖多請,未有若如此若此言之麗美者也!」乃細開磐戶而窺之.是時天手力雄神侍磐戶側,則引開之,日神之光滿於六合.

故諸神大喜,即科素戔鳴尊千座置戶之解除,以手爪為吉爪棄物,以足爪為凶爪棄物.乃使天兒屋命,掌其解除之太諄辭而宣之焉.世人慎收己爪者,此其緣也.

既而諸神噴素戔鳴尊曰:「汝所行甚無賴,故不可以住於天上,亦不可居於葦原中國,宜急適於底根之國!」乃共逐降去.

于時霖也,素戔鳴尊結束青草以為笠蓑而乞宿於眾神.眾神曰:「汝是躬行濁惡而見逐謫者,如何乞宿於我?」遂同距之.是以風雨雖甚,不得留休而辛苦降矣.自爾以來,世人諱著笠蓑以入他人屋內;又諱負束草以入他人家內.有犯此者必債解除,此太古之遺法也.

是後素戔鳴尊曰:「諸神逐我,我今當永去.如何不與我姐相見而擅自徑去歟?」乃復扇天扇國,上詣于天.時天鈿女見之而告言於日神也.日神曰:「吾弟所以上來,非復好意,必欲奪之我國者歟!吾雖婦女,何當避乎?」乃躬裝武備,云云.

於是素戔鳴尊誓之曰:「吾若懷不善而復上來者,吾今齧欲生兒,必當為女矣!如此可以降女於葦原中國;如有清心者,必當生男矣!如此可以使男御天上;而姐之所生,亦



天下恒闇
天照入於天石窟而閉其磐戶,是時天下恒闇,無復晝夜之殊.



高千穗 夜神樂
方時猿女君遠祖天鈿女命,手持茅纏之矛,立於天石窟戶之前,巧作俳優.此者傳世,後化作高千穗之夜神樂.

同此誓。」於是日神先齧十握劍,云云。

素戔鳴尊乃輻輳然解其左髻所纏五百箇統之瓊綸,而瓊響瑤瑤濯浮於天渟名井。

齧其瓊端,置之左掌而生兒,正哉吾勝勝速天忍穗根尊。

復齧右瓊,置之右掌而生兒,天穗日命。此出雲臣、武藏國造、土師連等遠祖也。

次,天津彥根命。此茨城國造、額田部連等遠祖也。

次,活目津彥根命。

次,熯速日命。

次,熊野大角命。凡六男矣。

於是素戔鳴尊白日神曰:「吾所以更昇來者,眾神處我以根國,今當就去,若不與姐相見,終不能忍離!故實以清心復上來耳。今則奉觀已訖,當隨眾神之意,自此永歸根國矣。請姐照臨天國,自可平安。且吾以清心所生兒等亦奉於姐。」已而復還降焉。廢渠槽,此云……捶籤,此云……興台產靈,此云……太諄辭,此云……輻輳然,此云……瓊瑤,此云……



笠蓑

于時霖也,素戔鳴尊結束青草以為笠蓑而乞宿於眾神。為逐。後,世人諱著笠蓑/負束草以入他人屋內。

解除:即袂具,沒收要物而去其罪孽。

八.素戔鳴尊退治八岐大蛇

是時素戔鳴尊自天而降,到於出雲國簸之川上。時聞川上有啼哭之聲,故尋聲覓往者。

有一老公與老婆,中間置一少女,撫而哭之。素戔鳴尊問曰:「汝等誰也?何為哭之如此耶?」

對曰:「吾是國神,號腳摩乳。我妻號手摩乳。此童女是吾兒也,號奇稻田姬。所以哭者,往時吾兒有八箇少女,每年為八岐大蛇所吞。今此少童且臨被吞,無由脫免,故以哀傷。」素戔鳴尊敕曰:「若然者,汝當以女奉吾耶?」對曰:「隨敕奉矣。」

故,素戔鳴尊立化奇稻田姬為湯津爪櫛而插於御髻。乃使腳摩乳、手摩乳釀八醞酒,并作假廬八間,假廬,此云佐受枳。各置一口槽而盛酒以待之也。

至期果有大蛇,頭、尾各有八岐,眼如赤酸醬,赤酸醬,此云……松柏生於背上而蔓延於八丘、八谷之間。

及至得酒,頭各一槽飲,醉而睡。時素戔鳴尊乃拔所帶十握劍,寸斬其蛇。至尾劍刃少欠,故割裂其尾視之。中有一劍,此所謂草薙劍是也。草薙劍,此云……一書云,本名天叢雲劍,蓋大蛇所居之上常有雲氣,故以名歟。至日本武皇子,改名曰草薙劍。素戔鳴尊曰:「是神劍也,吾何敢私以安乎?」乃上獻於天神也。

然後尋覓將婚之處,遂到出雲之清地焉。清地,此云……乃言曰:「吾心清清之。此,今呼此地曰清。」於彼處建宮。或云,時武素戔鳴尊歌之曰:「八雲立・出雲八重垣 妻籠・八重垣作・其・八重垣・」

乃相與遭合而生兒,大己貴神。

因敕之曰:「吾兒宮首者,即腳摩乳、手摩乳也。」故賜號於二神曰,稻田宮主神。

已而素戔鳴尊遂就於根國矣。



大蛇頭尾各有八岐,眼如赤酸醬。

一書第一曰:素戔鳴尊自天而降,到於出雲簸之川上。則見稻田宮主簀狹之八箇耳。

女子號,稻田媛,乃於奇御戶為起而生兒。

號,清之湯山主三名狹漏彥八島篠。一云,清之繫名阪輕彥八島手命。又云,清之湯山主三名狹漏彥八島野。

此神五世孫,即,大國主神。篠,小竹也。此云……

一書第二曰:是時素戔鳴尊下到於安藝國可愛之川上也。

彼處有神,名曰腳摩手摩。其妻名曰,稻田宮主簀狹之八箇耳,此神正在妊身。夫妻共愁,乃告素戔鳴尊曰:「我生兒雖多,每生輒有八岐大蛇來吞,不得一存。今吾且產,恐亦見吞,是以哀傷。」素戔鳴尊乃教之曰:「汝可以眾果釀酒八甕,吾當為汝殺蛇!」

二神隨教設酒。至產時,必彼大蛇當戶將吞兒焉。素戔鳴尊敕蛇曰:「汝是可畏之神,敢不饗乎?」乃以八甕酒每口沃入。其蛇飲酒而睡,素戔鳴尊拔劍斬之。

至斬尾時,劍刃少欠,割而視之,則劍在尾中。是號,草薙劍。此今在尾張國吾湯市村,即熱田祝部所掌之神是也。

其斷蛇劍,號曰蛇之羸正。此今在石上也。

是後以稻田宮主簀狹之八箇耳生兒。

真髮觸奇稻田媛,牽置於出雲國簸川上而長養焉。



天叢雲(草薙)劍
草薙劍,本名天叢雲劍,蓋大蛇所居之上常有雲氣。至日本武尊,改名草薙劍。

然後素戔鳴尊以為妃而所生兒之六世孫。

是曰,大己貴命.大己貴,此云.....

一書第三曰:素戔鳴尊欲幸奇稻田媛而乞之。

腳摩乳、手摩乳對曰:「請先殺蛇,然後幸者將宜也.彼大蛇每頭各有石松,兩脅有山,甚可畏矣.將何以殺之?」

素戔鳴尊乃以蛇韓鋤之劍斬頭斬腹.其斬尾之時,劍刃少欠.故裂尾而看,即有一劍焉.名為,草薙劍.此劍昔在素戔鳴尊許,今在於尾張國也。

其素戔鳴尊斷蛇之劍,今在吉備神部許也.出雲簸之川上山是也。

一書第四曰:素戔鳴尊所行無狀,故諸神以千座置戶而逐之。

是時素戔鳴尊帥其子-五十猛神,降到新羅國,居曾尸茂梨之處.乃興言曰:「此地吾不欲居.」遂以埴土作舟,乘之東渡,到出雲國簸之川上所在鳥上之峰。

時彼處有吞人大蛇,素戔鳴尊乃以天蠅斫之劍,斬彼大蛇.時斬蛇尾而刃欠,即劈而視之,尾中有一神劍。

素戔鳴尊曰:「此不可以吾私用也.」乃遣五世孫-天之葺根神,上奉於天.此今所謂草薙劍矣。

初五十猛神天降之時,多將樹種而下.然,不殖韓地,盡以持歸.遂,始自筑紫,凡大八洲國之內,莫不播殖而成青山焉.所以稱五十猛神為有功之神.即紀伊國所坐大神是也。

一書第五曰:素戔鳴尊曰:「韓鄉之島是有金銀.若使吾兒所御之國,不有浮寶者,未是佳也.」

乃拔鬚散之,即成杉。

又拔散胸毛,是成檜。

尻毛,是成椈。

眉毛,是成豫樟。

已而定其當用,乃稱之曰:「杉及豫樟,此兩樹者可以為浮寶.檜可以為瑞宮之材.椈可以為顯見蒼生與津棄戶將臥之具.夫須噉八十木種,皆能播生.」

于時素戔鳴尊之子.號曰,五十猛命。

妹,大屋津姬命

次,稜津姬命.凡此三神亦能分布木種,即奉渡於紀伊國也。

然後,素戔鳴尊居熊成峰而遂入於根國者矣.棄戶,此云.....椈,此云.....



八重垣神社壁畫 素戔鳴尊



八重垣神社壁畫 奇稻田姬



出雲簸之川 裴伊川流域

出雲簸之川上山:此句所指唐突,是為記載錯亂,或為省略上文字句而成.或指腳摩乳-手摩乳生兒之地,亦或指大蛇所棲之地。



出雲大社藏 大國主神像

本文云:素戔鳴尊乃相與奇稻田姬邁合而生兒.名喚,大己貴神。

一書第一,一書第二云:大己貴命(大國主神)者,素戔鳴尊之六世孫。

一書第六曰:大國主神;亦名,大物主神;亦號,國作大己貴命;亦曰,葦原醜男;亦曰,八千戈神;亦曰,大國玉神;亦曰,顯國玉神.其子凡有一百八十一神。

夫大己貴命與少彥名命戮力一心,經營天下,復為顯見蒼生及畜產,則定其療病之方;又為攘鳥獸、昆蟲之災異,則定其禁厭之法.是以百姓至今咸蒙恩賴。

嘗大己貴命謂少彥名命曰:「吾等所造之國,豈謂善成之乎?」少彥名命對曰:「或有所成,或有所不成.」是談也,蓋有幽深之致焉。

其後少彥名命行至熊野之御碕,遂適於常世鄉矣.亦曰,至淡島,而緣粟莖者,則彈渡而至常世鄉矣。

自後國中所未成者,大己貴神獨能巡造,遂到出雲國.乃興言曰:「夫葦原中國,本自荒芒.至及磐石、草木、咸能強暴.然吾已摧伏,莫不和順.」遂因言,「今理此國,唯吾一身而已.其可與吾共理天下者,蓋有之乎?」于時神光照海,忽然有浮來者.曰:「如吾不在者,汝何能平此國乎?由吾在故,汝得建其大造之績矣!」

是時大己貴神問曰:「然則汝是誰耶?」對曰:「吾是汝之幸魂、奇魂也.」大己貴神曰:「唯然.乃知汝是吾之幸魂、奇魂,今欲何處住耶?」對曰:「吾欲住於日本國之三諸山.」故即營宮彼處,使就而居.此大三輪之神也。

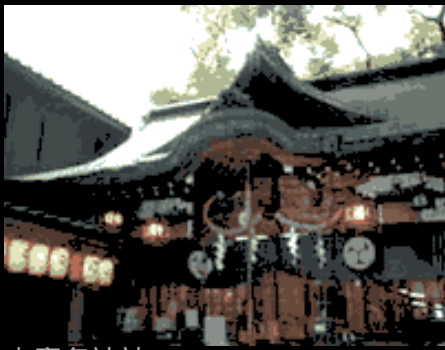
此神之子.即,甘冒君等、大三輪君等,又姬蹈備五十鈴姬命。

又曰,事代主神化為八尋熊罴,通三島溝槭姬.或云玉櫛姬。

而生兒,姬蹈備五十鈴姬命.是為,神日本磐余彥火火出見天皇之后也。

初大己貴神之平國也,行到出雲國五十狹狹之小汀而且當飲食.是時海上忽有人聲.乃驚而求之,都無所見。

頃時有一箇小男,以白藪皮為舟,以鷗鷯羽為衣,隨潮水以浮到.大己貴神即取置掌中而翫之,則跳鬻其頰.乃怪其物色,遣使白於天神.于時高皇產靈尊聞之而曰:「吾所產兒,凡有一千五百座.其中一兒最惡,不順教養.自指間漏墮者必彼矣,宜愛而養之.」



少彥名神社
大己貴與少彥名,戮力經營天下.

此即少彥名命是也.顯,此云 . . . 蹈備,此云 . . . 幸魂,此云 奇魂,此云
鷦鷯,此云

日本書紀卷第一 終

[\[久遠・絆\]](#) [\[其之一\]](#) [\[卷第二\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷第二 神代[下]

九.葦原中國的平定,皇孫降臨與木花之開耶姬

天照大神之子-正哉吾勝勝速日天忍穗耳尊,娶高皇產靈尊之女-栲幡千千姬,生,天津彥彥火瓊瓊杵尊。

故,高皇產靈尊,特鍾憐愛以崇養焉。遂欲立皇孫-天津彥彥火瓊瓊杵尊以為葦原中國之主。然,彼地多有螢火光神及蠅聲邪神,復有草木咸能言語。

故高皇產靈尊召集八十諸神而問之曰:「吾欲令撥平葦原中國之邪鬼,當遣誰者宜也?惟爾諸神勿隱所知!」

皆曰:「天穗日命,是神之傑也,可不試歟?」於是俯順眾言,即以天穗日命往平之。然此神佞媚於大己貴神,比及三年,尚不報聞。

故,仍遣其子-大背飯三熊之大人,大人,此云・・・亦名,武三熊之大人。此亦還順其父,遂不報聞。

故,高皇產靈尊更會諸神,問當遣者。皆曰:「天國玉之子-天稚彥,是壯士也,宜試之。」於是高皇產靈尊,賜天稚彥天鹿兒弓及天羽羽矢以遣之。此神亦不忠誠也,來到即娶顯國玉之女子-下照姬,亦名,高姬;亦名,稚國玉。因留住之曰:「欲馭葦原中國!」遂不復命。

是時高皇產靈尊怪其久不來報,乃遣無名雉伺之。其雉飛降,止於天稚彥門前所植植,此云・・・湯津杜木之杪。杜木,此云・・・時,天探女天探女,此云・・・・・見而謂天稚彥曰:「奇鳥來居杜杪。」天稚彥乃取高皇產靈尊所賜-天鹿兒弓、天羽羽矢,射雉斃之。其矢洞達稚胸,而至高皇產靈尊之座前也。

時高皇產靈尊見其矢曰:「是矢則昔我賜天稚彥之矢也。血染其矢,蓋與國神相戰而然歟?」於是取矢還投下之。其矢落下,則中天稚彥之胸上。于時天稚彥新嘗休臥之時也,中矢立死。此世人所謂「返矢可畏」之緣也。

天稚彥之妻下照姬,哭泣悲哀,聲達于天。是時天國玉聞其哭聲,則知夫天稚彥已死,乃遣疾風,拳尸至天,便造喪屋而殯之。即以川鴈為持傾頭者及持帚者,一云,以雞為持傾頭者,以川鴈為持帚者。又以雀為樁女。一云,乃以川鴈為持傾頭者,亦為持帚者,以鳩為尸者,以雀為樁者,以鷓鴣為哭者,以鳶為造綿者,以烏為肉人者,凡以眾鳥任事。而八日八夜,啼哭悲歌。

先是天稚彥在於葦原中國,與味耜高彥根神友善。味耜,此云・・・・。故,味耜高彥根神昇天弔喪。時,此神容貌正類天稚彥平生之儀,故天稚彥親屬妻子皆謂:「吾君猶在!」則攀牽衣帶,且喜且慟。

時味耜高彥根神奮忿然作色曰:「朋友之道,理宜相弔。故,不憚污穢,遠自赴喪,何為誤我於亡者?」則拔其帶劍-大葉刈,刈,此云・・亦名,神戶劍。以斫仆喪屋。此即落而為山,今在美濃國藍見川之上,喪山是也。世人惡以生誤死,此其緣也。

是後高皇產靈尊更會諸神,選當遣於葦原中國者。皆曰:「磐裂磐裂,此云・・・・。根裂神之子-磐筒男、磐筒女所生之子-經津經津,此云・・主神,是將佳也。」

時有天石窟所住神稜威雄走神之子-甕速日神,甕速日神之子-熯速日神,熯速日神之子-武甕槌神。此神進曰:「豈唯經津主神獨為丈夫,而吾非丈夫者哉?」其辭氣慷慨,故以即配經津主神,令平葦原中國。

二神於是降到出雲國五十田狹之小汀,則拔十握劍,倒植於地,踞其鋒端而問大己貴神曰:「高皇產靈尊欲降皇孫,君臨此地。故先遣我二神,驅除平定。汝意何如?當須避不?」時大己貴神對曰:「當問我子,然後將報。」

是時其子事代主神遊行在於出雲國三穗三穗,此云・・之碕,以釣魚為樂。或曰,遊鳥為樂。故以熊野諸手船,亦名,天鵲船。載使者稻背脛遣之,而致高皇產靈敕於事代主神,且問將報之詞。時事代主神謂使者曰:「今,天神有此借問之敕。我父宜當奉避,吾亦不可為。」因於海中造八重蒼柴籬,柴,此云・・蹈船杙船杙,此云・・・・。而避之。

使者既還報命,故大己貴神則以其子之辭白於二神者曰:「我怙之子,既避去矣,故吾亦當避。如吾防禦者,國內諸神必當同禦;今我奉避,誰復敢有不順者。」乃以平國時所杖之廣矛,授二神曰:「吾今以此矛卒有治功,天孫若用此矛治國者,必當平安。今我當於百不足之八十限將隱去矣。限,此云・・・。」言訖遂隱。

於是二神誅諸不順鬼神等,一云,二神遂誅邪神及草、木、石類,皆以平了。其所不服者,唯星神香香背男耳。故加遣倭文神建葉槌命者則服。故二神登天也。倭文神,此云・・・・。果以復命。

于時高皇產靈尊以真床追衾,覆於皇孫天津彥彥火瓊瓊杵尊,使降之。皇孫乃離天磐座,天磐座,此云・・・・。且排分天八重雲,稜威之道別道別,而天降於日向襲之高千穗峰矣。既而皇孫遊行之狀也者,則自患日二上天浮橋,立於浮渚在平處,立於浮渚在平處,此云

・・・・・而膂肉之空國自頓丘覓國行去,頓丘,此云・・・。覓國,此云・・・・。行去,此



天稚彥神社
高皇產靈尊先後遣天穗日命及其子大背飯三熊之大人,二者皆不復命。是以復遣天國玉之子天稚彥,賜天鹿兒弓及天羽羽矢而另降於葦原中國,此亦不忠誠,娶顯國玉之女子下照姬,言其欲馭葦原中國。



五十田狹之小汀
經津主神,武甕槌神二神到於出雲國五十田狹之小汀,拔十握劍,倒植於地而踞其鋒,行出雲讓國之交涉。

云・・・到於吾田長屋笠狹之碕矣。

其地有一人。自號。事勝國勝長狹。皇孫問曰：「國在耶以不？」對曰：「此焉有國。請任意遊之。」故皇孫就而留住。

時。彼國有美人。名曰。鹿葦津姬。亦名。神吾田津姬。亦名。木花之開耶姬。皇孫問此美人曰：「汝誰之子耶？」對曰：「妾是天神娶大山祇神所生兒也。」皇孫因而幸之。即一夜而有娠。皇孫未信之曰：「雖復天神。何能一夜之間令人有娠乎？汝所懷者。必非我子歟！」

故鹿葦津姬忿恨。乃作無戶室。入居其內而誓之曰：「妾所娠。若非天孫之胤。必當焦滅。如實天孫之胤。火不能害！」即放火燒室。

始。起煙末生出之兒。號。火闌降命。是隼人等始祖也。火闌降。此云・・・。

次。避熱而居生出之兒。號。彥火火出見尊。

次。生出之兒。號。火明命。是尾張連等始祖也。凡三子矣。

久之。天津彥彥火瓊瓊杵尊崩。因葬筑紫日向可愛愛。此云・・・之山陵。



都萬神社

都萬之音作・・・。即妻之意也。

御祭神：木花之開耶命

夷曲：

有若天之上 年輕織機女 其頸所掛繫 玉串之御統
其玉輝所現 似能越二谷 其神之御名 味耜高彥根

遠天田舍女 渡於迫狹門 石川之片淵 於此片淵中
越淵張御網 如拉寄網目 似鳥息此網 石川之片淵

夷曲白話譯：

就像天上年輕織機女脖子上佩帶那由玉串串成之御統般。有如玉那能夠照映兩座山谷之光輝的神。其名味耜高彥根神！

遠離高天原的鄉下女孩所渡。石川之片淵的狹門。在此片淵中所張設的捕鳥網。拉著網目。期待著鳥兒來居的拉著網目。在這石川片淵中。



草薙劍

一書第一曰：天照大神敕天稚彥曰：「豐葦原中國是吾兒可王之地也。然慮。有殘賊強暴橫惡之神者。故。汝先往平之！」乃賜天鹿兒弓及天鹿兒矢遣之。天稚彥受敕來降。則多娶國神女子。經八年無以報命。

故天照大神乃召思兼神。問其不來之狀。時思兼神思而告曰：「宜且遣雉問之。」於是從彼神謀。乃使雉往候之。

其雉飛下。居于天稚彥門前湯津杜樹之杪而鳴之曰：「天稚彥何故八年之間未有復命？」時有國神。號。天探女。見其雉曰：「鳴聲惡鳥。在此樹上。可射之。」天稚彥乃取天神所賜天鹿兒弓。天鹿兒矢。便射之。則矢達雉胸。遂至天神所處。

時天神見其矢曰：「此昔我賜天稚彥之矢也。今何故來？」乃取矢而咒之曰：「若以惡心射者。則天稚彥必當遭害；若以平心射者。則當無恙。」因還投之。即其矢落下。中于天稚彥之高胸。因以立死。此世人所謂反矢可畏之緣也。

時天稚彥之妻子從天降來。將柩上去而於天作喪屋殯哭之。先是。天稚彥與味耜高彥根神友善。故味耜高彥根神登天弔喪大臨焉。時此神形貌。自與天稚彥洽然相似。故天稚彥妻子等見而喜曰：「吾君猶在！」則攀持衣帶。不可排離。

時味耜高彥根神忿曰：「朋友喪亡。故吾即來弔。如何誤死人於我耶？」乃拔十握劍。斫倒喪屋。其屋墮而成山。此則美濃國喪山是也。世人惡以死者誤己。此其緣也。

時味耜高彥根神光儀華艷。映于二丘二谷之間。故喪會者歌之曰。或云。味耜高彥根神之妹下照媛。欲令眾人知映丘谷者是味耜高彥根神。故歌之曰：

天・・・ 弟織女・ 頸・・・ 玉・御統・
・・・玉・・・ 谷 二渡・・・ 味耜高彥根

又歌之曰：

天離・ 夷・女・ ・渡・・迫門 石川片淵
片淵・ 網張・渡・ 目・寄・・・ 寄・寄・來・ 石川片淵

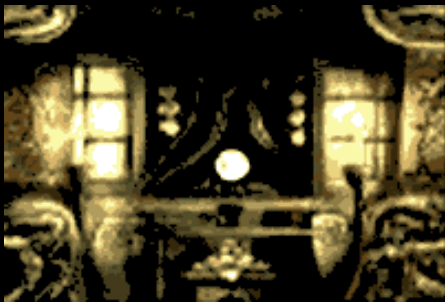
此二首歌辭。今號。夷曲。

既而天照大神以思兼神妹。萬幡豐秋津媛命。配正哉吾勝勝速日天忍穗耳尊為妃。令降之於葦原中國。是時勝速日天忍穗耳尊立於天浮橋而臨睨之曰：「彼地未平矣。不須也頗傾凶目杵之國歟。」乃更還登。具陳不降之狀。

故天照大神復遣武甕槌神及經津主神。先行驅除。時二神降到出雲。便問大己貴神曰：「汝將此國奉天神耶以不？」對曰：「吾兒事代主射鳥邀遊。在三津之碕。今當問以報之。」乃遣使人訪焉。對曰：「天神所求。何不奉歟？」故大己貴神以其子之辭報乎二神。二神乃昇天。復命而告之曰：「葦原中國皆已平竟。」時天照大神敕曰：「若然者。方



八阪瓊曲玉



八咫鏡

天照大神賜天津彥彥火瓊瓊杵尊八阪瓊曲玉,八咫鏡,草薙劍等三神器。

當降吾兒矣。」且將降間,皇孫已生。號曰,天津彥彥火瓊瓊杵尊。時有奏曰,欲以此皇孫代降。

故天照大神乃賜天津彥彥火瓊瓊杵尊,八阪瓊曲玉及八咫鏡、草薙劍,三種寶物。又以中臣上祖-天兒屋命、忌部上祖-太玉命、猿女上祖-天鈿女命、鏡作上祖-石凝姥命、玉作上祖-玉屋命,凡五部神使配侍焉。因敕皇孫曰:「葦原千五百秋之瑞穗國,是吾子孫可王之地也,宜爾王孫就而治焉!行矣,寶祚之隆,當與天壤無窮者矣!」

已而且降之間,先驅者還白:「有一神,居天八達之衢,其鼻長七咫,背長七尺餘,當言七尋。且,口、尻明耀,眼如八咫鏡而皚然似赤酸醬也。」即遣從神往問。時有八十萬神,皆不得目勝相問,故特敕天鈿女曰:「汝是目勝於人者,宜往問之。」

天鈿女乃露其胸乳,抑裳帶於臍下而笑嚙向立。是時衢神問曰:「天鈿女,汝為之何故耶?」對曰:「天照大神之子所幸道路,有如此居之者誰也?敢問之。」衢神對曰:「聞天照大神之子,今當降行。故,奉迎相待。吾名是猿田彥大神。」時天鈿女復問曰:「汝將先我行乎?將抑我先汝行乎?」對曰:「吾先啟行。」天鈿女復問曰:「汝何處到耶?皇孫何處到耶?」對曰:「天神之子則當到筑紫日向高千穗患觸之峰;吾則應到伊勢之狹長田五十鈴川上。」因曰:「發顯我者汝也,故汝可以送我而致之矣。」

天鈿女還詣報狀,皇孫於是脫離天磐座,排分天八重雲,稜威道別道別而天降之也。果如先期,皇孫則到筑紫日向高千穗患觸之峰;其猿田彥神者則到伊勢之狹長五十鈴川上。即天鈿女命隨猿田彥神所乞遂以待送焉。時皇孫敕天鈿女命:「汝宜以所顯神名為姓氏焉。」因賜猿女君之號。故,猿女君等男女,皆呼為君,此其緣也。高胸,此云

.....頗傾也,此云.....

一書第二曰:天神遣經津主神、武甕槌神,使平定葦原中國。

時二神曰:「天有惡神,名曰-天津瓊星,亦名-天香香背男。請,先誅此神,然後下撥葦原中國。」是時齋主神號齋之大人,此神今在于東國楫取之地也。

既而二神降到出雲五十田狹之小汀而問大己貴神曰:「汝將此國奉天神耶以不?」對曰:「疑,汝二神非是吾處來者,故不須許也。」於是經津主神則還昇報告。

時高皇產靈尊乃還遣二神,敕大己貴神曰:「今者聞汝所言,深有其理,故更條而敕之。夫汝所治顯露之事,宜是吾孫治之。汝則可以治神事,又汝應住天日隅宮者,今當供造;即以千尋拷繩,結為百八十紐,其造宮之制者,柱則高大,板則廣厚;又將田供佃;又為汝往來遊海之具,高橋、浮橋及天鳥船亦將供造;又於天安河亦造打橋;又供造百八十縫之白楯;又當主汝祭祀者,天穗日命是也!」於是大己貴神報曰:「天神敕教慰勸如此,敢不從命乎?吾所治顯露事者,皇孫當治;吾將退治幽事。」乃薦岐神於二神曰:「是當代我而奉從也。吾將自此避去。」即躬被瑞之八阪瓊而長隱者矣。

故經津主神以岐神為鄉導,周流削平。有逆命者即加斬戮,歸順者仍加褒美。是時歸順之首渠者,大物主神及事代主神。乃合八十萬神於天高市,帥以昇天,陳其誠款之至。時高皇產靈尊敕大物主神:「汝若以國神為妻,吾猶謂汝有疏心。故,今以吾女三穗津姬配汝為妻,宜領八十萬神,永為皇孫奉護。」乃使還降之。

即以紀國忌部遠祖-手置帆負神,定為作笠者;彥狹知神,為作盾者;天目一箇神,為作金者;天日鷲神,為作木綿者;櫛明玉神,為作玉者。乃使太玉命,以弱肩被太手襪,而代御手以祭此神者,始起於此矣。且天兒屋命主神事之宗源者。故,俾以太占之卜事而奉仕焉。高皇產靈尊因敕曰:「吾則起樹天津神籬及天津磐境,當為吾孫奉齋矣。汝天兒屋命、太玉命,宜持天津神籬降於葦原中國,亦為吾孫奉齋焉。」乃使二神,陪從天忍穗耳尊以降之。

是時天照大神手持寶鏡,授天忍穗耳尊而祝之曰:「吾兒,視此寶鏡,當猶視吾。可與同床共殿,以為齋鏡。」復敕天兒屋命、太玉命:「惟爾二神亦同侍殿內,善為防護。」又敕曰:「以吾高天原所御齋庭之穗,亦當御於吾兒。」則以高皇產靈尊之女,號-萬幡姬,配天忍穗耳尊為妃,降之。故時居於虛天而生兒。

號,天津彥彥火瓊瓊杵尊。

因欲以此皇孫,代親而降。故以天兒屋命、太玉命及諸部神等,悉皆相授。且服御之物,一依前授。然後,天忍穗耳尊復還原天。

故,天津彥彥火瓊瓊杵尊降到於日向患日高千穗之峰而膂肉胸副國自頓丘覓國行



古代 出雲大社 本殿

高皇產靈尊敕於大國主命曰:「汝可以治神事,又汝應住天日隅宮者,今當供造;即以千尋拷繩,結為百八十紐,其造宮之制者,柱則高大,板則廣厚!」是以成出雲大社。

據傳此社壯大,遠凌奈良東大寺大佛殿,凡高肆拾捌公尺(亦云,佰公尺高),被今人譽作平安時代的摩天樓。



現代 出雲大社 拜殿

出雲大社現址。今出雲大社本凡高貳

去,立於浮渚在平地,乃召國主事勝國長狹而訪之。對曰:「是有國也,取捨隨敕。」時皇孫因立宮殿,是焉遊息。後遊幸海濱,見一美人。皇孫問曰:「汝是誰之子耶?」對曰:「妾是大山祇神之子,名-神吾田鹿葦津姬,亦名-木花開耶姬。」因曰:「亦吾姐磐長姬在。」皇孫曰:「吾欲以汝為妻,如之何?」對曰:「妾父大山祇神在。請,以垂問。」

皇孫因謂大山祇神曰:「吾見汝之女子,欲以為妻。」於是大山祇神乃使二女持百机飲食奉進。時皇孫謂姐為醜,不御而罷,妹有國色,引而幸之,則一夜有身。故,磐長姬大慚而咒之曰:「假使天孫不斥妾而御者,生兒永壽,有如磐石之長存。今既不然,唯弟獨見御,故其生兒必如木花之移落。」

一云,磐長姬恥恨而唾泣之曰:「顯見蒼生者如木花之俄遷轉當衰去矣。」此世人短折之緣也。

是後神吾田鹿葦津姬見皇孫曰:「妾孕天孫之子,不可私以生也。」皇孫曰:「雖復天神之子,如何一夜使人娠乎?抑非吾之兒歟?」木花開耶姬甚以慚恨,乃作無戶室而誓之曰:「吾所娠,是若他神之子者,必不幸矣;是實天孫之子者,必當全生!」則入其室中,以火焚室。

于時,燄初起時共生兒。號,火酢芹命。

次,火盛時生兒。號,火明命。

次生兒。號,彥火火出見尊。亦號,火折尊。齋主,此云。。。顯露,此云。。。齋庭,此云。。。。

拾肆公尺。於拜殿上,垂有異常巨大之注連繩,予人壓倒性的魄力。

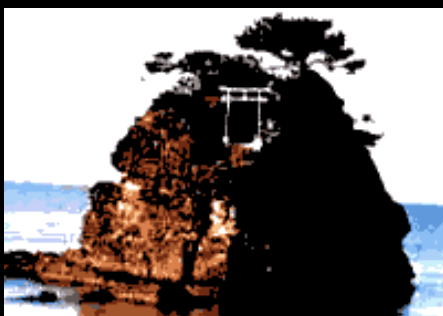
舊曆十月-神無月,即出雲地方之

「神在月」,此社主催迎神神事。



出雲大社比較圖

古代出雲大社高有肆拾捌公尺,勝過當今世界最大木造建築-東大寺大佛殿,而鎌倉時代候規模開始縮小,延享元年新造本殿則僅高貳拾肆公尺。



五十田狹之小汀(稻佐濱)



稻佐濱 弁天島

神在月時,眾神自五十田狹之小汀上陸出雲,神迎神事則自稻佐濱之弁天島開始。神在祭期間,先以大國主命之使者「龍蛇樣」先導,其後眾神則分住本殿東西之「東西十九社」。

一書第三曰:初,火燄明時生兒,火明命。

次,火炎盛時生兒,火進命。又曰,火酢芹命。

次,避火炎時生兒,火折彥火火出見尊。

凡此三子火不能害,及母亦無所少損。時以竹刀,截其兒臍。其所棄竹刀,終成竹林。故號彼地曰,竹屋。

時神吾田鹿葦津姬以下定田。號曰,狹名田。以其田稻,釀天甜酒藏之。又用淳浪田稻,為飯嘗之。

一書第四曰:高皇產靈尊以真床覆衾,裹天津彥國光焰火瓊瓊杵尊,則引開天磐戶,排分天八重雲,以奉降之。

于時大伴連遠祖-天忍日命,帥來目部遠祖-天患津大來目,背負天磐鞭,臂著稜威高陌,手捉天梶弓、天羽羽矢,及副持八目鳴鏑,又帶頭槌劍而立天孫之前。

遊行降來,到於日向襲之高千穗患日二上峰天浮橋而立於浮渚在之平地,膂肉空國自頓丘覓國行去,到於吾田長屋笠狹之御碕。

時,彼處有一神。名曰,事勝國勝長狹。故天孫問其神曰:「國在耶?」對曰:「在也。」因曰:「隨敕奉矣。」故天孫留住於彼處。其事勝國勝神者,是伊奘諾尊之子也。亦名鹽土老翁。

一書第五曰:天孫幸大山祇神之女子,吾田鹿葦津姬。

則一夜而有身,遂生四子。故吾田鹿葦津姬抱子而來進曰:「天神之子,寧可以私養乎?故,告狀知聞。」是時天孫見其子等,嘲之曰:「妍哉,吾皇子者。聞喜而生之歟?」故吾田鹿葦津姬乃慍之曰:「何為嘲妾乎?」天孫曰:「心疑之矣,故嘲之。何則雖復天神之子,豈能一夜之間使人有身者哉?故,非我子矣。」

是以吾田鹿葦津姬益恨,作無戶室,入居其內誓之曰:「妾所娠,若非天神之胤者必亡!是若天神之胤者無所害!」則放火焚室。

其火初明時,躡誥出兒。自言:「吾是天神之子,名-火明命。吾父何處坐耶?」

次,火盛時,躡誥出兒。亦言:「吾是天神之子,名-火進命。吾父及兄何處在耶?」

次,火炎衰時躡誥出兒。亦言:「吾是天神之子,名-火折尊。吾父及兄等何處在耶?」

次,避火熱時,躡誥出兒。亦言:「吾是天神之子,名-彥火火出見尊。吾父及兄等何處在耶?」

然後母吾田鹿葦津姬,自火燼中出來,就而稱之曰:「妾所生兒及妾身,自當火難,無所少損。天孫豈見之乎?」對曰:「我知本是吾兒。但一夜有身,慮有疑者。欲使眾人皆知是吾兒,并亦天神能令一夜有娠,亦欲明汝有靈異之威,子等復有超倫之氣。故有前日之嘲辭也。」梶,此云。。音。。反。頭槌,此云。。。。老翁,此云。。。



『古事記繪詞』 天孫降臨之圖
島根縣江津市 山邊神社藏
高皇產靈尊以真床追衾覆天津彥彥
火瓊瓊杵尊,使降之.皇孫乃離天磐
座,排分天八重雲,稜威之道別道別而
天降日向襲之高千穗峰.



高千穗町 患觸神社
猿田彥神有言:「天神之子,則當到筑
紫日向高千穗患觸之峰!」是以天津
彥彥火瓊瓊杵尊者,降立高千穗患觸
峰.御祭神:天津彥彥火瓊瓊杵尊.

憂豐吾田津姬不與共言之事之歌:
漂乎水面藻 遂兒進岸邊
然吾寢之床 妻者不與共 羨煞濱千鳥

漂浮於水面上的藻總是漸漸漂泊靠岸,而我
所寢之御床卻沒有妻子相來,
濱上成對的水鳥啊,我真是羨煞你們!

一書第六曰:天忍穗耳尊娶高皇產靈尊女子-栲幡千千姬萬幡姬命亦云,高皇產靈尊兒-
火之戶幡姬兒-千千姬命而生兒.

天火明命.

次生,天津彥根火瓊瓊杵根尊.

其天火明命兒-天香山,是尾張連等遠祖也.

及至奉降皇孫火瓊瓊杵尊於葦原中國也,高皇產靈尊敕八十諸神曰:「葦原中國
者,磐根、木株、草葉,猶能言語.夜者若燦火而喧響之,晝者如五月蠅而沸騰之。」云
云.時高皇產靈尊敕曰:「昔遣天稚命於葦原中國,至今所以久不來者,蓋是國神有強禦
之者。」乃遣無名雄雉往候之.

此雉降來,因見粟田、豆田,則留而不返.此世所謂「雉頓使」之緣也.

故復遣無名雌雉.此鳥下來,為天稚彥所射,中其矢而上報,云云.

是時高皇產靈尊乃用真床覆衾,裹皇孫天津彥根火瓊瓊杵根尊,而排披天八重雲
以奉降之.故稱此神,曰-天國饒石彥火瓊瓊杵尊.于時降到之處者,呼曰-日向襲之高千
穗添山峰矣.及其遊行之時也,云云.

到于吾田笠狹之御碕,遂登長屋之竹島.乃巡覽其地者,彼有人焉.名曰,事勝國勝
長狹.天孫因問之曰:「此誰國歟?」對曰:「是長狹所住之國也.然,今乃奉上天孫矣。」
天孫又問曰:「其於秀起浪穗之上,起八尋殿而手玉玲瓏紅之少女者,是誰之子女耶?
答曰:「大山祇神之女子等.大號-磐長姬.少號-木花開耶姬,亦號-豐吾田津姬。」云云.

皇孫因幸豐吾田津姬,則一夜而有身.皇孫疑之,云云.

遂生,火酢芹命.

次生,火折尊.亦號彥火火出見尊.

母誓已驗.方知,實是皇孫之胤.然豐吾田津姬恨皇孫,不與共言.皇孫憂之,乃為歌
之曰:

沖・藻・ 邊・・寄・・・ ・寢床・ ・・・・・・・ 濱・千鳥・

燦火,此云・・.喧響,此云・・・・.五月蠅,此云・・・・.添山,此云・・・・・.秀起,此云
・・・・.

一書第七曰:高皇產靈尊之女-天萬栲幡千幡姬,一云,高皇產靈尊兒-萬幡姬兒-玉依姬命.
此神為天忍骨命妃,

生兒,天之杵火火置瀨尊.

一云:勝速日命兒-天大耳尊,此神娶丹鳥姬.

生兒,火瓊瓊杵尊.

一云:神皇產靈尊之女-栲幡千幡姬.

生兒,火瓊瓊杵尊.

一云:天杵瀨命娶吾田津姬.

生兒,火明命.

次,火夜熾命.

次,彥火火出見尊.

一書第八曰:正哉吾勝勝速日天忍穗耳尊,娶高皇產靈尊之女-天萬栲幡千幡姬為妃
而生兒.

號,天照國照彥火明命.是尾張連等遠祖也.

次,天饒石國饒石天津彥火瓊瓊杵尊.此神娶大山祇神之女子-木花開耶姬命為
妃而生兒.

號,火酢芹命.

次,彥火火出見尊.



富士山本宮淺間大社
日本自古以來即對靈山富士山有所謂的崇尚信仰,是即富士信仰,淺間大明神信仰,御祭神同於都萬神社,是為木花開耶姬命(鹿茸津姬).在此奉作淺間大神.



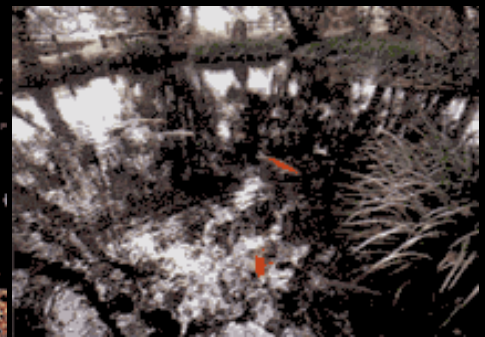
逢出川

逢出川 :傳為天津彥彥火瓊瓊杵尊與鹿茸津姬相遇之地.



無戶室 蹟

無戶室蹟:鹿茸津姬忿恨,乃作無戶室,入居其內而誓.此其蹟也.



兒湯之池

兒湯之池:據傳鹿茸津姬以此池作為其子產浴之用.

[\[久遠・絆\]](#) [\[第一卷\]](#) [\[其之二\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷第二 神代[下]

十.海幸・山幸故事與鷗鷺草葺不合尊的誕生

兄・火闌降命,自有海幸;幸,此云・・・弟・彥火火出見尊,自有山幸.始兄弟二人相謂曰:「試欲易幸。」遂相易之,各不得其利。

兄悔之,乃還弟弓箭而乞己釣鉤.弟時既失兄鉤,無由訪覓.故,別作新鉤與兄.兄不肯受而責其故鉤.弟患之,即以其橫刀鍛作新鉤,盛一箕而與之.兄忿之曰:「非我故鉤,雖多不取。」益復急責。

故,彥火火出見尊憂苦甚深,行吟海畔.時逢鹽土老翁,老翁問曰:「何故在此愁乎?」對以事之本末.老翁曰:「勿復憂,吾當為汝計之。」乃作無目籠,內彥火火出見尊於籠中,沉之於海。

即自然有可怜小汀,可怜,此云・・・汀,此云・・・於是棄籠遊行,忽至海神之宮.其宮也,雉堞整頓,台宇玲瓏.門前有一井,井上有一湯津杜樹,枝葉扶疏.時彥火火出見尊就其樹下,徙倚彷徨.良久有一美人排闥而出,遂以玉鏡來當汲水。

因拳目視之,乃驚而還入,白其父母曰:「有一希客者在門前樹下。」海神於是鋪設八重蓆薦以延內之.坐定,因問其來意.時彥火火出見尊對以情委曲.海神乃集大小之魚,遍問之.僉曰:「不識.唯,赤女比有口疾而不來.赤女,鯛魚之名也。」因召之探其口者,果得失鉤。

已而彥火火出見尊因娶海神女・豐玉姬,仍留住海宮,已而三年.彼處雖復安樂,猶有憶鄉之情.故,時復太息.豐玉姬聞之,謂其父曰:「天孫悽然數歎,蓋懷土之憂乎?」海神乃延彥火火出見尊,從容語曰:「天孫若欲還鄉者,吾當奉送。」便授所得釣鉤,因誨之曰:「以此鉤與汝兄時,則陰呼此鉤曰貧鉤,然後與之。」復授潮滿瓊及潮涸瓊而誨之曰:「漬潮滿瓊者,則潮忽滿,以此沒汝兄.若兄悔而祈者,還漬潮涸瓊,則潮自涸,以此救之.如此逼惱,則汝兄自伏。」及將歸去,豐玉姬謂天孫曰:「妾已娠矣,當產不久.妾必以風濤急峻之日出到海濱,請為我作產室相待矣。」

彥火火出見尊已還宮,一遵海神之教.時兄火闌降命既被厄困,乃自伏罪曰:「從今以後,吾將為汝俳優之民.請施恩活。」於是隨其所乞,遂赦之.其火闌降命,即吾田君小橋等之本祖也。

後,豐玉姬果如前期,將其女弟玉依姬,直冒風波,來到海邊.逮臨產時,謂曰:「妾產時,幸勿以看之。」天孫猶不能忍,竊往覘之.豐玉姬方產化為龍而甚慚之曰:「如有不辱我者,則使海路相通,永無隔絕.今既辱之,將何以結親昵之情乎?」乃以草裹兒,棄之海邊,閉海途而徑去矣。

故,因以名兒曰,彥波瀲武鸕鷁草葺不合尊。

後久之,彥火火出見尊崩.葬日向高屋山上陵。



青島 山海易幸傳說之地



山海易幸 日向神話館 蠟人形 兄弟二人相謂曰:「試欲易幸。」



釣鉤 繩文遺跡



鹽土老翁 日向神話館 蠟人形 彥火火出見尊逢鹽土老翁,其為之計而作無目籠,沉往海神之邸。

一書第一曰:兄・火酢芹命,能得海幸;弟・彥火火出見尊,能得山幸。

時兄弟欲互易其幸.故,兄持弟之幸弓,入山覓獸.終不見獸之乾跡.弟持兄之幸鉤,入海釣魚,殊無所獲,遂失其鉤.是時兄還弟弓矢而責己鉤.弟患之,乃以所帶橫刀作鉤,盛一箕與兄.兄不受曰:「猶欲吾之幸鉤。」

於是彥火火出見尊不知所求,但有憂吟.乃行至海邊,彷徨嗟嘆.時有一長老忽然而至,自稱鹽土老翁.乃問之曰:「君是誰者?何故患於此處呼?」彥火火出見尊具言其事.老翁即取囊中玄櫛投地,則化成五百箇竹林.因取其竹,作大目籠,內火火出見尊於籠中,投之于海.一云,以無目堅間為浮木,以細繩繫著火火出見尊而沉之.所謂堅間,是今之竹籠也。

于時海底自有可怜小汀.乃循汀而進,忽到海神豐玉彥之宮.其宮也城闕崇華,樓台壯麗.門外有井,井傍有杜樹,乃就樹下立之.良久有一美人,容貌絕世,侍者群從,自內而出,將以玉壺汲水,仰見火火出見尊,便以驚還而白其父神曰:「門前井邊樹下,有一貴客,骨法非常.若從天降者,當有天垢;從地來者,當有地垢.實是妙美之,虛空彥者歟。」

一云,豐玉姬之侍者,以玉瓶汲水,終不能滿.俯視井中,則倒映人笑之顏.因以仰觀,有一麗神倚於杜樹.故還入白其王。

於是豐玉彥遣人問曰:「客是誰者,何以至此?」火火出見尊對曰:「吾是天神之孫也。」乃遂言來意.時海神迎拜延入,殷勤奉慰,因以女・豐玉姬妻之.故留住海宮,已經三載。

是後火火出見尊數有歎息.豐玉姬問曰:「天孫豈欲還故鄉歟?」對曰:「然。」豐玉姬即白父神曰:「在此貴客,意望欲還上國。」

海神於是總集海魚,覓問其鉤.有一魚對曰:「赤女人久有口疾,或云,赤鯛,疑是之否乎。」故即召赤女,見其口者,鉤猶在口.便得之,乃以授彥火火出見尊.因教之曰:「以鉤與汝兄時,則可詔言:『貧窮之本,飢饉之始,困苦之根.』而後與之.又,汝兄涉海時,吾必起迅風、洪濤,令其沒溺辛苦矣。」於是乘火火出見尊於大鯉,以送致本鄉。

先是且別時,豐玉姬從容語曰:「妾已有身矣.當以風濤壯日,出到海邊.請為我造產屋以待之。」是後豐玉姬果如期言來至,謂火火出見尊曰:「妾今當產,請勿臨之。」火火出見尊不聽,猶以櫛燃火視之.時豐玉姬化為八尋大熊鯉,匍匐逶迤.遂以見辱為



豐玉姬 日向神話館 蠟人形
彥火火出見尊就杜樹下。一美人排闥而出，以玉鏡汲水。



海神之宮 日向神話館 蠟人形
海神於是鋪設八重蓆薦以延內之

恨，則徑歸海鄉。留其女弟玉依姬，持養兒焉。

所以兒名，稱彥波瀲武鸕鷀草葺不合尊者，以彼海濱產屋，全用鸕鷀羽為草葺之而葺未合時，兒即生焉，故因以名焉。上國，此云……

一書第二曰：門前有一好井，井上有百枝杜樹，故彥火火出見尊跳昇其樹而立之。

于時海神之女豐玉姬，手持玉鏡來將汲水。正見人影在於井中，乃仰視之。驚而墮鏡，鏡既破碎不顧而還入，謂父母曰：「妾見一人在於井邊樹上，顏色甚美，容貌且閑，殆非常之人者也。」時父神聞而奇之，乃設八重席迎入，坐定，因問來意，對以情之委曲。

時海神便起憐心，盡召鰭廣、鰭狹而問之，皆曰：「不知，但赤女有口疾不來，亦云，口女有口疾。」即急召至，探其口者，所失之針鉤立得。於是海神制曰：「爾口女，從今以往，不得吞餌，又不得預天孫之饌！」即以口女魚所以不進御者，此其緣也。

及至彥火火出見尊將歸之時，海神自言：「今者天神之孫，辱臨吾處，中心欣慶，何日忘之。」乃以思則潮溢之瓊，思則潮涸之瓊，副其鉤而奉進之曰：「皇孫雖隔八重之隈，冀時復相憶而勿棄置也。」因教之曰：「以此鉤與汝兄時，則稱『貧鉤，減鉤，落薄鉤。』言訖，以後手投棄與之，勿以向授。若兄起忿怒，有賊害之心者，則出潮溢瓊以漂溺之；若已至危害求愍者，則出潮涸瓊以救之。如此逼惱，自當臣伏。」

時彥火火出見尊授彼瓊鉤，歸來本宮。一依海神之教，先以其鉤與兄，兄怒不受，故弟出潮溢瓊，則潮大溢而兄自溺。因請之曰：「吾當事汝為奴僕，願垂救活！」弟出潮涸瓊，則潮自涸而兄還平復。已而兄改前言曰：「吾是汝兄，如何為人兄而事弟耶？」弟時出潮溢瓊，兄見之走登高山，則潮亦沒山；兄緣高樹，則潮亦沒樹。

兄既窮途，無所逃去，乃伏罪曰：「吾已過矣，從今以往，吾子孫八十連屬，恒當為汝俳人。一云，狗人，請哀之。」弟還出涸瓊，則潮自息。於是兄知弟有神德，遂以伏事其弟。是以火酢芹命苗裔，諸隼人等，至今不離天皇宮牆之傍，代吠狗而奉事者也。世人不償失針，此其緣也。

一書第三曰：兄火酢芹命能得海幸，故號海幸彥。弟彥火火出見尊能得山幸，故號山幸彥。

兄則每有風雨，輒失其利；弟則雖逢風雨，其幸不忒。時兄謂弟曰：「吾欲試與汝換幸。」弟許諾，因易之時，兄取弟弓矢，入山獵獸；弟取兄釣鉤，入海釣魚，俱不得利，空手來歸。兄即還弟弓矢而責己釣鉤，時弟已失鉤於海中，無因訪獲，故別作新鉤數千與之。兄怒不受，急責故鉤，云云。

是時弟往海濱，低徊愁吟。時有川鴈，嬰累困厄，即起憐心，解而放去。須臾有鹽土老翁來，乃作無目堅間小船，載火火出見尊，推放於海中，則自然沉去。

乎有可憐御路，故尋路而往，自至海神之宮。是時海神自迎延入，乃鋪設海驢皮八重，使坐其上。兼設饌百机，以盡主人之禮。

因從容問曰：「天神之孫，何以辱臨乎？」一云，頃無兒來語曰：『天孫憂居海濱，未審虛實。』蓋有之乎？」彥火火出見尊具申事之本末，因留息焉。海神則以其子豐玉姬妻之，遂纏眠篤愛，已經三年。

及至將歸，海神乃召鯛女，探其口者，即得鉤焉。於是進此鉤于彥火火出見尊，因奉教之曰：「以此與汝兄時，乃可稱曰：『大鉤，踉蹌鉤，貧鉤，痴疲鉤。』言訖，則可以後手投賜。」

已而召集鱷魚問之曰：「天神之孫今當還去，爾等幾日之內，將以奉致？」時諸鱷魚各隨其長短，定其日數。中有一尋鱷，自言：「一日之內則當致焉。」故即遣一尋鱷魚以奉送焉。復進潮滿瓊、潮涸瓊，兩種寶物，仍教用瓊之法。又教曰：「兄作高田者，汝可作涇田；兄作涇田者，汝可作高田。」海神盡誠奉助如此矣。

時彥火火出見尊已歸來，一遵神教，依而行之。其後火酢芹命日以襪褸而憂之曰：「吾已貧矣。」乃歸伏於弟。弟時出潮滿瓊，則兄拳手溺困，還出潮涸瓊，則休而平復。

先是豐玉姬謂天孫曰：「妾已有娠也。天孫之胤，豈可產於海中乎？故當產時，必就君處，如為我造屋於海邊，以相待者，是所望也。」故彥火火出見尊已還鄉，即以鸕鷀之羽，葺為產屋。屋葺未及合，豐玉姬自馭大龜，將女弟玉依姬，光海來到。時孕月已滿，產期方急。由此，不待葺合，徑入居焉。

已而從容謂天孫曰：「妾方產，請勿臨之。」天孫心怪其言，竊窺之，則化八尋大鱷而知天孫視其私屏，深懷慚恨。

既兒生之後，天孫就兒問曰：「兒名何稱者當可乎？」對曰：「宜號彥波瀲武鸕鷀草葺不合尊。」言訖乃涉海徑去。于時彥火火出見尊乃歌之曰：

沖・鳥 鴨著・鳥・我・率寢・妹・忘・世・盡・

亦云，彥火火出見尊取婦人，為乳母、湯母及飯嚼、湯坐。凡諸部備行，以奉養焉。于時權用他婦，以乳養皇子焉。此世取乳母，養兒之緣也。

是後豐玉姬聞其兒端正，心甚憐重，欲復歸養，於義不可。故遣女弟玉依姬，以來養者也。于時豐玉姬命奇玉依姬，而奉報歌曰：



火火出見尊 日向神話館 蠟人形
彥火火出見尊娶豐玉姬而留住海宮三年。雖復安樂，猶有憶鄉之情，故時復太息。豐玉姬聞之，謂其父曰：「天孫悽然數歎，蓋懷土之憂乎？」



赤鯛 日向神話館 蠟人形
海神集大小之魚問之。僉曰：「不識。唯，赤女（鯛魚）比有口疾而不來。」因

赤玉・ 光・ ・ ・ ・ 人・言・ ・ 君・裝・ 貴・ ・ ・ ・ ・

凡此贈達二首,號曰-拳歌.海鱸,此云・ ・ 踉蹌鉤,此云・ ・ ・ ・ ・ 痴疲鉤,此云・ ・ ・ ・ ・
一書第四曰:兄-火酢芹命,得山幸利;弟-火折尊,得海幸利,云云.

弟愁吟在海濱,時遇鹽筒老翁,老翁問曰:「何故愁若此乎?」火折尊對曰,云云.老翁曰:「勿復憂,吾將計之.」計曰:「海神所乘駿馬者,八尋鱷也.是豎其鱗背而在橘之小戶.吾當與彼者共策.」乃將火折尊,共往而見之.

是時鱷魚策之曰:「吾者八日以後,方致天孫於海宮.唯我王駿馬,一尋鱷魚.是當一日之內必奉致焉.故,今我歸而使彼出來,宜乘彼入海.入海之時,海中自有可怜小汀,隨其汀而進者,必至我王之宮.宮門井上,當有湯津杜樹,宜就其樹上而居之.」言訖,即入海去矣.

故天孫隨鱷所言留居,相待已八日矣,久之方有一尋鱷來,因乘入海,每遵前鱷之教.時有豐玉姬侍者,持玉鏡當汲井水,見人影在水底,酌取之不得,因以仰見天孫,即入告其王曰:「吾謂我王獨能絕麗,今有一客,彌復遠勝.」海神聞之曰:「試以察之.」乃設三床請入.

於是天孫於邊床則拭其兩足,於中床則據其兩手,於內床則寬坐於真床覆衾之上.海神見之,乃知是天神之孫,益加崇敬.云云.

海神召赤女、口女問之時,口女自口出鉤以奉焉.赤女即赤鯛也,口女即鯔魚也.時海神授鉤彥火火出見尊,因教之曰:「還兄鉤時,天孫則當言:『汝生子八十連屬之裔,貧鉤,狹狹貧鉤.』言訖,三下唾與之.又兄入海釣時,天孫宜在海濱,以作風招,風召即嘯也.如此則吾起瀛風、邊風,以奔波溺惱.」

火折尊歸來,據遵神教.至及兄釣之日,弟居濱而嘯之.時迅風忽起,兄則溺苦,無由可生.便遙請弟曰:「汝久居海原,必有善術,願以救之.若活我者,吾生兒八十連屬,不離汝之垣邊,當為俳優之民也.」於是弟嘯已停,而風亦還息.

故兄知弟德,欲自伏辜.而弟有慍色,不與共言.於是兄著犢鼻,以赭塗掌塗面,告其弟曰:「吾汚身如此,永為汝俳優者.」乃拳足踏行,學其溺苦之狀.初潮漬足時則為足占,至膝時則拳足,至股時則走迴,至腰時則捫腰,至腋時則置手於胸,至頸時則拳手飄掌.自爾及今,曾無廢絕.

先是豐玉姬出來當產時,請皇孫曰,云云.皇孫不從,豐玉姬大恨之曰:「不用吾言,令我屈辱,故自今以往,妾奴婢至君處者,勿復放還,君奴婢至妾處者,亦勿復還.」遂以真床覆衾及草,裹其兒置之波激,即入海去矣.此海陸不相通之緣也.

一云,置兒於波激者非也,豐玉姬命自抱而去.久之曰:「天孫之胤,不宜置此海中.」乃使玉依姬持之送出焉.初豐玉姬別去時,恨言既切.故火則尊知其不可復會,乃有贈歌,已見上.八十連屬,此云・ ・ ・ ・ ・ 飄掌,此云・ ・ ・ ・ ・



鹿兒島神宮

全國正八幡系神社之本宮,背負神休山(御壇山),前具國分平野與鹿兒島灣,遠方可望高千穗之靈峰.

御祭神:彥火火出見尊,豐玉姬命,帶中比子命,息長帶中姬命,品陀和氣命,中姬命.

社藏神寶,有潮滿珠,潮干珠一對,亦有幣絲鏡瓷等藏.

拳歌

岸邊之鳥者 於鴨棲之島
與我共寢之 妹者必無忘 直至世之盡

猶如鴨棲之島岸邊成雙成對的鳥兒們,
曾經與我一同共寢的可人兒啊,
我絕對不會忘記你的點點滴滴,直至世界終盡如是.

紅赤良玉者 其輝甚妍美
雖人多此言 然君容貌者 高貴勝赤玉

人們總是說赤玉的光輝是如此的完美高雅,
然而您那高貴的容姿,
更是又遠勝赤玉許多.

幸:時指獵具,時指獵物.

鱷:鱷者,鱷鮫也,其詞意指鯊魚.

召之探其口,果得失鉤.



一尋鱷鮫(鯊魚)日向神話館 蠟人形
諸鱷各隨長短,定其日數.一尋鱷曰:
「一日之內當致焉.」故遣一尋鱷奉送.



潮滿瓊及潮涸瓊 日向神話館蠟人形
彥火火出見尊還,一遵海神之教.兄火
闌降命既被厄困,乃自伏罪曰:「從今
以後,吾將為汝俳優之民.請施恩
活.」



豐玉姬 日向神話館 蠟人形
豐玉姬孕月已滿,產期方急.不待葺
合,徑入居焉.
產,彥波瀲武鸕鷀草葺不合尊.

十一.神日本磐余彥尊等四男神的誕生

彥波瀲武鸕鷀草葺不合尊,以其姨-玉依姬為妃.
生,彥五瀨命.

次,稻飯命.

次,三毛入野命.

次,神日本磐余彥尊.凡生四男.

久之,彥波瀲武鸕鷀草葺不合尊,崩於西洲之宮.因葬日向吾平山上陵.



玉依姬命 宮崎神宮藏

豐玉姬化為八尋大熊鱉,匍匐逶迤,遂以見辱為恨,則徑歸海鄉,留其女弟玉依姬,持養兒焉。

宮崎神社藏,鵜戶宮居,圖為抱著山幸彥與豐玉姬之子彥波瀲武鸕鷀草葺不合尊之玉依姬命,是為乳母之緣起者也,此者之後與彥波瀲武鸕鷀草葺不合尊結婚,即為神武天皇之母。

一書第一曰:先生,彥五瀨命。

次,稻飯命。

次,三毛入野命。

次,狹野尊,亦號神日本磐余彥尊,所稱狹野者,是年少時之號也。

後撥平天下,奄有八洲,故復加號,曰,神日本磐余彥尊。

一書第二曰:先生,五瀨命。

次,三毛野命。

次,稻飯命。

次,磐余彥尊,亦號神日本磐余彥火火出見尊。

一書第三曰:先生,彥五瀨命。

次,稻飯命。

次,神日本磐余彥火火出見尊。

次,稚三毛野命。

一書第四曰:先生,彥五瀨命。

次,磐余彥火火出見尊。

次,彥稻飯命。

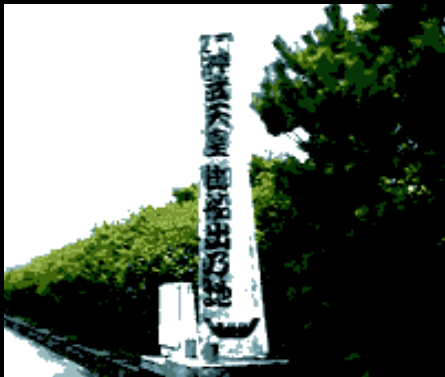
次,三毛入野命。

日本書紀卷第二 終

[\[久遠・絆\]](#) [\[其之一\]](#) [\[卷第三\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷第三 神武紀

神日本磐余彥天皇 神武天皇



日向美美津 神武天皇御船出乃地碑
東征始發,亦有日本海軍發祥地碑。



佐賀關半島 早吸日女神社
神武於速吸門遇急流,斷為龍神所為,
黑砂、真砂姊妹遂入海取龍神之劍,
上陸奉於神武而氣絕,故以龍神之神
劍為御神体,建此社以追思。



神武天皇孔舍衛阪顯彰碑
戰長髓彥於孔舍衛阪,五瀨命中矢。



一.神武天皇的東征

神日本磐余彥天皇,諱-彥火火出見,彥波瀲武鸕鷀草葺不合尊第四子也。母曰-玉依姬,海童之少女也。

天皇生而明達,意確如也。年十五立為太子。

長而娶日向國吾田邑吾平津媛為妃。

生,手研耳命。

及年四十五歲,謂諸兄弟及子等曰:「昔我天神,高皇產靈尊、大日靈尊,舉此豐葦原瑞穗國而授我祖-彥火瓊瓊杵尊。於是火瓊瓊杵尊,闢天關,披雲路,驅仙蹕,以戾止。是時運屬鴻荒,時鐘草昧。故,蒙以養正,治此西偏。皇祖皇考,乃神乃聖,積慶重暉,多歷年所。自天祖降跡以逮,於今一百七十九萬二千四百七十餘歲。而遼遙之地,猶未霑於王澤。遂使邑有君,村有長,各自分疆,用相凌蹙。抑又,聞於鹽土老翁曰:『東有美地,青山四周,其中亦有乘天磐船而飛降者。』余謂,彼地必當足以恢弘大業,光宅天下,蓋六合之中心乎。厥飛降者,謂是饒速日歟。何不就而都之乎?」諸皇子對曰:「理實灼然,我亦恒以為念。宜早行之。」是年也,太歲甲寅。

其年冬十月,丁巳朔辛酉,天皇親率諸皇子、舟師東爭,至速吸之門。

時有一漁人,乘艇而至。天皇招之,因問曰:「汝誰也?」對曰:「臣是國神,名曰-珍彥。釣魚於曲浦,聞天神子來,故即奉迎。」又問之曰:「汝能為我導耶?」對曰:「導之矣。」天皇敕授漁人椎槁末令執,而牽納於皇舟以為海導者,乃特賜名,為-椎根津彥。椎,此云...此即倭直部始祖也。

行至筑紫國菟狹。菟狹者地名也,此云...時有菟狹國造祖,號曰-菟狹津彥、菟狹津媛。乃於菟狹川上,造一柱騰宮而奉饗焉。一柱騰宮,此云...是時敕以菟狹津姬,賜妻之於特臣-天種子命。天種子命是中臣氏之遠祖也。

十有一月,丙戌朔甲午,天皇至筑紫國岡水門。

十有二月,丙辰朔壬午,至安藝國,居於埃宮。

乙卯年春三月,甲寅朔己未,徙入吉備國,起行館以居之。是曰,高島宮。積三年間,脩舟楫,蓄兵食,將欲以一舉而平天下也。

戊午年春二月,丁酉朔丁未,皇師遂東舳艫相接。方到難波之碕,會有奔潮太急,因以名為-浪速國。亦曰,浪花。今謂難波,訛也。訛,此云...。

三月,丁卯朔丙子,溯流而上,徑至河內國草香邑青雲白肩之津。

二.天皇軍的進擊 靈劍師靈與頭八咫烏

夏四月,丙申朔甲辰,皇師敕兵步趣龍田而其路狹嶮,人不得並行。乃還更欲東踰膽駒山而入中洲。

時長髓彥聞之曰:「夫天神子等所以來者,必將奪我國!」則盡起屬兵,徼之於孔舍衛阪,與之會戰。

有流矢,中五瀨命肱脛,皇師不能進戰。天皇憂之,乃運神策於沖衿曰:「今我是日神之子而向日征虜,此逆天道也。不若,退還示弱,禮祭神祇,背負日神之威,隨影壓躡。如此,則曾不血刃,虜必自敗矣!」僉曰:「然!」於是令軍中曰:「且停,勿須復進!」乃引軍還,虜亦不敢逼。

卻至草香之津,植盾而為雄詰焉。雄詰,此云...因改號其津曰-盾津,今云-蓼津,訛也。

初孔舍衛之戰,有人隱於大樹而得免難,仍指其樹曰:「恩如母。」時人因號其地曰-母木邑,今云-舄悶迺奇,訛也。

五月,丙寅朔癸酉,軍至茅渟山城水門。亦名,山井水門。茅渟,此云...。

時五瀨命矢瘡痛甚,乃撫劍而雄詰之曰:「慨哉!慨哉,此云...大丈夫被傷於虜手,將不報而死耶!」撫劍,此云...時人因號其處曰-雄水門。

進到于紀國灶山,而五瀨命薨于軍。因葬灶山。

六月,乙未朔丁巳,軍至名草邑,則誅名草戶畔者。戶畔,此云...遂越狹野而到熊野神邑,且登天磐盾,仍引軍漸進。

雄水門聖跡顯彰碑



三重縣紀勢町錦 熊野灘



熊野本宮大社神紋 頭八咫鳥

三.兄猾與弟猾

秋八月,甲午朔乙未,天皇使徵兄猾及弟猾者,猾,此云……是兩人菟田縣之魁帥者也。魁帥,此云……

時兄猾不來,弟猾即詣至。因拜軍門而告之曰:「臣兄-兄猾之為逆狀也,聞天孫且到,即起兵將襲。望見皇師之威,懼不敢敵,乃潛伏其兵,權作新宮而殿內施機,欲因請饗以作難。願知此詐,善為之備。」

天皇即遣道臣命,察其逆狀。時道臣命審知有賊害之心而大怒詰責之曰:「虜爾所造屋,爾自居之!爾,此云……」因案劍彎弓,逼令催入。兄猾獲罪於天,事無所辭,乃自蹈機而壓死。時陳其屍而斬之,流血沒踝。故號其地曰,菟田血原。

已而弟猾大設牛酒以勞饗皇軍焉。天皇以其酒肉班賜軍卒,乃為御謠之曰:謠,此云……

菟田・高城・鷗罷張・我・待・・・・・障・
前妻・肴乞・・・立栲梭・實・無・・・・・
後妻・肴乞・・・櫟實・多・・・・・

是謂,來目歌。今樂府奏此歌者,猶有手量大小及音聲巨細,此古之遺式也。

是後天皇欲省吉野之地,乃從菟田穿邑,親率輕兵巡幸焉。

至吉野時,有人出自井中,光而有尾。天皇問之曰:「汝何人?」對曰:「臣是國神。名為,井光。」此則吉野首部始祖也。

更少進,亦有尾而披磐石而出者。天皇問之曰:「汝何人?」對曰:「臣是磐排別之子。排別,此云……」此則吉野國樸部始祖也。

及緣水西行,亦有作梁取魚者。梁,此云……天皇問之。對曰:「臣是苞苴擔之子。苞苴擔,此云……」此則阿太養鷗部始祖也。

九月,甲子朔戊辰,天皇陟彼菟田高倉山之巔,瞻望域中。時國見丘上則有八十梟帥,梟帥,此云……又於女阪置女軍,男阪置男軍,墨阪置熾炭。其女阪、男阪、墨阪之號,由此而起也;復有兄磯城軍,布滿於磐余邑,磯,此云……賊虜所據,皆是要害之地,故道路絕塞,無處可通。

天皇惡之,是夜自祈而寢。夢有天神訓之曰:「宜取天香山社中土,香山,此云……,以造天平瓮八十枚,平瓮,此云……,并造嚴瓮而敬祭天神地祇,嚴瓮,此云……,亦為嚴詛咒。如此則虜自平伏。嚴詛咒,此云……」天皇祇承夢訓,依以將行。

時弟猾又奏曰:「倭國磯城邑,有磯城八十梟帥;又高尾張邑,或本云,葛城邑也。有赤銅八十梟帥。此類皆欲與天皇距戰,臣竊為天皇憂之。宜今當取天香山埴,以造天平瓮而祭天社國社之神。然後擊虜則易除也。」

天皇既以夢辭為吉兆,及聞弟猾之言,益喜於懷。乃使椎根津彥著弊衣服及蓑笠為老父貌,又

海中卒遇暴風,皇舟漂蕩。時稻飯命乃歎曰:「嗟呼,吾祖則天神,母則海神。如何厄我於陸,復厄我於海乎?」言訖,乃拔劍入海,化為鋤持神。三毛入野命亦恨之曰:「我母及姨並是海神。何為起波瀾以灌溺乎?」則蹈浪秀而往乎常世鄉矣。

天皇獨與皇子手研耳命帥軍而進,至熊野荒阪津。亦名,丹敷津。因誅丹敷戶畔者。時神吐毒氣,人物咸瘁,由是皇軍不能復振。

時彼處有人,號曰-熊野高倉下。忽夜夢天照大神謂武甕雷神曰:「夫葦原中國猶聞喧擾之響焉。聞喧擾之響焉,此云……宜汝更往而征之。」武甕雷神對曰:「雖予不行,而下予平國之劍,則國將自平矣。」天照大神曰:「諾!諾,此云……」時武甕雷神登謂高倉曰:「予劍號曰-師靈。師靈,此云……今當置汝庫裏,宜取而獻之天孫。」高倉曰:「唯唯!」而寤之。明旦,依夢中教,開庫視之,果有落劍倒立於庫底板,則取以進之。

于時天皇適寐,忽然而寤之曰:「予何長眠若此乎?」尋而中毒士卒悉復醒起。

既而皇師欲趣中洲而山中嶮絕,無復可行之路,乃棲遑不知所跋涉。時夜夢,天照大神訓于天皇曰:「朕今遣頭八咫鳥,宜以為鄉導者。」果有頭八咫鳥,自空翔降。天皇曰:「此鳥之來,自適祥夢。大哉,赫矣!我皇祖天照大神,欲以助成基業乎!」

是時大伴氏之遠祖-日臣命,帥大來目,督將元戎,蹈山啟行,乃尋鳥所向,仰視而追之。遂達于菟田下縣。因號其所至之處曰-菟田穿邑。穿邑,此云……于時敕譽日臣命曰:「汝忠而且勇,加有能導之功。是以改汝名為-道臣。」



菟田血原
今奈良縣宇陀郡菟田野町

來目歌:

菟田上兮高狩場 欲捕鷗兮張罟網
吾欲獲兮鷗不至 反得鯨兮入罟網
若老女兮乞其肴 則貧櫛兮肉與之
若少女兮乞其肴 則豐櫟兮肉與之

在菟田高地的授場上,為了捕獲鷗鳥而設下了陷阱。然而我所期待的鷗鳥並沒有落入陷阱,反倒是意外的捕到了鯨魚。如果年老的女房來求取食物,就給他像櫛般少一點的肉!如果年輕的女房來求取食物,就給他像櫟般多一點的肉!

使弟狛被箕為老嫗貌而敕之曰：「宜汝二人到天香山，潛取其巔土而可來旋矣。基業成否，當以汝為占。努力慎歟！」

是時虜兵滿路，難以往還。時椎根津彥乃祈之曰：「我皇當能定此國者，行路自通；如不能者，賊必防禦。」言訖徑去。時群虜見二人，大笑之曰：「大醜乎，大醜，此云……老父老嫗！」則相與關道使行。二人得至其山，取土來歸。

於是天皇甚悅，乃以此埴，造作八十平瓮、天手挾八十枚、手挾，此云……。嚴瓮，而陟于丹生川上，用祭天神地祇。則於彼菟田川之朝原，譬如水沫而有所咒者著也。天皇又因祈之曰：「吾今當以八十平瓮，無水造飴。飴成則吾必不假鋒刃之威，坐平天下！」乃造飴。

飴即自成，又祈之曰：「吾今當以嚴瓮沉于丹生之川，如魚無大小，悉醉而流，譬猶被葉之浮流者，被，此云……。吾必能定此國，如其不爾，終無所成。」乃沉瓮於川，其口向下。頃之魚皆浮出，隨水噉嚼。時椎根津彥見而奏之。天皇大喜，乃拔取丹生川上之五百箇真阪樹以祭諸神。自此，始有嚴瓮之置也。

時敕道臣命：「今以高皇產靈尊，朕親做顯齋，顯齋，此云……。用汝為齋主，授以嚴媛之號而名其所置埴瓮為嚴瓮，又火名為嚴香來雷，水名為嚴罔象女，罔象女，此云……。糧名為嚴稻魂女，稻魂女，此云……。薪名為嚴山雷，草名為嚴野椎。」

冬十月，癸巳朔，天皇嘗其嚴瓮之糧，敕兵而出。先擊八十梟帥於國見丘破斬之。是役也，天皇志存必克，乃為御謠之曰：

神風・伊勢大海・大石・・・這・迴・細螺・
細螺・吾子・吾子・細螺・・這・迴・擊・・・止・・・擊・・・止・・

謠意以大石諭其國見丘也。

既而餘黨猶繁，其情難測，乃顧敕道臣命：「汝宜帥大來目部作大室於忍阪邑，盛設饗宴，誘虜而取之！」道臣命於是奉密旨，掘窖於忍阪而選我猛卒，與虜雜居。陰期之曰：「酒酣之後，吾則起歌。汝等聞吾歌聲，則一時刺虜！」已而坐定酒行。虜不知我之有陰謀，任情徑醉。時道臣命乃起而歌之曰：

忍阪・大室屋・人多・入居・・・人多・來入居・・・
・・・・・來目・子・・頭椎・石椎・持・擊・・・止・・

時我卒聞歌，俱拔其頭椎劍，一時殺虜，虜無復嚼類者。皇軍大悅，仰天而笑。因歌之曰：

今・・・今・・・・・・・今・・・吾子・今・・・吾子・

今來目部歌而後大哂，是其緣也。又歌之曰：

蝦夷・一人・百・人・人・云・・・手向・・・・

此皆承密旨而歌之，非敢自專者也。

時天皇曰：「戰勝而無驕者，良將之行也。今，魁賊已滅而同惡者匈匈十數群。其情不可知。如何久居一處，無以制變。」乃徙營於別處。

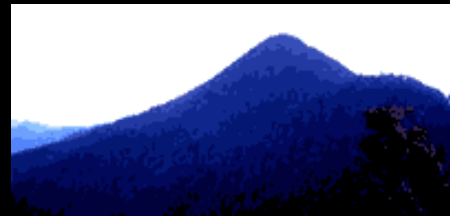


菟田高城宮跡地

國見丘破斬八十梟帥御謠：

神風拂兮伊勢海 海上大石細螺蝕
似細螺兮吾子民 若螺蝕兮襲此丘
猛擊襲兮取其敵 猛擊襲兮取其敵

就像那侵蝕著拂著神風之伊勢大海上的大石的細螺一般，細螺般的我之子民啊，像那細螺侵蝕大石般的襲擊國見丘上的敵人吧！



國見丘 據傳即今奈良音羽山。



音羽山上，女阪傳說跡地。

道臣命忍阪取虜之歌：

忍阪邑兮石窟中 眾人入兮敵眾聚
武勇子兮來目等 舉汝頭椎石椎刀
斬殺敵兮取汝敵

在忍阪那巨大的石窟之中，有著許許多多的敵人，勇敢的來目部年輕人啊，舉起你們的頭椎大刀與石椎大刀，擊殺眼前的敵人吧！

皇軍殲敵大悅之歌：

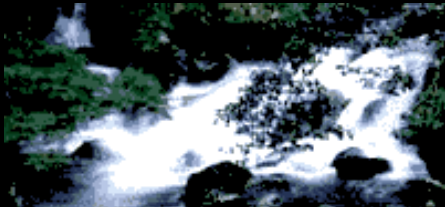
於今嗟兮於今嗟 愚賤奴兮吾已取
唯今者兮皆歡喜 唯今者兮皆歡喜

現在我們已經拿下敵人了，啊啊，敵軍的賤奴們啊！即便只有現在，部下們啊，即便只有現在，部下們啊，盡情的歡喜吧！

聞蝦夷兮一抵百 雖有此傳吾不懼
聽聞蝦夷人可以以一抵百,然而就算是這樣
他們也絲毫無法動我們一根寒毛!



墨阪神社



菟田川 奈良縣宇陀郡

四.兄磯城與弟磯城

十有一月,癸亥朔己巳,皇師大舉將攻磯城彥,先遣使者徵兄磯城,兄磯城不承命。
更遣頭八咫鳥召之,時鳥到其營而鳴之曰:「天神之子召汝,怡奘過,怡奘過!過,音。」
兄磯城忿之曰:「聞天壓神至而吾為慨憤時,奈何鳥鳥若此惡鳴耶?壓,此云。」乃彎弓射之。鳥即避去。

次到弟磯城宅而鳴之曰:「天神之子召汝,怡奘過,怡奘過!」時弟磯城慄然改容曰:「臣聞天壓神至,旦夕畏懼,善呼鳥,汝鳴之若此者歟!」即作葉盤八枚,盛食饗之。葉盤,此云。因以隨鳥詣到而告之曰:「吾兄兄磯城聞天神子來,則聚八十梟帥,具兵甲,將與決戰,可早圖之。」

天皇乃會諸將問之曰:「今兄磯城果有逆賊之意,召亦不來,為之奈何?」諸將曰:「兄磯城黠賊也,宜先遣弟磯城曉喻之,并說兄倉下、弟倉下,如遂不歸順,然後舉兵臨之亦未晚也。倉下,此云。」乃使弟磯城開示利害。

而兄磯城等猶守愚謀,不肯承伏。時椎根津彥計之曰:「今者宜先遣我女軍,出自忍阪道。虜見之必盡銳而赴。吾則驅馳勁卒,直指墨阪,取菟田川水以灌其炭火,儻忽之間出其不意,則破之必也!」

天皇善其策,乃出女軍以臨之。虜謂大兵已至,畢力相待。先是皇軍攻必取,戰必勝,而介冑之士不無疲弊,故聊為御謠以慰將卒之心焉。謠曰:

楯並・・ 伊那瑳・山・ 木・間・・ ・行・守・・
戰・・ 我・・ 飢・ 鳥・鳥 鵜飼・伴 今助・・來・

果以男軍越墨阪,從後夾急破之,斬其梟帥兄磯城等。

神武天皇,慰將卒之御謠:

持其盾兮行其伍 伊那瑳山草木間
既守伍兮戰其敵 我軍今兮腹且飢
鳥鳥如兮鵜飼部 今持糧兮速來助
持著護盾行進於伊那瑳山的草木之間,一邊防禦著敵方的進攻而一邊與敵人交戰,我軍是以飢餓如此,有如鳥鳥般的鵜飼部民啊,速速帶著糧食來支援我們!

五.與長髓彥的決戰 金鴟飛來

十有二月,癸巳朔丙申,皇師遂擊長髓彥,連戰不能取勝。

時忽然天陰而雨冰,乃有金色靈鴟飛來,止于皇弓之弭。其鴟光晔煜,狀如流電。由是長髓彥軍卒,皆迷眩不復力戰。長髓是邑之本號焉,因亦以為人名。及皇軍之得鴟瑞也,時人仍號鴟邑。今云鳥見,是訛也。

昔孔舍衛之戰,五瀨命中矢而薨。天皇銜之,常懷憤懣。至此役也,意欲窮誅。乃為御謠之曰:

・・・・・ 來目・子等・ 垣本・ 粟生・・ 韭一本
其・・本 其根芽繫・・ 擊・・・止・・

又謠之曰:

・・・・・ 來目・子等・ 垣本・ 植・・山椒
口疼・ 我・忘・・・ 擊・・・止・・

因復縱兵急攻之。凡諸御謠皆曰,來目歌。此的取歌者而名之也。

時長髓彥乃遣行人言於天皇曰:「嘗有天神之子乘天磐船自天降止。號曰,櫛玉饒速日命。饒速日,此云。是娶吾妹-三炊屋媛,亦名,長髓媛,亦名,鳥見屋媛。遂有兒息。名曰,可美真手命。可美真手,此云。故,吾以饒速日命為君而奉焉。夫天神之子,豈有兩種乎?奈何更稱天神子以奪人地乎?吾心推之未必為信。」

天皇曰:「天神子亦多耳。汝所為君,是實天神之子者,必有表物。可相示之!」長髓彥即取饒速日命之天羽羽矢一隻及步鞬,以奉示天皇。天皇覽之曰:「事不虛也。」還以所御天羽羽矢一隻及步鞬賜示於長髓彥。

長髓彥見其天表,益懷踟躕。然而凶器已構,其勢不得中休而猶守迷圖,無復改意。

饒速日命本知天神殷勤唯天孫是與。且見夫長髓彥稟性悞恨,不可教以天人之際。乃殺之,帥



矢先稻荷神社天井畫 金鴟飛來
皇師擊長髓彥而連戰不得勝,時有金色靈鴟飛來,止于皇弓之弭。



鳥見 今奈良市鳥見村富雄町
此地緣鳴長髓彥,及皇軍鳴瑞則號鴟邑。今者,訛稱鳥見。

來目歌:

武勇子兮來目等 牆垣腳兮粟田在
粟田中具臭韭一 連根拔兮除其韭

其眾而歸順焉。

天皇素聞饒速日命是自天降者,而今果立忠效,則褒而寵之.此物部氏之遠祖也.

六.大和的平定

己未年春二月,壬辰朔辛亥,命諸將練士卒.

是時屬富縣波哆丘岬有新城戶畔者;丘岬,此云……又,和珥阪下有居勢祝者;阪下,此云……臍見長柄丘岬有豬祝者.此三處土蜘蛛並恃其勇力,不肯來庭.天皇乃分遣篇屍皆誅之.

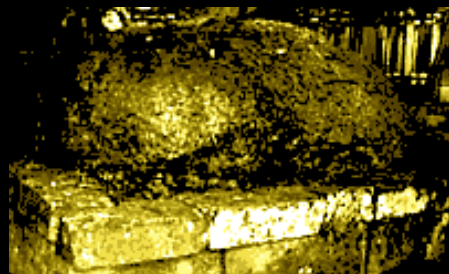
又,高尾張邑有土蜘蛛.其為人也,身短而手足長,與侏儒相類.皇軍結葛網而掩襲殺之.因改號其邑曰-葛城.夫磐余之地,舊名-片居,片居,此云……亦曰-片立.片立,此云……逮我皇師之破虜也,大軍集而於其地.因改號為-磐余.

或曰,天皇往嘗嚴食糧,出軍西征.是時磯城八十梟帥於彼處屯聚居之.屯聚居,此云……果與天皇大戰,遂為皇師所滅.故名之曰-磐余邑.

又,皇師立誥之處,是謂猛田;作城處,號曰-城田.又,賊眾戰死而殭屍,枕臂處呼為-頰枕田.

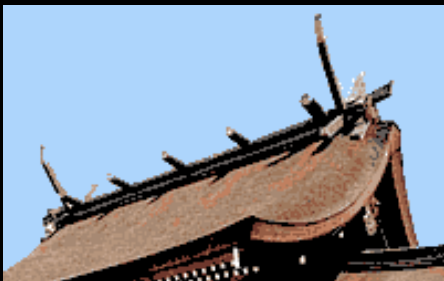
天皇,以前年秋九月潛取天香山之墳土以造八十平瓮,躬自齋戒祭諸神,遂得安定區宇.故號取土之處曰-墳安.

如此狀兮擊汝敵勇敢的來目部年輕人啊!
在牆腳邊有一片粟田,田中長著一株臭韭.就
以將那臭韭連根拔起之勢誅伐敵人吧!
武勇子兮來目等 牆垣腳兮山椒植
椒辣疼口慎勿忘 愜此仇兮擊汝敵
勇敢的來目部年輕人啊!在牆腳邊植有一株
山椒,別忘了被山椒所落之痛,愜記著敵仇而
誅殺敵人吧!



葛城 土蜘蛛塚.

高尾張邑有土蜘蛛,為人身短而手足
長.皇軍結葛網而掩襲殺之,是以該地
遂名葛城.



橿原神宮 搏風

搏風者,乃神社建築中,千木(於屋頂
突出之木)之下合掌形的部分.
然而,下文「峻峙搏風於高天之原」
之搏風者,乃同時指稱千木與搏風之
高聳而言.

七.營造橿原宮

三月,辛酉朔丁卯,下令曰:「自我東征於茲六年矣.賴以皇天之威,凶徒就戮.雖邊土未清,餘妖尚梗,而中洲之地無復風塵.誠宜恢廓皇都,規摹大壯.而今運屬此屯蒙,民心朴素,巢棲穴住,習俗惟常.夫大人立制,義必隨時.苟有利民,何妨聖造.且當披擴山林,經營宮室而恭臨寶位,以鎮元元.上則答乾靈授國之德,下則弘皇孫養正之心.然後兼六合以開都,掩八紘而為宇,不亦可乎!觀夫畝傍山東南橿原地者,畝傍山,此云……蓋國之塽區乎!可治之!」

是月,即命有司經始帝宅.

庚申年秋八月,癸丑朔戊辰,天皇當立正妃,改廣求華胄.

時有人奏之曰:「事代主神共三島溝檝神之女-玉櫛媛所生兒,號曰-媛蹈備五十鈴媛命.是國色之秀者.」天皇悅之.

九月,壬午朔乙巳,納媛蹈備五十鈴媛命以為正妃.

八.即位與立后

辛酉年春正月,庚辰朔,天皇即帝位於橿原宮.

是歲為天皇元年,尊正妃為皇后.

生皇子,神八井命、神渟名川耳尊.

故,古語稱之曰:「於畝傍之橿原也,太立宮柱於底磐之根,峻峙搏風於高天之原而始馭天下之天皇,號曰-神日本磐余彥火火出見天皇焉!」

初天皇草創天基之日也,大伴氏之遠祖-道臣命帥大來目部,奉承密策,能以諷歌、倒語,掃蕩妖氣.倒語之用,始起乎茲.

二年春二月,甲辰朔乙巳,天皇定功行賞.

賜道臣命宅地,居于築阪邑,以寵異之.

亦使大來目居于畝傍山以西川邊之地.今號-來目邑,此其緣也.

以珍彥為倭國造.珍彥,此云……

又給弟猾猛田邑,因為-猛田縣主.是菟田主水部遠祖也.

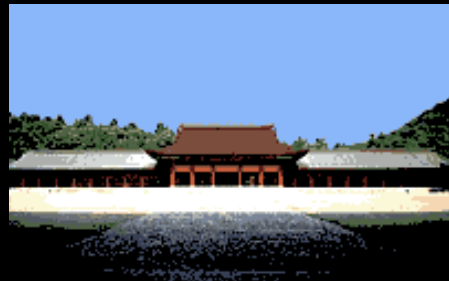
弟磯城,名-黑速,為-磯城縣主.

復以劍根者為-葛城國造.

又,頭八咫烏亦入賞例,其苗裔即-葛野主殿縣主部是也.

四年春二月,壬戌朔甲申,詔曰:「我皇祖之靈也,自天降鑑,光助朕躬.今,諸虜已平,海內無事.可以郊祀天神,用申大孝者也!」乃立靈時於鳥見山中,其地號曰-上小野榛原、下小野榛原,用祭皇祖天神焉.

三十有一年夏四月,乙酉朔,皇輿巡幸.



橿原神宮
奈良畝傍山橿原神宮,傳為神武天皇
(神日本磐余彥尊)橿原宮跡地.

因登腋上嘽間丘而迴望國狀曰:「妍哉乎國之獲矣!妍哉,此云・・・・雖內木綿之真迺國,猶如蜻蛉之聲帖焉!」猶是始有秋津洲之號也。

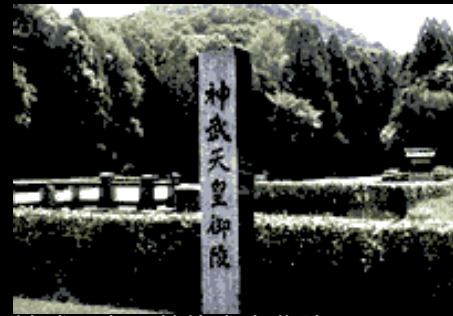
昔,伊奘諾尊目此國曰:「日本者,浦安國,細戈千足國,磯輪上秀真國!秀真國,此云・・・・。」復,大己貴大神目之曰:「玉牆內國!」

及至,饒速日命乘天磐船而翔行大虛也,睨是鄉而降之.故,因目之曰:「虛空見日本國矣.」

四十有二年春正月,壬子朔甲寅,立皇子-神渟名川耳尊為皇太子.

七十有六年春三月,甲午朔甲辰,天皇崩于橿原宮.時年一百二十七歲.

明年秋九月,乙卯朔丙寅,葬-畝傍山東北陵.



神武天皇 畝傍山東北陵

日本書紀卷第三 終

[\[久遠・絆\]](#) [\[卷第二\]](#) [\[卷第四\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷第四 欠史八代紀

[綏靖] [安寧] [懿德] [孝昭] [孝安] [孝靈] [孝元] [開化]

神渟名川耳天皇 綏靖天皇

一.神渟名川耳天皇 綏靖天皇

神渟名川耳天皇,神日本磐余彥天皇第三子也.母曰-媛蹈備五十鈴媛命,事代主神之大女也.天皇風姿岐嶷,少有雄拔之氣.及壯容貌魁偉,武藝過人而志向沈毅.

至四十八歲,神日本磐余彥天皇崩.時神渟名川耳尊孝性純深,悲慕無已.特留心於喪葬之事焉.其庶兄手研耳命行年已長,久歷朝機.故亦委事而親之.

然,其王立操屠懷,本乖仁義,遂以諒闇之際,威福自由.苞藏禍心,圖害二弟.于時也,太歲己卯.冬十一月,神渟名川耳尊與兄-神八井耳命陰知其志而善防之.至於山陵事畢,乃使弓部-稚彥,造弓;倭鍛部-天津真浦,造真麿鏃;矢部,作箭.

及弓矢既成,神渟名川耳尊欲以射殺手研耳命.會有手研耳命於片丘大窖中,獨臥于大床.時神渟名川耳尊謂神八井耳命曰:「今適其時也!夫,言貴密,事宜慎.故,我之陰謀,本無預者.今日之事,唯吾與爾自行之耳.吾當先開窖戶,爾其射之!」因相隨進入,神渟名川耳尊突開其戶.神八井耳命則手腳戰慄,不能放矢.

時神渟名川耳尊,掣取其兄所持弓矢而射手研耳命.一發中胸,再發中背,遂殺之.

於是神八井耳命慙然自服,讓於神渟名川耳尊曰:「吾是乃兄而懦弱不能致果.今汝特挺神武,自誅元惡.宜哉乎!汝之光臨天位以承皇祖之業.吾當為汝輔之,奉典神祇者.」是即多臣之始祖也.

元年春正月,壬申朔己卯,神渟名川耳尊即天皇位.都葛城,是謂高丘宮.

尊皇后曰-皇太后.是年也,太歲庚辰.

二年春正月,立五十鈴依媛為皇后,一書云,磯城縣主女-川派媛;一書云,春日縣主大日諸女-絲織媛也.即天皇之姨也.

后生,磯城津彥玉手看天皇.

四年夏四月,神八井耳命薨.即葬于畝傍山北.

二十五年春正月,壬午朔戊子,立皇子磯城津彥玉手看尊為皇太子.

三十三年夏五月,天皇不豫.

癸酉,崩.時年八十四.



片丘

神渟名川耳尊射殺手研耳命於片丘大窖中.今奈良縣北葛城郡王寺町.



葛城高丘宮跡

綏靖天皇都葛城,是謂高丘宮.



畝傍山

神八井耳命薨.即葬于畝傍山北.

磯城津彥玉手看天皇 安寧天皇



神渟名川耳天皇,桃花鳥田丘上陵.

一.磯城津彥玉手看天皇 安寧天皇

磯城津彥玉手看天皇,神渟名川耳天皇太子也.母曰-五十鈴依媛命,事代主神之少女也.天皇以神渟名川耳天皇二十五年,立為皇太子.年二十一.

三十三年夏五月,神渟名川耳天皇崩.

其年七月,癸亥朔乙丑,太子即天皇位.

元年冬十月,丙戌朔丙申,葬神渟名川耳天皇於倭桃花鳥田丘上陵.

尊皇后曰-皇太后.是年也,太歲癸丑.

二年,遷都於片鹽,是謂浮孔宮.

三年春正月,戊寅朔壬午,立渟名底仲媛命,亦曰,渟名襲媛.為皇后.一書云,磯城縣主葉江女-川津媛;一書云,大間宿禰女-絲井媛.先,是后生二皇子.



石園座多久虫玉神社 亦,龍王宮.
傳為安寧天皇片鹽浮孔宮跡地.

第一曰,息石耳命.

第二曰,大日本彥耜友天皇.一云,生三皇子:第一曰-常津彥某兄,第二曰-大日本彥耜友天皇,第三曰-磯城津彥命.

十一年春正月,壬戌朔,立大日本彥耜友尊為皇太子也.

弟-津城津彥命,是豬使連之始祖也.

三十八年冬十二月,庚戌朔乙卯,天皇崩.時年五十七.

大日本彥耜友天皇 懿德天皇

一.大日本彥耜友天皇 懿德天皇

大日本彥耜友天皇,磯城津彥玉手看天皇第二子也.母曰-淳名底仲媛命,事代主神孫-鴨王女也.

磯城津彥玉手看天皇十一年春正月,壬戌,立為皇太子.年十六.

三十八年冬十二月,磯城津彥玉手看天皇崩.

元年春二月,己酉朔壬子,皇太子即天皇位.

秋八月,丙午朔,葬磯城津彥玉手看天皇於畝傍山南御陰井上陵.

九月,丙子朔乙丑,尊皇后曰-皇太后.是年也,太歲辛卯.

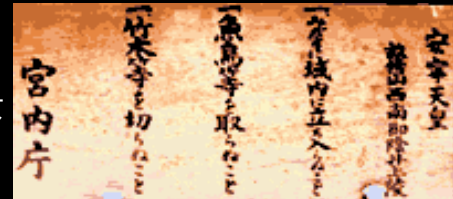
二年春正月,甲戌朔戊寅,遷都於輕地,是謂曲峽宮.

二月,癸卯朔癸丑,立天豐津媛命為皇后.一云,磯城縣主葉江男弟-豬手女-泉媛;一云,磯城縣主太真稚彥女-飯日媛也.

后生,觀松彥香殖稻天皇.一云,天皇母弟-武石彥奇友背命.

二十二年春二月,丁未朔戊午,立觀松彥香殖稻尊為皇太子.年十八.

三十四年秋九月,甲子朔辛未,天皇崩.

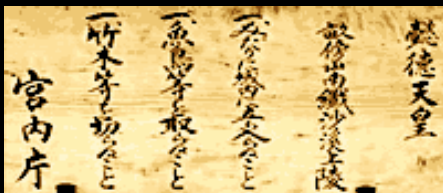


安寧天皇 畝傍山西南御陰井上陵



牟佐坐神社
有傳為懿德天皇輕之曲峽宮跡地.
一般視作孝元天皇輕之境原宮跡地.

觀松彥香殖稻天皇 孝昭天皇



懿德天皇 畝傍山南纖沙谿上陵

一.觀松彥香殖稻天皇 孝昭天皇

觀松彥香殖稻天皇,大日本彥耜友天皇太子也.母皇后-天豐津媛命,息石耳命之女也.

天皇以大日本彥耜友天皇二十二年春二月,丁未朔戊午,立為皇太子.

三十四年秋九月,大日本彥耜友天皇崩.

明年冬十月,戊午朔庚午,葬大日本彥耜友天皇於畝傍山南纖沙谿上陵.

元年春正月,丙戌朔甲午,皇太子即天皇位.

夏四月,乙卯朔己位,尊皇后曰-皇太后.

秋七月,遷都於掖上,是謂池心宮.

二十九年春正月,甲辰朔丙午,立世襲足媛為皇后.一云,磯城縣主葉江女-淳名城津媛;一云,倭國豐秋狹太媛女-大井媛也.

后生,天足彥國押人命、日本足彥國押人天皇.

六十八年春正月,丁亥朔庚子,立日本足彥國押人尊為皇太子.年二十.

天足彥國押人命,此和珥臣等始祖也.

八十三年秋八月,丁巳朔辛酉,天皇崩.



掖上
孝昭天皇遷都掖上池心宮.

日本足彥國押人天皇 孝安天皇

一.日本足彥國押人天皇 孝安天皇

日本足彥國押人天皇,觀松彥香殖稻天皇第二子也.母曰-世襲足媛,尾張連遠祖-瀛津世襲之妹也.

天皇以觀松彥香殖稻天皇六十八年春正月,立為皇太子.

八十三年秋八月,觀松彥香殖稻天皇崩.

元年春正月,乙酉朔辛亥,皇太子即天皇位.

秋八月,辛巳朔,尊皇后曰-皇太后.是年也,太歲己丑.

二年冬十月,遷都於室地,是謂秋津島宮.

二十六年春二月,乙丑朔壬寅,立姪-押媛為皇后.一云,磯城縣主葉江女-長媛;一云,十市縣主五十阪彥女-五十阪媛也.

后生,大日本根子彥太瓊天皇.

三十八年秋八月,丙子朔己丑,葬觀松彥香殖稻天皇于掖上博多山上陵.

七十六年春正月,己巳朔癸酉,立大日本根子彥太瓊尊為皇太子.年二十六.

百二年春正月,戊戌朔丙午,天皇崩.

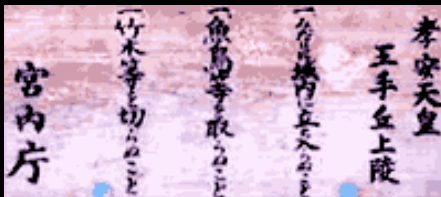


宮山古墳 孝安天皇室秋津島宮跡碑



卅八年,孝昭天皇葬掖上博多山上陵

大日本根子彥太瓊天皇 孝靈天皇



孝安天皇 玉手丘上陵

孝安天皇百二年秋九月,日本足彥國押人天皇,葬于玉手丘上陵也.



孝靈神社 亦名,廬戶神社

傳為孝靈天皇黑田廬戶宮跡.

一.大日本根子彥太瓊天皇 孝靈天皇

大日本根子彥太瓊天皇,日本足彥國押人天皇太子也.母曰-押媛,蓋天足彥國押人命之女乎.天皇以日本足彥國押人天皇七十六年春正月,立為皇太子.

百二年春正月,日本足彥國押人天皇崩.

秋九月,甲午朔丙午,葬日本足彥國押人天皇于玉手丘上陵.

冬十二月,癸亥朔丙寅,皇太子遷都於黑田,是謂廬戶宮.

元年春正月,壬辰朔癸卯,太子即天皇位.

尊皇后曰-皇太后.是年也,太歲辛未.

二年春二月,丙辰朔丙寅,立細媛命為皇后.一云,春日千乳早山香媛;一云,十市縣主等祖-真舌媛也.

后生,大日本根子彥國牽天皇.

妃-倭國香媛,亦名,緩某姊.

生,倭跡跡日百襲姬命、彥五十狹芹彥命.亦名,吉備津彥命、倭跡跡稚屋姬命.

亦,妃-緩某弟.

生,彥狹島命、稚五彥命.

弟,稚五彥命,是吉備臣之始祖也.

三十六年春正月,己亥朔,立彥國牽尊為皇太子.

七十六年春二月,丙午朔癸丑,天皇崩.

大日本根子彥國牽天皇 孝元天皇

一.大日本根子彥國牽天皇 孝元天皇

大日本根子彥國牽天皇,大日本根子彥太瓊天皇太子也.母曰-細媛命,磯城縣主大目之女也.天皇以大日本根子彥太瓊天皇三十六年春正月,立為皇太子.年十九.

七十六年春二月,大日本根子彥太瓊天皇崩.

元年春正月,辛未朔甲申,太子即天皇位.

尊皇后曰-皇太后.是年也,太歲丁亥.

四年春三月,甲申朔甲午,遷都於輕地,是謂境原宮.

六年秋九月,戊戌朔癸卯,葬大日本根子彥太瓊天皇于片丘馬阪陵.

七年春二月,丙寅朔丁卯,立鬱色謎命為皇后.后生二男一女.

第一曰,大彥命.

第二曰,稚日本根子彥大日日天皇.

第三曰,倭跡跡姬命.一云,天皇母弟-少彥男辛命也.

妃-伊香色謎命.

生,彥太忍信命.

次妃-河內青玉繫女埴安媛.

生,武埴安彥命.

兄-大彥命,是阿倍臣、膳臣、阿閉臣、狹狹城山君、筑紫國造、越國造、伊賀臣,凡七族之始祖也.

彥太忍信命,是武內宿禰之祖父也.

二十二年春正月,己巳朔壬午,立稚日本根子彥大日日尊為皇太子.年十六.

五十七年秋九月,壬申朔癸酉,大日本根子彥國牽天皇崩.



孝靈天皇 片丘馬阪陵

孝元天皇六年,葬大日本根子彥太瓊(孝靈)天皇於片丘馬阪陵.



牟佐坐神社

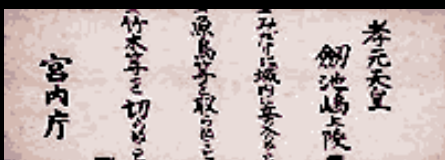
據傳是為大日本根子彥國牽(孝元)天皇輕地境原宮之跡地也.

稚日本根子彥大日日天皇 開化天皇

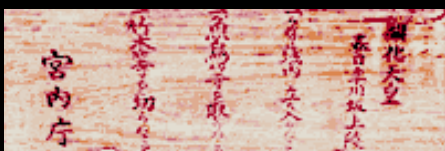


率川神社

春日率川宮位於此社附近.



大日本根子彥國牽天皇 劍池島上陵



開化天皇 春日率川阪本陵

一.稚日本根子彥大日日天皇 開化天皇

稚日本根子彥大日日天皇,大日本根子彥國牽天皇第二子也.母曰-鬱色謎命,穗積臣遠祖-鬱色雄命妹也.

天皇以大日本根子彥國牽天皇二十二年春正月,立為皇太子.年十六.

五十七年秋九月,大日本根子彥國牽天皇崩.

冬十一月,辛未朔壬午,太子即天皇位.

元年春正月,庚午朔癸酉,尊皇后曰-皇太后.

冬十月,丙申朔戊申,遷都于春日之地,春日,此云...是謂率川宮.率川,此云...是年也,太歲甲申.

五年春二月,丁未朔壬子,葬大日本根子彥國牽天皇于劍池島上陵.

六年春正月,辛丑朔甲寅,立伊香色謎命為皇后.是庶母也.

后生,御間城入彥五十瓊殖天皇.

先是天皇納丹波竹野媛為妃.

生,產湯產隅命.亦名,彥蔭實命.

次,妃和珥臣遠祖-姥津命之妹-姥津媛.

生,彥坐王.

二十八年春正月,癸巳朔丁酉,立御間城入彥尊為皇太子.年十九.

六十年夏四月,丙辰朔甲子,天皇崩.

冬十月,癸丑朔乙卯,葬于春日率川阪本陵.一云,阪上陵.時年百十五.

日本書紀卷第四 終

[\[久遠・絆\]](#) [\[卷第三\]](#) [\[卷第五\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷第五 崇神紀

御間城入彥五十瓊殖天皇 崇神天皇



崇神天皇磯城瑞籬宮址

崇神者,史實可考之最初天皇.因神武紀諡神武「始馭天下之天皇」,音同崇神之諡「御肇國天皇」

(.....),故有神武即崇神之說.

一.即位與遷都

御間城入彥五十瓊殖天皇,稚日本根子彥大日日天皇第二子也.母曰-伊香色謎命,物部氏遠祖-大綜麻杵之女也.

天皇年十九歲,立為皇太子.識性聰敏,幼好雄略.既壯,寬博謹慎,崇重神祇,恒有經綸天業之心焉.

六十年夏四月,稚日本根子彥大日日天皇崩.

元年春正月,壬午朔甲午,皇太子即天皇位.尊皇后曰-皇太后.

二月,辛亥朔丙寅,立-御間城姬為皇后.

先是,后生-活目入彥五十狹茅天皇、彥五十狹茅命、國方姬命、千千衝倭姬命、倭彥命、五十日鶴彥命.

又妃,紀伊國荒河戶畔女-遠津年魚眼眼妙媛.一云,大海宿禰女-八阪振天某邊.

生,豐城入彥命、豐鍬入姬命.

次妃,尾張大海媛.

生,八阪入彥命、淳名城入姬命、十市瓊入姬命.是年也,太歲甲申.

三年秋九月,遷都於磯城.是謂-瑞籬宮.

四年冬十月,庚申朔壬午,詔曰:「惟,我皇祖諸天皇等光臨宸極者,豈為一身乎?蓋所以司牧人神,經綸天下,故能世闡玄功,時流至德.今,朕奉承大運,愛育黎元,何當聿遵皇祖之跡,永保無窮之祚?其群卿百僚竭爾忠貞,共安天下,不亦可乎!」

二.疾疫的流行與敬神祭祀

五年,國內多疾疫,民有死亡者,且大半矣.

六年,百姓流離,或有背叛.其勢難以德治之.是以晨興夕惕,請罪神祇.

先是天照大神、倭大國魂二神並祭於天皇大殿之內.然畏其神勢,共住不安.

故以天照大神託豐鍬入姬命,祭於倭笠縫邑,仍立磯堅城神籬.神籬,此云.....

亦以日本大國魂神託淳名城入姬命,令祭.然,淳名城入姬髮落体瘦而不能祭.

七年春二月,丁丑朔辛卯,詔曰:「昔我皇祖大啟鴻基,其後聖業逾高,王風轉盛.不意,今當朕世,數有災害.恐朝無善政,取咎於神祇耶?蓋命神龜以極致災之所由也!」

於是,天皇乃幸于神淺茅原而會八十万神以卜問之.

是時神明憑倭跡跡日百襲姬命曰:「天皇何憂國不治也?若能敬祭我者,必當自平安!」

天皇問曰:「教如此者誰神也?」答曰:「我是倭國域內所居神,名為大物主神.」

時得神語隨教祭祀,然猶於事無驗.天皇乃沐浴齋戒,潔淨殿內而祈之曰:「朕禮神尚未盡耶?何不享之甚也?冀亦夢裏教之,以畢神恩!」

是夜,夢有一貴人,對立戶殿,自稱大物主神曰:「天皇勿復為愁.國之不治,是吾意也.若以吾兒-大田田根子令祭吾者,則立平矣.亦有海外之國,自當歸伏.」

秋八月,癸卯朔己酉,倭跡速神淺茅原日妙姬、穗姬臣遠祖-大水口宿禰、伊勢麻績君三人共同夢而奏言:「昨夜夢之有一貴人,誨曰:『以大田田根子命為祭大物主神之主,亦以市磯長尾市為祭倭大國魂神主,必天下太平矣!』」

天皇得夢辭,益歡於心,布告天下求大田田根子,即於茅渟縣陶邑得大田田根子而貢之.

天皇即親臨于神淺茅原,會諸王卿及八十郡部而問大田田根子曰:「汝其誰子?」對曰:「父曰-大物主大神,母曰-活玉依媛,陶津耳之女.亦云,奇日方天日方五茅渟祇之女也.」

天皇曰:「朕當榮樂.」乃卜使物部連祖-伊香色雄,為神班物者,吉之.又卜便祭他神,不吉.

十一月,丁卯朔己卯,命伊香色雄,而以物部八十手所作祭神之物,即以大田田根子為祭大物主大神之主,又以長尾市為祭倭大國魂神之主.

然後卜祭他神,吉焉.便別祭八十万群神,仍定天社、國社及神地、神戶.



命神龜

爾雅云:「龜有十種:一神,最神明故.」後漢書孔安國注云:「言天與禹,洛出書,神龜負文(即言洛書).」

亦,傳其神龜能行託夢之事.

命神龜者,乃將欲占之始末言於神龜,神龜則將事之凶吉顯兆於背.似與於焚骨得兆以占之龜卜不同.

於是疫病始息,國內漸謐,五穀既成,百姓饒之。
八年夏四月,庚子朔乙卯,以高橋邑人-活日為大神之掌酒。掌酒,此云。。。。。
冬十二月,丙申朔乙卯,天皇以大田田根子令祭大神。
是日,活日自舉神酒,獻天皇,仍歌之曰:

此・神酒・ 我・神酒。。 倭。。 大物主・ 釀。。神酒 幾久 幾久

如此歌之宴于神宮。
即宴竟之,諸大夫等歌之曰:

味酒 三輪・殿・ 朝門。。 出。。行。。 三輪・殿門・

於茲天皇歌之曰:

味酒 三輪・殿・ 朝門。。 押・開。。 三輪・殿門・

即開神宮門而幸行之。所謂大田田根子,今三輪君等之始祖也。
九年春三月,甲子朔戊寅,天皇夢有神人,誨之曰:「以赤盾八枚、赤矛八竿,祠墨阪神;亦以黑盾八枚、黑矛八竿,祠大阪神。」
四月,甲午朔己酉,依夢之教,祭墨阪神、大阪神。



神籬
於[木神]上繫上鏡,紙垂及麻等而成,
作為神降之依代而為神社之原型。

崇神天皇三輪歌宴之歌

此神酒兮非我釀 其造倭兮大物主
此神酒兮其神釀
幾世經兮榮不換 幾世經兮榮不換
此神酒並非我所釀造的,而是創造倭國的大物主神所釀。無論過了千秋萬世皆無損其味,無論過了千秋萬世皆無損其味!
此杜康兮美酒矣 三輪殿兮徹夜飲
朝開戶時欲出行 開其三輪殿之門
真是美酒啊,在三輪殿中徹夜著喝著美酒,希望明早開門的時間可以出去,敞開那三輪殿之門。
此杜康兮美酒矣 三輪殿兮徹夜飲
朝戶時兮推之可 開其三輪殿之門
真是美酒啊,在三輪殿中徹夜著喝著美酒,明朝開門之際,你們可以去推開那三輪殿之門。



和珥阪下傳承地
大彥命到和珥阪。時有女,歌諭天皇。

童女歌:

嗟乎御間城入彥 己之命兮將遭弑
竊不知此遊於女
御間城入彥啊,你居然不知道自己將遭人弑殺而仍舊語女孩遊玩!
自門前兮隙窺探 不知命危遊於女
從堂堂大門的縫隙窺探之,你不知道有人要殺你而在與女孩遊樂。

三.四道將軍與五埴安彥的反叛,三輪山的傳說

十年秋七月,丙戌朔己酉,詔群卿曰:「導民之本,在於教化也。今既禮神祇,災害皆耗。然,遠荒人等猶不受正朔,是未習王化耳。其選群卿遣于四方,令知朕憲!」
九月,丙戌朔甲午,以大彥命遣北陸;武渟川別遣東海;吉備津彥遣西道;丹波道主命遣丹波。
因以詔之曰:「若有不受教者,乃舉兵伐之!」既而共授印綬為將軍。
壬子,大彥命到於和珥阪上。時有少女,歌之曰:一云,大彥命到山背平阪。時道側有童女,歌之曰:

御間城入彥。。 己・命・ 弑。。 竊。。知。。 姬遊。。。
一云:大・門。。 窺。。 殺。。。。。。知。。 姬遊。。。

於是大彥命異之,問童女曰:「汝言何辭?」對曰:「勿言也,唯歌耳。」乃重詠先歌,忽不見矣。
大彥命乃還而具以狀奏。於是天皇姑-倭跡跡日百襲姬命聰明叡智,能識未然。乃知其歌怪,言于天皇:「是武埴安彥將謀反之表者也!吾聞,武埴安彥之妻-吾田媛密來之,取倭香山土,裹領巾頭而祈曰:『是倭國之物實!物實,此云。。。。』則反之。是以知有事焉。非早圖,必後之。」
於是,更留諸將軍而議之。未幾時,武埴安彥與妻-吾田媛謀反逆,興師忽至。各分道而夫從山背,婦從大阪共入,欲襲帝京。
時天皇遣五十狹芹彥命擊吾田媛之師。即遮於大阪,皆大破之,殺吾田媛,悉斬其軍。
復遣大彥與和珥臣遠祖-彥國菴向山背擊埴安彥。爰以忌瓮,鎮坐於和珥武鏢阪上,則率精兵,進登那羅山而軍之。
時官軍屯聚而謫距草木,因以號其山曰-那羅山。謫距,此云。。。。。



箸墓古墳

倭跡跡日百襲姬命悔之急居,撞陰而薨.乃葬於大市.時人稱箸墓古墳,傳此墳者,日也人作,夜也神作.尚,倭跡跡日百襲姬命即卑彌呼之說,有之.

大阪山石運之歌

大阪山兮相繼登 群石手持遞傳之
石遞傳兮可遂乎

人人並肩接踵的登上大阪山,將眾多的石頭手接手的傳遞下去,應該可以就這樣傳下去吧?

四.課役,御肇國天皇之稱號,嗣子決定

十二年春三月,丁丑朔丁亥,詔:「朕,初承天位,獲保宗廟,明有所蔽,德不能綏,是以陰陽謬錯,寒暑失序,疫病多起,百姓蒙災,然今解罪改過,敦禮神祇,亦垂教而綏荒俗,舉兵以討不服,是以官無廢事,下無逸民,教化流行,眾庶樂業.異俗重譯來,海外既歸化.宜當此時,更校人民,令知長幼之次第及課役之先後焉!」

秋九月,甲戌朔己丑,始校人民,更科調役.此謂,男之弭調,女之手末調也.

是以天神地祇共和享,而風雨順時,百穀用成,家給人足,天下大平矣.故稱謂-御肇國天皇也.

十七年秋七月,丙午朔,詔曰:「船者,天下之要用也.今海邊之民由無船,以甚苦步運.其令諸國,俾造船舶!」

冬十月,始造船舶.

四十八年春正月,己卯朔戊子,天皇敕豐城命、活目尊曰:「汝等二子慈愛共齊,不知,曷為嗣.各宜夢,朕以夢占之.」

二皇子於是被命,淨沐而祈寐,各得夢也.

會明,兄-豐城命以夢辭奏于天皇曰:「自登御諸山向東,而八迴弄槍八迴擊刀.」

弟-活目尊以夢辭奏言:「自登御諸山之嶺,繩緩四方,逐食粟雀.」

則天皇相夢,謂二子曰:「兄則一片向東,當治東國;弟是悉臨四方,宜繼朕位!」

四月,戊申朔丙寅,立活目尊為皇太子.

以豐城命,令治東.是上毛野君、下毛野君之始祖也.

更避那羅山而進,到輪韓河,與埴安彥挾河屯之,各相挑焉.故時人改號其河曰-挑河,今謂-泉河,訛也.

埴安彥望之,問彥國菴曰:「何由矣,汝興師來耶?」對曰:「汝逆天無道,欲傾王室.故舉義兵,欲討汝逆,是天皇之命也!」於是各爭先射.

武埴安彥先射彥國菴,不得中.後彥國菴射埴安彥,中胸而殺焉.

其軍眾脅退,則追破於河北而斬首過半,屍骨多溢.故號其處曰-羽振苑.

亦其卒怖走,屎漏於禪,乃脫甲而逃之.知不得免,叩頭曰:「我君!」故時人號其脫甲處曰-伽和羅;禪屎處曰-屎禪,今謂-樟葉,訛也;又號叩頭處曰-我君,叩頭,此云・・・

是後,倭跡跡日百襲姬命為大物主神之妻,然其神常晝不見而夜來矣.

倭跡跡姬命,語夫曰:「君常晝不見者,分明不得視其尊嚴.願暫留之,明旦仰欲觀美麗之威儀.」大神對曰:「言理灼然.吾明旦入汝櫛笥而居,願無驚吾形.」

爰倭跡跡姬命,心裏密異之,待明以見櫛笥,遂有美麗小蛇,其長如大衣紐,則驚之叫啼.

時大神有恥,忽化人形,謂其妻曰:「汝不忍,令羞吾.今吾還令羞汝!」仍踐大虛登于御諸山.

爰倭跡跡姬命仰見而悔之急居,急居,此云・・・則箸撞陰而薨.乃葬於大市.故時人號其墓謂-箸墓也.是墓者,日也人作,夜也神作.故運大阪山石而造.則自山至于墓,人民相踵以手遞傳而運焉.時人歌之曰:

大阪・ 繼・登・・ 石群・ 手遞傳・越・・ 越・・・・・

冬十月,乙卯朔,詔群臣曰:「今反者悉伏誅,畿內無事.唯海外荒俗,騷動未止.其四道將軍等今忽發之!」

丙子,將軍等共發路.

十一年夏四月,壬子朔己卯,四道將軍以平戎夷之狀奏焉.

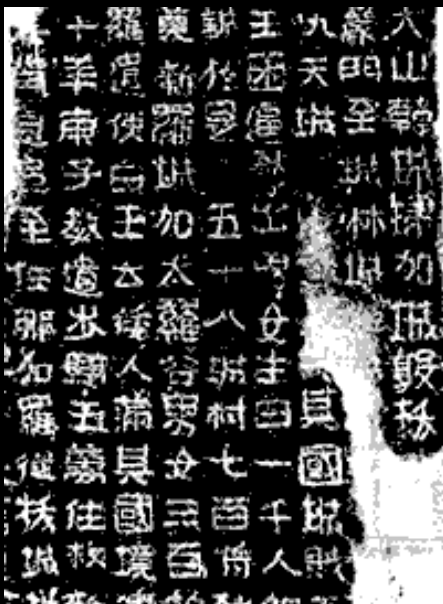
是歲,異俗多歸,國內安寧.

十一年夏四月壬子朔己卯四道將軍以平戎夷之狀奏
異俗多歸國內安寧
十二年春三月丁丑朔丁亥詔朕初承天位獲保宗廟明有所蔽德不能綏是以陰陽謬錯寒暑失序疫病多起百姓蒙災然今解罪改過敦禮神祇亦垂教而綏荒俗舉兵以討不服是以官無廢事下無逸民教化流行眾庶樂業異俗重譯來海外既歸化宜當此時更校人民令知長幼之次第及課役之先後焉
秋九月甲戌朔己丑始校人民更科調役此謂男之弭調女之手末調也
是以天神地祇共和享而風雨順時百穀用成家給人足天下大平矣故稱謂御肇國天皇也
十七年秋七月丙午朔詔曰船者天下之要用也今海邊之民由無船以甚苦步運其令諸國俾造船舶
冬十月始造船舶
四十八年春正月己卯朔戊子天皇敕豐城命活目尊曰汝等二子慈愛共齊不知曷為嗣各宜夢朕以夢占之
二皇子於是被命淨沐而祈寐各得夢也
會明兄豐城命以夢辭奏于天皇曰自登御諸山向東而八迴弄槍八迴擊刀
弟活目尊以夢辭奏言自登御諸山之嶺繩緩四方逐食粟雀
則天皇相夢謂二子曰兄則一片向東當治東國弟是悉臨四方宜繼朕位
四月戊申朔丙寅立活目尊為皇太子
以豐城命令治東是上毛野君下毛野君之始祖也



菱，龍膽科多年生水生植物，或書作「淺沙」，中文名為「杏菜」。

八雲立兮出雲武 佩刀華兮黑葛卷
然無刀身此太刀
八雲叢出之出雲之地的武勇之人啊，你那纏有黑葛的配刀是如此的氣派，但是其中卻沒有刀身，那把刀啊！



廣開土王碑(好太王碑)拓本
該碑為世界現存記載「任那」之最早史料。(見最後一行)

五.出雲神寶之獻上,造池勸農與任那朝貢

六十年秋七月,丙申朔己酉,詔群臣曰:「武日照命,一云,武夷鳥.又云,天夷鳥.從天將來神寶,藏于出雲大神宮.是欲見焉。」則遣矢田部造遠祖-武諸隅,一書云,一名-大母隅也.而使現.

當是時,出雲臣之遠祖-出雲振根,主于神寶.是往筑紫國而不遇矣.

其弟-飯入根,則被皇命,以神寶付弟-甘美韓日狹與子-鸕瀦淳而貢上.

既而出雲振根從筑紫還來之,聞神寶獻于朝廷,責其弟飯入根曰:「數日當待.何恐之乎,輕取神寶!」

是以既經年月,猶懷恨忿,有殺弟之志.仍欺弟曰:「頃者於止屋淵多生菱,願共行欲見。」則隨兄往之.

先是,兄竊作木刀,形似真刀.當時自配之,弟配真刀.

共到淵頭,兄謂弟曰:「淵水清冷,願欲共游泳。」弟從兄言,各解配刀,置淵邊,沐於水中.

乃兄先上陸,取弟真刀自佩.後弟驚而取兄木刀,共相擊矣.弟不得拔木刀,兄擊弟飯入根而殺之.故時人歌之曰:

八雲立・ 出雲武・ 佩・・太刀 黑葛多卷・ ・身無・・ ・・・

於是甘美韓日狹、鸕瀦淳參向朝廷,曲奏其狀.則遣吉備津彥與武渟河別,以誅出雲振根.故,出雲臣等畏是事,不祭大神而有間.

時丹波冰上人,名-冰香戶邊,啟於皇太子活目尊曰:「己子有小兒,而自然言之:『玉菱鎮石.出雲人祭,真種之甘美鏡.押羽振,甘美御神,底寶玉寶主.山河之水泳御魂,靜挂甘美御神,底寶玉寶主也.菱,此云・.』是非似小兒之言,若有託言乎.」

於是皇太子奏于天皇,則敕之使祭.

六十二年秋七月,乙卯朔丙辰,詔曰:「農,天下之大本也,民所恃以生也.今河內狹山埴田水少,是以其國百姓怠於農事.其多開池、溝以寬民業!」

冬十月,造-依網池.

十一月,作刈阪池、反折池.一云,天皇居桑間宮,造是三池也.

六十五年秋七月,任那國遣蘇那曷叱知,令朝貢也.

任那者,去筑紫國二千餘禮,北阻海以在雞林之西南.

天皇踐祚六十八年冬十二月,戊申朔壬子,崩.時年百二十歲.

明年秋八月,甲辰朔甲寅,葬于山邊道上陵.

日本書紀卷第五 終

[\[久遠・絆\]](#) [\[卷第四\]](#) [\[卷第六\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷第六 垂仁紀

活目入彥五十狹茅天皇 垂仁天皇

一.誕生與即位

活目入彥五十狹茅天皇,御間城入彥五十瓊殖天皇第三子也.母皇后曰-御間城姬,大彥命之女也.

天皇以御間城天皇二十九年歲次壬子春正月,己亥朔,生於瑞籬宮.生而有岐嶷之姿.及壯,倜儻大度,率性任真,無所矯飾.天皇愛之,引置左右.二十四歲,因夢祥以立為皇太子.

六十八年冬十二月,御間城入彥五十瓊殖天皇崩.

元年春正月,丁丑朔戊寅,皇太子即天皇位.

冬十月,癸卯朔癸丑,葬御間城天皇於山邊道上陵.

十一月,壬申朔癸酉,尊皇后曰-皇太后.是年也,太歲壬辰.

二年春二月,辛未朔己卯,立狹穗姬為皇后.

后生,譽津別命.生而天皇愛之,常在左右,及壯而不言.

冬十月,更都於纏向,是謂-珠城宮也.



崇神天皇山邊道上陵



垂仁天皇珠城宮跡碑.

二.任那與新羅的抗爭

是歲,任那人蘇那曷叱智請之,欲歸于國.蓋先皇之世來朝還歟.

故敦賞蘇那曷叱智,仍齎赤絹一百匹賜任那王.然新羅人遮之於道而奪焉.其二國之怨,始起於是時也.

一云,御間城天皇之世,額有角人,乘一船泊于越國笥飯浦.故好其處曰-角鹿也.

問之曰:「何國人也?」對曰:「意富加羅國之王子,名-都怒我阿羅斯等,亦名曰-于斯岐阿利叱智干岐.傳聞日本國有聖皇,以歸化之.到于穴門時,其國有人,名-伊都都比古,謂臣曰:『吾則是國王也.除吾復無二王,故勿往他處.』然臣究見其為人,必知非王也,即更還之.不知道路,留連島浦,自北海迴之,經出雲國至於此間也.」

是時遇天皇崩,便留之仕活目天皇逮于三年.天皇問都怒我阿羅斯等曰:「欲歸汝國耶?」對諮:「甚望也.」天皇詔阿羅斯等曰:「汝不迷道必速詣之,遇先皇而仕歟.是以改汝本國名,追負御間城天皇御名,便為汝國名!」仍以赤織絹給阿羅斯等,返于本土.故號其國謂-彌摩那國,其是之緣也.

於是,阿羅斯等以所給赤絹,藏于己國郡府.新羅人聞之,起兵至之,皆奪其赤絹,是二國相怨之始也.

一云,初都怒我阿羅斯等有國之時,黃牛負田器將往田舍.黃牛忽失,則循跡覓之,跡留一郡家中.

時有一老夫曰:「汝所求牛者入於此郡家中.然郡公等曰:『如牛所負物而推之,必設殺食.若其主覓至,則以物償爾.』即殺食也.若問『牛直欲得何物?』莫望財物,便『欲得郡內祭神』云爾.」

俄而郡公等到之曰:「牛直欲得何物?」對如老父之教.其所祭神,是白石也.乃以白石授牛直.

因以將來置于寢中,其神石化美麗童女.於是阿羅斯等大歡之欲合.

然阿羅斯等去他處之間,童女忽失也.阿羅斯等大驚之,問己婦曰:「童女何處去矣?」對曰:「向東方.」則尋追求.

遂遠浮海,以入日本國.所求童女者詣于難波,為比賣語曾社神,且至豐國國前郡,復為比賣語曾社神.並兩處見祭焉.

三年春三月,新羅王子天日槍來歸焉.

將來物,羽太玉一箇、足高玉一箇、鵜鹿鹿赤石玉一個、出石小刀一口、出石矛一枝、日鏡一面、熊神籬一具,并七物.則藏于但馬國,常為神物也.

一云,初天日槍乘艇泊于播磨國,在於六粟邑.

時天皇遣三輪君祖-大友主與倭直祖-長尾市於播磨而問天日槍曰:「汝也誰人?且何國人也?」

天日槍對曰:「僕新羅國主之子也.然聞日本國有聖皇,則以己國授弟-知古而歸化之.」仍貢獻物:夜細珠、足高珠、鵜鹿鹿赤石珠、出石刀子、出石槍、日鏡、熊神籬、膽狹淺大刀,并八物.

仍詔天日槍曰:「播磨國肉栗邑,淡路島出淺邑,是二邑汝任意居之.」

時天日槍啟之曰:「臣將住處,若垂天恩,聽臣情願地者,臣親歷視諸國,則合于臣心欲被給.」乃聽之.

於是天日槍自菟道河泝之,北入近江國吾名邑而暫住.

復更自近江經若狹國,西到但馬國,則定住處也.是以近江國鏡村谷陶人則天日槍之從人也.

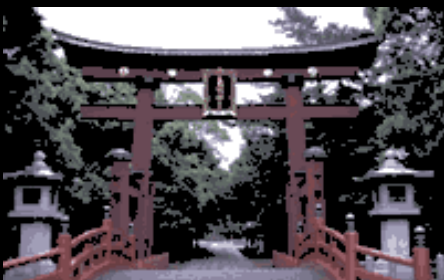
故天日槍娶但馬國出島人太耳女-麻多鳥.

生,但馬諸助也.

諸助生,但馬日櫓杵.

日櫓杵生,清彥.

清彥生,田道間守之.



氣比神宮

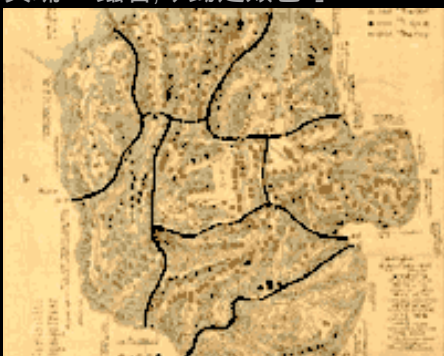
越國,今福井縣敦賀市曙町地方.



千塔山遺跡出土青銅鋤先

禮記鄭玄注:「田具者,鉷鉏之屬.」

其疏:「鉷者,今鋤之類也.」



出石神社藏 但馬國領知繪圖

三.狹穗彥王的謀反

四年秋九月,丙戌朔戊申,皇后母兄狹穗彥王謀反,欲危社稷。

因伺皇后之燕居而語之曰:「汝孰愛兄與夫焉?」於是,皇后不知所問之意趣,輒對曰:「愛兄也。」則詭皇后曰:「夫以色事人,色衰寵緩。今天下多佳人,各遁進求寵,豈永得特色乎?是以冀吾登鴻祚,必與汝照臨天下,則高枕而永終百年,亦不快乎?願為我弑天皇!」仍取匕首,授皇后曰:「是匕首佩于裊中,當天皇之寢,迺刺頸而弑焉!」

皇后於是心裏兢戰,不知所如。然視兄王之志,便不可得諫,故受其匕首,獨無所藏,以著衣中。遂有諫兄之情也。

五年冬十月,己卯朔,天皇幸來目,居於高宮。時天皇枕皇后膝而晝寢。

於是皇后既無成事而空思之,兄王所謀適是時也。即眼淚流之落帝面。天皇則寤之,與皇后曰:「朕今日夢矣,錦色小蛇繞于朕頸,復大雨從狹穗發而來之濡面,是何祥也?」

皇后則知不得匿謀而悚恐伏地,曲上兄王之反狀。因以奏曰:「妾不能違兄王之志,亦不得背天皇之恩。告言則兄亡,不言則傾社稷。是以一則以懼,一則以悲,俯仰喉咽,進退而血泣,日夜懷悵,無所訴言。唯今日也,天皇枕妾膝而寢之,於是妾一思矣,若有狂婦成兄志者,適遇是時,不勞以成功乎?茲意未竟,眼淚自流。則舉袖拭涕,從袖溢之沾帝面。故今日夢也,必是事應焉。錦色小蛇則授妾之匕首也,大雨忽發則妾眼淚也。」

天皇謂皇后曰:「是非汝罪也!」即發近縣卒,命上毛野君遠祖-八綱田,令擊狹穗彥。

時狹穗彥與師距之,忽積稻作城,其堅不可破,此謂-稻城也。

踰月不降,於是皇后悲之曰:「吾雖皇后,既亡兄王,何以面目蒞天下耶?」則抱王子譽津別命而入之於兄王稻城。天皇更益軍眾,悉圍其城,即敕城中曰:「急出皇后與皇子!」然不出矣。則將軍八綱田放火焚其城。

於焉皇后令懷抱皇子踰城上而出之,因以奏請曰:「妾始所以逃入兄城,若有因妾子免兄罪乎,今不得免。乃知,妾有罪,何得面縛,自經而死耳。唯妾雖死之,敢勿忘天皇之恩。願妾所掌后宮之事,宜授好仇!丹波國有五婦人,志並貞潔,是丹波道主王之女也。道主王者,稚日本根子太日日天皇子孫-彥坐王子也。一云,彥湯產隅王之子也。當納掖庭,以盈后宮之數。」天皇聽歎。

時火興城崩,軍眾悉走,狹穗彥與妹共死于城中。

天皇於是美將軍八綱田之功,號其名謂-倭日向武日向彥八綱田也。



匕首

狹穗彥王欲反,取匕首授皇后狹穗姬,令弑垂仁天皇於夢。



錦色小蛇

垂仁天皇發夢,有錦色小蛇繞于頸,復大雨從狹穗發而濡面。



北野社領丹波國船井庄關係書



當麻蹶速之塚

當麻邑勇悍士當麻蹶速為人強力,能毀角申鉤。是以恒語眾曰:「於四方求之,豈有比我力者乎?何遇強力者而不期死生,頓得爭力焉!」



野見宿禰塚跡

當麻蹶速與野見宿禰令掙力,二人相

四.當麻蹶速與野見宿禰,立后

七年秋七月,己巳朔乙亥,左右奏言:「當麻邑有勇悍士,曰-當麻蹶速。其為人也,強力以能毀角申鉤。恒語眾中曰:『於四方求之,豈有比我力者乎?何遇強力者而不期死生,頓得爭力焉!』」

天皇聞之,詔群卿曰:「朕聞當麻蹶速者,天下之力士也,若有比此人耶?」

一臣進言:「臣聞出雲國有勇士,曰-野見宿禰。試召是人欲當于蹶速!」即日,遣倭直祖-長尾市,喚野見宿禰。

於是,野見宿禰自出雲至,則當麻蹶速與野見宿禰令掙力。二人相對立,各舉足相蹶。則蹶折當麻蹶速之脅骨,亦蹈折其腰而殺之。

故奪當麻蹶速之地,悉賜野見宿禰。是以其邑有腰折田之緣也。野見宿禰乃留仕焉。

十五年春二月,乙卯朔甲子,喚丹波五女納於掖庭。第一曰-日葉酢媛,第二曰-淳葉田瓊入媛,第三曰-真砥野媛,第四曰-薊瓊入媛,第五曰-竹野媛。

秋八月,壬午朔,立日葉酢媛命為皇后,以皇后弟之三女為妃。

唯竹野媛者因形姿醜返於本土。則羞其見返,到葛野自墮輿而死之。故號其地謂-墮國。今謂-弟國,訛也。

皇后日葉酢媛命生三男二女。

第一曰,五十瓊敷入彥命。

第二曰,大足彥尊。

第三曰,大中姬命。

第四曰,倭姬命。

第五曰,稚城瓊入彥命。

妃淳葉田瓊入媛。

生,鐸石別命與膽香足姬命。

次妃,薊瓊入媛。

對立,各舉足相蹶.則蹶折當麻蹶速之生,池速別命、稚淺津姬命.
脅骨,亦蹈折其腰而殺之.

五.譽津別王

二十三年秋九月,丙寅朔丁卯,詔群卿曰:「譽津別王是生年既三十,髯鬚八掬,猶泣如兒,常不言.何由矣?因有司而議之.」

冬十月,乙丑朔壬申,天皇立於大殿前,譽津別皇子侍之.時有鳴鵠度大虛.

皇子仰觀鵠曰:「是何物耶?」天皇則知皇子見鵠得言而喜之,詔左右曰:「誰能捕是鳥獻之!」

於是鳥取造祖-天湯河板舉奏言:「臣必捕而獻!」

即天皇敕湯河板舉,板舉,此云・・.曰:「汝獻是鳥,必敦賞矣.」

時湯河板舉遠望鵠飛之方,追尋詣出雲而捕獲.或曰,得于但馬國.

十一月,甲午朔乙未,湯河板舉獻鵠也.譽津別命弄是鵠,遂得言語.

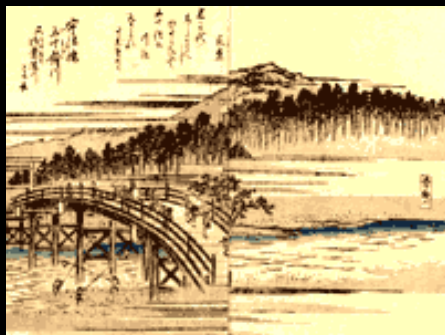
由是敦賞湯河板舉,則賜姓而曰-鳥取造.因亦定鳥取部、鳥養部、譽津部.



白鳥渡空

譽津別皇子長而不語,見鳴鵠度大虛而始得言.天皇遂命湯河板舉補鵠以獻,尋詣出雲而捕獲.

是後,譽津別命弄是鵠,遂得言語.



東海道風景圖會 五十鈴川 宇治橋

六.伊勢祭祀的開端,出雲神寶檢校

二十五年春二月,丁巳朔甲子,詔阿倍臣遠祖-武渟川別、河珥臣遠祖-彥國菴、中臣連遠祖-大鹿島、物部連遠祖-十千根、大伴連遠祖-武日,五大夫曰:「我先皇御間城入彥五十瓊殖天皇惟劬作聖,欽明聰達,深執謙損,志懷沖退,綱繆機衡,禮祭神祇,剋己勤躬,日慎一日.是以人民富足,天下太平也.今當朕世,祭祀神祇,豈得有怠乎?」

三月,丁亥朔丙申,離天照大神於豐稻入姬命,託于倭姬命.

爰倭姬命求鎮坐大神之處而詣菟田筱幡,筱,此云・・.更還之入近江國,東迴美濃,到伊勢國.

時天照大神誨倭姬命曰:「是神風伊勢國則常世之浪歸國也.傍國可怜國也,欲居是國.」故隨大神教,其祠立於伊勢國,因興齋宮于五十鈴川上.是謂-磯宮.

則天照大神始自天降之處也.

一云,天皇以倭姬命為御杖,貢奉於天照大神.是以倭姬命以天照大神鎮坐於磯城嚴櫃之本而祠之.

然後隨神敕,取丁巳年冬十月,甲子,遷于伊勢國渡邊宮.

是時倭大神著穗積臣遠祖-大水口宿禰而誨之曰:「太初之時,期曰:『天照大神悉治天原;皇御孫尊專治葦原中國之八十魂神;我親治大地官者.』言已訖矣.然先皇御間城天皇雖祭祀神祇,微細未探其源根,以粗留於枝葉,故其天皇短命也.是以今汝御孫尊悔先皇之不及而慎祭,則汝尊壽命延長,復天下太平矣!」

時天皇聞是言,則仰中臣連祖-探湯主,而卜之誰人以令祭大倭大神.即渟名城稚姬命食卜焉.

因以命定渟名城稚姬命,定神地於穴磯邑,祠於大市長綱岬.

然是渟名城稚姬命既身体悉瘦弱,以不能祭.是以命大倭直祖-長尾市宿禰令祭矣.

二十六年秋八月,戊寅朔庚辰,天皇敕物部十千根大連曰:「屢遣使者於出雲國,雖檢校其國之神寶,無分明申言者.汝親行于出雲國,宜檢校定!」

則十千根大連校定神寶而分明奏言之.仍令掌神寶也.

二十七年秋八月,癸酉朔己卯,令祠官卜兵器為神幣,吉之.故弓矢及橫刀納諸神之社.

仍更定神地、神戶,以時祠之.蓋兵器祭神祇,始興於是時也.

是歲,興屯倉于來目邑.屯倉,此云・・.



伊勢神宮藏 玉纏御太刀

卜兵器為神幣,吉.故納弓矢及橫刀.

七.殉死的禁令 埴輪

二十八年冬十月,丙寅朔庚午,天皇母弟倭彥命薨.

十一月,丙申朔丁酉,葬倭彥命于身狹桃花阪.

於是集近習者,悉生而埋立於陵域,數日不死,晝夜泣吟,遂死而爛殞之,犬、鳥聚噉焉.

天皇聞此泣吟之聲,心有悲傷.詔群卿曰:「夫以生所愛令殉亡者,是甚傷矣.其雖古風之,非良何從?自今以後,議之止殉!」

三十年春正月,己未朔甲子,天皇詔五十瓊敷命、大足彥尊曰:「汝等各言情願之物也!」

兄王諮:「欲得弓矢!」弟王諮:「欲得皇位!」

於是天皇詔之曰:「各宜隨情!」則弓矢賜五十瓊敷命,仍詔大足彥尊曰:「汝必繼朕位!」

三十二年秋七月,甲戌朔己卯,皇后日葉酢媛命,一云,日葉酢根命也,薨.

臨葬有日焉,天皇詔群卿曰:「從死之道,前知不可.今此行之葬,奈之為何?」於是野見宿禰進曰:「夫君王陵墓,埋立生人,是不良也,豈得傳後葉乎?願今將議使事而奏之!」

則遣使者喚上出雲國之士部壹百人,自領土部等,取埴以造作人、馬及種種物形,獻于天皇



身狹桃花鳥阪墓

倭彥命薨,葬身狹桃花鳥阪墓.而活埋之近習者數日不死,晝夜泣吟.死而爛殞,為犬,鳥聚噉.天皇聞之而不忍,自此廢生人殉死之儀.

曰：「自今以後，以是土物更易生人，樹於陵墓，為後葉之法則。」

天皇於是大喜之，詔野見宿禰曰：「汝之便議寔洽朕心！」則其土物，始立于日葉酢媛命之墓。仍號是土物謂-埴輪，亦名-立物也。

仍下令曰：「自今以後，陵墓必樹是土物，無傷人焉！」

天皇厚賞野見宿禰之功，亦賜-鍛地，即任土部職，因改本姓謂-土部臣。是土部連等主天皇喪葬之緣也。所謂野見宿禰，是土部連等之始祖也。

三十四年春三月，乙丑朔丙寅，天皇幸山背。

時左右奏言之：「此國有佳人，曰-綺戶邊，姿形美麗，山背大國不遲之女也。」

天皇於茲執矛祈之曰：「必遇其佳人，道路見瑞。」

比至行宮，大龜出河中，天皇舉矛刺龜，忽化為白石。謂左右曰：「因此物而推之，必有驗乎。」仍喚綺戶邊納于後宮。

生，磐衝別命，是三尾君之始祖也。

先是，娶山背刈幡戶邊，生三男。

第一曰，祖別命。

第二曰，五十日足彥命。

第三曰，膽武別命。

五十日足彥命，是子石田君之始祖也。

三十五年秋九月，遣五十瓊敷命于河內國，作高石池、茅渟池。

冬十月，作倭狹城池及跡見池。

是歲，令諸國多開池溝，數八百之，以農為事。因是百姓富寬，天下太平也。

三十七年春正月，戊寅朔，立大足彥尊為皇太子。



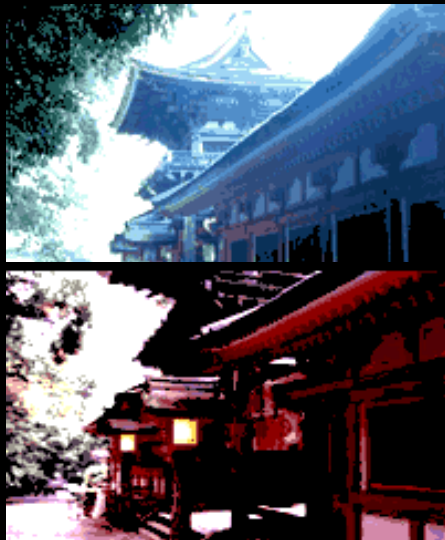
埴輪

野見宿禰自領土部，取埴造作人、馬及種種物形。自今以後，陵墓必樹是土物，無傷人。



狹城盾列池

狹城池，一名西池，又名水上池。



石上神宮

八.石上神宮與神寶

三十九年冬十月，五十瓊敷命居於茅渟菟砥川上宮，作劍一千口，因名其劍謂-川上部，亦名曰-裸伴。裸伴，此云……藏于石上神宮也。

是後，命五十瓊敷命，俾主石上神宮之神寶。

一云，五十瓊敷皇子居于茅渟菟砥河上而喚鍛名河上，作大刀一千口。

是時，楯部、倭文部、神弓削部、神矢作部、大穴磯部、泊檀部、玉作部、神刑部、日置部、大刀佩部，并十箇品部賜五十瓊敷皇子。

其一千口大刀者藏于忍阪邑，然後從忍阪移之藏于石上神宮。

是時神乞之言：「春日臣族，名市河令治！」因以命市河令治，是今物部首之始祖也。

八十七年春二月，丁亥朔辛卯，五十瓊敷命謂妹-大中姬曰：「我老也，不能掌神寶。自今以後，必汝主焉！」大中姬命辭曰：「吾手弱女人也，何能登天神庫耶？神庫，此云……」五十瓊敷命曰：「神庫雖高，我能為神庫造梯，豈煩登庫乎？」故諺曰：「神之神庫隨樹梯之」此其緣也。

然遂大中姬命授物部十千根大連而令治，故物部連等至于今治石上神寶，是其緣也。

昔丹波國桑田村有人，名曰-甕襲，則甕襲家有犬，名曰-足往。

是犬咋山獸名-牟士那而殺之，則獸腹有八尺瓊勾玉，因以獻之，是玉今有石上神宮。

九.天日槍與神寶

八十八年秋七月，己酉朔戊午，詔群卿曰：「朕聞，新羅王子-天日槍，初來之時，將來寶物今有但馬。元為國人見寶，則為神寶也。朕欲見其寶物。」即日遣使者詔天日槍之曾孫-清彥而令獻。於是清彥被敕，乃自捧神寶而獻之。

羽太玉一箇、足高玉一箇、鵜鹿赤石玉一箇、日鏡一面、熊神籬一具。唯有小刀，名曰-出石，則清彥忽以為非獻刀子，仍匿袍中而自佩之。

天皇未知匿小刀之情，欲寵清彥而召之賜酒於御所。時刀子從袍中出而顯之。

天皇見之，親問清彥曰：「爾袍中刀子者何刀子也？」爰清彥知不得匿刀子而呈言：「所獻神寶之類也。」則天皇謂清彥曰：「其神寶之豈得離類乎？」乃出而獻焉，皆藏神府。

然後開寶府而視之，小刀自失。則使問清彥曰：「爾所獻刀子忽失矣，若至汝所乎？」清彥答曰：「昨夕，刀子自然至於臣家，乃明旦失焉。」天皇則惶之，且更勿覓。是後出石刀子自然至于淡路島，其島人謂神，而為刀子立祠。是於今所祠也。

昔有一人，乘艇而泊于但馬國。因問曰：「汝何國人也？」對曰：「新羅王子，名曰-天日槍。」則留于但馬，娶其國前津耳女。一云，前津見；一云，太耳。麻拖能鳥。

生，但馬諸助。是清彥之祖父也。



出石神社

祭神天日槍命與出石八前大神，境內

有天日槍之碑.出石八前大神者,即天日槍命所攜來之八種神寶也.



垂仁天皇 菅原伏見陵



果祖神田道間守塚

十.田道間守與非時香果

九十年春二月,庚子朔,天皇命田道間守遣常世國,令求非時香果,香果,此云・・・・今謂-橘是也.

九十九年秋七月,戊午朔,天皇崩於纏向宮,時年百四十歲.

冬十二月,癸卯朔壬子,葬於菅原伏見陵.

明年春三月,辛未朔壬午,田道間守至自常世國.則齋物也,非時香果八竿八縵焉.

田道間守於是泣悲歎之曰:「受命天朝,遠往絕域,万里蹈浪,遙度弱水.是常世國則神仙秘區,俗非所臻.是以往來之間,自經十年.豈期,獨凌峻瀾,更向本土乎?然賴聖帝之神靈,僅得還來.今天皇既崩,不得復命.臣雖生之,亦何益矣!」乃向天皇之陵叫哭而自死之.

群臣聞皆流淚也.田道間守是三宅連之始祖也.

日本書紀卷第六 終

[\[久遠・絆\]](#) [\[卷第五\]](#) [\[卷第七\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷第七 景行紀 / 成務紀

[[景行天皇](#)]

[[成務天皇](#)]

大足彥忍代別天皇 景行天皇

一.即位與立后

大足彥忍代別天皇,活目入彥五十狹茅天皇第三子也.母皇后曰-日葉洲媛命,丹波道主王之女也.

活目入彥五十狹茅天皇三十七年,立為皇太子.時年廿一.

九十九年春二月,活目入彥五十狹茅天皇崩.

元年秋七月,己巳朔己卯,太子即天皇位.因以改元,是年也,太歲辛未.

二年春三月,丙寅朔戊辰,立播磨稻日大郎姬為皇后.一云,稻日稚郎姬.郎姬,此云…….后生二男.

第一曰,大碓皇子.

第二曰,小碓尊.一書云,皇后生三男.其第三曰,稚倭根子皇子.

其大碓皇子、小碓尊,一日同胞而雙生.天皇異之,則誥於碓.故,因號其二王曰,大碓、小碓也.

是小碓尊,亦名日本童男.童男,此云…….亦曰,日本武尊.幼有雄略之氣.及壯,容貌魁偉,身長一丈,力能扛鼎焉.

三年春二月,庚寅朔,卜幸于紀伊國,將祭祀群神祇,而不吉.乃車駕止之.遣屋主忍男武雄心命,一云,武猪心,令祭.

爰屋主忍男武雄心命,詣之居于阿備柏原而祭祀神祇.

仍住九年,則娶紀直遠祖菟道彥之女-影媛.

生,武內宿禰.



小碓命 日本武尊像

因大碓皇子與小碓尊同胞雙生,是以名大碓,小碓.小碓尊者,亦名日本童男,日後是為日本武尊.

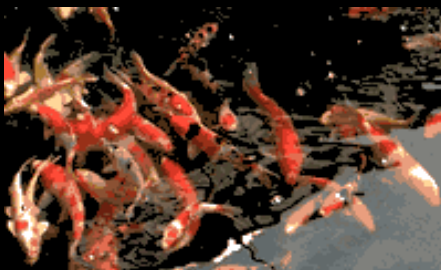


紀伊國

紀伊國,今和歌山縣全境及三重縣南部一代.亦名紀國,紀州.



美濃國
相當於今岐阜縣中南部.



鯉魚浮池

天皇權令弟媛至而居于泳宮,宮中有池,鯉魚浮之,弟媛遇見鯉魚而密臨其池.是而天皇留而通之.

二.諸妃與八十人的皇子 . 皇女

四年春二月,甲寅朔甲子,天皇幸美濃.左右奏言之:「茲國有佳人,曰-弟媛.容姿端正,八阪入彥皇子之女也.」

天皇欲得為妃,幸弟媛之家.弟媛聞乘輿車駕,則隱竹林.於是,天皇權令弟媛至而居于泳宮之.泳宮,此云…….鯉魚浮池,朝夕臨視而戲遊.時弟媛欲見而其鯉魚遊而密來臨池,天皇則留而通之.

爰弟媛以為,夫婦之道,古今達則也.然於吾而不便.則請天皇曰:「妾性不欲交接之道.今不勝皇命之威,暫納帷幕之中.然意所不快,亦形姿穢陋,久之不堪陪於掖庭.唯有妾姊,名曰八阪入媛,容姿麗美,志亦貞潔,宜納後宮.」

天皇聽之,仍喚八阪入媛為妃,生七男六女.

第一曰,稚足彥天皇.

第二曰,五百城入彥皇子.

第三曰,忍之別皇子.

第四曰,稚倭根子皇子.

第五曰,大酢別皇子.

第六曰,淳熨斗皇女.

第七曰,淳名城皇女.

第八曰,五百城入姬皇女.

第九曰,麿依姬皇女.

第十曰,五十狹城入彥皇子.

第十一曰,吉備兄彥皇子.

第十二曰,高城入姬皇女.

第十三曰,弟姬皇女.

又妃,三尾氏磐城別之妹-水齒郎媛.



猿投神社

坐落於今豐田市之古社,主祭神為大碓命。而於其相殿者,則奉有,景行天皇,垂仁天皇二柱。

據該社緣起書所傳,大碓命於景行天皇52年,於猿頭山遭蛇吻而薨,享年42歲,即葬其山。陵墓於該社西宮後方。唯,此說不同於『古事記』所傳。在古事記一書中,小碓命(倭建命/日本武尊)因怒其兄大碓命密通兄姬、弟姬而不復命天皇,殺之。

三.天皇西征與神夏磯媛的提言

十二年秋七月,熊襲反之,不朝貢。

八月乙未,朔己酉,幸筑紫。

九月,甲子朔戊辰,到周芳娑麼。時天皇南望之,詔群卿曰:「於南方煙氣多起,必賊將在!」則留之。

先遣多臣祖武諸木、國前臣祖菟名手、物部君祖夏花,令察其狀。

爰有女人,曰-神夏磯媛。其徒眾甚多,一國之魁帥也。聆天皇之使者至,則拔磯津山之賢木,以上枝挂八握劍,中枝挂八咫鏡,下枝挂八咫瓊,亦素幡樹于船舳,參向而啟之曰:「願無下兵。我之屬類,必不有違者,今將歸德矣。唯有殘賊者:一曰-鼻垂,妄假名號,山谷響聚,屯結於菟狹川上。二曰-耳垂,殘賊貪婪,屢略人民,是居於御木川上。木,此云・。三曰-麻剝,潛聚徒黨,居於高羽川上。四曰-土折豬折,隱住於綠野川上,獨恃山川之險,以多掠人民。是四人也,其所據並要害之地。故,各領眷屬,為一處之長也。皆曰:『不從皇命!』願急擊之,勿失!」

於是,武諸木等,先誘麻剝之徒。仍賜赤衣、禪及種種奇物,兼令搗不服之三人,乃率已眾而參來,悉捕誅之。

天皇遂幸筑紫,到豐前國長峽縣,興行宮而居。故號其處曰-京也。



景行天皇纏向日代宮跡碑。



周芳之娑麼
其地者,今山口縣防府市佐波(娑麼)



碩田國(大分縣大分郡)



速見・邑(大分縣別府市)

四.碩田國的土蜘蛛討伐

冬十月,到碩田國。其地形廣大亦麗,因名-碩田也。碩田,此云・・・・・。

到速見邑,有女人,曰-速津媛,為一處之長。其聞天皇車駕,而自奉迎之。語言:「茲山有大石窟。曰-鼠石窟,有二土蜘蛛,住其石窟。一曰-青,二曰-白。又於直入縣禰疑野,有三土蜘蛛。一曰-打猿。二曰-八田。三曰-國摩侶。是五人,並其為人強力,亦眾類多之。皆曰:『不從皇命!』若強喚者,與兵距焉!」

天皇惡之,不得進行。即留于來田見邑,權興宮室而居之。仍與群臣議之曰:「今多動兵眾,以討土蜘蛛。若其畏我兵勢,將隱山野,必為後愁!」則採海石榴樹,作椎,為兵。因簡猛卒,授兵椎,以穿山排草,襲石室之土蜘蛛。而破于稻葉川上,悉殺其黨,血流至踝。故時人其作海石榴椎之處,曰-海石榴市。亦血流之處曰-血田也。復將討打猿,徑度禰疑山。

時賊虜之矢,橫自山射之。流於官軍前如雨。天皇更返城原,而卜於水上。便勒兵,先擊八田於禰疑野而破。爰打猿謂不可勝而請服。然不聽矣。皆自投澗谷而死之。



城原(竹田市城原)

五.熊襲平定與九州巡幸

十二月，癸巳朔丁酉，議討熊襲。於是天皇詔群卿曰：「朕聞之，襲國有厚鹿文、沓鹿文者，是兩人熊襲之渠帥者也。眾類甚多，是謂熊襲八十梟帥，其鋒不可當焉。少興師，則不堪滅賊；多動兵，是百姓之害。何不假鋒刃之威，坐平其國？」

時有一臣進曰：「熊襲梟帥有二女，兄曰市乾鹿文，乾，此云・弟曰市鹿文，容既端正，心且雄武，宜示重幣以撝納麾下，因以伺其消息，犯不意之處，則曾不血刃，賊必自敗。」天皇詔：「可也！」

於是,示幣欺其二女而納幕下.天皇則通市乾鹿文而陽寵.時,市乾鹿文,奏于天皇曰:「無愁熊襲之不服.妾有良謀.即令從一二兵於己.」而返家以多設醇酒,令飲己父.乃醉而寐之.市乾鹿文,密斷父弦.爰從兵一人,進殺熊襲梟帥.天皇則惡其不孝之甚,而誅市乾鹿文.仍以弟市鹿文,賜於火國造.

十三年夏五月,悉平襲國,因以居於高屋宮,已六年也。

於是其國有佳人，曰-御刀媛。御刀，此云……則召為妃。

生豐國別皇子，是日向國造之始祖也。

十七年春三月，戊戌朔己酉，幸子湯縣，遊于丹裳小野。時東望之，謂左右曰：「是國也，直向於日出方。」故號其國曰-日向也。

是日,陟野中大石,憶京都而歌之曰:

愛．．．． 我家．方． 雲居立．來．
倭．國．．．． 疊．． 青垣 山籠．． 倭．麗．
命．全．人． 疊薦 平群．山． 白檀．枝． 髻華．插． 此．子

是謂思邦歌也。

十八年春三月,天皇將向京,以巡狩筑紫國。

始到夷守。是時，於石瀨河邊，人眾聚集。於是，天皇遙望之，詔左右曰：「其集者何人也，若賊乎？」乃遣兄夷守、弟夷守二人令觀。

乃弟夷守還來而諮之曰：「諸縣君泉媛，依獻大御食，而其族會之。」

夏四月壬戌朔甲子，到熊縣。其處有熊津彥者，兄弟二人。

天皇先使徵兄熊，則從使詣之；因徵弟熊，而不來，故兵誅之。

壬申,自海路泊於葦北小島而進食。時召山部阿弭古之祖小左,令進冷水。適是時,島中無水。不知所為,則仰之祈於天神地祇。忽寒泉從崖傍涌出,乃酌以獻焉。故號其島曰-水島也。其泉猶今在水島崖也。

五月壬辰朔，從葦北發船到火國。於是日沒也，夜冥不知著岸。

遙視火光，天皇詔挾者曰：「直指火處！」因指火往之，即得著岸。

天皇問其火光之處曰：「何謂邑也？」國人對曰：「是八代縣豐村。」亦尋其火：「是誰人之火也？」然不得主，茲知非人火，改名其國曰火國也。

六月辛酉朔癸亥自高來縣度玉杵名邑時殺其處之士蜘蛛津頗焉

丙子,到阿蘇國。其國也郊原曠遠,不見人居。天皇曰:「是國有人乎?」時有二神,曰-阿蘇都彥、阿蘇都媛,忽化人以遊詣之曰:「吾二人在,何無人耶!」故號其國曰-阿蘇。

秋七月，辛卯朔甲午，到筑紫後國御木，居於高田行宮。

時有僵樹，長九百七十丈焉，百竇蹈其樹而往來，時人歌曰：

朝霜・御木・小橋
群臣・渡・御木・小橋



景行天皇九州巡幸圖

思邦歌

思念懷兮故鄉處
大和國兮極真秀
大和美兮不勝收
層起疊兮平群山
髻插首兮興遊之
雲層起兮飄來乎
層疊青垣山圍攏
活力盛兮青年矣
取其山兮白檀枝
活力盛兮青年矣

在那另人懷念的家鄉的方向，雲層不斷湧起而飄湧而至。大和是所有國家中最為秀麗的，包圍在那群山層層堆疊的青垣之中，大和國是如此的美不勝收。生命力旺盛的青年們，取下那層疊平群山上的白樺枝，將之插在頭上遊玩吧。生命力旺盛的青年們！



熊縣

今熊本縣球磨郡、人吉市一帶。

御木.時人之歌

朝霜覆兮御木橋 群臣渡兮御木橋

爰天皇問之曰：「是何樹也？」有一老夫曰：「是樹者歷木也。嘗未僵之先，當朝日暉，則隱杵島山；當夕日暉，亦覆阿蘇山也！」天皇曰：「是樹者神木，故，是國宜號-御木國！」

丁酉，到八女縣，則越藤山，以南望粟岬。

詔之曰：「其山峰岫重疊，且美麗之甚。若神有其山乎？」時水沼縣主猿大海奏言：「有女神，名曰-八女津媛，常居山中。」故八女國之名，由此而起也。

八月，到的邑而進食，是日：「膳夫等遺蠶。」故時人號其忘蠶處曰-浮羽。今謂-的者，訛也。昔，筑紫俗號蠶曰-浮羽。

十九年秋九月，甲申朔癸卯，天皇至自日向。

廿年春二月，辛巳朔甲申，遣五百野皇女，令祭天照大神。

廿五年秋七月，庚辰朔壬午，遣武內宿禰，令察北陸及東方諸國之地形，且百姓之消息也。

廿七年春二月，辛丑朔壬子，武內宿禰自東國還之奏言：「東夷之中，有日高見國。其國人，男女並椎結文身，為人勇悍。是總曰-蝦夷。亦土地沃壤而曠之，擊可取也！」

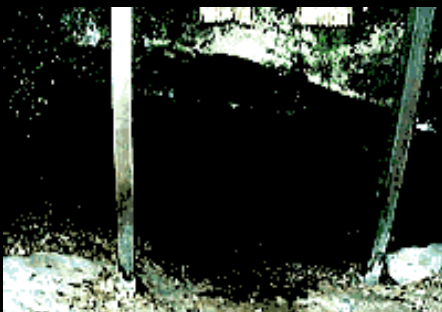
秋八月，熊襲亦反之，侵邊境不止。

被有晨霜的御木之地的小橋，群臣們渡行的御木小橋啊



的邑

的邑，原取忘蠶(••)之處而名浮羽(•••)，其後訛傳為的(•••)。



熊襲之穴

熊襲之穴位於今鹿兒島縣國分市準人町，據傳該穴是為日本武尊征討熊襲國擊殺川上梟帥之地。



石見神樂 熊襲

日本武尊抽劍，刺川上梟帥之胸。未及之死，川上梟帥啟曰：「號皇子應稱-日本武皇子！」言訖，通胸殺之。

六.日本武尊的熊襲征討

冬十月，丁酉朔己酉，遣日本武尊，令擊熊襲。時年十六。

於是，日本武尊曰：「吾得善射者欲與行，其何處有善射者焉？」或者啟之曰：「美濃國有善射者，曰-弟彥公。」於是，日本武尊遣葛城人宮戶彥，喚弟彥公。

故弟彥公便率石占橫立及尾張田子之稻置、乳近之稻置而來，則從日本武尊而行之。

十二月，到於熊襲國。因以伺其消息及地形之嶮易。

時熊襲有魁帥者，名-取石鹿文，亦曰-川上梟帥，悉集親族而欲宴。

於是日本武尊解髮作童女姿，以密伺川上梟帥之宴時，仍佩劍裊裏，入於川上梟帥之宴室，居女人之中。川上梟帥感其童女之容姿，則攜手同席，舉杯令飲而戲弄。于時也更深人闌，川上梟帥且被酒。

於是，日本武尊抽裊中之劍，刺川上梟帥之胸。未及之死，川上梟帥叩頭曰：「且待之，吾有所言！」時日本武尊留劍待之。

川上梟帥啟之曰：「汝尊誰人也？」對曰：「吾是大足彥天皇之子也，名曰-日本童男也。」

川上梟帥亦啟之曰：「吾是國中之強力者也。是以當時諸人，不勝我之威力而無不從者。吾多遇武力矣，未有若皇子者。是以賤賊陋口以奉尊號，若聽乎？」曰：「聽之。」

即啟曰：「自今以後，號皇子應稱-日本武皇子！」言訖乃通胸而殺之。故至于今，稱曰-日本武尊，是其緣也。

然後，遣弟彥等悉斬其黨類，無餘囓。

既而從海路還倭，到吉備以渡穴海。其處有惡神，則殺之。

亦比至難波，殺柏濟之惡神。濟，此云•••。

廿八年春二月，乙丑朔，日本武尊奏平熊襲之狀曰：「臣賴天皇之神靈，以兵一舉，頓誅熊襲之魁帥者，悉平其國。是以西洲既謐，百姓無事。唯吉備穴濟神及難波柏濟神，皆有害心，以放毒氣，令苦路人，並為禍害之藪。故悉殺其惡神，並開水陸之徑。」天皇於是美日本武之功而異愛。

四十年夏六月，東夷多叛，邊境騷動。

七.日本武尊東征與弟橘媛入水

秋七月，癸未朔戊戌，天皇詔群卿曰：「今東國不安，暴神多起。亦蝦夷悉叛，屢略人民。遣誰人以平其亂？」群臣皆不知誰遣也。日本武尊奏言：「臣則先勞西征，是役必大碓皇子之事矣！」時大碓皇子愕然之，逃隱草中。

則遣使者召來。爰天皇責曰：「汝不欲矣，豈強遣耶。何未對賊，以豫懼甚焉？」因此遂封美濃，仍如封地。是身毛津君、守君凡二族之始祖也。

於是日本武尊雄詔之曰：「熊襲既平，未經幾年，今更東夷叛之，何日逮于大平矣。臣雖勞之，頓平其亂！」則天皇持斧鉞，以授日本武尊曰：「朕聞其東夷也，識性暴強，凌犯為宗，村之無長，邑之勿首，各貪封界，並相盜略。亦山有邪神，郊有姦鬼，遮衢塞徑，多令苦人。其東夷之中，蝦夷是尤強焉，男女交居，父子無別。冬則宿穴，夏則住櫟，衣毛飲血，昆弟相疑。登山如飛禽，行草如走獸。承恩則忘，見怨必報。是以箭藏頭髻，刀佩衣中，或聚黨類而犯邊界，或伺農桑以略人民。擊則隱草，追則入山。故往古以來，未染王化。今朕察汝為人也，身體長大，容姿端正，力能扛鼎，猛如雷電，所



日本武尊東征路線圖

向無前,所攻必勝.既知之,形則我子,實則神人.是寔天愍朕不歡且國不平,令經綸天業不絕宗廟乎.亦是天下則汝天下也,是位則汝位也.願深謀遠慮,探姦伺變,示之以威,懷之以德,不煩兵甲,自令臣隸.即巧言而調暴神,振武以壤姦鬼!」

於是日本武尊乃受斧鉞,以再拜奏之曰:「嘗西征之年,賴皇靈之威提三尺劍,擊熊襲國,未經浹辰賊首伏罪.今亦賴神祇之靈,借天皇之威,往臨其境,示以德教,猶有不服,即舉兵擊!」仍重再拜之.

天皇則命吉備武彥與大伴武日連,令從日本武尊.亦以七掬脰為膳夫.

冬十月,壬子朔癸丑,日本武尊發路之.

戊午,枉道拜伊勢神宮.仍辭于倭姬命曰:「今被天皇之命而東征將誅諸叛者,故辭之.」於是倭姬命取草薙劍,授日本武尊曰:「慎之,莫怠也!」

是歲,日本武尊初至駿河.其處賊陽從之欺曰:「是野也,麋鹿甚多.氣如朝霧,足如茂林.臨而應狩!」

日本武尊信其言,入野中而覓獸.賊有殺王之情,王,謂日本武尊也.放火燒其野.王知被欺,則以燧出火之,向燒而得免.一云,王所佩劍藁雲自抽之,薙攘王之傍草,因是得免.故號其劍曰-草薙也.藁雲,此云

•••••

王曰:「殆被欺!」則悉焚其賊眾而滅之.故號其處曰-燒津.

亦進相模,欲往上總.望海高言曰:「是小海耳,可立跳渡!」乃至于海中.

暴風忽起,王船漂蕩而不可渡.時有從王之妾,曰-弟橘媛,穗積氏忍山宿禰之女也.啟王曰:

「今風起浪洑,王船欲沒,是必海神心也.願賤妾之身,贖王之命而入海!」言訖乃披瀾入之,暴風即止,船得著岸.故時人號其海曰-馳水也.

爰日本武尊則從上總轉入陸奧國.時大鏡懸於王船,從海路迴於葦浦.橫渡玉浦,至蝦夷境.

蝦夷賊首-島津神、國津神等,屯於竹水門而欲距.然遙視王船,豫怖其威勢而心裏知之不可勝,悉捨弓矢,望拜之曰:「仰視君容,秀於人倫,若神之乎.欲知姓名!」

王對之曰:「吾是現人神之子也!」於是蝦夷等悉慄,則褰裳披浪,自扶王船而著岸.仍面縛服罪.故免其罪.因以俘其首帥而令從身也.

蝦夷既平,自日高見國還之,西南歷常陸,至甲斐國,居于酒折宮.時舉燭而進食.

是夜,以歌之問侍者曰:

新治 筑波・過・・ 幾夜・寢・・

諸侍者不能答言.時有秉燭者,續王歌之末而歌曰:

・・並・・ 夜・・九夜 日・・十日・

即美秉燭人之聰而敦賞.則居是宮,以韃部賜大伴連之遠祖-武日也.

於是,日本武尊曰:「蝦夷凶首咸伏其辜.唯信濃國、越國,頗未從化!」則自甲斐北轉歷武藏、上野,西逮于碓日阪.

時,日本武尊每有顧弟橘媛之情.故登碓日嶺而東南望之三歎曰:「吾孀者耶!」孀,此云・・.故因號山東諸國曰-吾孀國也.

於是分道,遣吉備武彥於越國,令監察其地形嶮易及人民順不,則日本武尊進入信濃.

是國也山高谷幽,翠嶺萬重,人倚杖而難升.巖嶮磴紆,長峰數千,馬頓轡而不進.然日本武尊披煙凌霧,遙徑大山.

既逮于峰而飢之,食於山中.山神令苦王,以化白鹿立於王前.王異之,以一箇蒜彈白鹿,則中眼而殺之.

爰王忽失道,不知所出.時白狗自來,有導王之狀.隨狗而行之,得出美濃.吉備武彥自越出而遇之.

先是度信濃阪者,多得神氣以瘼臥.但從殺白鹿之後,踰是山者嚼蒜而塗人及牛馬,自不中神氣也.



草薙劍 (天叢雲劍)
佩劍藁雲自抽之,薙攘王之傍草,因是得免.故號其劍曰-草薙也.



走水神社藏 弟橘媛

日本武尊詢日之歌:

新治經兮筑波過 今者計兮幾夜寢

過了新治和筑波,我們已經外宿幾日了呢?

一一並兮計其數 夜已九兮日已十

一日一日數來的話,夜晚已經過了九夜,白日則已經過了十日了.



信濃阪

殺白鹿之後,踰信濃阪者嚼蒜而塗人及牛馬,自不中神氣也.



尾津神社
昔日本武尊停尾津濱進食.解劍置松下.忘而去.今至此,劍猶存.

日本武尊,讚一本松之歌

對尾張兮一松在 松直立兮既高聳
此一松兮若為人 欲為著衫配橫刀
正對著尾張國高聳直立的一本松.一本松
啊,如果你是人的話,真想替你穿上衣裳,配上大刀!



能褒野神社
社境設有日本武尊能褒野御墓.



日本武尊能褒野白鳥陵



日本武尊琴彈原白鳥陵



日本武尊舊市邑白鳥陵
時人號是三陵曰-白鳥陵.

八.日本武尊病歿與白鳥陵

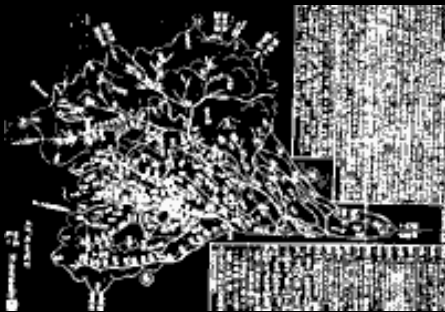
日本武尊更還於尾張,即娶尾張氏之女-宮簀媛而淹留踰月.
於是,聞近江五十葦山有荒神,即解劍置於宮簀媛家而徒行之.
至膽吹山,山神化大蛇當道.爰日本武尊不知主神化蛇之謂:「是大蛇必荒神之使也.既得殺主神,其使者豈足求乎!」因跨蛇猶行.
時山神之興雲零冰.峰霧谷噎,無復可行之路,乃棲遑不知其所跋涉.然凌霧強行,方僅得出.猶失意如醉,因居山下之泉側,乃飲其水而醒之.故號其泉曰-居醒泉也.
日本武尊於是始有痛身.然稍起之,還於尾張.爰不入宮簀媛之家,便移伊勢而到尾津.
昔日本武尊向東之歲,停尾津濱而進食.是時解一劍置於松下,遂忘而去.今至於此,劍猶存.故歌曰:

尾張・直・向・・・一・松・・・
一・松 人・・・・・衣著・・・・太刀佩・・・・

逮于能褒野而痛甚之.則以所俘蝦夷等獻於神宮.
因遣吉備武彥,奏之於天皇曰:「臣受命天朝,遠征東夷.則被神恩,賴皇威,而叛者伏罪,荒神自調.是以卷甲戢戈,愷悌還之.冀曷日曷時,復命天朝.然天命忽至,隙駟難停.是以獨臥曠野,無誰語之.豈惜身亡,唯愁不面!」既而崩于能褒野,時年卅.
天皇聞之,寢不安席,食不甘味,晝夜喉咽,泣悲擗擗.因以大歎之曰:「我子小碓王,昔熊襲叛之日,未及總角,久煩征伐,既而恆在左右,補朕不及!然東夷騷動,勿使討者.忍愛以入賊境,一日之無不顧.是以,朝夕進退,佇待還日.何禍兮?何罪兮?不意之間,災亡我子!自今以後,與誰人之經綸鴻業耶!」即詔群卿命百寮,仍葬於伊勢國能褒野陵.
時日本武尊化白鳥,從陵出之,指倭國而飛之.群臣等因以開其棺槨而視之.明衣空留而,屍骨無之.
於是,遣使者追尋白鳥.則停於倭琴彈原.仍於其處造陵焉.
白鳥更飛至河內,留舊市邑.亦其處作陵.故時人號是三陵曰-白鳥陵.
然遂高翔上天,徒葬衣冠.因欲錄功名,即定武部也.是歲也,天皇踐祚四十三年焉.
五十一年春正月,壬午朔戊子,招群卿而宴數日矣.時皇子稚足彥、武內宿禰不參赴于宴庭.天皇召之問其故.因以奏之曰:「其宴樂之日,群卿、百寮,必情在戲遊,不存國家.若有狂生,而伺牆閭之隙乎?故侍門下,備非常.」時天皇謂之曰:「灼然!」灼然,此云・・・・則異寵焉.
秋八月,己酉朔壬子,立稚足彥尊為皇太子.
是日,命武內宿禰為棟梁之臣.
初日本武尊所佩草薙橫刀,是今在尾張國年魚市郡熱田社也.於是所獻神宮蝦夷等晝夜喧譁,出入無禮.
時倭姬命曰:「是蝦夷等,不可近於神宮!」則進上於朝庭,仍令安置御諸山傍.未經幾時,悉伐神山樹,叫呼鄰里而脅人民.
天皇聞之,詔群卿曰:「其置神山傍之蝦夷,是本有獸心,難住中國.故隨其情願,令班邦畿之外!」是今播磨、讚岐、伊豫、安藝、阿波,凡五國佐伯部之祖也.
初日本武尊娶-兩道入姬皇女為妃.
生,稻依別王.
次,足仲彥天皇.
次,布忍入姬命.
次,稚武王.
其兄-稻依別王,是-犬上君、武部君,凡二族之始祖也.
又妃,吉備武彥之女-吉備穴戶武媛.
生,武卵王與十城別王.
其兄-武卵王,是讚岐綾君之始祖也.
弟-十城別王,是伊豫別君之始祖也.
次妃,穗積氏忍山宿禰之女-弟橘媛.
生,稚武彥王.
五十二年夏五月,甲辰朔丁未,皇后播磨太郎姬薨.
秋七月,癸卯朔己酉,立八阪入媛命為皇后.



熱田神宮
該社伺日本武尊而奉草薙劍。



上野國略圖

五十三年秋八月,丁卯朔,天皇詔群卿曰:「朕顧愛子,何日止乎?冀欲巡狩小碓王所平之國!」

是月,乘輿幸伊勢,轉入東海。

冬十月,至上總國,從海路渡淡水門。

是時聞覺賀鳥之聲,欲見其鳥形,尋而出海中,仍得白蛤。於是膳臣遠祖名-盤鹿六鴈,以蒲為手紐,白蛤為膾而進之。故美六鴈臣之功而賜-膳大伴部。

十二月,從東國還之,居伊勢也。是謂,綺宮。

五十四年秋九月,辛卯朔己酉,自伊勢還於倭居纏向宮。

五十五年春二月,戊子朔壬辰,以彥狹島王拜東山道十五國都督,是豐城命之孫也。然到春日穴咋邑,臥病而薨之。

是時,東國百姓悲其王不至,竊盜王尸,葬於上野國。

五十六年秋八月,詔御諸別王曰:「汝父彥狹島王不得向任所而早薨,故汝專領東國!」

是以御諸別王承天皇命,且欲成父業,則行治之,早得善政。時蝦夷騷動,即舉兵而擊焉。

時蝦夷首帥足振邊、大羽振邊、遠津間男邊等,叩頭而來之。頓首受罪,盡獻其地。因以免降者而誅不服。是以東久之無事焉。由是其子孫於今有東國。

五十七年秋九月,造阪手池,即竹蒔其堤上。

冬十月,令諸國興田部、屯倉。

五十八年春二月,辛丑朔辛亥,幸近江國,居志賀三歲。是謂,高穴穗宮。

六十年冬十一月,乙酉朔辛卯,天皇崩於高穴穗宮。時年一百六歲。

稚足彥天皇 成務天皇

一.即位與詔勅

稚足彥天皇,大足彥忍代別天皇第四子也。母皇后曰-八阪入姬命,八阪入彥皇子之女也。

大足彥天皇四十六年,立為太子,年廿四。

六十年冬十一月,大足彥天皇崩。

元年春正月,甲申朔戊子,皇太子即位。是年也,太歲辛未。

二年冬十一月,癸酉朔壬午,葬大足彥天皇於倭國之山邊道上陵。尊皇后曰-皇太后。

三年春正月,癸酉朔己卯,以武內宿禰為大臣也。初天皇與武內宿禰同日生之,故有異寵焉。

四年春二月,丙寅朔,詔之曰:「我先皇大足彥天皇聰明神武,膺錄受圖。洽天順人,撥賊反正,德侔覆燾,道協造化。是以普天率土莫不王臣,稟氣懷靈,何非得處!今朕嗣踐寶祚,夙夜兢惕。然黎元蠢爾,不悛野心。是國郡無君長,縣邑無首渠者焉。自今以後國郡立長,縣邑置首。即取當國之幹了者,任其國郡之首長。是為中區之蕃屏也!」

二.造長・稻置的設置

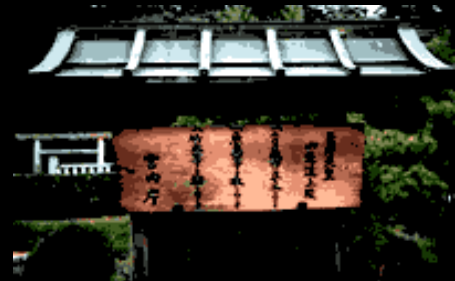
五年秋九月,令諸國,以國郡立造長,縣邑置稻置。並賜楯矛以為表。

則隔山河而分國縣,隨阡陌以定邑里。因以東西為-日縱,南北為-日橫,山陽曰-影面,山陰曰-背面。是以百姓安居,天下無事焉。

四十八年春三月,庚辰朔,立甥足仲彥尊為皇太子。

六十年夏六月,己巳朔己卯,天皇崩。時年一百七歲。

日本書紀卷第七 終



景行天皇山邊道上陵
成務二年冬十一月,癸酉朔壬午,葬大足彥天皇於倭國之山邊道上陵。



成務天皇倭國狹城盾列陵
成務六十年夏六月,己巳朔己卯,天皇崩。時年一百七歲。

[\[久遠・絆\]](#) [\[卷第六\]](#) [\[卷第八\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷第八 仲哀紀

足仲彥天皇 仲哀天皇



成務天皇六十一年,葬于倭國狹城盾列陵.因其無男,故立日本武尊第二子為皇太子.



角鹿
今福井縣敦賀市.
此碑所記歌「明月・~(上闕),
•••名・角鹿・戀・秋・月(下
闕)」

一.天皇即位,追慕其父日本武尊

足仲彥天皇,日本武尊第二子也.母皇后曰-兩道入姬命,活目入彥五十狹茅天皇之女也.天皇容姿端正,身長十尺.稚足彥天皇四十八年,立為太子.時年三十一.稚足彥天皇無男,故立為嗣.

六十年,天皇崩.

明年秋九月,壬辰朔丁酉,葬于倭國狹城盾列陵.盾列,此云••••.

元年春正月,庚寅朔庚子,太子即天皇位.

秋九月,丙戌朔,尊母皇后曰-皇太后.

冬十一月,乙酉朔,詔群臣曰:「朕未逮于弱冠而父王既崩之,乃神靈化白鳥而上天.仰望之情,一日勿息.是以冀獲白鳥,養之於陵域之池.因以睹其鳥,欲慰顧情!」則令諸國,俾貢白鳥.

閏十一月,乙卯朔戊午,越國貢白鳥四隻.

於是,送鳥使人宿菟道河邊.時蘆髮蒲見別王視其白鳥而問之曰:「何處將去白鳥也?」越人答曰:「天皇戀父王而將養狎,故貢之.」

則蒲見別王謂越人曰:「雖白鳥而燒之則為黑鳥!」仍強之奪白鳥而將去.

爰越人參赴之請焉.天皇於是惡蒲見別王無禮於先王,乃遣兵卒而誅矣.蒲見別王,則天皇之異母弟也.時人曰:「父是天也,兄亦君也.其慢天違君,何得免誅耶!」是年也,太歲壬申.

二年春正月,甲寅朔甲子,立氣長足姬尊為皇后.

先是,娶叔父彥人大兄之女-大中姬為妃.

生,麿阪皇子、忍熊皇子.

次娶來熊田造祖大酒主之女-弟媛.

生,譽屋別皇子.

二月,癸未朔戊子,幸角鹿.即興行宮而居之,是謂筭飯宮.

即月,定淡路屯倉.

二.熊襲征討

三月,癸丑朔丁卯,,天皇巡狩南國.

於是留皇后及百寮,而從駕二三卿大夫及官人數百而輕行之.至紀伊國而居于德勒津宮.

當是時,熊襲叛之不朝貢.天皇於是將討熊襲國.則自德勒津發之,浮海而幸穴門.

即日,遣使角鹿敕皇后曰:「便從其津發之,逢於穴門!」

夏六月,辛巳朔庚寅,天皇泊于豐浦津.

且皇后從角鹿發而行之,到淳田門,食於船上.時海鯽魚多聚船傍,皇后以酒灑鯽魚,鯽魚即醉而浮之.時海人多獲其魚而歡曰:「聖王所賞之魚焉!」故其處之魚至于六月,常傾浮如醉,其是之緣也.

秋七月,辛亥朔乙卯,皇后泊豐浦津.

是日,皇后得如意珠於海中.

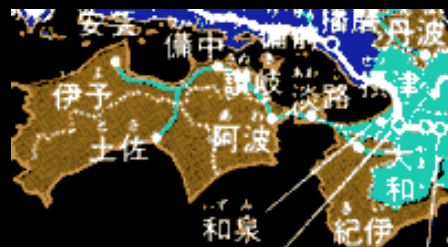
九月,興宮室于穴門而居之.是謂-穴門豐浦宮.

八年春正月,己卯朔壬午,幸筑紫.

時岡縣主祖熊鯉聞天皇之車駕,豫拔取五百枝賢木,以立九尋船之舳,而上枝掛白銅鏡,中枝掛十握劍,下枝掛八尺瓊,參迎于周芳沙麼之浦而獻魚鹽地.因以奏言:「自穴門至向津野大濟為東門,以名籠屋大濟為西門,限沒利島、阿閉島為御筥,割柴島為御甌,御甌,此云•••.以逆見海為鹽地!」

既而導海路,自山鹿岬迴之入岡浦.到水門,御船不得進.則問熊鯉曰:「朕聞,汝熊鯉者有明心以參來.何船不進?」熊鯉奏之曰:「御船所以不得進者,非臣罪.是浦口有男女二神,男神曰-大倉主,女神曰-菟夫羅媛,必是神之心歟.」

天皇則禱祈之,以挾杪者倭國菟田人-伊賀彥為祝令祭,則船得進.



南國
即南海道.見圖土色部分.



豐浦宮皇居跡記念碑
仲哀二年九月,興豐浦宮于穴門.

皇后別船,自洞海入之,洞,此云・・・潮涸不得進.

時熊襲更還之,自洞奉迎皇后.則見御船不進惶懼之,忽作魚沼、鳥池,悉聚魚鳥.皇后看是魚鳥之遊而忿心稍解,及潮滿即泊于岡津.

又筑紫伊睹縣主祖五十跡手聞天皇之行,拔取五百枝賢木,立于船之舳艫,上枝掛八尺瓊,中枝掛白銅鏡,下枝掛十握劍,參迎于穴門引島而獻之.因以奏言:「臣敢所以獻是物者,天皇如八尺瓊之勾以曲妙御宇,且如白銅鏡以分明看行山川海原,乃提是十握劍平天下矣!」

天皇即美五十跡手曰:「伊蘇志!」故時人號五十跡手之本土,曰-伊蘇國.今謂伊睹者,訛也.己亥,到儼縣,因以居-檀日宮.



伊蘇國

今福岡縣系島郡.圖為平原遺跡.



仲哀天皇聞神言,有疑之情.便登高岳,望大海,曠遠而不見國.



武內宿禰

景行天皇五十一年,立稚足彥尊為皇太子,武內宿禰為棟梁之臣.是為大臣之源起,行年計有300歲以上.

三.天皇質疑神託,崩御

秋九月,乙亥朔己卯,詔群臣以議討熊襲.

時有神,託皇后而誨曰:「天皇何憂熊襲之不服?是胥肉之空國也,豈足舉兵伐乎?愈茲國而有寶國,譬如處女之嫁,有向津國.嫁,此云・・・・眼炎之金、銀、彩色,多在其國.是謂-栲衾新羅國焉!若能祭吾者,則曾不血刃,其國必自服矣!復熊襲為服!其祭之,以天皇之御船及穴門直踐立所獻之水田,名-大田,是等物為幣也!」

天皇聞神言,有疑之情.便登高岳,遙望之大海,曠遠而不見國.於是天皇對神曰:「朕周望之,有海無國.豈於大虛有國乎?誰神徒誘朕,復我皇祖諸天皇等盡祭神祇,豈有遺神耶!」

時神亦託皇后曰:「如天津水影押伏而我所見國,何謂無國,以誹謗我言!其汝王之如此言而遂不信者,汝不得其國!唯今皇后始之有胎,其子有獲焉!」然天皇猶不信,以強擊熊襲,不得勝而還之.

九年春二月,癸卯朔丁未,天皇忽有痛身,而明日崩.時年五十二,即知,不用神言而早崩.一云,天皇親伐熊襲,中賊矢而崩也.

於是皇后及大臣武內宿禰匿天皇之喪,不令知天下.

則皇后詔大臣及中臣烏賊津連、大三輪大友主君、物部膽咋連、大伴武以連曰:「今天下未知天皇之崩.若百姓知之,有懈怠者乎!」則命四大夫,領百寮,令守宮中.竊收天皇之屍,付武內宿禰,以從海路遷穴門,而殯于豐浦宮,為無火殯斂.無火殯斂,此謂・・・・・

甲子,大臣武內宿禰自穴門還之,復奏於皇后.

是年,由新羅役,以不得葬天皇也.

日本書紀卷第八 終

[\[久遠・絆\]](#) [\[卷第七\]](#) [\[卷第九\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷第九 神功紀

氣長足姬尊 神功皇后

一.神功皇后獲得神託,熊襲征討

氣長足姬尊,稚日本根子彥大日天皇之曾孫,氣長宿禰王之女也.母曰-葛城高瀨媛.
足仲彥天皇二年,立為皇后.幼而聰明叡智,貌容壯麗.父王異焉.

九年春二月,足仲彥天皇崩於筑紫檀日宮.

時皇后傷天皇不從神教而早崩,以為,知所崇之神,欲求財寶國.是以命群臣及百寮,以解罪改過,更造齋宮於小山田邑.

三月,壬申朔,皇后選吉日入齋宮,親為神主,則命武內宿禰令撫琴,喚中臣烏賊津使主為審神者.因以千縷高縷置琴頭尾而請曰:「先日教天皇者誰神也?願欲知其名.」

逮于七日七夜,乃答曰:「神風伊勢國之百傳度逢縣之拆鈴五十鈴宮所居神,名-撞賢木嚴之御魂天疏向津媛命焉.」

亦問之:「除是神復有神乎?」答曰:「幡荻穗出吾也,於尾田吾田節之淡郡所居神之有也.」

問:「亦有耶?」答曰:「於天事代於虛事代玉籤入彥嚴之事代神有之也.」

問:「亦有耶?」答曰:「有無之不知焉.」

於是審神者曰:「今不答而更後有言乎?」則對曰:「於日向國橘小門之水底所居,而水葉稚之出居神,名-表筒男、中筒男、底筒男神之有也.」

問:「亦有耶?」答曰:「有無之不知焉.」遂不言且有神矣.時得神語,隨教而祭.

然後遣吉備臣祖-鴨別,令擊熊襲國.未經浹辰而自服焉.

且荷持田村有羽白熊鷲者,荷持,此云...其為人強健,亦身有翼,能飛以高翔.是以不從皇命,每略人民.

戊子,皇后欲擊熊鷲,而自檀日宮遷于松峽宮.時飄風忽起,御笠墮風.故時人號其處曰-御笠也.

辛卯,至層增岐野,即舉兵擊羽白熊鷲而滅之.謂左右曰:「取得熊鷲,我心則安.」故號其處曰-安也.

丙申,轉至山門縣,則誅土蜘蛛田油津媛.時田油津媛之兄-夏羽興軍而迎來,然聞其妹被誅而逃之.

夏四月,壬寅朔甲辰,北到火前國松浦縣而進食於玉島里小河之側.

於是,皇后勾針為鉤,取粒為餌,抽取裳縷為縵,登河中石上而投鉤祈之曰:「朕西欲求財國.若有成事者,河魚飲鉤!」因以舉竿,乃獲細鱗魚.

時皇后曰:「希見物也!希見,此云...」故時人號其處曰-梅豆羅國,今謂-松浦,訛也.是以其國女人每當四月上旬,以鉤投河中捕年魚,於今不絕.唯男夫雖釣,以不能獲魚.

既而皇后則識神教有驗,更祭祀神祇,躬欲西征,爰定神田而佃之.時引澮河水,欲潤神田而掘溝及于跡驚岡,大磐塞之不得穿溝.皇后召武內宿禰,捧劍、鏡令禱祈神祇,而求通溝.則當時,雷電霹靂,蹴裂其磐,令通水.故時人號其溝曰-裂田溝也.

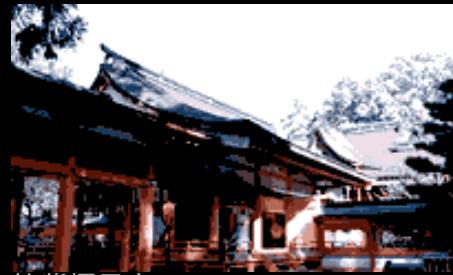
皇后還詣檀日浦,解髮臨海曰:「吾被神祇之教,賴皇祖之靈,浮涉滄海,躬欲西征.是以今頭滌海水,若有驗者,髮自分為兩!」即入海洗之,髮自分也.

皇后便結分髮而為髻,因以謂群臣曰:「夫興師動眾,國之大事.安危成敗,必在於斯!今有所征伐,以事付群臣,若事不成者,罪有於群臣,是甚傷焉.吾婦女之,加以不肖.然暫假男貌,強起雄略.上蒙神祇之靈,下藉群臣之助,振兵甲而度嶮浪,整艫船以求財土.若事就者,群臣共有功;事不就者,吾獨有罪!既有此意,其共議之!」

群臣皆曰:「皇后為天下,計所以安宗廟社稷,且罪不及臣下.頓首奉詔!」



神功皇后 改造紙幣刊



筑紫檀日宮

仲哀天皇崩於筑紫檀日宮.據傳粹死之天皇的棺木在本陣的椎木間散發出異香,是以今日該宮稱作香椎宮.



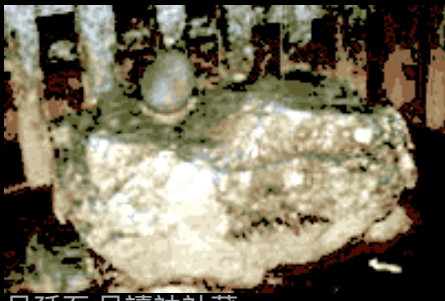
栗田 昔松峽宮所在



神功皇后 山車

將征新羅,神功皇后暫假男貌,強起雄略.其謂群臣言,征伐新羅之事,成則君臣同享,事若不成則己獨有罪.

二.得神相助之新羅親征



月延石 月讀神社藏

神功皇后開胎,是以取石插腰以鎮而祈之曰:「事竟還日,產於茲土!」其石今藏月讀神社境內。



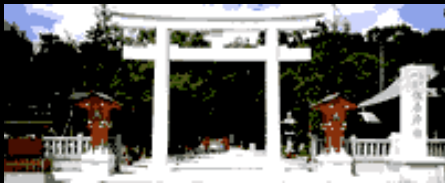
和珥津 今謂鯉津

足仲彥天皇九年冬十月,神功皇后領軍自和珥津發之,將伐百濟。



三韓略圖

新羅,高麗,百濟,臣服日本,謂作三韓。



長門住吉神社

住吉三神之荒魂祠於穴門山田邑也。

秋九月,庚午朔己卯,令諸國集船舶練兵甲。

時軍卒雖集,皇后曰:「必神心焉!」則立大三輪社,以奉刀、矛矣,軍眾自聚。

於是使吾瓮海人烏摩呂,出於西海,令察有國耶。還曰:「國不見也。」

又遣磯鹿海人名草而另睹,數日還之曰:「西北有山,帶雲橫縷,蓋有國乎!」

爰卜吉日,而臨發有日。時皇后親執斧鉞,令三軍曰:「金鼓無節,旌旗錯亂,則士卒不整,貪財多欲,懷私內顧,必為敵所擄。其敵少而誤輕,敵強而無屈,則姦暴勿聽,自服勿殺。遂戰勝者必有賞,背走者自有罪!」

既而神有誨曰:「和魂服王身而守壽命,荒魂為先鋒而導師船!和魂,此云……;荒魂,此云……」即得神教而拜禮之,因以依網吾彥男垂見為祭神主。

于時也適當皇后之開胎。皇后則取石插腰而祈之曰:「事竟還日,產於茲土!」其石今在于伊都縣道邊。既而則擣荒魂為軍先鋒,請和魂為王船鎮。

冬十月,己亥朔辛丑,從和珥津發之。

時飛廉起風,陽侯舉浪,海中大魚悉浮扶船。則大風順吹,帆船隨波,不勞櫓楫,便到新羅。

時隨船潮流遠遶國中,即知天神地祇悉助歟。

新羅王於是戰戰慄慄,盾身無所。則集諸人曰:「新羅之建國以來,未嘗聞海水凌國。若天運盡之,國為海乎!」是言未訖之間,船師滿海,旌旗耀日,鼓吹起聲,山川悉振。

新羅王遙望,以為非常之兵將滅己國,誓焉失志。乃今醒之曰:「吾聞,東有神國,謂-日本。亦有聖王,謂-天皇。必其國之神兵也,豈可舉兵以距乎?」即素旆而自服,素組以面縛,封圖籍,降於王船之前。因以叩頭之曰:「從今以後,長與乾坤,伏為飼部。其不乾船桅而春秋獻馬梳及馬鞭,復不煩海遠以每年貢男女之調。」則重誓之曰:「非東日更出西,且除阿利那禮河返以之逆流,及河石昇為星辰,而殊闕春秋之朝,怠廢梳、鞭之貢,天神地祇共討焉!」

時或曰:「欲誅新羅王。」於是皇后曰:「初承神教,將授金銀之國,又號令三軍曰:『勿殺自服!』今既獲財國,亦人自降服,殺之不祥。」乃解其縛為飼部,遂入其國中,封重寶府庫,收圖籍、文書。即以皇后所杖矛,樹於新羅王門,為後葉之印。故其矛今猶樹羅王之門也。

爰新羅王波沙寐錦即以微叱己知波珍干岐為質,仍贖金、銀、彩色及綾、羅、縑絹,載于八十艘船,令從官軍。是以新羅王常以八十船之調,貢于日本國,其是之緣也。

於是高麗、百濟二國王聞新羅收圖籍降於日本國,密令伺其軍勢,則知不可勝,自來于營外,叩頭而款曰:「從今以後,永稱西蕃,不絕朝貢!」

故因以定官家。是所謂三韓也。皇后從新羅還之。

十二月,戊戌朔辛亥,生豐田天皇於筑紫。故時人號其產處曰-宇瀨也。

一云,足仲彥天皇居筑紫橿日宮。

是有神,託沙麼縣主-內避高國避高松屋種,以誨天皇曰:「御孫尊也若欲得百濟國耶?將現授之。」便復曰:「琴將來以進于皇后。」則隨神言,而皇后撫琴。

於是神託皇后以誨之曰:「今御孫所望之國譬如鹿角以無實國也。其今御尊孫所御之船及穴戶直踐立所貢之水田,名-大田為幣,能祭我者,則如美女之賂而金、銀多之眼災國以授御尊孫。」

時天皇對神曰:「其雖神何謾語耶?何處將有國?且朕所乘船既奉於神,朕乘曷船?然未知誰神,願欲知其名。」

時神稱其名曰:「表筒雄、中筒雄、底筒雄。」如是稱三神名,且重曰:「吾名-向置男聞襲大歷五御魂速狹騰尊也。」

時天皇謂皇后曰:「聞惡事之言坐婦人乎?何言速狹騰也!」

於是神謂天皇曰:「汝王如是不信,必不得其國!唯今皇后懷妊之子蓋有獲歟!」是夜天皇乎發病以崩之。

然後皇后隨神教而祭。則皇后為男束裝征新羅。時神導之,由是隨船浪之,遠及于新羅國中。

於是新羅王子-宇流助富利智干參迎,跪之取王船,即叩頭曰:「臣自今以後,於日本國所居神御子,為內官家,無絕朝貢。」

一云,禽獲新羅王詣於海邊,拔王臙筋,令匍匐石上,俄而斬之埋沙中。則留一人為新羅宰而還之。然後新羅王妻不知埋夫屍之地,獨有誘宰之情。乃詵宰曰:「汝當令識埋王屍之處,必敦報之。且吾為汝妻!」

於是宰信誘言,密告埋屍之處。則王妻與國人共議之殺宰,更出王屍葬於他處。

時取宰屍埋于王墓土底,以舉王櫬,窆其上曰:「尊卑次第,故當如此!」

於是天皇聞之,重發震忿,大起軍眾,欲頓滅新羅。是以軍船滿海而詣之。

是時新羅國人悉懼,不知所如。則相集共議之,殺王妻以謝罪。

於是從軍神表筒男、中筒男、底筒男三神誨皇后曰:「我荒魂令祭於穴門山田邑也。」

時穴門直之祖-踐立、津守連之祖-田裳見宿禰啟於皇后曰:「神欲居之地,必宜奉定。」則以踐立,為祭荒魂之神主。仍祠立於穴門山田邑。

三.凱旋途中,麿阪・忍熊二王謀反

爰伐新羅之明年春二月,皇后領群卿及百寮,移于穴門豐浦宮,即收天皇之喪,從海路以向京。時麿阪王、忍熊王聞天皇崩,亦皇后西征,并皇子新生,而密謀之曰:「今皇后有子,群臣皆從焉,必共議之立幼主。吾等何以兄從弟乎?」乃詳為天皇作陵,詣播磨興山陵於赤石。

仍編船緇于淡路島,運其島石而造之。則每人令取兵,而待皇后。

於是,犬上君遠祖-倉見別與吉師祖-五十狹茅宿禰,共隸于麿阪王,因以為將軍,令興東國兵。

時麿阪王、忍熊王共出菟餓野而祈狩之曰:祈狩,此云……「若有成事,必獲良獸也!」

二王各居假廄,赤豬忽出之登假廄,咋麿阪王而殺焉。軍士悉慄也。

忍熊王謂倉見別曰:「是事大怪也,於此不可待敵。」則引軍更返,屯於住吉。

時皇后聞忍熊王啟師以待之,命武內宿禰懷皇子,橫出南海,泊於紀伊水門。皇后之船直指難波。

于時皇后之船迴於海中以不能進,更還務古水門而卜之。於是天照大神誨之曰:「我之荒魂不可近皇后,當居御心廣田國!」即以山背根子之女-葉山媛令祭。

亦稚日女尊誨之曰:「吾欲居活田長狹國。」因以海上五十狹茅令祭。

亦事代主尊誨之曰:「祠吾于御心長田國。」則以葉山媛之弟-長媛令祭。

亦表筒男、中筒男、底筒男三神誨之曰:「吾和魂宜居大津渟中倉之長峽,便因看往來船。」

於是隨神教以鎮坐焉,則平得度海。忍熊王復引軍退之,到菟道而軍之。

皇后南詣紀伊國,會太子於日高,以議及群臣。遂欲攻忍熊王,更遷小竹宮。小竹,此云……

適是時也,晝暗如夜,已經多日。時人曰:「常夜之行也。」

皇后問紀直祖-豐耳曰:「是怪何由矣?」時有一老父曰:「傳聞,如是怪謂-阿豆那比之罪也。」問何謂也,對曰:「二社祝者,共合葬歟。」

因以令推問巷里,有一人曰:「小竹祝與天野祝,共為善友,小竹祝逢病而死之。天野祝血泣曰:『吾也生為交友,何死之無宜同穴乎!』則伏屍側而自死,仍合葬焉。蓋是之乎。」乃開墓視之,實也。

故更改棺襪,各異處以埋之。則日暉炳燦,日夜有別。

三月,丙申朔庚子,命武內宿禰、和珥臣祖-武振熊,率數万眾,令擊忍熊王。

爰武內宿禰等選精兵從山背出之,至菟道以屯河北。忍熊王出營欲戰。

時有熊之凝者,為忍熊王君之先鋒。熊之凝者,葛城野城首之組也;一云,多吳吉師之遠組也。則欲勸己眾,因以高唱之歌曰:

彼方・……松原 松原・渡・行・… 櫓弓・……矢・副・
貴人・貴人……親友・… 親友・… …門・… 我・
………內・朝臣・腹內・砂………門・… 我・

時武內宿禰令三軍,悉令椎結,因以號令曰:「各以儲弦藏于髮中,且佩木刀。」

既而舉皇后之命,誘忍熊王曰:「吾勿貪天下,唯懷幼王,從君王者也。豈有距戰耶?願共絕弦捨兵,與連和焉。然則,君王登天業以安席,高枕專制万機!」則顯令軍中,悉斷弦解刀,投於河水。

忍熊王信其誘言,悉令軍眾,解兵投河水而斷弦。

爰武內宿禰令三軍,出儲弦更張,以佩真刀,度河而進之。

忍熊王知被欺,謂倉見別、五十狹茅宿禰曰:「吾既被欺,今無儲兵,豈可得戰乎?曳兵稍退!」

武內宿禰出精兵而追之,適遇于逢阪以破。故號其處曰-逢阪也。

軍眾走之,及于狹狹浪栗林而多斬。於是血流溢栗林。故惡是事,至于今,其栗林之果不進御所也。

忍熊王逃無所入,則喚五十狹茅宿禰而歌之曰:

……吾君 五十狹茅宿禰 ……內・朝臣・
頭槌・痛手負……鷺鳥・潛……

則共沉瀨田濟而死之。于時武內宿禰歌之曰:



明石神社

麿阪王、忍熊王詣播磨興山陵於赤石,其地今名明石。

[譯注]詳為天皇作陵:

『万象名義』云:「詳,詐也。」是以行偽作皇陵而私備叛軍之事也。



赤豬忽出登假廄,咋麿阪王而殺焉。

熊之凝勸己眾歌:

遠方在今疏松原 渡至松原弓架矢
貴人與今貴人眾 親友結今親友眾
速戰鬥兮我等者 命未絕兮內朝臣
其腹中今尚無砂 速戰鬥兮我等者

在遠方有著稀疏的松原,渡川行到那敵軍駐兵的松原,架起你們的規弓,接著將箭矢上弦,尊貴的人與尊貴的人相互團結,親好的人與親好的人相互團結,快戰鬥吧,我等的雄軍吶!那生命未盡之內朝臣武內宿禰的腹中,砂石尚未入於其中,快戰鬥吧,我等的雄軍吶!

忍熊王喚五十狹茅宿禰共死之歌:

來將速兮吾君者 五十狹茅宿禰矣
命未絕兮內朝臣 與其負於朝臣手
不若如鷺水下潛

來吧吾君五十狹茅宿禰!與其敗在那那生命未盡之內朝臣武內宿禰的手下,不如像鷺鳥般自沉水中算了!

武內宿禰探忍熊王屍之歌:

淡海海兮瀨田濟 水潛之鳥無以見
是以憤兮怒不盡

在淡海的海之瀨田濟中,找不到潛下水的鳥,這實在令人憤怒啊!
淡海海兮瀨田濟 水潛之鳥過田上 捕其之於宇治矣

淡海・海 瀬田・濟・ 潛・鳥 目・・見・・・ 憤・・

在淡海的海之瀬田濟中,潛下水的鳥啊,穿過了田上而在宇治被捕獲了!

於是探其屍而不得也.然後數日之出於菟道河.武內宿禰亦歌曰:

淡海・海 瀬田・濟・ 潛・鳥 田上過・・ 宇治・捕・・

冬十月,癸亥朔甲子,群臣尊皇后曰-皇太后.是年也,太歲辛巳.即為攝政元年.
二年冬十一月,丁亥朔甲午,葬天皇於河內國長野陵.



仲哀天皇惠我長野西陵



稚櫻神社
神功皇后磐余若櫻宮,『住吉大社神代記』云:磐余稚櫻宮.履中朝亦同之.推為今之稚櫻神社所在地也.

神功皇后壽太子歌:

此御酒兮非吾釀 神酒之司坐常世
立石上兮少御神 是其所釀御杜康
預祝舞兮狂踊釀 如此獻上是御酒
速為酌兮盡飲之

這御酒並不是我所釀的,而是掌管神酒而宿於常世,立於石上的少御神他狂踊祝福而釀造獻上的.快將這美酒飲盡吧!

武內宿禰為太子答歌:

此御酒兮釀之者 立此鼓兮白之旁
吟御歌兮釀御酒 此御酒兮甚味美
釀造這句酒的人,是站在鼓白之旁邊唱著歌邊釀造酒的吧!真是美味的酒啊!

四.譽田別皇子立太子

三年春正月,丙戌朔戊子,立譽田別皇子為皇太子.因以都於磐余.是謂-若櫻宮.

五年春三月,癸卯朔己酉,新羅王遣汙禮斯伐、毛麻利叱智、富羅母智等朝貢.仍有返先質微叱許智伐旱之情.

是以詔許智伐旱,而給之曰:「使者汙禮斯伐、毛麻利叱智等告臣曰:『我王以坐臣久不還,而悉沒妻子為俘.』冀還本土,知虛實而請焉.」皇太后則聽之,因以副葛城襲津彥而遣之.共到對馬,宿于鉏海水門.時新羅使者毛麻立叱智等竊分船及水手,載微叱旱岐,令逃於新羅.乃造芻靈,置微叱許智之床,詳為病者,告襲津彥曰:「微叱許智忽病之將死!」

襲津彥使人令看病,即知欺而捉新羅使者三人,納檻中,以火焚而殺.乃詣新羅,次于蹈備津,拔-草羅城還之.是時俘人等今桑原、佐麻、高宮、忍海,凡四邑漢人等之始祖也.

十三年春二月,丁巳朔甲子,命武內宿禰,從太子令拜角鹿笥飯大神.

癸酉,太子至自角鹿.是日,皇太后宴太子於大殿.皇太后舉觴以壽于太子,因以歌曰:

此・御酒・ 吾・御酒・・・ 神酒・司 常世・坐・
・・・・ 少御神・ 豐壽・ 壽・迴・・ 神壽・
壽・狂・・ 獻・來・ 御酒・ ・・・ 飲・ ・・

武內宿禰為太子答歌之曰:

此・御酒・ 釀・・・人・ ・・鼓 白・立・・ 歌・・・
釀・・・・・ 此・御酒・ ・・・ ・・樂・

三十九年.是年也,太歲己未.魏志云:明帝景初三年六月,倭女王遣大夫男斗米等,詣郡,求詣天子朝獻.太守鄧夏遣吏將送詣京都也.

四十年.魏志云:正始元年,遣建忠校尉-梯撫等,奉詔書、印綬,詣倭國也.

四十三年.魏志云:正始四年,倭王復遣使大夫伊聲者、掖耶約等八人上獻.



魏志:三國志魏書

五.與百濟國間的親交與契機

四十六年春三月,乙亥朔,遣斯摩宿禰于卓淳國.斯摩宿禰者,不知何姓人也.

於是卓淳王-末錦卑岐告斯摩宿禰曰:「甲子年七月中,百濟人久氏、彌州流、莫古三人到於我土曰:『百濟王聞東方有日本貴國而遣臣等令朝其貴國,故求道路以至於斯土.若能教臣等令通道路,則我王必深德君王.』時謂久氏等曰:『本聞東有貴國,然未曾有通,不知其道.唯海遠浪嶮,則乘大船僅可得通.若雖有路津,何以得答耶?』於是久氏等曰:『然即當今不得通也.不若,更還之備船舶,而後通矣.』仍曰:『若有貴國使人來,必應告吾國.』如此乃還.」

爰斯摩宿禰即以倭人-爾波移與卓淳人-過古二人,遣于百濟國,慰勞其王.

時百濟肖古王深之歡喜而厚遇焉,仍以五色彩絹各一匹及角弓箭,并鐵鋌四十枚,幣爾波移.

便復開寶藏,以示諸珍異曰:「吾國多有是珍寶.御貢貴國,不知道路,有志無從.然猶今付使者,尋貢獻耳.」於是波爾移奉事而還,告志摩宿禰.便自卓淳還之也.



韓國地圖 卓淳國位於右下



沙比

百濟人失道於沙比,為新羅人所虜,禁於囹圄,經三月而欲殺.於時久氏等詛咒之,新羅人怖其咒而不殺,則奪貢物以易之.

沙比,同「訥田別皇子立太子」一段之鉏海.今韓國慶尚南道梁山一帶.

六.相互朝貢,百濟・新羅的爭執

四十七年夏四月,百濟王使久氏、彌州流、莫古令朝貢.

時新羅國調使與久氏共詣,於是皇太后、太子-訥田別尊大歡喜之曰:「先王所望國人今來朝之!痛哉,不逮于天皇矣!」群臣皆莫不流涕.

仍檢校二國之貢物.於是,新羅貢物者珍異甚多,百濟貢物者少賤不良.

便問久氏等曰:「百濟貢物不及新羅,奈之何?」對曰:「臣等失道至沙比新羅,則新羅人捕臣等禁囹圄,經三月而欲殺.時久氏等向天而詛咒之,新羅人怖其咒而不殺,則奪我貢物,因以為己國之貢物,以新羅賤物相易,為臣國之貢物.謂臣等曰:『若誤此辭者,即于還日,當殺汝等!』故久氏等恐怖而從耳,是以僅得達于天朝.」

時皇太后、訥田別尊責新羅使者,因以祈天神曰:「當遣誰人於百濟,將檢事之虛實;當遣誰人於新羅,將推問其罪?」便天神誨之曰:「令武內宿禰行議;因以千熊長彥為使者,當如所願.千熊長彥者分明不知其姓名;一云,武藏國人,今是額田部槻本首等之始祖也.百濟記云:職麻那那加比跪者,蓋是歟也.」

於是遣千熊長彥于新羅責,以濫百濟之獻物.

七.再征討新羅

四十九年春三月,以荒田別、鹿我別為將軍.則與久氏等共勒兵而度之,至卓淳國,將襲新羅.

時或曰:「兵眾少之,不可破新羅.」更復奏上沙白、蓋盧,請增軍士.即命木羅斤資、沙沙奴跪,是二人不知其姓人也,但木羅斤資者百濟將也.領精兵與沙白、蓋盧共遣之.

俱集于卓淳,擊新羅而破之.因以平定比自盆、南加羅、喙國、安羅、多羅、卓淳、加羅七國.

乃移兵,西迴至古奚津,屠南蠻-忱彌多禮,以賜百濟.於是其王肖古及王子-貴須亦領軍來會.

時比利、辟中、布彌支、半古四邑自然降服,是以百濟王父子及荒田別、木羅斤資等共會意流村.今云,州流須祗.相見欣感,厚禮送遣之.

唯千熊長彥與百濟王,至于百濟國,登辟支山盟之.復登古沙山,共居磐石上.

時百濟王盟之曰:「若敷草為坐,恐見火燒.且取木為坐,恐為水流.故居磐石而盟者,示長遠之不朽者也!是以自今以後,千秋萬歲,無絕無窮,常稱西蕃,春秋朝貢!」

則將千熊長彥至都下,厚加禮遇.亦副久氏等而送之.

五十年春二月,荒田別等還之.

夏五月,千熊長彥、久氏等至自百濟.

於是皇太后歡之問久氏曰:「海西諸韓既賜汝國,今何事以頻復來也?」

久氏等奏曰:「天朝鴻澤遠及弊邑,吾王歡喜踊躍,不任于心,故因還使以致至誠.雖逮萬世,何年非朝!」皇太后敕云:「善哉汝言,是朕懷也!」增賜多沙城,為往還路驛.

五十一年春三月,百濟王亦遣久氏朝貢.

於是皇太后語太子及武內宿禰曰:「朕所交親百濟國者,是天所致,非由人故.玩好珍物,先所未有.不闕歲時,常來貢獻.朕省此款,每用喜焉.如朕存時,敦加恩惠!」

即年,以千熊長彥,副久氏等遣百濟國.

因以垂大恩曰:「朕從神所驗,始開道路,平定海西以賜百濟.今復厚結好,永寵賞之!」



古奚津

皇軍於古奚津屠南蠻忱彌多禮.古奚津,今在韓全羅南道康津.



千熊長彥與百濟王共登辟支山盟之.辟支山,今全羅北道金堤一帶.

是時百濟王父子並顙致地啟曰：「貴國鴻恩，重於天地。何日何時，敢有忘哉？聖王在上，明如日月；今臣在下，固如山岳。永為西蕃，終無貳心！」

五十二年秋九月，丁卯朔丙子，久氏等從千熊長彥詣之。

則獻七枝刀一口、七子鏡一面及種種重寶。仍啟曰：「臣國以西有水，源出自谷那鐵山，其遡七日行之不及。當飲是水，便取是山鐵以永奉聖朝。乃謂孫枕流王曰：『今我所通東海貴國，是天所啟。是以垂天恩，割海西而賜我，由是國基永固。汝當善脩和好，聚斂土物，奉貢不絕，雖死何恨！』」自是後，每年相續朝貢焉。

五十五年，百濟肖古王薨。

五十六年，百濟王子貴須立為王。

六十二年，新羅不朝。

即年，遣襲津彥擊新羅。

百濟記云：壬午年，新羅不奉貴國。貴國遣沙至比跪令討之。

新羅人莊飾美女二人迎誘於津。沙至比跪受其美女，反伐加羅國。

加羅國王-己本旱岐及兒-百久氏、阿首至、國沙利、伊羅麻酒、爾汶至等將其人民，來奔百濟。百濟厚遇之。

加羅王妹-既殿至，向大倭啟云：「天皇遣沙至比跪，以討新羅。而納新羅美女，捨而不討，反滅我國，兄弟、人民皆為流沈。不任憂思，故以來啟！」天皇大怒，即遣木羅斤資，領兵眾來集加羅，復其社稷。

一云，沙至比跪知天皇怒，不敢公還，乃自竄伏。其妹有幸於皇宮者，比跪密遣使人，問天皇怒解不。

妹乃託夢言：「今夜夢見沙至比跪。」天皇大怒云：「比跪何敢來！」妹以皇言報之，比跪知不免，入石穴而死也。

六十四年，百濟國貴須王薨。王子枕流王立為王。

六十五年，百濟枕流王薨。王子阿花年少，叔父-辰斯奪立為王。

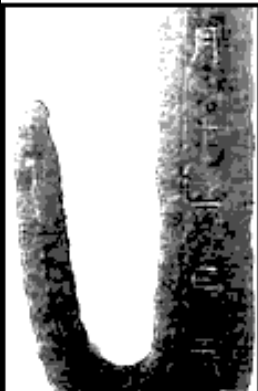
六十六年，是年，晉武帝泰初二年。晉起居注云，武帝泰初二年十月，倭女王遣重譯貢獻。

六十九年夏四月，辛酉朔丁丑，皇太后崩於稚櫻宮。時年一百歲。

冬十月，戊午朔壬申，葬狹城盾列陵。是日，追尊皇太后，曰-氣長足姬尊。是年也，太歲己丑。

日本書紀卷第九 終

七支刀



七支刀

神功皇后攝政五十二年，久氏獻七枝刀一口、七子鏡一面及種種重寶。七支刀者，以谷那鐵山之神鐵所鑄，今奉於奈良縣石上神宮以為神寶。

[\[久遠・絆\]](#) [\[卷第八\]](#) [\[卷第十\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷第十 應神紀

譽田天皇 應神天皇



筑紫蚊田 應神天皇御降誕地碑
今位於福岡縣粕屋郡宇美町宇美八幡宮境內。碑文如下：嶽辭之石，是為露蹟之碑實，初地方之有志者，謀建碑之事予余，余大嘉之，請諸主省允可，遂請揮毫於有栖川一品大勳位熾仁親王，今茲五月書成，囑僚屬磯田正敬鉤募，命工彫鵠焉，而其真蹟別珍藏於神庫，以僅後世云，志可謂篤美乃記。
明治二十四年八月十五日 福岡縣知事從三位勳二等安場保和。



伊豆國 三島大明神總社之圖



宇治
菟道野，即山城國宇治郡宇治，今在京都府宇治市。

應神天皇菟道野上歌：
若見千葉葛野乎 千百家庭入眼簾
是以如視國秀麗

一. 誕生與即位

譽田天皇，足仲彥天皇第四子也。母曰-氣長足姬尊。

天皇以皇后討新羅之年，歲次庚辰冬十二月，生於筑紫之蚊田。

幼而聰達，玄監深遠，動容進止，聖表有異焉。

皇太后攝政之三年，立為皇太子。時年三。

初天皇在孕而天神地祇授三韓，既產之，肉生腕上，其形如兩，是肖皇太后為雄裝之負兩。肖，此云・・・故稱其名謂-譽田天皇。上古時，俗號兩謂・・・焉。

一云，初天皇為太子，行于越國，拜祭角鹿箭飯大神。時大神與太子名相易，故號大神曰-去來紗別神，太子名-譽田別尊。

然則可謂大神本名-譽田別神，太子元名-去來紗別尊，然無所見也，未詳。

攝政六十九年夏四月，皇太后崩。時年百歲。

元年春正月，丁亥朔，皇太子即位。是年也，太歲庚寅。

二年春三月，庚戌朔壬子，立-仲姬為皇后。

后生，荒田皇女、大鷦鷯天皇、根鳥皇子。

先是，天皇以皇后姊-高城入姬為妃。

生，額田大中彥皇子、大山守皇子、去來真稚皇子、大原皇女、潞來田皇女。

又妃，皇后弟-弟姬。

生，阿倍皇女、淡路御原皇女、紀之菟野皇女。

次妃，和珥臣祖-日觸使主之女-宮主宅媛。

生，菟道稚郎皇子、矢田皇女、雌鳥皇女。

次妃，宅媛之弟-小甌媛。小甌，此云・・・。

生，菟道稚郎姬皇女。

次妃，河派仲彥女-弟媛。

生，稚野毛二派皇子。派，此云・・・。

次妃，櫻井田部連男鉏之妹-絲媛。

生，隼總別皇子。

次妃，日向泉長媛。

生，大葉枝皇子、小葉枝皇子。

凡是天皇男女，并二十王也。

根鳥皇子，是大田君之始祖也。

大山守皇子，是土形君、榛原君，凡二族之始祖也。

去來真稚皇子，是深河別之始祖也。

三年冬十月，辛未朔癸酉，東蝦夷悉朝貢。即役蝦夷而作廢阪道。

十一月，處處海人，訕嗆之不從命。訕嗆，此云・・・。

則遣阿曇連祖-大濱宿禰，平其訕嗆。因為海人之宰，故俗人諺曰：「佐麼海人」者，其是緣也。是歲，百濟辰斯王立之，失禮於貴國天皇。

故遣紀角宿禰、羽田矢代宿禰、石川宿禰、木菟宿禰，噴讓其無禮狀。

由是，百濟國殺辰斯王以謝之。紀角宿禰等便立阿花為王而歸。

五年秋八月，庚寅朔壬寅，令諸國，定海人及山守部。

冬十月，科伊豆國，令造船，長十丈。

船既成之，試浮于海，便輕泛疾行如馳。故名其船曰-枯野。由船輕疾名枯野，是義違焉；若謂輕野，後人訛歟。

六年春二月，天皇幸近江國。至菟道野上而歌之曰：

千葉・葛野・見・百千足・家庭・見・國・秀・見・

七年秋九月，高麗人、百濟人、任那人、新羅人，並來朝。

時命武內宿禰，領諸韓人等作池。因以名池號-韓人池。

八年春三月，百濟人來朝。

百濟記云：阿花王立，無禮於貴國。故奪我枕彌多禮及峴南、支侵、谷那東韓之地。

如果去千葉的葛野看看,就能見得千千百百的村落群集,正是見到了國家秀麗的一面啊!

是以遣王子直支于天朝,以脩先王之好也。

二.甘美內宿禰關於武內宿禰的讒言

九年夏四月,遣武內宿禰於筑紫,以監察百姓。

時武內宿禰弟-甘美內宿禰欲廢兄,即讒言于天皇:「武內宿禰常有望天下之情,今聞在筑紫而密謀之曰:『獨裂筑紫,招三韓令朝于己,遂將有天下!』」於是天皇則遣使,以令殺武內宿禰。

時武內宿禰歎之曰:「吾元無貳心,以忠事君,今何禍矣,無罪而死耶?」

於是有壹伎直祖-真根子者,其為人能似武內宿禰之形,獨惜武內宿禰無罪而空死,便語武內宿禰曰:「今大臣以忠事君,既無心,天下共知,願密避之參赴于朝,親辨無罪而後死不晚也!且時人每云:『僕形似大臣。』故今我代大臣而死之,以明大臣之丹心!」則伏劍自死焉。

時武內宿禰獨大悲之,竊避筑紫,浮海以從南海迴之,泊於紀水門,僅得逮朝,乃辨無罪。

天皇則推問武內宿禰與甘美內宿禰,於是二人各堅執而爭之,是非難決。

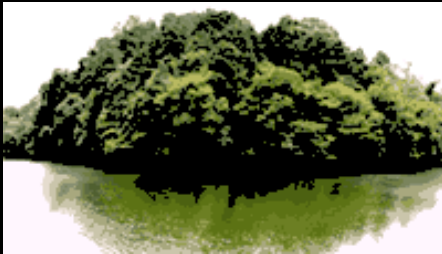
天皇敕之令請神祇探湯,是以武內宿禰與甘美內宿禰,共出于磯城川湄為探湯,武內宿禰勝之,便執橫刀以毆仆甘美內宿禰,遂欲殺焉。

天皇敕之令釋,仍賜紀直等之祖也。



櫻神宮 探湯式

隋書東夷傳倭國條云:小石置沸湯中,為競者之探,理屈者,即手爛。



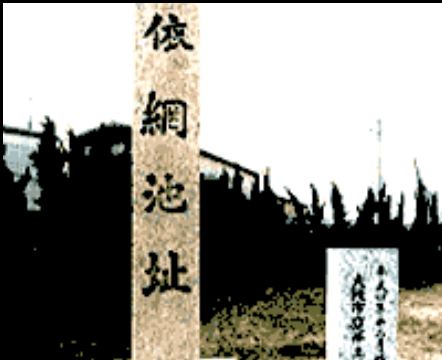
劍池

今奈良縣橿原市石川町劍池。

應神天皇指髮長媛歌:

君速至野摘其蒜 於吾摘蒜行道上
芳香甚兮花橘在 其橘下枝人皆取
其橘上枝鳥居枯 三栗中枝花殘在
如花蕾兮美孀子 今若花開映榮輝

吾君啊,快去那平原摘蒜吧!在我那摘蒜的路上,開著芬芳的花橘,花橘的下枝已經被人採光了,而其上枝也因為鳥兒的棲息而枯萎,生長在中間的花則尚在,有若那花蕾般亮麗的女孩子,現在正像花開般的散發著光輝。



大依羅神社 依網池跡

大鷦鷯尊與髮長媛歌:

日向小膚孀子矣 美名時間震如雷
欲與汝兮交相枕

日向(道後)•••的孀子啊,你貌美的傳言就雷聲般如震耳不絕的傳來,好想與你相枕啊!

日向小膚孀子矣 無違逆兮相枕眠
是感汝心摯愛乎

三.日向的髮長媛

十一年冬十月,作劍池・輕池・鹿垣池・廐阪池。

是歲,有人奏之曰:「日向國有孀子,名髮長媛,即諸縣君-牛諸井之女也,是國色之秀者!」天皇悅之,心裏欲覓。

十三年春三月,天皇遣專使,以徵髮長媛。

秋九月中,髮長媛至自日向,便安置於桑津邑。

愛皇子大鷦鷯尊及見髮長媛,感其形之美麗,常有戀情。

於是天皇知大鷦鷯尊感髮長媛而欲配,是以天皇宴于後宮之日,始喚髮長媛,因以坐于宴席。時搗大鷦鷯尊,以指髮長媛,乃歌之曰:

••吾君 野•蒜摘••我•行•道•香•••花橘
下枝••人皆取•上枝•鳥居枯••
三栗•中枝•••••明••孀子••榮映••

於是大鷦鷯尊蒙御歌,便知得賜髮長媛而大悅之報歌曰:

水渟•依網池•尊縹•延•••知••
堰杙築•川岐江•菱莖••••知••吾•心•••愚•••

大鷦鷯尊與髮長媛既得交慰懃,獨對髮長媛歌之曰:

道•後•••孀子•神•••聞••••相枕••

又歌之曰:

道•後•••孀子 爭••寢•••••愛••思•

一云,日向諸縣君-牛仕于朝廷,年既耆耄之,不能仕,仍致仕退於本土,則貢上己女-髮長媛。

始至播磨,時天皇幸淡路島而遊獵之,於是天皇西望之,數十麋鹿浮海來之,便入于播磨鹿子水門。

天皇謂左右曰:「其何麋鹿也,泛巨海多來?」愛左右共視而奇,則遣使令察,使者至見,皆人也,唯以著角鹿皮,為衣服耳。

問曰:「誰人也?」對曰:「諸縣君-牛,是年耆之雖致仕,不得忘朝,故以己女-髮長媛而貢上矣。」

天皇悅之,即喚令從御船,是以時人號其著岸之處曰-鹿子水門也。凡水手曰-鹿子,蓋始起于是時也。

日向(道後)。。。的孃子啊,你不加拒否的
與我共枕,讓我深感你那真誠的愛意。

四.弓月君．阿直岐等來歸

十四年春二月,百濟王貢縫衣工女,曰-真毛津,是今來目衣縫之始祖也。
是歲,弓月君自百濟來歸。
因以奏之曰:「臣領己國之人夫百二十縣而歸化.然因新羅人之拒,皆留加羅國。」
爰遣葛城襲津彥,而召弓月之人於加羅.然經三年,而襲津彥不來焉。
十五年秋八月,壬戌朔丁卯,百濟王遣阿直岐,貢良馬二匹。
即養於輕阪上殿.因以阿直岐令掌飼,故號其養馬之處曰-殿阪也。
阿直岐亦能讀經典,及太子菟道稚郎子師焉。
於是天皇問阿直岐曰:「如勝汝博士亦有耶?」對曰:「有王仁者,是秀也。」
時遣上毛野君祖-荒田別．巫別於百濟,仍徵王仁也.其阿直岐者,阿直岐史之始祖也。
十六年春二月,王仁來之.則太子菟道稚郎子師之,習諸典籍於王仁.莫不通達.所謂王仁者,是書首等始祖也。

是歲,百濟阿花王薨.天皇召直支王謂之曰:「汝返於國以嗣位!」仍且賜東韓之地而遣之.東韓者,甘羅城．高難城．爾林城是也。

八月,遣平群木菟宿禰．的戶田宿禰於加羅。
仍授精兵詔之曰:「襲津彥久之不還,必由新羅之拒而滯之.汝等急往之擊新羅,披其道路!」
於是木菟宿禰等進精兵,蒞于新羅之境.新羅王愕之服其罪。
乃率弓月之人夫,與襲津彥共來焉。
十九年冬十月,戊戌朔,幸吉野宮。
時國樸人來朝之,因以醴酒獻于天皇而歌之曰:

檀・生・ 橫白・作・ 橫白・ 釀・ 大御酒
・ 聞・持・食・ 父

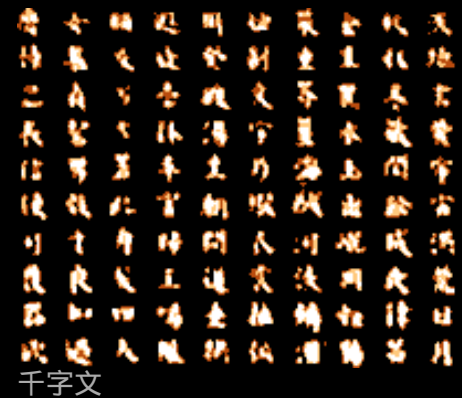
歌之既訖,則打口以仰笑.今國樸獻土毛之日,歌訖即擊石仰笑者,蓋上古之遺則也。
夫國樸者,其為人甚淳朴也.每取山果食,亦煮蝦蟇為上味,名曰-毛瀾。
其土自京東南之,隔山而居于吉野河上,峰嶮谷深,道路狹巘.故雖不遠於京,本希朝來。
然自此以後,屢參赴以獻土毛.其土毛者,栗．菌及年魚之類焉。
二十年秋九月,倭漢直祖-阿知使主,其子-都加使主,並率己之黨類十七縣而來歸焉。



大隅神社
在於大阪市上新庄,是為應神天皇難波大隅宮承傳地。

應神天皇居高台望兄媛船歌:
淡路島兮小豆島 兩兩相並甚合適
是何人者引其離 欲相見兮吉備妹

淡路島和小豆島兩坐並列島,看起來是多麼的配啊!是什麼人把它們拆散了呢?吉備的兄媛啊,我是多麼的想見到妳!



千字文
雖紀無詳述,然『古事記』云:有和邇(・・)吉師.此人攜論語十卷,千字文一卷,并十一卷而一同貢進。
是記所云和邇者,紀之王仁(・・)也。

國樸人醴酒獻天皇歌:
檀生處兮作橫白 其白所釀大御酒
聞其味美今獻上 謹以奉食我者父
在那檀所生長的地方建造橫白,據聞用那橫白所釀造出來的酒相當的美味,所以在此召之獻上,我之父啊,請您好好品嚐!



國栖奏
國樸人行獻土毛之祭所詠歌舞是也。

五.追隨妃兄媛歸省之吉備行幸

二十二年春三月,甲申朔戊子,天皇幸難波,居於大隅宮。
丁酉,登高台而遠望.時兄媛待之,望西以大歎.兄媛者,吉備臣祖-御友別之妹也。
於是天皇問兄媛曰:「何爾歎之甚也?」對曰:「近日妾有戀父母之情,便因西望而自嘆矣.冀暫還之,得省親歟。」
天皇愛兄媛篤溫清之情,則謂之曰:「爾不視二親,既經多年.還欲定省,於理灼然!」則聽之。
仍喚淡陸御原之海人八十人為水手,送于吉備。
夏四月,兄媛自大津發船而往之.天皇居高台,望兄媛之船以歌曰:

淡路島 二並 小豆島 二並
宜 島 誰 吉備 妹 相見

秋九月,辛巳朔丙戌,天皇狩于淡路島.是島者橫海,在難波之西.峰巖紛錯,陵谷相續,芳草薈蔚,長瀾潺湲.亦麋鹿．鳬．鴈多在其島。
故乘輿屢遊之.天皇便自淡路轉,以幸吉備,遊於小豆島。
庚寅,亦移居於葉田葦守宮.葉田,此云・・.時御友別參赴之.則以其兄弟子孫為膳夫而奉饗焉。
天皇於是看御友別謹惶侍奉之狀,而有悅情.因以割吉備國,封其子等也。
則分,川島縣,封長子-稻速別.是下道臣之始祖也。



葦守八幡宮

岡山縣岡山市下足守葦守八幡宮,據傳為應神天皇葉田葦守宮之所在地。

次以,上道縣封中子-仲彥.是上道臣.香屋臣之始祖也。

次以,三野縣封-弟彥.是三野臣之始祖也。

復以,波區藝縣封御友別弟-鴨別.是笠臣之始祖也。

即以,苑縣封兄浦凝別.是苑臣之始祖也。

即以,織部賜兄媛.是以其子孫於今在于吉備國,是其緣也。

二十五年,百濟直支王薨.即子-久爾辛立為王。

王年幼.木滿致執國政,與王母相姪,多行無禮.天皇聞而召之。

百濟記云:木滿致者,是木羅斤資討新羅時,娶其國婦而所生也.以其父功,專於任那。

來入我國,往還貴國.承制天朝,執我國政,權重當世.然天朝聞其暴召之。

二十八年秋九月,高麗王遣使朝貢,因以上表.其表曰:「高麗王教日本國也。」

時太子菟道稚郎子讀其表,怒之責高麗之使以表狀無禮,則破其表。

六.枯野船與縫工女渡來,太子立位問題

三十一年秋八月,詔群卿曰:「官船名-枯野者,伊豆國所貢之船也,是朽不堪用.然久為官用,功不可忘.何其船名勿絕,而得傳後葉焉?」群卿便被詔,以令有司,取其船材,為薪而燒鹽。

於是得五百籠鹽,則施之周賜諸國,因令造船.是以諸國一時貢上五百船,悉集於武庫水門。

當是時,新羅新羅調使共宿武庫.爰於新羅停忽失火,即引之及于聚船而多船見焚.由是責新羅人。

新羅王聞之,讐然大驚,乃貢能匠者.是豬名部等之始祖也。

初枯野船為鹽薪燒之日,有餘燼,則奇其不燒而獻之.天皇異以令作琴,其音鏗鏘而遠聆.是時天皇歌之曰:

枯野・鹽・燒・其・余・琴・作・搔・彈・
由良・門・門中・海石・振・立・・・・木・囀・

三十七年春二月,戊午朔,遣阿知使主.都加使主於吳,令求縫工女。

爰阿知使主等渡高麗國,欲達于吳.則至高麗,更不知道路.乞知道者於高麗。

高麗王乃副久禮波.久禮志二人為導者,由是得通吳.吳王於是與工女兄媛.弟媛.吳

織.穴織四婦女。

三十九年春二月,百濟直支王遣其妹-新齊都媛以令仕。

爰新齊都媛率七婦女而來歸焉。

四十年春正月,辛丑朔戊甲,天皇召大山守命.大鷦鷯尊,問之曰:「汝等者愛子耶?」對言:「甚愛也。」亦問之:「長與少孰尤焉?」大山守命對言:「不逮于長子。」於是天皇有不悅之色.時大鷦鷯尊預察天皇之色,以對言:「長者多經寒暑,既為成人,更無悵矣.唯少子者,未知其成不.是以少子甚憐之。」天皇大悅曰:「汝言寔合朕之心!」

是時天皇常有立菟道稚郎子為太子之情,然欲知二皇子之意,故發是問.是以不悅大山守命之對言也。

甲子,立菟道稚郎子為嗣。

即日,任大山守命,令掌山川林野,以大鷦鷯尊為太子輔,之令知國事。

四十一年春二月,甲午朔戊申,天皇崩于明宮.時年一百一十歲.一云,崩于大隅宮。

是月,阿知使主等自吳至筑紫.時胸形大神有乞工女等。

故以兄媛奉於胸形大神,是則今在筑紫國御使君之祖也。

既而率其三婦女,以至津國,及于武庫,而天皇崩之,不及。

即獻于大鷦鷯尊.是女人等之後,今吳衣縫.蚊屋衣縫是也。

日本書紀卷第十 終



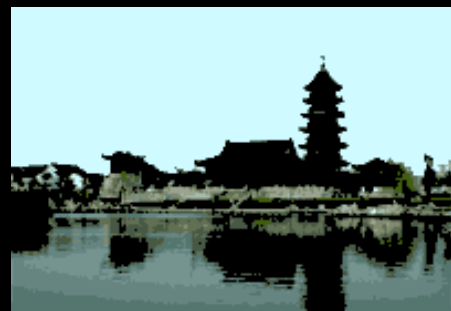
武庫水門

『和名抄』載:「攝津國武庫郡武庫。」其地是為今日本兵庫縣尼崎市武庫川河口之東岸。

天皇歌枯野之琴詩:

枯野船兮焚鹽作 此其餘者作為琴
騷彈此琴音色發 由良門兮海中石
石振耳語若藻搖

枯野船的船材為了作鹽而焚燒,而殘留下來的木材則作為這琴.騷弄這琴的琴弦,音色穿過由良海峽而使其海中的石頭猶如海藻般浮動的耳語著。



吳國

位於今中國江南一代.當是時,日本統稱中國之江南王朝作吳。

『宋書』倭國傳云:讚(倭五王之一)又遣司馬曹達,表奉方物以獻之。

[\[久遠・絆\]](#) [\[卷第九\]](#) [\[卷十一\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷十一 仁德紀

大鷦鷯天皇 仁德天皇

一. 菟道稚郎子謙讓與皇位辭退

大鷦鷯天皇,譽田天皇之第四子也.母曰-仲姬命,五百城入彥皇子之孫也.

天皇幼而聰明叡智,貌容美麗.及壯,人寬慈惠.

四十一年春二月,譽田天皇崩.

時太子-菟道稚郎子讓位於大鷦鷯尊,未即帝位.仍詔大鷦鷯尊:「夫,君天下以治萬民者,蓋之如天,容之如地.上有驩心以使百姓,百姓欣然天下安矣.今我也弟之,且文獻不足,何敢繼嗣位,登天位乎?大王者風姿岐嶷,仁孝遠聆,以齒且長,足為天下之君.其先帝立我為太子,豈有能才乎?唯愛之者也.亦,奉宗廟社稷,重事也,僕之不佞,不足以稱.夫昆上而季下,聖君而愚臣,古今之常典焉.願王勿疑,須即帝位.我則為臣之助耳.」

大鷦鷯尊對言:「先皇謂:『皇位者一日之不可空.』故預選明德,立王為貳,祚之以嗣,授之以民,崇其寵章,令聞於國.我雖不賢,豈棄先帝之命,輕從弟王之願乎?」故辭不承,各相讓之.

是時額田大中彥皇子將掌倭屯田及屯倉,而謂其屯田司-出雲臣之祖-淤宇宿禰曰:「是屯田者自本山守地.是以今吾將治矣.爾不可掌.」時淤宇宿禰啟于皇太子.皇太子謂之曰:「汝便啟大鷦鷯尊.」於是淤宇宿禰啟大鷦鷯尊曰:「臣所任屯倉者大中彥皇子距不令治.」

大鷦鷯尊問倭直祖-麻呂曰:「倭屯田者元謂山守地,是如何?」對言:「臣之不知.唯臣弟-吾子籠知也.」適是時,吾子籠遣於韓國而未還.爰大鷦鷯尊謂淤宇曰:「爾躬往於韓國,以喚吾子籠.其兼日夜而急往!」乃差淡路之海人八十為水手.爰淤宇往于韓國,即率吾子籠而來之.

因問倭屯田,對言:「傳聞之,於纏向玉城宮御宇天皇之世,科太子大足彥尊,定倭屯田也.是時敕旨:『凡倭屯田者,每御宇帝皇之屯田也.其雖帝皇之子,非御宇者不得掌矣.』是謂山守地非之也.」時大鷦鷯尊遣吾子籠於額田大中彥皇子,而令知狀.

大中彥皇子更無如何焉.乃知其惡而赦之勿罪.

然後大山守皇子每恨先帝廢之非立而重有是怨.則謀之曰:「我殺太子,遂登帝位.」

爰大鷦鷯尊預聞其謀,密告太子,備兵令守.時太子設兵待之.大山守皇子不知其備兵,獨領數百兵士,夜半發而行之.會明詣菟道,將渡河.

時太子服布袍,取楫櫓,密接度子,以載大山守皇子而濟.至於河中,詵度子,蹈船而傾.於是大山守皇子墮河而沒更浮,流之歌曰:

。。。人 菟道・渡・ 櫓取・ 速・ 人・ 我・仲間・來・

然伏兵多起,不得著岸,遂沉而死焉.令求其屍,泛於考羅濟.時太子視其屍,歌之曰:

。。。人 菟道・渡・ 渡手・ 立・

梓宮檀 伐・ 心・思・ 取・ 心・思・

本邊・ 君・思・出 末邊・ 妹・思・出

苛・ 思・ 悲・ 思・ 伐・ 來・ 梓宮檀

乃葬于那羅山.

既而興宮室於菟道而居之,猶由讓位於大鷦鷯尊,以久不即皇位.

爰皇位空之,既經三載,時有海人,齎鮮魚之苞苴,獻于菟道宮也.

太子令海人曰:「我非天皇.」乃返之令進難波.大鷦鷯尊亦返以令獻菟道.

於是海人之苞苴餒於往還,更返之,取他鮮魚而獻焉.讓如前日,鮮魚亦餒.海人苦於屢還,乃棄鮮魚而哭.故諺曰:「有海人耶,因已物以泣.」其是之緣也.

太子曰:「我知不可奪兄王之志.豈久生之煩天下乎?」乃自死焉.

時大鷦鷯尊聞太子薨,以驚之從難波馳之,到菟道宮.爰太子薨之經三日.

時大鷦鷯尊擗擗叫哭,不知所如,乃解髮跨屍,以三呼曰:「我弟皇子!」乃應時而活,自起以居.爰大鷦鷯尊語太子曰:「悲兮!惜兮!何所以歟自逝之?若死者有知,先帝何謂我乎?」

乃太子啟兄王曰:「天命也,誰能留焉?若有向天皇之御所,具奏兄王聖之,且有讓矣.然聖王聞我死,以急馳遠路,豈得無勞乎?」乃進同母妹-八田皇女曰:「雖不足納采,僅充掖庭之數.」



仁德天皇 大鷦鷯尊



淤宇 出雲國之意宇郡



宇治川



考羅濟 今京都田邊河原

大山守皇子墮河歌

靈威逸兮建猛子 菟道渡兮執櫓人
來助吾兮為吾伴

在菟道川的急流上巧妙執櫓地控操著船的猛者啊,成為我的同伴來救我吧!

太子視大山守皇子屍歌:

威逸人立菟道渡 雖欲伐取紫弓檀

見根思君稍憶妹 是以苦兮又以悲

終不忍伐既以歸 此紫弓兮檀木矣

立於菟道川上的猛者雖欲砍下那紫弓檀,然見根元則思汝君,見得梢端又憶妹君,痛苦悲傷而終至未伐而歸,紫弓檀啊!



大山守命 那羅山墓



菟道稚郎子桐原日桁宮(宇治神社)

乃且伏棺而薨。

於是大鷦鷯尊素服為之發哀,哭之甚慟,仍葬於菟道山上。



菟道稚郎子菟道山宇治墓



仁德天皇 難波高津宮

木菟



木菟(貓頭鷹)與鷦鷯

二.仁德天皇即位與立后

元年春正月,丁丑朔己卯,大鷦鷯尊即天皇位.尊皇后曰-皇太后.

都難波,是謂高津宮.即宮垣、室屋弗堅色也.桷、梁、柱、楹弗藻飾也,茅茨之蓋弗剖齊也.此不以私曲之故,留耕績之時者也.

初天皇生日,木菟入于產殿.明旦,譽田天皇喚大臣武內宿禰語之曰:「是何瑞也?」大臣對言:「吉祥也.復當昨日,臣妻產時,鷦鷯入于產屋.是亦異焉.」爰天皇曰:「今朕之子與大臣之子同日共產,兼有瑞,是天之表焉.以為,取其鳥名,各相易名子,為後葉之契也.」

則取鷦鷯名以名太子,曰-大鷦鷯皇子;

取木菟名號大臣之子,曰-木菟宿禰.是平群臣之始祖也.是年也,太歲癸酉.

二年春三月,辛未朔戊寅,立磐之媛命為皇后.

后生,大兄去來穗別天皇、住吉仲皇子、瑞齒別天皇、雄朝津間稚子宿禰天皇.

又妃,日向髮長媛.

生,大草香皇子、幡梭皇女.

三.民灶炊煙盛起

四年春二月,己未朔甲子,詔群臣曰:「朕登高台以遠望之,煙氣不起於域中.以為百姓既貧而家無炊者.朕聞,古聖王之事,人人誦詠德之音,家家有康哉歌.今朕臨億兆,於茲三年,頌音不聆.炊煙轉疏.即知,五穀不登,百姓窮乏也.邦畿之內尚有不給者,況乎畿外諸國耶!」

三月,己丑朔己酉,詔曰:「自今以後,至于三載,悉除課役,息百姓之苦.」

是日始之,黼衣、絰屨,不弊盡不更為也.溫飯、暖羹,不酸餒不易也.消心約志,以從事乎無為.是以宮垣崩而不造,茅茨壞以不葺.風雨入隙而沾衣、被.星辰漏壞而露床、蓐.

是後,風雨順時,五穀豐穰.三稔之間,百姓富寬,頌德既滿,炊煙亦繁.

七年夏四月,辛未朔,天皇居台上而遠望之,煙氣多起.

是日,語皇后曰:「朕既富矣,豈有愁乎?」皇后對諮:「何謂富焉?」

天皇曰:「煙氣滿國,百姓自富歟!」皇后且言:「宮垣壞而不得脩,殿屋破之衣、被露.何謂富乎?」天皇曰:「其天之立君,是為百姓.然則君以百姓為本.是以古聖王者一人飢寒,顧己責身.今百姓貧之則朕貧也,百姓富之則朕富也.未之有百姓富之君貧矣.」

秋八月,己巳朔丁丑,為大兄去來穗別皇子定,壬生部.亦為皇后定,葛城部.

九月,諸國悉請之曰:「課役並免,既經三年.因此宮殿朽壞,府庫已空.今黔首富饒而不拾遺,是以里無鰥寡,家有餘儲.若當此時,非貢稅、調,以脩宮室者,懼之,其獲罪于天乎!」然,猶忍之不聽也.

十年冬十月,甫科稅役,以構造宮室.

於是,百姓之不領而扶老攜幼,運材負簣,不問日夜,竭力爭作.

是以未經幾時而宮室悉成.故於今稱-聖帝也.



甘檻山

又云國望丘,是乃仁德王所天下之高台.天皇見炊煙不起,知人民貧,詔天下不行課役三年,期間屋殿崩蔽而不脩.經三年,人民富足,國中炊煙四起,乃復行課役,民無不服者.謂之聖帝.



堀江

難波堀江,今多半以於上町台地北麓上東西橫貫天滿沙堆之天滿川(亦名,大川)為其川所在地之通說。



茨田堤

大阪淀川河川公園太閤地區堤防

「茨田堤」碑(左),門真市宮野町堤根神社境內「史跡茨田堤」碑(右)該堤立於仁德天皇十一年(AD323),是為文獻中日本最初之治水工事。



強頸絕間之址

強頸斷間 強頸絕間之址碑



難波 和珥池

未詳,或為推古紀之難波和珥池。

關桑田玖賀媛歌

如魚經水少女臣 誰能娶兮妻養乎
像那由經水底的魚兒的女臣少女啊,有誰
可以娶之為妻而好好對待她的嗎?
怒濤巖潮所居者 播磨速待不佞臣
如臨岩崖墜其下 雖惶恐兮吾養之
於激流中的臣下、播磨速待,有如墜崖般
惶恐的將娶之為妻以奉養。

四.築堀江造池堤

十一年夏四月,戊寅朔甲午,詔群臣曰:「今朕視是國者,郊、澤曠遠而田、園少之,且河水橫逝,以流未不駛.聊逢霖雨,海潮逆上,而巷里乘船,道路亦泥.故群臣共視之,決橫源而通海,塞逆流以全田宅!」

冬十月,掘宮北之郊原,引南水以入西海.因以號其水曰-堀江.又將防北河之滂,以築茨田堤.是時有兩處之築,而乃壞之難塞.時天皇夢有神,誨之曰:「武臚人強頸、河內人茨田連衫子,衫子,此云……兩人以祭於河伯,必獲塞。」則覓二人而得之,因以禱於河神.

爰強頸泣悲之沒水而死.乃其堤成焉.唯衫子取全匏兩國,臨于塞水.乃取兩箇匏投於水中,請之曰:「河神崇之,以吾為幣.是今吾米也.必欲得我者,沉是匏而不令泛,則吾知真神,親入水中.若不得沉匏者,自知偽神.何徒亡吾身?」於是飄風忽起,引匏沒水.

匏轉浪上而不沉,則滄滄泛以遠流.是以衫子雖不死,而其堤且成也.是因衫子之幹,其身非亡耳.故時人號其兩處曰-強頸斷間、衫子斷間.

是歲,新羅人朝貢.則勞於是役.

十二年秋七月,辛未朔癸酉,高麗國貢鐵盾、鐵的.

八月,庚子朔己酉,饗高麗客於朝.

是日,集群臣及百寮,令射高麗所獻之鐵盾、的.諸人不得射通的,唯的臣祖-盾人宿禰,射鐵的通的焉.時高麗客等見之,畏其射之勝巧,共起以拜朝.

明日,美盾人宿禰而賜名曰-的戶田宿禰.

同日,小泊瀨造祖-宿禰臣,賜名曰-賢遺臣也.賢遺,此云……

冬十月,掘大溝於山背栗隈縣以潤田.是以此百姓每豐年也.

十三年秋九月,始立茨田屯倉.因定春米部.

冬十月,造和珥池.

是月,築橫野堤.

十四年冬十一月,為橋於豬甘津.即號其處曰-小橋也.

是歲,作大道置於京中,自南門直指之,至丹比邑.

又掘大溝於感玖,乃引石河水,而潤上鈴鹿、下鈴鹿、上豐浦、下豐浦,四處郊原,以墾之得四萬餘頃之田.故其處百姓,寬饒之無凶年之患.

十六年秋七月,戊寅朔,天皇以宮人-桑田玖賀媛,示近習舍人等曰:「朕欲愛是婦女,苦皇后之妒,不能合,以經多年.何徒棄其盛年乎?」即歌曰:

水底經 臣・少女・ 誰養・・

於是播磨國造祖-速待,獨進之歌曰:

鹽潮 播磨速待 岩下・ 畏・・・ 吾養・・

即日,以玖賀媛賜速待.

明日之夕,速待詣于玖賀媛之家.而玖賀媛不和.乃強近帷內.

時玖賀媛曰:「妾之寡婦以終年.何能為君之妻乎?」於是,天皇聞之,欲遂速待之志,以玖賀媛副速待,送遣於桑田.則玖賀媛發病死于道中.故於今有玖賀媛之墓也.

十七年,新羅不朝貢.

秋九月,遣的臣祖-砥田宿禰、小泊瀨造祖-賢遺臣,而問闕貢之事.

於是新羅人懼之乃貢獻.調絹一千四百六十疋及種種雜物,并八十艘.

五.天皇與皇后的不和

二十二年春正月,天皇語皇后曰:「納八田皇女,將為妃。」時皇后不聽。
爰天皇歌以乞於皇后曰:

貴人・立・言立 諸弦 絕間繼・並・

皇后答歌曰:

衣・二重・良・夜床・並・君・畏・

天皇又歌曰:

押・照・難波・崎・並・濱 並・子・有・

皇后答歌曰:

夏蠶・蛾・衣 二重著・豈良・

天皇又歌曰:

朝妻・避箇・小阪・片泣・道行・者・偶・良・

皇后遂謂不聽,故默之亦不答言。

三十年秋九月,乙卯朔乙丑,皇后遊行紀國,到雄野岬,即取其處之御綱葉而還。葉,此云・

於是日,天皇伺皇后不在,而娶八田皇女納於宮中。

時皇后到難波濟,聞天皇合八田皇女而大恨之。則其所採御綱葉投於海而不著岸。故時人號散葉之海曰-葉濟也。

爰天皇不知皇后忿不著岸,親幸大津,待皇后之船而歌曰:

難波人 鈴船取・腰・其・船取・大御船取・

時皇后不泊于大津,更引之溯江,自山背迴而向倭。

明日,天皇遣舍人-鳥山,令還皇后,乃歌之曰:

山背・及・及・吾・思・妻・及・會・

皇后不還,猶行之。至山背河而歌曰:

繼根生 山背河・河溯・我・溯・河隈・立・榮・
百足・八十葉・木・大君・

即越那羅山,望葛城歌之曰:

繼根生 山背河・宮溯・我・溯・青丹良・那羅・過・
小楯 大和・過・我・見・欲・國・葛城高宮 我家・當・

更還山背,興宮室於筒城岡南而居之。

冬十月,甲申朔,遣的臣祖-口持臣,一云,和珥臣祖口子臣。喚皇后。

仁德天皇與皇后之對歌

貴人立言有此說 諸弦備為絕間繼
是以並置八田女

貴人間有著這樣的約束,預備的弓弦是為了本弦斷絕之時所儲備,之所以並置八田皇女也是考慮到萬一你不在時而準備的啊。

衣披二重無為過 汝床二置甚唯恐

如果是衣服的話即使著身二重也無所不可,不過像您這樣並置兩個夜床的行為實在令人畏懼啊

日光照兮難波崎 一如此崎並有濱
為並置兮此子生

就如日光普照的難波崎有著濱並於此一般,這女子也是為了與你並置而存在的啊

夏蠶蛾衣凶二著 如此二女圍宿中

此者豈可為良乎

夏蠶如果造了兩次繭是不好的,如果天皇像這樣圍宿於二女之中,這絕對是不善的啊
朝妻避箇小阪上 片泣之兮道行者
如有偶慰豈不善

在朝妻避箇的小阪上,因失戀哭泣而一面步行的人,如果有個伴來安慰他豈不甚好



葉濟 磐之媛投綱葉於海而不著岸

難波船人引鈴船 水圍腰兮引其船
引以取兮大御船

難波的船人們啊,即使水淹到腰間,也要將那官船拉上岸,引取那大御船啊

山背追兮鳥山君 急而速兮追以付
吾憶妻兮幾能逢

在山背追逐著的鳥山啊,快點追到吧,快追上我所相思的妻子吧

繼根生兮山背河 溯其河隈植茂榮
未百茂兮八十葉 如此威嚴如大君

苗木重生的山背河,如果溯其河的話,可以在河隈見到茂密的植物。那未達百葉的茂密樹木,它們的莊嚴就有如大君一般。

繼根生兮山背河 溯上過兮難波宮
青土良兮那羅過 小楯大和亦過之
吾所欲見國之者 葛城高宮吾家旁

苗木重生的山背河,沿河溯上而穿過了難波宮,又過了那有著良質青土的那羅山及小楯大和,吾所欲見之國-葛城高宮就在吾家的周邊。

爰口持臣至筒城宮，雖謁皇后，而默之不答。時口持臣沾雪雨以經日夜，伏于皇后殿前而不避。於是，口持臣之妹-國依媛仕于皇后。適是時侍皇后之側，見其兄沾雨而流涕歌之曰：

山背・筒城宮・物申・我・兄・見・・・・・淚・・・・・

時皇后謂國依媛曰：「何爾泣之？」對言：「今伏庭請謁者，妾兄也。沾雨不避，猶伏將謁。是以泣悲耳。」

時皇后謂之曰：「告汝兄，令速還。吾遂不返焉。」口持則返之，復奏于天皇。

十一月，甲寅朔庚申，天皇浮江幸山背。時桑枝沿水而流之。天皇視桑枝歌之曰：

・・・・・磐之媛・・・・・聞・・・・・桑・木
寄・・・・・河・隈隈・・・・・行・・・・・桑・木

明日，乘輿詣于筒城宮，喚皇后。皇后不參見。時天皇歌曰：

繼根生 山背女・木鋤持・打・・大根
・・・・・汝・言・・・・・打渡・・・・・來入・參來・

亦歌曰：

繼根生 山背女・木鋤持・打・・大根
根白・白腕 纏・・・・・知・・・・・言・・

時皇后令奏言：「陛下納八田皇女為妃。其不欲副皇女而為后。」遂不奉見。

乃車架還宮。天皇於是恨皇后大忿，而猶有戀思。

三十一年春正月，癸丑朔丁卯，立大兄去來穗別尊為皇太子。

三十五年夏六月，皇后-磐之媛命薨於筒城宮。

三十七年冬十一月，甲戌朔乙酉，葬皇后於那羅山。



磐之媛命 山背筒城宮
據說即為繼體天皇山背筒城宮也。

國依媛憐兄沾衣之歌

山背筒城宮之中 若見物申吾兄者
淚不能禁潸然下

如果見到了為了召還皇后而待在山背筒城宮中的吾兄，淚就不禁的流了出來

仁德天皇歌與皇后歌

蔓多生兮磐之媛 願汝能為傾心聽

汝重要兮如美桑 岸不著兮飄以流

河之隈隈身寄之 無以立身此美桑

蔓之多生的磐之媛皇后啊，希望你可以好好的聽進去，你的重要性就像高貴的桑木一般，卻不想靠岸而漂流在河隈之中，如此無以立身的高貴桑木啊。

繼根生兮山背女 木鋤持兮掘蘿蔔

蘿蔔白爽汝騷言 打渡茂桑參入來

苗木重生山背之女，持著木鋤掘著那白嫩的蘿蔔，你喋喋絮絮的說著，就像那連生茂密的桑木般，我帶著許許多多的供人來見你

繼根生兮山背女 木鋤持兮掘蘿蔔

其根之者真以白 未若共寢汝之腕

不知何以放之乎

苗木重生山背之女，持著木鋤掘著那白嫩的蘿蔔，雖然那蘿蔔的根是如此的皎白，卻不如那曾經與我共枕的你的手腕啊，你到底是為了什麼理由要與我反目呢？

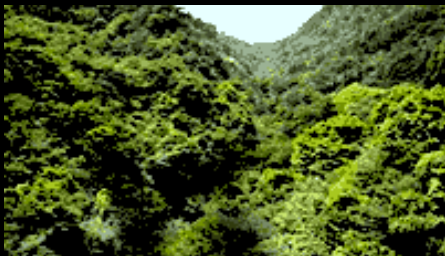


那羅山 磐之媛命陵

[\[久遠・絆\]](#) [\[卷第十\]](#) [\[其之二\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷十一 仁德紀

大鷦鷯天皇 仁德天皇



菟餓野 都賀川附近
傳為神戶市都賀川附近,不過大阪市
北區免我野町附近一說較為可性。



牡鹿

皇女織織女人等歌

遼遠方兮天金機 雌鳥屬女織金機
織女所以織機者 將為隼別御襲料

那遼闊曠遠的天之織金機,雌鳥皇女屬下
的織女所以織機之物,將為隼別皇子的御襲
所用



隼別皇子之舍人歌:

隼者翔天高而上 願襲樹梢鷦鷯尊
飛翔高空的隼啊,請您襲擊樹梢上的鷦鷯
吧!

隼人皇子歌

如梯立兮峻險山 我與妹子二人等
如能越此將安席

那有如梯立般險峻的山啊,如果我與妹子
二人能越過它的話,或許能得以安席吧



玉代

今之玉手山一代

六.八田皇后立后,隼別皇子濫職

三十八年春正月,癸酉朔戊寅,立八田皇女為-皇后。

秋七月,天皇與皇后居高台而避暑.時每夜,自菟餓野有聞鹿鳴.其鳴聲寥亮而悲之.共起可憐
之情.及月盡,以鹿鳴不聆.爰天皇語皇后曰:「當是夕而鹿不鳴,其何由焉?」

明日,豬名縣佐伯部獻苞苴.

天皇令膳夫以問曰:「其苞苴何物也?」對言:「牡鹿也.」問之:「何處鹿也?」曰:「菟餓
野.」時天皇以為,是苞苴者必其鳴鹿也,因謂皇后曰:「朕比有懷抱,聞鹿聲而慰之.今推佐伯部
獲鹿之日夜及山野,即當鳴鹿.其人雖不知朕之愛,以適逢獮獲,猶不得已而有恨.故佐伯部不欲
近於皇居.」乃令有司,移鄉于安藝淳田.此今淳田佐伯部之祖也.

俗曰:「昔有一人,往菟餓,宿于野中.時二鹿臥傍.將及雞鳴,牡鹿謂牝鹿曰:『吾今夜夢之,白
霜多降之覆吾身.是何祥焉?』牝鹿答曰:『汝之出行,必為人見射而死.即以白鹽塗其身,如霜
素之應也.』」時宿人心裏異之.未及昧爽,有獵人以射牡鹿而殺.是以時人諺曰:『鳴牡鹿矣隨相
夢也.』」

四十年春二月,納雌鳥皇女欲為妃,以隼別皇子為媒.時隼別皇子密親娶而久之不復命.

於是,天皇不知有夫,而親臨雌鳥皇女之殿.時皇女織織女人等歌之曰:

• • • • • 天金機 雌鳥 • 織 • 金機 隼別 • 御襲料

爰天皇知隼別皇子密婚而恨之.然重皇后之言,亦敦友于之義而忍之勿罪.

俄而隼別皇子枕皇女之膝以臥,乃語之曰:「孰捷鷦鷯與隼鳥?」曰:「隼捷也.」乃皇子曰:
「是我所先也.」天皇聞是言,更亦起恨.時隼別皇子之舍人等歌曰:

隼 • 天 • 上 • 飛 • 翔 • 齋 • • 上 • 鷦鷯取 • • •

天皇聞是歌,而勃然大怒之曰:「朕以私恨,不欲失親,忍之也.何憂矣,私事將及于社稷?」則
欲殺隼別皇子.

時皇子率雌鳥皇女,欲納伊勢神宮而馳.於是天皇聞隼別皇子逃走,即遣吉備品遲部雄鯽、
播磨佐伯直阿俄能胡曰:「追之所逮即殺!」爰皇后奏言:「雌鳥皇女是當重罪.然其殺之日,不
欲露皇女身.」乃因敕雄鯽等:「莫取皇女所齎之足玉、手玉.」

雄鯽等追之至菟田,迫於素珥山.時隱草中僅得免,急走而越山.於是皇子歌曰:

梯立 • 嶮 • • 山 • 我妹子 • 二人越 • • • 安席 • •

爰雄鯽等知免,以急迫及于伊勢蔣代野而殺之.時雄鯽等探皇女之玉,自裳中得之.乃以二王
屍,埋于盧杵河邊而復命.皇后令問雄鯽等曰:「見皇女之玉乎?」對言:「不見也.」

是歲,當新嘗之月,以宴會日,賜酒於內外命婦等.

於是,近江山君稚守山妻與采女磐阪媛,二女之手有纏良珠.皇后見其珠,既似雌鳥皇女之珠.
則疑之,命有司問其玉所得之由.對言:「佐伯直阿俄能胡之妻玉也.」仍推鞠阿俄能胡.對言:
「誅皇女之日,探而取之.」即將殺阿俄能胡.於是阿俄能胡乃獻己之私地,請免死.故納其地,赦
死罪.是以號其地曰-玉代.

七.新設鷹甘部與雁之產卵

四十一年春三月,遣紀角宿禰於百濟,始分國郡疆場,具錄鄉土所出。
是時百濟王之族-酒君無禮,由是紀角宿禰訶責百濟王,百濟王懼之以鐵鎖縛酒君,附襲津彥而進上。

爰酒君來,則逃匿于石川錦織首許呂斯之家,則欺之曰:「天皇既赦臣罪,故寄汝而活焉。」久之天皇遂赦其罪。

四十三年秋九月,庚子朔,依網屯倉-阿弭古捕異鳥獻於天皇曰:「臣每張網捕鳥,未曾得是鳥之類,故奇而獻之。」

天皇詔酒君示鳥曰:「是何鳥矣?」酒君對言:「此鳥類多在百濟,得馴而能從人,亦捷飛之掠諸鳥,百濟俗號此鳥曰-俱知,是今時-鷹也。」乃授酒君令養馴,未幾時而得馴,酒君則以韋縵著其足,以小鈴著其尾,居腕上,獻于天皇。

是日,幸百舌鳥野而遊獵,時雌雉多起,乃放鷹令捕,忽獲數十雉。

是月,甫定鷹甘部,故時人號其養鷹之處曰-鷹甘邑也。

五十年春三月,壬辰朔丙申,河內人奏言:「於茨田堤,鴈產之。」

即日,遣使令視,曰:「既實也。」天皇於是歌以問武內宿禰曰:

國・長人 秋津島 倭・國・ 雁產・・ 汝・聞・・・・

武內宿禰答歌曰:

・・・・ 我・大君・ 宜・宜・ 我・問・・・・
秋津島 倭・國・ 雁產・・ 我・聞・・



白鹿



伊寺水門 今之石卷港



田道墓 蛇穴山古墳

八.與新羅間的紛爭,蝦夷的反叛

五十三年,新羅不朝貢。

夏五月,遣上毛野君祖-竹葉瀨,令問其闕貢,是道路之間獲白鹿,乃還之獻于天皇,更改日而行,俄且重遣竹葉瀨之弟-田道,則詔之曰:「若新羅距者,舉兵擊之!」仍授精兵。

新羅起兵而距之,爰新羅人日日挑戰,田道固塞而不出,時新羅軍卒一人,有放于營外,則掠俘之,因問消息,對曰:「有強力者,曰-百衡,輕捷猛幹,每為軍右前鋒,故,伺之擊左則敗也。」

時新羅空左備右,於是田道連精騎擊其左,新羅軍潰之。

因縱兵,乘之殺數百人,即虜四邑之人民以歸焉。

五十五年,蝦夷叛之,遣田道令擊,則為蝦夷所敗,以死于伊寺水門。

時有從者,取得田道之手纏,與其妻,乃抱手纏而縊死,時人聞之流涕矣。

是後蝦夷亦襲之略人民,因以掘田道墓,則有大蛇,發瞋目自墓出以咋,蝦夷悉被蛇毒而多死亡,唯一二人得免耳,故時人云:「田道雖既亡,遂報讎!何人死之無知耶?」

五十八年夏五月,當荒陵松林之南道,忽生兩歷木,挾路而末合。

冬十月,吳國、高麗國,並朝貢。

六十年冬十月,差白鳥陵守等充役丁,時天皇臨于役所。

爰陵守-木杵忽化白鹿以走,於是天皇詔之曰:「是陵自本空,故欲除其陵守,而甫差役丁,今視是怪者,甚懼之,無動陵守者。」則且,授土師連等。

六十二年夏五月,遠江國司,表上言:「有大樹,自大井河流之,渟于河曲,其大十圍,本一以末兩。」

時遣倭直-吾子籠令造船,而自南海運之,將來于難波津,以充御船也。



俱知

即今日所稱鷹也,依網屯倉阿弭古捕得奇鳥,經酒君養馴而獻於天皇。



天皇,武內宿禰,鴈產對歌:

國之耆老長壽者 秋津島兮倭國中
雁產事兮曾聞耶?

國中最為長壽的人啊,在這秋津島大和國中,你之前可曾聽聞雁子產卵之事呢?

八方治兮我聖皇 問於吾兮心甚感

秋津島兮倭國中 雁產之事吾未聞

治理天下的聖王啊,有幸被您問這個問題,我有生之年在秋津大和中還未曾聽聞雁產之事。

九.冰室

是歲,額田大中彥皇子獵于鬥雞.
時皇子自山上望之,瞻野中,有物,其形如廬.
仍遣使者令視.還來之曰:「窟也.」因喚鬥雞稻置大山主,問之曰:「有其野中者,何窟矣?」
啟之曰:「冰室也.」皇子曰:「其藏如何,亦奚用焉?」
曰:「掘土丈餘,以草蓋其上.敦敷茅、荻,取冰以置其上.既經夏月而不泮.其用之,即當熱月,
漬水酒以用也.」皇子則將來其水,獻于御所.天皇歡之.
自是以後,每當季冬,必藏冰,至春分始散冰也.



鬥雞野神社
傳為額田大中彥皇子之鬥雞獵場跡處,冰室即發現於此地的近郊.

出羽平岩燈
飛驒・丹生川村日面
兩面宿儺像



十.飛驒的宿儺

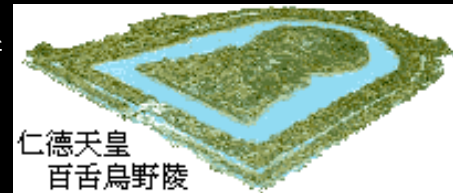
六十五年,飛驒國有一人,曰-宿儺.
其為人壹体有兩面,面各相背,頂合無項.各有手足,其有膝而無脛、踵.
力多以輕捷,左右佩劍,四手並用弓矢.是以不隨皇命,掠略人民為樂.
於是遣和珥臣祖-難波根子武振熊而誅之.

十一.百舌鳥野陵與天皇的崩御

六十七年冬十月,庚辰朔甲申,幸河內石津原,以定陵地.
丁酉,始築陵.
是日,有鹿,忽起野中走之,入役民之中而仆死.
時異其忽死,以探其瘻,即百舌鳥自耳出之飛去.因視耳中,悉咋割剝.故號其處曰-百舌鳥耳原者,其是之緣也.
是歲,於吉備中國川島河派,有大虯令苦人.時路人觸其處而行,必被其毒,以多死亡.
於是,笠臣祖-縣守,為人勇悍而強力.臨派淵,以三全瓠投水曰:「汝屢吐毒,令苦路人.余殺汝虯.汝沉是瓠,則余避之,不能沉者乃斬汝身.」
時水虯化鹿,以引入瓠.瓠不沉,即舉劍入水斬虯.更求虯之黨類,乃諸蛟族滿淵底之岫穴.悉斬之,河水變血.故號其水曰-縣守淵也.
當此時,妖氣稍動,叛者一二始起.於是天皇夙興夜寐,輕賦薄斂,以寬民萌,布德施惠,以振困窮,弔死問疾,以養孤孀.是以政令流行,天下太平,二十餘年無事矣.
八十七年春正月,戊子朔癸卯,天皇崩.
冬十月,癸未朔己丑,葬于百舌鳥野陵.



大虯(・・・)
或作蛟,其身形近於龍而神格則遠低於龍.說文解字云:「虯,龍無角者.」



仁德天皇
百舌鳥野陵

仁德天皇百舌鳥野陵
墳丘全長486m,後圓部高35m,該陵與中國秦始皇皇陵,埃及法老王墓並為世界三大陵墓.百舌鳥者,伯勞鳥也.

日本書紀卷十一 終

[\[久遠・絆\]](#) [\[其之一\]](#) [\[卷十二\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷十二 履中紀 / 反正紀

[履中天皇] [反正天皇]

去來穗別天皇 履中天皇



納采 今云結納



前期難波高津宮復原圖

太子殿者,古事記傳:「履中天皇坐難波宮時,坐大嘗之祭而宴饗,因大御酒字微醺而大御寢.時其弟墨江中王欲取天皇,以火著大殿。」



飛鳥山 竹內野到(丹比道)周邊

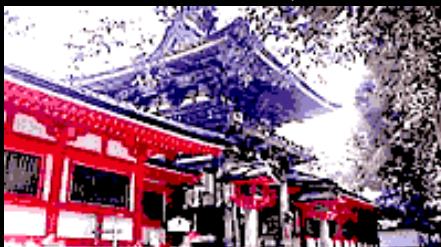
太子謝少女歌:

大阪遇兮少女者 問道於之不告近
啟行迂迴當摩道

我向在大阪所遇見的少女問路,他不叫我直走近路而叫我走迂迴的當摩道。



龍田山 位於信貴山南,大和川北。



石上振神宮 即石上神宮

一.去來穗別皇子立為太子與仲皇子的反亂

去來穗別天皇,大鷦鷯天皇太子也.去來,此云・・母曰-磐之媛命,葛城襲津彥女也.

大鷦鷯天皇三十一年春正月,立為皇太子.時年十五.

八十七年春正月,大鷦鷯天皇崩.

皇太子自諒闇出之,未即尊位之間,以羽田矢代宿禰之女-黑媛欲為妃,納采既訖,遣住吉仲皇子而告吉日.時仲皇子冒太子名,以姦黑媛.

是夜,仲皇子忘手鈴於黑媛之家而歸焉.

明日之夜,太子不知仲皇子姦而到之,乃入室,開帳居於玉床.時床頭有鈴音.

太子異之,問黑媛曰:「何鈴也?」對曰:「昨夜之非太子所齎鈴乎,何更問妾?」太子自知仲皇子冒名以姦黑媛,則默之避也.

爰仲皇子畏有事,將殺太子.密興兵,圍太子宮.

時平群-木菟宿禰、物部-大前宿禰、漢直祖-阿知使主三人,啟於太子.太子不信.一云,太子醉以不起.故三人扶太子,令乘馬而逃之.一云,大前宿禰抱太子而乘馬,仲皇子不知太子不在,而焚太子宮,通夜火不滅.太子到河內國埴生阪而醒之.顧望難波,見火光而大驚.

則急馳之自大阪向倭,至于飛鳥山,遇少女於山口.問之曰:「此山有人乎?」對曰:「執兵者多滿山中.宜迴自當摩徑踰之。」太子於是以為,聆少女言而得免難,則歌之曰:

大阪・ 遇・・少女・ 道問・・ 直・・告・・ 當摩徑・告・

則更還之,發當縣兵令從身,自龍田山踰之.

時有數十人執兵追來者.太子遠望之曰:「其彼來者誰人也?何步行急之,若賊人乎?」因隱山中而待之.近則遣一人問曰:「曷人,且何處往矣?」對曰:「淡路野島之海人也.阿曇連-濱子,一云,阿曇連-黑友.為仲皇子令追太子。」於是出伏兵圍之,悉得捕.

當是時,倭直-吾子籠素好仲皇子.預知其謀,密聚精兵數百於攪食栗林,為仲皇子將拒太子.

時太子不知兵塞而出山行數里,兵眾多塞,不得進行.乃遣使者問曰:「誰人也?」對曰:「倭直吾子籠也。」

便還問使者曰:「誰使焉?」曰:「皇太子之使。」時吾子籠憚其兵眾多在,乃謂使者曰:「傳聞,皇太子有非常之事.將助以備兵待之。」然太子疑其心,欲殺.

則吾子籠愕之,獻己妹-日之媛,仍請赦死罪.乃免之.其倭直等貢采女,蓋始於此時歟.

太子便居於石上振神宮.於是瑞齒別皇子知太子不在,尋之追詣.然太子疑弟王之心而不喚.時瑞齒別皇子令謁曰:「僕無黑心,唯愁太子不在而參赴耳。」爰太子傳告弟王曰:「我畏仲皇子之逆,獨避至於此,何且非疑汝耶?其仲皇子在之,獨猶為我病.遂欲除.故汝莫勿黑心,更返難波而殺仲皇子,然後乃見焉。」瑞齒別皇子啟太子曰:「大人何憂之甚也?今仲皇子無道,群臣及百姓共惡怨之.復其門下人皆叛為賊,獨居之與誰議.臣雖知其逆,未受太子命之,故獨慷慨之耳.今既被命,豈難於殺仲皇子乎?唯獨懼之,既殺仲皇子,猶且疑臣歟.冀見得忠直者,欲明臣之不欺。」太子則副木菟宿禰而遣焉.

爰瑞齒別皇子歎之曰:「今太子與仲皇子並兄也.誰從矣,誰乖以?然亡無道,就有道,其誰疑我?」則詣于難波,伺仲皇子之消息.仲皇子思太子已逃亡而無備.

時有近習隼人,曰-刺領巾.瑞齒別皇子陰喚刺領巾而誂之曰:「為我殺皇子,我必敦報汝。」乃脫錦衣、禪與之.刺領巾恃其誂言,獨執矛,以伺仲皇子入廁而刺殺,即隸于瑞齒別皇子.

於是,木菟宿禰啟於瑞齒別皇子曰:「刺領巾為人殺己君.其為我雖有大功,於己君無慈之甚矣.豈得生乎?」乃殺刺領巾.

即日向倭也,夜半臻於石上而復命.於是,喚弟王以敦龍,仍賜村合屯倉.

是日,捉阿曇連濱子.

二.即位磐余稚櫻宮,諸國設置國史

元年春二月,壬午朔,皇太子即位於磐余稚櫻宮。
夏四月,辛巳朔丁酉,召阿曇連濱子,詔之曰:「汝與仲皇子共謀逆,將傾國家,罪當于死.然垂大恩,而免死科墨,即日黥之!」因此時人曰-阿曇目。
亦免從濱子-野島海人之罪,役於倭-蔣代屯倉。
秋七月,己酉朔壬子,立葦田宿禰之女-黑媛為皇妃。
妃生,磐阪市邊押羽皇子、御馬皇子、青海皇女。一曰,飯豐皇女。
次妃,幡梭皇女。
生,中磯皇女.是年也,太歲庚子。
二年春正月,丙午朔己酉,立瑞齒別皇子為儲君。
冬十月,都於磐余.當是時,平群-木菟宿禰、蘇賀-滿智宿禰、物部-伊苕弗大連、圓大使主共執國事.圓,此云……。
十一月,作磐余池。
三年冬十一月,丙寅朔辛未,天皇泛兩枝船于磐余市磯池,與皇妃各分乘而遊宴。
膳臣-余磯獻酒,時櫻花落于御盞.天皇異之,則召物部長真膽連,詔之曰:「是花也,非時而來,其何處之花矣?汝自可求。」於是,長真膽連獨尋花,獲于掖上室山而獻之。
天皇歡其希有,即為宮名.故謂-磐余稚櫻宮,其此之緣也。
是日,改長真膽連之本姓,曰-稚櫻部造.又號膳臣余磯,曰-稚櫻部臣。
四年秋八月,辛卯朔戊戌,始之於諸國置國史,記言事達四方志。
冬十月,掘石上溝。
五年春三月,戊午朔,於筑紫所居三神,見于宮中言:「何奪我民矣?吾,今慚汝!」於是禱而不祠。
秋九月,乙酉朔壬寅,天皇狩于淡路島.是日河內飼部等從駕執轡.先是飼部之鯨皆未差。
時居島伊奘諾神,託祝曰:「不堪血臭矣。」因以卜之,兆云:「惡飼部等鯨之氣。」故自是後,頓絕以不鯨飼部而止之。
癸卯,有如風之聲呼於大虛曰:「劍刀太子王也。」亦呼之曰:「鳥往來羽田之汝妹者,羽狹丹葬立往也。」汝妹,此云…….亦曰:「狹名來田蔣津之命,羽狹丹葬立往也。」
俄而使者忽來曰:「皇妃薨!」天皇大驚之,便命駕而歸焉。
丙午,自淡路至。
冬十月,甲寅朔甲子,葬皇妃。
既而天皇悔之不治神崇而亡皇妃,更求其咎.或者曰:「車持君行於筑紫國而悉校車持部,兼取充神者,必是罪矣!」天皇則喚車持君,以推問之.事既實焉。
因以數之曰:「爾雖車持君,縱檢校天子之百姓.罪一也,既分寄于神祇車持部,兼奪取之.罪二也!」則負惡解除、善解除,而出於長渚崎,令袂襖.既而詔之曰:「自今以後,不得掌筑紫之車持部!」乃悉收,以更分之奉於三神。
六年春正月,癸未朔戊子,立草香幡梭皇女為皇后。
辛卯,始建藏職.因定藏部。



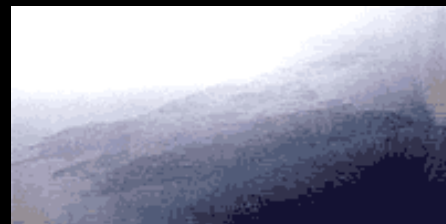
稚櫻神社 傳為磐余稚櫻宮續



磐余池 有傳為吉備池,然此非通說



宗像大社 邊津宮
筑紫所居三神者,宗像三女神也.分在
沖津宮,中津宮,邊津宮三宮鎮座。



淡路島全景



長渚崎 今神崎川河口附近



履中天皇 百舌鳥耳原陵

三.天皇崩御稚櫻宮

二月,癸丑朔,喚鯽魚磯別王之女-太姬郎姬、高鶴郎姬,納於后宮並為嬪。
於是,二嬪恒歎之曰:「悲哉!吾兄王何處去耶?」天皇聞其歎而問之曰:「汝何歎息也?」對曰:「妾兄鸞住王,為人強力輕捷.由是獨馳越八尋屋而遊行,既經多日,不得面言.故歎耳。」
天皇悅其強力以喚之,不參來.亦重使而召,猶不參來.恆居於住吉邑.自是以後,廢以不求.是讚岐國造、阿波國腳咋別,凡二族之始祖也。
三月,壬午朔丙申,天皇玉体不愈,水土不調.崩于稚櫻宮.時年七十。
冬十月,己酉朔壬子,葬百舌鳥耳原陵。

瑞齒別天皇 反正天皇



產宮神社 秋祭

反正天皇之瑞井者,其井戶今保留於
產宮神社,亦有說此社即為淡路宮。



柴籬神社 傳為宮址,位丹比之松原

一.天皇之即位與御崩

瑞齒別天皇,去來穗別天皇同母弟也。

去來穗別天皇二年,立為皇太子。

天皇初生于淡路宮,生而齒如一骨,容姿美麗,於是有井,曰-瑞井,則汲之洗太子,時多遲花落
有于井中,因為太子名也,多遲花者,今虎杖花也,故稱謂多遲比瑞齒別天皇。

六年春三月,去來穗別天皇崩。

元年春正月,丁丑朔戊寅,儲君即天皇位。

秋八月,甲辰朔己酉,立大宅臣祖木事之女-津野媛為皇夫人。

生,香火姬皇女、圓皇女。

又納夫人弟-弟媛,生財皇女與高部皇子。

冬十月,都於河內丹比,是謂-柴籬宮。

當是時,風雨順時,五穀成熟,人民富饒,天下太平,是年也,太歲丙午。

六年春正月,甲申朔丙午,天皇崩于正寢。

日本書紀卷十二 終

[\[久遠・絆\]](#) [\[卷十一\]](#) [\[卷十三\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷十三 允恭紀 / 安康紀

[允恭天皇]

[安康天皇]

雄朝津間稚子宿禰天皇 允恭天皇

一.天皇即位

雄朝津間稚子宿禰天皇,瑞齒別天皇同母弟也。
天皇自岐嶷至於總角,仁惠儉下,即壯篤病,容止不便。
六年春正月,瑞齒別天皇崩。

爰群臣議之曰:「方今大鷦鷯天皇之子,雄朝津間稚子宿禰皇子與大香草皇子,然雄朝津間稚子宿禰皇子長之仁孝。」即選吉日,跪上天皇之璽。

雄朝津間稚子宿禰皇子謝曰:「我不天,久離篤疾,不能步行,且我既欲除病,獨非奏言而密破身治病,猶勿差。由是先皇責之曰:『汝患病縱破身,不肖孰甚於茲矣。其長生之,遂不得繼業。』亦我兄二天皇,愚我而輕之,群卿所共知。夫天下者大器也,帝位者鴻業也。且民之父母,斯則聖賢之職,豈下愚之任乎?更選賢王宜立矣,寡人弗敢當?」

群臣再拜言:「夫帝位不可以久曠,天命不可以謙距。今大王留時逆眾,不正號位,臣等恐百姓望絕也!願大王雖勞,猶即天皇位!」雄朝津間稚子宿禰皇子曰:「奉宗廟社稷,重事也。寡人篤疾,不足以稱。」猶辭而不聽。於是群臣皆固請曰:「臣伏計之,大王奉皇祖宗廟,最宜稱。雖天下萬民,皆以為宜。願大王聽之!」

元年冬十有二月,妃-忍阪大中姬命苦群臣之憂吟,而親執洗手水,進于皇子前,仍啟之曰:「大王辭而不即位,位空之,既經年月,群臣、百寮,愁之不知所為。願大王從群望,強即帝位!」然皇子不欲聽,而背居不言。於是大中姬命惶之不知退而侍之,經四五刻。

當于此時,季冬之節風亦烈寒。大中姬所捧碗水,溢而腕凝,不堪寒以將死。皇子顧之驚,則扶起謂之曰:「嗣位重事,不得輕就,是以於今不從。然今群臣之謂,事理灼然。何遂謝耶?」爰大中姬命仰歡,則謂群卿曰:「皇子將聽群臣之請!今當上天皇璽符!」

於是群臣大喜,即日捧天皇之璽符,再拜上焉。皇子曰:「群卿共為天下請寡人,寡人何敢遂辭。」乃即帝位。是年也,太歲壬子。

二.立后與皇子女.天皇病癒

二年春二月,丙申朔己酉,立忍阪大中姬為皇后。
是日,為皇后定刑部。

皇后生,木梨輕皇子、名形大娘皇女、境黑彥皇子、穴穗天皇、輕大娘皇女、
八鈞白彥皇子、大泊瀨稚武天皇、但馬橘大娘皇女、酒見皇女。

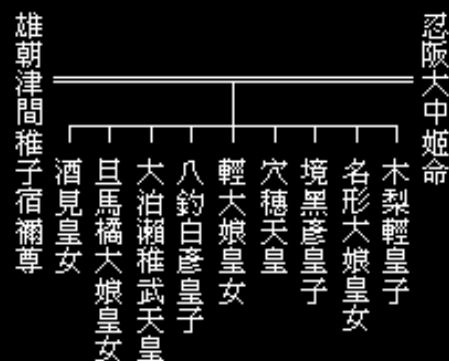
初皇后隨母在家,獨遊苑中。時門雞國造從傍徑行之,乘馬而蒞籬,謂皇后,嘲之曰:「能作園乎,汝者也?汝,此云……」且曰:「壓乞,戶母,其蘭一莖焉。壓乞,此云……戶母,此云……」

皇后則採一根蘭,與於乘馬者,因以問曰:「何用求蘭也耶?」乘馬者對曰:「行山撥蟻也。蟻,此云……」時皇后結之意裏,乘馬者辭無禮,即謂曰:「首也,余不忘矣。」

是後皇后登祚之年,覓乘馬乞蘭者而數昔日之罪以欲殺。爰乞蘭者顛搶地叩頭曰:「臣之罪,實當万死!然當其日,不知貴者。」於是皇后赦死刑,貶其姓謂-稻置。

三年春正月,辛酉朔,遣使求良醫於新羅。

秋八月,醫至自新羅。則令治天皇病。未經幾時,病已差也。天皇歡之,厚賞醫以歸于國。



野蒜 蘭,此為野蒜之古名。



盟神探湯

古傳之占卜法,或手入沸水沸泥,或置燒斧于掌,皆見其手有否潰傷之狀,用以占凶吉,辨是非。

三.盟神探湯與校正姓氏

四年秋九月,辛巳朔己酉,詔曰:「上古之治,人民得所,姓名勿錯.今朕踐祚於茲四年矣,上下相爭,百姓不安.或誤失己姓,或故認高氏.其不至於治者,蓋由是也.朕雖不賢,豈非正其錯乎?群臣,議定奏之!」群臣皆言:「陛下舉失正枉,而定氏姓者,臣等冒死!」奏可。

戊申,詔曰:「群卿、百寮及諸國造等皆各言,或帝皇之裔,或異之天降.然三才顯分以來,多歷萬歲.是以一氏蕃息,更為萬姓,難知其實.故諸氏姓人等沐浴齋戒,各為盟神探湯!」

則於味檀丘之辭禍戶岬坐探湯瓮,而引諸人令赴曰:「得實則全,偽者必害!盟神探湯,此云

• • • • • 或泥納釜煮沸,攘手探湯泥,或燒斧火色,置於掌。」

於是諸人各著木棉手繼而赴釜探湯.則得實者自全,不得實者皆傷.是以故詐者愕然之予退無進.自是以後,氏姓自定,更無詐人。

四.討伐玉田宿禰

五年秋七月,丙子朔己丑,地震。

先是命葛城襲津彥之孫-玉田宿禰,主穗齒別天皇之殯.則當地震夕,遣尾張連-吾襲,查殯宮之消息.時諸人悉聚無闕,唯玉田宿禰無之也.吾襲奏言:「殯宮大夫玉田宿禰,非見殯所。」則亦遣吾襲於葛城,令視玉田宿禰。

是日,玉田宿禰方集男女而酒宴焉.吾襲舉狀,具告玉田宿禰.宿禰則畏有事,以馬一匹授吾襲為禮幣,乃密遮吾襲而殺于道路.因以逃隱武內宿禰之墓城。

天皇聞之喚玉田宿禰.宿禰疑之甲服襖中而參赴.甲端自衣中出之.天皇分明欲知其狀,乃令小墾田采女,賜酒于玉田宿禰.爰采女分明瞻衣中有鎧,而據奏于天皇。

天皇設兵將殺.玉田宿禰乃密逃出而匿家.天皇更發卒圍玉田家,而捕之乃誅。

冬十有一月,甲戌朔甲申,葬瑞齒別天皇于耳原陵。



反正天皇 百舌鳥耳原北陵



衣通郎姬



藤原之第

藤原鎌足出生地,傳說亦為允恭天皇安置衣通郎姬之藤原宮。

五.衣通郎姬在住茅渟

七年冬十二月,壬戌朔,讌于新室.天皇親之撫琴,皇后起舞.舞既終而不言禮事。

當時風俗,於宴會舞者舞終則自對座長曰:「奉娘子也。」時天皇謂皇后曰:「何失常禮也?」皇后惶之,復起舞.舞竟言:「奉娘子。」天皇即問皇后曰:「所奉娘子者誰也?欲知姓字。」皇后不獲已而奏言:「妾弟,名弟姬焉。」

弟姬容姿絕妙無比,其艷色徹衣而晃之.是以時人號-衣通郎姬也.天皇之志存于衣通郎姬,故強皇后而令進.皇后知之,不輕言禮事.爰天皇歡喜,則明日遣使者喚弟姬。

時弟姬隨母以在近江阪田.弟姬畏皇后之情而不參向.又重七喚,猶固辭以不至。

於是天皇不悅.而復敕一舍人中臣烏賊津使主曰:「皇后所進之娘子弟姬,喚而不來.汝自往之,召弟姬以來,必敦賞矣!」

爰烏賊津使主承命退之,縹褕裯中到阪田.伏于弟姬庭中言:「天皇命以召之。」弟姬對曰:「豈非懼天皇之命?唯不欲傷皇后之志耳.妾雖身亡,不參赴!」時烏賊津使主對言:「臣既被天皇命,必召率來矣.若不將來,必罪之.故返被極刑,寧伏庭而死耳!」仍經七日,伏於庭中。

與飲食而不餐,密食懷中之糒.於是弟姬以為,妾因皇后之嫉,既拒天皇命.且亡君之忠臣,是亦妾罪.則從烏賊津使主而來之.到倭春日,食于櫟井上.弟姬親賜酒于使主,慰其意。

使主即日至京,留弟姬於倭直吾子籠之家,復命天皇.天皇大歡之,美烏賊津使主而敦寵焉.然皇后之色不平.是以勿進宮中,則別構殿屋於藤原而居也。

適產大泊瀨天皇之夕,天皇始幸藤原宮.皇后聞之恨曰:「妾初自結髮,陪於後宮,既經多年.甚哉,天皇也.今妾產之,死生相半.何故,當今夕,必幸藤原!」乃自出之,燒產殿而將死.天皇聞之,大驚曰:「朕過也!」因慰喻皇后之意焉。

八年春二月,幸於藤原,密察衣通郎姬之消息。

是夕,衣通郎姬戀天皇而獨居.其不知天皇之臨,而歌曰:

我・背子・來・夕・蜘蛛・行・今夕著・

天皇聆是歌,則有感情,而歌之曰:

衣通郎姬戀天皇歌:

妾外子兮將來夕 蟹動振舞蜘蛛者
今夜觀兮特醒目

今夜是夫君將來訪之夜,如小蟹舞動的蜘蛛,再今夜顯得特別的醒目。
天皇與衣通郎姬歌
細錦紐兮解以褪 數夜御寢僅得一
解開你那細緻的錦紐,雖欲與汝每晚共枕,卻也只得一夜罷了。
甚愛之兮妍花櫻 此愛之兮念與汝
願得早兮愛與汝 我者愛兮娘子矣
美麗綻放的櫻花,就像愛那櫻花般愛你,如能早些愛上你就好了,至愛的衣通郎姬啊!



衣通郎姬 茅渟宮舊址

衣通郎姬於茅渟歌:
永逢君兮不可得 鯨取濱藻時可寄
雖然不可能永遠相會,但是就像那取鯨海濱邊的海藻般,偶爾能夠相寄面晤野就好了。

六.赤石的真珠

十四年秋九月,癸丑朔甲子,天皇獨于淡路島。
時麋鹿、猿、豬,莫莫紛紛盈于山谷,焱起蠅散。然終日以不獲一獸。於是獨止以更卜矣。
島神崇之曰:「不得獸者是我之心也。赤石海底有真珠,其珠祠於我,則悉當得獸。」爰更集處處之白水郎,以令探赤石海底,海深不能至底。
唯一海人,曰-男狹磯,是阿波國長邑之海人也,勝於諸海人。是腰繫繩入海底,差頃之出曰:「於海底,有大鰻。其處光也。」諸人皆曰:「島神所請之珠,殆有是鰻腹乎!」亦入探之。爰男狹磯抱大鰻而泛出之,乃息絕以死浪上。既而下繩測海底,六十尋。
則割鰻,實真珠有腹中,其大如桃子。乃祠島神而獨之,多獲獸也。唯悲男狹磯入海死之,則作墓厚葬。其墓猶今存之。



輕之神社 祭神:木梨輕太子

木梨輕皇子歌:
足引山兮作山田 山高引水下管行
如管下通地之中 我戀妻兮暗為泣
直至昨夜終得能 心安觸兮汝肌膚
在險峻的高山上開闢山田,為此自山上架設水管灌溉,就如那埋入地中的水管一般,我不欲人知的戀慕著妳而獨自哭泣,一直到昨夜,我才能敞開心胸安心的觸摸妳的肌膚。
縱汝放流伊豫島 終將一日如船歸 吾將謹兮守疊齋 雖言疊齋亦吾妻 汝亦潔身

• • • • • 錦・紐・ 解・放・ • • 數多・寢・ • • 唯一夜・ • •

明旦,天皇見井傍櫻華而歌之曰:

花・ • • • 櫻・愛・ • • 愛・ • • 早・ • 愛・ • • 我・愛・ • • 子・

皇后聞之,且大恨也。於是衣通郎姬奏言:「妾常近王宮,而晝夜相續欲視陛下之威儀。然皇后則妾之姊也,因妾以恒恨陛下,亦為妾苦。是以冀離王居而欲遠居,若皇后嫉意少息歟。」天皇則更興造宮室於河內茅渟,而衣通郎姬令居。因此以屢遊獵于日根野。
九年春二月,幸茅渟宮。
秋八月,幸茅渟。
冬十月,幸茅渟。
十年春正月,幸茅渟。
於是皇后奏言:「妾如毫毛,非嫉弟姬。然恐陛下屢幸于茅渟,是百姓之苦。仰願宜除車駕之數也。」是後希有之幸焉。
十一年春三月,癸卯朔丙午,幸於茅渟宮。衣通郎姬歌之曰:

常・ • • • 君・逢・ • • • 鯨魚取・ 海・濱藻・ 寄・時・ • •

時天皇謂衣通郎姬曰:「是歌不可聆他人,皇后必大恨。」故時人號濱藻謂-奈能利曾毛也。奈能利曾毛者,勿告藻也,此云・ • • • • •。
先是衣通郎姬居于藤原宮時,天皇詔大伴室屋連曰:「朕頃得美麗孃子,是皇后母弟也。朕心異愛之,冀其名欲傳於後葉。奈何?」室屋連依敕而奏可。則科諸國造等,為衣通郎姬定藤原部。



海上神社 鳴門邊集云:
男狹磯墓,中興海上神社今在也。

七.木梨輕皇子與輕大娘皇女的戀情

二十三年春三月,甲午朔庚子,立木梨輕皇子為太子。容姿麗佳,見者自感。
同母妹輕大娘皇女亦艷妙也。太子恆念合大娘皇女,畏有罪而默之。然感情既盛,殆將至死。
爰以為:「徒空死者,雖有罪何得忍乎?」遂竊通,乃悵懷少息。因以歌曰:

足引・ 山田・作・ 山高・ 下通・走・ • •
下泣・ • • 我・泣・妻 片泣・ • • 我・泣・妻 昨夜・ • • 安・膚觸・

二十四年夏六月,御膳羹汁凝以作冰。天皇異之,卜其所由。
卜者曰:「有內亂,蓋親親相姦乎!」時有人曰:「木梨輕太子姦同母妹輕大娘皇女。」因以推問焉。辭既實也。太子是為儲君,不得罪。則流輕大娘皇女於伊豫。是時太子歌之曰:

勿為汚

就算妳被留放外島,有朝一日也會像船靠岸般的回來的,我將會守住我倆的疊齋,不令它有一絲髒污.雖然這裡說著疊齋,不過我在意的還是妳啊,妳也要嚴守己身,別讓他人玷污了.

天飛雁兮輕孌子 甚泣之兮人將知
願如幡社山之鳩 忍其情兮暗為泣

天飛雁知輕地的孌子啊,妳這樣大聲的哭會被人知道的,所以希望你可以像幡社山上的鳩翮般忍耐著暗自哭泣.

大君・鳥・放・船余・還・來・我・疊齋・
言・疊・言・我・妻・齋・

又歌之曰:

天・輕孌子 甚泣・人知・幡舍・山・鳩・下泣・泣・

八.允恭天皇崩御

四十二年春正月,乙亥朔戊子,天皇崩.時年若干.

於是新羅王聞天皇既崩,驚愁之,貢上調船八十艘及種種樂人八十.

是泊對馬而大哭.到筑紫,亦大哭.泊于難波津,則皆素服之,希捧御調,且張種種樂器.自難波至于京,或哭泣,或歌舞,遂參會於殯宮也.

冬十一月,新羅弔使等喪札既闋而還之.

爰新羅人恆愛京城傍耳成山、畝傍山.則到琴引阪,顧之曰:「宇泥咩巴榔,彌彌巴榔.」是未習風俗之言語.故訛畝傍山謂宇泥咩,訛耳成山謂彌彌耳.宇泥咩者,彌彌者,

時倭餉部從新羅人聞是辭而疑之,以為新羅人通采女耳.采女,此云,乃返之故于大泊瀨皇子.皇子則悉禁固新羅使者而推問.時新羅使者啟之曰:「無犯采女.唯愛京傍之兩山耳.」則知虛言,皆原.於是新羅人大恨,更減貢上之物色即船數.

冬十月,庚午朔己卯,葬天皇於河內長野原陵.



允恭天皇河內長野原陵

穴穗天皇 安康天皇

一.木梨輕太子自滅

穴穗天皇,雄朝津間稚子宿禰天皇第二子也.一云,第三子也.母曰-忍阪大中姬命,茅渟毛二岐皇子之女也.

四十二年春正月,天皇崩.

冬十月,葬禮畢之.

是時太子行暴虐,淫于婦女.國人謗之,群臣不從,悉隸穴穗皇子.

爰太子欲襲穴穗皇子而密設兵.穴穗皇子復興兵將戰.故穴穗括箭、輕括箭,始于此時也.

時太子知群臣不從,百姓乖違,乃出之匿物部大前宿禰之家.

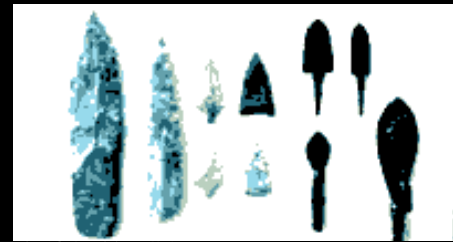
穴穗皇子聞則圍之.大前宿禰出門而迎之.穴穗皇子歌之曰:

大前 小前宿禰 金門蔭 立・寄・雨立・止・

大前宿禰答歌之曰:

宮人・足結・小鈴 落・宮人動・里人・慎・

乃啟皇子曰:「願勿害太子,臣將議.」由是太子自死于大前宿禰之家.一云,流伊豫國.



穴穗括箭(鐵鏃)



輕括箭(銅鏃)

穴穗皇子與大前宿禰歌

大前小前宿禰門 立金門蔭待雨歇

我在大前小前宿禰的金門下,等待雨停歇時.宮人足結鈴若落 宮人騷兮里人慎

宮人足上綁著的小鈴一旦掉落,非但會讓宮人們騷動,里人也將戒慎.



墓山古墳 傳為大草香皇子之墓



前賢故實 插畫 日香蚊



安康天皇菅原伏見西陵

二.大草香皇子之死

十二月,己巳朔壬午,穴穗皇子即天皇位.尊皇后曰-皇太后.
則遷都于石上,是謂-穴穗宮.

當是時,大泊瀨皇子欲聘瑞齒別天皇之女等.女名不見諸記.於是皇女等對曰:「君王恆暴強也.儻忽忿起,則朝見者夕被殺,夕見者朝被殺.今妾等顏色不秀,加以情性拙之.若威儀、言語,如毫毛不似王意,豈為親乎?是以不能奉命.」遂遁以不聽矣.

元年春二月,戊辰朔,天皇為大泊瀨皇子,欲聘大草香皇子妹-幡梭皇女.

則遣阪本臣祖-根使主,請於大草香皇子曰:「願得幡梭皇女,以欲配大泊瀨皇子.」爰大草香皇子對言:「僕頃患重病不得愈,譬如物積船以待潮者,然死之命也,何足惜乎.但以妹幡梭皇女之孤,而不能易死耳.今陛下不嫌其醜,將滿苜蓿之數,是甚大恩也,何辭命辱?故欲呈丹心,捧私寶名-押木珠纒,一云,立纒.又云,磐木纒.附所使臣根使主而敢奉獻.願物雖輕賤,納為信契.」

於是,根使主見押木珠纒,感其麗美以為,盜為己寶,則詐奉天皇曰:「大草香皇子者不奉命,乃謂臣曰:『其雖同族,豈以吾妹得為妻耶?』」既而留纒,入己而不獻.

於是天皇信根使主之讒言,則大怒之起兵,圍大草香皇子之家而殺之.是時難波吉師-日香蚊父子並仕大草香皇子,共傷其君無罪死之,則父抱王頸,二子各執王足而唱曰:「吾君無罪以死之,悲乎!我父子三人生事之,死不朽,是不臣矣!」即自刎之死于皇尸側.軍眾悉流涕.

爰取大草香皇子之妻-中蒂姬,納于宮中,因為妃.

復遂喚幡梭皇女,配大泊瀨皇子.是年也,太歲甲午.

二年春正月,癸巳朔己酉,立中蒂姬命為皇后,甚寵也.

初中蒂姬命生眉輪王於草香皇子.乃依母以得免罪,常養宮中.

三年秋八月,甲申朔壬辰,天皇為眉輪王見弑.辭具在大泊瀨天皇紀.

三年後,乃葬菅原伏見陵.

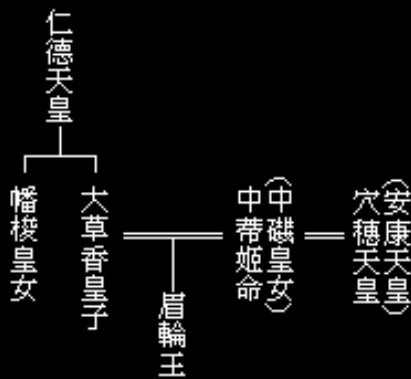
日本書紀卷十三 終

[\[久遠・絆\]](#) [\[卷十二\]](#) [\[卷十四\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷十四 雄略紀

大泊瀨幼武天皇 雄略天皇

一.眉輪王報父仇



野中古墳
據傳,該古墳所葬者,八鈞白彥皇子。
於安康記則載,白日子王(八鈞白彥)
為大長谷若建皇子活埋於小治田。

圓大臣妻傷懷夫歌:

人臣子兮吾夫矣 栲織下衣七重著
撫腳帶兮立於庭

身為人臣的吾夫啊,你穿著七重的栲織下
衣,立於庭中整理腳帶將出。



市編押磐皇子御墓

二.天皇即位與諸妃

十一月,壬子朔甲子,天皇命有司,設壇於泊瀨朝倉,即天皇位。
遂定宮焉,以平群臣真鳥為大臣,以大伴連-室屋、物部連-目為大連。
元年春三月,庚戌朔壬子,立草香幡梭皇女為皇后.更名-橘姬。
是月,立三妃。

元妃,葛城-圓大臣女,曰-韓媛。

生,白髮武廣國押稚日本根子天皇與稚足姬皇女.更名-栲幡姬皇女.是皇女侍伊勢大神祠。

次有,吉備上道臣女-稚媛.一本云,吉備湍屋臣女.生二男。

長曰,磐城皇子,

少曰,星川稚宮皇子.見下文。

次有,春日日和珥臣深目女,曰-童女君。

大泊瀨幼武天皇,雄朝津間稚子宿禰天皇第五子也。

天皇產而神光滿殿,長而伉健過人。

三年八月,穴穗天皇意將沐浴,幸于山宮。

遂登樓兮遊目.因命酒兮肆宴,爾乃情盤樂極,間以言談,顧謂皇后曰:「吾妹,稱妻為妹,蓋古之俗乎.汝雖親昵,朕畏眉輪王.去來穗別天皇女曰-中帶姬皇女,更名長田大娘皇女也.大鷦鷯天子-大草香皇子,娶長田皇女,生-眉輪王也.於後穗穴天皇用根臣讒,殺大草香皇子,而立中帶姬皇女為皇后.語在穴穗天皇紀.」眉輪王幼年,遊戲樓下,悉聞所談。

既而天皇枕皇后膝,晝醉眠臥.於是眉輪王伺其熟睡而刺弑之。

是日,大舍人,缺姓字也.驟言於天皇曰:「穴穗天皇為眉輪王見弑!」

天皇大驚,即猜兄弟等,被甲帶刀,率兵自將,逼問八鈞白彥皇子.皇子見其欲害,嘿坐不語.天皇乃拔刀而斬。

更逼問阪合黑彥皇子.皇子亦知將害,嘿坐不語.天皇忿怒彌盛,乃復并為欲殺眉輪王,案劾所由.眉輪王曰:「臣元不求天位,唯報父仇而已.」

阪合黑彥皇子深恐所疑,竊語眉輪王,遂共得間,而出逃入圓大臣宅。

天皇使使乞之.大臣以使報曰:「蓋聞,人臣有事逃入王室;未見,君王隱匿臣舍.方今阪合黑彥皇子與眉輪王,深恃臣心,來臣之舍.誰忍送歟?」由是天皇復益興兵,圍大臣宅。

大臣出立於庭,索腳帶.時大臣妻持來腳帶愴矣,傷懷而歌曰:

臣・子・ 栲・ 七重著・ 庭・立・ . . . 腳帶撫・ . .

大臣裝束已畢,進軍門跪拜曰:「臣雖被戮,莫敢聽命.古人有云:『匹夫之志難可奪.』方屬乎臣.伏願,大王奉獻臣女-韓媛與葛城宅七區,請以贖罪.」天皇不許,縱火燔宅。

於是,大臣與黑彥皇子、眉輪王,俱被燔死.時阪合部連贅宿禰抱皇子屍而見燔死,其舍人等,闕名字也.收取所燒,遂難擇骨,盛之一棺,合葬新漢擬本南丘.擬字未詳,蓋是槻乎。

冬十月,癸未朔,天皇恨穴穗天皇曾欲以市邊押磐皇子傳國而逢付囑後事。

乃使人於市邊押磐皇子,陽期校獵,勸遊郊野曰:「近江狹狹城山君韓袋言:『今於近江來田綿蚊屋野,豬、鹿多有.其戴角類枯樹末,其聚腳如弱木林,呼吸氣息似於朝霧.』願與皇子,孟冬作陰之月,寒風肅然之晨,將逍遙於郊野,聊娛情以騁射!」市邊押磐皇子乃隨馳獵。

於是,大泊瀨天皇彎弓驟馬而陽呼曰:「豬有!」即射殺市邊押磐皇子。

皇子帳內佐伯部賣輪,更名-仲子.抱屍,駭惋不解所由.反側呼號,往還頭腳.天皇尚誅之。

是月,御馬皇子以曾善三輪君身狹故,思欲遣慮而往,不意道逢邀軍,於三輪磐井側逆戰。

不久被捉,臨刑指井而詛曰:「此水者,百姓唯得飲焉,王者獨不能飲矣!」



白山比咩神社(白山神社)
雄略天皇泊瀨朝倉宮跡傳承地.另有天之森及十二神社等候補傳承地。

生,春日大娘皇女,更名-高橋皇女。

童女君者本是采女,天皇與一夜而脹,遂生女子,天皇疑,不養。

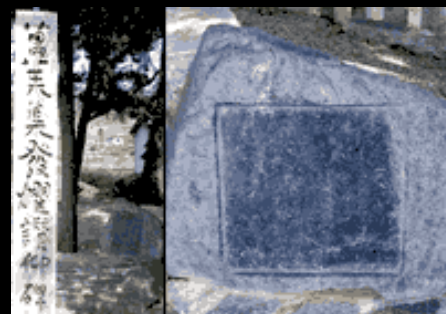
及女子行步,天皇御大殿,物部目大連侍焉。女子過庭,目大連顧謂群臣曰:「麗哉,女子,古人有云:『娜毘滕耶嬌麼珥,此古語,未詳。』或為-汝人者似母-乎。』徐步清庭者,言誰女子?」天皇曰:「何故問耶?」目大連對曰:「臣觀女子行步,容儀能似天皇。」天皇曰:「見此者咸言,如卿所道,然朕與一宵而脹,產女殊常,由是生疑。」大連曰:「然則一宵喚幾迴乎?」天皇曰:「七迴喚之。」大連曰:「此娘子以清身意,奉與一宵,安輕生疑,嫌他有潔,臣聞,易產腹者以禪觸體,即便懷脹,況與終宵而妄生疑也?」

天皇命大連,以女子為皇女,以母為妃,是年也,太歲丁酉。

二年秋七月,百濟池津媛違天皇將幸,淫於石河楯,舊本云,石河股合首祖-楯。

天皇大怒,詔大伴室屋大連,使來目部,張夫婦四支於木置假廬上,以火燒死。

百濟新撰云:己巳年,蓋鹵王立,天皇遣阿禮奴跪,來索女郎,百濟莊飾慕尼夫人女,曰-適稽女郎,貢進於天皇。



万葉集發耀讚揚碑

万葉集和歌1-1雄略天皇御製歌,即為古事記中雄略坐朝倉宮登帝位之歌,左為白山比咩神社藏万葉發耀讚揚碑及歌碑,右為御製歌碑放大圖。



吉野宮復原模型



埴輪、馬飼

雄略天皇怒臣不答,拔刀斬大津馬飼

三.行幸吉野宮,肉人部貢上

冬十月,辛未朔癸酉,幸于吉野宮。

丙子,幸御馬瀨,命虞人縱獵,凌重嶺,赴長莽,未及移影,獮什七八。

每獵大獲,鳥獸將盡,遂旋憩乎林泉,相羊乎藪澤,息行夫展車馬,問群臣曰:「獵場之樂使膳夫割鮮,何與自割?」群臣忽莫能對,於是天皇大怒,拔刀斬御者大津馬飼。

是日,車駕至自吉野宮,國內人民,咸皆振怖。

由是皇太后與皇后聞之大懼,使倭采女舉酒迎進,天皇見采女面貌端麗,形容溫雅,乃和顏悅色曰:「朕豈不欲睹汝妍笑?」乃相攜手,入於後宮。

與皇太后曰:「今日遊獵,大獲禽獸,欲與群臣割鮮野餐,歷問群臣,莫能有對,故朕嗔焉。」皇太后知斯詔情,奉慰天皇曰:「群臣不悟陛下因遊獵場,置肉人部,降問群臣,群臣嘿然理,且難對,今貢未晚,以我為初,膳臣長野,能做肉膾,願以此貢。」

天皇跪禮而受曰:「善哉,鄙人所云:『貴相知心。』此之謂也!」皇太后視天皇悅,歡喜盈懷,更欲貢人曰:「我之廚人菟田御戶部、真鋒田高天,以此二人加供為肉人部。」

自茲以後,大倭國造吾子籠宿禰,貢狹穗子鳥別為肉人部,臣、連、伴造、國造,又隨續貢。

是月,置史戶、河上舍人部,天皇以心為師,誤殺人眾,天下毀謗言:「大惡天皇也!」

唯所愛寵,史部身狹村主青、檜隈民使博德等。

四.栲幡皇女自殺

三年夏四月,阿閉臣國見,更名-磯特牛,譖栲幡皇女與湯人廬城部連武彥曰:「武彥汗皇女而使妊身,湯人,此云・・」武彥之父-枳莒喻,聞此流言,恐禍及身,誘率武彥於廬城河,偽使鷗鷺沒水捕魚,因其不意而打殺之。

天皇聞,遣使者案問皇女,皇女對言:「妾不識也。」俄而皇女齎持神鏡,詣於五十鈴河上,伺人不行,埋鏡,經死。

天皇疑皇女不在,恒使闇夜東西求覓,乃於河上虹見如蛇,四五丈者,掘虹起處,而獲神鏡,疑行未遠,得皇女屍,割而觀之,腹中有物如水,水中有石。

枳莒喻,由斯得雪子罪,還悔殺子,報殺國見,逃匿石上神宮。



栲幡皇女

阿閉臣國見謗栲幡皇女,是以皇女持神鏡,自經五十鈴川之上,時有虹,狀似蛇而出,後割其屍而知皇女清白。



葛城山 一言無神社

五.葛城山遇一事主神

四年春二月,天皇射獵於葛城山,忽見長人,來望丹谷,面貌容儀相似天皇。

天皇知是神,猶故問曰:「何處公也?」長人對曰:「現人之神,先稱王諱,然後應道。」天皇答曰:「朕是幼武尊也。」長人次稱曰:「僕是一事主神也。」

遂與盤于遊田,驅逐一鹿,相辭發箭,並轡馳騁,言詞恭恪,有若逢仙。

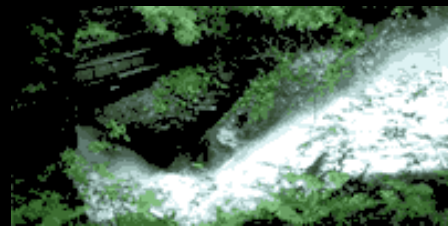
於是日晚,田罷,神侍送天皇,至來目水,是時百姓咸言:「有德天皇也!」

六.吉野的蜻蛉

秋八月,辛卯朔戊甲,行幸吉野宮.
庚戌,幸于河上小野.
命虞人驅獸,欲躬射而待,虻疾飛來,噉天皇臂.於是,蜻蛉忽然飛來,嚙虻將去.
天皇嘉厥有心,詔群臣曰:「為朕讚蜻蛉歌賦之!」
群臣莫能敢賦者.天皇乃口號曰:

倭・ 鳴武羅・岳・ 鹿豬伏・・ 誰・・・事 大前・奏・
一本:以「大前・奏・」易「大君・奏・」
大君・ ・・・聞・・・ 玉纏・ 胡床・立・・
鹿豬待・・ 我・・・・・ 豬待・・ 我・・・・・
手排・ 虻・・・・・ 虻・ 蜻蛉・・・嚙・
昆蟲・ 大君・・・・・ 汝・形・置・・ 蜻蛉島倭
一本:以「昆蟲・」以下易「・・・・・ 名・負・・・・・ 倭國・ 蜻蛉島・・・・」

因讚蜻蛉,名此地為蜻蛉野.



蜻蛉野 蜻蛉之瀧

天皇口號蜻蛉歌:

倭鳴武羅岳之上 豬鹿儔兮伏其中
誰將此事奏大前 君聞此兮立胡床
倭文織兮玉並纏 我者立此待鹿豬
待時腕兮為虻啄 此虻即為蜻蛉嚙
昆蟲亦兮從大君 蜻蛉島倭置汝名
是誰報告說倭國鳴武羅岳上有豬鹿棲息的呢?朕聽聞此事就坐上了以玉及倭文織所裝飾的胡床,等待鹿豬的出現,在等待鹿豬的同時,卻被虻吸食了手腕的血,而這隻虻則立刻被蜻蛉所嚙去.連昆蟲都知道順從甚吶,為了紀念你的名字,這裡以後就叫做蜻蛉島倭吧!
一本,以"大君"替"大前",以"坐"替"立",末句易作"欲為世代傳汝名,此名大倭蜻蛉島."



葛城山
在奈良御所市與大阪南河內郡境上

七.葛城山的狩獵

五年春二月,天皇校獵于葛城山.
靈鳥忽來,其大如雀,尾長曳地,而且鳴曰:「努力努力!」
俄而見逐噉豬,從草中暴出逐人.獺徒緣樹大懼.
天皇詔舍人曰:「猛獸逢人則止.宜逆射而且刺!」舍人性懦弱,緣樹失色,五情無主.
噉豬直來欲噬天皇.天皇用弓刺止,拳腳踏殺.於是田罷,欲斬舍人.舍人臨刑,而作歌曰:

・・・・・ 我・大君・ 遊・・・ 豬・唸聲畏・
我・逃・緣・・ 在丘・上・ 榛・枝 吾兄・

舍人臨刑作歌:

八方治兮吾聖君 遊獵之中聞豬鳴
樸者畏兮攀榛上 逃丘榛枝吾君矣
治理天下八方的聖王啊,我是因為畏懼在遊獵之中聽見怒豬的鳴叫,而逃到丘上的榛枝之上的啊,我的君王啊!

皇后聞悲,興感止之.詔曰:「皇后,不與天皇而顧舍人!」對曰:「國人皆謂陛下,安野而好獸.無乃不可乎?今陛下以噉豬故,而斬舍人.陛下譬無異於豺狼也!」
天皇乃與皇后上車歸.呼:「萬歲!」曰:「樂哉!人皆獵禽獸,朕獵得善言而歸!」

八.百濟軍君來朝

夏四月,百濟加須利君,蓋鹵王也.飛聞池津媛之所幡殺,適稽女郎也.而籌議曰:「昔貢女人為采女.而既無禮,失我國名.自今以後,不合貢女.」乃告其弟軍君,崑支也.曰:「汝宜往日本以事天皇.」軍君對曰:「上君命不可奉違.願賜君婦而後奉遣.」

加須利君則以孕婦,既嫁與軍君曰:「我之孕婦既當產月.若於路產,冀載一船,隨至何處速令送國.」遂與詞訣,奉遣於朝.

六月,丙戌朔,孕婦果如家須利君所言,於筑紫各羅島產兒.仍名此兒曰-島君.

於是,軍君即以一船送島君於國.是為武寧王.百濟人呼此島曰-主島也.

秋七月,軍君入京.既而有五子.

百濟新撰云:辛丑年,蓋鹵王遣王弟-琨支君,向大倭侍天皇,以脩先王之好也.

六年春二月,壬子朔乙卯,天皇遊乎泊瀨小野.

觀山野之體勢,慨然興感歌曰:

隱所・ 泊瀨・山・ 出・立・・ 宜・・山 走・出・ 宜・・山・
隱所・ 泊瀨・山・ ・・・・麗・ ・・・・麗・

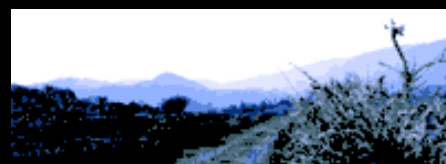


各羅島 亦名主島,現名加羅島.
是為百濟武寧王誕生之地.

天皇興感泊瀨山勢之歌:

隱所之兮泊瀨山 山型突出壯麗嶽
山勢縱橫闊麗嶽 秀美隱所泊瀨山
隱所泊瀨山啊,它是山型如此突出的美麗山嶽,亦是山勢如此縱橫壯闊的美麗山岳,隱所泊瀨山吶,你實在是如此的美麗,如此的美麗啊!

於是名小野曰-道小野。



野小道 亦名泊瀨道



少子部螺羸 漢字或書少子部栖輕



雷丘

十.吉備臣

八月,官者吉備弓削部虛空,取急歸家。

吉備下道臣前津屋,或本云,國造吉備臣山,留使虛空,經月不肯聽上京都.天皇遣身毛君大夫召焉。

虛空被召來言:「前津屋以小女為天皇人,以大女為己人,競令相鬥.見幼女勝,即拔刀而殺.復以小雄雞,為天皇雞.拔毛剪翼;以大雄雞呼為己雞.著鈴、金鉅,競令鬥之.見禿雞勝,亦拔刀而殺。」天皇聞是語,遣物部兵士三十人,誅殺前津屋并族七十人。



故宮博物院藏 鬥雞圖



兩宮山谷墳

所葬者,吉備稚媛.傳吉備上道臣田狹於殿側褒其妻之美貌,為雄略天皇所竊聞.是以天皇興心欲得稚媛,拜田狹於任那國司而幸稚媛,產有二子,是為磐城皇子與星川稚宮皇子。



富田利雄繪 真神原

九.少子部螺羸捕三諸岳大蛇

三月,辛巳朔丁亥,天皇欲使后妃親桑,以勸蠶事。

爰命螺羸,螺羸,人名也.此云……聚國內蠶。

於是,螺羸誤聚嬰兒,奉獻天皇.天皇大笑,賜嬰兒於螺羸曰:「汝宜自養。」

螺羸即養嬰兒於宮牆下.仍賜姓為-少子部連。

夏四月,吳國遣使貢獻。

七年秋七月,甲戌朔丙子,天皇詔少子部連螺羸曰:「朕欲見三諸岳神之形.或云,此山之神為大物主神也.或云,菟田墨阪神也.汝膂力過人,自行促來!」

螺羸答曰:「試往捉之。」乃登三諸岳,捉取大蛇,奉示天皇.天皇不齋戒.其雷虺虺,目精赫赫.天皇畏,閉目不見,卻入殿中,使放於岳.仍改賜名為雷。

十一.稚媛與今來之才伎

是歲,吉備上道臣-田狹,侍於殿側,盛稱稚媛於朋友曰:「天下麗人莫若吾婦.茂矣綽矣,諸好備矣.曄矣溫矣,種相足矣.鉛花弗御,蘭澤無加.曠世罕儔,當時秀者者也!」天皇傾耳遙聽而心悅焉,便欲自求稚媛為女御,拜田狹為任那國司.俄而,天皇幸稚媛。

田狹臣娶稚媛,而生兄君、弟君也.別本云,田狹臣婦,名-毛媛者,葛城襲津彥子-玉田宿禰之女也.天皇聞體貌閑麗,殺夫自幸焉.田狹既之任所,聞天皇之幸其婦,思欲求援而入新羅。

于時新羅不事中國,此,謂日本作中國.天皇詔田狹臣子-弟君與吉備海部直-赤尾,曰:「汝宜往罰新羅!」於是,西漢才伎-歡因知利在側,乃進而奏曰:「巧於奴者,多在韓國,可召而使。」

天皇詔群臣曰:「然則宜以歡因知利,副弟君等,取道於百濟,並下敕書,令獻巧者。」

於是,弟君銜命,率眾行到百濟而入其國.國神化為老女,忽然逢路.弟君就訪國之遠近.老女報言:「復行一日,而後可到。」弟君自思路遠,不伐而還.集聚百濟所貢今來才伎於大島中,託稱候風,滯留數月。

任那國司田狹臣乃嘉弟君不伐而還,密使人於百濟,戒弟君曰:「汝之領項有何牢鋼而伐人乎?傳聞,天皇幸吾婦,遂有兒息.兒息已見上文.今恐,禍及於身,可躡足待.吾兒汝者,跨據百濟,勿使通於日本.吾者據有任那,亦勿通日本。」

弟君之婦-樟媛,國家情深,君臣義切.忠踰白日,節冠青松.惡斯謀叛,盜殺其夫,隱埋室內.乃與海部直-赤尾,將百濟所獻手末才伎在大島。

天皇聞弟君不在,遣日鷹吉士-堅磐、固安錢,堅磐,此云……使共復命.遂即安置於倭國吾礪廣津邑,而病死者眾.廣津,此云……。

由是天皇詔大伴大連室屋,命東漢直-掬,以新漢陶部-高貴、鞍部-堅貴、畫部-因斯羅我、錦部-定安那錦、譯部-卯安那等,遷居于上桃原、下桃原、真神原三所.或本云,吉備臣-弟君還自百濟,獻漢-手人部、衣縫部、肉人部。

十二.救援新羅,擊破高麗

八年春二月,遣身狹村主-青、檜隈民使-博德,使於吾國。

自天皇即位,至于是歲,新羅國背誕,苞苴不入,於今八年.而大懼中國之心,脩好於高麗.由是高麗王遣精兵一百人守新羅.

有頃,高麗軍士一人取假歸國.時以新羅人為典馬,典馬,此云…….而顧謂之曰:「汝國為吾國所破,非久矣.一本云,汝國果成吾土,非久矣.」其典馬聞之,陽患其腹,退而在後.遂逃入國,說其所語.於是,新羅王乃知高麗偽守,遣使馳告國人曰:「人殺家內所養雞之雄者!」國人知意,盡殺國內所有高麗人.惟有遺高麗一人,乘間得脫,逃入其國,皆具為說之.

高麗王即發軍兵,屯聚筑足流域,或本云,都久斯岐城,遂歌舞興樂.於是,新羅王夜聞高麗軍四面歌舞,知賊盡入新羅地,乃使人於任那王曰:「高麗王征伐我國.當此之時,若綴旒然,國之危殆,過於累卵,命之脩短,大所不計!伏,請救於日本府行軍元帥等!」

由是任那王勸膳臣-斑鳩、斑鳩,此云…….吉備臣-小梨、難波吉士-赤目子,往救新羅.膳臣等未至營止.高麗諸將未與膳臣等相戰,皆怖.膳臣等乃自力勞軍,令軍中,促為攻具,急進攻之.與高麗相守十餘日,乃夜鑿險為地道,悉過輜重,設奇兵.

會明,高麗謂膳臣等為遁也,悉軍來追.乃縱奇兵,步、騎夾攻,大破之.二國之怨,自此而生.言二國者,高麗、新羅也.膳臣等謂新羅曰:「汝以至弱,當至強.官軍不救,必為所乘.將成人地,殆於此役!自今以後,豈背天朝也!」

九年春二月,甲子朔,遣凡河內直-香賜與采女,祠胸方神.香賜,此云…….

香賜與采女既至壇所,即將行事,姦其采女.天皇聞之曰:「祠神祈福,可不慎歟!」乃遣難波日鷹吉士,將誅之.時香賜即逃亡不在.

天皇復遣弓削連-豐穗,普求國內縣,遂於三島郡藍原執而斬焉.



古高麗冠帽

其仿雞羽為形,且依『舊唐書-高句麗傳』與集安舞踏塚古墳壁畫觀之,高麗人習以雞羽飾首.尚,高麗喚「軍」作「幢」,音同新羅「雞」字.此為新羅王敕殺新羅人曰:「人殺家內所養雞之雄者!」之所由.



胸形神社 胸方/胸形神者,宗像大神.

[\[久遠・絆\]](#) [\[卷十三\]](#) [\[其之二\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷十四 雄略紀

大泊瀨幼武天皇 雄略天皇



十三.新羅征討開始

三月,天皇欲親伐新羅.神戒天皇曰:「無往也。」

天皇由是不果行.敕紀小弓宿禰、蘇我韓子宿禰、大伴談連、談,此云……小鹿火宿禰等曰:「新羅自居西土,累葉稱臣,朝聘無違,貢職允濟.遠乎朕之王天下,投身對馬之外,竄跡匪羅之表,阻高麗之貢,吞百濟之城.況復朝聘既闕,貢職莫脩.狼子野心飽飛,飢附.以汝四卿,拜為大將.宜以王師薄伐,天罰冀行!」

於是,紀小弓宿禰使大伴室屋大連,憂陳於天皇曰:「臣雖拙弱,敬奉敕矣.但今臣婦命過之際,莫能視養臣者.公,冀將此事具臣天皇。」於是大伴室屋大連具為陳之.天皇聞悲頹歎,以吉備上道采女-大海,賜於紀小弓宿禰,為隨身視養,遂推轂以遣焉.

紀小弓宿禰等人即入新羅,行屠傍郡.行屠,並行並擊.新羅王夜聞官軍四面鼓聲,知盡得泉地,與數百騎馬車亂走.是以大敗.小弓宿禰追斬敵將陣中.

泉地悉定,遣眾不下.紀小弓宿禰亦收兵,與大伴談連等會.兵復大振,與遣眾戰.

是夕,大伴談連及紀岡前來目連,皆力鬥而死.

談連從人同姓津麻呂,後入軍中,尋覓其主.從軍不見出,問曰:「吾主大伴公,何處在也?」人告之曰:「汝主等果為敵手所殺。」指示屍處.麻呂聞之踏叱曰:「主既已陷,何用獨全?」因復赴敵,同時殞命.

有頃,遣眾自退,官軍亦隨而卻.大將軍紀小弓宿禰值病而薨.

夏五月,紀大磐宿禰聞父既薨,乃向新羅,執小鹿火宿禰所掌兵馬、船官及諸小官,專用威命.於是,小鹿火宿禰深怨乎大磐宿禰,乃詐告於韓子宿禰曰:「大磐宿禰謂僕曰:『我當復執韓子宿禰所掌之官,不久也!』願,固守之!」由是韓子宿禰與大磐宿禰有隙.

於是,百濟王聞日本諸將緣小事有隙,乃使人於韓子宿禰等曰:「欲觀國界.請,垂降臨。」是以韓子宿禰等並轡而往.及至於河,大磐宿禰飲馬於河.

是時,韓子宿禰從後而射大磐宿禰鞍瓦後橋.大磐宿禰愕然反視,射墮韓子宿禰.於中流而死.是三臣由前相競,行亂於道,不及百濟王宮而卻還矣.

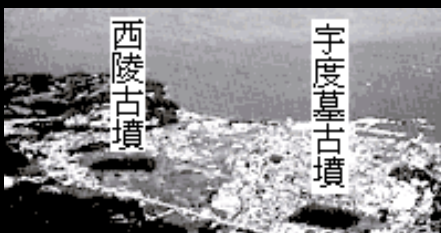
於是采女-大海從小弓宿禰喪,到來日本.遂憂諮於大伴室屋大連曰:「妾不知葬所.願占良地。」大連即為奏之.天皇敕大連曰:「大將軍紀小弓宿禰,龍驤虎視,旁眺八維,掩討逆節,折衝四海.然則身勞万里,命墜三韓.宜致哀矜,充視喪者.又,汝大伴卿與紀卿等,同國近鄰之人,由來尚矣。」

於是,大連奉敕,使土師連-小鳥,作冢墓於田身輪邑而葬之也.由是大海欣悅,不能自默,以韓奴室、兄麻呂、弟麻呂、御倉、小倉、針、六口送大連.吉備上道蚊島田邑家人部是也.

別小鹿火宿禰從紀小弓宿禰喪來時,獨留角國,使倭子連,連,未詳何姓人.奉八咫鏡於大伴大連,而祈請曰:「僕不堪共紀卿奉事天朝.故請,留住角國。」是以大連為奏於天皇,使留居于角國,而名-角臣,自此始也.



新羅、任那地圖
泉地,指泉己吞及卓淳一帶.



田身輪邑 宇度墓/西陵古墳群一帶

十四.埴輪馬

秋七月,壬辰朔,河內國言:「飛鳥戶郡人-田邊史-伯孫女者,古市郡人書目加龍之妻也.伯孫聞女產兒,往賀婿家,而月夜還,於蓬萊丘-譽田陵下,蓬萊,此云……逢騎赤駿者.其馬時渡略而龍翥,欬聳擢而鴻驚.異体峰生,殊相逸發.伯孫就視,而心欲之.乃鞭所乘驄馬,齊頭並轡.爾乃赤駿超擡,絕於埃塵,驅驚迅於滅沒.於是驄馬後而怠足,不可復追.其乘駿者知伯孫所欲,乃停換馬,相辭取別.伯孫得駿甚歡,驟而入廄,解鞍秣馬眠之.其明旦赤駿變為土馬.伯孫心異之,還覓譽田陵,乃見驄馬在於土馬之間.取而代而置所換土馬。」



埴輪馬
此所書土馬者,埴輪馬也.



天鵝/白鳥

水間君之犬嚙死身狹村主青所運二鵝,是以水間君獻上白鳥十隻及養鳥人,以求天皇贖罪.天皇將養鳥人等置於輕村,磐余村二所.



鯨面 例:伊勢灣型人面文



秦酒公

秦酒公琴悟天皇歌:

神風伊勢伊勢野 野上榮枝五百經
至枯盡兮五百經 吾將貞堅事於君
言欲長生工匠矣 如此巧將令人惜

神風吹拂的伊勢之地的伊勢野啊,野上有那茂密枝葉的長生之樹,在那茂密的之葉枯盡之前,都會一直侍奉著陛下的!巧匠,快說自己想要活久一點啊!令人惋惜的巧匠!

齒田根命被罪之歌:

此因山邊小鳥子 如能將之炫人前
馬者八匹不為惜

這都是因為能夠將山邊小鳥子在人前炫耀的緣故,即使要付出八匹馬的代價也不足為惜啊!



小野大樹

豬名部工匠歌:

豬名部兮工匠者 人憐惜兮其墨繩
工匠無兮誰人張 人憐惜兮墨繩矣

真是令人憐惜啊,豬名部工匠的墨繩,如果沒了工匠,就沒有人將你拉直了吧,令人憐惜的墨繩啊!

十五.鳥養部與豬名部,來自吳國的使者

十年秋九月,乙酉朔戊子,身狹村主-青,將吳所獻二鵝,到於筑紫.

是鵝為水間君犬所嚙死.別本云,是鵝為筑紫嶺縣主-泥麻呂犬所嚙死.由是水間君恐怖憂愁,不能自默.獻鴻十隻與養鳥人,請以贖罪.天皇許焉.

冬十月,乙卯朔辛酉,以水間君所獻養鳥人等,安置於輕村、磐余村二所.

十一年夏五月,辛亥朔,近江國栗太郡言:「白鷺鷥居于谷上濱.」因詔置川瀨舍人.

秋七月,有從百濟國逃化來者.自稱名曰-貴信,又稱貴信吳國人.磐余吳琴彈疆手屋形麻呂等,是其後也.

冬十月,鳥官之禽為菟田人狗所嚙死.天皇瞋,黥面而為鳥養部.

於是,信濃國直丁與武藏國直丁,謚宿相謂曰:「嗟乎,我國積鳥之高,同於小墓.旦暮而食,尚有其餘.今天皇由一鳥之故而黥人面,太無道理!惡行之主也!」天皇聞而使聚積之,直丁等不能忍備,仍詔為鳥養部.

十二年夏四月,丙子朔己卯,身狹村主-青與檜隈民使-博德,出使于吳.

冬十月,癸酉朔壬午,天皇命木工-門雞御田,一本云,豬名部御田,蓋誤也.始起樓閣.

於是御田登樓,疾走四方,有若飛行.時有伊勢采女,仰觀樓上,怪彼疾行,顛仆於庭,覆所擎饌.饌者,御膳之物也.天皇便疑御田姦其采女,自念將刑而付物部.

時秦酒公侍坐,欲以琴聲使悟於天皇,橫琴彈曰:

神風・伊勢・伊勢・野・榮枝・五百經・懸・
其・盡・大君・堅・仕・奉・我・命・長・
・工匠・工匠・

於是天皇悟琴聲,而赦其罪.

十三年春三月,狹穗彥玄孫-齒田根命,竊姦采女-山邊小鳥子.

天皇聞,以齒田根命,收付於物部目大連,而使責讓.

齒田根命以馬八匹、大刀八口,祓除罪過.既而歌曰:

山邊・小鳥子故・人銜・馬・八匹・惜・

目大連聞而奏之.天皇使齒田根命,資財露置於餌香市邊橘本之士,遂以餌香長野邑,賜物部目大連.

秋八月,播磨國御井隈人-文石小麻呂,有心強力,肆行暴虐.路中抄劫不使通行,又斷商客餽解,悉以奪取,兼違國法,不輸租賦.於是,天皇遣春日小野臣-大樹,領敢死士一百,並持火炬,圍宅而燒.

時自火炎中,白狗暴出,逐大樹臣,其大如馬.大樹臣神色不變,拔刀斬之,即化為文石小麻呂.

秋九月,木工豬名部-真根,以石為質,揮斧斲材.終日斲之,不誤傷刃.

天皇遊詣其所,而怪問曰:「恒不誤中石耶?」真根答曰:「竟不誤矣.」乃喚集采女,使脫衣裙而著犢鼻,露所相撲.於是真根暫停仰視而斲,不覺手誤傷刃.天皇因責讓曰:「何處奴,不畏朕,用不貞心,妄輕答!」仍付物部,使刑於野.

爰有同伴巧者,歎惜真根,而作歌曰:

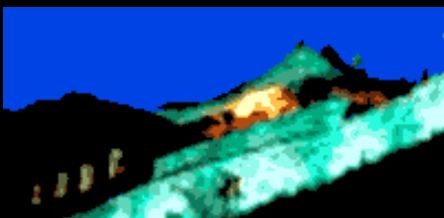
・猪名部・工匠・墨繩・其・無・誰・

天皇聞是歌,反生悔惜,喟然頽歎曰:「幾失人哉!」乃以赦使,乘於甲斐黑駒馳,詣刑所止而赦之,用解徽纆.復作歌曰:

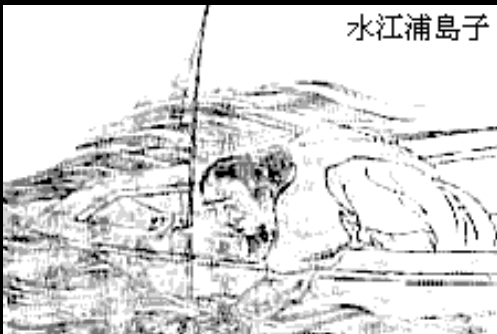
・五・甲斐・黑駒・鞍著・命死・甲斐・黑駒

一本云,換「命死」,而云「及」.

十四年春正月,丙寅朔戊寅,身狹村主-青等共吳國使,將吳所獻手末才伎,漢織、吳織及衣縫兄媛、弟媛等,泊於住吉津.



久麻那利 此為古朝鮮語,熊津.



十九.高麗,百濟破滅

二十年冬，高麗王大發軍兵，伐盡百濟。爰有少許遺眾，聚居倉下，兵糧既盡，憂泣茲深。

於是高麗諸將言於王曰：「百濟心許非常，臣每見之，不覺自失，恐更蔓生，請遂除之！」王曰：「不可矣。寡人聞，百濟國者，日本國之官家所由來遠久矣。又王入仕天皇，四鄰之所共識也。」遂止之。百濟記云，蓋鹵王乙卯年冬，貊大軍來攻大城，七日七夜，王城陷，遂失尉禮國。王及太后、王子等，皆沒敵手。

二十一年春三月，天皇聞百濟為高麗所破，以久麻那利賜汶洲王，救興其國。

時人皆云：「百濟國雖屬既亡聚倉下，實賴天皇，更造其國！」汶洲王、蓋鹵王母弟也。

日本舊記云，以久麻那利，賜末多王。蓋是誤也。久麻那利者，任那國下哆呼利縣之別邑也。

二十二年春正月,己酉朔,以白髮皇子為皇太子.

秋七月,丹波國余社郡管川人-水江浦島子,乘舟而釣,遂得大龜,便化為女。

於是浦島子感以為婦，相逐入海，到蓬萊山，歷睹仙眾。語在別卷。丹後風土記。

二十三年夏四月，百濟文斤王薨。

天皇以昆支王五子中,第二末多王幼年聰明,敕喚內裏,親撫頭面,誠敕慰勸,使王其國.仍賜兵器,并遣筑紫國軍士五百人,衛送於國.是為-東城王.

是歲百濟調賦益於常例筑紫安致臣馬飼臣等率船師以及高麗

二十.天皇的遺詔

秋七月，辛丑朔，天皇寢疾不預，詔賞罰支度，事無巨細，並付皇太子。

八月庚午朔丙子，天皇疾彌甚，與百寮辭訣，握手歔歔，崩于大殿。

遣詔於大伴室屋大連與東漢掾直曰：「方今區宇一家，煙火萬里，百姓乂安，四夷賓服，此又天意，欲寧區夏，所以小心勵己，日慎一日，蓋為百姓故也。臣、連、伴造，每日朝參，國司、郡司，隨時朝集，何不罄竭心府，誠款慇懃？義乃君臣，情兼父子，庶藉臣、連智力，內外歡心，欲令普天下之永保安樂，不謂遭疾彌留，至於大漸，此乃人生常分，何足言及。但朝野衣冠，未得鮮麗，教化、政刑，猶未盡善，興言念此，唯以留恨。今年踰若干，不復稱天，筋力、精神，一時勞竭，如此之事，本非為身，止欲安養百姓，所以致此。人生子孫，誰不屬念？既為天下，事須割情。今，星川王心懷悖惡，行闕友于，古人有言：『知臣莫若君。』縱使星川得志，共治國家，必當戮辱遍於臣、連，酷毒流於民庶，夫惡子孫己為百姓所憚，好子孫足堪負荷大業，此雖朕家事，理不容隱。大連等民部廣大，充盈於國，皇太子地居上嗣，仁孝著聞，以其行業，堪成朕志，以此共治天下，朕雖瞑目，何所復恨？」

一本云：星川王腹惡心粗，天下蒼聞，不幸朕崩之後，當害皇太子，汝等民部甚多，努力相助，勿令侮慢！」

是時，征新羅將軍吉備臣-尾代，行至吉備國過家。後所率五百蝦夷等，聞天皇崩，乃相謂之曰：「領制吾國，天皇既崩，時不可失也！」乃相聚結，侵寇傍郡。

於是尾代從家來，會蝦夷於娑婆水門合戰。而射蝦夷等，或踊或伏，能避脫箭，終不可射。是以尾代空彈弓弦，於海濱上，射死踊伏者二隊。二疊之箭既盡，即喚船人索箭。船人恐而自退。

尾代乃立弓執末而歌曰：

道…… 尾代・子 天…… 聞…… 國…… 聞……

唱訖自斬數人，更追至丹波國浦掛水門，盡逼殺之。一本云，追至浦掛，遣人盡殺。



吉備國海部古圖

吉備國，今岡山縣一部至廣島縣東



袈婆水門 備後國沼隈郡佐波村郊

征道途上尾代者 朝不聞兮願鄉聞

征途上的尾代啊,這場戰鬥大概無法傳達至朝廷吧,但求可以傳達給故鄉的人知道。



浦掛水門 丹波國熊野郡浦明村

日本書紀 卷十五 清寧紀 / 顯宗紀 / 仁賢紀

[清寧天皇] [顯宗天皇] [仁賢天皇]

白髮武廣國押稚日本根子天皇 清寧天皇

一.星川皇子謀反

白髮武廣國押稚子日本根子天皇,大泊瀨幼武天皇第三子也.母曰-葛城韓媛.

天皇生而白髮,長而愛民.大泊瀨天皇於諸子中,特所靈異.

二十二年,立為皇太子.

二十三年八月,大泊瀨天皇崩.

吉備稚媛陰謂幼子星川皇子曰:「欲登天下之位,先取大藏之官.」長子-磐城皇子聞母夫人教其幼子之語,曰:「皇太子雖是我弟,安可欺乎?不可為也!」星川皇子不聽,輕隨母夫人之意,遂取大藏官,鎖閉外門,式備于難,權勢自由,費用官物.

於是大伴室屋大連言於東漢掬直曰:「大泊瀨天皇之遺詔,今將至矣!宜從遺詔,奉皇太子!」乃發軍勢,圍繞大藏,自外拒閉,縱火燔殺.是時,吉備稚媛、磐城皇子異父兄-兄君、城丘前來目,關名,隨星川王子而被燔殺焉.

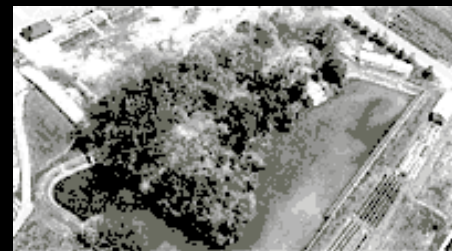
惟河內三野縣主-小根,慄然振怖,避火逃出,抱草香部吉士-漢彥腳,因使祈生於大伴室屋大連曰:「奴縣主小根事星川皇子者,信.而,無有背於皇太子.乞降洪恩,救賜他命!」漢彥乃具為啟於大伴大連,不入刑類.

小根仍使漢彥啟於大連曰:「大伴大連,我君,降大慈愍,促短之命,既續延長,獲觀日色!」輕以難波來目邑大井戶田十町,送於大連.又以田地,與于漢彥,以報其恩.

是月,吉備上道臣等,聞朝作亂,思救其腹所生星川皇子,率師船四十艘,來浮於海.

既而聞被燔殺,自海而歸.天皇即遣使,噴讓於上道臣等而奪其所領山部.

冬十月,己巳朔壬申,大伴室屋大連率臣、連等,奉璽於皇太子.



峰・塚古墳 有傳為星川皇子墓



御廚子神社 清寧天皇磐余甕栗宮跡

二.天皇即位

元年春正月,戊戌朔壬子,命有司,設壇場於磐余甕栗,陟天皇位.遂定宮焉.

尊葛城韓媛為-皇太夫人.以大伴室屋大連為大連,平群真鳥大臣為大臣,並如故.臣、連、伴造等,各依職位焉.

冬十月,癸巳朔辛丑,葬大泊瀨天皇于丹比高鷲原陵.

于時,隼人晝夜哀號陵側,與食不喫,七日而死.有司造墓陵北,以禮葬之.是年也,太歲庚申.

三.發現億計・弘計二皇子

二年春二月,天皇恨無子.

乃遣大伴室屋大連於諸國,置白髮部舍人、白髮部膳夫、白髮部韃負.冀垂遺跡,令觀於後.

冬十一月,依大嘗供奉之料,遣於播磨國司,山部連先祖-伊與來目部-小楯,於赤石郡縮見屯倉首-忍海部造-細目新室,見市邊押磐皇子子-億計、弘計.畏敬兼抱,思奉為君,奉養甚謹,以私供給.便起柴宮,權奉安置,乘驛馳奏.

天皇愕然驚歎,良以愴懷曰:「懿哉,悅哉!天垂溥愛,賜以兩兒!」

是月,使小楯持節將左右舍人,至赤石奉迎.語在弘計天皇紀.

三年春正月,丙辰朔,小楯等奉億計、弘計,到攝津國.使臣、連,持節以王-青蓋車迎入宮中.

夏四月,己酉朔辛卯,以億計王為皇太子,以弘計王為皇子.



細目室跡 押部谷町木幡
清寧天皇無子,恐絕天津日繼之脈.幸得來目部小楯於赤石郡(今明石市)縮見屯倉首細目之新室,尋獲億計,弘計皇子.是以收為義子,以王青蓋車迎入宮中.立億計皇子為太子.



忍海角刺宮跡 鏡池



清寧天皇 河內阪門原陵

四.風俗巡查與來自海外的使者

秋七月,飯豐皇女於角刺宮,與夫初交.謂人曰:「一知女道,又安可異.終不願交於男!此日有夫,未詳也。」

九月,壬子朔癸丑,遣臣、連,巡省風俗.

冬十月,壬午朔乙酉,詔:「犬、馬、器翫,不得獻上!」

十一月,辛亥朔戊辰,宴臣、連於大庭,賜綿、帛,皆任其自取,盡力而出.

是月,海表諸蕃,並遣使進調.

四年春正月,庚戌朔丙辰,宴海表諸蕃使者於朝堂,賜物各有差.

夏潤五月,大酺五日.

秋八月,丁未朔癸丑,天皇親錄囚徒.

是日,蝦夷、隼人並內附.

九月,丙子朔,天皇御射殿,詔百寮及海表使者射.賜物各有差.

五年春正月,甲戌朔己丑,天皇崩于宮.時年若干.

冬十一月,庚午朔戊寅,葬于河內阪門原陵.

弘計天皇 顯宗天皇

一.弘計、億計二皇子的苦難

弘計天皇,更名,來目稚子.大兄去來穗別天皇孫也.母曰-黃媛.黃,此云・・・譜第曰:「市邊押磐皇子娶蟻臣女-黃媛,遂生三男二女.其一曰-居夏姬.其二曰-億計王,更名-島稚子,更名-大石尊.其三曰-弘計王,更名來目稚子.其四曰-飯豐女王,亦名-忍海部女王.其五曰-橘王.」一本,以飯豐女王列敘於億計王之上,蟻臣者,葦田宿禰子也.

天皇久居邊裔,悉知百姓憂苦,恒見枉屈,若納四体溝隍.布德施惠,政令流行,卹貧養孀,天下親附.

穴穗天皇三年十月,天皇父-市邊押磐皇子及帳內佐伯部仲子,於蚊屋野為大泊瀨天皇見殺.因埋同穴.於是天皇與億計王,聞父見射,恐懼皆逃亡自匿.帳內日下部連-使主,使主,日下部連之名也.使主,此云・・・與其子-吾田彥.吾田彥,使主之子也.竊奉天皇與億計王,避難於丹波國余社郡.使主遂改名字,曰-田疾來.尚恐見誅,從茲遁入播磨國縮見山石室而自經死.

天皇尚不識使主所之.勸兄億計王,向播磨國赤石郡,俱改字曰-丹波小子,就仕於縮見屯倉首.縮見屯倉首,忍海部造細目也.吾田彥至此不離,固執臣禮.



縮見山石室 今志染之窟屋

二.二皇子身分曝光

白髮天皇二年冬十一月,播磨國司-山部連先祖-伊與來目部小楯,於赤石郡親辦新嘗供物.一云,巡行郡縣,收斂田租也.適會縮見屯倉首縱賞心室,以夜繼晷.

爾乃天皇謂兄-億計王曰:「避亂於斯,年踰數紀,顯名著貴,方屬今宵!」億計王惻然歎曰:「其自道揚見害,孰與全身免厄也歟?」天皇曰:「吾是去來穗別天皇之孫.而困事於人,飼牧牛馬,豈若顯名被害也歟?」遂與億計王相抱涕泣,不能自禁.

億計王曰:「然則非弟,誰能激揚大節可以顯著!」天皇故辭曰:「僕不才,豈敢宣揚德業?」億計王曰:「弟英才賢德,爰無以過!」如是相讓再三而果使天皇自許稱述,俱就室外,居于下風.屯倉首命居灶傍,左右秉燭.

夜深酒酣,次第舞訖.屯倉首謂小楯曰:「僕見此秉燭者,貴人而賤己,先人而後己,恭敬擗節,擗,猶趨也,相從也,止也.退讓以明理.可謂君子.」於是小楯撫絃,命秉燭者曰:「起舞!」

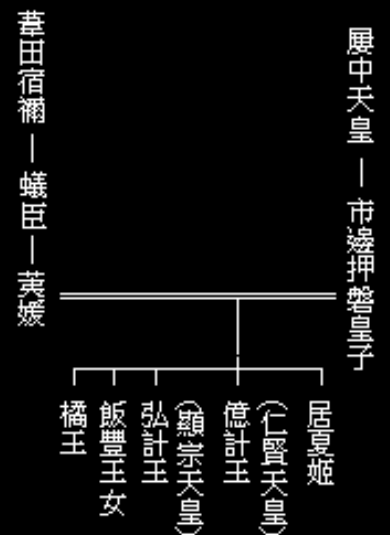
於是,兄弟相讓,久而不起.小楯噴之曰:「何為太遲?速起舞之!」億計王起舞既了.天皇次起,自整衣帶,為室壽曰:

築立稚室葛根,築立柱者,此家長御心之鎮也.取舉棟樑者,此家長御心之林也.

取舉椽椽者,此家長御心之齊也.取置蘆葦者,此家長御心之平也.蘆葦,此云・・・葦,音之潤

反.

取結繩葛者,此家長御壽之堅也.取葦草葉者,此家長御富之餘也.



弘計王歌:

出雲者新墾,新墾之十握稻之穗,於淺甕釀酒,
美飲喫哉,美飲喫哉,此云・・・・・吾子等.子者,男子之通稱也.
脚曰木此傍山,牡鹿之角,牡鹿,此云・・・・・舉而吾舞者,旨酒,餌香市不以值賣.
手掌繆亮,手掌繆亮,此云・・・・・拍上賜,吾常世等.

壽畢,乃赴節歌曰:

稻席 川副楊 水行・・ 靡・起・立・ 其・根・失・・

小楯謂之曰:「可怜,願復聞之!」天皇遂作殊舞.殊舞,古謂之立出舞.立出,此云・・・.舞狀者,乍起乍居而舞之.詔之曰:

倭者,彼彼茅原,淺茅原弟日,僕是也.

小楯由是深奇異焉,更使唱之.天皇詔之曰:

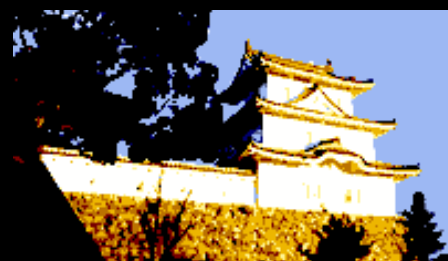
石上振之神杉,杉,此云・・.伐本截末,伐本截末,此云・・・・・.
於市邊宮治天下,天萬國萬押磐尊御裔,僕是也!

小楯,大驚離席,悵然再拜,承事供給,率屬欽伏.於是,悉發郡民造宮.不日權奉安置.
乃詣京都,求迎二王.白髮天皇聞,喜咨歎曰:「朕無子也,可以為嗣!」與大臣、大連,定策禁中.仍使播磨國司來目部小楯,持節將左右舍人,至赤石奉迎.

稻席川兮傍生楊 逐流漂靡根不失
生長在那稻席川邊的楊樹啊,你雖然隨著
川水漂流,卻沒有因此失去根本.



石上市邊宮跡
今在天理市石上町之石上市神社



明石市 明石城
赤石郡,在今明石市一帶.



飯豐皇女忍海角刺宮跡
宮跡所在地傳為今奈良縣北葛城郡
新庄町忍海之角刺神社.清寧紀卷四
所載鏡池,據傳為飯豐皇女於角刺宮.
執政期間,日夜已之為鏡而名.

世人贊飯豐皇女歌:

倭邊所欲見之物 忍海高城角刺宮 在大
和國傍想見到的是,忍海高城的角刺宮啊!



飯豐天皇 葛城埴口丘陵

三.互讓皇位

白髮天皇三年春正月,天皇隨億計王到攝津國,使臣、連,持節以王青蓋車,迎入宮中.
夏四月,立億計王為皇太子,立天皇為皇子.
五年春正月,白髮天皇崩.
是月,皇太子億計王與天皇讓位,久而不處.
由是天皇姊飯豐青皇女於忍海角刺宮,臨朝執政,自稱忍海飯豐青尊.當世詞人歌曰:

倭邊・ 見・欲・・・・ 忍海・ ・・高城・・ 角刺宮

冬十一月,飯豐青尊崩.葬葛城埴口丘陵.
十二月,百官大會.皇太子億計取天皇之璽,置之天皇之坐,再拜從諸君之位曰:「此天皇之位,
有功者可以處之!著貴蒙迎,皆弟之謀也!」以天下讓天皇.

天皇故讓,以弟莫敢即位.又奉白髮天皇先欲傳兄立皇太子,前後故辭曰:「日月出矣,而燭火
不息,其於光也,不亦難乎?時雨降矣,而猶浸灌,不亦勞乎?所貴為人弟者,奉兄,謀逃脫離,照德解
紛,而無處也!即有處者,非弟恭之義.弘計,不忍處也!兄友弟恭,不易之典.聞諸古老,安自獨
輕?」

皇太子億計曰:「白髮天皇以吾兄之故,舉天下之事,而先屬我.我其羞之.惟大王首建利遁,聞
之者歎息.彰顯帝孫,見之者殞涕.憫憫縉紳,忻荷戴天之慶,哀哀黔首,悅逢屢地之恩.是以克固
四維,永隆萬葉,功鄰造物,輕猷映世.超哉,邈矣!粵無得而稱.雖是曰兄,豈先處乎?非功而據,咎
悔必至.吾聞:『天皇不可以久曠,天命不可以謙拒.』大王以社稷為計,以百姓為心!」發言慷慨,
至于流涕.

天皇於是知終不處,不逆兄意,乃聽.而,不即御座.世嘉其能以實讓曰:「宜哉!兄弟怡怡,天下
歸德!篤於親族,則民興仁!」

四.弘計王的即位承諾

元年春正月,己巳朔,大臣、大連等奏言:「皇太子億計,聖德明茂,奉讓天下.陛下正統,當奉鴻緒,為郊廟主,承續祖無窮之列,上當天心,下厭民望.而不肯踐祚,遂令金銀藩國,群僚遠近,莫不失望.天命有屬,皇太子推讓.聖德彌盛,福祚孔章.在孺而勤,謙恭慈順.宜奉兄命,承統大業!」制曰:「可!」

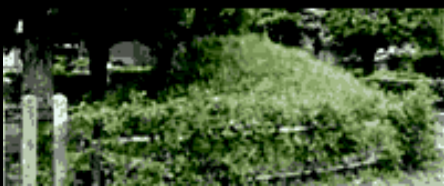
乃召公卿、百寮於近飛鳥八鈞宮,即天皇位.百官陪位者皆忻忻焉.

或本云,弘計天皇之宮有二所焉.一宮於少郊,二宮於池野.又或本云,宮於甕栗.

是月,立皇后-難波小野王,赦天下.難波小野王,雄朝津間稚子宿禰天皇曾孫-磐城王孫-丘稚子王之女也.



弘計皇子神社近郊
傳近飛鳥八鈞宮跡者,在於今明日香村八鈞之弘計皇子神社之地也.



市邊押磐皇子墓

上為押磐皇子墓.下為仲子墓.雄略即位前紀,仲子書為佐伯部賣輪.

五.置目老嫗

二月,戊戌朔壬寅,詔曰:「先王遭離多難,殞命荒郊.朕在幼年,亡逃自匿,猥遇求迎,升纂大業.廣求御骨,莫能知者!」詔畢,與皇太子億計,泣哭憤惋,不能自勝.

是月,召聚耆宿,天皇親歷問.有一老嫗,進曰:「置目知御骨埋處,請以奉示.置目,老嫗名也.近江國狹狹城山君祖-倭袋宿禰之妹,名曰-置目.見下文.」於是天皇與皇太子億計,將老嫗婦,幸于近江國來田綿蚊屋野中,掘出而見,果如婦語.

臨穴哀號,言深更慟.自古以來,莫如斯者.仲子之尸,交橫御骨,莫能別者.爰有磐阪皇子之乳母,奏曰:「仲子上者齒墮落,以斯可別.」於是雖由乳母相別骷髏,而竟難別四肢、諸骨.由是仍於蚊屋野中,造起雙陵,相似如一,葬儀無異.詔置目老嫗,居于宮傍近處,優崇賜恤,使無乏少.

是月,詔曰:「老嫗伶俜羸弱,不便行步.宜張繩言引繩,扶而出入.繩端懸鐸,無勞謁者,入則鳴之.朕知汝到.」於是老嫗奉詔,鳴鐸而進.天皇遙聞鐸聲,歌曰:

淺茅原 小确・過・ 百傳・ 鐸・・・・ 置目來・・・

天皇聞鐸知置目來歌:

過淺茅原小确矣 百傳鐸音遙傳之

蓋為置目來之乎

那能跨過淺茅的原野與瘠地而遠傳的鐸正在遠方響著,想必是置目她來了吧.



曲水宴

設於每年三月三日

三月,上巳,幸後苑,曲水宴.

夏四月,丁酉朔丁未,詔曰:「凡人主之所以勸民者,惟授官也.國之所以興者,惟賞功也.夫前播磨國司-來目部小楯,更名-磐楯.求迎舉朕,厥功茂焉.所志願勿難言!」

小楯謝曰:「山官宿所願.」乃拜山官,改賜姓山部連室,以吉備臣為副,以山守部為民.褒善顯功,酬恩答厚,寵愛殊絕,富莫能儔.

五月,狹狹城山君韓袋宿禰,事連謀殺皇子押磐.臨誅叩頭,言詞極哀.天皇不忍加戮,充陵戶,兼守山,削除籍帳,隸山部連.惟倭岱宿禰因妹置目之功,仍賜本姓狹狹城山君氏.

六月,幸避暑殿,奏樂.會群臣,設以酒食.是年也,太歲乙丑.

六.放下復仇之心

二年春三月,上巳,幸後苑曲水宴.

是時喜集公卿大夫、臣、連、國造、伴造,為宴.群臣頻稱:「萬歲!」

秋八月,己未朔,天皇謂皇太子億計曰:「吾父先王無罪,而大泊瀨天皇射殺棄骨郊野,至今未獲!憤歎盈懷,臥泣,行號,志雪讎恥!吾聞:『父之讎不與共戴天,兄弟之讎不反兵,交遊之讎不同國.』夫匹夫之子,居父母之讎,寢苦枕干,不與共國,遇諸市朝,不反兵而便鬥.況吾立為天子,二年于今矣.願壞其陵,摧骨投散.今以此報,不亦孝乎?」

皇太子億計歔歔不能答,乃諫曰:「不可.大泊瀨天皇正統萬機,臨照天下.華夷欣仰,天皇之身也.吾父先王雖是天皇之子,遭遇逆遘,不登天位,以此觀之,尊卑惟別.而忍壞陵墓,誰人主以奉天之靈?其不可毀,一也.又天皇與億計,曾不蒙遇白髮天皇厚寵殊恩,豈臨寶位?大泊瀨天皇,白髮天皇之父也.億計聞諸老賢,老賢曰:『言無不訓,德無不報.有恩不報,敗俗之深者也.』陛下饗國,德行廣聞於天下.而毀陵,翻見於華裔,億計恐其不可以蒞國子民也.其不可毀,二也.」天皇曰:「善哉!」令罷役.

九月,置目老困,乞還曰:「氣力衰邁,老耄虛羸.要假扶繩,不能進步.願歸桑梓,以送厥終.」

天皇聞惋痛,賜物千段,逆傷岐路,重感難期.改賜歌曰:



雄略天皇陵

顯宗天皇恨雄略天皇,且押磐皇子之屍骨雖得,卻與仲子之骨難分,等同屍骨未獲.俗云:父母之仇不共戴天,兄弟之仇不釋兵刃,郊遊之仇不與同住.(原文出於禮記)是以欲命億計王,毀雄略天皇之陵.億計王諫之不可,遂罷.(顯宗記中,億計王雖奉敕行,僅掘雄略陵一坵土而返,亦諫顯宗.)

置目・・ 近江・置目 明日・・・ ・山隱・・ 見・・・・・

冬十月,戊午朔癸亥,宴群臣。
是時天下安平,民無徭役,歲比登稔,百姓殷富,稻斛銀錢一文,馬被野。



葛野坐月讀神社

所以歌荒櫟田奉月讀命者,此神社也。
社內藏有應神天皇之月延石。



對馬島下縣郡高御魂神社
所奉磐余地者,目原坐高御魂神社也
(所在未詳),對馬下縣直於對馬遙祭。

七.任那與百濟的攻防

三年春二月,丁巳朔,阿閉臣事代銜命,出使于任那.於是,月神著人謂之曰:「我祖高皇產靈有預鑄造天地之功.宜以民地,奉我月神.若依請獻我,當福慶.」事代由是還京具奏,奉以歌荒櫟田.歌荒櫟田,在山背國葛野郡.壹伎縣主先祖-押見宿禰侍祠。

三月,上巳,幸後苑,曲水宴。

夏四月,丙辰朔庚申,日神著人謂阿閉臣事代曰:「以磐余田獻我祖高皇產靈.」

事代便奏,依神乞獻田四十四町.對馬下縣直侍祠。

戊辰,置福草部。

庚辰,天皇崩于八釣宮。

是歲,紀生磐宿禰跨據任那,交通高麗.將西王三韓,整脩宮府,自稱神聖.用任那左魯、那奇他甲背等計,殺百濟適莫爾於爾林.爾林,高麗地也.築帶山城,拒守東道,斷運糧津,令軍飢困。

百濟王大怒,遣領軍古爾解、內頭莫古解等,率眾趣于帶山攻。

於是,生磐宿禰進軍逆擊,膽氣益壯,所向皆破,以一當百.俄而兵盡力竭,知事不濟,自任那歸。
由是百濟國殺佐魯、那奇他甲背等三百餘人。

億計天皇 仁賢天皇

一.億計天皇即位

億計天皇,諱大腳,更名大為,自餘諸天皇不言諱字.而至此天皇,獨自書者,據舊本耳.字島郎,弘計天皇同母兄也.幼而聰穎,才敏多識.壯而仁惠,謙恕溫慈.及穴穗天皇崩,避難於丹波國余社郡。

白髮天皇元年冬十一月,播磨國司山部連小楯詣京求迎。

白髮天皇尋遣小楯,持節將左右舍人,至赤石奉迎。

二年夏四月,遂立億計天皇為皇太子.事,具弘計天皇紀。

五年,白髮天皇崩.天皇以天下讓弘計天皇.為皇太子,如故.事,具弘計天皇紀也。

三年夏四月,弘計天皇崩。

元年春正月,辛巳朔乙酉,皇太子於石上廣高宮即天皇位。

或本云,億計天皇之宮有二所焉.一宮於川村,二宮於縮見高野,其殿柱至今未朽。

二月,辛亥朔壬子,立前妃-春日大娘皇女為皇后,春日大娘皇女,大泊瀨天皇娶和珥臣深目之女童女君所生也.遂產一男六女。

其一曰,高橋大娘皇女。

其二曰,朝嬬皇女。

其三曰,手白香皇女。

其四曰,樟冰皇女。

其五曰,橘皇女。

其六曰,小泊瀨稚鷯天皇.及有天下,都泊瀨列城。

其七曰,真稚皇女.一本,以樟冰皇女列于第三,以手白香皇女列于第四,為異焉。

次,和珥臣日爪女-糠君娘,生一女。

是為,春日山田皇女。

一本云,和珥臣日觸女-大糠娘生,一女.是為山田大娘皇女.更名赤見皇女.文雖稍異,其實一也。

冬十月,丁未朔己酉,葬弘計天皇于傍丘磐杯丘陵.是歲也,太歲戊辰。

天皇悲離置目歌:

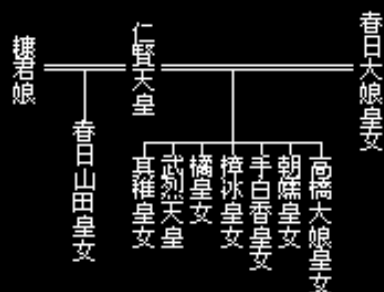
近江置目置目者 明隱山中不得見

置目啊,近江的置目啊,你明日就要歸隱山中,說不定再也見不到你了啊。



山邊道

『帝王編年記』云,石上廣高宮在大和國山邊郡石上左大臣家北邊山陵。



顯宗天皇 傍丘磐杯丘陵

二.日鷹吉士遣使高麗

韓白水郎時

難波玉作鯽魚女

住道人山寸

哭女

飽田女

麤寸

麤寸←一兄妹→哭女
麤寸←一夫婦→飽田女

飽田女家系圖

鯽魚女與韓白水郎時生哭女。
哭女與住道人山寸生飽田女。
然住道人山寸上姦鯽魚女生麤寸。
麤寸又娶飽田女為妻。
古時兄妹無分大小，稱男為兄，女為妹。夫婦亦相稱兄妹。是以於飽田女喚麤寸為兄(夫)，飽田女之母哭女亦喚麤寸為兄(弟)。而麤寸隨日鷹吉士發向高麗，故飽田女哭於難波草原。



仁賢天皇 墳生阪本陵

二年秋九月，難波小野皇后恐宿不敬，自死。

弘計天皇時，皇太子億計侍宴，取瓜將喫，無刀子。弘計天皇親執刀子，命其夫人小野傳進。夫人就前，立置刀子於瓜盤。

是日，更斟酒，立喚皇太子。緣斯不敬，恐誅自死。

三年春二月，己巳朔，置石上部舍人。

四年夏五月，的臣蚊島、穗瓮君，瓮，此云・有最，皆下獄死。

五年春二月，丁亥朔辛卯，普求國郡散亡佐伯部。

以佐伯部仲子之後為佐伯造。佐伯部仲子事，見弘計天皇紀。

六年秋九月，己酉朔壬子，遣日鷹吉士，使高麗召巧手者。

是秋，日鷹吉士被遣使後，有女人，居于難波草原，哭之曰：「於母亦兄，於吾亦兄！弱草吾夫可伶矣！」言，於母亦兄，於吾亦兄，此云・・・・・言，吾夫可伶矣，此云・・・・・言弱草，謂古者以弱草喻夫婦，故以弱草為夫。哭聲甚哀，令人斷腸。

菱城邑人鹿父，鹿父，人名也。俗乎父為・・聞而向前曰：「何哭之哀甚若此乎？」女人答曰：「秋蔥之轉雙納，雙，重也。可思惟矣。」鹿父曰：「諾。」即知所言矣。

有同伴者不悟其意，問曰：「何以知乎？」答曰：「難波玉作部鯽魚女，言鯽魚女，此云・・・嫁於韓白水郎時，言韓白水郎時，此云・・・・・時，耕麥之田也。生哭女，言哭女，此云・・・哭女嫁於住道人山寸，生飽田女。韓白水郎時與其女哭女，曾既俱死。住道人山寸上姦玉作部鯽魚女，生麤寸，麤寸娶飽田女。於是，麤寸從日鷹吉士，發向高麗。由是其妻飽田女徘徊顧戀，失緒傷心，哭聲尤切，令人腸斷。玉作部鯽魚女與韓白水郎時為夫婦，生哭女。住道人山寸娶哭女生飽田女，山寸妻父韓白水郎時與其子哭女，曾既俱死。住道人山寸上姦妻母玉作部鯽魚女，生麤寸。麤寸娶飽田女。或本云，玉作部鯽魚女共前夫韓白水郎時生哭女，更共後夫住道人山寸生麤寸。則哭女與麤寸，異父兄弟之故。哭女之女飽田女呼麤寸，曰：「於母亦兄」也。哭女嫁於山寸，生飽田女。山寸又淫鯽魚女生麤寸。則飽田女與麤寸，異母兄弟之故。飽田女呼麤寸，曰：「於吾亦兄」也。古者不言兄弟長幼，女以男稱兄，男以女稱妹。故云：「於母亦兄，於吾亦兄！」耳。」

是歲，日鷹吉士還自高麗，獻工匠須流枳、奴流枳等。今倭國山邊郡額田邑熟皮高麗，是其後也。

七年春正月，丁未朔己酉，立小泊瀨稚鷦鷯尊為皇太子。

八年冬十月，百姓言：「是時國中無事，吏稱其官，海內歸仁，民安其業。」

是歲，五穀登衍，蠶、麥善收，遠近清平，戶口滋殖焉。

十一年秋八月，庚戌朔丁巳，天皇崩于正寢。

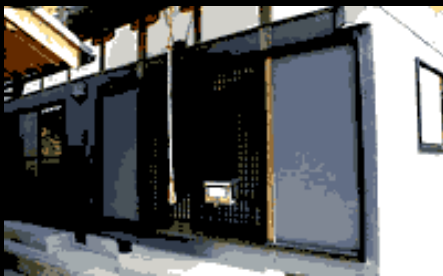
冬十月，己酉朔癸丑，葬埴生阪本陵。

日本書紀卷十五 終

[\[久遠・絆\]](#) [\[卷十四\]](#) [\[卷十六\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷十六 武烈紀

小泊瀨稚鷦鷯天皇 武烈天皇



海柘榴市巷跡
今位於奈良縣櫻井市金屋

武烈天皇與鮪臣質歌：

潮瀨見兮波幾重 泳此瀨兮鮪之傍
所見立兮吾契妻

眼見那在急流重波的潮瀨時，泳於其中的鮪的身傍，竟是與我相契的未婚妻
臣之子兮其之宅 八重圍兮韓垣內
真當緩兮太子矣

臣下的孩子的房子裡，影媛被圍在那重重環繞的嚴密韓垣之內，難道您想要把那些韓垣給緩解下來嗎？太子啊！

大太刀兮腰立垂 雖未拔兮將為之
訴之力兮欲見媛

懸立在腰間的大太刀，雖然現在並沒有將之拔出，但是方終末之時，吾將靠它來與影媛相晤！

大君宅兮組垣重 八重懸兮籠女中
然汝不意不為懸

大君的家中懸著八重的組垣，其中有著比影媛更好的女子，然而您卻執著於影媛而視而不見，無法懸編那重重的組垣。

臣之子兮宅之中 八節柴垣重重編
一朝地兮震寄來 其柴垣兮將盡破

大臣之子的家中，編圍了重重的柴垣，不過一旦大地震動，那些柴垣兮將盡毀！

大君繫兮御帶者 其結垂兮倭文織
然此誰兮不相思

大君的御帶上結垂著美麗華貴的倭文織，但是不管是誰，都不是我所思念的對象。



乃樂山山道
鮪臣為殺之處，影媛至此，不由悲歌。

影媛惶悲之歌：

石上布留過之矣 薦枕高橋亦過矣
物多大宅遂過矣 所隱妻兮小佐保
是以今兮亦過之

一.討伐平群真鳥 鮪父子的專橫,即位

小泊瀨稚鷦鷯天皇,億計天皇太子也.母曰-春日大娘皇后.

億計天皇七年,立為皇太子.長好刑理,法令分明,日晏坐朝,幽枉必達,斷獄得情.

又,頻造諸惡,不修一善.凡諸酷刑,無不親覽.國內居人,咸皆震怖.

十一年八月,億計天皇崩.大臣-平群真鳥臣專擅國政,欲王日本,陽為太子造宮,了即自居.觸事驕慢,都無臣節.

於是,太子思欲聘物部-麤鹿火大連女-影媛,遣媒人向影媛宅期會.

影媛曾羨真鳥大臣男-鮪.鮪,此云...恐違太子所期,報曰:「妾望奉待海柘榴市巷.」

由是太子欲往期處,遣近侍舍人就平群大臣宅,奉太子命求索官馬.

大臣戲言陽進曰:「官馬為誰飼養,隨命而已!」久之不進.太子懷恨,忍不發言.

果之所期,立歌場眾,歌場,此云...執影媛袖,躑躅從容.

俄而鮪臣來,排太子與影媛間立.由是太子放影媛袖,移迴向前立,直當鮪,歌曰:

潮瀨・波折・見・・・泳・・・鮪・鰭手・妻立・・・見・
一本,以潮瀨易水門.

鮪答歌曰:

臣・子・八重・韓垣 緩・・・御子

太子歌曰:

大太刀・垂・・・立・・・拔・・・・未果・・・會・・・・思・

鮪臣答歌曰:

大君・八重・組垣 懸・・・・汝・編・・・・懸・・・組垣

太子歌曰:

臣・子・八節・柴垣 下動・地震・搖・來・破・・・柴垣
一本,以八節・柴垣易八重韓垣.

太子贈影媛歌曰:

琴頭・來居・影媛 玉・・・・我・欲・玉・鰭白玉

鮪臣為影媛答歌曰:

大君・御帶・倭文織 結・垂・誰・・・人・相思・・・・

太子甫知鮪曾得影媛,悉覺父子無敬之狀,赫然大怒.此夜速向大伴金村連宅,會兵計策.大伴連將數千兵,傲之於路,戮鮪臣於乃樂山.一本云,鮪宿影媛舍,即夜被戮.

麗哉玉筍飯盛上 美哉玉碗水盛之
淚沾面兮前以行 影媛妾兮嗟嗚呼
石上的布留,物多的大宅,春日的春日,以及隱妻的小佐保,皆已一一越過.用美麗的竹器盛著飯,美麗的木碗盛著水,和著被眼淚濡濕的面龐向前走著,啊啊影媛我啊!



岩綠青兮乃樂山 山間谷兮鹿豬眾 其水漬地身隱中 水散鮪兮若子者 願豬之子勿漁獵
在那長滿著岩綠青的乃樂山谷間,鹿豬之類漬水的地方,將屍骨隱埋其中,那拍散著水花的鮪之若子啊!希望豬不會在此進行漁獵.
(希望皇太子不會將鮪的屍骨骸挖出)



武烈天皇泊瀨列城宮跡

二.武烈天皇的暴虐

元年春三月,丁丑朔戊寅,立春日娘子為皇后.未詳娘子父.是歲也,太歲己卯.
二年秋九月,剝孕婦之腹而觀其胎.
三年冬十月,解人指甲,使掘暑預.
十一月,詔大伴室屋大連,發信濃國男丁,作城像於水派邑.仍曰,城上也.
是月,百濟意多郎卒,葬於高田丘上.
四年夏四月,拔人頭髮,使昇樹巔,斫倒樹本,落死昇者為快.
是歲,百濟末多王無道暴虐百姓.國人遂除而立島王,是為-武寧王.
百濟新撰云,末多王無道暴虐百姓.國人共除,武寧王立.諱-斯麻王,是琨支王子之子.則末多王異母兄也.
琨支向倭時,至筑紫島,生斯麻王.自島還送,不至於京,產於島.故因名焉.
今各羅海中有主島,王所產島.故百濟人號為-主島.今案島王是蓋國王之子也.
末多王,是琨支王之子也.此曰-異母兄,未詳也.
五年夏六月,使人伏入糖葦,流出於外,持三刃矛刺殺為快.
六年秋九月,乙巳朔,詔曰:「傳國之機,立子為貴.朕無繼嗣,何以傳名?且依天皇舊例,置小泊瀨舍人,使為代號,萬歲難忘者也!」
冬十月,百濟國遣麻那君進調.天皇以為百濟歷年不脩貢職,留而不放.
七年春二月,使人昇樹,以弓射墜而笑.
夏四月,百濟王遣斯我君進調.別表曰:「前進調使麻那者,非百濟國主之骨族也,故謹遣斯我,奉事於朝.」遂有子,曰-法師君.是倭君之祖也.
八年春三月,使女裸形,坐平板上,牽馬就前遊牝.觀女不淨,沾濕者殺,不濕者沒為官婢,以此為樂.及此時,穿池起苑,以盛禽獸.而好田獵,走狗試馬.出入不時,不避大風、甚雨.
衣溫而忘百姓之寒,食美而忘天下之飢.大進侏儒、倡優,為爛漫之樂,設奇偉而之戲,縱靡靡之聲,日夜常與宮人沉緬于酒,以錦繡為席.衣以綾紈者眾.
冬十二月,壬辰朔己亥,天皇崩于列城宮.

日本書紀卷十六 終

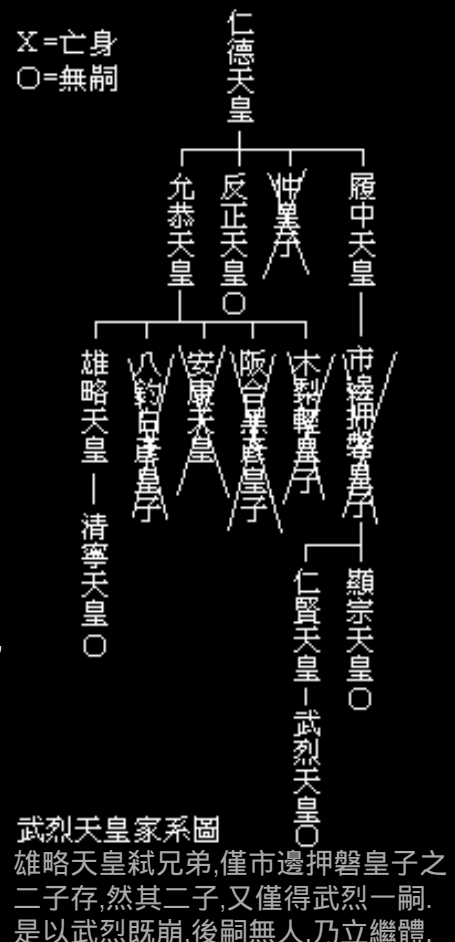
是時影媛逐行戮處,見是戮己,驚惶失所,悲淚盈目.遂作歌曰:

石上 布留・過・・ 薦枕 高橋過・ 物多・ 大宅過・
春日・ 春日過・ 妻隱・ 小佐保・過・ 玉筍・・
飯・・盛・ 玉碗・ 水・・盛・ 泣・沾・行・・ 影媛・・・

於是影媛收埋既畢,臨欲還家,悲鯁而言:「苦哉!今日,失我愛夫!」
即便灑涕愴矣,纏心歌曰:

青丹・・ 乃樂・谷・ ・・・・ 水漬・邊隱・
水灌・ 鮪・若子・ 漁・出・豬・子

冬十一月,戊寅朔戊子,大伴金村連謂太子曰:「真鳥賊,可擊.請討之!」
太子曰:「天下將亂.非希世之雄,不能濟也!能安之者,其在連乎?」即與定謀.
於是,大伴大連率兵自將圍大臣宅,縱火燔之.所搗雲靡.
真鳥大臣恨事不濟,知身難免,計窮望覺,廣指鹽詛.遂被殺戮,及其子弟.
詛時,唯忘角鹿海鹽不以為詛.由是角鹿之鹽為天皇所食,餘海之鹽為天皇所忌.
十二月,大伴金村連平定賊訖,反政太子.請上尊號曰:「今億計天皇子,唯有陛下.億兆攸歸,曾無與二.又賴皇天翼載,淨除凶黨.英略雄斷,以盛天威天祿.日本必有主.主日本者,非陛下而誰!願服陛下,仰答靈祇.宏宣景命,光宅日本,誕受銀鄉!」
於是太子命有司,設壇場於泊瀨列城,陟天皇位.遂定都焉.
是日,以大伴金村連為大連.



[\[久遠・絆\]](#) [\[卷十五\]](#) [\[卷十七\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷十七 繼體紀

男大跡天皇 繼體天皇

一.擁立繼體天皇,即位與立后

男大跡天皇,更名彥太尊.譽田天皇五世孫,彥主人王之子也.母曰-振媛.振媛,活目天皇七世之孫也.天皇父聞振媛顏容姝妙甚有嫩色,自近江國高島郡三尾之別業,遣使聘于三國阪中井,中,此云・納以為妃,遂產天皇.

天皇幼年,父王薨.振媛迺歎曰:「妾今遠離桑梓,安能得膝養?余歸寧高向,高向者,越前國邑名.奉養天皇.」天皇壯大,愛土禮賢,意豁如也.

天皇年五十七歲,八年冬十二月己亥,小泊瀨天皇崩.元無男女,可絕繼嗣.

壬子,大伴金村大連議曰:「方今絕無繼嗣,天下何所繫心?自古迄今,禍由斯起!今足仲彥天皇五世孫倭彥王,在丹波國桑田郡.請試設兵仗,夾衛乘輿,就而奉迎,立為人主!」大臣、大連等,一皆隨焉,奉迎如計.

於是,倭彥王遙望迎兵,懼然失色,仍遁山壑,不知所詣.

元年春正月,辛酉朔甲子,大伴金村大連更籌議曰:「男大跡王,性慈仁孝順,可承天緒,冀懇勸進,紹隆帝業!」物部麤鹿火大連、許勢男人大臣等,僉曰:「妙簡枝孫,賢者唯男大跡王也!」

丙寅,遣臣連等,持節以備法駕,奉迎三國.夾衛兵仗,肅整容儀,警蹕前驅,奄然而至.

於是,男大跡天皇晏然自若,踞坐胡床.齊列陪臣,既如帝坐.

持節使等由是敬憚,傾心委命,冀盡忠誠.然天皇意裏尚疑,久而不就.

適知河內馬飼首荒籠,密奉遣使,具述大臣、大連等所以奉迎本意.留二日三夜遂發,乃喟然而歎曰:「懿哉,馬飼首!汝若無遣使來告,殆取嗤於天下!世云:『勿論貴賤,但重其心.』蓋荒籠之謂乎!」及至踐祚,厚加荒籠寵待.

甲申,天皇行至樟葉宮.

二月,辛卯朔甲午,大伴金村大連乃跪上天子鏡、劍璽符再拜.

男大跡天皇謝曰:「子民治國,重事也.寡人不才,不足以稱.願請迴慮擇賢者,寡人不敢當.」大伴大連伏地固請.男大跡天皇西向讓者三,南向讓者再.大伴大連等皆曰:「臣伏計之,大王子民治國,最宜稱!臣等為宗廟社稷,計不敢忽.幸籍眾願,乞垂聽納!」男大跡天皇曰:「大臣、大連、將、相、諸臣,咸推寡人,寡人敢不乖.」乃受璽符.

是日,即天皇位.以大伴金村大連為大連,許勢男人大臣為大臣,物部麤鹿火大連為大連,並如故.是以大臣、大連等,各依職位焉.

庚子,大伴大連奏請曰:「臣聞,前王之宰世也,非維城之固,無以鎮其乾坤;非掖庭之親,無以繼其跼尊.是故,白髮天皇無嗣,遣臣祖父大伴大連室屋,每州安置三種白髮部,言三種者:一白髮部舍人,二白髮部供膳,三白髮部鞭負也.以留後世之名.嗟夫,可不愴歟!請立手白香皇女,納為皇后,遣神祇伯等,敬祭神祇,求天皇息,允答民望!」天皇曰:「可矣.」

三月,庚申朔,詔曰:「神祇不可乏主,宇宙不可無君.天生黎庶,樹以元首,使司助養,令全性命.大連憂朕無息,披誠款,以國家,世世盡忠,豈唯朕日歟?宜備禮儀,奉迎手白香皇女!」

甲子,立皇后-手白香皇女,脩教于內,遂生一男.

是為,天國排開廣庭尊.開,此云……

是嫡子而幼年,於二兄治後,有其天下.二兄者,廣國排武金日尊,武小廣國押盾尊也.見下文.

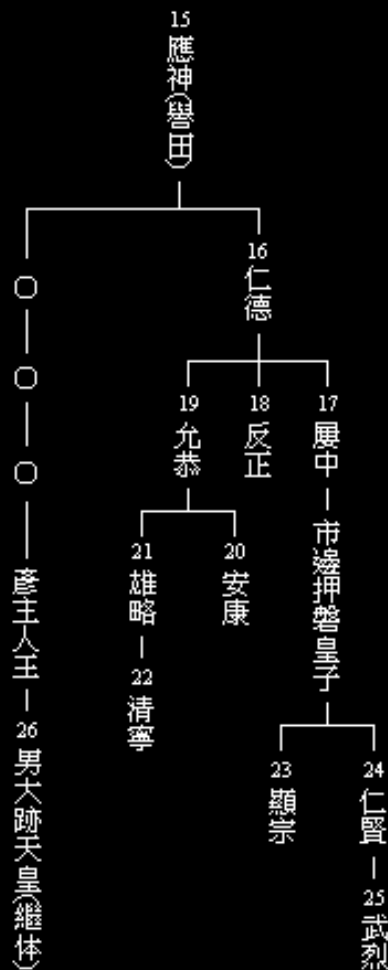
戊辰,詔曰:「朕聞,土有當年而不耕者,則天下或受其飢矣;女有當年而不績者,天下或受其寒矣.故帝王躬耕而勸農業,后妃親蠶而勉桑序.況厥百寮,蠶于萬族,廢棄農績,而至股富者乎.有司普告天下,令識朕懷!」



振媛想像圖與高向之宮跡
振媛育繼體之宮跡,今於高向神社.



足羽山 繼體天皇像
明治17年,以笏谷石建於足羽山三段廣場,以讚頌該皇之遺德.



癸酉,納八妃.納八妃,雖有先後,而此曰癸酉納者,據即天位,占擇良日,初拜後宮,為文.他皆效此.
元妃,尾張連草香女,曰-日子媛.更名色部.生二子,皆有天下.
其一曰,勾大兄皇子.是為-廣國排武金日尊.
其二曰,檜隈高田皇子.是為-武小廣國排盾尊.
次妃,三尾角折君妹,曰-稚子媛.
生,大郎皇子與出雲皇女.
次,阪田大跨王女,曰-廣媛.生三女.
長曰,神前皇女.
仲曰,茨田皇女.
小曰,馬來田皇女.
次,息長真手王女,曰-麻績娘子.
生,荳角皇女.荳角,此云...是侍伊勢大神祠.
次,茨田連小望女,或曰-妹,曰-關媛.生三女.
長曰,茨田大娘皇女.
仲曰,白阪活日姬皇女.
少曰,小野稚娘皇女.更名,長石姬.
次,三尾君堅槭女,曰-倭媛.生二男二女.
其一曰,大娘子皇女.
其二曰,碗子皇子,是三國公之先也.
其三曰,耳皇子.
其四曰,赤姬皇女.
次,和珥臣河內女,曰-黃媛.生一男二女.
其一曰,稚綾姬皇女.
其二曰,圓娘皇女.
其三曰,厚皇子.
次,根王女,曰-廣媛.生二男.
長曰,菟皇子,是酒人公之先也.
少曰,中皇子,是阪田公之先也.是年也,太歲丁亥.
二年冬十月,辛亥朔癸丑,葬小泊瀨稚鸕鷀天皇于傍丘磐杯丘陵.
十二月,南海中耽羅人初通百濟國.
三年春二月,遣使于百濟.百濟本記云,久羅麻致支彌從日本來.未詳.
括出在任那日本縣邑百濟百姓,浮逃絕貫三四世者,並遷百濟附貫也.
五年冬十月,遷都山背筒城.

男大跡天皇(繼體天皇)之系譜
武烈天皇崩而無人繼位.尋倭彥王,此王懼兵色,遁隱山壑而不得尋.又尋男大跡王,此王初不願承天位,經臣連將相皆拜而終為繼體天皇.

二.任那四縣割讓予百濟

六年夏四月,辛酉朔丙寅,遣穗積臣押山,使於百濟.仍賜筑紫國馬四十匹.

冬十二月,百濟遣使貢調.別表請任那國上哆唎、下哆唎、娑陀、牟婁,四縣.哆唎國守-穗積臣押山奏曰:「此四縣近連百濟,遠隔日本.旦暮易通,雞犬難別.今賜百濟,合為同國,固存之策,無以過此.然縱賜合國,後世猶危.況為異域,幾年能守?」大伴大連金村具得是言,同謨而奏.

迺以物部大連麤鹿火,宛宣敕使.物部大連方欲發向難波館,宣敕於百濟客.其妻固要曰:「夫住吉大神初以海表金銀之國,高麗、百濟、新羅、任那等,授記胎中磐田天皇.故大后息長足姬尊與大臣武內宿禰,每國初置宮家,為海表之蕃屏,其來尚矣.抑有由焉.縱削賜他,違本區域.綿世之刺,詎離於口.」大連報曰:「教示合理,恐背天敕.」其妻切諫云:「稱疾莫宣.」大連依諫,由是改使而宣敕.付賜物并制旨,依表賜任那四縣.

大兄皇子前有緣事,不聞賜國,晚知宣敕,驚悔欲改令曰:「自胎中之帝,置宮家之國,輕隨蕃乞,輟爾賜乎.」乃遣日鷹吉士,改百濟宣客.使者答啟:「父天皇圖計便宜,敕賜既畢.子皇子豈違帝敕,妄改而令,必是虛也!縱是實者,持杖大頭打,孰與持杖小頭打痛乎!」遂罷.於是,或有流言曰:「大伴大連與哆唎國守穗積臣押山,受百濟之賂矣.」



任那、百濟、新羅地圖

穗積臣,大伴大連欲割任那四縣-上哆唎、下哆唎、娑陀、牟婁於百濟.原遣物部大連麤鹿火宣敕,而其妻先察此中之弊,諫夫稱疾莫往.時人流言「大伴大連與哆唎國守穗積臣押山,受百濟之賂矣!」



己汶

即基汶河流域之地,今蟾津江流域一代.是為現在全羅南、北道之古城、南原(南原古名-古龍)之地是也。

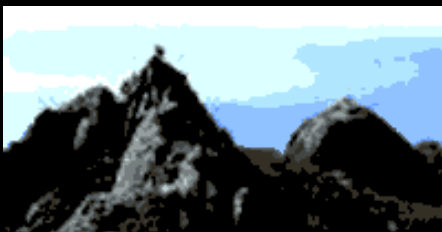
勾大兄皇子與春日皇女歌:

八洲國中妻不娶 只因聞有麗良女
在此春日春日國 至高貴兮檜板門
推期開兮吾入坐 足首夜具端取之
妻玉手兮纏吾身 吾雄手兮圍妻體
交相纏兮葛之狀 兩兩相擁二為一
如膠漆兮相好眠 直至庭兮雞鳴時
至於野兮鳩為鳴 愛汝之情雖難言
不覺之間天已明 我之親親愛妻矣

我在八洲國中沒有娶妻,那是因為聽說在春日的春日國中,有著美好的女子.我推開高貴的板門,入坐其中,拿著愛妻足首的寢具,愛妻的手纏繞在我身上,我的手亦將愛妻圍擁其中.就像那相乎交纏的葛藤,也向被交串在一起的肉串,我們兩兩相合舒服的共枕,一直到庭中的雞,野中的鳩鳴叫之時,連愛汝之情都還來不及表明之時,就已經事隔天的早上了,啊,我的愛妻啊!

竹繁密兮泊瀨川 此川流兮竹漂至
此竹者兮美且榮 取此良竹根之處
是以作御太琴 再取良竹梢之所
作御笛兮吹鳴之 登立此兮御諸山
盡覽望兮我可見 蔓密生兮磐余池
池水下經游魚者 浮水出兮讚嘆之
八方治兮我大君 其所著兮御帶者
細延垂兮此御帶 人見之者皆讚嘆

在那茂盛竹林的泊瀨川上漂來的竹子,既榮盛狀美的竹子啊,用這竹的根部作為大琴,梢端作為笛子而吹彈著它們.登上御諸山而位於山頂,向下一看,可以見到游玩於生長濃蔓的磐余池之水下的魚兒們,服上了水面讚美著治理八方的大君,您身上細細延垂的御帶,無論誰見到了都會想要服上水面讚美您啊!



伴跋國

又名「本彼」,「碧珍伽耶」,是為今日韓國之星州。

三.己汶 . 帶沙間的諸國相爭

七年夏六月,百濟遣姐彌文貴將軍、州利即爾將軍,副穗積臣押山,百濟本記云,委意斯移麻岐彌.貢五經博士段楊爾.別奏云:「伴跋國略奪臣國己汶之地.伏請天恩判,還本屬!」

秋八月,癸未朔戊申,百濟太子淳陀薨.

九月,勾大兄皇子親聘春日皇女.

於是,月夜清談,不覺天曉.斐然之藻,忽形於言.乃口唱曰:

八洲國 妻枕 春日 . 國 . 麗 . 女 . 有 . . 聞 . .
宜 . 女 . 有 . . 聞 . . 真木割 . 檜 . 板戶 . 押 . 開 .
我入 . 坐 取 枕取 . . . 取 . . .
妹 . 手 . 我 . 纏 . . . 我 . 手 . . 妹 . 纏 . . .
. . . 葛 交 . . 肉串 . 味寢寢 . 間 .
庭 . 鳥 雞 . 鳴 . . . 野 . 鳥 鳩 . 響 .
愛 言 明 我妹

妃和唱曰:

隱鎖 . 泊瀨 . 川 . 流 . 來 . 竹 竹 . 竹
本邊 . . . 琴 . 作 . 末邊 . . . 笛 . 作 . 吹 . 鳴 .
御諸 . 上 . 登 . 立 . 我 . 見 . . .
蔓多 . 磐余 . 池 . 地下經 魚 . 上 . 出 . 歎 .
. 我 . 大君 . 帶 御帶 .
結 . 垂 . 誰 . . 人 . 上 . 出 . 歎 .

冬十一月,辛亥朔乙卯,於朝庭,引列百濟姐彌文貴將軍,斯羅汶得至,安羅辛已奚及貢巴委佐,伴破既殿奚及竹汶至等,奉宣恩敕,以己汶、帶沙,賜百濟國.

是月,伴跋國遣戡支,獻珍寶乞己汶之地.而終不賜國.

十二月,辛巳朔戊子,詔曰:「朕承天緒,獲保宗廟,兢兢業業.問者,天下安靜,海內清平,屢致豐年,頻使饒國.謔哉,摩呂古示朕心於八方,盛哉,勾大兄光吾風於萬國.日本邕邕,名擅天下,秋津赫赫,譽重王畿.所寶惟賢,為善最樂.聖化憑茲遠扇,玄功籍此長懸.寔汝之力,宜處春宮,助朕施仁,翼吾補闕!」

八年春正月,太子妃春日皇女,晨朝晏出,有異於常.

太子意疑入殿而見.妃臥床涕泣惋痛,不能自勝.太子怪問曰:「今旦涕泣,有何恨乎?」妃曰:「非餘事化,唯妾所悲者,飛天之鳥,為愛養兒,樹巔作櫟,其愛深矣;伏地之虫,為護衛子,土中作窟,其護厚焉.乃至於人,豈得無慮?無嗣之恨,方鍾太子.妾名隨絕.」於是太子感痛,而奏天皇.詔曰:「朕子麻呂古,汝妃之詞,深稱於理.安得空爾無答慰乎?宜賜匝布屯倉,表妃名於万代!」

三月,伴跋築城於子吞、帶沙,而連滿奚,置烽候、邸閣,以備日本.

復築城於爾列比、麻須比,而緬麻且奚、推封,聚士卒兵器以逼新羅,驅略子女,剝掠村邑.凶勢所加,罕有遺類.夫暴虐,奢侈,惱害,侵凌,誅殺尤多,不可詳載.

九年春二月,甲戌朔丁丑,百濟使者文貴將軍等請罷.仍敕,副物部連,關名遣罷歸之.百濟本記云,物部至至連.

是月,到于沙都島,傳聞伴跋人懷恨銜毒,恃強縱虐.故物部連率舟師五百,直詣帶沙江.文貴將軍自新羅去.

夏四月,物部連於帶沙江停住六日,伴跋輿師往伐.逼脫衣裳,劫掠所賣,盡燒帷幕.

物部連等怖畏逃遁,僅存身命,泊汶慕羅.汶慕羅,島名也.

十年夏五月,百濟遣前部木羅不麻甲背,迎勞物部連等於己汶,而引導入國.

群臣各出衣裳、斧鐵、帛布,助加國物,積置朝庭,慰問慰勲,賞祿優節.

秋九月,百濟遣遠州利即次將軍,副物部連來,謝賜己汶之地.

別貢五經博士漢高安茂,請代博士段楊爾.依請代.

戊寅,百濟遣灼莫古將軍,日本斯那奴阿比多,副高麗使安定等來朝結好.



繼體天皇 磐余玉穗宮近郊(推定)
位置不祥,約在櫻井春日神社附近.

四.物部麤鹿火鎮壓磐井反亂

廿一年夏六月,壬辰朔甲午,近江毛野臣率從眾六萬欲住任那,為復興建新羅所破南加羅、
曷己吞,合任那.

於是,筑紫國造·磐井陰謀叛逆,猶預經年,恐事難成,恒伺間隙.新羅知是,密行貨賂于磐井所
而勸防遏毛野臣軍.

於是,磐井掩據火、豐二國,勿使修職.外邀海路,誘致高麗、百濟、新羅、任那等國年貢職
船,內遮遣任那毛野臣軍,亂語揚言曰:「今為使者,昔為吾伴,摩肩觸肘,共器間食.安得卒率爾
為使,俾余自伏你前.」遂戰而不受,驕而自矜.是以,毛野臣乃見防遏中途淹滯.

天皇詔大伴大連金村、物部大連麤鹿火、許勢大臣男人等曰:「筑紫磐井反,掩有西戎之
地.今誰可將者?」

大伴大連等僉曰:「正直、仁勇通於兵事,今無出於麤鹿火右.」天皇曰:「可!」

秋八月,辛卯朔,詔曰:「咨,大連,惟茲磐井弗率.汝徂征!」物部麤鹿火大連再拜言:「嗟,夫磐
井西戎之奸猾.負川阻而不庭,憑山峻而稱亂.敗德反道,侮慢自賢.在昔道臣,爰及室屋,助帝而
罰,拯民塗炭.彼此一時,唯天所贊,臣恒所重,能不恭伐!」

詔曰:「良將之軍也,施恩推惠,恕己治人.攻如河決,戰如風發!」重詔曰:「大將民之司令,社
稷存亡,於是乎在!勗哉,恭行天罰!」天皇親操斧鉞,授大連曰:「長門以東朕制之,筑紫以西汝
制之.專行賞罰,勿煩頻奏!」

廿二年冬十一月,甲寅朔甲子,大將軍物部大連麤鹿火,親與賊帥磐井交戰於筑紫御井郡.

旗鼓相望,揜塵慶相接.決機兩陣之間,不避萬死之地.遂斬磐井,果定疆場.

十二月,筑紫君葛子恐坐父誅,獻糟屋屯倉,求贖死罪.

廿三年春三月,百濟王謂下哆唎國守穗積押山臣曰:「夫朝貢使者,恒避島曲,謂海中島曲磯岸
也.俗云,……每苦風波,因茲,濕所齎全壞無色.請以加羅多沙津,為臣朝貢津路.」是以押山臣
為請聞奏.

是月,遣物部伊勢連父根、吉士老等,以津賜百濟王.

於是,加羅王謂敕使云:「此津從置宮家以來,為臣朝貢津涉.安得輒改賜鄰國,違元所封限
地?」敕使父根等因斯難以面賜,卻還大島,別遣錄史,果賜扶余.由是加羅結讎新羅,生怨日本.

加羅王娶新羅王女,遂有兒息.新羅初送女時,并遣百人,為女從.受而散置諸縣,令著新羅衣
冠.阿利斯等嗔其變服,遣使徵還.

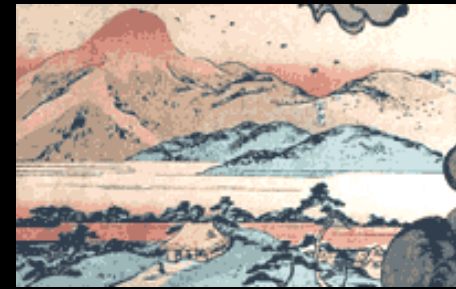
新羅大羞,翻欲還女曰:「前承汝聘,吾便許婚.今既若斯,還王女!」加羅已富利知伽,未詳.云:
「配合夫婦,安得更離!亦有息兒,棄之何往?」遂於所經,拔刀伽、古跛、布那牟羅、三城,亦拔
北境五城.

十二年春三月,丙辰朔甲子,遷都·弟國.
十七年夏五月,百濟王·武寧薨.
十八年春正月,百濟太子·明即位.
廿年秋九月,丁酉朔乙酉,遷都磐余玉穗.一本云,七年也.



新羅、任那地圖

近江毛野臣為復興建新羅所破南加羅、曷己吞,率眾六萬,往任那.



肥國

火國,即肥國,分作肥前、肥後,是今
之佐賀,長崎熊本等縣.



豐國圖

豐國者,豐前、豐後兩國也.是為今之
福岡、大分兩縣.

五.近江毛野臣渡海

是月,遣近江毛野臣,使于安羅,敕勸新羅,更建南加羅、曷己吞.

百濟遣將軍君尹貴、麻那甲背、麻鹵等,往赴安羅,式聽詔敕.

新羅恐破蕃國宮家,不遣大人,而遣夫智奈麻禮、奚奈麻禮等,往赴安羅,式聽詔敕.



新羅、任那、百濟地圖

江毛野臣使于安羅，敕勸新羅，更建南加羅與彙己吞。

詔曰自磐余彥之帝水間城之王皆新羅臣陳謨而神日本以盛大彥中略而後欲立中興之功者曷嘗不賴賢哲之謀乎王天下幸美前聖隆乎日久務所蔽其人各以類進有大略者不問其所短豈非明佐朕承帝業於今二十四年天下清泰內外無虞土地膏腴穀稼有實竊恐元元由斯生俗籍此成驕故令人舉廉節宣揚大道流通鴻化能官之事自古為難爰暨朕身豈不慎歟

之所持者毛野臣之過也秋九月臣

於是，安羅新起高堂，引昇敕使。國主隨後昇階。國內大人預昇堂者一二，百濟使、將軍君等，在於堂下。凡數月，再三謨謀乎堂上。將軍君等恨在庭焉。

夏四月，壬午朔戊子，任那己能末多干岐來朝。言己能末多者，蓋阿利斯等也。啟大伴大連金村曰：「夫海表諸蕃自胎中天皇，置內官家，不棄本土封其地，良有以也。今新羅違元所賜封限，數越境以來侵。請奏天皇，救助臣國！」大伴大連依乞奏聞。

是月，遣使送己能末多干岐，并詔在任那近江毛野臣：「推問所奏，和解相疑。」

於是毛野臣次于熊川，一本云，次于任那久斯牟羅。召集新羅、百濟，二國之王。

新羅王佐利遲遣久遲布禮，一本云，久禮爾師知于奈師磨里。百濟遣恩率彌騰利，赴集毛野臣所，而二王不自來參。毛野臣大怒，責問二國使云：「以小事大，天之道也！一本云，大木端者以大木續之；小木端者以小木續之。何故，二國之王不躬來集受天皇敕，輕遣使乎？今縱汝王自來聞敕，吾不肯敕，必追逐退！」久遲布禮、恩率彌騰利，心懷怖畏，各歸召王。

由是，新羅改遣其上臣伊叱夫禮智干岐，新羅以大臣為上臣。一本云，伊叱夫禮知奈末。率眾三千來，請聽敕。毛野臣遙見兵仗圍繞，眾數千人，自熊川入任那己叱己利城。伊叱夫禮智干岐次于多多羅原，不敬歸。

待三月，頻請聞敕，終不肯宣。伊叱夫禮智所將士卒等，於聚落乞食，相過毛野臣僦人河內馬飼首御狩。御狩入隱他門，待乞者過，捲手遙擊。乞者見云：「謹待三月，佇聞敕旨，尚不肯宣，惱聽敕使，乃知，欺誑誅戮上臣矣。」乃以所見，具述上臣。上臣抄掠四村，金官、背伐、安多、委陀，是為四村。一本云，多多羅、須那羅、和多、費智，為四村也。盡將人、物，入其本國。或曰：「多多羅等四村之所掠者，毛野臣之過也。」

秋九月，巨勢男人大臣薨。

二十四年春二月，丁未朔，詔曰：「自磐余彥之帝、水間城之王，皆賴博物之臣，明哲之佐。故道臣陳謨，而神日本以盛；大彥申略，而膽瓊殖用隆。及乎繼體之君，欲立中興之功者，曷嘗不賴賢哲之謨謀乎？爰降小泊瀨天皇之王天下，幸承前聖，隆平日久。俗漸蔽而不寤，政浸衰而不改。但須其人各以類進，有大略者，不問其所短；有高才者，不非其所失。故獲奉宗廟，不危社稷。由是觀之，豈非明佐？朕承帝業，於今二十四年，天下清泰，內外無虞，土地膏腴，穀稼有實。竊恐元元，由斯生俗，籍此成驕。故令人舉廉節，宣揚大道，流通鴻化。能官之事，自古為難。爰暨朕身，豈不慎歟！」

六.毛野臣，復興任那未果而死

秋九月，任那使奏云：「毛野臣遂於久斯牟羅起造舍宅，淹留二歲，一本云，三歲者，連去來歲數也。懶聽政焉。爰以日本人與任那人，頻以兒息，諍訟難決。元無能判。毛野臣樂置誓湯曰：『實者不爛，虛者必爛！』是以投湯爛死者眾。又殺吉備韓子那多利、斯布利，大日本人娶蕃女所生為韓子也。恒惱人民，終無和解。」於是天皇聞其行狀，遣人徵入，而不肯來。

顧以河內母樹馬飼首御狩，奉詣於京而奏曰：「臣未成敕旨，還入京鄉，勞往虛歸，慚恧安措。伏願陛下待成國命，入朝謝罪。」奉使之後，更自謨曰：「其調吉士亦是皇華之使，若先吾取歸，依實奏聞，吾之罪過必應重矣。」乃遣調吉士，率眾守伊斯枳牟羅城。

於是，阿利斯等知其細碎為事，不務所期，頻勸歸朝，尚不聽還。由是悉知行跡，心生翻背。乃遣久禮斯己母，使于新羅請兵，奴須久利使于百濟請兵。

毛野臣聞百濟兵來，迎討背評，背評，地名，亦名，能備己富里。傷死者半。百濟則捉奴須久利，柁、械、枷、鎖，而共新羅圍城，責罵阿利斯等曰：「可出毛野臣！」毛野臣嬰城自固，勢不可擒。

於是，二國圖度便地，淹留弦晦，築城而還，號曰-久禮牟羅城。還時觸路，拔騰利枳牟羅、布那牟羅、牟雌枳牟羅、阿夫羅、久知波多枳，五城。

冬十月，調吉士至自任那，奏言：「毛野臣為人敖倨，不閑治體，竟無和解，擾亂加羅，又倜儻任意而思不防患。」故遣目賴子，徵召。目賴子，未詳也。

是歲，毛野臣被召到于對馬，逢疾而死。送葬，尋河而入近江。其妻歌曰：

枚方・笛吹・上・近江・・毛野・若子・笛吹・上・



久斯牟羅

亦名「屈自」「仇史」，今之韓慶尚南道昌原是也。牟羅者，村也。



枚方 今大阪府枚方市。

毛野臣妻之歌：

起自枚方吹笛行 近江毛野少子者
舉笛吹兮川上行

目賴子初到任那時,在彼鄉家等贈歌曰:

韓國・ 如何・言・ ・ ・ 目賴子來・ 向離來・ 壹岐・濟・ 目賴子來・

從枚方出發,吹著笛子步行,近江毛野的少年,吹著笛子沿著川上步行.

目賴子到任那歌:

韓國者今何之國 余目賴子今來之

遠行海路壹岐濟 余目賴子今來之

韓國究竟是怎樣的國家呢?我目賴子就要去了,跨過那遙遠壹岐的海路,我目賴子就要來了.



繼體天皇 三島藍野陵

繼體天皇崩磐余玉穗宮,葬藍野鄰.

七.繼體天皇崩御

二十五年春二月,天皇病甚.

丁未,天皇崩于磐余玉穗宮.時年八十二.

冬十二月,丙申朔庚子,葬于藍野陵.

或本云,天皇廿八年,歲次甲寅崩者.而此云廿五年歲次辛亥崩者,取百濟本記為文.

其文云,太歲辛亥三月,師進至于安羅,營乞弔城.是月,高麗弑其王安.

又聞,日本天皇及太子、皇子,俱崩薨.由此而言,辛亥之歲當廿五年矣.後勘校者,知之也.

日本書紀卷十七 終

[\[久遠・絆\]](#) [\[卷十六\]](#) [\[卷十八\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷十八 安閑紀 / 宣化紀

[安閑天皇]

[宣化天皇]

廣國押武金日天皇 安閑天皇

一.安閑天皇之即位與立后

勾大兄廣國押武金日天皇,男大跡天皇長子也.母曰-日子媛.

是天皇為人牆宇嶷岐,不可得窺.桓桓寬大,有人君之量.

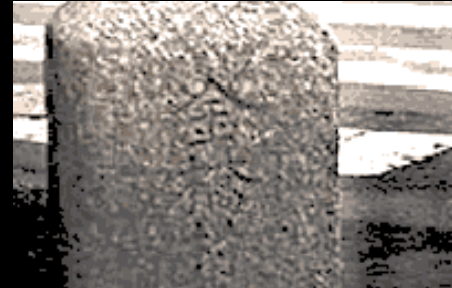
廿五年春二月,辛丑朔丁未,男大跡天皇立大兄為天皇.

即日,男大跡天皇崩.

元年春正月,遷都于大倭國勾金橋,因為宮號.

三月,癸未朔戊子,有司為天皇納采億計天皇女-春日山田皇女為-皇后.更名,山田赤見皇女.

別立三妃:立許勢男人大臣女-紗手媛,紗手媛弟-香香有媛,物部木蓮子-木蓮子,此云...大連女-宅媛.



金橋村道標
大倭國-勾-金橋宮,推定今在日本奈良高市郡金橋村曲川.



安閑天皇皇后春日山田皇女陵

二.為后妃設置屯倉

夏四月,癸丑朔,內膳卿-膳臣大麻呂奉敕,遣使求珠伊甚.

伊甚國造等,詣京遲晚,踰時不進.膳臣大麻呂大怒,收縛國造等,推問所由.

國造稚子直等恐懼,逃匿後宮內寢.春日皇后不知直入,驚駭而顛,慚愧無已.

稚子直等兼坐闕入罪,當科重.謹專為皇后,獻-伊甚屯倉,請贖闕入之罪.固定-伊甚屯倉,今分為郡,屬-上總國.

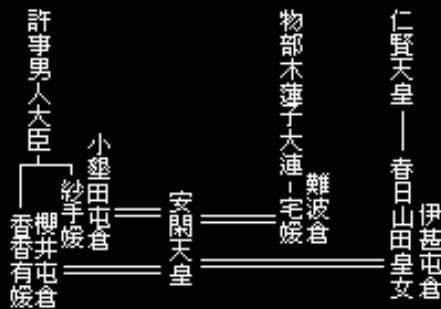
五月,百濟遣下部脩德嫡德孫、上部都德己州己婁等來貢常調,別上表.

秋七月,辛巳朔,詔曰:「皇后雖體同天子,而內外之名殊隔.亦可以充屯倉之地,式樹椒庭,後代遺跡!」迺差敕使,簡擇良田.

敕使奉敕,宣於大河內直味張,更名黑梭,曰:「今汝宜奉進膏腴雌雉田!」味張忽然吝惜,欺誑敕使曰:「此田者,天旱難溉,水潦易浸.費功極多,收穫甚少!」敕使依言服命,無隱.

冬十月,庚戌朔甲子,天皇敕大伴大連金村曰:「朕納四妻,至今無嗣.萬歲之後,朕名絕矣.大伴伯父,今作何計?每念於茲,憂慮何已!」大伴大連金村奏曰:「亦臣所憂也.夫我國家之王天下者,不論有嗣無嗣,要須因物為名.請為皇后次妃,建立屯倉之地,使留後代,令顯前跡!」詔曰:「可矣.宜早安置!」

大伴大連金村奏稱:「宜以小墾田屯倉與每國田部,給貺紗手媛;以櫻井屯倉,一本云,加貺茅淳山屯倉也,與每國田部,給香香有媛;以難波倉與每郡鑊丁,給貺宅媛.以示於後,式觀乎昔!」詔曰:「依奏施行!」



各皇女即其所為給屯倉圖

三.大河內直味張贖罪

閏十二月,己卯朔壬午,行幸於三島,大伴大連金村從焉.

天皇使大伴大連,問良田於縣主-飯粒.縣主飯粒,慶悅無限.謹敬盡誠,仍奉獻上御野、下御野,上桑原、下桑原,并竹村之地,凡合肆拾町.

大伴大連,奉敕宣曰:「率土之下,莫匪王封;普天之上,莫匪王域.故先天皇,建顯號垂鴻名,廣大配乎乾坤,光華象乎日月.長駕遠撫,橫逸乎都外,瑩鏡區域,充塞乎無垠!上冠九垓,旁濟八表.制禮以告成功,作樂以彰治定.福應允致,祥慶符合於往歲矣.今汝味張,率土幽微百姓,忽爾奉惜王地,輕背使乎宣旨.味張自今以後,勿預郡司!」

於是,縣主飯粒,喜懼交懷.迺以其子島樹獻大連,為僮豎焉.

於是,大河內直味張,恐畏求悔,伏地汗流.啟大連曰:「愚蒙百姓,罪當萬死.伏願,每郡以鑊丁,春時五百丁,秋時五百丁,奉獻天皇,子孫不絕.籍此祈生,永為鑑戒!」別以狹井田六町,賂大伴大連.蓋三島竹村屯倉者,以河內縣部曲為田部之元,於是乎起.

是月,廬城部連-枳莒喻女-幡媛,偷取物部大連尾輿瓊瑠,獻春日皇后.事至發覺,枳莒喻以女-



金村神社 祭神:大伴大連金村.

幡媛獻采女丁,是春日部采女也.并獻安藝國過戶廬城部屯倉,以贖女罪.

物部大連尾輿,恐事由己,不得自安.乃獻十市部,伊勢國-來狹狹、登伊,來狹狹、登伊,二邑名也.贊土師部,筑紫國膽狹山部也.



物部神社



武藏國郡部圖



舊市高屋丘陵

四.武藏國造紛爭決戰,天皇崩御

武藏國造-笠原直使主與同族小杵,相爭國造,使主、小杵皆名也.經年難決也.小杵性阻有逆,心高無順,密就援於上毛野君-小熊而謀殺使主.

使主覺之走出,詣京言狀.朝廷臨斷,以使主為國造,而誅小杵.國造使主,悚喜交懷,不能默已.謹為國家,奉置橫渟、橘花、多冰、倉櫟,四處屯倉.是年他,太歲甲寅.

二年春正月,戊申朔壬子,詔曰:「間者連年登穀,接境無虞.元元蒼生,樂於稼穡;業業黔首,免於飢謹;仁風暢乎宇宙,美聲塞乎乾坤.內外清通,國家殷富,朕甚欣焉.可大酺五日,為天下之歡!」

夏四月,丁丑朔,置勾舍人部、勾韃部.

五月,丙午朔甲寅,置筑紫穗波屯倉;鎌屯倉,豐國湊碓屯倉;桑原屯倉;肝等屯倉,取音讀.大拔屯倉、我鹿屯倉,我鹿,此云・・・火國春日部屯倉,播磨國越部屯倉、牛鹿屯倉,備後國後城屯倉,多禰屯倉、來履屯倉、葉稚屯倉、河音屯倉,婀娜國膽殖屯倉、膽年部屯倉,阿波國春日部屯倉,紀國經湍屯倉,經湍,此云・・・河邊屯倉,丹波國蘇斯岐屯倉,皆取音.近江國葦浦屯倉,尾張國間敷屯倉、入鹿屯倉,上毛野國綠野屯倉,駿河國稚贄屯倉.

秋八月,乙亥朔,詔置國國犬養部.

九月,甲辰朔丙午,詔櫻井田部連、縣犬養連、難波吉士等,主掌屯倉之稅.

丙辰,別敕大連云:「宜放牛於難破大隅島與媛島松原,冀垂名於後.」

冬十二月,癸酉朔己丑,天皇崩于勾金橋宮,時年七十.

是月,葬天皇于河內舊市高屋丘陵.以皇后春日山田皇女及天皇妹神前皇女,合葬于是陵.

武小廣國押盾天皇 宣化天皇

一.宣化天皇之即位與立后

武小廣國押盾天皇,男大跡天皇第二子也.勾大兄廣國押武金日天皇之同母弟也.

二年十二月,勾大兄廣國押武金日天皇崩,無嗣.群臣奏上劍、鏡於武小廣國押盾尊,使即天皇之位焉.

是天皇為人,器宇清通,神襟朗邁.不以才地矜人為王,君子所服.

元年春正月,遷都于-檜隈廬入野,因為宮號也.

二月,壬申朔,以大伴金村大連為大連,物部粗鹿火大連為大連,並如故.又以-蘇我稻目宿禰為大臣.阿倍大麻呂臣為大夫.

三月,壬寅朔,有司請立皇后.

己酉,詔曰:「立前正妃億計天皇女-橘仲皇女為皇后.」是生一男三女.

長曰,石姬皇女.

次曰,小石姬皇女.

次曰,倉稚綾姬皇女.

次曰,上殖葉皇子,亦名碗子.是丹比公、偉那公,凡二姓之先也.

前庶妃-大河內稚子媛生一男.

是曰,火焰皇子.是椎田君之先也.



岡太神社 奥院

傳安閑天皇宮為安閑降誕之地.



宣化天皇檜隈廬入野宮



濱玉町 鏡山

傳狹手彥往鎮任那之途,曾滯松浦里,戀與佐用姬.佐用姬思夫而登鏡山,望船影,終化為石.



宣化天皇 身狹桃花鳥阪上陵

二.於筑紫國那津整備官家

夏五月,辛丑朔,詔曰:「食者天下之本也.黃金萬貫,不可療飢;白玉千箱,何能救冷!夫筑紫國者,遐邇之所朝屆,去來之所關門.是以海表之國,俟海水以來賓,望天雲而奉貢.自胎中之帝,泊于朕身,牧藏穀稼,蓄積儲糧.遙設凶年,厚饗良客.安國之方,更無過此!故,朕遣阿蘇仍君,未詳也.加運-河內國茨田郡屯倉之穀;蘇我大臣-稻目宿禰,宜遣尾張連,運尾張國屯倉之穀;物部大連粗鹿火,宜遣新家連,運新家屯倉之穀;阿倍臣,宜遣伊賀臣,運伊賀國屯倉之穀.修造宮家那津之口.又其筑紫、肥、豐,三國屯倉,散在懸隔,運輸遙阻.儻如須要,難以備率.亦宜課諸郡分移,聚建那津之口,以備非常,永為民命.早下郡縣,令知朕心!」

秋七月,物部粗鹿火大連薨.是年也,太歲丙辰.

二年冬十月,壬辰朔,天皇以新羅寇於任那,詔大伴金村大連,遣其子-磐與狹手彥,以助任那.

是時,磐留筑紫,執其國政,以備三韓.狹手彥往鎮任那,加救百濟.

四年春二月,乙酉朔甲午,天皇崩于檜隈廬入野宮.時年七十三.

冬十一月,庚戌朔丙寅,葬天皇于大倭國身狹桃花鳥阪上陵.以皇后橘皇女及其孺子,合葬是陵.皇后崩年,傳記無載.孺子者,蓋未成人而薨歟.

日本書紀卷十八 終

[\[久遠・絆\]](#) [\[卷十七\]](#) [\[卷十九\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷十九 欽明紀

天國排開廣庭天皇 欽明天皇



伏見稻荷大社

山背國紀伊郡深草里者,在今京都府伏見區稻荷町深草一帶.另,右京區之木島坐天照御魂神社(蠶之社),是為秦氏宗廟,立有罕見之三柱鳥居.

二.天皇即位,立后與遷都

冬十二月,庚辰朔甲申,天國排開廣庭皇子,即天皇位.時年若干.尊皇后曰-皇太后.大伴金村大連,物部尾輿大連為大連,及蘇我稻目宿禰大臣為大臣,並如故.

元年春正月,庚戌朔甲子,有司請立皇后.

詔曰:「立正妃,武小廣國押盾天皇女-石姬為皇后.」是生二男一女.

長曰,箭田珠勝大兄皇子.

仲曰,譯語田渟中倉太珠敷尊.

少曰,笠縫皇女.更名,狹田毛皇女.

二月,百濟人已知部投化.置倭國添上郡山村,今山村已知部之先也.

三月,蝦夷、隼人,並率眾歸附.

秋七月,丙子朔己丑,遷都-倭國磯城郡磯城島.仍號為-磯城島金刺宮.

八月,高麗、百濟、新羅、任那,並遣使獻,並脩貢職.

召集秦人、漢人等,諸蕃投化者,安置國郡,編貫戶籍.

秦人戶數總七千五十三戶,以大藏掾為秦伴造.



欽明天皇磯城島金刺宮址

欽明天皇元年,遷都倭國磯城郡磯城島.承傳地今在奈良縣櫻井市金屋.



今村神社

位於北葛城郡,所祀大伴大連金村.

一.欽明天皇與秦大津父

天國排開廣庭天皇,男大跡天皇嫡子也.母曰-手白香皇后.天皇愛之,常置左右.

天皇幼時夢,有人云:「天皇寵愛秦大津父者,及壯大,必有天下!」寐驚,遣使普求,得自山背國紀伊郡深草里.姓字果如所夢.於是所喜遍身,歎未曾夢.

乃告之曰:「汝有何事?」答云:「無也.但臣向伊勢商價來還,山逢二狼相鬥污血.乃下馬洗漱口手,祈請曰:『汝是貴神,而樂羸行.儻逢獵士,見禽尤速!』乃抑止相鬥,拭洗血毛,遂遣放之.俱令全命.」天皇曰:「此必報也!」乃令近侍,優寵日新,大致饒富.及至踐祚,拜大藏省.

四年冬十月,武小廣國押盾天皇崩.皇子天國排開廣庭天皇令群臣曰:「余幼年淺識,未閑政事.山田皇后明閑百揆,請就而決!」山田皇后怖謝曰:「妾蒙恩寵,山海詎同.萬機之難,婦女安預?今皇子者敬老慈少,禮下賢者,日中不食以待士.加以幼而穎脫,早擅嘉聲,性是寬和,務存矜宥.請諸臣等,早令臨登位光臨天下!」

三.大伴金村失腳

九月,乙亥朔己卯,幸難波祝津宮.大伴大連金村、許勢臣稻持、物部大連尾輿等從焉.

天皇問諸臣曰:「幾許軍卒,伐得新羅?」物部大連尾輿等奏曰:「少許軍卒,不可易征.曩者男大跡天皇六年,百濟遣使,表請任那上上哆唎、下哆唎、娑陀、牟婁四縣.大伴大連金村輕依表請,許賜所求.由是新羅怨曠積年,不可輕爾而伐.」

於是,大伴金村居住吉宅,稱疾不朝.天皇遣青海夫人勾子,慰問慇懃.大連怖謝曰:「臣所疾者非餘事也.今諸臣等,謂臣滅任那.故恐怖不朝耳.」乃以鞍馬贈使,厚相資敬.青海夫人依實顯奏.詔曰:「久竭忠誠,莫恤眾口.」遂不為罪,優寵彌深.是年也,太歲庚申.

四.五人妃子

二年春三月,納五妃.

元妃,皇后弟,曰-稚綾姬皇女.

是生,石上皇子.

次有皇后弟,曰-日影皇女.

此曰皇后弟,明是檜隈高田天皇女.而列后妃之名,不見母妃姓與皇女名字,不知出何書.後勘者知之.

是生,倉皇子.

次,蘇我大臣稻目宿禰女,曰-堅鹽媛.堅鹽,此云...生七男六女.

其一曰,大兄皇子.是為橘豐日尊.

其二曰,磐隈皇女.更名,夢皇女.初侍祀於伊勢大神,後坐姦皇子茨城解.

其三曰,臘嘴鳥皇子.

其四曰,豐御食炊屋姬尊.

其五曰,碗子皇子.

其六曰,大宅皇女.

其七曰,石上部皇子.

其八曰,山背皇子.

其九曰,大伴皇女.

其十曰,櫻井皇子.

其十一曰,肩野皇女.

其十二曰,橘本稚皇子.

其十三曰,舍人皇女.

次,堅鹽媛同母弟曰-小姊君.生四男一女.

其一曰,茨城皇子.

其二曰,葛城皇子.

其三曰,泥部穴穗部皇女.

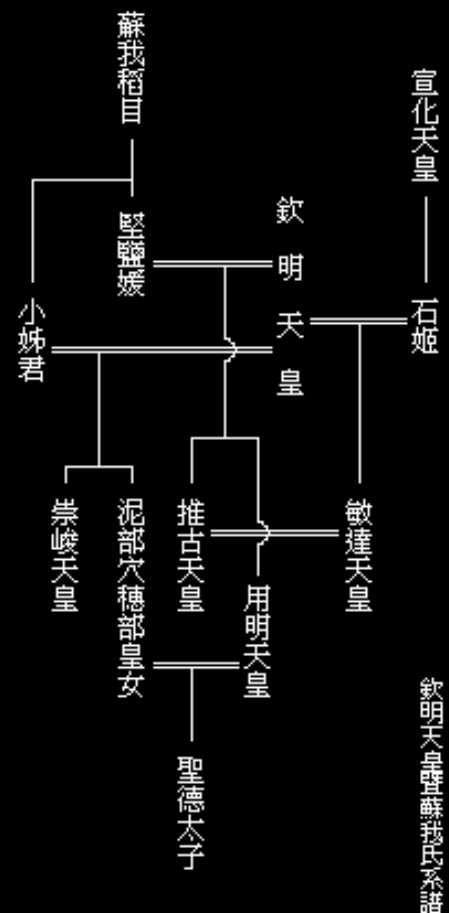
其四曰,泥部穴穗部皇子.更名-天香子皇子.一書云,更名-住跡皇子.

其五曰,泊瀨部皇子.

一書云,其一曰-茨城皇子.其二曰-泥部穴穗部皇女.其三曰-泥部穴穗部皇子,更名-住跡皇子.其四曰-葛城皇子.其五曰-泊瀨部皇子.一書云,其一曰-茨城皇子.其二曰-住跡皇子.其三曰-泥部穴穗部皇女.其四曰-泥部穴穗部皇子,更名天香子.其五曰-泊瀨部皇子.帝王本紀,多有古字,撰集之人屢經遷易,後人習讀,以意刊改,傳寫既多,遂致舛雜.前後失次,兄弟參差.今則考覈古今,歸其真正.一往難識者,且依一撰,而注詳其異.他皆效此.

次,春日日抓臣女,曰-糠子.

生,春日山田皇女與橘麻呂皇子.



欽明天皇暨蘇我氏系譜

欽明天皇立宣化天皇之女-石姬為皇后.其後復納五妃.計有皇后之妹-稚綾姬皇女,日影皇女,蘇我大臣稻目宿禰之女-堅鹽媛,小姊君,以及春日日抓臣之女-糠子.各有兒息.於其中橘豐日尊(用明天皇)娶泥部穴穗部皇女,產聖德太子.此子者篤性佛教,影響日本甚鉅.詳見推古天皇紀.



任那-新羅-卓淳地緣關係圖

五.百濟聖明王,協議任那復建

夏四月,安羅次旱岐夷吞奚、大不孫、久取柔利,加羅上首位古殿奚,卒麻旱岐,散半奚旱岐兒,多羅下旱岐夷他,斯二岐旱岐兒,子他旱岐等,與任那日本府吉備臣,關名字.往赴百濟,俱聽詔書.百濟聖明王謂任那旱岐等言:「日本天皇所詔者,全以復建任那.今用何策,起建任那?盍各盡忠奉展聖懷!」

任那旱岐等對曰:「前再三迴,與新羅議.而無答報.所圖之旨,更告新羅,尚無報.今夷俱遣使,往奏天皇.夫建任那者,爰在大王之意.祇承教旨,誰敢間言.然任那境接新羅,恐致卓淳等禍.等謂-曷己吞、加羅、言卓淳等國,有敗亡之禍.」

聖明王曰:「昔我先祖速古王、貴首王之世,安羅、加羅、卓淳旱岐等,初遣使,相通厚結親好,以為子弟,冀可恒隆.而今被誑新羅,使天皇忿怒,而任那憤恨,寡人之過也.我深懲悔,而遣下部中佐平麻鹵、城方甲背昧奴等,赴加羅,會于任那日本府相盟.以後繫念相續,圖建任那,旦夕無忘.今天皇詔稱:『速建任那!』由是欲共爾曹謨計,樹立任那等國.宜善圖之.又於任那境,徵召新羅,問聽與不.乃俱遣使,奏聞天皇,恭承示教.儻如使人未還之際,新羅候隙,侵逼任那,我當往救,不足為憂.然善守備,謹警無忘.別汝所道,恐致卓淳等禍,非新羅自強故所能為也.其曷己吞居加羅與新羅境際,而被連年攻敗.任那無能救援,由是見亡.其南加羅蕞爾狹小,不能卒備,不知所託,由是見亡.其卓淳上下攜貳,主欲自附,內應新羅,由是見亡.因斯而觀,三國之敗,良有以也.昔新羅請援於高麗,而攻擊任那與百濟,尚不剋之.新羅安獨滅任那乎?今寡人與汝戮力並心,翳賴天皇,任那必起.」因贈物各有差.忻忻而還.

卓淳,杲己吞,加羅,皆為新羅所滅.

六.聖明王,戒慎新羅謀略

秋七月,百濟聞安羅日本府與新羅通計,遣前部奈率鼻利莫古、奈率宣文、中部奈率木州昧淳、紀臣奈率彌麻沙等,紀臣奈率者,蓋是紀臣娶韓婦所生,因留百濟,為奈率者也.未詳其父.他皆效此,使于安羅,召到新羅任那執事,謨建任那.

別以安羅日本府直通計新羅,深責罵之.百濟本記云,加不至費直、阿賢移那斯、佐魯麻都等,未詳.乃謂任那曰:「昔我先祖速古王、貴首王與故旱岐等,始約和親,式為兄弟.於是我以汝為子弟,汝以我為父兄,共事天皇,俱距強敵,安國全家,至于今日.言念先祖與舊旱岐和親之詞,有如皎日.自茲以降,勤修鄰好,遂敦與國,恩踰骨肉.善始有終,寡人之所恒願.未審,何緣輕用浮辭,數歲之間,慨然失志!古人云:『追悔無及!』此之謂也.上達雲際,下及泉中,誓神乎今,改咎乎昔,一無隱匿,發露所為,精誠通靈,深自克責,亦所宜取.蓋聞,為人後者,貴能負荷先軌,克昌堂構,以成勳業也.故今追崇先世和親之好,敬順天皇詔敕之詞,拔取新羅所折之國-南加羅、杲己吞等,還屬本貫,遷實任那,永作父兄,恒朝日本.此寡人之所食不甘味,寢不安息,悔往戒今之,所勞想也.夫新羅甘言希誑,天下之所知也.汝等妄信,既墮人權.方今任那境接新羅,宜常設備,豈能遲析?爰恐陷罹誣欺網阱,喪國亡家,為人繫虜.寡人念茲,勞想而不能自安矣.竊聞,任那與新羅,運策席際,現蜂、蛇怪,亦眾所知.且夫妖祥所以戒行,災異所以悟人.當是,明天告誡,先靈之徵表者也!禍至追悔,滅後思興,孰云及矣.今汝尊余,聽天皇敕,可立任那.何患不成?若欲長存本土,永御舊民,其謨在茲,可不慎也!」

聖明王更謂任那日本府曰:「天皇詔稱:『任那若滅,汝則無資;任那若興,汝則有援.今宜興建任那,使如舊日,以為汝助撫養黎民!』謹承詔敕,悚懼填胸.誓效丹誠,冀隆任那,永事天皇,猶如往日.先慮未然,然後康樂.今日本府復能依詔,救助任那,是為天皇所必褒讚,汝身所當賞祿.又日本卿等久住任那之國,近接新羅之境.新羅情狀,亦是所知.毒害任那,謨防日本,其來尚矣.匪唯今年,而不敢動者,近羞百濟,遠恐天皇.誘事朝廷,偽和任那.如斯感激任那日本府者,以未禽任那之間,偽示伏從之狀.願今候其間隙,佔其不備,一舉兵而取之.天皇詔敕,勸立南加羅、杲己吞,非但數十年.而新羅一不聽命,亦卿所知.且夫信敬天皇,為立任那,豈若是乎!恐卿等輕信甘言,輕被謾語,滅任那國,奉辱天皇.卿其戒之,勿為他欺!」

秋七月,百濟遣紀臣奈率彌麻沙、中部奈率己連,來奏下韓任那之政,并上表之.

四年夏四月,百濟紀臣奈率彌麻沙等罷之.

秋九月,百濟聖明王遣前部奈率真牟貴文、護德己州己婁與物部施德麻弼牟等,來獻扶南財物與奴二口.

百濟官位表

十六官品	書紀所記官品	冠帶	定員
左平	佐平	冠御頸華	五人
造率	造率	冠御頸華	三十人
恩率	恩率	冠御頸華	縣定員數
德率	德率	冠御頸華	縣定員數
杆率	杆率	冠御頸華	縣定員數
孫率	孫率 孫率	冠御頸華	縣定員數
將德	將德 楠德	紫帶	縣定員數
施德	施德	皂帶	縣定員數
固德	固德 曉德	赤帶	縣定員數
季德	季德	青帶	縣定員數
對德	對德 都德	黃帶	縣定員數
文督		黃帶	縣定員數
武督		白帶	縣定員數
佐草		白帶	縣定員數
振武		白帶	縣定員數
克虞		白帶	縣定員數

十六官品,定員,冠帶者,見記於周書.或與日本書紀所提官名有所不同.

七.天皇,催促任那復建

冬十一月,丁亥朔甲午,遣津守連,詔百濟曰:「在任那之下韓百濟郡令、城主,宜附日本府.」並持詔書,宣曰:「爾屢抗表,稱當建任那,十餘年矣.表奏如此,尚未成之.且夫任那者為爾國之棟樑,如折棟樑,誰成屋宇?朕念在茲,爾須早早建!汝若早建任那,河內直等,河內直已見上文.自當止退.其足云乎?」

是日,聖明王聞宣敕已,歷問三佐平內頭及諸臣曰:「詔敕如是,當復何如?」

三佐平等答曰:「在下韓之我郡令、城主,不可出之.建國之事,宜早聽聖敕!」

十二月,百濟聖明王復以前詔,普示群臣曰:「天皇詔敕如是,當復何如?」

上佐平沙宅己婁、中佐平木州麻那、下佐平木尹貴、德率鼻利莫古、德率東城道天、德率木州昧淳、德率國雖多、奈率燕比善那等,同議曰:「臣等稟性愚闇,都無智略.詔建任那,早

我が國は上古海の外に輝き渡つて居つた故に、垂仁帝の御代に難林の西南に在る一國が探兵を遣ふために使を越した。其使者は客觀船で難林に到り、角が割つて越國を越渡したから、其地を角雄と名付けられた。即ち現今の秋吉である。時に天皇の詔に著し、此使者の來ること早ければ先帝に御遇ひ申すことが出来たであらうにと仰せられ、即ち素戔尊の御神代城の御名を賜ひて、彌麻那國と呼ばれた。これが任那國の起源である。一説に遷つて居る。ツマリ任那は朝鮮の南方で加羅、安羅以下十國の總稱であつたのである。此任那へ我將監垂津彦が始めて下りて彼國を鎮し、一朝鮮皇后の三韓征伐となつて三韓を略した。後三韓は常に小弱なる任那の地を併せやうと謀つた故に、雄略帝の御代に三將を遣はして任那に留まつた。三韓の非違を檢校せられた。此時より任那日本府といふものは威權あるものとして存するに至つたもので、かく既に日本府を置く以上は、之と海陸軍の氣脈を通する必要より、愈々國防を嚴にされた。即ち當時の日本海面、朝鮮海峡の海上權といふものは全く我手に握られて居つたものに相違ない。されば、この欽明帝の御代に津守連を遣ひ、百濟に詔して、任那の下韓に在る百濟の郡主城主は宜しく日本府に附けと仰せられた。これは三韓の内百濟は特に我國に好意を寄せ常に任那の加勢をして居つた故に、此仰があつたもので、此時より漸次國力を養ふた所の新羅は、後に百濟を犯し日本府を覆へすやうになつたものである。

三、任那日本府

海國史談 足立栗園 述。

須奉敕。今宜召任那執事、國國早岐等、俱謀同計、抗表述志!又河内直、移那斯、麻都等、猶往安羅、任那恐難建之。故亦并表、乞移本處也。」聖明王曰:「群臣所議、甚稱寡人之心!」

是月、乃遣施德高分、召任那執事與日本府執事、俱答言:「過正旦而往聽焉。」

五年春正月、百濟國遣使、召任那執事與日本府執事、俱答言:「祭神時到、祭了而往。」

是月、百濟復遣使、召任那執事與日本府執事、日本府、任那、俱不遣執事、而遣微者。

由是、百濟不得俱謀建任那國。

二月、百濟遣施德馬武、施德高分屋、施德斯那奴次酒等、使于任那、謂日本府與任那早岐等曰:「我遣紀臣奈率彌麻沙、奈率己連、物部連奈率用歌多、朝謁天皇。彌麻沙等還自日本、以詔書宣曰:『汝等宜共在彼日本府、早建良圖、副朕所望!爾其戒之、勿被他誑!』又津守連從日本來、百濟本記云、津守連已麻奴跪、而語訛不正、未詳、宜詔敕、而問任那之政、故將欲共日本府、任那執事、議定任那之政、奉奏天皇、遣召三迴、尚不來到、由是不得共論圖計任那之政、奉奏天皇矣。今欲請留津守連、別以疾使、具申請狀、遣奏天皇、當以三月十日、發遣使於日本、此使便到、天皇必須問汝、汝日本府卿、任那早岐等、各宜發使、共我使人、往聽天皇所宣之詔!」

別謂河内直:「百濟本記云、河内直、移那斯、麻都、而語訛未詳其正也。自昔迄今、唯聞汝惡、汝先祖等、百濟本記云、汝先那干陀甲背、加臘直岐甲背、亦云那歌陀甲背、鷹歌岐彌、語訛未詳、俱懷奸偽誘說、為歌可君、百濟本記云、為歌岐彌、名有非岐、專信其言、不憂國難、乖背吾心、縱肆暴虐、由是見逐。職汝之由、汝等來往任那、恒行不善、任那日損、職汝之由!汝是雖微、譬猶小人、燒焚山野、連延村邑、由汝行惡、當敗任那、遂使海西諸國官家、不得長奉天皇之闕!今遣奏天皇、乞移汝等還其本處、汝亦往聞!」

又謂日本府卿、任那早岐等曰:「夫建任那之國、不假天皇之威、誰能建也?故我思欲就天皇、請將士而助任那之國、將士之糧、我當須運、將士之數、未限若干、運糧之處、亦難自決、願居一處、俱論可、不擇從其善、將奏天皇、故頻遣召、汝猶不來、不得議也!」

日本府答曰:「任那執事、不赴召者、是由吾不遣、不得往之。吾遣奏天皇、還使宣曰:『朕當以印歌臣、語訛未詳、遣於新羅、以津守連遣於百濟、汝待聞敕際、莫自勞往新羅、百濟也。』宣敕如是、會聞印歌臣使於新羅、乃追遣問天皇所宣、詔曰:『日本臣與任那執事、應就新羅、聽天皇敕!』而不宣就百濟聽命也、後津守連遂來過此、謂之曰:『今余被遣於百濟者、將出在下韓之百濟部令、城主。』唯聞此說、不聞任那與日本府會於百濟聽天皇敕、故不往焉、非任那意。」

於是、任那早岐等曰:「由使來召、便欲往參、日本府卿不肯發遣、故不往焉。大王為建任那、觸情曉示、賭茲忻喜、難可具申!」

『日本書紀』屢次提及日本府之存在、然韓國側史料則付之闕如、不少學界認為、任那日本府為日本虛構之行政組織、甚者主張任那國亦不存在。然日本『日本書紀』、韓國「廣開土王碑」中、皆有任那之記載。

八、百濟要求排除親新羅派官人

三月、百濟遣奈率阿毛得文、許勢奈率歌麻、物部奈率歌非等、上表曰:「奈率彌麻沙、奈率己連等、至臣蕃、奉詔書曰:『爾等宜共在彼日本府、同謀善計、早建任那。爾其戒之、勿被他誑!』又津守連等至臣蕃、奉敕書、問建任那、恭誠來敕、不敢停時、為欲共謀、乃遣使召日本府與任那。百濟本記云、遣召烏胡跛臣、蓋是的臣也、俱對言:『新年既至、願過而往。』久而不就、復遣使召、俱對言:『祭時既至、願過而往。』久而不就、復遣使召、而由遣微者、不得同計、夫任那之不赴召者、非其意焉、是阿賢移那斯、佐魯麻都、二人名也、已見上文、奸佞之所作也。夫任那者以安羅為兄、唯從其意、安羅人者以日本府為天、唯從其意、百濟本記云、以安羅為父、以日本府為本也。今的臣、吉備臣、河内直等、咸從移那斯、麻都指搢而已。移那斯、麻都、雖是家微者、專擅日本府之政、又制任那、障而勿遣、由是不得同計奏答天皇、故留己麻奴跪、蓋是津守連也。別遣使迅如飛鳥、奉奏天皇、假使二人、二人者、移那斯與麻都也。在於安羅、多行奸佞、任那難建、西海諸國、必不獲事、伏請移此二人、還其本處、敕喻日本府與任那、而圖建任那、故臣遣奈率彌麻沙、奈率己連等、副己麻奴跪、上表以聞、於是詔曰:『的臣等、等者謂吉備弟君臣、河内直等也。往來新羅、非朕心也。曩者印支彌、未



任那
是為朝鮮古國-金海加羅國之別名。今約略在韓國慶尚南道金海郡一帶。另有金官加羅、狗邪韓國、狗邪國、大伽耶等別稱。該國於百濟首露王、西元42年時建立、歷時九代490年而滅亡於西元532年、是為一大海上要衝。

詳與阿鹵旱岐在時，為新羅所逼，而不得耕種。百濟路迴不能救急。由的臣等往來新羅，方得耕種。朕所曾聞，若已建任那，移那斯、麻都，自然退卻，豈足云乎？」伏承此詔，喜懼兼懷。而新羅誑朝，知匪天敕。新羅春取泉淳，仍擯出我久禮山戎，而遂有之。近安羅處，安羅耕種。近久禮山處，新羅耕種。各自耕之，不相侵奪。而移那斯、麻都，過耕他界，六月逃去。於印支彌後來許勢臣時，百濟本記云，我留印支彌之後至既酒臣時，皆未詳。新羅無復侵逼他境。安羅不言為新羅逼不得耕種。臣嘗聞，新羅每春秋，多聚兵甲，欲襲安羅與荷山。或聞，當襲加羅。頃得書信，便遣將士，擁守任那，無懈怠也。頻發銳兵，應時往救。是以任那隨序耕種，新羅不敢侵逼。而奏百濟路迴，不能救急，由的臣等往來新羅，方得耕種，是上欺天朝，轉成奸佞也！曉然若是，尚欺天朝，自餘虛妄，必多有之。的臣等猶往安羅，任那之國恐難建立。宜早退卻。臣深懼之，佐魯麻都雖是韓腹，位居大連，廁日本執事之間，入榮班貴盛之列。而今反著新羅奈麻禮冠，即身心歸附，於他易照。熟觀所作，都無怖畏。故前奏惡行，具錄聞訖。今猶著他服，日赴新羅域，公私往還，都無所憚。夫泉國之滅，匪由他也。泉國之函跋旱岐貳心加羅國，而內應新羅，加羅自外合戰，由是滅焉。若使函跋旱岐不為內應，泉國雖少，未必亡也。至於卓淳，亦復然之。假使卓淳國主不為內應，新羅招寇，豈至滅乎？歷觀諸國敗亡之禍，皆由內應貳心人者。今麻都等腹心新羅，遂著其服往還旦夕，陰構奸心。乃恐任那由茲永滅。任那若滅，臣國孤危。思欲朝之，豈復得耶？伏願天皇玄鑑遠察，速移本處，以安任那！」

冬十月，百濟使人奈率得文、奈率歌麻等罷歸。

百濟本記云，冬十月，奈率得文、奈率歌麻等，還自日本曰：「所奏河內直、移那斯、麻都等事，無報敕也。」



泉淳 今在韓國慶尚北道大邱。



昌寧燒紫芒祭 昌寧大文字
荷山者，今在韓國慶尚南道昌寧一帶



大江水

聖明王云：「新羅、安羅兩國之境，有大江水，要害之地也。」大江水者，今韓國慶尚北道大邱之洛東江也。



久禮山

韓國慶尚北道達城郡瑜珈面琵琶山。



御名部

地名辭書云：「佐渡北端加茂郡鷺崎、願。」是以當為今之新潟縣(佐渡地方)兩津市鷺崎、願一帶。

九.任那復建計劃

十一月，百濟遣使，召日本府臣、任那執事曰：「遣朝天皇奈率得文、許勢奈率哥麻、物部奈率哥非等，還自日本。今日本府臣及任那國執事，宜來聽敕，同議任那！」

日本吉備臣安羅下旱岐大不孫、久取柔利，加羅上首位古殿奚、卒麻君、斯二岐君、散半奚君兒，多羅二首位訖乾智，子他旱岐，久嵯旱岐，仍赴百濟。

於是，百濟聖明王明略以詔書示曰：「吾遣奈率彌麻佐、奈率己連、奈率用哥多等，朝於日本。詔曰：『早建任那！』又津守連奉敕，問成任那。故遣召之，當復何如，能建任那？請各陳謀！」吉備臣、任那旱岐等曰：「夫建任那國，唯在大王！欲冀遵王，俱奏聽敕！」

聖明王謂之曰：「任那之國與吾百濟，自古以來，約為子弟。今日本府印岐彌，謂在任那日本臣名也。既討新羅，更將代我。又樂聽新羅虛誕謾語也。夫遣印岐彌於任那者，本非侵害其國。未詳。往古來今，新羅無道，食言違信，而滅卓淳。股肱之國，欲快返悔。故遣召到，俱承恩詔，欲冀興繼任那之國，猶如舊日，永為兄妹。竊聞，新羅、安羅兩國之境，有大江水，要害之地也。吾欲據此，修繕六城，謹請天皇三千兵士，每城充以五百，并我兵士，勿使作田而逼惱者，久禮山之五城，庶自投兵降首。卓淳之國亦復當興。所請兵士，吾給衣糧。欲奏天皇，其策一也！猶於南韓置郡令、城主者，豈欲違背天皇，遮斷貢調之路？唯庶剋濟多難，殲撲強敵。凡厥凶黨，誰不謀附？北敵強大，我國微弱。若不置南韓郡領、城主，修理防護，不可以禦此強敵，亦不可以制新羅。故猶置之攻逼新羅，撫存任那。若不爾者，恐見滅亡，不得朝聘。欲奏天皇，其策二也！又吉備臣、河內直、移那斯、麻都，猶在任那者，天皇雖召建成任那，不可得也。請移此四人，各遣還其本邑。奏於天皇，其策三也！宜與日本臣、任那旱岐等俱奉遣使，同奏天皇，乞聽恩詔。」

於是，吉備臣、旱岐等曰：「大王所述三策，亦協愚情而已。今願歸以敬諮日本大臣、謂在任那日本府之大臣也。安羅王、加羅王，俱遣使同奏天皇。此誠千載一會之期，可不深思而熟計歟。」

十二月，越國言：「於佐渡島北御名部之碕岸，有肅慎人，乘一船舶而淹留。春夏捕魚充食。彼島之人言非人也。亦言鬼魅，不敢近之。島東禹武邑人採拾椎子為欲熟喫，著灰裏炮。其皮甲化成二人，飛騰火上一尺餘許，經時相鬥。邑人深以為異，取置於庭。亦如前飛，相鬥不已。有人占云：『是邑人必為魅鬼所迷惑！』不久如言，被其抄掠。於是肅慎人移就瀨波河浦。浦神嚴忌，人不敢近。渴飲其水，死者且半。骨積於巖岫，俗呼-肅慎隈也。」

六年春三月，遣膳臣-巴提便，使于百濟。

夏五月，百濟遣奈率其憐、奈率用歌多施德次酒等上表。

秋九月，百濟遣中部護德菩提等，使於任那。贈吳財於日本府臣及諸旱岐，各有差。

是月，百濟造丈六佛像。

製願文曰：「蓋聞，造丈六佛，功德盛大。今敬造。以此功德，願天皇獲勝善之德，天皇所用彌移居國，俱蒙福祐！又願普天之下一切眾生，皆蒙解脫！故造之矣。」

冬十一月，膳臣-巴提便還自百濟言：「臣被遣使，妻子相逐去。行至百濟濱，濱，海濱也。日晚停宿。小兒忽亡，不知所之。其夜大雪，天曉始求，有虎連跡。臣乃帶刀擐甲，尋至巖岫。拔刀曰：『敬受絲綸，劬勞陸海，櫛風沐雨，藉草班荊者，為愛其子，令紹父業也！惟汝威神，愛子一也。今夜兒亡，追蹤覓至。不畏亡命，欲報故來！』既而其虎進前，開口欲噬。巴提便忽申左手，執其虎舌，右手刺殺，



禹武邑

地名辭書云,在加茂郡加茂村梅津.

剥取皮還。」

是年,高麗大亂,被誅者眾.百濟本記云,十二月甲午,高麗國細群與粗群,戰于宮門,伐鼓戰鬥.細群敗不解兵三日,盡捕誅細群子孫.戊戌,貊國香岡上王薨也.

七年春正月,甲辰朔丙午,百濟使人中部奈率己連等罷歸.仍賜以良馬七十匹、船一十隻.

夏六月,壬申朔癸未,百濟遣中部奈率掠葉禮等,獻調.

秋七月,倭國今來郡言:「於五年春,川原民直-宮,宮名.登樓聘望,乃見良駒.紀伊國漁者負贅草馬之子也.脫影高鳴,輕超母脊.就而買取,襲養兼年.及壯宏驚龍鳶,別輩越群.服御隨心,馳驟合度.超渡大內丘之壑十八丈焉.川原民直-宮,檜隈邑人也.」

是歲,高麗大亂.凡鬥死者二千餘.

百濟本記云,高麗以正月丙午,立中夫人子為王,年八歲.貊王有三夫人,正夫人無子.中夫人生世子,其舅氏粗群也.小夫人生子,其舅氏細群也.及貊王疾篤,細群、粗群,各欲立其夫人之子.故細群死者,二千餘人也.

[\[久遠・絆\]](#) [\[卷十八\]](#) [\[其之二\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷十九 欽明紀

天國排開廣庭天皇 欽明天皇

十.百濟,向日本要求救援

八年夏四月,百濟遣前部德率真慕宣文、奈率歌麻等,乞救軍。

仍貢下部東城子言,代德率汶休麻那。

九年春正月,癸巳朔乙未,百濟使人前部德率真慕宣文等請罷。

因詔曰:「所乞救軍,必當遣救.宜速報王!」

夏四月,壬戌朔甲子,百濟遣中部杆率掠葉禮等奏曰:「德率宣文等奉敕至臣蕃曰:『所乞救兵,應時遣送.』祇承恩詔,嘉慶無限.然馬津城之役,正月辛丑,高麗率眾,圍馬津城.虜謂之曰:『由安羅與日本府,招來勸罰.』以事准況,寔當相似.然三迴欲審其言,遣召而並不來.故深勞念.伏願可畏天皇,西蕃皆稱日本天皇為可畏天皇.先為勸當,暫停所乞救兵,待臣遣報.」

詔曰:「式聞呈奏,爰觀所憂,日本府與安羅,不救鄰難,亦朕所疾也.又復密使于高麗者,不可信也.朕命即自遣之,不命何容可得?願王開襟緩帶,恬然自安,勿深疑懼.宜共任那,依前敕,戮力俱防北敵,各守所封.朕當遣送若干人,充實安羅逃亡空地.」

六月,辛酉朔壬戌,遣使詔于百濟曰:「德率宣文取歸以後,當復何如?消息何如?朕聞,汝國為貊賊所害.宜共任那,策勵同謀,如前防距.」

閏七月,庚申朔辛未,百濟使人掠葉禮等罷歸。

冬十月,遣三百七十人於百濟,助築城於得爾辛。

十年夏六月,乙酉朔辛卯,將德久貴、固德馬次文等請罷歸。

因詔曰:「延那斯、麻都,陰私遣使高麗者,朕當遣問虛實.所乞軍者,依願停之.」

十一年春二月,辛巳朔庚寅,遣使詔于百濟,百濟本記云,三月十二日辛酉,日本使人阿比多率三舟,來至都下.曰:「朕依施德久貴、固德馬進文等所上表意,一一教示,如視掌中.思欲具情,冀將盡抱.大市頭歸後,如常無異.今但欲審報辭,固遣使之.又復聞,奈率馬武是王之股肱臣也.納上傳下,甚協王心,而為王佐.若欲國家無事,常作官家,永奉天皇,宜以馬武為大使.遣朝而已.」

重詔曰:「朕聞,北敵強暴.故賜矢三十具,庶防一處.」

夏四月,庚辰朔,在百濟日本王人,方欲還之.百濟本記云,四月一日庚辰朔,日本阿比多還也。

百濟王聖明謂王人曰:「任那之事,奉敕堅守.延那斯、麻都之事,問與不問,唯從敕之.」因獻高麗奴六口,別贈王人奴一口.皆攻爾林,所禽奴也。

乙未,百濟遣中部奈率皮久斤、下部施德灼干那等,獻貊虜十口。

十二年春三月,以麥種一千斛,賜百濟王。

是歲,百濟聖明王親率眾及二國兵,二國謂新羅、任那也.往伐高麗,獲漢城之地。

又進軍討平壤,凡六郡之地復故地。

十三年夏四月,箭田珠勝大兄皇子薨。

五月,戊辰朔乙亥,百濟、加羅、安羅,遣中部的德率木州今敦、河內部阿斯比多等奏曰:

「高麗與新羅,通和并勢,謀滅臣國與任那.故謹求請救兵,先攻不意.軍之多少,隨天皇敕.」

詔曰:「今百濟王、安羅王、加羅王,與日本府臣等,具遣使奏狀聞訖.亦宜共任那,并心一力.猶尚若茲,並蒙上天擁護之福,亦賴可畏天皇之靈也!」



馬津城

唐『李勣奏狀』云:「馬津城者,本孤山.」即孤山縣一帶是也.又孤,獨同音,是推測馬津城即孤山城,定為今忠清南道禮山一帶是也。



百濟公州公山城

百濟王都滅亡後,於西元475遷都南方之雄津,即今公山城.欽明天皇詔之「各守所封」,或指此地.亦有說為所割賜與百濟之任那四縣之地。



漢城

蓋鹵王二十一年,漢城為高句麗長壽王所攻陷.百濟移都雄津之後,直至聖明王朝,終能奪回漢城,平壤。



善光寺源起繪之二
百濟所獻一光三尊釋迦佛金銅像



善光寺御源起 朝臣眾議
物部大連尾輿與中臣連鎌子恐遭國
神降禍,諫天皇勿祀蕃佛.天皇交由蘇
我大臣稻目宿禰令祭於向原寺.



善光寺御源起 毀佛滅寺
祀其佛後,國內疫病四起,是以棄佛.



善光寺御源起 投佛堀江
毀佛焚像而像無傷,是以有司流棄佛
像於難波堀江,縱火燒燼伽藍(寺廟).



世尊寺
雖為聖德太子所創48寺中之比叡寺
跡,亦為吉野寺之後身.

十一.佛教公傳

冬十月,百濟聖明王,更名-聖王.遣西部姬氏達率怒喇斯致契等,獻釋迦佛金銅像一軀、幡蓋若干、經論若干卷.別表,讚流通、禮拜功德云:「是法於諸法中,最為殊勝.難解難入.周公、孔子,尚不能知.此法能生無量無邊福德果報,乃至成辦無上菩提.譬如人懷隨意寶,逐所須用,盡依情,此妙法寶亦復然.祈願依情,無所乏.且夫遠王臣明謹遣陪臣-怒喇斯致契,奉傳帝國,流通畿內.果佛所記『我法東流』.」

是日,天皇聞已,歡喜踊躍,詔使者云:「朕從昔來,未曾得聞如是微妙之法.然朕不自決!」乃歷問群臣曰:「西蕃獻佛相貌端嚴全未曾看,可禮以不?」

蘇我大臣-稻目宿禰奏曰:「西蕃諸國一皆禮之,豐秋日本豈獨背也?」物部大連尾輿、中臣連鎌子,同奏曰:「我國家之王天下者,恆以天地社稷百八十神,春夏秋冬,祭拜為事.方今改拜蕃神,恐致國神之怒.」天皇曰:「宜付情願人稻目宿禰,試令禮拜.」大臣跪受而忻悅,安置小墾田家.勸修出世業,為因淨捨向原家為寺.

於後,國行疫氣,民致天殘.久而愈多,不能治療.物部大連尾輿、中臣連鎌子,同奏曰:「昔日不須臣計,致斯病死!今不遠而復,必當有慶.宜早投棄,勸求後福!」天皇曰:「依奏.」有司乃以佛像,流棄難波堀江,復縱火於伽藍,燒燼更無餘.於是,天無風雨,乎災大殷.

是歲,百濟棄漢城與平壤.新羅因此入居漢城,今新羅之牛頭方、尼彌方也.地名,未詳.十四年春正月,甲子朔乙亥,百濟遣上部德率科野次酒、杆率禮塞敦等,乞軍兵.

戊寅,百濟使人中部杆率木州今敦、河內部阿斯比多等罷歸.

夏五月,戊辰朔,河內國言:「泉郡茅渟海中,有梵音.震響若雷聲,光彩晃曜如日色.」

天皇心異之,遣溝邊直,此但曰直,不書名字.蓋是傳寫誤失矣.入海求訪.是時,溝邊直入海,果見樟木浮海玲瓏,遂取而獻天皇.命畫工,造佛像二軀.今吉野寺放光樟像也.

六月,遣內臣,關名,使於百濟.敕云:「所請軍者隨王所須!」

別敕:「醫博士、易博士、曆博士等,宜依番上下.今上件色人正當相代年月,宜付還使相代.又,卜書、曆本、種種藥物,可付送.」

秋七月,辛酉朔甲子,幸樟勾宮.蘇我大臣稻目宿禰奉敕遣王辰爾,數錄船賦.

即以王辰爾為船長,因賜姓為-船史,今船連之先也.

八月,辛卯朔丁酉,百濟遣上部奈率科野新羅、下部固德汶休帶山等,上表曰:「去年臣等同議,遣內臣德率次酒、任那大夫等,奏海表諸彌移居之事.伏待恩詔,如春草之仰甘雨也.今年忽聞,新羅與貊國通謀云:『百濟與任那,頻詣日本.意謂是起軍兵,伐我國於歟.事若實者,國之敗亡,可企踵而待.庶先日本兵未發之間,伐取安羅,絕日本路!』其謀若是,臣等聞茲,深懷危懼.即遣疾使輕舟,馳表以聞.伏願天慈速遣前軍後軍,相續來救.逮于秋節,以固海表彌移居也.若遲晚者,噬臍無及矣!所遣軍眾,來到臣國,衣糧之費,臣當充給.來到任那,亦復如是.若不堪給,臣必助充,令無乏少.別的臣敬受天敕,來撫臣蕃,夙夜乾乾,勤修庶務.由是,海表諸蕃,皆稱其善.謂當萬歲肅清海表.不幸云亡,深用追痛.今任那之事,誰可修治?伏願天慈速遣其代,以鎮任那.又復海表諸國甚乏弓馬,自古迄今,受之天皇以禦強敵.伏願填詞,多貺弓馬!」

冬十月,庚寅朔己酉,百濟王子余昌,明王子,威德王也.悉發國中兵,向高麗國,築百合野塞.眠食軍士.是夕觀覽,鉅野墳塹,平原瀾迤,人跡罕見,犬聲蔑聞.俄而儻忽之際,聞鼓吹之聲.余昌乃大驚,打鼓相應,通夜固守.凌晨起見,曠野之中,覆如青山,旌旗充滿.

會明,有著頸鎧者一騎,插鐃者二騎,鐃字未詳.珥豹尾者二騎,并五騎,連轡到來問曰:「少兒等言:『於吾野中,客人有在.』何得不迎禮也.今欲早知與吾可以禮問答者姓名年位.」余昌對曰:「姓是同姓,位是杆率,年二十九矣.」百濟反問,亦如前法而對答焉.遂乃立標而合戰.

於是,百濟以鉞,刺墮高麗勇士於馬,斬首.仍刺拳頭於鉞末,還入示眾.高麗軍將,憤怒益甚.是時百濟歡叫之聲,可裂天地.復其偏將,打鼓疾鬥,追卻高麗王於東聖山之上.

十五年春正月,戊子朔甲午,立皇子-淳中倉太珠敷尊為皇太子.

丙申,百濟遣中部木州施德文次、前部施德曰佐分屋等於筑紫,諮內臣、佐伯連等曰:「德率次酒、杆率塞敦等,以去年閏月四日到來云:『臣等,臣等者謂內臣也.以來年正月到.』如此道而未審.來不也,又軍數幾何?願聞若干,預治營壁.」別諮:「方聞:『奉可畏天皇之詔,來詣筑紫,看送賜軍.』聞之歡喜無能比者.此年之役,甚危於前.願遣賜軍,使逮正月.」於是,內臣奉敕答報曰:「即令遣助軍數一千、馬一百匹、船四十隻.」

二月,百濟遣下部杆率將軍三貴、上部奈率物部烏等,乞救兵.

仍貢,德率東城子莫古,代前番奈率東城子言;五經博士王柳貴,代固德馬丁安;僧曇慧等九人,代僧道深等七人.別奉敕,貢易博士施德王道良、曆博士固德王保孫、醫博士奈率王有憐陀、採藥師施德潘量豐、固德丁有陀、樂人施德三斤、季德己麻次、季德進奴、對德進陀.皆依請代之.



東聖山 城壁跡
東聖山,今平壤東北之大聖山(大城山),山上有大城山城跡址在。

十二.聖明王之死,威德王繼位嗣立

余昌謀伐新羅.耆老諫曰:「天未與,懼禍及!」余昌曰:「老矣,何怯也?我事大國,有何懼也?」遂入新羅國,築久陀牟羅塞。

其父明王憂慮,余昌長苦行陳,久廢眠食,父慈多闕,子孝希成,乃自往慰勞。

新羅聞明王親來,悉發國中兵,斷道擊破.是時新羅謂佐知村飼馬奴苦都,更名-谷智.曰:「苦都賤奴也,明王名主也.今使賤奴殺名主,冀傳後世,莫忘於口。」

已而,苦都乃獲明王,再拜曰:「請斬王首。」明王對曰:「王頭不合受奴手。」苦都曰:「我國法違背所盟,雖曰國王,當受奴手。」一本云,明王乘距胡床,解授佩刀於谷知令斬.明王仰天大息涕泣,許諾曰:「寡人每念,常痛入骨髓.顧計不可苟活。」乃延首受斬.苦都斬首而殺,掘坎而埋。

一本云,新羅葬埋明王頭骨,而已送於骨於百濟於百濟.今新羅王埋明王骨於北廳階下,名此廳曰-都堂。

余昌遂見圍繞,欲出不得.士卒追駭,不知所圖.有能射人,筑紫國造,進而彎弓,占擬射落新羅騎卒最勇壯者.發箭之力,通所乘鞍前後橋,及其被甲領會也.復續發箭如雨,彌厲不懈,射卻圍軍.由是余昌及諸將等,得從間道逃歸.余昌讚國造射卻圍軍,尊而名曰-鞍橋君.鞍橋,此云……

於是,新羅將等具知百濟疲盡,遂欲謀滅無餘.有一將云:「不可!日本天皇以任那事,屢責吾國.況復謀滅百濟官家,必遭後患!」故止之。

十六年春二月,百濟王子余昌遣王子惠,王子惠者,威德王之弟也.奏曰:「聖明王為賊見殺!十五年,為新羅所殺.故今奏之。」天皇聞而傷恨,迺遣使者,迎津慰問。

於是,許勢臣問王子惠曰:「為當欲留此間?為當欲向本鄉?」惠答曰:「依憑天皇之德,冀報考王之讎.若垂哀憐,多賜兵革,雪垢復讎,臣之願也.臣之去留,敢不唯命是從?」

俄而蘇我臣訊問:「聖王妙達天道地理,名流四表八方.意謂,永保安寧,統領海西蕃國,千年萬歲,奉事天皇.豈圖,一旦眇然昇遐,與水無歸,即安玄室.何痛之酷,何悲之哀.凡在含情,誰不傷悼.當復何咎,致茲禍也?今復何述,用鎮國家?」

惠答報之曰:「臣稟性愚蒙,不知大計.何況禍福所倚,國家存亡者乎。」蘇我卿曰:「昔在天皇大泊瀨之世,汝國為高麗所逼,危甚累卵.於是天皇命神祇伯,敬受策於神祇.祝者迺託神語報曰:『屈請建邦之神,往救將亡之主,必當國家謐靖,人物乂安.』由是請神往救,所以社稷安寧.原夫建邦神者,天地割判之代,草木言語之時,自天降來,造立國家之神也.頃聞,汝國輟而不祀.方今俊悔前過,修理神宮,奉祭神靈,國可昌盛.汝當莫忘!」

秋七月,己卯朔壬午,遣蘇我大臣稻目宿禰、穗積磐弓臣等,使于吉備五郡,置白豬屯倉。

八月,百濟余昌謂諸臣等曰:「少子今願,奉為考王出家修道。」諸臣、百姓報言:「今君王欲得出家修道者,且奉教也.嗟夫前慮不定,後有大患,誰之過歟?夫百濟國者,高麗、新羅之所爭欲滅.自始開國,迄于是歲,今此國宗,將授何國?要須道理分明應教,縱使能用耆老之言,豈至於此?請俊前過,無勞出俗.如欲果願,須度國民。」余昌對曰:「諾!」即就圖於臣下.臣下遂用相議,為度百人,多造幡蓋,種種功德.云云。

十七年春正月,百濟王子惠請罷。

仍賜兵仗、良馬甚多.亦頻賞祿,眾所欽歎.於是遣阿倍臣、佐伯連、播磨直,率筑紫國舟師,衛送達國.別遣筑紫火君,百濟本記云,筑紫君兒火中君弟.率勇士一千,衛送彌助.彌助,津名.因令守津路要害之地焉。

秋七月,甲戌朔己卯,遣蘇我大臣稻目宿禰等於備前兒島郡置屯倉.以葛城山田直瑞子為田令.田令,此云……

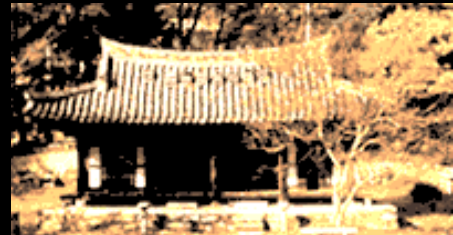
冬十月,遣蘇我大臣稻目宿禰等於倭國高市郡,置韓人大身狹屯倉、言韓人者,百濟也.高麗人小身狹屯倉.紀國置海部屯倉.一本云,以處處韓人,為大身狹屯倉田部.高麗人為小身狹屯倉田部.是即以韓人、高麗人為田部.故因為屯倉之號也。

十八年春三月,庚子朔,百濟王子余昌嗣立.是為,威德王。

三月,丁亥朔,百濟使人中部木州施德文次等罷歸。

夏五月,丙戌朔戊子,內臣率舟師,詣于百濟。

冬十二月,百濟遣下部杆率汶斯干奴,上表曰:「百濟王臣明及在安羅諸倭臣等,任那諸國旱岐等奏,以斯羅無道,不畏天皇.與貊同心欲殘滅海北彌移居.臣等共議,遣有至臣等,仰乞軍士,征伐斯羅.而天皇遣有至臣,帥軍以六月至來.臣等深用歡喜.以十二月九日,遣攻斯羅.臣先遣東方領物部莫哥武連,領其方軍士,攻函山城.有至臣所將來民筑紫物部莫奇委沙奇,能射火箭.蒙天皇威靈,以月九日酉時,焚城拔之.故遣單使馳船奏聞。」別奏:「若但斯羅者,有至臣所將軍士亦可足矣.今貊與斯羅,同心戮力,難可成功.伏願速遣竹斯島上諸軍士,來助臣國.又助任那,則事可成。」又奏:「臣別遣軍士万人,助任那.并以奏聞.今事方急,單船遣奏.但奉好錦二匹、髡氈一領、斧三百口,及所獲城民,男二女五.輕薄追用悚懼。」



久陀牟羅

久陀牟羅是為古集落「居陀」,傳為現韓國慶尚南道居昌一帶.另有在函山城之說.牟羅(mura)者,音同村也。



佐知村

三國史記言聖明王見弑于三年山郡高干都刀,則佐知村者或指三年山郡之一村,即韓國忠清北道報恩一帶。



高仙之里

位於久世町,雖非白豬屯倉跡地,卻為仿白豬屯倉所建之農家宿泊施設.而白豬屯倉所在地者,有大庭郡說,吉備屯倉總稱說,及兒島屯倉等說。



彌助

今慶尚南道南海島東南端之彌助.是

為經蟾津江至日本之要衝。

新羅官位表		
官等	三國史記	日本書紀
一等	伊伐殄	伐罕 助富利智罕
二等	伊尺殄	騎殄
三等	迎殄	蘇判
四等	波珍殄	波珍殄 波珍干破
五等	大阿殄	大阿殄 韓阿殄
六等	阿殄	阿殄 重阿殄
七等	一吉殄	一吉殄
八等	沙殄	沙殄 薩殄
九等	級伐殄	級伐殄 級殄 及伐干 及殄
十等	大奈麻	大奈末 大那末 韓奈麻 韓奈末
十一等	奈麻	奈麻禮 奈末 奈麻 大舍
十二等	大舍	
十三等	小舍	
十四等	吉士	
十五等	大鳥	
十六等	小鳥	
十七等	造位	

十三.新羅,殲滅任那

二十一年秋九月,新羅遣彌至己知奈末,獻調賦。
 饗賜邁常.奈末喜歡而罷曰:「調賦使者,國家之所貴重,而私議之所輕賤.行李者百姓之所懸命,而選用之所卑下.王政之弊未必不由此也.請差良家子為使者,不可以卑賤為使.」
 二十二年,新羅遣久禮叱及伐干,貢調賦.司寶饗遇禮數減常.及伐干忿恨而罷。
 是歲,復遣奴氏大舍,獻前調賦。
 於難波大郡,次序諸幡,掌克額田部連、葛城直等,使列于百濟之下而引導.大舍怒還.不入館舍,乘船歸至穴門.於是休治穴門館.大舍問曰:「為誰客造?」工匠河內馬飼首押勝欺給曰:「遣問西方無禮使者之所停宿也.」大舍還國,告其所言.故新羅築城於阿羅波斯山,以備日本。
 二十三年春正月,新羅打滅任那官家.一本云,二十一年,任那滅焉.總言任那,別言加羅國、安羅國、斯二岐國、多羅國、卒麻國、古嵯國、子他國、散半下國、乞殄國、稔禮國,合十國。
 夏六月,詔曰:「新羅西羌小醜,逆天無狀.違我恩義,破我官家,毒害我黎民,諸殘我郡縣.我氣長足姬尊靈聖聰明,周行天下,劬勞群庶,饗育万民.哀新羅所窮見歸,全新羅王將戮之首,授新羅要害之地,崇新羅非次之榮.我氣長足姬尊,於新羅何薄?我百姓於新羅何怨?而新羅長戟、強弩,凌蹙任那,鉅牙、鉤爪,殘虐含靈.剝肝斷指,不厭其快,曝骨焚屍,不謂其酷.任那族姓、百姓以還,窮刀極俎,既屠且膾.豈有率土之賓,謂為王臣,乍食人之禾,飲人之水,孰忍聞此,而不悼心!況乎太子、大臣,處跌萼之親,泣血銜冤.寄當蕃屏之任,摩頂至踵之恩.世受前朝之德,身當後代之位.而不能瀝膽抽腸,共誅奸佞,雪天地之痛酷,報君父之仇讎,則死有恨.臣子之道不成.」
 是月,或有譖馬飼首-歌依曰:「歌依之妻逢臣讚岐鞍轡有異.熟而熟視,皇后御鞍也.」即收廷尉,鞠問極切.馬飼首歌依乃揚言誓曰:「虛也,非實.若是實者,必被天災!」遂因苦問,伏地而死。
 死未經時,即災於殿.廷尉收縛其子守石與名瀨冰,守石、名瀨冰,皆名也.將投火中,投火為刑,蓋古之制也.咒曰:「非吾手投,以祝手投!」咒訖欲投火.守石之母祈請曰:「投兒火裏,大災果臻!請付祝人使作神奴!」乃依母請,許沒神奴。
 秋七月,己巳朔,新羅遣使獻調賦.其使人知新羅滅任那,恥背國恩,不敢請罷.遂留不歸本土,例同國家百姓.今河內國更荒郡鷗鷺野邑新羅人之先也。



更荒郡 和名抄云:即讚良郡是也。

十四.大葉子的悲劇

是月,遣大將軍紀男麻呂宿禰,將兵出哆唎.副將河邊臣瓊缶出居曾山.而欲問新羅攻任那之狀.遂到任那,以薦集部首登弭,遣於百濟約束軍計.登弭仍宿妻家,落印書、弓箭於路.新羅具知軍計,卒起大兵,尋屬敗亡,乞降歸附。
 紀男麻呂宿禰取勝旋師,入百濟營.令軍中曰:「夫勝不忘敗,安必慮危,古之善教也.今處疆畔,豺狼交接,而可輕忽,不思變難哉?況復平安之世,刀劍不離於身.蓋君子之武備,不可以已.宜深警戒,務崇斯令!」士卒皆委心而服事焉。
 河邊臣瓊缶獨進轉門,所向皆拔.新羅更舉白旗,投兵降首.河邊臣瓊缶元不曉兵,對舉白旗,空爾獨進.新羅門將曰:「將軍河邊臣今欲降矣.」乃進軍逆戰.盡銳遄攻破之,前鋒所傷甚眾.倭國造手彥自知難救,棄軍遁逃。
 新羅門將手持鉤戟,追至城洫,運戟擊之.手彥因騎駿馬,超渡城洫,僅以身免.門降臨城洫而歎曰:「久須尼自利!此新羅語未詳也.」
 於是,河邊臣遂引軍退,急營於野.於是,士卒盡相欺蔑,莫有遵承。
 門將自就營中,悉生虜河邊臣瓊缶等及其隨婦.于時父子夫婦不能相恤.門將問河邊臣曰:「汝命與婦,孰與尤愛?」答曰:「何愛一女,以取禍乎?如何不過命也.」遂許為妾。
 門將遂於露地,姦其婦女.婦女後還,河邊臣欲就談之.婦人甚以慚恨,而不隨曰:「昔君輕賣妾身,今何面目以相遇?」遂不肯言.是婦人者,阪本臣女,曰-甘美媛。
 同時所虜調吉士伊企儼,為人勇烈,終不降服.新羅門將拔刀欲斬,逼而脫裪,追令以尻臀向日本大號叫,叫,咄也.曰:「日本將,嚙我臍脰!」即號叫曰:「新羅王,啖我臍脰!」雖被苦逼,尚如前叫.由是見殺,其子-舅子亦抱其父而死.伊企儼辭旨難奪皆如此,由此特為諸將帥所痛惜。
 其妻大葉子亦並見禽.愴然而歌曰:



秋風嶺
 哆唎之實際具體位置不明.或有說為忠清南道東南至全羅北道東北之間,亦有說為秋風嶺一帶。



居曾山 慶尚南道居昌
 實際所在位置不明,或為慶尚南道居昌一帶,或為全羅北道居寧一帶。

韓國・城・上・立・・・大葉子・領巾振・・・日本・向・・・

或有和曰:

韓國・城・上・立・・・大葉子・領巾振・・・見・難波・向・・・

八月,天皇遣大將軍大伴連狹手彥,領兵數萬,伐於高麗。

狹手彥乃用百濟計,打破高麗.其王踰牆而逃,狹手彥遂乘勝以入宮,盡得珍寶貨賂、七織帳、鐵屋還來.舊本云,鐵屋在高麗西高樓上.織帳張於高麗王內寢。

以七織帳,奉獻於天皇.以甲二領、金飾刀二口、銅縷鍾三口、五色幡二竿、美女媛,媛,名也.并其從女-吾田子,送於蘇我稻目宿禰大臣.於是大臣遂納二女以為妻,居輕曲殿.鐵屋在長安寺,是寺不知在何國.一本云,十一年,大伴狹手彥連共百濟國,驅卻高麗王陽香於比津留都。

冬十一月,新羅遣使獻,并貢調賦.使人悉知國家憤新羅滅任那,不敢請罷.恐致刑戮,不歸本土,例同百姓.今攝津國三島郡埴廬新羅人之先祖也。

二十六年夏五月,高麗人頭霧唎耶陟等,投化於筑紫.置山背國,今畝原、奈羅、山村高麗人之先祖也。

二十八年,郡國大水飢,或人相食.轉傍郡穀以相救。

大葉子愴然歌及和歌:

佇立韓城大葉子 振領巾兮向日本

佇立在韓國城上的大葉子,揮動著領津往日本而去。

見立韓城大葉子 振其領巾向日本

看那佇立韓國城上的大葉子,揮動著領津往難波而去。佇立在韓國城上的大葉子,揮動著領津往日本而去。



流竊馬神事

是為葵祭之前儀.葵祭歷來悠久,雖然今日已經演化為以齋王為主,其出自則在欽明朝之飢荒.時令人戴豬頭扮豬神人,騎馬遊獵慰豬神人之靈。



逢阪山關址

狹狹波山,滋賀縣大津市逢阪山也。



相樂郡

高葳館,相樂館,所在不詳,約略為京都府相樂郡木津町一帶也。

十五.高麗的使者,漂至越濱

三十年春正月,辛卯朔,詔曰:「量置田部,其來尚矣.年甫十餘,脫籍免課者眾.宜遣膽津,膽津者,王辰爾之甥也.檢定白豬田部丁籍。」

夏四月,膽津檢閱白豬田部丁者,依詔定籍。

果成田戶.天皇嘉膽津定籍之功,賜姓為白豬使,尋拜田令,為瑞子之副.瑞子見上。

三十一年春三月,甲申朔,蘇我大臣稻目宿禰薨。

夏四月,甲申朔乙酉,幸泊瀨柴籬宮。

越人江渟臣裙代詣京奏曰:「高麗使人,辛苦風浪,迷失浦津.任水漂流,忽到著岸.郡司隱匿。

故,臣顯奏。」詔曰:「朕承帝業,若干年.高麗迷路,始到越岸.雖苦漂溺,尚全性命.豈非微猷廣被,至德巍巍,仁化傍通,洪恩蕩蕩者哉?有司宜於山城國相樂郡起館,淨治厚相資養!」

是月,乘輿至自泊瀨柴籬宮.遣東漢氏直糠兒、葛城直難波,迎召高麗使人。

五月,遣膳臣傾子於越,饗高麗使.傾子,此云・・・。

大使審知膳臣是皇華使,乃謂道君曰:「汝非天皇,果如我疑.汝既伏拜膳臣,倍復足知百姓.而前詐余,取調入己.宜速還之,莫煩飾語。」膳臣聞之,使人探索其調,具為與之,還京復命。

秋七月,壬子朔,高麗使到于近江。

是月,遣許勢臣猿與吉士赤鳩,發自難波津,控引船於狹狹波山,而裝飾船,乃往迎於近江北山.遂引入山背高葳館,則遣東漢阪上直子麻呂、錦部首大石,以為守護.更饗高麗使者於相樂館。

三十二年春三月,戊甲朔壬子,遣阪本耳子郎君,使於新羅,問任那滅由。

是月,高麗獻物并表,未得呈奏.經歷數旬,占待良日。

十六.欽明天皇御崩

夏四月,戊寅朔壬辰,天皇寢疾不豫。

皇太子向外不在,驛馬召到,引入臥內.執其手詔曰:「朕疾甚,以後事屬汝.汝須打新羅,封建任那.更造夫婦,惟如舊日,死無恨之。」

是月,天皇遂崩于內寢.時年若干。

五月,殯于河內古市。

秋八月,丙子朔,新羅遣弔使-未叱子失消等,奉哀於殯。

是月,未叱子失消等罷。

九月,葬于檜隈阪合陵。

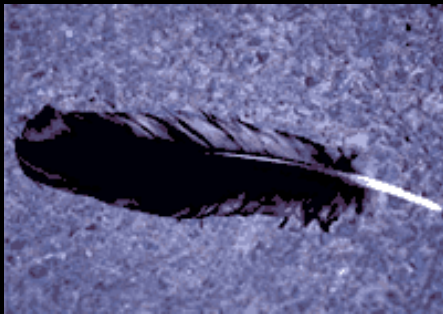


欽明天皇 檜隈阪合陵

[\[久遠・絆\]](#) [\[其之一\]](#) [\[卷二十\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷二十 敏達紀

淳中倉太珠敷天皇 敏達天皇



烏羽
故名思議,乃烏鴉之羽.高麗以此黑羽上表,墨不能辨,適逢王辰爾蒸羽於飯氣,以帛印羽而得識之.



王辰爾
欽明朝時渡來,有睿智,為船氏之祖.尤以「烏羽之表」之逸話聞名.

一.高麗的烏羽上表文

淳中倉太珠敷天皇,天國排開廣庭天皇第二子也.母曰-石姬皇后.石姬皇后,武小廣國押盾天皇女也.

天皇不信佛法,而愛文史.

二十九年,立為皇太子.

三十二年四月,天國排開廣庭天皇崩.

元年夏四月,壬申朔甲戌,皇太子即天皇位.尊皇后曰-皇太后.

是月,宮于百濟大井.以物部弓削守屋大連為大連,如故.以蘇我馬子宿禰為大臣.

五月,壬寅朔,天皇問皇子與大臣曰:「高麗使人今何在?」大臣奉對曰:「在於相樂館.」

天皇聞之,傷惻極甚,愀然而歎曰:「悲哉,此使人等,名既奏聞於先考天皇矣.」乃遣群臣相樂館,檢錄所獻調物,另送京師.

丙辰,天皇執高麗表疏,授於大臣.召聚諸史,令讀解之.是時諸史於三日內,皆不能讀.爰有船史祖王辰爾,能奉讀譯.由是天皇與大臣,俱為讚美曰:「勤乎,辰爾!汝若不愛於學,誰能讀解?宜從今始近侍殿中!」既而詔東西諸史曰:「汝等所習之業,何故不就?汝等雖眾,不及辰爾.」

又,高麗上表疏,書于烏羽.字隨羽黑,既無識者.辰爾乃蒸羽於飯氣,以帛印羽,悉寫其字.朝廷悉異之.

六月,高麗大使謂副使等曰:「磯城島天皇時,汝等違吾所議,被欺於他,妄分國調,輕與微者.豈非汝等過歟?其若我國王聞,必誅汝等!」副使等自相謂之曰:「若吾等至國時,大使顯道吾過,是不祥事也.思欲偷殺而斷其口.」

是夕,謀泄.大使知之,裝束衣帶,獨自潛行.立館中庭,不知所計.

時有賊一人,以杖出來,打大使頭而退.

次有賊一人,直向大使,打頭與手而退.大使尚嘿然立地而拭面血.

更有賊一人,執刀急來,刺大使腹而退.是時大使恐伏地拜.

後有賊一人,既殺而去.

明旦,領客東漢阪上直子麻呂等,推問其由,副使等乃作矯詐曰:「天皇賜妻於大使.大使違敕不受.無禮茲甚,是以臣等為天皇殺焉.」有司以禮收葬.

秋七月,高麗使人罷歸.是歲,太歲壬辰.

二.處罰吉備海部直難波

二年夏五月,丙寅朔戊辰,高麗使人泊于越海之岸.破船,溺死者眾.

朝廷猜頻迷路,不饗放還.仍敕吉備海部直難波,送高麗使.

秋七月,乙丑朔,於越海岸,難波與高麗使等相議,以送使難波船人大島首-磐日、狹丘首-間狹,令乘高麗使船,以高麗二人,令乘送使船.如此互乘,以備奸志.

俱時發船,至數里許.送使難波,乃恐畏波浪,執高麗二人,擲入於海.

八月,甲午朔丁未,送使難波還來復命曰:「海裏鯨魚大有,遮囓船與楫櫂.難波等恐魚吞船,不得入海.」天皇聞之,識其漫語,驅使於官,不放還國.

三年夏五月,庚申朔甲子,高麗使人泊于越海之岸.

秋七月,己未朔戊寅,高麗使人入京奏曰:「臣等去年相逐送使,罷歸於國.臣等先至臣蕃.臣蕃即准使人之禮,禮饗大島首磐日等.高麗國王別以厚禮禮之.既而送使之船,至今未到.故更謹遣使人并磐日等,請問臣使不來之意.」

天皇聞,即數難波罪曰:「欺誑朝廷,一也.溺殺鄰使,二也.以茲大罪,不合放還!」以斷其罪.

冬十月,戊子朔丙甲,遣蘇我馬子大臣於吉備國,增益白豬屯倉與田部.即以田部名籍,授于白豬史膽津.

戊戌,詔船史王辰爾弟-牛,賜姓為津史.

十一月,新羅遣使進調.



越海
與北陸道相鄰之日本海之古稱.



野中寺
為王辰爾-船氏之宗廟,而葛井氏則於葛井寺,津氏於善正寺.



春日神社 幸田會館碑

櫻井市戒重之春日神社,傳為譯語田幸玉宮跡,然非為定說.幸玉宮亦名-他田宮(古事記),乎沙多宮(天壽國曼荼羅繡帳),乎娑陀宮(船首王後墓誌),磐余譯語乎佐田宮(日本靈異記)等.



和氣山統國寺

傳為日本書紀「南波大別王寺」或日本靈異記「南波百濟寺」之比定地.然,於其之時,難波是為物部氏之勢力範圍,物部氏以物部守屋為首,是以反佛著稱,當時何能於此建立佛教寺廟之事,至今存謎.

伊勢祠:傳為伊勢齋宮前身.



興福寺 東金堂

依「聖德太子傳曆」所云,敏達八年所進之佛像,是為釋迦像,今供於興福寺東金堂.然該堂今無此一佛像,相關資料亦闕,是以真偽不詳.

三.與新羅．百濟交涉

四年春正月,丙辰朔甲子,立息長真手王女-廣姬為皇后,是生一男二女.

其一曰,押阪彥人大兄皇子.更名,麻呂古皇子.

其二曰,逆登皇女.

其三曰,菟道磯津貝皇女.

是月,立一夫人.春日臣仲君女,曰-老女子夫人,更名,藥君娘.生三男一女.

其一曰,難波皇子.

其二曰,春日皇子.

其三曰,桑田皇女.

其四曰,大派皇子.

次,采女伊勢大鹿首小熊女,曰-菟名子夫人.

生,太姬皇女.更名,櫻井皇女.與糠手姬皇女.更名,田村皇女.

二月,壬辰朔,馬子宿禰大臣還于京師,復命屯倉之事.

乙丑,百濟遣使進調,多溢恒歲.

天皇以新羅未建任那,詔皇子與大臣曰:「莫懶懈於任那之事!」

夏四月,乙酉朔庚寅,遣吉士金子使於新羅,吉士木蓮子使於任那,吉士譯語彥使於百濟.

六月,新羅遣使進調,多益常例.并進多多羅、須奈羅、和陀、發鬼,四邑之調.

是歲,命卜者,占海部王家地與絲井王家地.卜便襲吉.

遂營宮於譯語田.是謂,幸玉宮.

冬十一月,皇后廣姬薨.

五年春三月,己卯朔戊子,有司請立皇后.

詔立豐御食炊屋姬尊為皇后,是生二男五女.

其一曰,菟道貝蛸皇女,更名,菟道磯津貝皇女也.是嫁於東宮聖德.

其二曰,竹田皇子.

其三曰,小墾田皇女,是嫁於彥人大兄皇子.

其四曰,鸕鷀守皇女,更名,輕守皇女.

其五曰,尾張皇子.

其六曰,田眼皇女,是嫁於息長足日廣額天皇.

其七曰,櫻井弓張皇女.

六年春二月,甲辰朔,詔置-日祀部、私部.

夏五月,癸酉朔丁丑,遣大別王與小黑吉士,宰於百濟國.

王人奉命,為使三韓,自稱為宰.言宰於韓.蓋古之典乎,如今言使也.餘皆倣此.大別王未詳所出也.

冬十一月,庚午朔,百濟國王付還使大別王等,獻經論若干卷,并律師、禪師、比丘尼、咒禁師、造佛工、造寺工,六人.遂安置難波大別王寺.

七年春三月,戊辰朔壬申,以菟道皇女,侍伊勢祠.即姦池邊皇子,事顯而解.

八年冬十月,新羅遣柅叱政奈末進調,并送佛像.

九年夏六月,新羅遣安刀奈末,失消奈末進調.不納以還之.

十年春閏二月,蝦夷數千寇於邊境.

由是,召其魁帥-綾糟等,魁帥者,大毛人也.詔曰:「惟,爾蝦夷者大足彥天皇之世,合殺者斬,應原者赦.今朕遵彼前例,欲誅元惡.」

於是,綾糟等懼然恐懼,乃下泊瀨中流,面三諸岳,歃水而盟曰:「臣等蝦夷,自今以後,子子孫孫,古語云,生兒八十綿連.用清明心,侍奉天闕.臣等若違盟者,天地諸神及天皇靈,絕滅臣種矣!」

十一年冬十月,新羅遣安刀奈末、失消奈末進調.不納以還之.

四.任那復興計劃,日羅進言

十二年秋七月，丁酉朔，詔曰：「屬我先考天皇之世，新羅滅內官家之國。天國排開廣庭，天皇二十三年，任那為新羅所滅。故云，新羅滅我內官家也。先考天皇謀復任那，不果而崩，不成其志。是以朕當奉助神謀，復興任那。今在百濟火葦北國造阿里斯登子達率日羅，賢而有勇，故朕欲與其人相計！」乃遣紀國造押勝與吉備海部直羽島，喚於百濟。

冬十月，紀國造、押勝等還自百濟，復命於朝曰：「百濟國主奉惜日羅，不肯聽！」

是歲，復遣吉備海部直-羽島，召日羅於百濟。

羽島既之百濟，預先私見日羅，獨自向家門底，俄而有家裏來韓婦，用韓語言：「以汝之根，入我根內。」即入家去，羽島便覺其意，隨後而入。

於是，日羅迎來，把手使坐於座，密告之曰：「僕竊聞之，百濟國主奉疑天朝，奉遣臣後，留而弗還，所以奉惜不肯奉近。宜宣敕時，現嚴猛色，催急召焉。」羽鳥乃依其計，而召日羅。

於是，百濟國主佈畏天朝，不敢違敕。奉遣以日羅、恩率、德率、余怒、哥奴知、參官、柁師德率次干德、水手等若干人。

日羅等行到吉備兒島屯倉，朝庭遣大伴糠手子連而慰勞焉。

復遣大夫等於難波館，使訪日羅。是時日羅披甲乘馬，到門底下，乃進廳前，進退跪拜，歎恨而曰：「於檜隈宮御寓天皇之世，我君大伴金村大連奉為國家，使於海表火葦北國造刑部韃部阿利斯登之子臣達率日羅，聞天皇召，恐畏來朝。」乃解其甲，奉於天皇。

乃營館於阿斗桑市，使往日羅，供給隨欲。

復遣阿倍日臣、物部費子連、大伴糠手子連而問國政於日羅。日羅對言：「天皇所以治天下政，要須護養黎民，何遽興兵，翻將失滅？故今合議者仕奉朝列。臣、連、二造，二造者，國造、伴造也。下及百姓，悉皆饒富，令無所乏。如此三年，足食足兵，以悅使民，不憚水火，同恤國難。然後多造船舶，每津列置，使觀客人，令生恐懼。爾乃，以能使使於百濟，召其國王。若不來者，召其大佐、王子等來，即自然心生欽服。後應問罪。」又奏言：「百濟人謀言：『有船三百，欲請筑紫。』若其實請，宜陽賜予，然則百濟欲新造國，必先以女人、小子，載船而至。國家望於此時，壹岐、對馬多置伏兵，候至而殺，莫翻被詐。每於要害之所，堅築斯塞矣！」

於是恩率、參官臨罷國時，舊本以恩率為一人，以參官為一人也。竊語德爾等言：「計吾過筑紫許，汝等偷殺日羅者，吾俱白王，當賜高爵，身及妻子垂榮於後。」德爾、余奴皆聽而許焉。

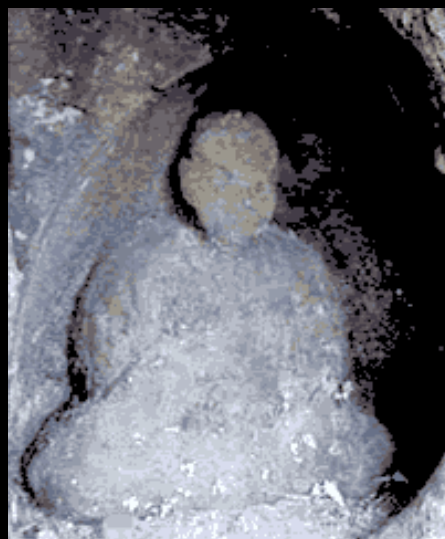
參官等遂發塗於血鹿。於是日羅自桑市村遷難波館。德爾等晝夜相計，將欲殺時，日羅身光，有如火焰。由是德爾等恐而不殺。遂於十二月晦，候失光，殺。

日羅更蘇生曰：「此是我驅使奴等所為，非新羅也。」言畢而死。屬是時，有新羅使，故云爾也。

天皇詔贅子大連、糠手子連，令收葬於小郡西畔丘前。以其妻子、水手等，居于石川。於是，大伴糠手子連議曰：「聚居一處，恐生其變。」乃以妻子，居于石川百濟村，水手等居于石川大伴村。收縛德爾等，置於下百濟河田村，遣數大夫，推問其事。

德爾等伏罪言：「信！是恩率、參官教使為也。僕等為人之下，不敢違矣。」由是下獄，復命朝廷。乃遣使於葦北，悉召日羅眷屬，賜德爾等任情決罪。是時葦北君等，受而皆殺，投彌賣島。彌賣島，蓋姬島也。日羅移葬於葦北。

於後，海畔者言：「恩率之船，被風沒海，參官之船，漂泊津島，乃始得歸。」



本庄磨崖佛，日羅像。
本庄之磨崖佛，傳為日羅之像。日羅賢而有勇，天皇欲與之相議復興任那，然百濟國主奉惜日羅，不肯遣之。



血鹿
五島列島一代、或為其中之小值賀島



日羅公之墓



元興寺
「聖德太子傳曆」云，彌勒石像，祀於
平城右京元興寺東金堂。

五.蘇武馬子崇佛

十三年春二月，癸巳朔庚子，遣難波吉士木蓮子，使於新羅，遂之任那。

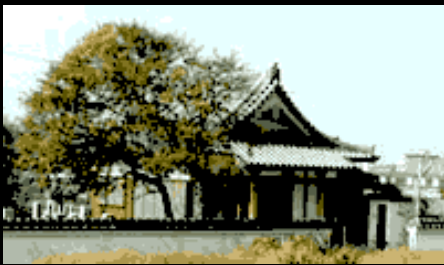
秋九月，從百濟來鹿深臣，闕名字，有彌勒石像一軀，佐伯連，闕名字，有佛像一軀。

是歲，蘇我馬子宿禰請其佛像二軀，乃遣鞍部村主司馬達等、池邊直、冰田，使於四方，訪覓修行者。於是唯於播磨國，得僧還俗者，名高麗惠便。

大臣乃以為師，令度司馬達等女-島，曰-善信尼，年十一歲。又度善信尼弟子二人，其一，漢人-夜菩之女-豐女，名曰-禪藏尼；其二，錦織壺之女-石女，名曰-惠善尼。壺，此云・・馬子獨依佛法，崇敬三尼，乃以三尼，付冰田直與達等，令供衣食。

經營佛殿於宅東方，安置彌勒石像。屈請三尼，大會設齋。此時達等得佛舍利於齋食上，以舍利獻於馬子宿禰。馬子宿禰試以舍利，置鐵質中，振鐵錘打。其質與鎚，悉被摧壞，而舍利不可摧毀。又投舍利於水，舍利隨心所願，浮沉於水。

由是馬子宿禰、池邊冰田、司馬達等，保信佛法，修行不懈。馬子宿禰亦於石川宅，修置佛殿，佛法之初，自茲而作。



本明寺 石川精舍跡

十四年春二月,戊子朔壬寅,蘇我大臣馬子宿禰起塔於大野丘北,大會設齋.
即以達等所獲舍利,藏塔柱頭.
辛亥,蘇我大臣患疾,問於卜者,卜者對言:「崇於父時所祭佛神之心也.」
大臣即遣子弟,奏其占狀,詔曰:「宜依卜者之言,祭祠父神.」大臣奉詔,禮拜石像,乞延壽命.
是時,國行疫疾,民死者眾.

六.物部守屋等破佛

三月,丁巳朔,物部弓削守屋大連與中臣勝海大夫奏曰:「何故不肯用臣言?自考天皇,及於陛下,疫疾流行,國民可絕!豈非專由蘇我臣之興佛法歟?」詔曰:「灼然,宜斷佛法!」

丙戌,物部弓削守屋大連自詣於寺,踞坐胡床,斫倒其塔,縱火燔之,并燒佛像與佛殿.既而取所燒餘佛像,令棄難波堀江.

是日,無雲風雨,大連被雨衣,訶責馬子宿禰與從行法侶,令生毀辱之心.

乃,遣佐伯造御室,更名於-間磯也.喚馬子宿禰所供善信等尼.由是,馬子宿禰不敢違命,惻愴啼泣喚出尼等,付於御室.有司便奪尼等三衣禁錮,楚撻海石榴市亭.

天皇思建任那,差-阪田爾子王為使.屬此之時,天皇與大連卒患於瘡,故果不遣.詔橘豐日皇子曰:「不可違背考天皇敕,可勤修乎任那之地也!」又,發瘡死者,充盈於國.其患瘡者言:「身如被燒被打被摧!」啼泣而死.老少竊相語曰:「是燒佛像罪矣!」

夏六月,馬子宿禰奏曰:「臣之疾病,至今未癒.不蒙三寶之力,難可救治!」

於是,詔馬子宿禰曰:「汝可獨行佛法,宜斷餘人.」乃以三尼,還付馬子宿禰.馬子宿禰受而歡悅,歎未曾有頂禮三尼.新營精舍,迎入供養.

或本云,物部弓削守屋大連、大三輪逆君、中臣磐余連,俱謀滅佛法,欲燒寺塔,摒棄佛像.馬子宿禰諍而不從.

秋八月,乙酉朔己亥,天皇病彌留,崩于大殿.是時起殯宮於廣瀨.

馬子宿禰大臣配刀而誅.物部弓削守屋大連听然而笑曰:「如中獵箭之雀鳥焉!」次,弓削守屋大連手腳搖震而誅.搖震,戰慄也.馬子宿禰大臣笑曰:「可懸鈴矣!」由是二臣微生怨恨.

三輪君逆,使隼人相距於殯庭.穴穗部皇子欲取天下,發憤稱曰:「何故事死王之庭,弗事生王之所也?」



海石榴市 佛教傳來之地碑
時國行疫疾,物部守屋推其由,當為蘇我臣興佛法之弊.是以破佛,有司奪尼三衣禁錮,楚撻海石榴市亭.



廣瀨神社
大和國廣瀨郡廣瀨神舍,傳為敏達天皇之殯宮比定地.

日本書紀卷二十 終

[\[久遠・絆\]](#) [\[卷十九\]](#) [\[卷廿一\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷廿一 用明紀 / 崇峻紀

[用明天皇]

[崇峻天皇]

橘豐日天皇 用明天皇

一.即位與立后

橘豐日天皇,天國排開廣庭天皇第四子也.母曰-堅鹽媛.

天皇信佛法,尊神道.

十四年秋八月,淳中倉太珠敷天皇崩.

九月,甲寅朔戊午,天皇即天皇位,宮於磐余,名曰-池邊雙槻宮.

以蘇我馬子宿禰為大臣,物部弓削守屋連為大連,並如故.

壬申,詔曰云云.以酢香手姬皇女,奉日神祀.

是皇女自此天皇時,逮于炊屋姬天皇之世,奉日神祀.自退葛城而薨.見炊屋姬天皇紀.

或本云,三十七年間,奉日神祀.自退而薨.

元年春正月,壬子朔,立穴穗部間人皇女為皇后,是生四男.

其一曰,廐戶皇子.更名-豐聰耳聖德,或名-豐聰耳法大王,或云-法主王.是皇子初居上宮,後移斑鳩.

於豐御食炊屋姬天皇世,位居東宮,總攝萬機,行天皇事.語見豐御食炊屋姬天皇紀.

其二曰,來目皇子.

其三曰,殖粟皇子.

其四曰,茨田皇子.

立,蘇我大臣稻目宿禰女-石寸名為嬪.

是生,田目皇子.更名,豐浦皇子.

葛城直磐村女-廣子,生一男一女.

男曰,麻呂子皇子,此當麻公之先也.

女曰,酢香手姬皇女,歷三代以奉日神.



磐余池跡
傳為今吉備池,此非定說.



用明天皇 磐余池邊雙槻宮跡
此為櫻井市吉備池(傳為磐余池跡)
邊春日神社.另有一說為與聖德太子
之上宮為同所.而此二者皆非定說.



三諸之岳
即三輪山,亦呼作御諸山.



前賢故實 三輪逆

二.三輪逆之死

夏五月,穴穗部皇子欲姦炊屋姬皇后,而自強入於嬪宮.

寵臣三輪君逆乃喚兵衛,重璣宮門,拒而勿入.

穴穗部皇子問曰:「何人在此?」兵衛答曰:「三輪君逆在焉,」七呼開門,遂不聽入.

於是穴穗部皇子謂大臣與大連曰:「逆頻無禮矣!於殯庭誅曰:『不荒朝廷,淨如鏡面,臣治平奉仕!』即是無禮!方今天皇子弟多在,兩大臣侍.誰得恣情,專言奉仕?又余觀殯內,拒不聽入.自呼:『開門!』七迴不應.願欲斬之!」兩大臣曰:「隨命!」於是穴穗部皇子陰謀王天下之事,而口詐在於殺逆君.遂與物部守屋大連,率兵圍繞磐余池邊.逆君知之,隱於三諸之岳.

是日夜半,潛自山中出,隱於後宮.謂炊屋姬皇后之別業,是名-海石榴市宮也.逆之同姓-白堤與橫山,言逆君在處.穴穗部皇子即遣守屋大連,或本云,穴穗部皇子與泊瀨部皇子,相計而遣守屋大連.曰:「汝應往討逆君并其二子!」大連遂率兵去.

蘇我馬子宿禰外聞斯計,詣皇子所,即逢門底.謂皇子家門也.將之大連所.

時諫曰:「王者不近刑人,不可自往!」皇子不聽而行.馬子宿禰即便隨去到於磐余,行至於池邊也.而切諫之.皇子乃從諫止,仍於此處,踞坐胡床,待大連焉.

大連良久而至,率眾報命曰:「斬逆等訖!或本云,穴穗部皇子自行射殺,」於是馬子宿禰惻然頽歎曰:「天下之亂不久矣!」大連聞而答曰:「汝小臣之所不識也!」此三輪君逆者,諱語田天皇之所寵愛,悉委內外之事焉.由是炊屋姬皇后與馬子宿禰,俱發恨於穴穗部皇子也.是年也,太歲丙午.

三.天皇崩御

二年夏四月,乙巳朔丙午,御新嘗於磐余河上.

是日,天皇得病,遷入於宮,群臣侍焉.

天皇詔群臣曰:「朕思欲歸三寶,卿等議之!」群臣入朝而議.

物部守屋大連與中臣勝海連,違詔議曰:「何背國神,敬他神也?由來,不識若斯事矣!」蘇我馬子宿禰大臣曰:「可隨詔而奉助!詎生異計?」於是皇弟皇子,皇弟皇子者,穴穗部皇子,即天皇庶弟.引豐國法師,闕名,入於內裏,物部守屋大連邪睨大怒.

是時押阪部史-毛屎,急來密語大連曰:「今群臣圖卿,復將斷路.」大連聞之,即退於阿都,阿都,大連之別業所在地名也,集聚人焉.中臣勝海連於家集眾,隨助大連,遂作太子彥人皇子像與竹田皇子像,厭之.俄而知事難濟,歸附彥人皇子於水派宮.水派,此云……舍人-跡見赤禰,伺勝海連自彥人皇子所退,拔刀而殺,跡見,姓也,赤禰,名也.赤禰,此云…….

大連從阿都家,使物部八阪、大市造小阪、漆部造兄,謂馬子大臣曰:「吾聞群臣謀我,我故退焉.」馬子大臣乃使土師八島連於大伴毘羅夫連所,具述大連之語.由是毘羅夫連手執弓箭、皮楯,就槻曲家,不離晝夜守護大臣.槻曲家者,大臣家也.

天皇之瘡轉盛,將欲終時,鞍部多須奈,斯馬達等子也.進而奏曰:「臣奉為天皇,出家修道.又奉造丈六佛像及寺.」天皇為之悲慟.今南淵阪田寺木丈六佛像、挾侍菩薩是也.

癸丑,天皇崩于大殿.

秋七月,甲戌朔甲午,葬于磐余池上陵.



磐余池上陵:所在不詳.

泊瀨部天皇 崇峻天皇



藤之木古墳

有傳或為穴穗部皇子之墓.此外,此墳亦有崇神天皇鄰之說.

一.穴穗部王子之死

泊瀨部天皇,天國排開廣庭天皇第十二子也.母曰-小姊君.稻目宿禰女也,已見上文.

二年夏四月,橘豐日天皇崩.

五月,物部大連軍眾三度驚駭.

大連元欲去餘皇子等,而立穴穗部皇子為天皇.及至於今,望因遊獵,而謀替立,密使人於穴穗部皇子曰:「願與皇子將馳獵於淡路.」謀泄.

六月,甲辰朔庚戌,蘇我馬子宿禰等奉炊屋姬尊,詔佐伯連-丹經手、土師連-磐村、的臣-真嚙曰:「汝等嚴兵速往,誅殺穴穗部皇子與宅部皇子!」

是日夜半,佐伯連-丹經手等圍穴穗部皇子宮.於是,衛士先登樓上,擊穴穗部皇子肩.皇子落於樓下,走入偏室.衛士等,舉燭而誅.

辛亥,誅宅部皇子.宅部皇子,檜隈天皇之子,上女王之父也.未詳.善穴穗部皇子,故誅.

甲子,善信阿尼等謂大臣曰:「出家之途以戒為本.願向百濟,學受戒法.」

是月,百濟調使來朝.

大臣謂使人曰:「率此尼等,將渡汝國,令學戒法,了時發遣.」使人答曰:「臣等歸蕃先道國王.而後發遣,亦不遲也.」

二.物部守屋滅亡

秋七月,蘇我馬子宿禰大臣勸諸皇子與群臣,謀滅物部守屋大連.

泊瀨部皇子、竹田皇子、廐戶皇子、難波皇子、春日皇子、蘇我馬子宿禰大臣、紀男麻呂宿禰、巨勢臣比良夫、膳臣賀拖夫、葛城臣烏那羅,俱率軍旅,進討大連.大伴連嚙、阿倍臣人、平群臣神手、阪本臣糠手、春日臣,闕名字.俱率軍兵,從志紀郡到澀河家.

大連親率子弟與奴軍,築稻城而戰.於是,大連昇衣揩朴枝間,臨射如雨.其軍強盛,填家溢野.皇子等軍與群臣眾,怯弱恐怖,三迴卻還.

是時,廐戶皇子束髮於額,古俗,年少兒,年十五六間,束髮於額,十七八間,分為角子.今亦然之.而隨軍後.自付度曰:「將無見敗,非願難成!」乃斫取白膠木,白膠木,此云……疾作四天王像,置於頂髮而發誓言:「今若使我勝敵,必當奉為護世四王,起立寺塔!」

蘇我馬子大臣又發誓言:「凡諸天王、大神王等,助衛於我,使獲利益,願當奉為諸天與大神王,起立寺塔,流通三寶!」誓已,嚴種種兵而進討伐.



物部弓削守屋大連 稻城址

爰有跡見首赤檮,射墮大連於枝下,而誅大連并其子等.由是大連之軍忽然自敗,合軍悉被皁衣,馳獵廣瀨勾原而散.

是役,大連兒息與眷屬,或有逃匿葦原,改姓換名者.或有逃亡不之所向者.時人相謂曰:「蘇我大臣之妻是物部守屋大連之妹也.大臣妄用妻計,而殺大連矣!」

平亂之後,於攝津國造四天王寺,分大連奴半與宅,為大寺奴、田莊.以田一万頃,賜跡見首赤檮.蘇我大臣亦依本願,於飛鳥地起法興寺.

物部守屋公顯彰碑

物部守屋公者,建國功臣饒速日命裔也.代為護朝之武人,領往古八尾周邊河內之地.方佛教始渡我國之際,護我國神之道統,繼其父公尾輿之堅志.用明天皇貳年,斥人背國神以敬他神之事,不睦與蘇我馬子.是以,公歸河內,舉族起而干戈,奮戰幾度而天時不利,同年柒月柒日,果敢歿身.嗚呼!然公者純乎憂國之精神,當永照日人之道乎,春風秋雨幾星霜!

當其墓所者,今八尾市之史蹟,亦最古之墓,今為遠土之領主,而仰其遺德矣.大正玖年,吾等先輩祀職,年修墓所,愈為懇切.方迎仟參佰捌拾年之祭,茲念其年來之司祭,以豎此碑,聊慰黃泉英雄而奉上云爾.

昭和四十二年六月吉辰 大阪府神社廳中河內分會建之



史蹟 弓代塚 / 鎬矢塚
傳為跡見赤檮射墮物部守屋弓削大連之弓 / 矢所埋之處也.



大聖勝軍寺 聖德太子古戰場碑



物部守屋墓與顯彰碑



前賢故實 捕鳥部 万



崇峻天皇 倉梯柴垣宮跡
今在金福寺也,然腹地過小,存疑.

三.捕鳥部万的奮戰

物部守屋大連資人-補鳥部万,万名也,將一百人,守難波宅.而聞大連滅,騎馬夜逃向茅渟縣有真香邑.仍過婦宅,而遂匿山.朝廷議曰:「万懷逆心,故隱此山中.早須滅族,可不忿歟!」

万衣裳弊垢,形色憔悴,持弓帶劍,獨自出來.有司遣數百衛士圍万.万即驚匿篁藂,以繩繫竹,引動令他惑己所入.衛士等被詐指搖竹馳言:「万在此!」万即發箭,一無不中.衛士等恐不敢近.万便弛弓挾腋,向山走去.衛士等即夾河追射,皆不能中.

於是,有一衛士,疾馳先万,而伏河側,擬射中膝.万即拔箭,張弓發箭,伏地而號曰:「万為天皇之楯,將效其勇,而不推問.翻致逼迫,於此窮矣!可共語者,來!願聞殺虜之際!」衛士等競馳射万,万便拂捍飛矢,殺三十餘人.仍以持劍,三截其弓,還屈其劍,投河水裏,別以刀子,刺頸死焉.

河內國司以万死狀,牒上朝廷.朝廷下符稱:「斬之八段,散梟八國!」河內國司即依符旨,臨斬梟時,雷鳴大雨.

爰有万養白犬,俯仰迴吠於其屍側.遂嚙拳頭,取置古冢,橫臥枕側,飢死於前.河內國司尤異其犬,牒上朝廷.朝廷哀不忍聽,下符稱曰:「此犬,世所希聞,可觀於後!須使万族作墓而葬.」由是万族雙起墓於有真香邑,葬万與犬.

河內國言:「於餌香川原,有被斬人.計將數百.頭身既爛,姓字難知.但以衣色,收取其身者.爰有櫻井田部連-膽淨所養之犬,嚙續身頭,伏側固守,使收已至,乃起行之.」

八月,癸卯朔甲辰,炊屋姬尊與群臣,勸進天皇,即天皇之位.

以蘇我馬子宿禰為大臣如故.卿大夫之位亦如故.

是月,宮於倉梯.

元年春三月,立大伴糠手連女-小手子為妃.

是生,蜂子皇子與錦代皇女.

四.法興寺創建

是歲,百濟國遣使并僧-惠總、令斤、惠寔等,獻佛舍利。

百濟國遣恩率首信、德率蓋文、那率福富味身等,進調并獻佛舍利,僧-聆照律師、令威、惠眾、惠宿、道嚴、令開等,寺工-太良未太、文賈古子,鑪盤博士-將德白味淳,瓦博士-麻奈父奴、楊貴文、陵貴文、昔麻帝彌,畫工-白加。

蘇我馬子宿禰請百濟僧等,問受戒之法,以善信尼等,付百濟國使恩率首信等發遣學問。

壤飛鳥衣縫祖-樹葉之家,始作法興寺。此地名-飛鳥真神原,亦名-飛鳥苦田。是年,太歲戊甲。

二年秋七月,壬辰朔,遣近江臣-滿,於東山道使,觀蝦夷國境。遣肉人臣-鴈,於東海道使,觀東方濱海諸國境。遣阿倍臣於北陸道使,觀越等諸國境。

三年春三月,學問尼善信等,自百濟還,住櫻井寺。

冬十月,入山取寺材。

是歲,度尼,大伴狹手彥連女-善德、大伴狹夫人、新羅媛善妙、百濟媛妙光,又漢人善德、善通、妙德、法定照、善智聰、善智惠、善光等。

鞍部司馬達等子-多須奈,同時出家,名曰-德齊法師。

四年夏四月,壬子朔甲子,葬譯語田天皇於磯長陵,是其妣皇后所葬之陵也。

秋八月,庚戌朔,天皇詔群臣曰:「朕思欲建任那,卿等何如?」

群臣奏言:「可建任那官家,皆同陛下所詔。」

冬十一月,己卯朔壬午,差紀男麻呂宿禰、巨勢猿臣、大伴嚙連、葛城烏奈良臣為大將軍,率氏臣、連為裨將,部隊領二萬餘軍,出居筑紫。

遣吉士金於新羅,遣吉士木蓮子於任那,問任那事。

佛舍利

釋迦佛或是得道聖人火化後所殘留之骨。七世紀半的佛殿,多半需先納舍利於中央剎柱之內,方可營造。



飛鳥真神原

飛鳥川東岸,明日香村飛鳥之地。亦出於雄略七年條。「日本書紀通証」雖言苦田之名猶存,然實已不存矣。



敏達天皇河內磯長中尾陵



崇峻天皇倉梯岡陵

蘇我氏在成為皇戚又除去物部氏後,其勢之飛黃騰達,超乎絕輪,甚者暗殺崇峻天皇,坐擁朝中權力,且馬子至死,未被追究。此勢直至蘇我入鹿之時,方得畫下蘇我王朝之句點。

五.蘇我馬子暗殺天皇

五年冬十月,癸酉朔丙子,有獻山豬。

天皇指豬詔曰:「何時如斷此豬之頸,斷朕所嫌之人!」多設兵仗,有異於常。

壬午,蘇我馬子宿禰聞天皇所詔,恐嫌於己,招聚儻者,謀弑天皇。

是月,起大法興思佛堂與步廊。

十一月,癸卯朔乙巳,馬子宿禰詐於群臣曰:「今日進東國之調。」

乃使東漢直-駒,殺于天皇。或本云,東漢直-駒,東漢直-磐井子也。

是日,葬天皇于倉梯岡陵。或本云,大伴嬪小手子恨寵之衰,使人於蘇我馬子宿禰曰:「頃者有獻山豬。天皇指豬而詔曰:『如斷豬頸,何時斷朕思人?』且於內裏大作兵仗。」於是馬子宿禰聽而驚之。

丁未,遣驛使於筑紫將軍所曰:「依於內亂,莫怠外事。」

是月,東漢直-駒偷隱蘇我嬪河上娘為妻。河上娘,蘇我馬子宿禰女也。馬子宿禰忽不知河上娘為駒所偷,而謂死去。駒汙嬪事顯,為大臣所殺。

日本書紀卷廿一 終

[\[久遠・絆\]](#) [\[卷二十\]](#) [\[卷廿二\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷廿二 推古紀

豐御食炊屋姬天皇 推古天皇



推古天皇豐浦宮趾碑
豐浦宮跡即豐浦寺,今之向原寺也。

一.推古天皇即位

豐御食炊屋姬天皇,天國排開廣庭天皇中女也,橘豐日天皇同母妹也。
幼曰-額田部皇女,姿色端麗,進止軌制。
年十八歲,立為淳中倉太玉敷天皇之皇后。
三十四歲,淳中倉太珠敷天皇崩。
三十九歲,當于泊瀨部天皇五年十一月,天皇為大臣蘇我馬子宿禰見殺,嗣位既空。
群臣請淳中倉太珠敷天皇之皇后-額田部皇女,以將令踐祚,皇后辭讓之,百寮上表勸進,至于三乃從之,因以奉天皇之璽印。
冬十二月,壬申朔己卯,皇后即天皇位於豐浦宮。
元年春正月,壬寅朔丙辰,以佛舍利,置于法興寺刹柱礎中。
丁巳,建刹柱。

二.聖德太子攝政,佛教遍布

夏四月,庚午朔己卯,立廢戶豐聰耳皇子為皇太子,仍錄攝政,以萬機悉委焉。
橘豐日天皇第二子也,母皇后曰-穴穗部間人皇女,皇后懷妊開胎之日,巡行禁中,監察諸司,至于馬官,乃當廢戶而不勞忽產之。
生而能言,有聖智,及壯,一聞十人訴,以勿失能辨,兼知未然,且習內教於高麗僧-慧慈,學外典於博士-覺智,並悉達矣,父天皇愛之,令居宮南上殿,故稱其名,謂-上宮廢戶豐聰耳太子。
秋九月,改葬橘豐日天皇於河內磯長陵。
是歲,始造四天王寺於難波荒陵,是年也,太歲癸丑。
二年春二月,丙寅朔,詔皇太子及大臣,令興隆三寶。
是時諸臣連等,各為君親之恩,競造佛舍,即是謂-寺焉。
三年夏四月,沉水漂著於淡路島,島人不知沉水,以交薪燒於灶,其煙氣遠薰,則異以獻之。
五月,戊午朔丁卯,高麗僧-慧慈歸化,則,皇太子師之。
是歲,百濟僧-慧聰來之,此兩僧弘演佛教,並為三寶之棟梁。
秋七月,將軍等至自筑紫。
四年冬十一月,法興寺造竟,則以大臣男-善德臣拜寺司。
是日,慧慈、慧聰二僧,始住於法興寺。
五年夏四月,丁丑朔,百濟王遣王子-阿佐朝貢。
冬十一月,癸酉朔甲午,遣吉士磐金於新羅。
六年夏四月,難波吉士磐金至自新羅,而獻鵲二隻,乃俾養於難波社,因以巢枝而產之。
秋八月,己亥朔,新羅貢孔雀一隻。
冬十月,戊戌朔丁未,越國獻白鹿一頭。
七年夏四月,乙未朔辛酉,地動,舍屋悉破,則令四方,俾祭地震神。
秋九月,癸亥朔,百濟貢駱駝一匹、驢一匹、羊二頭、白雉一隻。



橘寺 聖德太子御誕生所碑



聖德太子上之宮遺跡



用明天皇河內磯長原陵



夢殿 聖德太子斑鳩宮跡
今奈良生駒郡斑鳩町法隆寺山内也。



檜笠岡址 今之日笠山也。



推古天皇小墾田宮跡 古宮土壇
今在奈良高市郡明日香村奥山。



蜂岡寺跡 是為廣隆寺之前身

三.新羅征討

八年春二月,新羅與任那相攻.天皇欲救任那.

是歲,命境部臣為大將軍,以穗積臣為副將軍.並闕名.

則將萬餘眾,為任那擊新羅.於是直指新羅,以泛海往之.乃到于新羅,攻五城而拔.於是新羅王惶之舉白旗,到于將軍之麾下而立.割多多羅、素奈羅、弗知鬼、委陀、南迦羅、阿羅羅六城,以請服.時將軍共議曰:「新羅知罪服之,強擊不可.」則奏上.

爰天皇更遣難波吉士-神於新羅,復遣難波吉士-木蓮子於任那.並檢校事狀.爰新羅王、任那王,二國遣使貢調.仍奏表之曰:「天上有神,地有天皇.除是二神,何亦有畏乎?自今以後,不有相攻.且不乾船拖,每歲必朝!」則遣使以召還將軍.將軍等至自新羅,即新羅亦侵任那.

九年春二月,皇太子初興宮室于斑鳩.

三月,甲申朔戊子,遣大伴連-嚙於高麗.遣阪本臣康手于百濟,以詔曰之:「急救任那!」

夏五月,天皇居于耳梨行宮.是時大雨,河水漂蕩,滿于宮廷.

秋九月,辛巳朔戊子,新羅之間諜者迦摩到對馬.則捕以貢之多.流上野.

冬十一月,庚辰朔甲申,議攻新羅.

十年春二月,己酉朔,來目皇子為擊新羅將軍,授諸神部及國造、伴造等,并軍眾二萬五千人.

夏四月,戊申朔,將軍來目皇子到于筑紫.乃進屯島郡,而聚船舶運軍糧.

六月,丁未朔己酉,大伴連嚙、阪本臣糠手,共至自百濟.是時,來目皇子臥病以不果征討.

冬十月,百濟僧-觀勒來之.仍貢曆本及、天文、遁甲、方術之書也.

是時選書生三四人,以俾學習於觀勒矣.陽胡史祖-玉陳習曆法,大友村主-高聰學天文、遁甲,山背臣-日立學方術.皆學以成業.

閏十月,乙亥朔己丑,高麗僧-僧隆、雲聰,共來歸.

十一年春二月,癸酉朔丙子,來目皇子薨於筑紫.仍驛使以奏上.

爰天皇聞之大驚,則召皇太子、蘇我大臣,謂之曰:「征新羅大將軍來目皇子薨之.其臨大事而不遂矣,甚悲乎!」仍殯于周芳娑婆.乃遣土師連-豬手,令掌殯事.故豬手連之孫曰-娑婆連,其是之緣也.後葬於河內埴生山岡上.

夏四月,壬申朔,更以來目皇子之兄-當麻皇子,為征新羅將軍.

秋七月,辛丑朔癸卯,當麻皇子自難波發船.

丙午,當麻皇子到播磨.

時,從妻-舍人姬王薨於赤石.仍葬于赤石檜笠岡上.乃,當麻皇子返之遂不征討.

冬十月,己巳朔壬申,遷于小墾田宮.

十一月,己亥朔,皇太子謂諸大夫曰:「我有尊佛像,誰得是像以恭拜?」

時,秦造-河勝進曰:「臣拜之.」便受佛像.因以造蜂岡寺.

是月,皇太子請于天皇,以作大楯及鞬,鞬,此云・・又,繪于旗幟.

四.施行冠位十二階

十二月,戊辰朔壬申,始行冠位.

大德、小德、大仁、小仁、大禮、小禮、大信、小信、大義、小義、大智、小智,并十二階,並以當色絕縫之.頂撮總如囊,而著緣焉.唯元日著髻華.髻華,此云・・

十二年春正月,戊戌朔,始賜冠位於諸臣.各有差.

1	大德		7	大信	
2	小德		8	小信	
3	大仁		9	大義	
4	小仁		10	小義	
5	大禮		11	大智	
6	小禮		12	小智	



聖德太子像 滋賀縣 市神社藏



古活字版聖德太子憲法十七箇條



五.製作憲法十七條

夏四月,丙寅朔戊辰,皇太子親筆作憲法十七條:

- 一曰,以和為貴,無忤為宗。
人皆有黨,亦少達者。是以或不順君父,乍違于鄰里。
然上和下睦,諧於論事,則事理自通,何事不成?
- 二曰,篤敬三寶。
三寶者,佛、法、僧也。則四生之終歸,萬國之極宗。
何世何人,非貴是法。人鮮尤惡,能教從之。其不歸三寶,何以直枉?
- 三曰,承詔必謹。
君則天之,臣則地之。天覆地轉,四時順行,萬氣得通。地欲覆天,則致壞耳。
是以君言臣承,上行下靡。故承詔必慎,不謹自敗。
- 四曰,群臣百寮,以禮為本。
其治民之本,要在乎禮。上不禮而下非齊,下無禮以必有罪。
是以,群臣有禮,位次不亂;百姓有禮,國家自治。
- 五曰,絕饕棄欲,明辨訴訟。
其百姓之訟,一日千事。一日尚爾,況乎累歲?
頃治訟者得利為常,見賄聽讞,便有財者之訟,如石投水;乏者之訴,似水投石。
是以貧民則不知所由,臣道亦於焉闕。
- 六曰,懲惡勸善,古之良典。
是以無匿人善,見惡必匡。其諂詐者,則為覆國家之利器,為絕人民之鋒劍。
亦佞媚者,對上則好說下過,逢下則誹謗上失。
其如此人皆無忠於君,無仁於民,是大亂之本也。
- 七曰,人各有任,掌宜不濫。
其賢哲任官,頌音則起;奸者有官,禍亂則繁。
世少生知,剋念作聖。事無大少,得人必治;時無急緩,遇賢自寬。
因此國家永久,社稷勿危。故古聖王為官以求人,為人不求官。
- 八曰,群卿百寮,早朝晏退。
公事靡盬,終日難盡。是以遲朝不逮于急,早退必事不盡。
- 九曰,信是義本,每事有信。
其善惡成敗,要在于信。群臣共信,何事不成?群臣無信,萬事悉敗。
- 十曰,絕忿棄瞋,不怒人違。
人皆有心,心各有執。彼是則我非,我是則彼非。我必非聖,彼必非愚,共是凡夫耳。
是非之理,詎能可定。相共賢愚,如鑲無端。是以,彼人雖瞋,還恐我失,我獨雖得,從眾同舉。
- 十一曰,明察功過,賞罰必當。
日者賞不在功,罰不在罪。執事群卿,宜明賞罰。
- 十二曰,國司、國造,勿斂百姓。
國非二君,民無兩主。率土兆民,以王為主。所任官司,皆是王臣。何敢與公,賦斂百姓?
- 十三曰,諸任官者,同知職掌。
或病或使,有關於事。然得知之日,和如曾識。其以非與聞,勿防公務。
- 十四曰,群臣百寮,無有嫉妒。
我既嫉人,人亦嫉我。嫉妒之患,不知其極。所以,智勝於己則不悅,才優於己則嫉妒。
是以,五百之乃今遇賢,千載以難得一聖。其不得賢聖,何以治國?
- 十五曰,背私向公,是臣之道矣。
凡夫,人有私必有恨,有憾必非同。非同則以私妨公,憾起則違制害法。
故初章云,上下和諧,其亦是情歟。
- 十六曰,使民以時,古之良典。
故,冬月有間,可以使民。從春至秋,農桑之節,不可使民。其不農何食,不桑何服?
- 十七曰,夫事不可獨斷,必與眾宜論。
少事是輕,不可必眾。唯逮論大事,若疑有失,故與眾相辨,辭則得理。

秋九月,改朝禮。因以詔之曰:「凡出入宮門,以兩手押地,兩腳跪之,越楯則立行!」
是月,始定黃書畫師、山背畫師。

聖德太子與二王子御像

六.佛師鞍作鳥

十三年夏四月,辛酉朔,天皇詔皇太子、大臣及諸王、諸臣,共同發誓願,以造銅、繡丈六佛像,各一軀.乃命鞍作鳥為造佛之工.

是時,高麗國大興王聞日本天皇造佛像,貢上黃金三百兩.

閏七月,己未朔,皇太子命諸王、諸臣,俾著襪.

冬十月,皇太子居斑鳩宮.

十四年夏四月,乙酉朔壬辰,銅、繡丈六佛像並造竟.

是日也,丈六佛像坐於元興寺金堂.

時佛像高於金堂戶,以不得納堂.於是,諸工人等議曰:「破堂戶而納之!」然鞍作鳥之秀工,不壞戶,得入堂.

即日,設齋.於是,集會人眾,不可勝數.

自是年初,每寺四月八日,七月十五日設齋.

五月,甲寅朔戊午,敕鞍作鳥曰:「朕欲興隆內典,方將建佛刹,肇求舍利.時汝祖父-司馬達等便獻舍利.又於國無僧尼.於是汝父-多須那為橘豐日天皇,出家恭敬佛法.又汝姨-鳥女初出家,為諸尼導者,以修行釋教.今朕為造丈六佛,以求好佛像.汝之所獻佛本,則合朕心.又造佛像既訖,不得入堂.諸工人不能計,以將破堂戶.然汝不破戶而得入.此皆汝之功也.」即賜大仁位,因以給近江國阪田郡水田二十町焉.

鳥以此田,為天皇作金剛寺,是今謂-南淵阪田尼寺.

秋七月,天皇請皇太子,令講勝鬘經.三日說竟之.

是歲,皇太子亦講法華經於岡本宮.

天皇大喜之,播磨國水田百町施于皇太子.因以納于斑鳩寺.

十五年春二月,庚辰朔,定-壬生部.

戊子,詔曰:「朕聞之,曩我皇祖天皇等宰世也,跼天蹐地,敦禮神祇,周祠山川,幽通乾坤.是以陰陽開和,造化共調.今當朕世,祭祀神祇,豈有怠乎?故群臣為竭心,宜拜神祇!」

甲午,皇太子及大臣,率百寮,以祭拜神祇.



元興寺(飛鳥寺)本堂 丈六佛像



阪田寺跡 阪田金剛寺趾碑



依網池址

事實上在崇神紀中就有提及依網池之營造,而應神紀中更是有相關之和歌.雖然依照最近科學家分析池址之殘留物所得的年代來看,該池當為推古朝時所造,然而在崇神朝造池,推古朝修池之可能性亦相當之大.

七.派遣遣隋使小野妹子

秋七月,戊申朔庚戌,大禮小野臣妹子遣於大唐.以鞍作福利為通事.

是歲冬,於倭國作高市池、藤原池、肩岡池、菅原池.山背國掘大溝於栗隈,且河內國作戶刈池、依網池.亦,每國置屯倉.

十六年夏四月,小野臣妹子至自大唐.唐國號妹子臣曰-蘇因高.

即大唐使人裴世清、下客十二人,從妹子臣至於筑紫.遣難波吉士雄成,召大唐客裴世清等.為唐客,更造新館於難波高麗館之上.

六月,壬寅朔丙辰,客等泊于難波津.

是日,以飾船三十艘,迎客等于江口,安置新館.於是,以中臣宮地連-烏磨呂、大河內直-糠手、船史-王平為掌客.

爰妹子臣奏之曰:「臣參還之時,唐帝以書授臣.然經過百濟國之日,百濟人探以掠取.是以不得上.」於是群臣議之曰:「夫使人雖死之,不失旨.是使矣,何怠之失大國之書哉?」則坐流刑.時天皇敕之曰:「妹子雖有失書之罪,輕不可罪.其大國客等聞之,亦不良.」乃赦之不坐也.

秋八月,辛丑朔癸卯,唐客入京.

是日,遣飾騎七十五匹,而迎唐客於海石榴世衢.額田部連-比羅夫以告禮辭焉.

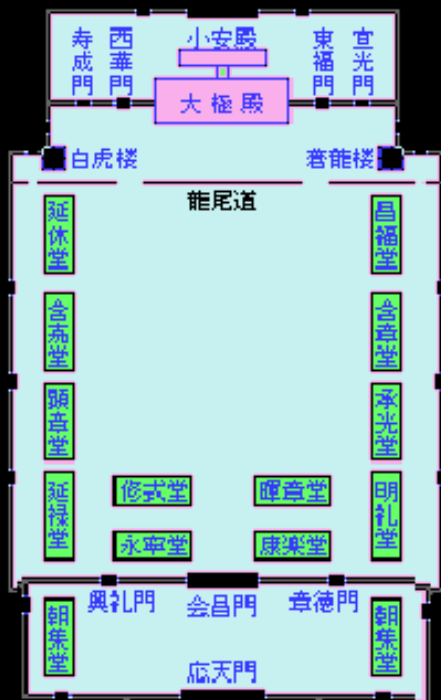
壬子,召唐客於朝廷,令奏使旨.時阿倍-鳥臣、務部依網連-抱,二人為客之導者也.

於是大唐之國信物置於庭中.時使主裴世清親持書,兩度再拜,言上使旨而立之.其書曰:「皇帝問倭皇.使人長吏大禮-蘇因高等至具懷.朕欽承寶命,臨養區宇.思弘德化,覃被含靈.愛育之情,無隔遐邇.知皇介居海表,撫寧民庶,境內安樂,風俗融合,深氣至誠,遠脩朝貢.丹款之美,朕有嘉焉.稍暄,比如常也.故遣鴻臚寺掌客裴世清等,旨宣往意,并送物如別.」時阿倍臣出進,以受其書而進行.大伴嚙連迎出承書,置於大門前机上而奏之.事畢而退焉.

是時,皇子、諸王、諸臣,悉以金髻華著頭.亦衣服皆用錦、紫、繡、織及五色綾羅.一云,服色皆用冠色.



道祖小野妹子墓
今在大阪府南河內郡太子町



八省院圖示一部
十月丁酉條,南門者,即會昌門.

丙辰,饗唐客等於朝.

九月,辛未朔乙亥,饗客等於難波大郡.

辛巳,唐客-裴世清罷歸.

則復以小野妹子臣為大使,吉士雄成為小使,福利為通事,副于唐客而遣之.

爰天皇聘唐帝,其辭曰:「東天皇敬白西皇帝.使人鴻臚寺掌客裴世清等至,久憶方解.季秋冷薄,尊何如?想清念.此即如常.今遣大禮蘇因高、大禮乎那利等往.謹白,不具.」

是時遣於唐國學生,倭漢直-福因、奈羅譯語-惠明、高向漢人-玄理、新漢人-大國,學問僧,新漢人-日文、南洲漢人-請安、志賀漢人-慧隱、新漢人-廣濟等,并八人也.

是歲,新羅人多化來.

十七年夏四月,丁酉朔庚子,筑紫大宰奏上言:「百濟僧-道欣、惠彌為首,一十人,俗七十五人,泊于肥後國葦北津.」

是時遣難波吉士-德摩呂、船史-龍,以問之曰:「何來也?」對曰:「百濟王命以遣於吳國.其國有亂不得入,更返於本鄉.忽逢暴風,漂蕩海中.然有大幸,而泊于聖帝之邊境.以歡喜!」

五月,丁卯朔壬午,德摩呂等復奏之.則返德摩呂、龍二人,而副百濟人等,送本國.

至于對馬,以道人等十一,皆請之欲留.乃上表而留之.因令住元興寺.

秋九月,小野臣妹子至自大唐.唯通事福利不來.

十八年春三月,高麗王貢上僧-曇徵、法定.

曇徵知五經,且能作彩色及紙墨,并造碾磑.蓋造碾磑,始于是時歟.

秋七月,新羅使人-沙泉部奈末竹世士與任那使人-泉部大舍首智買,到于筑紫.

九月,遣使召新羅、任那使人.

冬十月,己丑朔丙申,新羅、任那使人臻於京.

是日,命額田部連-比羅夫,為迎新羅客莊馬之長,以膳臣大伴,為迎任那客莊馬之長.即安置阿斗河邊館.

丁酉,客等拜朝廷.於是命秦造-河勝、土部連-菟,為新羅導者,以間人連-鹽蓋、阿閉臣-大籠為任那導者.共引以自南門入之,立于庭中.

時大伴咋連、蘇我豐浦蝦夷臣、阪本糠手臣、阿倍鳥子臣,共自位起之,進伏于庭.

於是兩國客等各再拜,以奏使旨.乃四大夫起進啟於大臣.時大臣自位起,立廳前而聽焉.既而賜祿諸客,各有差.

乙巳,饗使人等於朝.以河內漢直-贄為新羅共食者,錦織首-久僧為任那共食者.

辛亥,客禮畢,以歸焉.

[\[久遠・絆\]](#) [\[卷廿一\]](#) [\[其之二\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷廿二 推古紀

豐御食炊屋姬天皇 推古天皇

八.菟田野的藥獵

十九年夏五月,五日,藥獵於菟田野.取雞鳴時,集于藤原池上.以會明,乃往之.栗田細目臣為前部領,額田部比羅夫連為後部領.

是日,諸臣服色,皆隨冠色,各著髻華.則大德、小德並用金,大仁、小仁用豹尾,大禮以下用鳥尾.

秋八月,新羅遣沙曇部-奈末北叱智,任那遣習部-大舍親智周智,共朝貢.

二十年春正月,辛巳朔丁亥,置酒宴群卿.

是日,大臣上壽歌曰:

..... 我・大君・ 隱..... 天・八十蔭
出・立..... 御空・見..... 万代..... 千代.....
畏..... 仕・奉..... 拜..... 仕..... 歌.....

天皇和曰:

真蘇我・ 蘇我・子..... 馬..... 日向・駒 太刀..... 吳・真刀
諾..... 蘇我・子..... 大君・ 使.....

二月,辛亥朔庚午,改葬皇太夫人-堅鹽媛於檜隈大陵.

是日,誅於輕街:

第一,阿倍內臣-烏,誅天皇之命,則奠靈.明器、明衣之類,万五千種也.

第二,諸皇子等,以次第各誅之.

第三,中臣宮地連-烏摩呂,誅大臣之辭.

第四,大臣引率八腹臣等,便以境部臣-摩理勢,令誅氏姓之本矣.

時人云:「摩理勢、烏摩呂二人能誅,唯烏臣不能誅也.」

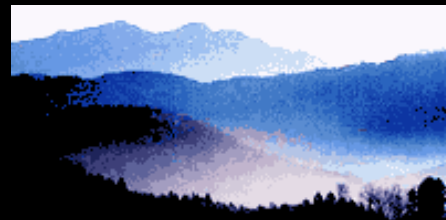
夏五月,五日,藥獵之.集于羽田,以相連參趣於朝.其裝束如菟田之獵.

是歲,自百濟國,有化來者.其面、身皆斑白.若有白癩者乎.

惡其異於人,欲棄海中島.然其人曰:「若惡臣之斑皮者,白斑牛馬不可畜於國中.亦臣有小才,能構山岳之形.其留臣而用,則為國有利.何空之棄海島耶?」於是聽其辭以不棄,仍令構須彌山及吳橋於南庭.時人號其人曰-路子工.亦名-芝耆摩呂.

又百濟人-味摩之,歸化曰:「學于吳,得伎樂舞.」則安置櫻井,而集少年,令習伎樂舞.於是,真野首-弟子、新漢-齊文二人,習之傳其舞.此今大市首、辟田首等祖也.

二十一年冬十一月,作掖上池、畝傍池、和珥池.又自難波至京,置大道.



宇陀

藥獵者,男性獵捕鹿茸之類,女性採集藥草之儔.文中所提之菟田野大致在宇陀一代,無定說.而同地區之阿騎野亦為古代皇室之藥獵聖地.

壽歌與其和歌:

八方治兮我聖君 天八十蔭殿中隱
出殿仰兮覽御空 千代万代亦如是
我侍奉兮懷敬畏 如此獻此御壽歌

治理天下八方的聖王啊,您走出那廣大的宮殿,仰望青空視察天下民情,縱使過了千代或是万代,仍舊是如此的威凜不變,臣下懷著敬畏的心情是您,像這樣誠惶誠恐的將這首壽歌獻上.

真蘇我兮蘇我裔 夫以馬喻日向駒
夫以刀喻吳真刀 此與蘇我裔者諾
汝裔永為帝重臣

真蘇我啊!蘇武一族的人們,以馬喻之則為日向之駒,以刀喻之則為吳之真刀.我在此許諾,蘇我一族的子孫,代代都將為天皇所重用.



欽明天皇、堅鹽媛 檜阪合大陵



和珥池跡 今之廣大寺池



片岡山 達磨寺

據傳太子所遇飢者者,達磨之化身也。是以其後在該地建達磨寺。

聖德太子嘆飢者歌:

岡斜輝兮片岡山 飯飢臥田人者
如無親兮不臨世 如無繁君不得飽
嗚呼飢臥田人乎

在那斜面閃耀著日輝的片岡山中因為飢餓而伏臥的農人啊!如果你沒有父母的話,就不會來到這個世上,如果沒有如茂竹般有權勢的君主的話,也只能在此飢餓伏臥了。啊,啊,這位農人啊!



出雲國 神戶郡 玉造溫泉

『出雲國風土記』云:「忌部神戶,郡家正西廿一里二百六十步。國造神吉詞奏參向朝廷時,御沐之忌里,故云忌部。即川邊出湯,出湯所在兼海陸。」其所指者,今之玉造溫泉也。



靜岡天照教藏 人魚木乃伊

日本部分神社奉有人魚或河童之木乃伊。其間不伐吃下人魚肉可不老不死或長生八百數年之人魚傳說。

九.太子與飢者.撰錄天皇記 . 國記

十二月,庚午朔,皇太子遊行於片岡.時飢者臥道垂.仍問姓名而不言.
皇太子視之與飲食,即脫衣裳,覆飢者而言:「安臥也。」則歌之曰:

• • • • 片岡山 • 飯 • 飢 • 臥 • • • • 田人 • • • 親無 • •
汝生 • • • • • • 竹 • 君 • • 無 • 飯 • 飢 • 臥 • • • • 田人 • • • •

辛未,皇太子遣使令視飢者.

使者還來之曰:「飢者既死。」爰皇太子大悲之,則因以葬埋於當處,墓固封也.

數日之後,皇太子召近習者,謂之曰:「先日臥于道飢者,其非凡人.必真人也!」遣使令視.於是使者還來之曰:「到於墓所而視之,封埋勿動.乃開以見,屍骨既空.唯衣服疊置棺上。」於是皇太子復返使者,令取其衣,如常且服矣.時人大異之曰:「聖之知聖,其實哉!」逾惶.

二十二年夏五月,五日,藥獵也.

六月,丁卯朔己卯,遣犬上君御田鍬. 矢田部造,闕名,於大唐.

秋八月,大臣臥病.為大臣而男女并一千人出家.

二十三年秋九月,犬上君御田鍬. 矢田部造,至自大唐.

百濟使,則從犬上君而來朝.

十一月,己丑朔庚寅,饗百濟客矣.

癸卯,高麗僧慧慈歸於國.

二十四年春正月,桃李實之.

三月,掖玖人三口歸化.

夏五月,夜句人七口來之.

秋七月,亦掖玖人二十口來之.先後并三十人,皆安置於朴井.未及還,皆死焉.

秋七月,新羅遣奈末竹世士,貢佛像.

二十五年夏六月,出雲國言:「於神戶郡有瓜,大如缶。」

是歲,五穀登之.

二十六年秋八月,癸酉朔,高麗遣使貢方物.因以言:「隋煬帝興三十万眾攻我,返之為我所破.故貢獻俘虜貞公、普通二人及鼓吹、弩、拋石之類十物,并土器、駱駝一匹。」

是年,遣河邊臣,闕名,於安藝國,令造船.

至山覓舶材.便得好材,以名-將伐.時有人曰:「霹靂木也,不可伐!」河邊臣曰:「其雖雷神,豈逆皇命耶?」多祭幣帛,遣人夫令伐.則大雨雷電之.

爰河邊臣案劍曰:「雷神無犯人夫,當傷我身!」而仰待之.雖十餘霹靂,不得犯河邊臣.即化少魚,以挾樹枝.即取魚焚之,遂修理其舶.

二十七年夏四月,己亥朔壬寅,近江國言:「於蒲生河有物,其形如人。」

秋七月,攝津國有漁父,沉罟於堀江.有物入罟,其形如兒.非魚非人,不知所名.

二十八年秋八月,掖玖人二口,流來於伊豆島.

冬十月,以砂礫葺檜隈陵上.則域外積土成山.仍每氏科之,建大柱於土山上.

時,倭漢阪上直,數柱,勝之太高.故時人號之曰-大柱直也.

十二月庚寅朔,天有赤氣.長一丈餘,形似雉尾.

是歲,皇太子、島大臣共議之,錄天皇記及國記,臣、連、伴造、國造、百八十部并公民等本記.

十.聖德太子之死

二十九年春二月,己丑朔癸巳,半夜,廢戶豐聰耳皇子命薨于斑鳩宮。

是時,諸王、諸臣及天下百姓,悉長老如失愛兒,而鹽酢之味在口不嘗,少幼者如亡慈父母,以哭泣之聲滿於行路。乃耕夫止耜,舂女不杵,皆曰:「日月失輝,天地既崩!自今以後,誰恃哉?」

是月,葬上宮太子於磯長陵。

當是時,高麗僧-慧慈聞上宮皇太子薨,以大悲之,為皇太子請僧而設齋。仍親說經之曰,誓願曰:「於日本國有聖人,曰-上宮豐聰耳皇子。固天攸縱,以玄聖之德生日本之國。苞貫三統,纂先聖之宏猷,恭敬三寶,救黎元之厄,是實大聖也!今太子既薨之,我雖異國,心在斷金。其獨生之,有何益矣?我以來年二月五日必死!因以遇上宮太子於淨土,以共化眾生。」於是,慧慈當于期日而死之。是以時人之彼此共言:「其獨非上宮太子之聖,慧慈亦聖也!」

是歲,新羅遣奈末伊彌買朝貢。仍以表書奏使旨。凡新羅上表,蓋始起于此時歟。

三十一年秋七月,新羅遣大使-奈末智洗爾,任那遣達率-奈末智,並來朝。

仍貢佛像一具及金塔并舍利,且大觀頂幡一具、小幡十二條。即佛像居於葛野秦寺。以餘舍利、金塔、觀頂幡等,皆納于四天王寺。

是時,大唐學問者僧-惠齊、惠光及醫-惠日、福因等,並從智洗爾等來之。於是,惠日等共奏聞曰:「留于唐國學者,皆學以成業。應喚。且其大唐國者,法式備定珍國也!常須達!」



推古天皇皇太子聖德太子磯長墓



四天王寺 浪速名所圖屏風載

十一.策劃新羅征討

是歲,新羅伐任那。任那附新羅。

於是天皇將討新羅,謀及大臣,詢于群卿。田中臣對曰:「不可急討。先察狀,以知逆,後擊之不晚也。請試遣使,睹其消息。」中臣連國曰:「任那元是我內官家,今新羅人伐而有之。請戒戎旅,征伐新羅,以取任那附百濟。寧非益有于新羅乎!」田中臣曰:「不然。百濟是多反覆之國,道路之間尚詐之,凡彼所請皆非之。故不可附百濟。」則不果征焉。

爰遣吉士磐金於新羅,遣吉士倉下於任那,令問任那之事。

時新羅國主遣八大夫,啟新羅國事於磐金,且啟任那國事於倉下。因約曰:「任那小國,天皇附庸。何新羅輕有之?隨常定內官家,願無煩矣。」則遣奈末智遲副於吉士磐金,復以任那人達率奈末遲副於吉士倉下,仍貢兩國之調。

然磐金等未及于還,即年以大德境部臣-雄摩呂、小德中臣連-國為大將軍,以小德河邊臣-禰受、小德物部依網連-乙等、小德波多臣-廣庭、小德近江腳身臣-飯蓋、小德平群臣-宇志、小德大伴連-闕名、小德大宅臣-軍,為副將軍,率數萬眾,以征討新羅。

時,磐金等共會於津,將發船以候風波。於是,船師滿海多至,兩國使人望膽之愕然,乃還留焉。更代堪遲大舍,為任那調使而貢上。於是,磐金等相謂之曰:「是軍起之,既違前期。是以任那之事,今亦不成矣。」則發船而渡之。

唯將軍等始到任那而議之,欲襲新羅。於是,新羅國主聞軍多至,而予慍之請服。時將軍等共議以上表之。天皇聽矣。

冬十一月,磐金、倉下等至自新羅。時大臣問其狀。

對曰:「新羅奉命,以驚懼之。則並差專使,因以貢兩國之調。然見船師至,而朝貢使人更還耳。但調猶貢上。」爰大臣曰:「悔乎,早遣師矣!」時人曰:「是軍事者,境部臣、阿曇連,先多得新羅幣物之故,又勸大臣。是以未待使旨,而早征伐耳。」

初磐金等渡新羅之日,比及津,莊船一艘迎於海浦。

磐金問之曰:「是船者何國迎船?」對曰:「新羅船也。」磐金亦曰:「曷無任那之迎船?」即時更為任那加一船。其新羅以迎船二艘,始于是時歟。

自春至秋,霖雨大水,五穀不登焉。

十二.寺院・僧尼的統制

三十二年夏四月,有一僧,執斧毆祖父。

時天皇聞之召大臣,詔之曰:「夫出家者頓歸三寶,具懷戒法。何無懺忌,輕犯惡逆?今朕聞,有僧以毆祖父,故悉聚諸寺僧尼,以推問之。若事實者,重罪之!」

於是集諸僧尼而推之。則惡逆僧及諸僧尼,並將罪。於是,百濟勸勒僧表上以言:「夫佛法自西



百濟寺
相傳為百濟觀勒僧所居之故處。

十三.馬子,要請葛城縣

冬十月,癸卯朔,大臣遣阿曇連、闕名、阿倍臣摩呂二臣,令奏于天皇曰:「葛城縣者,元臣之本居也.故因其縣為姓名.是以冀之常得其縣,以欲為臣之封縣。」

於是天皇詔曰:「今朕則自蘇何出之,大臣亦為朕舅也.故大臣之言,夜言矣夜不明,日言矣日不晚,何辭不用.然今朕之世,頓失是縣.後君曰:『愚痴婦人臨天下,以頓亡其縣!』豈獨朕不賢耶?大臣亦不忠.是,後葉之惡名。」則不聽.

三十三年春正月,壬申朔戊寅,高麗王貢僧-惠灌.仍任僧正.



葛城縣
今奈良御所,大和高田,北葛城一帶.



島庄遺跡 方形池
明日香村島庄字池田遺跡方形池,在傳為蘇我馬子墓之石舞台古墳附近東北方一代.傳為蘇我馬子之庭中小池,然未見曾在池中設立小島之跡.

十四.蘇我馬子之死

三十四年春正月,桃李華之.

三月,寒以霜降.

夏五月,戊子朔丁未,大臣薨.仍葬于桃原陵.大臣則稻目宿禰之子也.性有武略,亦有辯才.以恭敬三寶,家於飛鳥河之傍.乃庭中開小池,仍興小島於池中.故時人曰-島大臣.

六月,雪也.

是歲,自三月至七月,霖雨.天下大飢之.

老者噉草根而死于道垂,幼者含乳以母子共死.又強盜竊盜並大起之,不可止.

三十五年春二月,陸奧國有貉化人以歌之.

夏五月,有蠅聚集.其凝累十丈之,浮虛以越信濃阪.鳴音如雷,則東至上野國而自散.

十五.天皇崩御

三十六年春二月,戊寅朔甲辰,天皇臥病.

三月,丁未朔戊甲,日有蝕盡之.

壬子,天皇病甚之,不可諱.

則召田村皇子謂之曰:「昇天位而經綸鴻基,馭萬機以亨育黎元,本非輕言,恒之所重.故,汝慎以察之,不可輕言!」

即日,召山背大兄,教之曰:「汝肝稚之.若雖心望,而勿誼言.必待群言以宜從。」

癸丑,天皇崩之.時年七十五.即殯於南庭.

夏四月,壬午朔辛卯,雹零.大如桃子.

壬辰,雹零.大如李子.

自春至夏,旱之.

秋九月,己巳朔戊子,始起天皇喪禮.是時群臣各誅於殯宮.

先是天皇遺詔於群臣曰:「比年五穀不豐,百姓大飢,其為朕興陵以勿厚葬!便,宜于葬竹田皇子之陵。」

壬辰,葬竹田皇子之陵.



植山古墳 西側 推古天皇墓比定地
推古天皇原與竹田皇子合葬,其後遷至河內磯長山田陵.而合葬之陵紛紜,

日本書紀卷廿二 終

如植山古墳說,山田高塚古墳說,高松古墳說等,其中植山古墳傳其西側為推古陵,東側為竹田皇子陵.

[\[久遠・絆\]](#) [\[其之一\]](#) [\[卷廿三\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷廿三 舒明紀

息長足日廣額天皇 舒明天皇

一.推演先帝遺言,朝廷對立

息長足日廣額天皇,淳中倉太珠敷天皇孫,彥人大兄皇子之子也.母曰-糠手姬皇女.

豐御食炊屋姬天皇二十九年,皇太子豐聰耳尊薨.而未立皇太子.

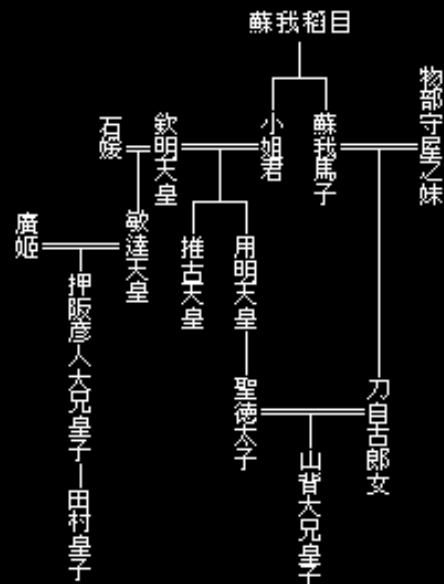
以三十六年三月,天皇崩.

九月,葬禮畢之.嗣位未定.

當是時,蘇我蝦夷臣為大臣,獨欲定嗣位,顧畏群臣不從,則與阿倍麻呂臣議,而聚群臣,饗於大臣家.食訖將散,大臣令阿倍臣,語群臣曰:「今天皇既崩無嗣.天皇臥病之日,詔田村皇子曰:『天下大任,本非輕言.爾田村皇子,慎以察之,不可緩!』次詔山背大兄王曰:『汝獨莫諠詮謹.必從群言,慎以勿違!』則是天皇遺言焉.今,誰為天皇?」

時,群臣嘿之無答.亦問之,非答.強且問之,於是大伴鯨連進曰:「既從天皇遺命耳,更不可待群言.」阿倍臣則問曰:「何謂也?開其義!」對曰:「天皇曷思歟,詔田村皇子,曰:『天下之大任也,不可緩.』因此而言,皇位既定.誰人異言?」時采女臣-摩禮志、高向臣-宇摩、中臣連彌氣、難波吉士-身刺,四臣曰:「隨大伴連言,更無異!」許勢臣-大摩呂、佐伯-連東人、紀臣-鹽手,三人進曰:「山背大兄王,是宜為天皇!」唯蘇我倉摩呂臣,更名雄當.獨曰:「臣也當時不得便言,更思後啟.」爰大臣知群臣不和而不能成事,退之.

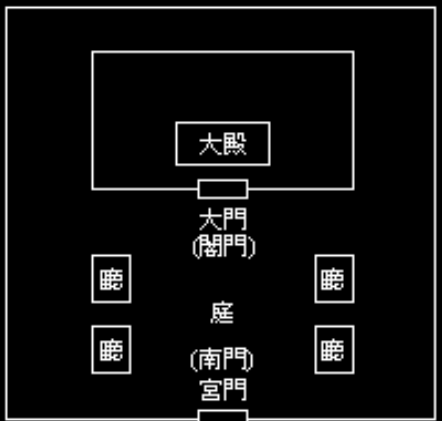
先是,大臣獨問境部摩理勢臣曰:「今天皇崩,無嗣.誰為天皇?」對曰:「舉山背大兄為天皇.」



當時天皇家與蘇我家相關係譜
由此譜可見,大背大兄與押阪彥人皆有角逐天位之格,此外,亦可了解蘇我氏深入日本權力中心之態.



夢殿 傳聖德太子斑鳩宮跡地
山背大兄皇子為聖德太子之子,是以
此所謂斑鳩宮者,繼其父之領也.



推古天皇小墾田宮構造復原模式圖
禁省者,天皇之居所,即小墾田宮也

二.山背大兄王,熱心協助蝦夷大臣

是時,山背大兄居於斑鳩宮,漏聆是議,即遣三國王、櫻井臣-和慈古二人,密謂大臣曰:「傳聞之,叔父以田村皇子欲為天皇.我聞此言,立思矣居思矣,未得其理.願,分明欲知叔父之意.」

於是,大臣得山背大兄之告,而不能獨對,則喚阿倍臣、中臣連、紀臣、河邊臣、高向臣、采女臣、大伴連、許勢臣等,仍曲舉山背大兄之語.

既而便且,謂大夫等曰:「汝大夫等共詣於斑鳩宮,當啟山背大兄王曰:『賤臣何之獨輕定嗣位?唯舉天皇之遺詔,以告于群臣.群臣並言:『如遺言,田村皇子自當嗣位.』更詎異言.是群卿言也,特非臣心.但雖有臣私意,而惶之不得傳啟,乃面日親啟曰.』」

爰群大夫等,受大臣之言,共詣于斑鳩宮,使三國王、櫻井臣,以大臣之辭啟於山背大兄.時大兄王使傳問群大夫等曰:「天皇遺詔奈之何?」對曰:「臣等不知其深.唯得大臣語狀稱,天皇臥病之日,詔田村皇子曰:『非輕輕言來國政.是以爾田村皇子慎以言之,不可緩.』次詔大兄王曰:『汝肝稚,而勿諠言,必宜從群臣言.』是乃近侍諸女王及采女等悉知之,且大王所察.」

於是,大兄王且令問之曰:「是遺詔也,專誰人聆焉?」答曰:「臣等不知其密也.」

既而更亦,令告群大夫等曰:「爰之叔父勞思,非一介之使,遣重臣等而教覺,是大恩也.然今群卿所道天皇遺命者,小小違我所聆.吾聞天皇臥病,而馳上之侍于門下.時中臣連-彌氣,自禁省出之曰:『天皇命以喚之.』則參進向于閤門.亦栗隈采女-黑女,迎於庭中,引入大殿.於是,近習者-栗下女王為首,女孺-鮪女等八人并數十人,侍於天皇之側,且田村皇子在焉.時天皇沈病,不能睹我.乃栗下女王奏曰:『所喚山背大兄王參赴.』即天皇起臨之詔曰:『朕以寡薄久勞大業,今曆運將終,以病不可諱.故汝本為朕之心腹,愛寵之情,不可為比.其國家大基,是非朕世,自本務之.汝雖肝稚,慎以言!』乃當時侍之近習者,悉知焉.故我蒙是大恩,而一則以懼,一即以悲,踊躍歡喜不知所如.仍以為,社稷宗廟,重事也.我眇少以不賢,何敢當焉.當事時,思欲語叔父及群卿等,然未有可道之時,於今非言耳.我曾將訊叔父之病,向京而居豐浦寺.是日,天皇遣八口采女-鮪女,詔之曰:『汝叔父大臣常為汝愁言,百歲之後,嗣位非當汝乎?故慎以自愛矣!』既分明有是事,何疑也?然我啟餐天下,唯顯聆事耳,則天神地祇共証之.是以冀正欲知天皇之遺敕,亦大臣所遣群卿者,從來如嚴茅取中事,嚴茅,此云……而奏請人等也.故能宜白叔父.」

既而,泊瀨仲王別喚中臣連、河邊臣,謂之曰:「我等父子,並自蘇我出之,天下所知,是以如高



向原寺存 豐浦寺跡

山恃之。願嗣位勿輕言。」則令三國王、櫻井臣、副群卿而遣之曰：「欲聞還言。」時大臣遣紀臣、大伴連、謂三國王、櫻井臣曰：「先日言訖，更無異矣。然臣敢之輕王誰也，重王誰也？」於是數日之後，山背大兄亦遣櫻井臣，告大臣曰：「先日之事，陳聞耳。寧違叔父哉？」是日，大臣病動，以不能面言於櫻井臣。明日，大臣喚櫻井臣，即遣阿倍臣、中臣連、河邊臣、小墾田臣、大伴連，啟山背大兄王言：「自磯城島宮御宇天皇天皇之世及近世者，群卿皆賢哲也。唯今臣不賢，而遇當乏人時，誤居群臣之上耳。是以不得定基。然是事重也，不能傳道。故老臣雖勞，面啟之。其唯不誤遺教者也，非臣私意。」

三.山背大兄王的支持者,境部摩理勢的終末

既而大臣傳阿倍臣、中臣連，更問境部臣曰：「誰王為天皇？」對曰：「先是大臣親問之日，僕啟既訖之。今何更亦傳以告耶？」乃大忿而起行之。

適是時，蘇我氏諸族等悉集，為島大臣造墓，而次于墓所。

爰摩理勢臣壤墓所之廬，退蘇我田家而不仕。時大臣慍之，遣身狹君-勝牛、錦織首-赤豬，而誨曰：「吾知汝言之非，以干支之義，不得害。唯他非汝是，我必忤他從汝；若他是汝非，我當乖汝從他。是以汝遂有不從者，我與汝有瑕，則國亦亂。然乃後生言之，吾二人破國也。是後葉之惡名也。汝慎以勿起逆心。」然猶不從，而遂赴于斑鳩，住於泊瀨王宮。

於是大臣益怒，乃遣群卿，請于山背大兄曰：「頃者，摩理勢違臣匿於泊瀨王宮。願得摩理勢，欲推其所由。」爰大兄王答曰：「摩理勢素聖皇所好，而暫來耳。豈違叔父之情耶？願勿瑕。」則謂摩理勢曰：「汝不忘先王之恩而來，甚愛矣。然其因汝一人，而天下應亂。亦先王臨沒，謂諸子等曰：『諸惡莫作，諸善奉行！』余承斯言，以為永戒。是以雖有私情，忍以無怨。復我不能違叔父。願自今以後，勿憚改意，從群而無退。」

是時，大夫等且誨摩理勢臣之曰：「不可違大兄王之命。」於是，摩理勢臣進無所歸。乃泣哭更還之。居於家十余日，泊瀨王忽發病薨。爰，摩理勢臣曰：「我生之誰恃矣？」

大臣將殺境部臣，而興兵遣之。境部臣聞軍至，率仲子阿榔，出于門，作胡床而待。時軍至，乃令來目物部伊區比以絞之，父子共死。乃埋同處。唯兄子毛津，逃匿于尼寺瓦舍，即姦一二尼。

於是，一尼嫉妒令顯。圍寺將捕，乃出之入畝傍山。因以探山，毛津走無所入，刺頸而死山中。時人歌曰：

畝傍山 木立薄・・ 賴・・・ 毛津・若子・ 籠・・・・・



石舞台古墳 傳蘇我馬子墓



石舞台古墳入口

時人嘆毛津之歌：

畝傍山上疏稀木 毛津若子賴汝籠
稀稀疏疏的生長在畝傍山樹木啊，拜託你們藏住毛津這位少年吧！



掖玖 今鹿兒島縣熊毛郡屋久島



舒明天皇 飛鳥岡本宮宮跡
今在明日香村岡地，詳有雷丘附近說，
奧山東岡西麓說，板蓋宮承傳地下層

四.舒明天皇之即位與政治・外交

元年春正月，癸卯朔丙午，大臣及群卿共以天皇之璽印，獻於田村皇子。

則辭之曰：「宗廟，重事矣。寡人不賢，何敢當乎？」群臣伏固請曰：「大王，先朝鍾愛，幽顯屬心。宜纂皇綜，光臨億兆！」

即日，即天皇位。

夏四月，辛未朔，遣田部連，闕名，於掖玖。是年也，太歲己丑。

二年春正月，丁卯朔戊寅，立寶皇女為皇后。后生二男一女。

一曰，葛城皇子。近江大津宮御宇天皇。

二曰，間人皇女。

三曰，大海皇子。淨御原宮御宇天皇。

夫人，蘇我島大臣女-法提郎媛。

生，古人皇子。更名，大兄皇子。

又娶，吉備國-蚊屋采女。

生，蚊屋皇子。

三月，丙寅朔，高麗大使-婁子拔、小使-若德，百濟大使-恩率素子、小使-德率武德，共朝貢。

秋八月，癸巳朔丁酉，以大仁-犬上君三田耜、大仁-藥師惠日，遣於大唐。

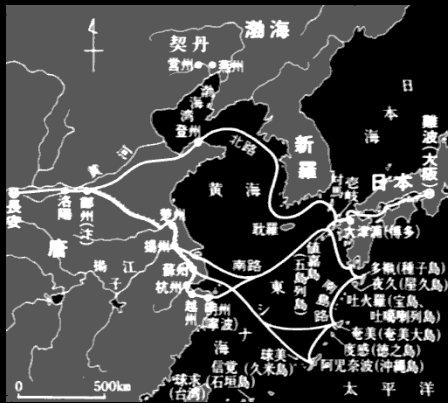
庚子，饗高麗、百濟客於朝。

九月，癸亥朔丙寅，高麗、百濟客歸于國。

是月，田部連等至自掖玖。

冬十月，壬辰朔癸卯，天皇遷於飛鳥岡傍。是謂，岡本宮。

遺構說等,此三說之中,目前以飛鳥板蓋宮下層遺構說最為有力。



遣唐使傳航路圖

五.天地異變紛起

六年秋八月,長星見南方.時人曰-彗星.

七年春三月,彗星迴見于東.

夏六月,乙丑朔甲戌,百濟遣達率-柔等,朝貢.

秋七月,乙未朔辛丑,饗百濟客於朝.

是月,瑞蓮生於劍池,一莖二花.

八年春正月,壬辰朔,日蝕.

三月,悉劾姦采女者,皆罪之.是時,三輪君-小鷦鷯,苦其推鞠,刺頸而死.

夏五月,霖雨大水.

六月,災岡本宮.天皇遷居田中宮.

秋七月,己丑朔,大派王謂豐浦大臣曰:「群卿及百寮,朝參已懈,自今以後,卯始朝之,已後退之,因以鍾為節.」然大臣不從.

是歲,大旱,天下飢之.

九年春二月,丙辰朔戊寅,大星從東流西,便有音似雷.

時人曰:「流星之音.」亦曰:「地雷.」於是僧旻僧曰:「非流星,是天狗也.其吠聲似雷耳.」

三月,乙酉朔丙戌,日蝕之.

是歲,蝦夷叛以不朝.即拜大仁上毛野君形名為將軍,令討.

還為蝦夷見敗,而走入壘,遂為賊所圍.軍眾悉漏城空之,將軍迷不知所如.

時日暮,踰垣欲逃.爰方名君妻嘆曰:「懷哉,為蝦夷將見殺!」則謂夫曰:「汝祖等渡蒼海,跨万里,平水表政,以威武傳於後葉.今汝頓屈先祖之名,必為後世見嗤!」乃酌酒,強之令飲夫,而親佩夫之劍,張十弓,令女人數十,俾鳴弦.既而夫更起之,取仗而進之.蝦夷以為,軍眾猶多,而稍引退之.於是散卒更聚,亦振旅焉.擊蝦夷大敗,以悉虜.

十年秋七月,丁未朔乙丑,大風之,折木發屋.

九月,霖雨,桃李華.

冬十月,幸有間溫湯宮.

是歲,百濟、新羅、任那,並朝貢.

十一年春正月,乙巳朔壬子,車架還自溫湯.

乙卯,新嘗.蓋因幸有間,以闕新嘗歟.

丙辰,無雲而雷.

丙寅,大風而雨.

己巳,長星見西北.時旻師曰:「彗星也,見則飢之.」

秋七月,詔曰:「今年,造作大宮及大寺.則以百濟川側為宮處.」是以西民造宮,東民作寺.便以書直縣為大匠.

秋九月,大唐學問僧-惠隱、惠雲,從新羅送使入京.

冬十一月,庚子朔,饗新羅客於朝.因給冠位一級.

十二月,己巳朔壬午,幸于伊豫溫湯宮.

是月,於百濟川側建九重塔.

十二年春二月,戊辰朔甲戌,星入月.

夏四月,丁卯朔壬午,天皇至自伊豫,便居廄阪宮.

是歲,改修理難波大郡及三韓館.

三年春二月,辛卯朔庚子,掖玖人歸化.

三月,庚申朔,百濟王-義慈,入王子-豐章為質.

秋九月,丁巳朔乙亥,幸于津國-有間溫湯.

冬十二月,丙戌朔戊戌,天皇至自溫湯.

四年秋八月,大唐遣高表仁,送三田耜.共泊于對馬.

是時,學問僧-靈雲、僧旻及勝鳥養,新羅送使等從之.

冬十月,辛亥朔甲寅,唐國使人-高表仁等,泊于難波津.則遣大伴連-馬養,迎於江口.

船三十二艘及鼓、吹、旗幟,皆具整飾.便告高表仁等曰:「聞天子所命之使,到于天皇朝.迎之.」時高表仁對曰:「風寒之日,飾整船艘以賜迎之,歡愧也.」於是令難波吉士-小槻、大河內直-矢伏,為導者到館前也.乃遣伊岐史-乙等、難波吉士-八牛,引客等入於館.

即日,給神酒.

五年春正月,己卯朔甲辰,大唐客-高表仁等歸國.

送使吉士雄摩呂、黑麻呂等,到對馬而還之.



彗星 即今之謂彗星是也



劍池 今橿原市石川町石川池



田中宮跡
今法滿寺,亦有伊勢部田中神社說



湯泉神社 有間溫泉即今有馬溫泉

五月,丁酉朔辛丑,大設齋.因以請惠隱僧,令說無量壽經.
冬十月,乙丑朔乙亥,大唐學問僧-清安、學生-高向漢人-玄理,傳新羅而至之.
仍百濟、新羅朝貢之使共從來之,則各賜爵一級.
是月,徙於百濟宮.
十三年冬十月,己丑朔丁酉,天皇崩于百濟宮.
丙午,殯於宮北.是謂-百濟大殯.是時東宮開別皇子,年十六而誅之.

日本書紀卷廿三 終

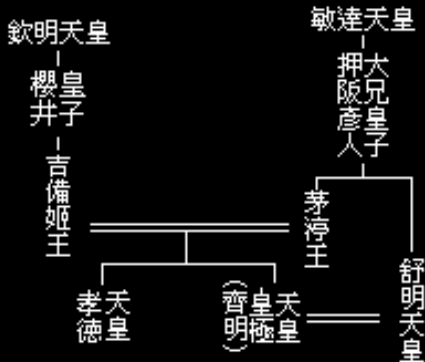


百濟大寺跡 今在櫻井市吉備
百濟宮,原通說為北葛城郡廣陵町百濟,然近年發現傾於百濟大寺附近.

[\[久遠・絆\]](#) [\[卷廿二\]](#) [\[卷廿四\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷廿四 皇極紀

天豐財重日足姬天皇 皇極天皇



一.皇后即位

天豐財重日足姬天皇,重日,此云……。淳中倉太珠敷天皇曾孫,押阪彥人大兄皇子孫,茅渟王女也。母曰-吉備姬王。

天皇順考古道,而為政也。

息長足日廣額天皇二年,立為皇后。

十三年十月,息長足日廣額天皇崩。

元年春正月,丁巳朔辛未,皇后即天皇位。以蘇我臣-蝦夷為大臣,如故。

大臣兒入鹿,更名鞍作。自執國政,威勝於父。由是盜賊恐攝,路不拾遺。

二.百濟與高句麗的政變

乙酉,百濟使人-大仁阿曇連比羅夫,從筑紫國乘驛馬來言:「百濟國聞天皇崩,奉遣弔使。臣隨弔使,共到筑紫。而臣望仕於葬,故先獨來也。然其國者今大亂矣。」

二月,丁亥朔戊子,遣阿曇山背連-比羅夫、草壁吉士-磐金、倭漢書直-縣,遣百濟弔使所,問彼消息。

弔使報言:「百濟國主謂臣言:『塞上恒作惡之,請付還使,天朝不許。』」百濟弔使儻人等言:「去年十一月,大佐平智積卒。又百濟使人擲崑倫使於海裏。今年正月,國主母薨。又弟王子兒翹岐及其母妹女子四人,內佐平岐味,有高名之人四十余,被放於島。」

壬辰,高麗使人泊難波津。

丁未,遣諸大夫於難波郡,檢高麗國所貢金銀等並其獻物。

使人貢獻既訖而諮云:「去年六月,弟王子薨。秋九月,大臣-伊犁柯須彌殺大王,并殺伊犁渠世斯等百八十余,仍以弟王子兒為王,以同姓都須流金流為大臣。」

戊申,饗高麗、百濟客於難波郡。

詔大臣曰:「以津守連-大海,可以使於高麗。以國勝吉士-水雞,可以使於百濟。水雞,此云……。以草壁吉士-真跡,可以使於新羅。以阪本吉士-長兄,可以使於任那。」

庚戌,召翹岐,安置於阿曇山背連家。

辛亥,饗高麗、百濟客。

癸丑,高麗使人、百濟使人並罷歸。

三月,丙辰朔戊午,無雲而雨。

辛酉,新羅遣賀騰極使與弔喪使。

庚午,新羅使人罷歸。

是月,霖雨。

夏四月,丙戌朔癸巳,大使翹岐,將其從者拜朝。

乙未,蘇我大臣於畝傍家喚百濟翹岐等,親對語話。仍賜良馬一疋、鐵二十鋌。唯不喚塞上。是月,霖雨。

五月,乙卯朔己未,於河內國依網屯倉前召翹岐等,令觀射獵。

庚午,百濟國調使船與吉士船,俱泊於難波津。蓋吉士前奉使於百濟乎。

壬申,百濟使人進調。吉士服命。

乙亥,翹岐從者一人死去。

丙子,翹岐兒死去。是時翹岐與妻,畏忌兒死,果不臨喪。凡百濟、新羅風俗,有死亡者,雖父母、兄弟、夫婦、姊妹,永不自看。以此而觀,無慈之甚,豈別禽獸。

丁丑,熟稻始見。

戊寅,翹岐將妻子移於百濟大井家,乃遣人葬兒於石川。



百濟古墳群

13代 武寧王(余隆) → 紀云島王

14代 聖王 (余明) → 即聖明王

15代 威德王(余昌) → 遣子於日

16代 惠王 (余季) → 邀日援軍

17代 法王 (余宣) → 傳聞孝順

18代 武王 (余璋) → 死後大亂

19代 義慈王(不明) → 亡命日本

百濟王室系譜

百濟武王崩於在位四十二年三月,唐贈以光祿大夫之號。亦封其嫡子義慈作柱國、帶方郡主、百濟王。武王死後百濟大亂,是以其子義慈王亡命日本。本文所云百濟國主,即義慈王也。



石川 古之河內國石川、錦部二郡翹岐兒死,葬於石川。雙親不往奔喪。五倫者,君臣,父子,夫婦,兄弟,朋友,故父慈子孝,當倫常之本也。而韓人之流俗如此,可見韓人素性,禽獸不如。



四天王像
是為佛法之守護神。本圖由左至右，各為多聞天，持國天，增長天，北目天。



飛鳥川
皇極天皇祈雨於南淵川上而天下溥潤。夫南淵在今明日香村稻淵一代，而南淵之川上，即指飛鳥川上游。



吉備池廢寺 百濟大寺跡
因發現金堂基盤而成為有力後補地。

三.祈雨,入鹿失敗,天皇成功

六月,己酉朔庚子,微雨。

是月,大旱。

秋七月,甲寅朔壬戌,客星入月。

乙亥,饗百濟使人-大佐平智積等於朝。或本云,百濟使人-大佐平智積及兒-達率,闕名,恩率軍善。

乃命健兒,相撲於翹岐前。智積等宴畢而退,拜翹岐門。

丙子,蘇我臣入鹿豎者,獲白雀子。

是日同時,有人以白雀納籠,而送蘇我大臣。

戊寅,群臣相語之曰:「隨村村祝部所教,或殺牛馬祭諸社神,或頻移市,或禱河伯,既無所效。」蘇我大臣報曰:「可於寺寺轉讀大乘經典。悔過如佛說,敬而祈雨。」

庚辰,於大寺南庭,嚴佛、菩薩像與四天王像,屈請眾僧,讀大雲經等。于時蘇我大臣手執香鑪,燒香發願。

辛巳,微雨。

壬午,不能祈雨,故停讀經。

八月,甲申朔,天皇幸南淵河上,跪拜四方,仰天而祈。即雷大雨,遂雨五日,溥潤天下。或本云,五日連雨,九穀登熟。於是天下百姓俱稱萬歲,曰:「至德天皇!」

己丑,百濟使、參官等罷歸。仍賜大舶與同船三艘。同船,・・・舟。

是日夜半,雷鳴於西南角而風雨。參官等所乘船舶,觸岸而破。

丙申,以小德授百濟質達率-長福,中客以下,授位一級。賜物各有差。

戊戌,以船賜百濟參官等,發遣。

己亥,高麗使人罷歸。

己酉,百濟、新羅使人罷歸。

九月,癸丑朔乙卯,天皇詔大臣曰:「朕思欲起造大寺,宜發近江與越之丁。百濟大寺。」復課諸國,使造船舶。

辛未,天皇詔大臣曰:「起是月,限十二月以來,欲營宮室。可於國國取殿屋材,然東限遠江,西限安藝,發造宮丁。」

癸酉,越邊蝦夷,數千內附。

四.天地異變續發

冬十月,癸未朔庚寅,地震而雨。

辛卯,地震。

是夜,地震而風。

甲午,饗蝦夷於朝。

丁酉,蘇我大臣設蝦夷於家,而躬慰問。

是日,新羅弔使船與賀藤極使船泊于壹岐島。

丙午夜中,地震。

是月,行夏令。無雲而雨。

十一月,壬子朔癸丑,大雨雷。

丙辰夜半,雷一鳴於西北角。

己未,雷五鳴於西北角。

庚申,天暖如春氣。

辛酉,雨下。

壬戌,天暖如春氣。

甲子,雷一鳴於北方而風發。

丁卯,天皇御新嘗。

是日,皇太子、大臣各自新嘗。

十二月,壬午朔,天暖如春氣。

甲申,雷五鳴於晝,二鳴於夜。

甲午,初發息長足日廣額天皇喪。

是日,小德巨勢臣-德太,代大派皇子而誄。次,小德栗田臣-細目,代輕皇子而誄。次,小德大伴連-馬飼,代大臣而誄。

乙未,息長山田公,奉誄日嗣。



玄界灘 壹岐島

壹岐島,位於今長崎縣北部玄界灘之島,全島為低平之溶岩台地。自古以來,就是行走對馬朝鮮航陸之要衝。



飛鳥之里

皇極元年十二月,葬長足日廣額天皇於滑谷岡。和漢三才圖會云:在大和國高市郡冬野村邊。即今日之明日香村是也。而詳細之所在地則未詳。

辛丑,雷三鳴於東北角.
庚寅,雷二鳴於東而風雨.
壬寅,葬息長足日廣額天皇于滑谷岡.
是日,天皇遷移於小墾田宮.或本云,遷於東宮南庭之權宮.
甲辰,雷一鳴於夜.其聲若裂.
辛亥,天暖如春氣.



傳小墾田宮跡
小墾田宮者,推古天皇居也.另,或本所云之權宮,意為暫定之宮居也.



葛城高宮
和名抄云,在大和國葛上郡高宮鄉.今奈良御所市森齋,宮戶週邊.

五.蘇我蝦夷・入鹿的專橫

是歲,蘇我大臣・蝦夷,立己祖廟於葛城高宮,而為八佾之舞,遂作歌曰:

大和・忍・廣瀨・渡・・・ 足結手作・ 腰作・・・



八佾舞
八佾者,八列也,乃為六十四人的方陣之舞.依禮數斷之,此舞僅有天子可行,故蘇我臣行八佾之舞,是僭越己職,不敬於天皇.詳見論語八佾篇.

蘇我為八佾舞歌:

夫渡大和忍廣瀨 足結手作腰繫帶
當渡過大和國忍海的廣瀨之時,足上綁上足結而腰肩繫上腰帶.



飛鳥板蓋宮跡

又盡發舉國之民,并百八十部曲,預造雙墓於今來,一曰-大陵,為大臣墓;一曰-小陵,為入鹿臣墓.望死之後,勿使勞人.更悉聚上宮乳部之民,乳部,此云・・・役使塋兆所.

於是上宮大娘姬發憤而歎曰:「蘇我臣專擅國政,多行無禮.天無二日,國無二王,何由任意悉役封民?」自茲結恨,遂取俱亡.是年也,太歲壬寅.

二年春正月,壬子朔旦,五色大雲,滿覆於天而闕於寅.一色青霧,周起於地.

辛酉,大風.

二月,辛巳朔庚子,桃華始見.

乙巳,雹傷草木華葉.

是月,風雷雨冰.行冬令.

國內巫覡等折取枝葉懸掛木棉,伺候大臣渡橋之時,爭陳神語入微之說.其巫甚多,不可悉聽.

三月,辛亥朔癸亥,災難波百濟客館堂與民家事.

乙亥,霜傷草木華葉.

是月,風雷雨冰.行冬令.

夏四月,庚辰朔丙戌,大風而雨.

丁亥,風起大寒.

己亥,西風而雹天寒.人著綿袍三領.

庚子,筑紫大宰馳驛奏曰:「百濟國主兒-翹岐弟王子,共調使來.」

丁未,自權宮移幸飛鳥板蓋新宮.

甲辰,近江國言:「雹下,其大徑一寸.」

五月,庚戌朔乙丑,月有蝕之.

六月,己卯朔辛卯,筑紫大宰馳驛奏曰:「高麗遣使來朝.」群卿聞而謂之曰:「高麗自己亥年不朝而今朝也.」

辛丑,百濟進調船,泊于難波津.

秋七月,己酉朔辛亥,遣數大夫於難波郡,檢百濟國調與獻物.於是,大夫問調使曰:「所進國調,欠少前例.送大臣物,不改去年所還之色.送群卿物,亦不全將來.背違前例,其狀何也?」大使-達率自斯、副使-恩率軍善,俱答諮曰:「即今可備.」自斯,質-達率武子之子.

是月,茨田池水大臭,小虫覆水.其虫口黑而身白.

八月,戊申朔壬戌,茨田池水變如藍汁,死虫覆水.

溝瀆之流,亦復凝結厚三四寸,大小魚臭如夏爛死.由是不中喫焉.

九月,丁丑朔壬午,葬息長足日廣額天皇于押阪陵.或本云,呼廣額天皇為高市天皇也.

丁亥,吉備島皇祖母命薨.

癸巳,詔土師娑婆連-豬手,視皇祖母命喪.

天皇自皇祖母命臥病及至發喪,不避床側,視養無倦.

乙未,葬皇祖母命于檀弓岡.

是日,大雨而雹.

丙午,罷造皇祖母命墓役.仍賜臣、連、伴造帛布各有差.

是月,茨田池水漸變成白色,亦無臭氣.



舒明天皇押阪內陵

皇極二年,舒明天皇改葬押阪內陵。

時人童謠:

小猿烹米燒岩上 務食其米通其道

噫乎山羊小父矣

小猿在岩上烹燒著食米,山羊小父啊,務必
吃下這燒米而離去吧。

六.蘇我入鹿襲擊斑鳩宮

十一月,丙子朔,蘇我臣入鹿遣小德巨勢德太臣、大仁土師娑婆連,掩山背大兄王等於斑鳩。或本云,以巨勢德太臣、倭馬飼首為將軍。於是,奴-三成與數十舍人,出而拒戰。土師娑婆連中箭而死,軍眾恐退,軍中之人相謂之曰:「一人當千,謂三成歟!」

山背大兄仍取馬骨,投置內寢,遂率其妃子并子弟等,得間逃出,隱膽駒山。三輪文屋軍、舍人田木連及其女,菟田諸石、伊勢阿部堅經,從焉。巨勢德太臣等燒斑鳩宮,灰中見骨,誤謂王死,解圍退去。

是由,山背大兄王等,四五日間,淹留於山,不得喫飯。三輪文屋君進而勸曰:「請移向於深草屯倉,從茲乘馬詣東國,以乳部為本,興師,還戰,其勝必矣!」山背大兄王等對曰:「如卿所道,其勝必然。但吾情冀,十年不役百姓,以一身之故,豈煩勞萬民?又於後世,不欲民言-由吾之故,喪己父母。豈其戰勝之後,方言丈夫哉?夫損身固國,不亦丈夫者歟?」

有人遙見上宮王等於山中,還道蘇我臣入鹿。入鹿聞而大懼,速發軍旅,述王所在於高向臣國。押曰:「速可向山求捉彼王。」國押報曰:「僕守天皇宮,不敢外出。」入鹿即將自往。

于時,古人大兄皇子喘息而來問:「向何處?」入鹿具說所由。古人皇子曰:「鼠伏穴而生,失穴而死。」入鹿由是止行,遣軍將等,求於膽駒。竟不能覓。

於是,山背大兄王等自山還入斑鳩寺,軍將等即以兵圍寺。於是山背大兄王使三輪文屋君謂軍將等曰:「吾起兵伐入鹿者,其勝定之。然由一身之故,不欲傷殘百姓。是以吾之一身,賜於入鹿!」終與弟子、妃妾,一時自經,俱死也。于時五色幡蓋,種種伎樂,照灼於空,臨垂於寺。眾人仰觀稱嘆,遂指示於入鹿。其幡蓋等變為黑雲,由是入鹿不能得見。

蘇我大臣-蝦夷聞山背大兄王等總被亡於入鹿,而嗔罵曰:「噫!入鹿極甚愚痴,專行橫暴!爾之身命,不亦殆乎?」時人說前謠之應曰:「以『岩・上・』,而喻上宮;以『小猿』,而喻林臣;林臣,入鹿也。以『米燒・』,而喻燒上宮;以『米・・・,食・・通・・,山羊・小父。』而喻山背王之頭髮班雜毛似山羊。」又曰:「棄捨其宮,匿深山相也。」

是歲,百濟太子-余豐,以蜜蜂房四枚,放養於三輪山。而終不蕃息。

冬十月,丁未朔己酉,饗賜群臣、伴造於朝堂庭,而議授位之事。遂詔國司:「如前所敕,更無改換。宜之厥任,慎爾所治。」

壬子,蘇武大臣-蝦夷,緣病不朝。私授紫冠於子入鹿,擬大臣之位。復呼其弟曰-物部大臣。大臣之祖母,物部弓削大連之妹,故因母財,取威於世。

戊午,蘇我入鹿獨謀將廢上宮王等,而立古人大兄為天皇。于時有童謠曰:

岩・上・ 小猿米燒・ 米・・・ 食・・通・・ 山羊・小父

蘇武臣入鹿,深忌上宮王等威名振於天下,獨謨僭立。

是月,茨田池水還清。



東院下層構造 斑鳩宮跡



膽駒山 即生駒山

蘇我入鹿襲擊斑鳩宮,三成與其軍交鋒,一騎當千,殺土師娑婆連。而山背大兄王則逃匿膽駒山中,不得喫飯。雖三輪文屋君進言取勝之法,山背大兄慮恐傷民而不採。其後,山背大兄與其弟子、妃妾,一同自經於斑鳩寺。

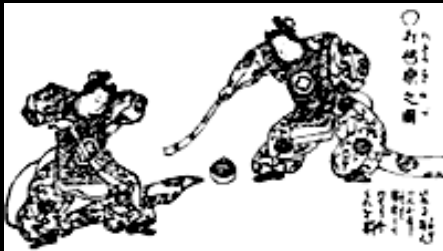
[\[久遠・絆\]](#) [\[卷廿三\]](#) [\[其之二\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷廿四 皇極紀

天豐財重日足姬天皇 皇極天皇



藤原鎌足
中臣氏,即其後的藤原氏.是以中臣鎌子者,便為藤原鎌足是也.



打鞠之圖

七.中臣鎌子與中大兄皇子,互展胸襟

三年春正月,乙亥朔,以中臣鎌子連拜神祇伯.再三固辭不就,稱疾退居三島.

于時輕皇子患腳不朝,中臣鎌子連曾善於輕皇子,故詣彼宮而將侍宿.輕皇子深識中臣鎌子連之義氣高逸,容止難犯,乃使寵妃阿倍氏,淨掃別殿,高鋪新蓐,靡不具給,敬重特異.

中臣鎌子連便感所遇而與舍人曰:「殊奉恩澤,過前所望!誰能不使王天下乎?」謂宛舍人為驅使也,舍人便以所語陳於皇子,皇子大悅.

中臣鎌子連為人忠正,有匡濟心,乃憤蘇我臣入鹿失君臣長幼之序,挾闕覬社稷之權,歷試接於王宗之中,而求可立功名哲主.便附心於中大兄,疏然未獲展其幽抱.

偶遇中大兄於法興寺槻樹之下打鞠之侶,而候皮鞋隨鞠脫落,取置掌中,前跪恭奉.中大兄對跪敬執.自茲相善俱述所懷,既無所匿.復恐他嫌頻接,而俱手把黃卷,自學周孔子教於南淵先生所.遂於路上,往還之間,並肩潛圖,無不相協.

於是,中臣鎌子建議曰:「謀大事者,不如有輔.請納蘇我倉山田石川麻呂長女為妃,而成婚姻之昵.然後陳說,欲與計事,成功之路,莫近於茲!」中大兄聞而大悅,曲從所議.

中臣鎌子連即自往媒要訖,而長女所期之夜被偷於族.族,謂身挾臣也.由是倉山田臣憂惶仰臥,不知所為.少女怪父憂惶,就而問曰:「憂惶何也?」父陳其由.少女曰:「願勿為憂.以我奉進,亦不復晚.」父便大悅,遂進其女.奉以赤心,更無所忌.中臣鎌子臣舉佐伯連-子麻呂、葛城稚犬養連-網田,於中大兄曰,云云.

八.預兆與謠歌

三月,休留產子於豐浦大臣大津宅倉.休留,茅鳴也.

倭國言:「頃者菟田郡人-押阪直,闕名.將一童子欣遊雪上.登菟田山,便見紫茵挺雪而生,高六寸余,滿四町許.乃使童子採取,還示鄰家.總言:『不知.』且疑毒物.於是押阪直與童子煮而食之,大有氣味.明日往見,都不在焉.押阪直與童子由喫菌羹,無病而壽.」或人云:「蓋俗不知芝草,而妄言菌乎.」

夏六月,癸卯朔,大伴馬飼連獻白和華.其莖長八尺,其本異而未連.

乙巳,志紀上郡言:「有人於三輪山見猿晝睡,竊執其臂,不害其身.猿猶合眼歌曰:『向・峰・立・夫・柔手・我・手・誰・裂手・裂手・我・手取・』其人驚怪猿歌,放捨而去.此是經歷數年,上宮王等為蘇我鞍作,圍於膽駒山之兆也.」

戊申,於劍池蓮中,有一莖二萼者.

豐浦大臣妄推曰:「是蘇我臣將來之瑞也!」即以金墨書,而獻大法興寺丈六佛.

是月,國內巫覡等折取枝葉,懸掛木綿,伺大臣渡橋之時,爭陳神語入微之說.其巫甚多,不可具聽.老人等曰:「移風之兆也.」

于時,有謠歌三首.其一曰:

遙遙・言・聞・島・藪原

其二曰:

遠方・淺野・雉・響・我・寢・人・響・

其三曰:

小林・我・引入・奸・人・面・知・家・知・

譯註:藤原鎌足與中大兄皇子
中臣鎌子連先依於輕皇子(孝德),其後之所以近中大兄皇子(天智)之由,記於藤原『家傳』云:「然皇子器量,不足與謀大事.更欲擇君,歷見王宗,唯中大兄,雄略英徹,可與撥亂.」



靈芝

時人謠歌:

遙遙言語鳥藪原 此言可遭聽聞也

在遠方的話也是會被聽聞的啊,鳥之藪原亦如是.

遠方淺野雉飛虛 如其不鳴吾寂寢
然者縱此人仍騷

就像遠方淺野的雉鳥不鳴而翔一般,我不發聲響的靜靜睡去,但是人們依舊為之騷動.
引我入林奸人者 不識其顏不知宅

誘我走入那小林的奸人,我既不知其面貌,亦不知其住所.

時人褒秦河勝歌:

縱聞此為神中神 太秦打懲常世神

就算傳聞常世神為神中之神,太秦河勝依舊奮身打懲其神啊.



前賢故實 秦河勝

九.時人之歌與秦河勝打懲常世神

秋七月,東國不盡河邊人-大生部-多,勸祭虫於村里之人曰:「此者常世神也.祭此神者,致富與壽!」巫覡等遂詐託於神語曰:「祭常世神者,貧人致富,老人還少!」由是加勸捨民家財寶,陳酒陳菜、六畜於路側,而使呼曰:「新富入來!」

都鄙之人取常世虫,置於清座,歌舞求福,棄捨珍財,都無所益,損費極甚.於是,葛野秦造河勝,惡民所惑,打大生部多.其巫覡等恐休勸祭.時人便作歌曰:

太秦・神・神・聞・來・常世・神・打・懲・

此虫者,常生於橘樹,或生於曼椒.曼椒,此云・・・其長四寸余,其大如頭指許,其色綠而有黑點,其貌全似養蠶.

十.蘇我氏由強轉弱之變兆

冬十一月,蘇我大臣蝦夷、兒入鹿臣,雙起家於甘橿岡.稱大臣家曰-上宮門,入鹿家曰-谷宮門.谷,此云・・・稱男女曰-王子.家外作城柵,門傍作兵庫.每門置盛水舟一,木鉤數十,以備火災,恒使力人持兵守家.

大臣使長直於大丹穗山,造鉾削寺.更起家於畝傍山東,穿池為城,起庫儲箭.恒將五十兵士,繞身出入.名-健人,曰-東方儂從者.氏氏人等入侍其門,名曰-祖子儒者.漢直等全侍二門.

四年春正月,或於阜嶺,或於河邊,或於宮寺之間,遙見有物而聽猿吟.或一十許,或二十許.就而視之,物便不見,尚聞鳴嘯之響,不能獲睹其身.時人曰:「此是伊勢大神之使也.」

舊本云,是歲,移京於難波,而板蓋宮為墟之兆也.

夏四月,戊戌朔,高麗學問僧等言:「同學鞍作得志,以虎為友,學取其術.或使枯山變為青山,或使黃地變為白水,種種奇術,不可殫究.又虎授其針曰:『慎矣慎矣,勿令人之.以此治之,病無不愈.』果如所言,治無不差.得志,恒以其針隱置柱中.於後虎折其柱,取針走去.高麗國知得志欲歸之意,與毒殺之.」



甘橿岡東麓遺跡
傳或為蘇我宅之跡地也.



大仁保神社 鉾削寺跡比定地



飛鳥板蓋宮復原圖



乙巳之變 暗殺蘇我入鹿圖

藤原鎌足恨入鹿專橫,欲暗殺之.使以命倉山田麻呂唱表,子麻呂與網田執劍.然子麻呂懼於入鹿威,以水送飯而反吐,險些誤事.倉山田麻呂亦惶,汗流沃身.中大兄皇子見事不對機,故大叱咄嗟,出奇不意以劍傷入鹿頭肩.子麻呂則傷入鹿腳.

十一.蘇我氏滅亡

六月,丁酉朔甲辰,中大兄密謂倉山田麻呂臣曰:「三韓進調之日,必將使卿讀唱其表.」遂陳欲斬入鹿之謀.麻呂臣奉許焉.

戊申,天皇御大極殿,古人大兄侍焉.中臣鎌子連知蘇我入鹿臣為人多疑,晝夜持劍,而教俳優,方便令解.入鹿臣笑而解劍,入侍于座.倉山田麻呂臣進而讀唱三韓表文.

於是,中大兄戒衛門府,一時俱鎖十二通門,勿使往來.召聚衛門府於一所,將給祿.

時,中大兄即自執長槍,隱於殿側.中臣鎌子連等持弓矢而為助衛.使海犬養連-勝麻呂授箱中兩劍於佐伯連-子麻呂與葛城稚犬養連-網田曰:「努力努力,急須應斬!」子麻呂等以水送飯,恐而反吐.中臣鎌子連噴而使勵.

倉山田麻呂臣恐唱表文將盡,而子麻呂等不來,汗流沃身,亂聲動手.鞍作臣怪而問曰:「何故掉戰?」山田麻呂對曰:「恐近天皇,不覺流汗.」

中大兄見子麻呂等畏入鹿威,便旋不盡曰:「咄嗟!」即共子麻呂等,出其不意,以劍傷割入鹿頭肩.入鹿驚起,子麻呂運手揮劍,傷其一腳.入鹿轉就御座,叩頭曰:「當居嗣位,天之子也!臣不知罪,乞垂審察!」天皇大驚,詔中大兄曰:「不知所作,有何事耶?」中大兄伏地奏曰:「鞍作盡滅天宗,將傾日位.豈以天孫代鞍作乎!蘇我臣入鹿,更名鞍作.」天皇即起入殿中.佐伯連-子麻呂、稚犬養連-網田,斬入鹿臣.

是日,雨下,潦水溢庭,以席、障子,覆鞍作屍.古人大兄見,走入私宮,謂於人曰:「韓人殺鞍作臣,謂因韓政而誅.吾心痛矣!」即入臥內,社門不出.

中大兄即入法興寺,為城而備.凡諸皇子、諸王、諸卿大夫、臣、連、伴造、國造,悉皆隨侍.使人賜鞍作臣屍於大臣蝦夷.於是漢直等總聚眷屬,還甲持兵,將助大臣設軍陣.

中大兄使將軍巨勢德陀臣以天地開闢君臣始有說於賊黨,令知所起.於是,高向國押謂漢直等曰:「吾等由君大郎,應當被戮.大臣亦於今日明日,立伺其誅決矣.然則為誰空戰?盡被刑



蘇我入鹿首塚

大化革新之肇,中臣鎌足以佐伯連子
麻呂、稚犬養連網田二人,斬蘇我入鹿
(鞍作臣)於飛鳥板蓋宮.據傳方斬首
之時,入鹿之生首飛躍,終落於此.

乎!」言畢解劍投弓,捨此而去,賊徒亦隨散走.

己酉,蘇我臣蝦夷等臨誅,悉燒天皇記、國記、珍寶.船使-惠尺即疾取所燒國記而奉中大兄.
是日,蘇我臣蝦夷及鞍作屍許葬於墓,復許哭泣.

於是,或人說第一謠歌曰:「其歌所謂:『遙遙・言・聞・・,鳥・藪原.』此即宮殿接起於鳥
大臣家,而中大兄與中臣鎌子連密圖大義,謀戮入鹿之兆也.」說第二謠歌曰:「其歌所謂:『遠
方・,淺野・雉,響・・,我・寢・・・,人・響・.』此即上宮王等性順,都無有罪,而為入鹿見
害.雖不自報,天使人誅之兆也.」說到三謠歌曰:「其歌所謂:『小林・,我・引入・・,奸・人
・,面・知・・,家・知・・・.』此即入鹿臣忽於宮中為佐伯連-子麻呂、稚犬養連-網田所斬
之兆也.」

庚戌,讓位於輕皇子,立中大兄為皇太子.

日本書紀卷廿四 終

[\[久遠・絆\]](#) [\[其之一\]](#) [\[卷廿五\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷廿五 孝德紀

天万豐日天皇 孝德天皇

一.王位禪讓

天万豐日天皇,天豐財重日足姬天皇同母弟也。

尊佛法,輕神道.斷,生國魂社樹之類,是也。為人柔仁好儒,不擇貴賤,頻降恩敕。

天豐財重日足姬天皇四年六月,庚戌,天豐財重日足姬天皇思欲傳位於中大兄而詔曰,云云。中大兄退,語於中辰鎌子連。中臣鎌子連議曰:「古人大兄,殿下之兄也;輕皇子,殿下之舅也。方今,古人大兄在,而殿下陟天皇位,便違人弟恭遜之心。且立舅以達民望,不亦可乎?」於是,中大兄深嘉厥議,密以奏文。天豐財重日足姬天皇,授璽禪位。策曰:「咨,爾輕皇子!」云云。

輕皇子再三固辭,轉讓於古人大兄皇,更名,古人大市皇子。曰:「大兄命是昔天皇所生,而又年長,以斯二理,可居天位。」於是古人大兄避座逡巡,拱手辭曰:「奉順天皇聖旨,何勞推讓於臣?臣願出家入于吉野,勤修佛道,奉佑天皇!」辭訖,解所配刀,投擲於地,亦命帳內皆令解刀。即自詣於法興寺佛殿與塔間,剃除髻髮,披著袈裟。由是輕皇子不得固辭,升壇即祚。

于時,大伴長德連,字-馬飼,帶金韃立於壇右;犬上健部君帶金韃立於壇左。百官臣、連、國造、伴造、百八十部,羅列匝拜。



萬物雛形畫譜 孝德天皇
輕皇子繼天皇之位,是為孝德天皇。

二.新政權的發動

是日,奉號於豐財天皇,曰-皇祖母尊。以中大兄為-皇太子。以阿倍內麻呂臣為-左大臣。以大錦冠授中臣鎌子連,為-內臣,增封若干戶,云云。中臣鎌子連懷至忠之誠,據宰相之勢,處官司之上。故進退廢置計從事立,云云。以沙門-旻法師、高向使-玄理為國博士。

辛亥,以金策賜阿倍倉梯麻呂大臣與蘇我山田石川麻呂大臣。或本云,賜練金。

乙卯,天皇、皇祖母尊、皇太子於大槻樹之下召集群臣,盟曰,告天神地祇曰:「天覆地載,帝道唯一。而末代澆薄,君臣失序。天皇假手於我,誅殄暴逆。今共瀝心血,而自今以後,君無二政,臣無貳朝。若貳此盟,天災地妖,鬼誅人伐,皎如日月也!」改天豐財重日足姬天皇四年,為大化元年。

大化元年秋七月,丁卯朔戊辰,立息長足日廣額天皇女-間人皇女為皇后。立二妃。

元妃,阿倍倉梯麻呂大臣女,曰-小足媛。

生,有間皇子。

次妃,蘇我山田石川麻呂大臣女,曰-乳娘。

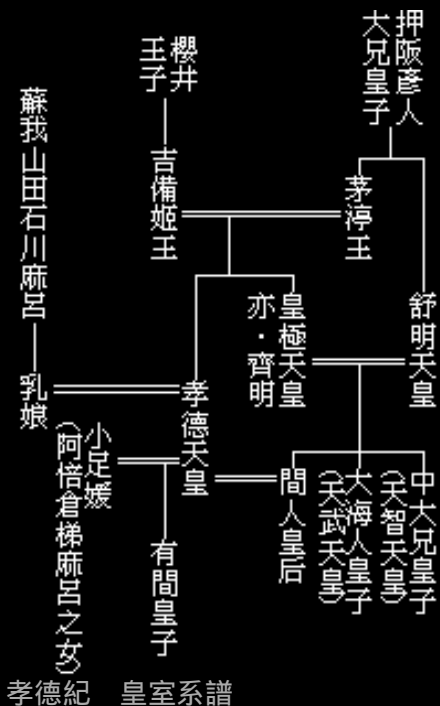
丙子,高麗、百濟、新羅並遣使進調。唯百濟大使-佐平緣福,遇病留津館而不入京。巨勢德太臣詔於高麗使曰:「明神御宇日本天皇詔旨:『天皇所遣之使與高麗神子奉遣之使,既往短而將來長。是故,可以溫和之心,相繼往來而已。』」又詔於百濟使曰:「明神御宇日本天皇詔旨:『始我遠皇祖之世,以百濟國為內官家,譬如三絞之綱。中間以任那國屬賜百濟。後遣三輪栗隈君東人,觀察任那國界。是故百濟王隨敕悉示其界,而調有闕。由是卻還其調。任那所出物者,天皇之所明覽。夫自今以後,可具題國與所出調。汝佐平等不易面來,早須明報。今重遣三輪君東人、馬飼造,闕名。』」又敕:「可送遣鬼部達率意斯妻子等。」

戊寅,天皇詔阿倍倉梯萬侶大臣、蘇我石川萬侶大臣曰:「當遵上古聖王之跡,而治天下!復,當有信,可治天下!」

己卯,天皇詔阿倍倉梯麻呂大臣、蘇我石川萬侶大臣曰:「可歷問大夫與百伴造等,以悅使民之路!」

庚辰,蘇我石川麻呂大臣奏曰:「先以祭鎮神祇,然後應議政事。」

是日,遣倭漢直比羅夫於尾張國,忌部首子麻呂於美濃國,課供神之幣。



孝德紀 皇室系譜



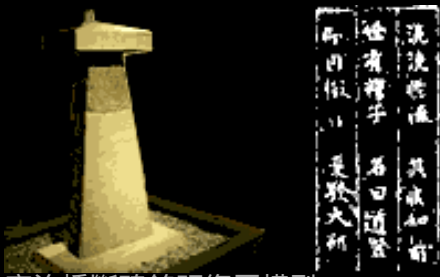
神幣 此有為大嘗或道饗之用二說。

三.東國國司發遣

八月,丙申朔庚子,拜東國等國司.仍詔國司等曰:「隨天神之所奉寄,方今始將修萬國.凡國家所有公民,大小所領人眾,汝等之任,皆作戶籍,及校田畝.其園池水陸之利與百姓俱.又國司等在國不得判罪,不得取他貨賂,令致民於貧苦.上京之時,不得多從百姓於己.唯得使從國造、郡領.但以公事往來之時,得騎部內之馬,得餐部內之飯.介以上,奉法,必須褒賞,違法,當降爵位.判官以下,取他貨賂,二倍徵之,遂以輕重科罪.其長官從者九人,次官從者七人,主典從者五人,若違限外將者,主與所從之人並當科罪.若有求名之人,元非國造、伴造、縣稻置,而輕詐訴言:『自我祖時,領此官家,治是郡縣.』汝等國司不得隨詐便牒於朝,審得實狀而後可申.又於閑曠之所起造兵庫,收聚國郡刀、甲、弓、矢,邊國近與蝦夷接境處者,可盡數及其兵,而猶假授本祖.其於倭國六縣被遣使者,宜造戶籍,并校田畝.謂檢覈墾田頃畝及民戶口年紀.汝等國司,可明聽退!」即賜帛布各有差.



長門國衙跡
大正元年八月,廢原國造之職,確立中央集權組織.在此任命東國國司前往各國國府治理東國八道,國司等所以辦公之政廳,稱作「國衙」圖為長府圖書館附近.長門國衙跡比定地.



宇治橋斷碑銘既復原模型
碑銘「名曰道登」,可見道登之名.



安倍文殊院
大化元年阿倍倉梯麻呂奉敕建立.是為安倍一族之氏寺,亦稱作安倍寺.

五.古人皇子謀反,遷都難波

九月,丙寅朔,遣使者於諸國,治兵.或本云,從六月至九月,遣使者於四方國,集種種兵器.
戊辰,古人皇子,與蘇我田口臣-川堀、物部朴井連-椎子、吉備笠臣-垂、倭漢文-直麻呂、朴市秦造-田來津,謀反.或本云,古人太子.或本云,古人大兄.此皇子入吉野山,故或云-吉野太子.垂,此云...

丁丑,吉備笠臣-垂,自首於中大兄曰:「吉野古人皇子與蘇我田口臣-川堀等謀反.臣預其徒.」或本云,吉備笠臣-垂,言於阿倍大臣與蘇武大臣曰:「臣預於吉野皇子謀反之徒,故今自首也.」中大兄即使菟田朴室古、高麗宮知、將兵若干,討古人大市皇子等.

或本云,十一月,甲午三十日,中大兄使阿倍渠曾伯臣、佐伯部子麻呂二人,將兵三十人,攻古人大兄,斬古人大兄與子.其妃妾自經死.或本云,十一月,吉野大兄王謀反,事覺伏誅也.

甲申,遣使者於諸國,錄民元數.仍詔曰:「自古以降,每天皇時,置標代民,垂名於後.其臣、連等,伴造、國造,各置己民,恣情驅使,又割國縣山海、林野、池田,以為己財,爭戰不已.或者兼并數萬頃田,或者全無容針少地.進調賦時,其臣、連、伴造等,先自收斂,然後分進.修治宮殿,築造園陵,各率己民,隨事而作.易曰:『損上益下,節以制度,不傷財,不害民.』方今百姓猶之.而有勢者,分割水陸,以為私地,賣予百姓,年索其價.從今以後,不得賣地!」百姓大悅.

冬十二月,乙未朔癸卯,天皇遷都-難波長柄豐碕.老人等相謂之曰:「自春至夏,鼠向難波,遷都之詔也.」

戊午,越國言:「海畔枯查向東移去.沙上有跡,如耕田狀.」是年也,太歲乙巳.



吉野川
方時,吉野為佛教之宗教聖地,其後大海人皇子(天武)亦入吉野出家.



史蹟 孝德天皇難波長柄豐宮跡



名張川
畿內、畿外之分界，名壑橫河名張川。



驛鈴 鈴契者，驛鈴，關契是也。



明日香 棚田

大化改新之詔，其一-公地公民制，其二-國郡里制，其三-班田收授法，其四-新式調稅制。另，子代離宮所在不詳。

六.改立新詔

二年春正月，甲子朔，賀正禮畢，即宣改新之詔曰：

其一曰，罷昔在 天皇等所立子代之民、處處屯倉、及別臣、連、伴造、國造、村首所有部曲之民、處處田莊。仍賜食豐太夫以上，各有差。又曰，大夫所使治民也，能盡其治則民賴之。故，重其祿，所以為民也。

其二曰，初修京師，置畿內國司、郡司、關賚、斥候、防人、驛馬、傳馬、及造鈴契，定山河。凡京，每坊置長一人，四坊置令一人。掌按檢戶口，督察奸非。其坊令，取坊內明廉強直，堪時務者。宛里坊長，並取里坊百姓清正強幹者。宛若當里坊無人，聽於比里坊簡用。凡畿內，東自名壑橫河以來，南自紀伊兄山以來，兄此云・西自赤石櫛淵以來，北自近江狹狹波合阪山以來為畿內國。凡郡以四十里為大郡，三十里以下四里以上為中郡，三里為小郡。其郡司，並取國造性識清廉，堪時務者，為大領、少領，強幹聰敏工書算者為主政、主帳。凡給驛馬、傳馬、皆依鈴、傳符剋數。凡諸國及關，給鈴契，並長官執，無次官執。

其三曰，初造戶籍、記帳、班田收授之法。凡五十戶為里，每里置長一人。掌按檢戶口，課執農桑，禁察非違，催驅賦役。若山谷阻險，地遠人稀之處，隨便量置。凡田長三十步，廣十二步為段，十段為町。段租稻二束二把，町租稻二十二束。

其四曰，罷舊賦役，而行田之調。凡絹、絕、絲、棉，並隨鄉土所出。田一町絹一丈，四町成疋。長四丈，廣二尺半。絕二丈，二町成疋。長、廣同絹。布四丈，長廣同絹。絕一町成端。絲、綿絢屯，諸處不見。別收戶別之調，一戶賞布一丈二尺。凡調副物鹽贄，亦隨鄉土所出。凡官馬者，中馬每一百戶輸一疋，若細馬每兩百戶輸一疋。其買馬直者，一戶布一丈二尺。凡兵者人身輸刀、甲、弓、矢、幡、鼓。凡仕丁者改舊每三十戶一人，以一人宛廩也。而每五十戶一人，以一人宛廩。以宛諸司。以五十戶宛仕丁一人之糧。一戶庸布一丈二尺，庸米五斗。凡采女者貢郡少領以上姊妹及子女形容端正者。從丁一人，從女二人。以一百戶宛采女一人糧。庸布、庸米、皆准仕丁。

是月，天皇御-子代離宮。遣使者，詔郡國修營兵庫。蝦夷親附。或本云，壞難波狹屋部邑子代屯倉而起行宮。

七.鍾匱之制與其後發展

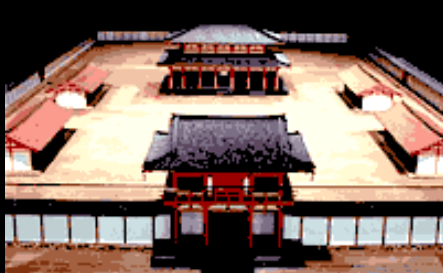
二月，甲午朔戊申，天皇幸宮東門，使蘇我右大臣詔曰：「明神御宇日本倭根子天皇，詔於集侍卿等、臣、連、國造、伴造及諸百姓：『朕聞，明哲之御民者，懸鍾於門而觀百姓之憂，作屋於衢而聽路行之謗。雖芻蕘之說，親問為師。由是朕前下詔曰：『古之治天下，朝有進善之旌，毀謗之木。所以通治道，而來諫者也。皆所以廣詢于下也。管子曰：『黃帝立明堂之議者，上觀於賢也；堯有衢室之問者，下聽於民也；舜有告善之旌，而不主蔽也；禹立建鼓於朝，而備訊望也；湯有總街之庭，以觀民非也；武王有靈台之囿，而賢者進也。此故聖帝明王所以有而勿失，得而勿亡也。』所以懸鍾設置，拜收表人。使憂諫人，納表于匱，詔收表人，每旦奏請，朕得奏請，仍示群卿，便使勘當，庶無留滯。如群卿等，或懈怠不勤，或阿黨比周，朕復不肯聽諫，憂訴之人當可撞鍾。』詔已如此。既而有民明直心，懷國土之風，切諫陳疏，納於設置。故今顯示集在黎民。其表稱：『緣奉國政，到於京民，官官留使於雜役。』云云。朕猶以之傷惻，民豈復思至此。然遷都未久，還似于實。猶是不得不使，而強役之。每念於斯，未嘗安寢。朕觀此表，嘉歎難休。故隨所諫之言，罷處處之雜役。昔詔曰：『諫者題名。』而不隨詔命者，自非求利，而將助國。不言題不，諫朕忘廢！』」

又詔：「集在國民，所訴多在。今將解理，諦聽所宣。其欲決凝，入京朝集者，且莫退散，聚侍於朝。」高麗、百濟、任那、新羅，並遣使，貢獻調賦。

乙卯，天皇還自子代離宮。

萬事得其序。六曰：子代離宮。前高麗、百濟、任那、新羅，並遣使，貢獻調賦。其時，天皇幸宮東門，使蘇我右大臣詔曰：「明神御宇日本倭根子天皇，詔於集侍卿等、臣、連、國造、伴造及諸百姓：『朕聞，明哲之御民者，懸鍾於門而觀百姓之憂，作屋於衢而聽路行之謗。雖芻蕘之說，親問為師。由是朕前下詔曰：『古之治天下，朝有進善之旌，毀謗之木。所以通治道，而來諫者也。皆所以廣詢于下也。管子曰：『黃帝立明堂之議者，上觀於賢也；堯有衢室之問者，下聽於民也；舜有告善之旌，而不主蔽也；禹立建鼓於朝，而備訊望也；湯有總街之庭，以觀民非也；武王有靈台之囿，而賢者進也。此故聖帝明王所以有而勿失，得而勿亡也。』所以懸鍾設置，拜收表人。使憂諫人，納表于匱，詔收表人，每旦奏請，朕得奏請，仍示群卿，便使勘當，庶無留滯。如群卿等，或懈怠不勤，或阿黨比周，朕復不肯聽諫，憂訴之人當可撞鍾。』詔已如此。既而有民明直心，懷國土之風，切諫陳疏，納於設置。故今顯示集在黎民。其表稱：『緣奉國政，到於京民，官官留使於雜役。』云云。朕猶以之傷惻，民豈復思至此。然遷都未久，還似于實。猶是不得不使，而強役之。每念於斯，未嘗安寢。朕觀此表，嘉歎難休。故隨所諫之言，罷處處之雜役。昔詔曰：『諫者題名。』而不隨詔命者，自非求利，而將助國。不言題不，諫朕忘廢！』」

詔之前文，雖初出於『管子』桓公問篇，不過並非直接引用。該詔文實引自『藝文類聚』卷十一-總載帝王。



國領神社藏 國廳復原模型



南海道 出雲國廳跡地



菟碓 駿河國有度郡(今靜岡市南)



大嘗宮

大嘗祭者,天皇即位後首次之新嘗祭是也.平安末期一度停辦,於明智維新後又再度恢復舉行.文中所言「將幣諸神」云云,當指大嘗祭之準備.

八.東國國司論功行賞

三月,癸亥朔甲子,詔東國國司等曰:「集侍群卿大夫及臣、連、國造、伴造并諸百姓等,咸可聽之.夫君於天地之間而宰萬民者,不可獨制,要須臣翼.由是代代之我皇祖等,共卿祖考俱治.朕復思欲蒙神護力,共卿等治.故前以良家大夫使治東方八道.既而國司之任,六人奉法,二人違令,毀譽各聞.朕便美厥奉法,疾斯違令.凡將治者,若君如臣,先當正己而後正他.如不自正,何能正人?是以不自正者,不擇君臣,乃可受殃.豈不慎矣?汝率而正,孰敢不正?今隨前敕而處斷之!」

辛巳,詔東國朝集使等曰:「集侍群臣大夫及國造、伴造并諸百姓等,咸可聽之.以去年八月,朕親誨曰:『莫因官勢,取公私物.可喫部內之食,可騎部內之馬.若違所誨,次官以上降其爵位,主典以下決其笞.杖入己物者,倍而徵之.』詔既若斯.今問朝集使及諸國造等:『國司至任,奉所誨不?』於是朝集使等具陳其狀:『穗積臣-咋所犯者,於百姓中每戶求索,仍悔還物,而不盡與.其介富制臣-闕名、巨勢臣-紫壇二人之過者,不正其上,云云.凡以下官人,咸有過也;其巨勢德禰臣所犯者,於百姓中每戶求索,仍悔還物,而不盡與,復取田部之馬.其介朴井連、押阪連、闕名.二人者,不正其上所失,而翻共求己利,復取國造之馬.台直須彌,初雖諫上,而遂俱濁.凡以下官人,咸有過也;其紀麻利耆拖臣所犯者,使人於朝倉君、井上君,二人之所,而為牽來其馬視之.復使朝倉君作刀,復得朝倉君之弓、布.復以國造所送兵代之物,不明還主,妄傳國造.復於所任之國被他偷刀,復於倭國被他偷刀.是其紀臣、其介三輪君-大口、河邊臣-百依等過也.其以下官人,河邊臣-磯泊、丹比-深目、百舌鳥-長兄、葛城-福草、難波-癰龜、癰龜,此云……犬養-五十君、伊岐-史麻呂、丹比-大眼,凡是八人等,咸有過也;其阿曇連,闕名.所犯者,和德史有所患時,言於國造,使送官物.復取湯部之馬;其介膳部臣-百依所犯者,草代之物收置於家,復取國造之馬,而換他馬來.河邊臣-磐管、湯麻呂兄弟二人亦有過也;大市連,闕名.所犯者,違於前詔.前詔曰:『國司等,莫於任所自斷民之所訴.』輕違斯詔,自判免礪人之所訴及中臣-德之奴事.中臣-德亦是同罪;涯田臣,闕名.之過者,在於倭國被偷官刀,是不謹也.小綠臣、丹波臣,並闕名.是拙而無犯.忌部-木果、中臣連-正月,二人亦有過也.羽田臣、田口臣,並闕名.二人並無過也;平群臣,闕名.所犯者,三國人所訴有而未問.』以此觀之,紀麻利耆拖臣、巨勢德彌臣、穗積咋臣,汝等三人所怠拙也.念斯違詔,豈不勞情!夫為君臣以牧民者,自率而正,孰敢不直?若君或臣,不正心者,當受其罪.追悔何及!是以凡諸國司,隨過輕重,考而罰之.又諸國造違詔送財於己國司,遂俱求利,恒懷穢惡,不可不治!念雖若是,始處新宮將幣諸神,屬乎今歲.又於農月,不合使民,緣造新宮,固不獲己.深感二途,大赦天下.自今以後,國司、郡司勉之勗之,勿為放逸!宜遣使者,諸國流人及獄中囚,一皆放捨.別鹽屋-鯨魚、鯨魚,此云……神社-福草、朝倉君、碗子連、三河大伴直、蘆尾直,四人並闕名.此六人奉順天皇.朕讚美厥心,宜罷官司處處屯田及吉備島皇祖母處處貸稻,以其屯田班賜群臣及伴造等.又於脫籍寺,入田與山!」

壬午,皇太子使使奏請曰:「昔在天皇等世,混齊天下而治.及逮于今,分離失業,謂國業也.屬天皇我皇可牧萬民之運,天人合應,厥政維新.是故慶之尊之,頂戴伏奏.現為明神御八島國天皇,問於臣曰:『其群臣、連及伴造、國造所有昔在天皇日所置子代入部,皇子等私有御名入部皇祖大兄御名入部,謂彥人大兄也.及其屯倉,猶如古代而置以不?』臣即恭承所詔,奉答而曰:『天無雙日,國無二王.是故兼并天下可使萬民,唯天皇爾!別以入部及所封民,簡宛仕丁,從前處分.自餘以外,恐私驅役.故獻入部五百二十四口、屯倉一百八十一所.』」

[\[久遠・絆\]](#) [\[卷廿四\]](#) [\[其之二\]](#) [\[再臨詔\]](#)

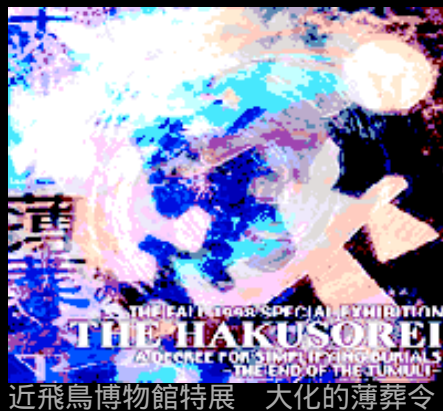
日本書紀 卷廿五 孝德紀

天萬豐日天皇 孝德天皇

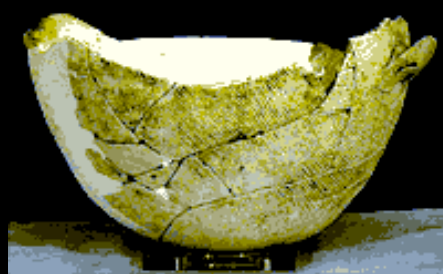
九.薄葬令與舊俗的廢止

甲申,詔曰:「朕聞,西土之君戒其民曰:『古之葬者,因高為墓,不封不樹,棺槨足以朽骨,衣衾足以朽肉而已。故吾營此丘墟,不食之地,欲使易代之後,不知其所,無藏金、銀、銅、鐵,一以瓦器,合古塗車、芻靈之義。棺漆際會三過,飯含無以珠玉,無施珠襦、玉柩,諸愚俗所為也!』又曰:『夫葬者藏也,欲人之不得見也。』迺者我民貧絕,專由營墓,爰陳其制,尊卑使別。夫王以上之墓者,其內長九尺,闊五尺,其外域,方九尋,高五尋,役一千人,七日使訖。其葬時帷帳等用白布,有輜車;上臣之墓者,其內長、闊及高,皆准於上。其外域方七尋,高三尋,役五百人,五日使訖。其葬時帷帳等用白布,擔而行之;蓋此以肩擔輿而送之乎。下臣之墓者,其內長、闊及高,皆准於上。其外域方五尋,高二尋半,役二百五十人,三日使訖。其葬時帷帳等用白布,亦准於上。大仁、小仁之墓者,其內長九尺,高、闊各四尺,不封使平,役一百人,一日使訖;大禮以下小智以上之墓者,皆准大仁。役五十人,一日使訖;凡王以下小智以上之墓者,宜用小石。其帷帳等宜用白布;庶人亡時,收埋於地。其帷帳等可用粗布。一日莫停;凡王以下及至庶民,不得營殯。凡自畿內及諸國等,宜定一所而使收埋,不得汙穢散埋處處。凡人死亡之時,若經自殉,或絞人殉,及強殉亡人之馬,或為亡人藏寶於墓,或為亡人斷髮刺股而誅。如此舊俗,一皆悉斷!或本云,無藏金、銀、錦、綾五綵。又曰,凡自諸臣及至于民,不得用金、銀。縱有違詔犯所禁者,必罪其族。復有,見言不見,不見言見,聞言不聞,不聞言聞,都無正語正見,巧詐者多。復有,奴婢欺主貧困,自託勢家求活,勢家仍強留買,不送本主者多。復有,妻妾為夫被放之日,經年之後,適他恒理。而此前夫三四年後,貪求後夫財物,為己利者甚眾。復有,恃勢之男浪要他女而未納際,女自適人,其浪要者噴求兩家財物,為己利者甚眾。復有,亡夫之婦若經十年及二十年,適人為婦,并未嫁之女始勢人時,於是嫉斯夫婦,使被除。復有,為妻被嫌離者特由慚愧所惱,強為事瑕之婢。事瑕,此云……復有,屢嫌己婦姦他,好向官司請決。假使得明三証,而俱顯陳,然後可諮。詎生浪訴。復有,被役邊畔之民事了還鄉之日,忽然得疾,臥死路頭。於是路頭之家乃謂之曰:『何故使人死於余路?』因留死者友伴,強使被除。由是兄雖臥死於路,其弟不收者多。復有,百姓溺死於河逢者,乃謂之曰:『何故於我使遇溺人?』因留溺者友伴,強使被除。由是兄雖溺死於河,其弟不救者眾。復有,被役之民,路頭炊飯,於是路頭之家乃謂之曰:『何故任情炊飯余路?』強使被除。復有,百姓就他借甑炊飯,其甑觸物而覆,於是甑主乃使被除。如是等類,愚俗所染,今悉除斷,勿使復為!復有,百姓臨向京日,恐所乘馬疲瘦不行,以布二尋、麻二束送參河、尾張兩國之人,雇令養飼,乃入于京。於還鄉日,送鋤一口。而參河人等不能養飼,翻令瘦死。若是細馬,即生貪愛,工作謾語,言被偷失。若是牝馬孕於己家,便使被除,遂奪其馬。飛聞若是,故今立制,凡養馬於路傍國者將被雇人,審告村首,首長也。方授訓物,其還鄉日,不須更報。如致疲損,不合得物。縱違斯詔,將科重罪!罷市司、要路津濟渡子之調賦,給與田地!凡始畿內及四方國,當農作月,早務營田,不合使喫美物與酒。宜差清廉使者告於畿內。其四方諸國國造等,宜擇善使,依詔催勸!」

	石室	墳丘	役夫	葬具
王以上	長九尺 高不明 廣五尺	方九尋 高五尋	一千人 工七日	帷帳等 以白布 用輜車
上臣	同上	方七尋 高三尋	五百人 工五日	同上 擔而行
下臣	同上	五尋 高二尋半	二五〇人 工三日	同上
大仁・小仁	長九尺 高四尺 廣四尺	無	無	同上
大禮・小智	同上	無	無	同上
庶民	無	無	無	帷帳等 以粗布



近飛鳥博物館特展 大化的薄葬令



土師器甑 用以炊飯之具



大阪府高津高等學校 高津宮跡碑
蝦蟇行宮,所在未詳。而蝦蟇音同川
津,當近難波堀江。固有此行宮營造於
仁德天皇難波高津宮故地之說。

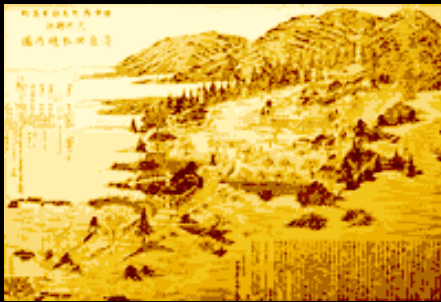
十.品部廢止

秋八月,庚申朔癸酉,詔曰:「原夫天地陰陽,不使四時相亂。惟此天地,生乎万物,萬物之內,人是最靈。最靈之間,聖為人主。是以聖主天皇,則天御宇,思人獲所,暫不廢胸。而始王之名名、臣、連、伴造、國造,分其品部,別彼名名。復以其民品部,交雜使居國縣。遂使父子易姓,兄弟異宗,夫婦更互殊名,一家五六分割。由是爭競之訟,盈國充朝,終不見治,相亂彌盛。粵以,始於今之御宇天皇及臣、連等,所有品部,宜悉接罷,為國家民。其假借王名為伴造,其襲據祖名為臣、連,斯等深不悟情,忽聞若是所宣,當思:『祖名所借滅。』由是預宣,使聽知朕所懷。王者之兒,相續御宇,信知時帝與祖名,不可見忘於世。而以王名輕掛川野呼名,百姓誠可畏焉。凡王者之號將隨日月遠流,祖子之名可共天地長往。如是思故宣之。始於祖子奉仕卿大夫、臣、連、伴造、氏氏人等,或本云,名名王民。咸可聽聞。今以汝等使仕狀者,改去舊職,新設百官,及著位階,以官位敘。今發遣國司,并彼國造,可以奉聞。去年付於朝集之政者,隨前處分,以收數田,均給於民。勿生彼我。凡給田者,其百姓家近接於田,必先於近。如此奉宜。凡調賦者,可收男身之調。凡仕丁者,每五十戶一人,宜觀國國疆界,或書或圖持來奉示。國縣之名,來時將定。國國可築堤地,可穿溝所,可



射 宮中之射禮也

『雜令』大射者條:凡大射者,正月中旬,親王以下初位以上皆之以射。



有馬溫湯 溫泉神社境內圖
大己貴命所發現,日本最古的名溫泉

墾田間,均給使造,當聞解此所宣。」

九月,遣小德-高向博士-黑麻呂於新羅,而使貢質,遂罷任那之調。黑麻呂,更名-玄理。

是月,天皇御蝦蟇行宮,或本云,離宮。

是歲,越國之鼠,晝夜相連,向東移去。

三年春正月,戊子朔壬寅,射於朝廷。

是日,高麗、新羅,並遣使,貢獻調賦。

夏四月,丁巳朔壬午,詔曰:「惟神,惟神者,謂-隨神道,亦謂-自有神道也。我子應治故寄,是以與天地之初,君臨之國也。自始治國皇祖之時,天下大同,都無彼此者也。既而頃者始於神名、天皇名名,或別為臣、連之氏,或別為造等之色。由是率士民之心,固執彼此,深生我汝,各守名名。又拙弱臣、連、伴造、國造,以彼為姓,神名、王名逐自心之所歸,妄付前前處處。前前,猶謂-人人也。爰以神名、王名為人賂物之故,入他奴婢,穢汙清名,遂即民心不整,國政難治。是故今者隨在天神屬可治平之運,使悟斯等,而治國治民,是先是後,今日明日,次而續詔。然素賴天皇聖化而習舊俗之民,未詔之間,必當難侍。故始於皇子、群臣及諸百姓,將賜庸調!」

是歲,壞小郡而營宮。天皇處小郡宮,而定禮法。其制曰:「凡有位者,要於寅時,南門之外,左右羅列,候日初出,就庭再拜,乃侍于廳。若晚參者,不得入侍。臨到午時,聽鍾而罷。其擊鍾吏者,垂赤巾於前。其鍾台者,起於中庭。」

工人-大山位-倭漢直-荒田井比羅夫,誤穿溝瀆,控引難波,而改穿疲勞百姓。

爰有上疏諫者。天皇詔曰:「妄聽比羅夫所詐,而空穿瀆。朕之過也!」即日罷役。

冬十月,甲寅朔甲子,天皇幸有馬溫湯。左右大臣、群卿大夫從焉。

十二月,晦,天皇還自有馬溫湯,而停武庫行宮。武庫,地名也。

是日,災皇太子宮。時人大驚怪。

十一.新冠位制施行

是歲,制七色一十三階之冠。

一曰,織冠。有大小二階。以織為之,以繡裁冠之緣。服色並用深紫。

二曰,繡冠。有大小二階。以繡為之,其冠之緣、服色,並同織冠。

三曰,紫冠。有大小二階。以紫為之,以織裁冠之緣。服色用淺紫。

四曰,錦冠。有大小二階。其大錦冠,以大伯仙錦為之,以織裁冠之緣。其小錦冠,以小伯仙錦為之,以大伯仙錦裁冠之緣。服色並用真緋。

五曰,青冠。以青絹為之,有大小二階。其大青冠,以大伯仙錦裁冠之緣。其小青冠,以小伯仙錦裁冠之緣。服色並用紺。

六曰,黑冠。有大小二階。其大黑冠,以車形錦裁冠之緣。其小黑冠,以菱形錦裁冠之緣。服色並用綠。

七曰,建武。初位,又名-立身。以黑絹為之,以紺裁冠之緣。別有鐙冠,以黑絹為之。

其冠之背張漆羅,以緣與鈿異其高下,形似於蟬。小錦冠以上之鈿,雜金、銀為之;大小青冠之鈿,以銀為之;大小黑冠之鈿,以銅為之;建武之冠無鈿也。此冠者,大會、饗客,四月、七月齋時所著焉。

新羅遣上臣-大阿餐-金春秋等,送博士-小德-高向黑麻呂、小山中-中臣連-押熊來,獻孔雀一隻、鸚鵡一隻。仍以春秋為質。春秋美姿顏,善談笑。

造-淳足柵,置柵戶。老人等相謂之曰:「數年鼠向東行,此造柵之兆乎!」

四年春正月,壬午朔,賀正焉。

是夕,天皇幸于難波碕宮。

二月,壬子朔,於三韓遣學問僧。

己未,阿倍大臣請四眾於四天王寺,迎佛像四驅,使坐于塔內。造靈鷲山像,累積鼓為之。

夏四月,辛亥朔,罷古冠。左右大臣猶著古冠。

是歲,新羅遣使貢調。治磐舟柵以備蝦夷。遂選越與信濃之民,始置柵戶。

五年春正月,丙午朔,賀正焉。

二月,制冠十九階。一曰,大織。二曰,小織。三曰,大繡。四曰,小繡。五曰,大紫。六曰,小紫。七曰,大花上。八曰,大花下。九曰,小花上。十曰,小花下。十一曰,大山上。十二曰,大山下。十三曰,小山上。十四曰,小山下。十五曰,大乙上。十六曰,大乙下。十七曰,小乙上。十八曰,小乙下。十九曰,立身。

是月,詔博士-高向-玄理與釋僧旻,置八省、百官。



灌佛會 每年四月八日例行

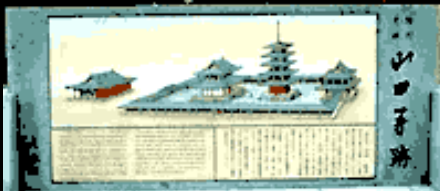


盂蘭盆會 每年七月十五日例行
文中所謂「大會、饗客,四月、七月齋時」指灌佛會及盂蘭盆會是也。



四天王寺 五重塔

『大同緣起』云,塔內小寺天王,安倍大臣敬請者。另,該寺始肇於推古。



山田寺跡

蘇我倉山田氏之氏寺,如今尚存講堂,金堂,以及塔之遺構.經挖掘調查,當曾奉有四天王寺之伽藍.



丹比道 最古官道,今之竹内街道也



川原史滿進皇太子哀太子妃歌歌碑

鴛鴦二羽居山川 此若吾妻雙雙對
為誰連去再不返
妍花每株開處處 如此吾妻何如此
無以二度展笑顏

山川中二羽鴛鴦雙雙對對的相處著,與吾如此成雙成對的妻子,確不知被誰給帶走了
株上美麗的花兒朵朵盛開,但是為何吾妻那似花般的笑容再也無法二度開展了

十二.蘇我倉山田麻呂與造媛之死

三月,乙巳朔辛酉,阿倍大臣薨.

天皇幸朱雀門,舉哀而慟.皇祖母尊、皇太子等及諸公卿,悉隨哀哭.

戊辰,蘇我臣-日向,日向,字-身刺,讒倉山田大臣於皇太子曰:「僕之異母兄麻呂,伺皇太子遊於海濱,而將害之.將反,其不久!」皇太子信之.

天皇使大伴貊連、三國麻呂公、穗積嚙臣於蘇我倉山田麻呂大臣所,而問反之虛實.大臣答曰:「被問之報,僕面當陳天皇之所.」天皇更遣三國麻呂公、穗積嚙臣,審其反狀.麻呂大臣亦如前答.天皇乃將興軍,圍大臣宅.大臣乃將二子法師與赤豬,更名-秦.自茅渟道逃向於倭國境.

大臣長子-興志,先是在倭,謂,在山田之家.營造其寺.今忽聞父逃來之事,迎於今來大槻,近就前行入寺.顧謂大臣曰:「興志請,自直進,逆拒來軍!」大臣不許焉.

是夜,興志意欲燒宮,猶聚士卒.宮,謂-小墾田宮.

己巳,大臣謂長子興志曰:「汝愛身乎?」興志對曰:「不愛也.」

大臣仍陳說於山田寺眾僧及長子興志,與數十人曰:「夫為人臣者,安構逆於君?何失孝於父?凡此伽藍者,元非自身故造.奉為天皇誓作.今我見讒身刺,而恐橫誅.聊望黃泉尚懷忠退.所以來寺,使易終時.」言畢,開佛殿之戶,作發誓曰:「願我生生世世,不怨君王!」誓訖,自經而死.妻子殉死者八.

是日,以大伴貊連與蘇我日向臣,為將領眾,使追大臣.

將軍大伴連等,及到黑山,土師連-身、采女臣-使主麻呂,從山田寺馳來告曰:「蘇我大臣既與三男一女俱自經死!」由是將軍等從丹比阪歸.

庚午,山田大臣之妻子及隨身者,自經死者眾.

穗積臣嚙捉聚大臣伴黨-田口臣-筑紫等,著枷反縛.

是夕,木臣-麻呂、蘇我臣-日向、穗積臣-嚙,以軍圍寺.喚物部-二田造-鹽,使斬大臣之頭.於是二田鹽仍拔大刀,刺舉其肉,叱訛啼叫,而始斬之.

甲戌,坐蘇我山田大臣而被戮者,田口臣-筑紫、耳梨-道德、高田-醜雄、醜,此云・・・額田部-湯坐連-關名、秦-吾吾等,凡四十四人,被流著十五人.

是月,遣使者收山田大臣資財.資財之中,於好書上題-皇太子書,於重寶上題-皇太子物.

使者還申所收之狀.皇太子始知大臣心猶貞淨,追生悔恥,哀歎難休.即拜日向臣於筑紫大宰帥.世人相謂之曰:「是隱流乎!」

皇太子妃-蘇我造媛,聞父大臣為鹽所斬,傷心痛惋,惡聞鹽名.所以近侍於造媛者,諱稱鹽名,改曰-堅鹽.造媛遂因傷心而致死焉.皇太子聞造媛徂逝,愴然傷恒哀泣極甚.於是野中-川原史-滿進而奉歌.歌曰:

山川・鴛鴦二・居・偶・・・偶・・妹・誰・率・・・其一・

每本・花・笑・・・何・・・愛・妹・・・笑・出來・其二・

皇太子慨然頹歎褒美曰:「善矣,悲矣.」乃授御琴而使唱,賜絹四疋、布二十端、綿二裹.

夏四月,乙卯朔甲午,於小紫-巨勢德陀古臣,授大紫為左大臣.於小紫-大伴長德連,字-馬飼.授大紫為右大臣.

五月,癸卯朔,遣小花下-三輪君-色夫、大山上-掃部連-角麻呂等於新羅.

是歲,新羅王遣沙泉部-沙餐-金多逐為質.從者三十七人.僧一人,侍郎二人,丞一人,達官郎一人,中客五人,才伎十人,譯語一人,雜僮人十六人,并三十七人也.

十三.白雉奉獻與改元,遷至難波宮

白雉元年春正月,辛丑朔,車駕幸味經宮,觀賀正札.味經,此云……
是日,車駕還宮.

二月,庚午朔戊寅,穴戶國司-草壁連-醜經,獻白雉曰:「國造首之同族贅,正月九日,於麻山獲焉。」於是問諸百濟君,百濟君曰:「後漢明帝永平十一年,白雉在所見焉。」云云.又問沙門等,沙門對曰:「耳所未聞,目所未睹.宜赦天下,使悅民心!」道登法師曰:「昔高麗欲營伽藍,無地不覽.便於一所白鹿徐行,遂於此地營造伽藍,名-白鹿園寺,住持佛法.又白雀見于一寺田莊.國人僉曰:『休祥!』又遣大唐使者,持死三足烏來.國人亦曰:『休祥!』斯等雖微,尚謂祥物,況復白雉。」僧旻法師曰:「此謂休祥,足為希物.伏聞,王者旁流四表,則白雉現.又王者祭祀不相踰,宴食、衣服有節則至.又王者清素,則山出白雉.又王者仁聖則見.又周成王時,越裳氏來獻白雉曰:『吾聞,國之黃耆曰:『久矣無別風淫雨,江海不波溢三年於茲矣.』意,中國有聖人乎,盍往朝之.故從三譯而至.』又,晉武帝咸寧元年,見松滋.是則休祥,可攝天下。」是以白雉使放于園.

甲申,朝廷隊仗,如元會儀.左右大臣、百官人等,為四列於紫門外.以粟田臣-飯虫等四人,使執雉輿,而在前去.左右大臣乃率百官及百濟君-豐璋,其弟塞城、忠勝,高麗侍醫毛治,新羅侍學士等,而至中庭.使三國公-麻呂、倉臣-小屎,執輿後頭,置於御座之前.

天皇即召皇太子,共執而觀.皇太子退而再拜,使巨勢大臣奉賀曰:「公卿、百官人等奉賀,陛下以清平之德治天下之故,爰有白雉自西方出.乃是陛下及至千秋萬歲,淨治四方八大島,公卿、百官及諸百姓等,冀罄忠誠勤將事。」奉賀再拜.

詔曰:「聖王出世治天下時,天則應之示其祥瑞.曩者,西土之君周成王世與漢明帝時,白雉爰見.我日本國譽田天皇之世,白鳥櫟宮.大鷦鷯帝之時,龍馬西見.是以自古迄今,祥瑞時見,以應有德,其類多矣.所謂鳳凰、麒麟、白雉、白鳥,若斯鳥獸及于草木,有符應者,皆是天地所生休祥嘉瑞也.夫明聖之君獲斯祥瑞,適其宜也.朕惟虛薄,何以享斯.蓋此專由扶翼公卿、臣、連、伴造、國造等,各盡丹誠,奉遵制度之所致也.是故始於公卿及百官等,以清白意,敬奉神祇,並受休祥,令榮天下!」

又詔曰:「四方諸國郡等,由天委付之故,朕總臨而御宇.今我親神祖之所知穴戶國中,有此嘉瑞,所以大赦天下,改元白雉。」仍禁放鷹於穴戶界,賜公卿大夫以下至于令史,各有差.於是褒美國司-草壁連醜經,授大山,并大給祿,復穴戶三年調役.

夏四月,新羅遣使貢調,或本云,是天皇世,高麗、百濟、新羅三國,每年遣使貢獻也.

冬十月,為入宮地,所壞丘墓及被遷人者,賜物各有差.

即遣將作大匠-荒田井直-比羅夫,立宮界標.

是月,始造丈六繡像、俠侍、八部等三十六像.

是歲,漢山口直-大口,奉詔刻千佛像.遣倭漢直-縣、白髮部-連鑑、難波吉士-胡床於安藝國,使造百濟船二隻.

二年春三月,甲午朔丁未,丈六繡像等成.

戊申,皇祖母尊請十師等設齋.

夏六月,百濟、新羅遣使貢調獻物.

冬十二月,晦,於味經宮請二千一百餘僧尼,使讀一切經.

是夕,燃二千七百餘燈於朝廷內,使讀安宅、土側等經.

於是天皇從於大郡遷,居新宮.號曰-難波長柄豐碯宮.

是歲,新羅貢調使-知万沙餐等,著唐國服泊于筑紫.朝廷惡恣移俗,訶嘖追還.

于時,巨勢大臣奏請之曰:「今方不伐新羅,於後必當有悔.其伐之狀,不須舉力.自難波津至于筑紫海裏,相接浮盈臚舳,召新羅問其罪者,可易得焉!」

三年春正月,己未朔,元日禮訖,車駕幸大郡宮.

自正月至是月,班田既訖.凡田長三十步為段,十段為町.段租稻,一束半;町租稻,十五束.

三月,戊午朔丙寅,車駕還宮.

夏四月,戊子朔壬寅,請沙門-惠隱於內裏,使講無量壽經,以沙門-惠資為論議者,以沙門一千為作聽眾.

丁未,罷講.

自於此日初,連雨水.

至于九日,損壞宅屋,傷害田苗.人及牛馬溺死者眾.

是月,造戶籍.凡五十戶為里,每里長一人.凡戶主皆以家長為之.凡戶皆五家相保,一人為長,以相檢察.

新羅、百濟遣使貢調,獻物.

秋九月,造宮已訖.其宮殿之狀不可殫論.



大阪市古地圖 味原
味經宮,所在地不詳.万葉集中曾有著「味原之宮」的記載,是以宮趾當在大阪市天王寺區味原町一代.



白雉



萬物雛形畫譜 鳳凰、麒麟
白雉,鳳凰,麒麟等,皆休祥之兆也.『爾雅』釋言:「休者,慶也.」是以祥瑞,上瑞.故此,孝德天皇改元白雉.



冬十二月,晦,請天下僧尼於內裏,設齋,大捨,燃燈。

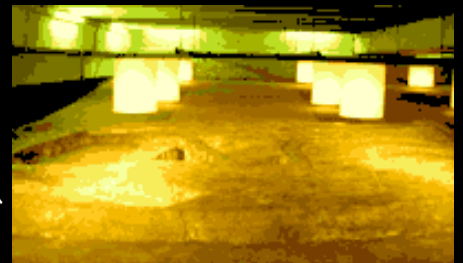
四年夏五月,辛亥朔壬戌,發遣大唐大使-小山上-吉士-長丹,副使-小乙上-吉士-駒,駒,更名-絲。學問僧-道嚴、道通、道光、惠施、覺勝、弁正、惠照、僧忍、知聰、道昭、定惠。定惠,內大臣之長子也。安達,安達,中臣-渠每連之子。道觀,道觀,春日栗田臣-百濟之子。學生-巨勢臣-藥。藥,豐足臣之子。冰連-老人,老人,真玉之子。或本,以學問僧-知弁、義德,學生-阪合部連-磐積而增焉。并一百二十一人,俱乘一船。以室原首-御田為送使。又大使-大山下-高田首-根麻呂,更名,八掬脛、副使-小乙上-掃守連-小麻呂,學問僧-道福、義向,并一百二十人,俱乘一船。以土師連-八手為送使。

是月,天皇幸旻法師房,而問其疾,遂口敕恩命。或本,於五年七月云,僧旻法師臥病於阿曇寺。於是天皇幸而問之,仍執其手曰:「若法師今日亡者,朕從明日亡!」

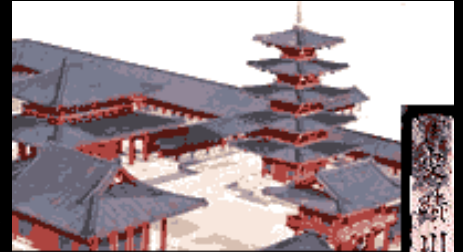
六月,百濟、新羅遣使貢調,獻物。修治處處大道。

天皇聞旻法師命終,而遣使弔,并多送贈。皇祖母尊及皇太子等,皆遣使弔旻法師喪。遂為法師,命畫工-貊豎部-子麻呂、鯽魚戶直等,多造佛、菩薩像,安置於川原寺。或本云,在-山田寺。

秋七月,被遣大唐使人高田根麻呂等,於薩麻之曲、竹島之間,合船沒死。唯有五人,繫胸一板,流遇竹島,不知所計。五人之中,門部-金採竹為筏,泊于神島。凡此五人經六日六夜,而全不食飯。於是褒美金,進位給祿。



大阪歷史博物館地下 前期難波宮跡



川原寺跡及復原川原寺模型



飛鳥稻淵宮跡碑

是為倭飛鳥河邊行宮比定地。

天皇送間人皇后歌

繫於金木吾飼駒 當無出今吾之駒
至今何以為所獲

用金屬般的堅木所綁著,應該是無法外出的我所養的馬啊,為何會被外人所發現呢?



吐火國 今泰國之Dvaravati

吐火國,齊明紀作"睹貨邏國",舊唐書稱"墮和羅國".今在泰國之他叻瓦滴。



孝德天皇大阪磯長陵

十四.皇太子遷至飛鳥

是歲,太子奏請曰:「欲冀遷于倭京。」天皇不許焉。

皇太子乃奉皇祖母尊、間人皇后,并率皇弟等,往居于倭飛鳥河邊行宮。于時,公卿大夫、百官人等,皆隨而遷。由是天皇恨欲捨於國位,令造宮於山碕,乃送歌於間人皇后曰:

金木著・吾・飼・駒・引・出・・吾・飼・駒・人見・・・・

五年春正月,戊申朔,夜,鼠向倭都而遷。

壬子,以紫冠授中臣鎌足連,增封若干戶。

二月,遣大唐押使-大錦上-高向使-玄理,或本云,夏五月,遣大唐押使-大花下-高向-玄理。大使-小錦下-河邊臣-麻呂,副使-大山下-藥師-惠日,判官-大乙上-書直-麻呂、宮首-阿彌陀、或本云,判官-小山下-書直-麻呂。小乙上-岡君-宜、置始連-大伯、小乙下-中臣-間人連老、老,此云・・田邊使-鳥等,分乘二船,留連數月,取新羅道,泊於萊周,遂到于京,奉觀天子。

於是,東宮監門-郭丈舉,悉問日本國之地里及國初之神名,皆隨問而答。

押使高向玄理卒於大唐。

伊吉博得言:「學問僧-惠妙於唐死。知聰於海死。智國於海死。智宗以庚寅年付新羅船歸。覺勝於唐死。義通於海死。定惠以乙丑年付劉德高等船歸。妙位、法勝,學生-冰連-老人、高黃金,并十二人,別倭種韓智興、趙元寶,今年共使人歸。」

夏四月,吐火羅國男二人、女二人,舍衛-女一人,被風流來于日向。

秋七月,甲戌朔丁酉,西海使等奉對唐國天子,多得文書、寶物,授小山上-大使-吉士-長丹以-少花下,賜封二百戶,賜姓為-吳氏。授小乙上-副使-吉士-駒以-小山上。

冬十月,癸卯朔,皇太子聞天皇病疾,乃奉皇祖母尊、間人皇后,并率皇弟、公卿等,赴難波宮。壬子,天皇崩于正寢。

仍起殯於南庭。以小山上-百舌鳥土師連-土德,主殯宮之事。

十二月,壬寅朔己酉,葬于大阪磯長陵。

是日,皇太子奉皇祖母尊,遷居倭河邊行宮。老者語之曰:「鼠向倭都,遷都之詔也!」

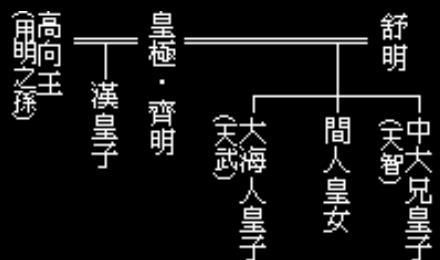
是歲,高麗、百濟、新羅,並遣使奉弔。

日本書紀卷廿五 終

[\[久遠・絆\]](#) [\[其之一\]](#) [\[卷廿六\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷廿六 齊明紀

天豐財重日足姬天皇 齊明天皇



扶桑略記 齊明天皇記 元年五月條
該事眾說紛紜。扶桑略記：時人言，蘇我豐浦大臣之靈也。帝王編年記：人多死亡，此靈所為。住吉神代記：住吉大神巡檢神域。尚有唐人託修驗道以窺倭，或為青星座乃祈雨之象等說。

卒尔多死時人云豐浦大臣靈魂
天台遷居筑紫朝倉橘廣庭宮此
作宮由之神念壞殿亦見鬼火于
侍病死 七月廿四日天皇崩山
後之夕朝倉山上有鬼著大笠
俄人皆見之陵高三丈方五町
改
越智大掘開山陵十一月同御代

一.天皇於飛鳥板蓋宮再登天位

天豐財重日足姬天皇，初適於橘豐日天皇之孫-高向王，而生，漢皇子。

後適於息長足日廣額天皇，而生二男一女。

二年，立為皇后。見息長足日廣額天皇紀。

十三年冬十月，息長足日廣額天皇崩。

明年正月，皇后即天皇位。

改元四年六月，讓位於天万豐日天皇。稱天豐財重日足姬天皇曰-皇祖母尊。

天万豐日天皇，後五年十月，崩。

元年春正月，壬申朔甲戌，皇祖母尊即天皇位於飛鳥板蓋宮。

夏五月，庚午朔，空中有乘龍者。貌似唐人，著青油笠，而自葛城嶺馳隱膽駒山。

及至午時，從於住吉松嶺之上，西向馳去。

秋七月，己巳朔己卯，於難波朝饗北蝦夷九十九人，北，越東蝦夷九十五人。東，陸奧。仍授柵養蝦夷九人，津刈蝦夷六人，冠各二階。

八月，戊戌朔，河邊臣-麻呂等自大唐還。

冬十月，丁酉朔己酉，於小墾田宮造起宮闕，擬將瓦覆。又於深山廣谷，擬造宮殿之材，朽濫者多，遂止弗作。

是冬，災飛鳥板蓋宮。故遷居-飛鳥川原宮。

是歲，高麗、百濟、新羅，並遣使進調。百濟大使-西部-達率-余宜受，副使-東部-恩率-調信仁，凡一百餘人。蝦夷、隼人率眾內屬，詣闕朝獻。

新羅別以及餐-彌武為質，以十二人為才伎者。彌武遇疾而死。是年也，太歲乙卯。

二年秋八月，癸巳朔庚子，高麗遣達沙等進調。大使-達沙，副使-伊利之，總八十一人。

九月，遣高麗大使-繕臣-葉基，副使-阪合部連-磐楸，大判官-犬上君-白麻呂，中判官-河內書首，闕名。小判官-大藏衣縫造-麻呂。

二.營造與心狂的土木工程

是歲，於飛鳥岡本更訂宮地。

時，高麗、百濟、新羅並遣使進調。為張紺幕於此宮地而饗焉。

遂起宮室。天皇乃遷，號曰-後飛鳥岡本宮。於田身嶺冠以周垣。田身，山名。此云-••復於嶺上兩槻樹邊起觀，號為-兩槻宮，亦曰-天宮。

時好興事，迺使水工穿渠，自香山西至石上山。以舟二百隻載石上山石，順流控引於宮東山，累石為垣。時人謗曰：「狂心渠。損廢，功夫三萬餘矣！費損，造垣功夫七萬餘矣！宮材爛矣！山椒埋矣！」又謗曰：「作石山丘，隨作自破！若據未成之時，作此謗乎。」

又作，吉野宮。

西海使-佐伯連-栲繩。闕位階級、小山下-難波吉士-國勝等，自百濟還，獻鸚鵡一隻。

災，岡本宮。

三年秋七月，丁亥朔己丑，睹貨邏國男二人、女四人，漂泊于筑紫，言：「臣等初漂泊于海見島。」乃以驛召。

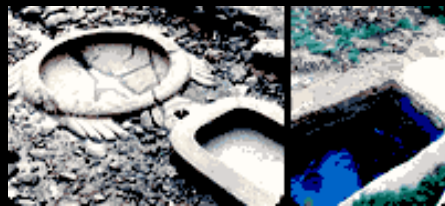
辛丑，作須彌山像於飛鳥寺西，且設盂蘭盆會。

暮，饗睹貨邏人。或本云，墮羅人。



宮東山 石垣跡

於明日香岡酒石船所在丘陵出土，全長數十公尺之天理砂石石垣遺跡。



龜石遺跡 狂心渠跡

以酒船石、龜石遺跡為中心，飛鳥岡地有廣大之水利工程遺跡出土。



大正時代之牟婁溫湯
即今湯崎溫泉,亦名紀溫湯。



齧田 今之秋田縣秋田市一帶。

三.有間皇子伴狂

九月,有間皇子性黠陽狂,云云。

往牟婁溫湯,偽療病來,讚國體勢曰:「纔觀彼地,病自蠲消!」云云。天皇聞悅,思欲往觀。

是歲,使使於新羅曰:「欲將沙門-智達、間人連-御寢、依網連-稚兒等,付汝國使,令送到大唐。」新羅不肯聽送,由是沙門智達等還歸。

西海使-小花下-阿曇連-頰垂、小山下-津臣-偃僂,偃僂,此云……自百濟還,獻駱駝一箇、驢二箇。

石見國言:「白狐見。」

四年春正月,甲申朔丙申,左大臣-巨勢德太臣薨。

夏四月,阿倍臣,闕名,率船師一百八十艘伐蝦夷。齧田、淳代二郡蝦夷,望怖乞降。於是敕軍陳船於齧田浦。齧田蝦夷恩荷進而誓曰:「不為官軍故持弓箭,但奴等性食肉故持。若為官軍,以儲弓矢,齧田浦神知矣。將清白心仕官朝矣。」仍授恩荷以-小乙上,定淳代、津輕二郡郡領。遂於有間濱召聚渡島蝦夷等,大饗而歸。

四.皇孫建王薨去

五月,皇孫-建王,年八歲薨。今城谷上,起殯而收。天皇本以皇孫有順而器重之,故不忍哀傷慟極甚。詔群臣曰:「萬歲千秋之後,要合葬於朕陵!」迺作歌曰:

今城・小丘・上・雲・著・立・何・歎・其一

射・鹿豬・認・川上・若草・若・吾・思・其二

飛鳥川・漲・行・水・間・無・思・其三

天皇時時唱而悲哭。

秋七月,辛巳朔甲申,蝦夷二百餘詣闕朝獻。饗賜贍給,有加於常。仍授柵養蝦夷二人位一階,淳代郡大領-沙尼具那小乙下,或所,云授位二階,使檢戶口。少領宇婆左建武,勇建者二人位一階。別賜沙尼具那等鮪旗二十頭、鼓二面、弓矢二具、鎧二領。授津輕郡大領-馬武大乙上,少領-青蒜小乙下,勇建者二人位一階。別賜馬武等鮪旗二十頭、鼓二面、弓矢二具、鎧二領。授都岐沙羅柵造,闕名,位二階,判官位一階。授淳足柵造大伴君-稻積小乙下。

又詔淳代郡大領-沙尼具那,檢覆蝦夷戶口與虜戶口。

是月,沙門-智通、智達奉敕乘新羅船往大唐國,受無性眾生義於玄奘法師所。

冬十月,庚戌朔甲子,幸紀溫湯。天皇憶皇孫建王,愴爾悲泣,乃口號曰:

山越・海渡・面白・今城・內・忘・其一

水門・潮・下・海下・後・暗・置・行・其二

愛・吾・若・子・置・行・其三

詔秦大藏造-万里,曰:「傳斯歌,勿令忘於世!」

天皇殯建王哀歌:

在今城兮小丘上 如雲著立得以見
今者如今何須嘆 其一
射其豬鹿追其跡 所越川邊草青青
如草若兮未及思 其二
流水滿溢飛鳥川 時時刻刻不得絕
思憶情兮無以止 其三

在今城的小丘之上觀望,如果能見到顯著雲起的話,(有傳,古者得見立雲,若得見遠去戀人,或所思人之魂之姿,)也不用如此哀嘆了啊。

在追著所射到的豬鹿的足跡而經過的河川岸上之青草,是如此的年輕,建王你在這般年輕之時就去世了是我所始料未及的啊。

就像飛鳥川不斷滿溢漲出的流水,我對你的思念真是無時無刻都不得停歇的湧上心頭。



天皇追憶建王歌:

縱即越山復渡海 今城樂事無以忘 其一
於水門兮乘潮渡 下海路兮憶其後
雖心沉兮憂鬱鬱 不得不置行而去 其二
親親吾愛若子矣 今置汝兮行而去 其三
就算越過了山,渡過了海,在今城內那快樂的往事,我是絕對不會忘卻的吧。

從河口順著潮流以海路下行,想到往後的事情就令心情沉悶,卻不得不將之放下而向前走去。

我所深愛的幼子啊,現在我得將你留在這裡而向前走去了



有間皇子為絞殺之所跡



有間皇子墓

五.有間皇子事件

十一月,庚辰朔壬午,留守官蘇我赤兄臣,語有間皇子曰:「天皇所治政事有三失矣.大起倉庫,積聚民財,一也.長穿渠水,損費公糧,二也.於舟載石,運積為丘,三也.」有間皇子乃知赤兄之善己,而欣然報答之曰:「吾,年始可用兵時矣.」

甲申,有間皇子向赤兄家,登樓而謀.夾膝自斷.於是知相之不祥,俱盟而止.皇子歸而宿之.

是夜半,赤兄遣物部朴井連-鮪,率造宮丁,圍有間皇子於市經家.便遣驛使,奏天皇所.

戊子,捉有間皇子與守君-大石、阪合部連-藥、鹽屋連-鯨魚,送紀溫湯.舍人-新田部-米麻呂從焉.於是,皇太子親問有間皇子曰:「何故謀反?」答曰:「天與赤兄知,吾全不解.」

庚寅,遣丹比小澤連-國襲,絞有間皇子於藤白阪.

是日,斬鹽屋連-鯨魚、舍人新田部連-米麻呂於藤白阪.鹽屋連-鯨魚臨誅,言:「願令右手作國寶器!」

流,守君-大石於上毛野國,阪合部-藥於尾張國.或本云,有間皇子與蘇我臣-赤兄、鹽屋連-小戈、守君-大石、阪合部連-藥,取短籍卜謀反之事.或本云,有間皇子曰:「先燔宮室,以五百人,一日兩夜邀牟婁津,疾以船師斷淡路國,使如牢圍,其事易成!」或人諫曰:「不可也.所計既然而無德矣.方今皇子年始十九,未及成人.可至成人而得其德.」他日,有間皇子與一判事謀反之時,皇子案机之腳,無故自斷.其謀不止,遂被誅戮也.

六.比羅夫,討伐肅慎.蝦夷

是歲,越國守-阿倍引田臣比羅夫討肅慎,獻生熊二、熊皮七十枚.

沙門-智踰造指南車.

出雲國言:「於北海濱魚死而積.厚三尺許,其大如鮐,雀啄針鱗,鱗長數寸.俗曰:『雀入於海,化而為魚.名曰-雀魚.』」或本云,至庚申年七月,百濟遣使奏言,大唐、新羅并力伐我.既以義慈王、王后、太子為虜而去.由是國家以兵士甲卒陣西北畔,繕修城柵,斷塞山川之兆也.

又西海使-小花下-阿曇連-賴垂自百濟還言:「百濟伐新羅還時,馬自行道於寺金堂,晝夜勿息.唯食草時止.」或本云,為敵所滅之應也.

五年春正月,己卯朔辛巳,天皇至自紀溫湯.

三月,戊寅朔,天皇幸吉野而肆宴焉.

庚辰,天皇幸近江之平浦.平,此云...

丁亥,吐火羅人共妻-舍衛婦人來.

甲午,甘檮丘東之川上,造須彌山,而饗陸奧與越蝦夷.檮,此云...川上,此云...

是月,遣阿倍臣,闕名.率船師一百八十艘,討蝦夷國.阿倍臣,簡集飽田、淳代二郡蝦夷二百四十一人,其虜三十一人,津輕郡蝦夷一百二十人,其虜四人,膽振鉏蝦夷二十人於一所,而大饗賜祿.膽振鉏,此云...即以船一隻與五色綵帛,祭彼地神.

至肉入籠時,問菟蝦夷膽鹿島、菟穗名二人進曰:「可以後方羊蹄為政所焉.」肉入籠,此云...問菟,此云...菟穗名,此云...後方羊蹄,此云...政所,蓋蝦夷郡乎.隨膽鹿島等語,遂置郡領而歸.授道奧與越國司位各二階,郡領與主政各一階.或本云,阿倍引田臣比羅夫與肅慎戰而歸,獻虜四十九人.



指南車

黃帝所發明,利用磁石以常指南方.此外亦有說指此為周公所發明.



雀魚 即河豚

『昭明文選』吾都賦云:「王鮪,鯨鮓.」劉淵林注:「鯨鮓魚,狀如科斗,大者尺余,腹下白,背上青魚,有黃文,性有毒...蒸煮啖之甘美.」

[久遠・絆] [卷廿五] [其之二] [再臨詔]

日本書紀 卷廿六 齊明紀

天豐財重日足姬天皇 齊明天皇

七.遣唐使渡海,謁見唐高宗



遣唐使船

此行走吳唐之路,乃因北路必經之韓國正在交戰,故採直行江南之南路。

秋七月,丙子朔戊寅,遣小錦下-阪合部連-石布、大山下-津守連-吉祥,使於唐國.仍以道奧蝦夷男女二人示唐天子。

伊吉連-博德書曰:「同天皇之世,小錦下-阪合部石布連、大山下-津守吉祥連等二船,奉使吳唐之路.以己未年七月三日,發自難波三津之浦.九月十三日,行到百濟南畔之島.島名毋分明.以十四日,寅時,二船相從放大海.十五日,日入之時,石布連船,橫遭逆風,飄到南海之島.島名-爾加委.仍為島人所滅.便東漢長直-阿利麻、阪合部連-稻積等五人,盜乘島人之船,逃到括州.州縣官人送到洛陽之京.十六日,夜半之時,吉祥連船,行到越州會稽縣須岸山.東北風,風太急.二十三日,行到余姚縣.所乘大船及諸調度之物留著彼處.潤十月一日,行到越洲之底.十月十五日,乘驛入京.二十九日,馳到東京.天子在東京.三十日,天子相見問訊之:『執日本國天皇,平安以不?』使人謹答:『天地合德,自得平安.』天子問曰:『執事卿等,好在以不?』使人謹答:『天皇憐重,亦得好在.』天子問曰:『國內平不?』使人謹答:『治稱天地,萬民無事.』天子問曰:『此等蝦夷國有何方?』使人謹答:『國有東北.』天子問曰:『蝦夷幾種?』使人謹答:『類有三種,遠者名-都加留,次者-粗蝦夷,近者名-熟蝦夷.今此熟蝦夷,每歲,入貢本國之朝.』天子問曰:『其國有五穀?』使人謹答:『無之.食肉存活.』天子問曰:『國有屋舍?』使人謹答:『無之.深山之中,止住樹本.』天子重曰:『朕見蝦夷身面之異,極理喜怪.使人遠來辛苦,退在館裏,更後相見.』十一月一日,朝有冬至之會.會日亦觀.所朝諸蕃之中,倭客最勝.後由出火之亂,棄而不復檢.十二月三日,韓智興儻人-西漢大麻呂,枉讓我客.客等獲罪唐朝,已決流罪.前流智興於三千里之外.客中有伊吉連-博德奏,因即免罪.事了之後敕旨:『國家,來年必有海東之政.汝等倭客,不得東歸!』遂逗西京,幽置別處.閉戶防禁,不許東西,困苦經年.」難波吉士-男人書曰:「向大唐大使,觸島而覆.副使親觀天子,奉示蝦夷.於是蝦夷以白鹿皮一、弓三、箭八十獻于天子.」

庚寅,詔群臣:「於京內諸寺,勸講孟蘭盆經,使報七世父母.」

是歲,命出雲國造,闕名,修嚴神之宮.狐嚙斷於友郡役丁所執葛末而去.又,狗嚙置死人手臂於言屋社.言屋,此云...天子崩兆.又高麗使人持羆皮一枚,稱其價曰:「綿六十斤.」市司笑而避去.高麗畫師-子麻呂,設同姓賓於私家日,借官羆皮七十枚,而為賓客.客等羞怪而退.

六年春正月,壬寅朔,高麗使人-乙相-賀取文等一百餘,泊于筑紫.

三月,遣阿倍臣,闕名,率船二百艘,伐肅慎國.

阿倍臣以陸奧蝦夷,令乘己船,到大河側.於是渡島蝦夷一千餘,屯聚海畔,向河而營.營中二人進而急叫曰:「肅慎船師多來將殺我等之故,願欲濟河而仕官矣.」阿倍臣遣船喚至兩箇蝦夷,問賊隱所與其船數.兩箇蝦夷便指隱所曰:「船二十餘艘.」即遣使喚,而不肯來.

阿倍臣乃積綵帛、兵、鐵等於海畔,而令貪嗜.肅慎乃陳船師,繫羽於木,舉而為旗.齊棹近來,停於淺處.從一船裏,出二老翁,迴行,熟視所積綵帛等物.便換著單衫,各提布一端,乘船還去.俄而老翁更來,脫置換衫,并置提布,乘船而退.

阿倍臣遣數船使喚,不肯來,復於弊賂弁島.弊賂弁,渡島之別也.食頃乞合,遂不肯聽.據己柵戰.于時,能登臣-馬身龍為敵被殺.猶戰未倦之間,賊破殺己妻子.

夏五月,辛丑朔戊申,高麗使人-乙相-賀取文等,到難波館.

是月,有司奉敕,造一百高座、一百納袈裟,設仁王般若之會.又,皇太子初造漏刻,使民知時.又,阿倍引田臣,闕名獻夷五十餘.又,於石上池邊作須彌山.高如廟塔,以饗肅慎四十七人.又,舉國百姓無故持兵,往還於道.國老言:「百濟國失所之相乎!」



唐高宗 李治 畫像

方齊明朝時,中國天子為唐高宗李治.此者為唐太宗李世民之第九子.

八.百濟滅亡,遺臣之奮鬥

秋七月,庚子朔乙卯,高麗使人-乙相-賀取文等罷歸.

又,睹貨羅人-乾豆波斯達阿欲歸本土,求請送使曰:「願後朝於大國.所以留妻為表.」乃與數十人入于西海之路.高麗沙門道顯日本世記曰:「七月云云.春秋智借大將軍蘇定方之手,使擊百濟,亡之.或曰,百濟自亡.由君夫人妖女之無道,擅奪國柄,誅殺賢良故,召斯禍矣.可不慎歟,可不慎歟!其注云,新羅春秋智,不得願於內臣蓋金.故亦使於唐,捨俗衣冠,請媚於天子,投禍於鄰國,而構斯意行者也.」伊吉連-博德書云:「庚申年八月,百濟已平之後,九月十二日,放客本國.十九日,發自西京.十月十六日,還到東京.始得相見阿利麻等五人.十一月一日,為將軍蘇定方等所捉百濟王以下太子隆等諸王子十三人,大佐平-沙宅-千福、國-弁成以下三十七人,并五十許人.奉進朝堂.急引移向天子.天子恩敕見前放著.十九日,賜勞.二十四日,發自東京.」

九月,己亥朔癸卯,百濟遣達率-闕名.沙彌覺從等來奏曰:或本云,逃來告難.「今年七月,新羅恃力作勢,不親於鄰.引構唐人,傾覆百濟!君臣總俘,略無嚼類!或本云,今年七月十日,大唐蘇定方,率船師軍尾資之津,新羅王春秋智率兵馬軍于怒受方之山.夾擊百濟,相戰三日,陷我王城.同月十三日,始破王城.怒受利山百濟之東界也.於是,西部恩率-鬼室福信赫然發憤,據任岐岐山.或本云,北任敘利山.達率-余自進據中部九麻怒利城.或本云,都岐留山.各營一所,誘聚散卒.兵盡前役,故以倍戰.新羅軍破,百濟奪



北濟滅亡略圖(依三國史記推測)

『舊唐書』之高宗本紀:「十一月戊戌朔,邢國公蘇定方獻百濟王扶余義慈,太子隆等五十八人俘於則天門,責

其兵繼而百濟兵蕃銳,唐不敢入.福信等遂鳩集同國,共保王城.國人尊曰:『佐平福信!佐平自進!』唯福信起神武之權,興既亡之國.」

而宥之.」無嚼類者,不留活口之意.尾資之津者,今錦江河口.怒受力者,青銅里.任射岐山,忠清南道大興.



日野町小野 鬼室神社 嗣鬼室福信佐平者,百濟最高官階.以佐平呼福信,自進二人,非為官位而為敬稱.而日本亦對復國遺臣表示尊敬,沿用佐平之稱.而佐平貴智乃為遣日之交涉官,故此者以官位論之較為妥當.

時之童謠 [\[童謠細部解說及翻譯\]](#)
本童謠除「甲子」外,皆僅有假名傳世.實際意味至今不明,為史上著名難解之童謠.時至今日,解說之法有二十餘種,其中尚無可令人完全信服之解釋.大致而言,該謠當為敘述百濟覆亡以及預言日本援軍敗戰之兆.

十.天皇步上西征海路

七年春正月,丁酉朔壬寅,御船西征.始就于海路.
甲辰,御船到于大伯海.時大田姬皇女產女焉.仍名是女曰-大伯皇女.
庚戌,御船泊于伊豫熟田津石湯行宮.熟田津,此云
三月,丙申朔庚申,御船還至于娜大津.居于磐瀨行宮.天皇改此,名曰-長津.
夏四月,百濟福信遣使上表,乞迎其王子-糾解.釋道顯日本世記曰:「百濟福信獻書,祈其君糾解於東朝.」或本云,四月,天皇遷居于朝倉宮.
五月,乙未朔癸卯,天皇遷居于朝倉橘廣庭宮.
是時,斷除朝倉社木而作此宮之故,神忿壞殿.亦見宮中鬼火.由是大舍人及諸近侍病死者眾.
丁巳,耽羅始遣王子-阿波伎等貢獻.伊吉連-博得書云:「辛酉年正月二十五日,還到越州.四月一日,從越州上路,東歸.七日,行到櫻岸山明.以八日雞鳴之時,順西南風,放船大海.海中迷途,漂蕩辛苦.九日八夜,僅到耽羅之島.便即招慰島人王子阿波伎等九人,同載客船,擬獻帝朝.五月二十三日,奉進朝倉之朝.耽羅入朝始於此時.又為智興儼人-東漢草直-足島所讒,使人等不蒙寵命.使人等怨,徹于上天之神,震死足島.時人稱曰:『大倭天報之近!』」



熟田津承傳地歌碑
熟田津之承傳地有多說,其中護國神社近郊之額田王歌碑處最為有名.有說,此歌為齊明天皇於征途停於熟田津之時所作.石湯則為道後溫泉



朝倉橘廣庭宮跡地
太子所獻輓歌

九.百濟,對日求援

冬十月,百濟佐平鬼室福信,遣佐平貴智等,或本云,佐平-貴智、達率-正珍也.來獻唐俘一百餘人.今美濃國不破、片縣二郡唐人等也.又乞師請救.并乞王子.余豐璋曰:「唐人率我蝥賊,來蕩搖我疆場,覆我社稷,俘我君臣.百濟王義慈,其妻恩古,其子隆等,其臣佐平千福、國弁成、孫登等凡五十餘.秋七月三日,為蘇將軍所捉,而送去於唐國.蓋是無故持兵之徵乎.而百濟國遙賴天皇護念,更鳩集以成邦.方今謹願,迎百濟國遣侍天朝王子豐璋,將為國主.」云云.

詔曰:「乞師請救,聞之古昔.扶危繼絕,著自恒典.百濟國窮來歸我.『以本邦喪亂,靡依靡告.枕戈嘗膽,必存拯救!』遠來表啟,志有難奪.可分命將軍,百道俱前.雲會雷動,聚集沙衆,翳其鯨鯢,紓彼倒懸.宜有司具為與之,以禮發遣!」云云.送王子豐璋及妻子與其叔父忠勝等.其正發遣之時,見于七年.或本云,天皇立豐璋為王,立塞上為輔,而以禮發遣焉.

十二月,丁卯朔庚寅,天皇幸于難波宮.天皇方隨福信所乞之意,思幸筑紫將遣救軍,而初幸斯,備儲軍品.

是歲,欲為百濟將伐新羅,乃敕駿河國造船.

已訖,挽至續麻郊之時,其船夜中無故艫舳相反.眾知終敗.

科野國言:「蠅群向西,飛踰巨坡.大十圍許,高至蒼天.」或知救軍敗績之怪.有童謠曰:

.....
.....
甲子.....

十一.天皇崩御與皇太子的輓歌

六月,伊勢王薨.

秋七月,甲午朔丁巳,天皇崩于朝倉宮.

八月,甲子朔,皇太子奉從天皇喪,還至磐瀨宮.

是夕,於朝倉山上有鬼,著大笠,臨視喪儀.眾皆嗟怪.

冬十月,癸亥朔己巳,天皇之喪歸就于海.於是皇太子泊於一所,哀慕天皇,乃口號曰:

君・目・戀・ 泊・・居・ 戀・ . . . 君・目・欲・

乙酉,天皇之喪,還泊于難波.

十一月,壬辰朔戊戌,以天皇喪殯于飛鳥川原.自此發哀,至于九日.

欲會君面見君顏 雖泊雖居既一同
思慕戀慕仍難耐 欲得會君見君顏
不斷想和您見面,雖然一直停留在您身邊,
眷戀依舊強烈嗎.不斷的想再見(活著的)您
一面.

日本世紀云:「十一月,福信所獲唐人續守言等,至于筑紫.」或本云,辛酉年,百濟佐平福信所獻唐俘一百六口,
居于近江國-墾田.庚申年,既云福信獻唐俘.故今存注,其決焉.

日本書紀卷廿六 終

[\[久遠・絆\]](#) [\[其之一\]](#) [\[卷廿七\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷廿七 天智紀

天命開別天皇 天智天皇

一. 皇太子的稱制與救援百濟

天命開別天皇,息長足日廣額天皇太子也.母曰-天豐財重日足姬天皇.

天豐財重日足姬天皇四年,讓位於天万豐日天皇.立天皇為皇太子.

天万豐日天皇後五年十月,崩.

明年,皇祖母尊即天皇位.

七年七月丁巳,崩.皇太子素服稱制.

是月,蘇將軍與突厥王子-契苾加力等,水路二路至于高麗城下.

皇太子遷居于長津宮,稍聽水表之軍政.

八月,遣前將軍大花下-阿曇比羅夫連、小花下-河邊百枝臣等,後將軍大花下-阿倍引田比羅夫臣、大山上-物部連熊、大山上-守君大石等,救於百濟.仍送兵杖、五穀.或本,續此未云,別使大山下-狹井連檳榔、小山下-秦造田來津,守護百濟.

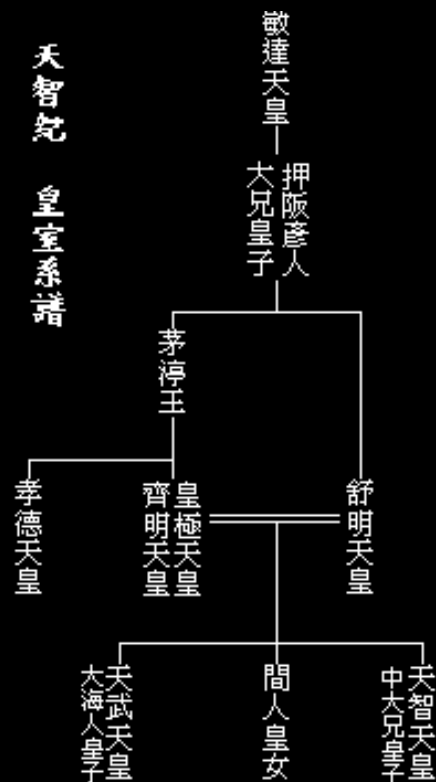
九月,皇太子御長津宮,以織冠授於百濟王子-豐璋.復以多臣-蔣敷之妹,妻之焉.

乃遣大山下-狹井連檳榔、小山下-秦造田來津,率軍五千餘,衛送於本鄉.於是,豐璋入國之時,福信迎來,稽首奉國朝政,皆悉委焉.

十二月,高麗言:「惟十二月,於高麗國寒極冰凍.故唐軍雲車、衝轡鼓鉦吼然.高麗士卒膽勇雄壯.故更取唐二壘,唯有二塞.亦備夜取之計,唐兵爆膝而哭.銳鈍力竭,而不能拔.」噬臍之恥,非此而何?釋道顯云:「言春秋之志,正起于高麗,而先聲百濟.百濟近侵甚苦急,故爾也.」

是歲,播磨國司-岸田臣-麻呂等獻寶劍言:「於狹夜郡-人禾田穴內獲焉.」

又,日本救高麗將軍等,泊于百濟-加巴利濱而然火焉.灰變為孔,有細響,如鳴鐃.或曰:「高麗,百濟終亡之徵乎!」



二. 歸國的百濟王豐璋,來自新羅的侵害

元年春正月,辛卯朔丁巳,賜百濟佐平鬼室-福信矢十萬枝、絲五百斤、綿一千斤、布一千端、韋一千張、稻種三千斛.

三月,庚寅朔癸巳,賜百濟王布三百端.

是月,唐人、新羅人伐高麗.高麗乞救國家.仍遣軍將,據疏留城.

由是,唐人不得略其南界,新羅不獲輸其西壘.

夏四月,鼠產於馬尾.釋道顯占曰:「北國之人將附南國.蓋高麗破,而屬日本乎.」

五月,大將軍大錦中-阿曇比羅夫連等,率船師一百七十艘,送豐璋等於百濟國.宣敕,以豐璋等使繼其位.又予金策於福信,而撫其背,褒賜爵祿.于時,豐璋等與福信稽首受敕,眾為流涕.

六月,己未朔丙戌,百濟遣達率-万智等,進調獻物.

冬十二月,丙戌朔,百濟王豐璋,其臣佐平福信等,與狹井連-闕名、朴市田來津議曰:「此州柔者遠隔田畝,土地磽确,非農商之地,是拒戰之場.此焉久處,民可飢饉.今可遷於避城.避城者,西北帶以古連旦涇之水,東南據深泥巨堰之防.繚以周田,決渠降雨.華實之毛則三韓之上腴焉.衣食之源則二儀之隩區矣.雖曰地卑,豈不遷歟?」於是,朴市田來津獨進而諫曰:「避城與敵所在之間,一夜可行,相近茲甚!若有不虞,其悔難及者矣.夫飢者後也,亡者先也.今敵所以不妄來者,州柔設置山險,盡為防禦,山峻高而谿隘,守易而攻難之故也.若處卑地,何以固居而不搖動及今日乎!」遂不聽諫,而都避城.

是歲,為救百濟,修繕兵甲,備具船舶,儲設軍糧.是年也,太歲壬戌.

二年春二月,乙酉朔丙戌,百濟遣達率-金受等進調.

新羅人燒燔百濟南畔四州,并取安德等要地.

於是,避城去賊近,故勢不能居.乃還居於州柔.如田來津之所計.

是月,佐平福信上送唐俘續守言等.



鼠子

鼠產子於馬尾,是違常理矣.釋道顯占為「北國之人將附南國」之兆.此北國者,意指高麗;南國者,意指日本.



州柔

或作州流,周留,豆率,支羅等.實址未詳,當在今忠清南道舒川郡韓山一帶



避城 全羅北道金堤之古名也

三.東征討新羅之日軍,敗於白村江

三月,遣前將軍上毛野君-稚子、間人連-大概,中將軍巨勢神前臣-譚語、三輪君-根麻呂,後將軍阿倍引田臣-比邇夫、大宅臣-鎌柄,率二万七千人,打新羅。

夏五月,癸丑朔,犬上君,闕名,馳告兵事於高麗而還。見糾解於石城。糾解仍語福信之罪。

六月,前將軍上毛野君-稚子等取新羅沙鼻、岐奴江二城。

百濟王豐璋,嫌福信有謀反心,以革穿掌而縛。時難自決,不知所為。乃問諸臣:「福信之罪,既如此焉。可斬以不?」於是達率-德執得曰:「此惡逆人,不合放捨!」福信即唾於執得,曰:「腐狗痴奴!」王勒健兒,斬而臨首。

秋八月,壬午朔甲午,新羅以百濟王斬己良將,謀直入國先取州柔。於是百濟之賊所計,謂諸將曰:「今聞,大日本國之救將廬原君臣,率健兒万余,正當越海而至。願將軍等應預圖之!我欲自往待饗白村。」

戊戌,賊將至於州柔,繞其王城。大唐軍將率戰船一百七十艘,陣烈於白村江。

戊申,日本船師初至者與大唐船師合戰。日本不利而退,大唐堅陣而守。

己酉,日本諸將與百濟王,不觀氣象而相謂之曰:「我等爭先,彼應自退。」更率日本亂伍中軍之卒,進打大唐堅陣之軍。大唐便自左右夾船繞戰。須臾之際,官軍敗績。赴水逆死者眾。艫舳不得迴旋。朴市田來津仰天而誓,切齒而嗔,殺數十人,於焉戰死。

是時,百濟王-豐璋與數人乘船逃去高麗。

九月,辛亥朔丁巳,百濟州柔城,始降於唐。是時,國人相謂之曰:「州柔降矣,事無奈何。百濟之名,絕于今日。丘墓之所,豈能復往。但可往於氏禮城,會日本軍將等,相謀事機所要。」

遂,教本在枕服岐城之妻子等,令知去國之心。

辛酉,發途於牟手。

癸亥,至手禮。

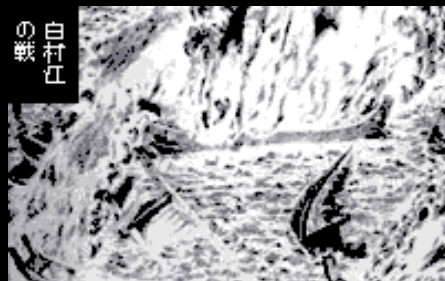
甲戌,日本船師及佐平余-自信、達率木素貴子、谷那晉首、憶禮-福留并國民等至於氏禮城。

明日,發船始向日本。



白村江

或作白村,中國史料則書作白江,熊津江口等,其址在今韓國錦江河口。



白江村之戰

『舊唐書』劉仁軌傳有云:仁軌乃別率杜爽、扶余隆率水軍及糧船,自熊津江往白江,會陸軍同趣周留城。仁軌遇倭兵於白江之口,四戰捷,焚其舟四百艘,煙焰漲天,海水皆赤,賊眾大潰。余豐脫身而走,獲其寶劍,偽王子扶余忠勝、忠志等,率士女及倭眾並耽羅國使,一時並降。百濟諸城,皆復歸順。賊帥遲受信據任存城不降。



近江國衙跡

淡海國者,近江國之古稱也。於『日本書紀』中,書作「近江」者共有六十二例,書為「淡海」者,僅有此例爾。然,古事記則有「淡海」六例,「近淡海」三例,不書「近江」矣。於白村江敗戰之後,日本心懼中國與新羅之聯軍侵攻,而將國都自飛鳥牽至近江,是以近江政權在此展開。



史蹟 大宰府跡 政廳及正殿跡

四.廿六冠位之制定與內政 . 外交

三年春二月,己卯朔丁亥,天皇命大皇弟,宜增換冠位階名及氏上、民部、家部等事。其冠有二十六階。大織、小織、大縫、小縫、大紫、小紫、大錦上、大錦中、大錦下、小錦上、小錦中、小錦下、大山上、大山中、大山下、小山上、小山中、小山下、大乙上、大乙中、大乙下、小乙上、小乙中、小乙下、大建、小建,是為二十六階焉。

改前花曰-錦,從錦至乙,加十階。又加換前初位一階,為-大建、小建二階。以此為異,餘並依前。其大氏之氏上賜大刀,小氏之氏上賜小刀,其伴造等之氏上賜干楯、弓矢。亦定其民部、家部。

三月,以百濟王-善光王等居于難波。有星殞于京北。

是春,地震。

夏五月,戊申朔甲子,百濟鎮將-劉仁願,遣朝散大夫-郭務悰等,進表函與獻物。

是月,大紫-蘇我連大臣薨。或本,大臣薨注五月。

六月,島皇祖母命薨。

冬十月,乙亥朔,宣發遣郭務悰等敕。

是日,中臣內臣遣沙門-智祥,賜物於郭務悰。

戊寅,饗賜郭務悰等。

是月,高麗大臣-蓋金,終於其國。遺言於兒等曰:「汝等兄弟,和如魚水,勿爭爵位。若不如是,必為鄰笑。」

十二月,甲戌朔乙酉,郭務悰等罷歸。

是月,淡海國言:「阪田郡人-小竹田史-身之豬槽水中,忽然稻生。身取而收,日日致富。栗太郡人-磐城村主-殷之新婦床席頭端,一宿之間,稻生而穗。其旦垂穎而熟。明日之夜,更生一穗。新婦出庭,兩箇鑰匙自天落前。婦取而與殷,殷得始富。」

是歲,於對馬島、壹岐島、筑紫國等,置防與烽。又於筑紫,築大堤貯水,名曰-水城。

四年春二月,癸酉朔丁酉,間人大后薨。

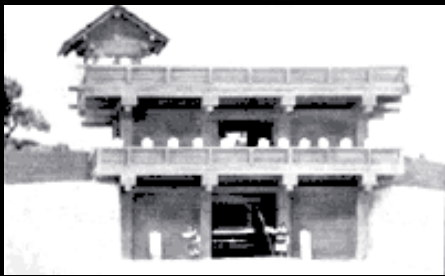
是月,勘校百濟國官位階級。仍以佐平福信之功,授鬼室-集斯小錦下。其本位達率。

復以百濟百姓男女四百餘人,居于近江國神前郡。



史蹟 水城跡

近江王朝,行政以大宰府為中心,而於其四周,建立烽火台等設備,亦於筑紫建立防衛用之堤,是為水城。



朝鮮式山城 復原模型

白村江一役戰敗後,近江朝為鞏固國防,多築朝鮮式山城以防禦外犯。圖為鬼城跡西門之復原推定模型。

五.遷都近江與天皇即位

六年春二月,壬辰朔戊午,合葬天豐財日重足姬天皇與間人皇女,於小市岡上陵。

是日,以皇孫-大田皇女葬於陵前之墓。

高麗、百濟、新羅,皆奉哀於御路。皇太子謂群臣曰:「我奉皇太后天皇之所敕,憂恤萬民之故,不起石槨役。所冀永代以為鏡誠焉!」

三月,辛酉朔己卯,遷都于近江。

是時,天下百姓不願遷都,諷諫者多,童謠亦重。日日夜夜,失火處多。

六月,葛野郡獻白鷺。

秋七月,己未朔己巳,耽羅遣佐平-椽磨等貢獻。

八月,皇太子幸倭京。

冬十月,高麗大兄-男生,出城巡國。於是城內二弟則側助士大夫之惡言,拒而勿入。由是男生奔入大唐,謀滅其國。

十一月,丁巳朔乙丑,百濟鎮將-劉仁願,遣熊津都督府熊山縣令-上柱國-司馬-法聰等,送大山下-境部連-石積等於筑紫都督府。

己巳,司馬法聰等罷歸。以小山下-伊吉連-博德、大乙下-笠臣-諸石,為送使。

是月,築倭國高安城,讚吉國山田郡屋島城,對馬國金田城。

潤十一月,丁亥朔丁酉,以錦十四匹、纈十九匹、緋二十四匹、紺布二十四端、桃染布五十八端、斧二十六、釵六十四、刀子六十二枚,賜椽磨等。

七年春正月,丙戌朔戊子,皇太子即天皇位。或本云,六年歲次丁卯三月,即位。

壬辰,宴群臣於內裏。

戊申,送史博德等服命。

二月,丙辰朔戊寅,立古人大兄皇子女-倭王為皇后,遂那四嬪。

有,蘇我山田石川麻呂大臣女,曰-遠智娘。或本云,美濃津子娘。生一男二女。

其一曰,大田皇女。

其二曰,鸕野皇女。及有天下,居于飛鳥淨御原宮,後移宮于藤原。

其三曰,建皇子。啞不能語。或本云,遠智娘生一男二女。其一曰-建皇子。其二曰-大田皇女。其三曰-鸕野皇女。或本云,蘇我山田麻呂大臣女,曰-茅渟娘。生大田皇女與娑羅羅皇女。

次有,遠智娘弟,曰-姪娘。

生,御名部皇女與阿陪皇女。

三月,癸卯朔,為間人大后,度三百三十人。

是月,給神前郡百濟人田。

秋八月,遣達率-達本-春初,築城於長門國。遣達率-憶禮-福留、達率-四比-福夫於筑紫國,築大野及椽二城。耽羅遣使來朝。

九月,庚午朔壬辰,唐國遣朝散大夫-沂州司馬-上柱國-劉德高等,等謂,右戎衛郎將上柱國百濟禰軍朝散大夫-柱國-郭務悰,凡二百五十四人。七月二十八日,至于對馬。九月二十日,至於筑紫。二十二日,進表函焉。

冬十月,己亥朔己酉,大開于菟道。

十一月,己巳朔辛巳,饗賜劉德高等。

十二月,戊戌朔辛亥,賜物於劉德高等。

是月,劉德高等罷歸。

是歲,遣小錦-守君-大石等於大唐,云云。等謂,小山-阪合部連-石積、大乙-吉士-岐彌、吉士-針間,蓋送唐使人乎。

五年春正月,戊辰朔戊寅,高麗遣前部-能婁等進調。

是日,耽羅遣王子-姑如等貢獻。

三月,皇太子親往於佐伯子麻呂連家,問其所患,慨歎元從之功。

夏六月,乙未朔戊戌,高麗前部-能婁等罷歸。

秋七月,大水。

是秋,復租調。

冬十月,甲午朔己未,高麗遣臣乙相-奄鄒等進調。大使臣-乙相-奄鄒、副使-達相-遁、二位-玄武-若光等。

是冬,京都之鼠向近江移。

以百濟男女二千餘人居于東國。凡不擇縑素,起癸亥年至于三歲,並賜官食。

倭漢-沙門-智由,獻指南車。



齊明天皇 越智岡上陵/小市岡上陵
同葬齊明(皇極)天皇與建王於一墓。
然,如書紀無誤,間人皇后當在同陵。



大田皇女 越智岡上墓
齊明天皇之孫,天武天皇之妃也。



近江大津京 復原模型
或作近江宮,近江大津宮,志賀之都。

阿陪皇女及有天下,居于藤原宮,後移都乃樂.或本云,名姪娘曰-櫻井娘.
次有,阿倍倉梯麻呂大臣女,曰-橘娘.
生,飛鳥皇女與新田部皇女.
次有,蘇我赤兄大臣女,曰-常陸娘.
生,山邊皇女.
又有,宮人生男女四人.
有,忍海造小龍女,曰-色夫古娘.生一男二女.
其一曰,大江皇女.
其二曰,川島皇子.
其三曰,泉皇女.
又有,栗隈首德万女,曰-黑媛娘.
生,水主皇女.
又有,越道君伊羅都賣.
生,施基皇子.
又有,伊賀采女-宅子娘.
生,伊賀皇子.後字曰-大友皇子.



錦織遺跡 智賀宮跡碑 (大津宮跡地)

[\[久遠・絆\]](#) [\[卷廿六\]](#) [\[其之二\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷廿七 天智紀

天命開別天皇 天智天皇

六.近江京新政

夏四月,乙卯朔庚申,百濟遣末都師父等進調。

庚午,末都師父等罷歸。

五月五日,天皇縱獵於蒲生野.于時大皇弟、諸王、內臣及群臣,皆悉從焉。

六月,伊勢王與其弟王,接日而薨.未詳官位。

秋七月,高麗從越之路遣使進調.風浪高,故不得歸。

以栗前王拜筑紫率.于時近江國講武,又多置牧而放馬.又越國獻燃土與燃水.又於濱台之下,諸魚覆水而至.又饗蝦宜.又命舍人等,為宴於所.時人曰:「天皇天命將及乎!」

秋九月,壬午朔癸巳,新羅遣沙餐-級餐-金東嚴等進調。

丁未,中臣內臣使沙門法弁、秦筆,賜新羅上臣-大角干-庾信船一隻,付東嚴等。

庚戌,使布勢臣-耳麻呂,賜新羅王輪御條船一隻,付東嚴等。

冬十月,大唐大將軍英公,打滅高麗。

高麗仲牟王初建國時,欲治千歲也.母夫人云:「若善治國,可得也.若或有本,有不可得也.但當有七百年之治也.」今此國亡者,當在七百年之末也。

十一月,辛巳朔,賜新羅王絹五十匹、綿五百斤、韋一百枚,付金東嚴等.賜東嚴等物,各有差。

乙酉,遣小山下-道守臣-麻呂、吉士-小鮪於新羅。

是日,金東嚴等罷歸。

是歲,沙門-道行盜草薙劍,逃向新羅.而中路風雨,芒迷而歸。

八年春正月,庚辰朔戊子,以蘇我赤兄臣拜筑紫率。

三月,己卯朔己丑,耽羅遣王子-久麻伎等貢獻。

丙申,賜耽羅王五穀種。

是日,王子-久麻伎等罷歸。

夏五月,戊寅朔壬午,天皇縱獵於山科野.大皇弟、藤原內大臣及群臣,皆悉從焉。

秋八月,丁未朔己酉,天皇登高安嶺,議欲修城.仍恤民疲,止而不作.時人感而歎曰:「寔乃仁愛之德,不亦寬乎!」云云。

是秋,霹靂於藤原內大臣家。

九月,丁丑朔丁亥,新羅遣沙餐-都儒等進調。

攝政六年、春三月、遷都于近江國。

七年正月、即天皇位。是為天命開別天皇。人無菜色、家有余蓄。

朝廷無事、遊覽是好。人無菜色、家有余蓄。

民咸稱之。太平之代。酒酣極歡。

帝召群臣、以酒饗之。刺數板。

於是大怒。以將執害之高。大臣因諫。帝即止之。

帝驚大初忌。大臣所遇之。自茲以後、殊親重之。

大皇弟初忌。大臣所遇之。自茲以後、殊親重之。

從之野向東土。略此類也。若使大臣生存、吾豈至於此困哉?

人之所忍、略此類也。若使大臣生存、吾豈至於此困哉?

藤原家傳 天智天皇段

此段日本書紀所言,近江朝恐於中國,進行武裝強化等一系列新政,而時人以為天智之世將終.然,依據藤原家傳所述,則非如此.二者之間有詭,或為天武抑止天智之說,亦或為家傳之述,偏於天智,固有所隱瞞。

七.藤原鎌足之死與火災 . 流言 . 盜賊續起

冬十月,丙午朔乙卯.天皇幸藤原內大臣家.親問所患.而憂悴極甚。

乃詔曰:「天道輔仁,何乃虛說!積善餘慶,猶是無徵!若有所須,便可以聞.」對曰:「臣既不敏,當復何言.但其葬事,宜用輕易.生則無務於軍國,死則何敢重難!」云云.時賢聞而歎曰:「此之一言,竊比於往哲之善言矣!大樹將軍之辭賞,詎可同年而語哉?」

庚申,天皇遣東宮大皇弟於藤原內大臣家,授大織冠與大臣位.仍賜姓為-藤原氏.自此以後,通曰-藤原內大臣.

辛酉,藤原內大臣薨.日本世記曰:「內大臣,春秋五十薨于私第.遷殯於山南.天何不淑,不憫遺耆.嗚呼哀哉!碑曰:『春秋五十有六而薨.』」

甲子,天皇幸藤原內大臣家.命大錦上-蘇我赤兄臣,奉宣恩詔,仍賜金香鑪。

十二月,災大藏。

是冬,修高安城,收畿內之田稅。

于時,災斑鳩寺。

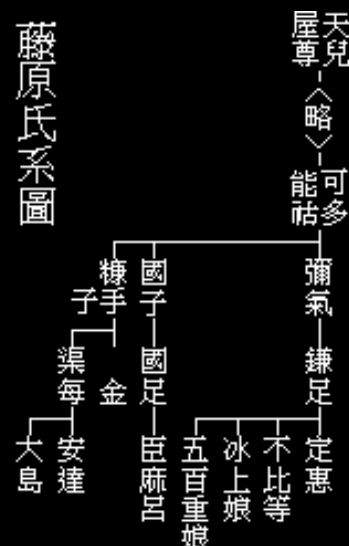
是歲,遣小錦中-河內直-鯨等,使於大唐。

又,以佐平-余自信、佐平-鬼室集斯等男女七百餘人,遷居近江國蒲生郡。

又,大唐遣郭務悰等二千餘人。

九年春正月,乙亥朔辛巳,詔士大夫等,大射宮門內。

藤原氏系圖



中臣氏,誦祝詞為業,祖神天兒屋根命.至中臣鎌子改藤原,為藤原鎌足。

戊子,宣朝廷之禮儀與行路之相避.復禁斷誣妄、妖偽.
二月,造戶籍,斷盜賊與浮浪.
于時,天皇幸蒲生郡匱迕野而觀宮地.又修高安城,積穀與鹽.又築長門城一、筑紫城二.
三月,甲戌朔壬午,於山御井傍,敷諸神座而班幣帛.中臣金連宣祝詞.
夏四月,癸卯朔壬申,夜半之後,災法隆寺.一屋無餘.大雨雷震.
五月,童謠曰:

打橋・頭・遊・出・子 玉手・家・八重子・刀白
出・・・・・ 悔・・・・・ 出・子 玉手・家・八重子・刀白

六月,邑中獲龜.背書申字,上黃下玄,長六寸許.
秋九月,辛未朔,遣阿曇連-賴垂於新羅.
是歲,造水碓而治鐵.

言法隆寺燒失童謠
板搭橋兮橋端上 速往遊兮童子矣
玉手家兮八重子 速往出兮婦人矣
即便出兮無所悔 速往遊兮童子矣
玉手家兮八重子 速往出兮婦人矣
在用木板搭出的橋的先端有著歌垣的遊戲.去吧,孩子啊.去吧,玉手家中名叫八重子的太太啊.去了你們是絕對不會後悔的.去吧,孩子.去吧,玉手家中名叫八重子的太太啊!



水碓 借水力以輾輾物體之具

授與官職	渡來人名	備註
大錦下	余自信	
大錦下	沙宅紹明	法官大輔
小錦下	鬼室集斯	學職頭
大山下	谷那晉首	閑兵法
大山下	木素貴子	閑兵法
大山下	憶禮福留	閑兵法
大山下	答本春出	閑兵法
大山下	本日比子	解藥
大山下	贊波羅金羅金須	解藥
大山下	鬼室集信	解藥
小山上	德頂上	解藥
小山上	吉大尚	解藥
小山上	許率母	明五經
小山上	角服牟	閑於陰陽
小山下	餘達率等	計五十餘人

八.大友皇子体制人事發足

十年春正月,己亥朔庚子,大錦上-蘇我赤兄臣與大錦下-巨勢人臣,進於殿前,奉賀正事.
癸卯,大錦上-中臣金連命宣神事.
是日,以大友皇子拜太政大臣.以蘇我赤兄臣為左大臣,以中臣金連為右大臣.以蘇我果安臣、巨勢人臣、紀大人臣為御史大夫.御史,蓋今之大納言乎.
甲辰,東宮太皇弟奉宣,或本云,大友皇子宣命.施行冠位、法度之事.法度、冠位之名,具載於新律令.大赦天下.
丁未,高麗遣上部-大相-可婁等進調.
辛亥,百濟鎮將劉仁願遣李守真等上表.
是月,以大錦下授佐平-余自信、沙宅紹明.法官大輔.以小錦下授鬼室集斯.學職頭.以大山下授達率-谷那晉首.閑兵法、木素貴子.閑兵法、憶禮福留.閑兵法、答本春出.閑兵法、本日比子贊波羅金羅金須.解藥、鬼室集信.解藥.以小山上授達率-德頂上.解藥、吉大尚.解藥、許率母.明五經、角服牟.閑於陰陽.以小山下授餘達率等五十餘人.童謠云:

橘・己・枝枝 生・玉・貫・時 同・緒・貫・

二月,戊辰朔庚寅,百濟遣台久用善等進調.
三月,戊戌朔庚子,黃書造-本實,獻水臬.
甲寅,常陸國貢中臣部-若子.長尺六寸,其生年丙辰至於此歲,十六年也.
夏四月,丁卯朔辛卯,置漏剋於新台,始打候時.動鍾鼓,始用漏剋.此漏剋者,天皇為皇太子時,始親所造製造也,云云.
是月,筑紫言:「八足之鹿,生而即死」
五月,丁酉朔辛丑,天皇御西小殿.皇太子、群臣侍宴.於是,再奏田舞.
六月,丙寅朔己巳,宣百濟三部使人所請軍事.
庚辰,百濟遣昇真子等進調.
是月,以栗隈王為筑紫帥.
新羅遣使進調.別獻水牛一頭、山雞一隻.
秋七月,丙申朔丙午,唐人李守真等,百濟使人等,並罷歸.
八月,乙丑朔丁卯,高麗上部-大相-可婁等罷歸.
壬午,饗賜蝦夷.

言渡來人授爵童謠:

橘生時兮各己枝 玉貫時兮同一緒
方橘子的果實生出時是個別掛在個別的枝頭上的,但是一但如玉串般串起來時,則都將串在一緒之上.(或諷外人獲爵,或讚外來人國人一心)



漏剋 仿天智漏剋模型
漏剋者,水鍾是也.以自漏壺上小孔流出之水量,而驅使壺中漏箭表示時間之裝置.晝夜十二時各置四剋以為量度.是天智天皇為皇太子時造也.

九.天皇御崩與大海人皇子出家

九月,天皇寢疾不豫.或本云,八月,天皇疾病.

冬十月,甲子朔庚午,新羅遣沙餐-金万物等進調.

辛未,於內裏開百佛眼.

是月,天皇遣使,奉袈裟、金砵、象牙、沉水香、栴檀香及諸珍財於法興寺佛.

庚辰,天皇疾病彌留.敕換東宮,引入臥內,詔曰:「朕疾甚,以後事屬汝。」云云.

於是,再拜稱疾固辭,不受曰:「請奉洪業,付屬太后,令大友王,奉宣諸政.臣請願,奉為天皇,出家修道。」天皇許焉.東宮起而再拜,便向於內裏佛殿之南,距坐胡床,剃除鬢髮,為沙門.

於是,天皇遣次田生磐,送袈裟.

壬午,東宮見天皇,請之吉野修行佛道.天皇許焉.東宮即入吉野.大臣等侍送,至菟道而還.

十一月,甲午朔癸卯,對馬國司遣使於筑紫大宰府,言:「月生二日,沙門-道久、筑紫君-薩野馬、韓島勝-娑婆、布師首-磐四人從唐來曰:『唐國使人郭務淙等六百人,送使沙宅孫登等一千四百人,總合二千人,乘船四十七隻,俱泊於比知島,相謂之曰:『今吾輩人船數眾,忽然到彼,恐彼防人驚駭射戰.』乃遣道久等,預稍披陳來朝之意.』」

丙辰,大友皇子在內裏西殿織佛像前,左大臣-蘇我赤兄臣、右大臣-中臣金連、蘇我果安臣、巨勢人臣、紀大人臣侍焉.

大友皇子手執香鑪,先起誓盟曰:「六人同心,奉天皇詔.若有違者,必被天罰!」云云.於是,左大臣-蘇我赤兄臣等手執香鑪,隨次而起,泣血誓盟曰:「臣等五人隨於殿下,奉天皇詔.若有違者,四天王打!天神地祇,亦復誅罰!三十三天,証知此事.子孫當絕,家門必亡!」云云.

丁巳,災進江宮,從大藏省第三倉出.

壬戌,五臣奉大友皇子,盟天皇前.

是日,賜新羅王絹五十匹、縹五十匹、綿一千斤、韋一百枚.

十二月,癸亥朔乙丑,天皇崩于近江宮.

癸酉,殯于新宮.于時童謠曰:

御吉野・吉野・・・島傍・良・・苦・・
水蔥・下 芹・下 吾・苦・・ 其一

臣・子・八重・紐解・一重・・・解・・・御子・紐解・ 其二

赤駒・・行・憚・真葛原 何・傳言 直・・良・・ 其三

乙卯,新羅進調使-沙餐金万物等罷歸.

是歲,讚岐國山田郡人家,有雞子四足者.

又大炊省,有八鼎鳴.或一鼎鳴.或八俱鳴.

日本書紀卷廿七 終



佛像開眼式



法興寺 今飛鳥寺

言大海人皇子童謠

御吉野兮吉野鱸 願鱸可得到之傍
然矣苦兮不為得 水蔥芹下吾苦矣 其一
臣子雖解八重紐 然此一重不得解
御子吾兮解紐矣 其二
赤駒憚行真葛原 如此何須用傳言
會面直述豈不善 其三

御吉野那吉野的香魚啊,如果可以在川邊補得就好了.啊啊,我真是痛苦啊.香魚一直棲身在水蔥或是芹的下面而無法補得,真令我痛苦啊

臣子們解了八重的紐,但是這一重卻怎麼解都解不開,於是御子(大海人)將要解開這紐

赤駒害怕通過那葛草之原,既然如此又何須傳言呢,直接會面直述不就好了嗎?(其一諷大海人皇子逃避吉野,其二諷大海人王子將收拾壬申之亂,其三云民眾願大海人皇子可直言所思.)



見於漢書五行志與史記周威烈王記,鼎鳴是為王室交替之前兆.此諭天武朝之將起.大炊省,後期之大炊寮也.

[\[久遠・絆\]](#) [\[其之一\]](#) [\[卷廿八\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷廿八 天武紀[上]

天淳中原瀛真人天皇 天武天皇



宮瀧遺跡 傳天武天皇吉野離宮跡
在今奈良縣吉野郡吉野町.雖亦有丹
生川上神社說,卻與書紀記載衝突.



虎著翼放焉 即,中文「如虎添翼」

一.大海人皇子出家入吉野

天淳中原瀛真人天皇,淳中,此云・・天命開別天皇同母弟也.

幼曰-大海人皇子,生而有岐嶷之姿.及壯,雄拔神武,能天文、遁甲.

納天命開別天皇女-菟野皇女為正妃.

天命開別天皇元年,立為東宮.

四年冬十月,庚辰,天皇臥病,以痛之甚矣.於是,遣蘇賀臣-安麻呂,召東宮,引入大殿.

時安摩侶素東宮所好,密顧東宮曰:「有意而言矣.」東宮於茲疑有隱謀而慎之.

天皇敕東宮,授鴻業.乃辭讓之曰:「臣之不幸,元有多病,何能保社稷?願陛下舉天下附皇后,仍立大友皇子宜為儲君.臣今日出家,為陛下欲修功德.」天皇聽之.

即日,出家法服,因以收私兵器,悉納於司.

壬武,入吉野宮.時左大臣-蘇賀赤兄臣、右大臣-中臣金連及大納言-蘇賀果安臣等送之,自菟道返焉.或曰:「虎著翼放之.」

是夕,御島宮.

癸未,至吉野而居之.是時,聚諸舍人,謂之曰:「我今入道修行,故隨欲修道者留之.若仕欲成名者,還仕於司.」然無退者.更聚舍人,而詔如前.是以舍人等半留半退.

十二月,天命開別天皇崩.

二.緊迫對立,決意出兵

元年春三月,壬辰朔己酉,遣內小七位-阿曇連-稻敷於筑紫,告天皇喪於郭務悰等.於是郭務悰等咸著喪服,三遍舉哀,向東稽首.

壬子,郭務悰等再拜,進書函與信物.

夏五月,辛卯朔壬寅,以甲、冑、弓矢賜郭務悰等.

是日,賜郭務悰等物,總合絕一千六百起時三匹、布二千八百五十二端、綿六百六十六斤.

戊午,高麗遣前部-富加抔等進調.

庚申,郭務悰等罷歸.

是月,朴井連-雄君奏天皇曰:「臣以有私事,獨至美濃.時朝庭宣美濃、尾張兩國司曰:『為造山陵,豫差定人夫.』則人別令執兵.臣以為,非為山陵,必有事矣.若不早避,當有危歟!」或有人奏曰:「自近江京至于倭京,處處置侯.亦命菟道守橋者,遮皇大弟宮舍人運私糧事.」

天皇惡之,因令問察,以知事已實.於是詔曰:「朕所以讓位遁世者,獨治病全身,永終百年.然今不獲已,應承禍.何默亡身耶!」



宇治川宇治橋「虎著翼放焉」之地



吉野宮復原模型.

三.壬申之亂爆發.大海人皇子進入東國

六月,辛酉朔壬午,詔村國連-男依、和珥臣-君手、身毛君-廣,曰:「今聞,近江朝庭之臣等,為朕謀害.是以汝等三人急往美濃國,告安八磨郡湯沐令-多臣-品治,宣示機要而先發當郡兵.仍經國司等,差發諸軍,急塞不破道.朕今發路.」

甲申,將入東.時有一臣奏曰:「近江群臣元有謀心,必造天下,則道路難通.何無一人兵,徒手



阿紀神社 傳乘仁天皇菟田吾城宮跡
壬申年六月甲申(24日),到菟田吾城。



隱郡跡 名張川宇陀川合流點
夜半,到隱郡,焚隱郡家.今名張市。



神戶神社 (伊賀驛家跡神戶村邊)
伊賀驛家實地未詳,或在伊賀郡家邊



25日,到鈴鹿關跡 今關町
大和街道關町,過此則入伊勢。

四.狼狽的近江朝廷與大友皇子的對策

是時,近江朝聞大皇弟入東國,其群臣悉愕,京內震動.或遁欲入東國,或退將匿山澤。

爰大友皇子謂群臣曰:「將何計?」一臣進曰:「遲謀將後,不如,急聚驍騎,乘跡而逐之!」皇子不從.則以韋那公-磐楸、書直-藥、忍阪直-大摩呂,遣于東國;以穗積百足臣及弟五百枝、物部首-日向,遣于倭京;且遣佐伯連-男於筑紫,遣樟使主-磐手,於吉備國,並悉令興兵。

仍謂男與磐手曰:「其筑紫大宰-栗隈王與吉備國守-當摩公廣島二人,元有隸大皇弟.疑有反歟.若有不服色,即殺之!」

於是,磐手到吉備國,授符之日,給廣島令解刀.磐手乃拔刀以殺也。

男至筑紫.時栗隈王承符對曰:「筑紫國者,元戎邊賊之難也.其峻城深隍,臨海守者,豈為內賊耶?今畏命而發軍,則國空矣.若不意外,有倉卒之事,頓社稷傾之.然後雖百殺臣,何益焉?豈敢背德耶?輕不動兵者,其是緣也。」時栗隈王二子-三野王、武家王佩劍立于側而無退.於是男按劍欲進,還恐見亡.故不能成事,而空還之。

東方驛使-磐楸等將及不破,磐楸獨疑山中有兵,以後之緩行.時伏兵自山出,遮藥等之後.磐楸見之,知藥等見捕,則返逃走,僅得脫。

當是時,大伴連-馬來田、弟-吹負並見時否,以稱病退於倭家.然知其登嗣位者,必所居吉野

入東.臣恐事不就矣。」天皇從之,思欲返召男依等.即遣大分君-惠尺、黃書造-大伴、逢臣-志摩于留守司-高阪王,而令乞驛鈴.因以謂惠尺等曰:「若不得鈴,迺志摩還而復奏.惠尺馳之往於近江,喚高市皇子、大津皇子,逢於伊勢。」既而惠尺等至留守司,舉東宮之命,乞驛鈴於高阪王.然不聽矣.時惠尺往近江.志摩乃還之,復奏曰:「不得鈴也!」

是日,發途入東國.事急不待駕而行之.僞遇縣犬養連-大伴鞍馬,因以御駕.乃皇后載輿從之.逮于津振川,車駕始至,便乘焉.是時元從者草壁皇子、忍壁皇子及舍人朴井連-雄君、縣犬養連-大伴、佐伯連-大目、大伴連-友國、稚櫻部臣-五百瀨、書首-根摩呂、書直-智德、山背直-小林、山背部-小田、安斗連-智德、調首-淡海之類,二十有餘人,女孺十有餘人也。

即日,到菟田吾城.大伴連-馬來田、黃書造-大伴從吉野宮追至.於此時,屯田司舍人土師連-馬手供從駕者食。

過甘羅村,有獵者二十餘人.大伴朴本連-大國,為獵者之首.則悉喚令從駕.亦徵美濃王,乃參赴而從矣.運湯沐之米伊勢國駄五十匹.遇於菟田郡家頭.仍皆棄米,而令乘步者.到大野以日落也,山暗不能進行,則壞取當邑家籬為燭。

及夜半,到隱郡.焚隱驛家.因唱邑中曰:「天皇入東國.故人夫諸參赴。」然一人不肯來矣。

將及橫河,有黑雲,廣十餘丈經天.時天皇異之,則舉燭親乘式,占曰:「天下兩分之祥也.然朕遂得天下歟!」即急行到伊賀郡,焚伊賀驛家.逮于伊賀中山,而當國郡司等,率數百眾歸焉。

會明,至荊荻野,暫停駕而進食.到積殖山口,高市皇子自鹿深越以遇之.民直-大火、赤染造-德足、大藏直-廣隅、阪上直-國麻呂、古市-黑麻呂、竹田-大德、膽香瓦臣-安倍從焉。

越大山,至伊勢鈴鹿.愛國司守三宅連-石床、介三輪君-子首及湯沐令田中臣-足麻呂、高田首-新家等參遇于鈴鹿郡.則且發五百君,塞鈴鹿山道.到川曲阪下,而日暮也.以皇后疲之,暫留輿而息.然夜噓欲雨,不得淹息而進行.於是寒之雷雨已甚.從駕者衣裳濕,以不堪寒.乃到三重郡家,焚屋一間,而令燠寒者。

是夜半,鈴鹿關司遣使奏言:「山郡王、石川王,並來歸之.故置關焉。」天皇便使路直益人徵.丙戌,旦,於朝明郡跡太川邊,望拜天照大神.是時,益人到之奏曰:「所置關者非山郡王、石川王.是大津皇子也。」便隨益人參來矣.大分君-惠尺、難波吉士-三綱、駒田勝-忍人、山邊君-安摩呂、小墾田-豬手、泥部-胝枳、大分君-稚臣、根連-金身、漆部-友背之輩從之.天皇大喜,將及郡家,男依乘驛來奏曰:「發美濃師三千人,得塞不破道!」

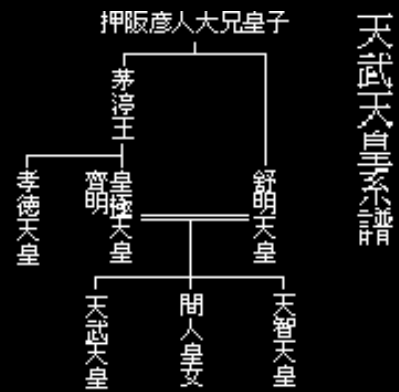
於是天皇英雄依之務,既到郡家,先遣高市皇子於不破,令監軍事.遣山背部-小田、安斗連-阿加布,發東海軍.又遣稚櫻部臣-五百瀨、土師連-馬手,發東山軍。

是日,天皇宿于桑名郡家,即停以不進。



春日(桑名)神社 傳桑名郡家跡
丙戌(26日),天皇宿于桑名郡家。

大皇弟矣。是以馬來田先從天皇。唯吹負留謂：「立名于一時，欲寧艱難。」即招一二族及諸豪傑，僅得數十人。



宮代廢寺跡 不破郡家跡候補地
丁亥(27日),天武天皇入不破,至郡家。



野上行宮跡 不破郡關之原野上天樂
丁亥,天皇興行宮於野上而居焉。



大海人兜掛石跡 和甞,今關之原也。
戊子,己丑(28,29日),天皇往於和甞。

五.大海人皇子於野上行宮發布作戰大號令

丁亥,高市皇子遣使於桑名郡家以奏言：「遠居御所,行政不便,宜御近處。」

即日,天皇留皇后,而入不破。比及郡家,尾張國司守-小子部連-鉏鉤率二万眾歸之。天皇即美之,分其軍,塞處處道也。到于野上,高市皇子自和甞參迎,以便奏言：「昨夜,自近江朝驛使馳至。因以伏兵而捕者,則書直-藥、忍阪直-大麻呂也。問何所往,答曰：『為所居吉野大皇弟而遣發東國軍韋那公磐鍬之徒也。然磐鍬見兵起,乃還逃之。』」

既而天皇謂高市皇子曰：「其近江朝,左右大臣及智謀群臣共定議,今朕無與計事者,唯有幼少孺子耳。奈之何？」皇子攘臂按劍奏言：「近江群臣雖多,何敢逆天皇之靈哉！天皇雖獨,則臣高市賴神祇之靈,請天皇之命,引率諸將而征討。豈有距乎？」爰天皇譽之,攜手撫背曰：「慎,不可怠。」因賜鞍馬,悉授軍事。皇子則還和甞。天皇於茲,行宮興野上而居焉。

此夜,雷電雨甚,天皇祈之曰：「天地神祇扶朕者,雷雨息矣！」言訖即雷雨止之。

戊子,天皇往於和甞,檢校軍事而還。

己丑,天皇往和甞,命高市皇子號令軍眾。天皇亦還于野上而居之。

是日,大伴連-吹負密與留守司-阪上直-熊毛議之,謂一二漢直等曰：「我詐稱高市皇子,率數十騎,自飛鳥寺北路出之臨營。乃汝內應之！」既而繕兵於百濟家,自南門出之。先秦造-熊令憤鼻,而乘馬馳之,俾謂於寺西營中曰：「高市皇子自不破至！軍眾多從！」

爰留守司-高阪王及興兵使者-穗積臣-百足等據飛鳥寺西槻下為營。唯百足居小墾田兵庫,運兵於近江。時營中軍眾聞熊叫聲,悉散走。仍大伴連-吹負率數十騎劇來。則熊毛及諸直等共與連合。軍士亦從。乃舉高市皇子之命,喚穗積臣-百足於小墾田兵庫。爰百足乘馬緩來,逮于飛鳥寺西槻下。有人曰：「下馬也。」時百足下馬遲之,便取其襟以引墮,射中一箭。因拔刀斬而殺之。

乃禁穗積臣五百枝、物部首日向。俄而赦之置軍中。且喚高阪王、稚狹王,而令從軍焉。既而遣大伴連-安麻呂、阪上直-老、佐味君-宿那麻呂等於不破宮,令奏事狀。天皇大喜之。因乃令吹負拜將軍。是時三輪君-高市麻呂、鴨君-蝦夷等及群豪傑者,如響悉會將軍麾下,乃規襲近江。因以撰眾中之英俊,為別將及君監。

庚寅,初向乃樂。

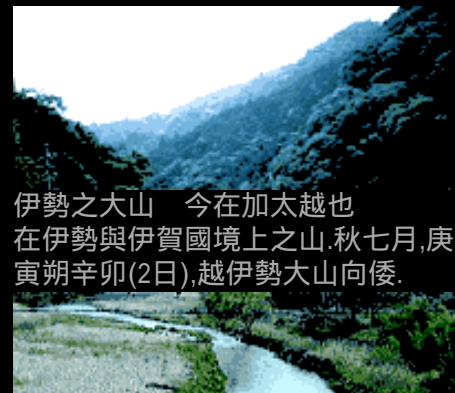
六.自大山到倭,由不破至近江出擊

秋七月,庚寅朔辛卯,天皇遣紀臣-阿閉麻呂、多臣-品治、三輪君-子首、置始連-菟,率數万眾,自伊勢大山越之向倭。且遣村國連-男依、書首-根麻呂、和珥部臣-君手、膽香瓦臣-安倍,率數万眾,自不破出,直入近江。恐其眾與近江師難別,以赤色著衣上。然後別命多臣-品治,率三千眾屯于荊荻野,遣田中臣-足麻呂,令守倉歷道。

時近江命山部王、蘇賀臣-果安、巨勢臣-比等,率數万眾,將襲不破,而軍于犬上川濱。山部王為蘇賀臣果安、巨勢臣-比等見殺。由是亂,以軍不進。乃蘇賀臣-果安自犬上返,刺頸而死。

是時,近江將軍羽田公-矢國,其子-大人等,率己族來降。因授斧鉞,拜將軍,即北入越。

先是近江放精兵,忽衝玉倉部邑。則遣出雲臣-貊,追擊之。



伊勢之大山 今在加太越也
在伊勢與伊賀國境上之山。秋七月,庚寅朔辛卯(2日),越伊勢大山向倭。

犬上川 發鈴鹿山,注琵琶湖

經一日,近江軍當諸道而多至,即並不能相戰,以解退。

是日,將軍吹負為近江所敗,以獨率一二騎走之,逮于墨阪,遇逢菟軍至,更還屯金網井,而招聚散卒。於是,聞近江軍至大阪道,而將軍引軍如西,到當麻衢,與壹伎史-韓國軍戰葦池側。

時有勇士來目者,拔刀急馳,直入軍中,騎士繼踵而進之,則近江軍悉走之,追斬甚多。爰,將軍令軍中曰:「其發兵之元意,非殺百姓,是為元兇,故莫妄殺。」

於是,韓國離軍獨逃也,將軍遙見之,令來目以俾射,然不中,而遂走得免焉。

將軍更還本營,時東師頻多臻,則分軍,各當上中下道而屯之,唯將軍吹負親當中道。

於是,近江將-犬養連-五十君,自中道至之留村屋,而遣別將-廬井造

-鯨,率二百精兵,衝將軍營,當時麾下軍少,以不能距。

爰有大井寺奴,名-德麻呂等五人,從軍,即以德麻呂等為先鋒,以進射之,鯨軍不能進。

是日,三輪君-高市麻呂、置始連-菟當上道,戰于箸陵,大破近江軍,而乘勝兼斷鯨軍之後,鯨軍悉解走,多殺士卒,鯨乘白馬以逃之,馬墮泥田,不能進行。

則將軍吹負謂甲斐勇者曰:「其乘白馬者,廬井鯨也,急追以射!」於是甲斐勇者馳追之,比及鯨,鯨急鞭馬,馬能拔以出泥,即馳之得脫,將軍亦更還本處而軍之,自此以後,近江軍遂不至。

先是軍金網井之時,高市郡大領-高市縣主-許梅,儻忽口閉,而不能言也。

三日之後,方著神以言:「吾者,高市社所居,名-事代主神,又,身狹社所居,名-生靈神者也。」

乃顯之曰:「於神日本磐余彥天皇之陵,奉馬及種種兵器。」便亦言:「吾者,立皇御孫之前後,以送奉于不破而還焉,今且立官軍中而守護之。」且言:「自西道軍眾將至之,宜慎也。」言訖則醒矣。

故是,以便遣許梅,而祭拜御陵,因以奉馬及兵器,又捧幣而禮祭高市、身狹之神,然後壹伎史-韓國自大阪來,故時人曰:「二社神所教之辭,適是也!」

又,村屋神,著祝曰:「今自吾社中道,軍眾將至,故宜塞社中道。」故,未經幾日,廬井造-鯨自中道至,時人曰:「即神所教之辭是也!」

軍政既訖,將軍等舉是三神教言而奏之,即敕登進三神之品以祠焉。



高市御縣坐鴨事代主神社



牟佐坐神社 嗣身狹(牟佐)生靈神



村屋坐彌富都比賣神社 嗣村屋神



島庄遺跡 馬子宅邸比定地
島,地名,意指島大臣蘇我馬子宅邸一代,庚子條所御島宮當在其近郊。



天武天皇飛鳥淨御原宮跡
飛鳥淨御原宮跡原僅發現南門跡,而本殿則於皇紀二六六四年出土,推定規模崎右上方當含括飛鳥阪蓋宮跡。

十.壬申之亂終結,大海人皇子凱旋回倭

辛亥,將軍吹負既定倭地,便越大阪往難波,以餘別將等各自三道進,至于山前,屯河南,即將軍吹負,難波小郡而仰以西諸國司等,令進官鑰、驛鈴、傳印。

癸丑,諸將軍等悉會於筱浪,筱,此云・・而探捕左右大臣及諸罪人等。

乙卯,將軍等向於不破宮,因以捧大友皇子頭,而獻于營前。

八月,庚申朔甲申,命高市皇子,宣近江群臣犯狀,則重罪八人坐極刑,仍斬右大臣-中臣連-金於淺井田根。

是日,左大臣-蘇我-赤兄、大納言-巨勢臣-比等及子孫,并中臣連金之子,蘇我臣果安之子,悉配流,以餘悉赦之。

先是尾張國司守-少子部連-鉏鉤,匿山自死之,天皇曰:「鉏屋,有功者也,無罪何自死,其有隱謀歟?」

丙戌,恩敕諸有功勳者,而顯寵賞。

九月,己丑朔丙申,車駕還宿伊勢桑名。

丁酉,宿鈴鹿。

戊戌,宿阿閉。

己亥,宿名張。

庚子,詣于倭京,而御島宮。

癸卯,自島宮移岡本宮。

是歲,營宮室於岡本宮南。

即冬,遷以居焉,是謂-飛鳥淨御原宮。

冬十一月,戊子朔辛亥,饗新羅客-金押實等於筑紫。

即日,賜祿各有差。

十二月,戊午朔辛酉,選諸有功勳者,增加冠位,仍賜小山位以上,各有差。

壬申,船一隻,賜新羅客。

癸未,金押實等罷歸。

是月,大紫-韋那公-高見薨。

[\[久遠・絆\]](#) [\[其之一\]](#) [\[卷廿九\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷廿九 天武紀[下]

天淳中原瀛真人天皇 天武天皇

一.天皇即位與皇子女,各國賀騰極使來朝

二年春正月,丁亥朔癸巳,置酒宴群臣.

二月,丁巳朔癸未,天皇命有司設壇場,即帝位於飛鳥淨御原宮.

立正妃為皇后.

后生,草壁皇子尊.

先納,皇后姊-大田皇女為妃.

生,大來皇女與大津皇子.

次妃,大江皇女.

生,長皇子與弓削皇子.

次妃,新田部皇女.

生,舍人皇子.

又夫人,藤元大臣女-冰上娘.

生,但馬皇女.

次夫人,冰上娘弟-五百重娘.

生,新田部皇子.

次夫人,蘇我赤兄大臣女-大蕤娘,生一男二女.

其一曰,穗積皇子.

其二曰,紀皇女.

其三曰,田形皇女.

天皇初娶鏡王女-額田姬王.

生,十市皇女.

次納,胸形君德善女-尼子娘.

生,高市皇子命.

次,肉人臣大麻呂女-穀媛娘,生二男二女.

其一曰,忍壁皇子.

其二曰,磯城皇子.

其三曰,泊瀨部皇女.

其四曰,託基皇女.

乙酉,有勳功人等,賜爵有差.

三月,丙戌朔壬寅,備後國司獲白雉於龜石郡而貢.乃當郡課役悉免,仍大赦天下.

是月,聚書生,始寫一切經於川原寺.

夏四月,丙辰朔己巳,欲遣侍大來皇女于天照大神宮,而令居泊瀨齋宮.是先潔身,稍近神之所也.

五月,乙酉朔,詔公卿大夫及諸臣、連并伴造等,曰:「夫初出身者,先令仕大舍人.然後選簡其才能,以充當職.又婦女者,無問有夫無夫及長幼,御進仕者聽矣.其考選准官人之例.」

癸丑,大錦上-阪本財臣卒.由壬申年之勞,贈小紫位.

閏六月,乙酉朔庚寅,大錦下-百濟沙宅-昭明卒.為人聰明叡智,時稱秀才.

於是天皇驚之,降恩以贈外小紫位,重賜本國大佐平位.

壬辰,耽羅遣王子-久麻藝、都羅、宇麻等朝貢.

己亥,新羅遣韓阿餐-金承元、阿餐-金祇山、大舍-霜雪等,賀騰極.并遣一吉餐-金薩儒、韓奈末-金池山等,弔先皇喪.一云,調使其送使貴干、寶真毛,送承元、薩儒於筑紫.

戊申,饗貴干寶等於筑紫,賜祿各有差.即從筑紫返于國.

秋八月,甲申朔壬辰,詔在伊賀國紀臣-阿閉麻呂等,壬申年勞動之狀,而顯寵賞.

癸卯,高麗遣上部-位頭-大兄-邯子、前部-大兄-碩干等朝貢.仍新羅遣韓奈末-金利益,送高麗使人于筑紫.

戊申,喚賀騰極使-金承元等中客以上二十七人於京.

因命大宰,詔耽羅使人曰:「天皇新平天下,初之即位.由是唯除賀使以外不召.亦時寒波嶮,久淹留之還為汝愁.故宜疾歸.」仍在國王及使者久麻藝等,肇賜爵位.其爵者大乙上,更以錦繡潤飾之.當其國之佐平位.則自筑紫返之.



天武天皇飛鳥淨御原宮跡挖掘現場



飛鳥淨御原宮北西苑池遺溝



藥師寺藏 傳天武天皇坐像



川原寺跡 現弘福寺



九月,癸丑朔庚辰,饗金承元等於難波,奏種種樂,賜物各有差。
冬十一月,壬子朔,金承元罷歸之。
壬申,饗高麗郎子,新羅薩儒等於筑紫大郡,賜祿各有差。
十二月,壬午朔丙戌,侍奉大嘗中臣、紀部及神官人等,并播磨、丹波二國郡司,亦以下人夫等,悉賜祿。因以郡司等,各賜爵一級。
戊戌,以小紫-美濃王、小錦下-紀臣-訶多麻呂,拜造高市大寺司。今大官大寺,是時知事-福林僧,由老辭知事。然,不聽也。
戊申,以義成僧為小僧都。
是日,更加佐官二僧。其有四佐官,始起于此時也。是年也,太歲癸酉。

伊勢大神宮內宮
天照大神宮者,所謂伊勢大神宮也。
另,文中泊瀨齋宮遺跡,現址不祥。



木之本廢寺跡出土軒瓦
『大安寺伽藍緣起并流記資財帳』
載天武二年遷百濟大寺事云「自百濟地,移高市地。」今木之本廢寺跡。



陰陽寮跡 京都上京區千本丸太町
大寶制令定中務省被官。司天文、曆數、風雲氣色,如觀測到事象異常,則密封奏文之機構。其內陰陽師分有陰陽、天文、曆、漏刻博士等職。



高安城跡 奈良縣生駒郡平群町



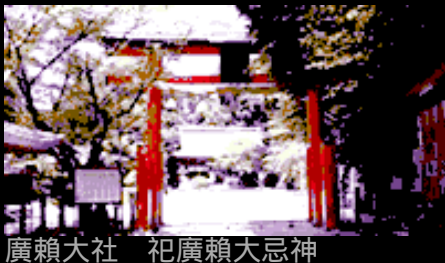
都佐坐神社 祀土佐大神



龍田大社 祀龍田風神

二.志向律令國家,改革諸制舊弊

三年春正月,辛亥朔庚申,百濟王昌成薨,贈,小紫位。
二月,辛巳朔戊申,紀臣-阿閉麻呂卒。天皇大悲之,以勞壬申年之役,贈大紫位。
三月,庚戌朔丙辰,對馬國司守-忍海造-大國言:「銀始出于當國,即獻上。」由是大國授小錦下位。凡銀有倭國,初出於此時。故悉奉諸神祇,亦周賜小錦以上大夫等。
秋八月,戊寅朔庚辰,遣忍壁皇子於石上神宮,以膏油瑩神寶。
即日,敕曰:「元來諸家貯於神府寶物,今皆還其子孫。」
冬十月,丁丑朔乙酉,大來皇女自泊瀨齋宮向伊勢神宮。
四年春正月,丙午朔,大學寮諸學生,陰陽寮、外藥寮及舍衛女、墮羅女、百濟王-善光,新羅仕丁等,捧藥及珍異等物進。
丁未,皇子以下百寮諸人拜朝。
戊申,百寮諸人初位以上,進薪。
庚戌,始興占星台。
壬子,賜宴群臣於朝廷。
壬戌,公卿大夫及百寮諸人初位以上,射于西門庭。
亦是日,大倭國貢瑞雞,東國貢白鷹,近江國貢白鴿。
戊辰,祭幣諸社。
二月,乙亥朔癸未,敕大倭、河內、攝津、山背、播磨、淡路、丹波、但馬、近江、若狹、伊勢、美濃、尾張等國曰:「選所部百姓之能歌男女及侏儒、伎人而貢上。」
丁亥,十市皇女、阿閉皇女參赴於伊勢神宮。
己丑,詔曰:「甲子年,諸氏被給部曲者,自今以後,除之。又親王、諸王及諸臣,并諸寺等所賜山澤、島浦、林野、陂池,前後並除焉。」
癸巳,詔曰:「群臣、百寮及天下人民,莫作諸惡。若有犯者,隨事罪之。」
丁酉,天皇幸於高安城。
是月,新羅遣王子-忠元、大監-級餐-今比蘇、大監-奈末-金天沖、弟監-大麻-朴武麻、弟監-大舍-金洛水等進調。其送使-奈末-金風那、奈末-金孝福,送王子-忠元於筑紫。
三月,乙巳朔丙午,土左大神以神刀一口,進于天皇。
戊午,饗金風那等於筑紫。即自筑紫歸之。
庚申,諸王四位-栗隈王為兵政官長,小錦上-大伴連-御行為大輔。
是月,高麗遣大兄-富干、大兄-多武等朝貢。新羅遣級餐-朴勤修、大奈末-金美賀進調。
夏四月,甲戌朔戊寅,請僧尼二千四百餘,而大設齋焉。
辛巳,敕:「小錦上-當摩公-廣麻呂、小錦下-久努臣-麻呂二人,勿使朝參。」
壬午,詔曰:「諸國袋稅,自今以後,明察百姓,先知富貧,簡定三等。仍中戶以下應與貸。」
癸未,遣小紫-美濃王、小錦下-佐伯連-廣足,祠風神于龍田立野。遣小錦中-間人連-大蓋、大山中-曾禰連-韓犬,祭大忌神於廣瀨河曲。
丁亥,小錦下-久努臣-麻呂坐對捍詔使,官位盡追。
庚寅,詔諸國曰:「自今以後,制諸漁獵者,莫造檻阱,及施機槍等類。亦四月朔以後,九月三十日以前,莫置比滿沙伎理梁。且莫食牛、馬、犬、猿、雞之肉,以外不在禁例。若有犯者罪之。」
辛卯,三位-麻績王有罪,流于因播。一子流伊豆島,一子流血鹿島。
丙申,簡諸才藝者,給祿各有差。
是月,新羅王子-忠元到難波。



廣賴大社 祀廣賴大忌神



酒船石遺跡

宮東之岳,依飛鳥淨御原宮之地理位置觀之,當在酒船石所位丘陵一代.
又,因值班者成功令妖言惑眾者自刎,不亂民心,故當夜賜爵褒美之.

三.推進新政與神佛崇信

五年春正月,庚子朔,群臣、百寮拜朝.
癸卯,高市皇子以下,小錦以上太夫等,賜衣、褲、褶、腰帶、腳帶及机、杖.唯小僅三階,不賜机.
丙午,小錦以上大夫等,賜祿各有差.
甲寅,百寮初位以上,進薪.
即日,悉集朝廷賜宴.
乙卯,置祿射于西門庭.中的則給祿,有差.
是日,天皇御島宮,宴之.
甲子,詔曰:「凡任國司者,除畿內及陸奥、長門國,以外皆任大山位以下人.」
二月,庚午朔癸巳,耽羅客賜船一艘.
是月,大伴連-國麻呂等至新羅.
夏四月,戊戌朔辛丑,祭龍田風神、廣瀨大忌神.
倭國添下郡鰐積吉事貢瑞雞.其冠似海石榴華.
是日,倭國飽波郡言:「雌雞化雄.」
辛亥,敕:「諸王、諸臣被給封戶之稅者,除以西國,相易給以東國.又外國人欲進仕者,臣、連、伴造之子及國造子聽之.唯雖以下庶人,其才能長亦聽之.」
己未,詔美濃國司曰:「在礪杵郡紀臣-阿佐麻呂之子遷東國,即為其國之百姓.」
五月,戊辰朔庚午,宣進調過期限國司等之犯狀,云云.
甲戌,下野國司奏:「所部百姓遇兇年,飢之欲賣子.」而朝不聽矣.
是月,敕:「禁南淵山、細川山,並莫芻薪.又畿內山野,元所禁之限,莫妄燒折.」
六月,四位-栗隈王得病薨.物部雄君連忽發病而卒.天皇聞之大驚.其壬申年,從車駕入東國,以有大功,降恩贈內大紫位.因賜氏上.
是夏,大旱.
遣使四方,捧幣帛祈諸神祇.亦請諸僧尼,祈于三寶.然不雨.由是五穀不登,百姓飢之.
秋七月,丁卯朔戊辰,卿大夫及百寮諸人等,進爵各有差.
甲戌,耽羅客歸國.
壬午,祭龍田風神、廣瀨大忌神.
是月,村國連-雄依卒.以壬申年之功,贈外小紫位.
有星出于東,長七八尺,至九月竟天.
八月,丙申朔丁酉.親王以下,小錦以上大夫及皇女、姬王、內命婦等給食封各有差.
辛亥,詔曰:「四方為大解除.用物則國別國造輸.袂柱馬一匹、布一常,以外郡司,各刀一口、鹿皮一張、鑊一口、刀子一口、鎌一口、矢一具、稻一束.且每戶麻一條.」
壬子,詔曰:「死刑、沒官、三流並降一等.徒罪以下,已發覺,未發覺,悉赦之.唯既配流,不在赦例.」

六月,癸酉朔乙未,大分君-惠尺,病將死.天皇大驚,詔曰:「汝惠尺也,背私向公,不惜身命.以遂雄之心,勞于大役.恒欲慈愛.故爾雖既死,子孫厚賞.」仍騰外小紫位.未及數日,薨于私家.
秋七月,癸卯朔己酉,小錦上-大伴連-國麻呂韋大使,小錦下-三宅吉士-入石為副使,遣于新羅.
八月,壬申朔,耽羅調使王子-久麻伎,泊筑紫.
癸巳,大風飛沙破屋.
丙申,忠元禮畢以歸之,自難波發船.
己亥,新羅、高麗二國調使饗於筑紫.賜祿有差.
九月,壬寅朔戊辰,耽羅王-姑如到難波.
冬十月,辛未朔癸酉,遣使於四方,覓一切經.
庚辰,置酒宴群臣.
丙戌,自筑紫貢唐人三十口.則遣遠江國而安置.
庚寅,詔曰:「諸王以下初位以上,每人備兵.」
是日,相模國言:「高倉郡女人,生三男.」
十一月,辛丑朔癸卯,有人登宮東岳,妖言而自刎死之.
當是夜,直者悉賜爵一級.
是月,大地動.



海石榴華

華者,花也.海石榴,即椿也.



柿本人麻呂万葉歌碑.

御食向・・・南淵山・巖・・・
落・・・誰・消・殘・・・
南淵山,奈良縣高市郡明日香村稻淵之山.細川山,明日香村細川之山.細川者,飛鳥川之支流,而万葉集1330云"南淵之細川山"南淵,細川為一連之山脈.此山脈近於皇居,故禁伐木.

是日,詔諸國,以放生。
是月,大三輪真上田子人君卒.天皇聞之大哀.以壬申年之功,贈內小紫位.仍諡曰-大三輪真上田迎君.
九月,丙寅朔,雨不告朔.
乙亥,王卿遣京及畿內,校人別兵.
丁丑,筑紫大宰-三位-屋垣王,有罪流于土佐.
戊寅,百寮人及諸蕃人等賜祿.各有差.
丙戌,神官奏曰:「為新嘗卜國郡也.齋忌則尾張國郡,齋忌,此云・・次,次,此云・・.丹波國訶沙郡,並食卜.」
是月,阪田公-雷,卒.以壬申年功,贈大紫位.
冬十月,乙未朔,置酒宴群臣.
丁酉,祭幣帛於相新嘗諸神祇.
甲辰,以大乙上-物部連-麻呂為大使,大乙中-山背直-百足為小使,遣於新羅.
十一月,乙丑朔,以新嘗事,不告朔.
丁卯,新羅遣沙餐-金卿平請政,并遣汲餐-金好儒、弟監-大舍-金欽吉等進調.其送使-奈末-被珍那、副使-奈末-好福,送清平等於筑紫.
是月,肅慎七人從清平等至之.
癸未,詔近京諸國,而放生.
甲申,遣使於四方國,說金光明經、仁王經.
丁亥,高麗遣大使-後部-主博-阿于、副使-前部-大兄-德富朝貢.
仍新羅遣大奈末-金楊原,送高麗使人於筑紫.
是年,將都新城.而限內田園者,不問公私,皆不耕悉荒.然遂不都也.
六年春正月,甲子朔庚辰,射于南門.
二月,癸巳朔,物部連-麻呂至自新羅.
是月,饗多禰島人等於飛鳥寺西槻下.
三月,癸亥朔辛巳,召新羅使人清平及以下客十三人於京.
夏四月,壬辰朔壬寅,杙田使-名倉坐指斥乘輿,以流于伊豆島.
乙巳,送使-珍那等饗于筑紫.即從筑紫歸之.
五月,壬戌朔,不告朔.
甲子,敕大博士-百濟人-率母,授大山下位.因以封三十戶.
是日,倭畫師-音檮授小山下位.乃封二十戶.
戊辰,新羅人-阿餐-朴刺破、從人三口、僧三人,漂著於血鹿島.
己丑,敕:「天社地社神稅者三分之,一為擬供神,二分給神主.」
是月,旱之,於京畿內雩之.
六月,壬辰朔乙巳,大震動.
是月,詔東漢直等曰:「汝等黨族之,自本犯七不可也.是以從小墾田御世,至於近江朝,常以謀汝等為事.今當朕世,將責汝等不可之狀,以隨犯應罪.然頓不欲絕漢直之氏,故降大恩以原之.從今以後,若有犯者,必入不赦之例!」
秋七月,辛酉朔癸亥,祭龍田風神、廣瀨大忌神.
八月,辛卯朔乙巳,大設齋飛鳥寺,以讀一切經.使天皇御寺南門而禮三寶.是時,詔親王、諸王及群卿,每人賜出家一人.其出家者不問男女長幼,皆隨願度之.因以會于大齋.
丁巳,金清平歸國.即漂著朴刺破等付清平等,返于本土.
戊午,耽羅遣王子-都羅朝貢.
九月,庚申朔己丑,詔曰:「凡浮浪人其送本土者,猶復還到,則彼此並科課役.」
冬十月,庚寅朔癸卯,內小錦上-河邊臣百枝為民部卿,內大錦下-丹比公麻呂為攝津職大夫.
十一月,己未朔,雨不告朔.筑紫大宰獻赤烏.則大宰府諸司人賜祿各有差.且專捕赤烏者,賜爵五級,乃當郡司等,加增爵位.因給復郡內百姓,以一年之.
是日,大赦天下.
己卯,新嘗.
辛巳,百寮諸有位人等賜食.
乙酉,侍奉新嘗神官及國司等賜祿.
十二月,己丑朔,雪不告朔.



前賢故實

村國連雄依

村國連雄依 或作男依,小依.
壬申亂時,天武近江方面戰鬥主將.



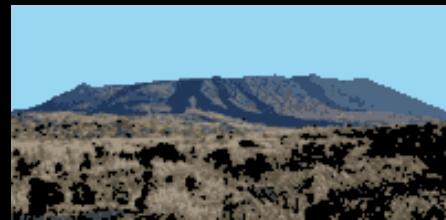
高知城
土佐,即土佐.範圍約括今高知全縣.



金光明經



仁王經
金光明經,共四卷.合部金光明經,共八卷.仁王般若波羅密經,共八卷.



伊豆島
行流放之地,當為今日之伊豆大島.乘輿,間接指天皇之語.指斥,非難也.
『職制律』第三、指斥乘輿條云:
「凡指斥乘輿者,如切害情理,斬之.如無切害情理,徒二年.」是為重罪.



延喜式

延喜式治部云:赤鳥者,上瑞之兆也。



倉梯河 米川之上游

發多武峰東南山中,流經櫻井市倉橋,上之宮等地,合栗原川而為米川。



高市皇子歌碑

十市皇女崩,高市皇子追思以作歌。鹵簿:『集解』云,天子出車駕謂之鹵簿也。又云,天子車駕次第謂之。



赤穗神社

赤穗,延喜式神名云,大和國添上郡赤穗神社。亦有鳥見忍版山間赤尾說。



齊明天皇 越智岡上陵

後岡本天皇,齊明天皇也。因都後飛鳥岡本宮,故名。另,舒明都飛鳥岡本。

四.十市皇女急死

七年春正月,戊午朔甲戌,射于南門。

己卯,耽羅人向京。

是春,將祠天神地祇,而天下悉祓禊之。豎齋宮於倉梯河上。

夏四月,丁亥朔,欲幸齋宮,卜之。

癸巳,食卜。仍取平旦時,警蹕既動,百寮成列,乘輿命蓋,以未及出行,十市皇女卒然病發,薨於宮中。由此鹵簿既停,不得幸行。遂不祭神祇矣。

己亥,霹靂新宮西廳柱。

庚子,葬十市皇女於赤穗。天皇臨之降恩以發哀。

秋九月,忍海造-能麻呂獻瑞稻五莖,每莖有枝。由是徒罪以下,悉赦之。

三位-稚狹王薨之。

冬十月,甲申朔,有物如綿,零於難波。長五六尺,廣七八寸,則隨風以飄于松林及葦原。時人曰:「甘露也。」

己酉,詔曰:「凡內外文武官,每年史以上其屬官人等,公平而恪勲者,議其優劣,則定應進階。正月上旬以前,具記送法官。則法官校定,申送大辨官。然緣公事以出使之日,其非真病及重服,青緣小故而辭者,不在進階之例。」

十二月,癸丑朔己卯,臘子鳥弊天,自西南飛東北。

是月,筑紫國大地動之。地裂廣二丈,長三千餘丈,百姓舍屋,每村多仆壞。是時,百姓一家有岡上。當于地動夕,以岡崩處遷。然家既全,而無破壞。家人不知岡崩家避。但會明後知,以大驚焉。

是年,新羅送使-奈末-加良-井山、奈末-金紅世,到于筑紫山曰:「新羅王遣汲餐-金消勿、大奈末-金世等,貢上當年之調。仍遣臣井山送消勿等。俱逢暴風於海中。以消勿等皆散之不知所如。唯井山謹得朝岸。」然消勿等遂不來焉。

八年春正月,壬午朔丙戌,新羅送使-加良井山、金紅世等向京。

戊子,詔曰:「凡當正月之節,諸王、諸臣及百寮者,除兄姊以上親己氏長,以外莫拜焉。其諸王者雖母,非王姓者莫拜。凡諸臣亦莫拜卑母。雖非正月節,復准此。若有犯者,隨事罪之。」

己亥,射于南門。

二月,壬子朔,高麗遣上部-大相-桓父、下部-大相-師須雲等朝貢。因以新羅遣奈末-甘勿那,送桓父等於筑紫。

甲寅,紀臣-堅麻呂卒。以壬申年之功,贈大錦上位。

乙卯,詔曰:「及于辛巳年,檢校親王、諸臣及百寮人之兵及馬。故豫貯焉。」

是月,降大恩恤貧乏,以給其飢寒。

三月,辛巳朔丙戌,兵衛-大分君-稚見死。當壬申大役,為先鋒之破瀨田營。由是功,贈外小錦上位。

丁亥,天皇幸於越智,拜後岡本天皇陵。

己丑,吉備大宰-石川王病之薨於吉備。天皇聞之大哀,則降大恩,云云。贈諸王二位。

壬寅,貧乏僧尼,施絕、綿、布。

夏四月,辛亥朔乙卯,詔曰:「商量諸有食封寺所由,而可加加之,可除除之。」

是日,定諸寺名也。

己未,祭廣瀨、龍田神。

五.吉野的盟約

五月,庚辰朔甲申,幸于吉野宮.

乙酉,天皇詔皇后及草壁皇子尊、大津皇子、高市皇子、河島皇子、忍壁皇子、芝基皇子曰:「朕今日與汝等俱盟于庭,而千歲之後,欲無事,奈之何?」皇子等共對曰:「理實灼然。」則草壁皇子尊先進盟曰:「天神地祇及天皇証也,吾兄弟長幼并十餘王,各出于異腹,然不別同異,俱隨天皇敕,而相扶無忤,若自今以後,不如此盟者,身命亡之,子孫絕之,非忘,非失矣。」五王子以次相盟,如先,則披襟抱其六皇子,因以盟曰:「若違茲盟,忽亡朕身。」皇后之盟,且如天皇.

丙戌,車駕還宮.

己丑,六皇子共拜天皇於大殿前.

六月,庚戌朔,冰零,大如桃子.

壬申,雪.

壬辰,祭廣瀨、龍田神.

乙未,四位-葛城王卒.

八月,己酉朔,詔曰:「諸氏貢女人。」

己未,幸泊瀨,以宴跡驚淵上.先是詔王卿曰:「乘馬之外,更設細馬,隨召出之。」即自泊瀨還宮之日,看群卿儲細馬於跡見驛家道頭,皆令馳走.

庚午,縵造-忍勝獻嘉禾,異畝同穎.

癸酉,大宅王卒.

九月,戊寅朔癸巳,遣新羅使人等,返之拜朝.

庚子,遣高麗使人,遣耽羅使人等,返之共拜朝廷.

冬十月,戊申朔己酉,詔曰:「朕聞之,近日暴惡者多在巷里,是則王卿等之過也,或聞暴惡者也,煩之忍而不治,或見惡人也,倦之匿以不正,其隨見聞以糾彈者,豈有暴惡乎?是以自今以後,無煩倦,而上責下過,下諫上暴,乃國家治焉。」

戊午,地震.

庚申,敕制僧尼等威儀及法服之色,并馬、從者往來相間之狀.

甲子,新羅遣阿餐-金項那、沙餐-薩曇生朝貢也.

調物,金、銀、鐵、鼎、錦、絹、布、皮、馬、狗、騾、駱駝之類十餘種,亦別獻物.天皇、皇后、太子,貢金、銀、刀、旗之類各有數.

是月,敕曰:「凡諸僧尼者,常住寺內,以護三寶,然或及老,或患病,其永臥狹房,久苦老疾者,進止不便,淨地亦穢,是以自今以後,各就親族及篤信者,而立一二舍屋于間處,老者養身,病者服藥。」

十一月,丁丑朔庚寅,地震.

己亥,大乙下-倭馬飼部造連為大使,小乙下-上寸主-光父為小使,遣多禰島,仍賜爵一級.

是月,初置關於龍田山、大阪山,仍難波築羅城.

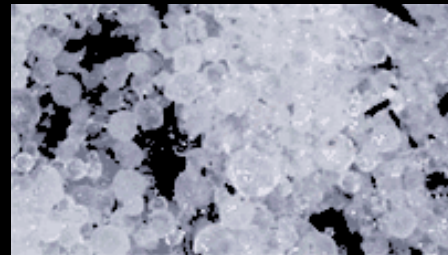
十二月,丁未朔戊申,由嘉禾,以親王、諸王、諸臣及百官人等給祿各有差,大辟罪以下悉赦之.

是年,紀伊國伊刀郡貢芝草,其狀似菌,莖長一尺,其蓋二圍.

亦,因播國貢瑞稻,每莖有枝.



史蹟 宮瀧遺跡
傳天武天皇吉野宮宮趾承傳地碑



冰雹特寫
冰零,即雹災是也,亦或為霰(軟雹).



秉田神社
跡驚淵,當在初賴川水流湍急之所,據傳為秉田神社前之川の轟橋一帶.



芝草
即,靈芝.嘉禾,延喜式治部,定為下瑞.

六.因皇后之病創藥師寺,病癒



麒麟
麟，獸之聖也。『毛詩正義』云：麟，麋身，馬足，牛尾，黃毛，圓蹄，角端有肉。



明日香村 橘寺
『法隆寺伽藍緣起并流記資財帳』
記，聖德太子創建七寺之一、橘尼寺。
寺郊有傳聖德太子御誕生所碑。



朱雀 明日香村龜虎古墳壁畫



飛鳥 本藥師寺跡礎石遺構

九年春正月，丁丑朔甲申，天皇御于向小殿，而宴王卿於大殿之庭。
是日，忌部首-首賜姓曰-連。則與弟-色弗共悅拜。
癸巳，親王以下至于小建，射南門。
丙申，攝津國言：「活田村桃李實也。」
二月，丙午朔癸亥，如鼓音聞于東方。
辛未，有人云：「得鹿角於葛城山。其角本二枝而末合有肉。肉上有毛，毛長一寸。則異以獻之。」蓋麟角歟。
壬申，新羅仕丁八人返于本土。仍垂恩以賜祿有差。
三月，丙子朔乙酉，攝津國貢白巫鳥。巫鳥，此云……
戊戌，幸于菟田吾城。
夏四月，乙巳朔甲寅，祭廣瀨、龍田神。
乙卯，橘寺尼房失火，以焚十房。
己巳，饗新羅使人頂那等於筑紫。賜祿各有差。
是月，敕：「凡諸寺者，自今以後，除為國大寺二三，以外官司莫治。唯其有食封者，先後限三十年。若數年滿三十則除之。且以為，飛鳥寺不可關於司治。然元為大寺而官恒治。復嘗有功。是以猶入官治之例。」
五月，乙亥朔，敕，絁、綿、絲、布以施于京內二十四寺。各有差。
是日，始說金光明經於宮中及諸寺。
丁亥，高麗遣南部-大使-卯問、西部-大兄-俊德等朝貢。仍新羅遣大奈末-考那，送高麗使人卯問等於筑紫。
乙未，小錦下-秦造-綱手卒。由壬申年之功，贈大錦上位。
辛丑，小錦中-星川臣-麻呂卒。由壬申年之功，贈大紫位。
六月，甲辰朔戊申，新羅客項那等歸國。
辛亥，灰零。
丁巳，雷電之甚也。
秋七月，甲戌朔，飛鳥寺西槻枝，自折而落之。
戊寅，天皇幸犬養連-大伴家，以臨病。即降大恩，云云。
是日，雩之。
辛巳，祭廣瀨、龍田神。
癸未，朱雀有南門。
庚寅，朴井連-子麻呂授小錦下位。
癸巳，飛鳥寺弘聰僧終。遣大津皇子、高市皇子而弔之。
丙申，小錦下-三宅連-石床卒。由壬申年功，贈大錦下位。
戊戌，納言兼宮內卿-五位-舍人王，病之臨死。則遣高市皇子而訊之。
明日，卒。天皇大驚，乃遣高市皇子、川島皇子，因以臨殯哭之。百寮者從而發哀。
八月，癸卯朔丁未，法官人貢嘉禾。
是日始之三日，雨大水。
丙辰，大風折木破屋。
九月，癸酉朔辛巳，幸于朝饈。因以看大山位以下之馬於長柄社。乃俾馬的射之。
乙未，地震。
己亥，桑內王卒於私家。
冬十月，壬寅朔乙巳，恤京內諸寺貧乏僧尼及百姓，而賑給之。一每僧尼，各絁四匹、綿四屯、布六端、沙彌及白衣，各絁二匹、綿二屯、布四端。
十一月，壬申朔，日蝕之。
甲戌，自戌至子，東方明焉。
乙亥，高麗人十九人，返于本土。是當後岡本天皇之喪，而弔使留之，未還者也。
戊寅，詔百官曰：「若有利國家寬百姓之術者，詣闕親甲。則詞合於理，立為法則。」
辛巳，雷於四方。
癸未，皇后体不豫。則為皇后誓願之，初興藥師寺。仍度一百僧。由是得安平。
是日，赦罪。
明日，惠妙僧終。乃遣三皇子而弔之。
乙未，新羅遣沙餐-金若粥、大奈末-金原升進調。則習言者三人從若粥至。
丁酉，天皇病之。因以度一百僧，俄而愈之。
辛丑，臘子鳥蔽天，自東南飛，以度西北。



藥師寺東塔擦銘

[\[久遠・絆\]](#) [\[卷廿八\]](#) [\[其之二\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷廿九 天武紀[下]

天淳中原瀛真人天皇 天武天皇



古事記[上圖]、日本書紀[下圖]



元明天皇敕 出雲國風土記
古事記序載,天武天皇云:「朕聞,諸家之所傳帝紀及本辭,既違正實,多加虛偽.當今之時,不改其失,未經幾年,其旨欲滅.斯乃邦家經緯,王化之鴻基焉.故惟,撰錄帝紀,討覈舊辭,削偽定實,欲流後葉。」故修史,成古事記,日本書紀及諸國風土記之先聲.



種子島地圖
多禰島,今鹿兒島縣種子島.



延光寺文化財 赤龜像
赤,祥瑞之色.古訓川龜,別於海龜.

七.撰定律令與記定帝紀・上古諸事

十年春正月,辛未朔壬申,頒幣帛於諸神祇.
癸酉,百寮諸人拜朝庭.
丁丑,天皇御向小殿而宴之.
是日,親王、諸王引入內安殿,儲臣皆侍于外安殿,共置酒以賜藥.則大山上-草香部吉志-大形授小錦位,仍賜姓曰-難波連.
辛巳,敕境部連-石積,封六十戶,因以給施三十疋、綿百五十斤、布百五十端、鑊一百口.
丁亥,親王以下小建以上,射于朝庭.
己丑,詔畿內及諸國,修理天社地社神宮.
二月,庚子朔甲子,天皇、皇后共居于大極殿,以喚親王、諸王及諸臣,詔之曰:「朕今更欲定律令,改法式.故俱修是事.然頓就是務,公事有關.分人應行.」
是日,立草壁皇子尊為皇太子.因以令攝萬機.
戊辰,阿倍夫人薨.
己巳,小紫位-當麻公-豐瀆薨.
三月,庚午朔癸酉,葬阿倍夫人.
丙戌,天皇御于大極殿,以詔川島皇子、忍壁皇子、廣瀨王、竹田王、桑田王、三野王、大錦下-上毛野君-三千、小錦中-忌部連-首、小錦下-阿曇連-稻敷、難波連-大形、大山上-中臣連-大島、大山下-平群臣-子首,令記定帝紀及上古諸事.大島、子首,親執筆以錄焉.
庚寅,地震.
甲午,天皇居新宮井上,而試發鼓、吹之聲.仍令調習.
夏四月,己亥朔庚子,祭廣瀨、龍田神.
辛丑,立禁式九十二條.因以詔之曰:「親王以下,至于庶民,諸所服用金、銀、珠玉、紫、錦、繡、綾及氈褥、冠、帶并種種雜色之類,服用各有差.」辭具有詔書.
庚戌,錦織造-小分、田井直-吉麻呂,次田倉人-堪足.堪,此云・・、石勝,川內直-縣,忍海造-鏡、荒田、能麻呂,大貊造-百枝、足坏,倭直-龍麻呂、門部直-大島、肉人-造老、山背貊-烏賊麻呂,并十四人賜姓曰-連.
乙卯,饗高麗客-卯問等於筑紫.賜祿有差.
五月,己巳朔己卯,祭皇祖御魂.
是日,詔曰:「凡百寮諸人恭敬宮人過之甚也.或詣其門謁己之訟,或捧幣以媚於其家.自今以後,若有如此者,隨事共罪之!」
甲午,高麗卯問歸之.
六月,己亥朔癸卯,饗新羅客-若弼於筑紫.賜祿各有差.
乙卯,雩之.
壬戌,地震.
秋七月,戊辰朔,朱雀見之.
辛未,小錦下-采女臣-竹羅為大使,當摩公-楯為小使,遣新羅國.
是日,小錦下-佐伯連-廣足為大使,小墾田臣-麻呂為小使,遣高麗國.
丁丑,祭廣瀨、龍田神.
丁酉,令天下,悉大解除.當此時,國造等各出被柱奴婢一口而解除.
閏七月,戊戌朔壬子,皇后誓願之大齋,以說經於京內諸寺.
八月,丁卯朔丁丑,大錦下-上毛野君-三千卒.
丙子,詔三韓諸人曰:「先日復十年調、稅既訖.且加以,歸化初年,俱來之子孫並課役悉免焉.」
壬午,伊勢國貢白茅鴟.
丙戌,遣多禰島使人等,貢多禰國圖.其國去京五千餘里,居筑紫南海中.切髮草裳,粳稻常豐,一殖兩收.土毛支子、莞子及種種海物等多.
是日,若弼歸國.
九月,丁酉朔己亥,遣高麗、新羅使人等,共至之拜朝.



熒惑星

即火星。『史記』天文志云：「熒惑出則有大兵，入則兵散。」『宋書』云：「熒惑入月，占『有亂臣死，若有相戮者。』」又曰：『女親為敗，天下亂。』『熒惑失其常，吏且棄其法，諸侯亂其政。』」多與兵事，政亂相關。



輕之里

輕市，今橿原大輕町一帶，山田道交南北道處，柿本人麻呂悲悼妻歌([万葉集207](#))述及，是一喧鬧繁華之地。

辛丑，周芳國貢赤龜，乃放島宮池。

甲辰，詔曰：「凡諸氏有氏上未定者，各定氏上而申送于理官。」

庚戌，饗多禰島人等于飛鳥寺西河邊，奏種種樂。

壬子，彗星見。

癸丑，熒惑入月。

冬十月，丙寅朔，日蝕之。

癸未，地震。

乙酉，新羅遣沙曇-一吉餐-金忠平、大奈末-金壹世貢調，金、銀、銅、鐵、綿、絹、鹿皮、細布之類，各有數。別獻天皇、皇后、太子，金、銀、霞錦、幡、皮之類，各有數。

庚寅，詔曰：「大山位以下小建以上人等，各述意見。」

是月，天皇將蒐於廣瀨野，而行宮構訖，裝束既備，然車駕遂不幸矣。

唯親王以下及群卿皆居于輕市，而檢校裝束鞍馬。小錦以上大夫皆列坐於樹下，大山位以下者皆親乘之，共隨大路自南行北。

新羅使者至而告曰：「國王薨。」

十一月，丙申朔丁酉，地震。

十二月，乙丑朔甲戌，小錦下-河邊臣-子首遣筑紫，饗新羅客-忠平。

癸巳，田中臣-鍛師、柿本臣-猿、田部連-國忍、高向臣-麻呂、栗田臣-真人、物部連-麻呂、中臣連-大島、曾禰連-韓犬、書直-智德并壹拾人，授小錦下位。

是日，舍人-造糠虫、書直-智德，賜姓曰-連。

十一年春正月，乙未朔癸卯，大山上-舍人連-糠虫授小錦下位。

乙巳，饗金忠平於筑紫。

壬子，冰上夫人薨于宮中。

癸丑，地動。

辛酉，葬冰上夫人於赤穗。

二月，甲子朔乙亥，金忠平歸國。

八.服裝禁令與僧綱制等之整備

是月，小錦下-舍人連-糠虫卒。以壬申年之功贈大錦上位。

三月，甲午朔，命小紫-三野王及宮內官大夫等，遣于新城，令見其地形。仍將都矣。

乙未，陸奧國蝦夷二十二人，賜爵位。

庚子，地震。

丙午，命境部連-石積等，更肇倭造新字一部四十四卷。

己酉，幸于新城。

辛酉，詔曰：「親王以下，百寮諸人，自今以後，位冠及裋、褶、脛裳莫著。亦膳夫、采女等之手纏、肩巾，肩巾，此云・・・並莫服。」

是日，詔曰：「親王以下至於諸臣，被給食封皆止之，更返於公。」

是月，土師連-真敷卒。以壬申年功，贈大錦上位。

夏四月，癸亥朔辛未，祭廣瀨、龍田神。

癸未，筑紫大宰-丹比-真人-島等貢大鍾。

甲申，越蝦夷-伊高岐那等，請俘人七十戶為一郡，乃聽之。

乙酉，詔曰：「自今以後，男女悉結髮。十二月三十日以前結訖之。唯結髮之日，亦待敕旨。」婦女乘馬如男夫，其起于是日也。

五月，癸巳朔甲辰，倭漢直等，賜姓曰-連。

戊申，遣高麗大使-佐伯連-廣足、小使-小墾田臣-麻呂等，奏使旨於御所。

己未，倭漢直等男女悉參赴之，悅賜姓而拜朝。

六月，壬戌朔，高麗王遣下部-助有-掛婁毛切、大古-昂加，貢方物。則新羅遣大那末-金釋起，送高麗使人於筑紫。

丁卯，男夫始之結髮。仍著漆紗冠。

癸酉，五位-殖粟王卒。

秋七月，壬辰朔甲午，隼人多來貢方物。

是日，大隅隼人與阿多隼人，相撲於朝庭。大隅隼人勝之。

庚子，小錦中-膳臣-摩漏病，遣草壁皇子尊、高市皇子，而訊病。



玉篇卷第廿七

肇訂新字之說諸多，然以古文今文之說有利。『日本書紀』所謂新字一部四十卷，在『日本紀略』中書作三十四卷，篇數近於中國辭書『玉篇』之三十卷。故此或為『玉篇』之種本。



觀世音寺藏 梵鍾

壬寅，祭廣瀨、龍田神。
戊申，地震。
己酉，膳臣・摩漏卒，天皇驚之大哀。
壬子，摩漏臣，以壬申年之功，贈大紫位及祿。更皇后賜物亦准官賜。
丙辰，多禰人、掖玖人、阿麻彌人賜祿，各有差。
戊午，饗隼人等於飛鳥寺之西，發種種樂，仍賜祿，各有差。道俗悉見之。
是日，信濃國、吉備國並言：「霜降，亦大風，五穀不登！」
八月，壬戌朔，令親王以下及諸臣，各俾申・法式應用之事。
甲子，饗高麗客於筑紫。
是夕昏時，大星自東度西。
丙寅，造法令殿內有大虹。
壬申，有物，形如灌頂幡，而火色，浮空流北，每國皆見。或曰：「入越海。」
是日，白氣起於東山，其大四圍。
癸酉，大地動。
戊寅，亦地震動。
是日，平旦，有虹，當于天中央，以向日。
甲戌，筑紫大宰言：「有三足雀。」
癸未，詔禮儀、言語之狀。且詔曰：「凡諸應考選者，能檢其族姓及景跡，能灼然，其族姓不定者，不在考選之色。」
己丑，敕，為日高皇女之病，日高皇女，更名・新家皇女。大辟罪以下男女并一。
庚寅，百四十餘人出家於大官大寺。
九月，辛丑朔壬辰，敕：「自今以後，跪禮、匍匐禮，並止之。更用難波朝。」
庚子，日中，數百鶴當大宮，以高翔於空，四剋而皆散。
東十月，辛酉朔戊辰，大酺。

十一月，庚寅朔乙巳，詔曰：「親王、諸王及諸臣，至于庶民，悉可聽之。凡糾彈犯法者，或禁省之中，或朝庭之中，其於過失發處，即隨見隨聞，無匿弊而糾彈。其有犯重者，應請則請，當捕則捉。若對捍以不見捕者，起當處兵而捕之。當杖色，乃杖一百以下，節級決之。亦，犯狀灼然，欺言無罪，則不伏辨以爭訴者，累加其本罪。」

十二月，庚申朔壬戌，詔曰：「諸氏人等，各定可氏上者而申送，亦其眷族多在者，則分各定氏上，並申送於官司，然後斟酌其狀，而處分之。因承官判，唯因小故，而非己族者，輕莫附。」

與妙心寺梵鍾並為日本最古梵鍾。



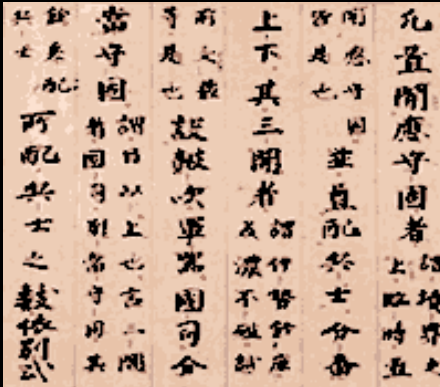
法隆寺藏 灌頂幡

用於灌頂儀式之佛具，以金銅或布製成的十分細長之幡，據傳如以幡端接觸人之頭部，將有類似灌頂之效果。



史蹟大官大寺跡

大安寺之舊名.見大安寺伽藍緣起.



令義解.

養老二年(A.D.718)藤原不比等修撰大寶律令以成養老律令。律令各十一卷。其後律多佚散，令則見於令義解。卷十八『儀制令』第八「祥瑞條」有云：「但上瑞以下，可申上治部。治部元日以聞。」是以十一年十月所獲之三足雀(上瑞)於十二年元旦獻上。

九.整備僧綱制等

十二年春正月,己丑朔庚寅,百寮拜朝庭,筑紫大宰-丹比真人島等,貢三足雀。

乙未，親王以下及群卿，喚于大極殿前而宴之，仍以三足雀示于群臣。

丙午，詔曰：「明神御大八洲倭根子天皇敕命者，諸國司、國造、郡司及百姓等，諸可聽矣。朕初登鴻作以來，天瑞非一二，多至之。傳聞，其天瑞者，行政之理，協于天道，則應之。是今當于朕世，每年重至。一則以懼，一則以嘉。是以親王、諸王及群卿、百寮并天下黎民，共相歡也。乃小建以上，給祿各有差，因以大辟罪以下，皆赦之。亦百姓課役並免焉。」

是日,奏小墾田舞及高麗、百濟、新羅三國樂於庭中。

二月,己未朔,大津皇子始聽朝政.

三月，戊子朔己丑，任僧正、僧都、律師，因以敕曰：「統領僧尼如法。」云云。

丙午，遣多禰使人等返之。

夏四月，戊午朔壬申，詔曰：「自今以後，必用銅錢，莫用銀錢。」

乙亥,詔曰:「用銀莫止。」

戊寅祭廣瀨、龍田神。

六月，丁巳朔己未，大伴連・望多薨。天皇大驚之，則遣泊瀨王而弔之，仍舉壬申年勳績及先祖等每時有功，以顯寵賞，乃贈大紫位，發鼓吹葬之。

壬戌,三位-高阪王薨.

秋七月，丙戌朔己丑，天皇幸鏡姬王之家，訊病。

庚寅，鏡姬王薨。

是夏，始請僧尼，安居于宮中，因簡淨行者三十人出家。

庚子、雲之。



無文銀錢(左)、富本銅錢(右)
無文銀錢,出土於滋賀縣崇福寺跡.富
本錢出土於奈良縣明日香春飛鳥池
遺跡.是為日本最古之銀錢、銅錢.十
二年夏四月條所指,或是此也.



重慶奉節縣 水八陣圖遺址
陣法者,或指中國之兵法也.於『續日
本紀』天平寶字四年十一月條云,遣
唐史吉備真備教傳其所學之諸葛亮
八陣、孫子九地等兵法於日本.

十.軍事進止與威儀高揚,制定八色姓

十三年春正月,甲申朔庚子,三野縣主、內藏衣縫造二氏賜姓曰-連.
丙午,天皇御于東庭,群卿侍之.時召能射人及侏儒、左右舍人等射之.
二月,癸丑朔丙子,饗金主山於筑紫.
庚辰,遣淨廣肆-廣瀨王、小錦中-大伴連-安麻呂及判官、錄事、陰陽師、工匠等於畿內,
令視占應都之地.
是日,遣三野王、小錦下-采女臣-筑羅等於信濃,令看地形.將都是地歟.
三月,癸未朔庚寅,吉野人宇閉直-弓貢白海石榴.
辛卯,天皇巡行於京師,而定宮室之地.
乙巳,金主山歸.
夏四月,壬子朔丙辰,徒罪以下,皆免之.
甲子,祭廣瀨、龍田風神.
辛未,小錦下-高向臣-麻呂為大使,小山下-都努臣-牛甘為小使,遣新羅.
閏四月,壬午朔丙戌,詔曰:「來年九月,必閱之.因以教百寮之進止、威儀.」又詔曰:「凡政
要者,軍事也.是以文武官諸人,務習用兵及乘馬.則馬、兵,並當身裝束之物,務具儲足.其有馬
者為騎士,無馬者為步卒.並當試練,以勿障於聚會.若忤詔旨,有不便馬、兵,亦裝束有闕者,親
王以下,逮于諸臣,並罰之.大山位以下者,可罰罰之,可杖杖之.其務習以能得業者,若雖死罪,則
減二等.唯恃己才以故犯者,不在赦例.」又詔曰:「男女,並衣服者有欄無欄及結紐、長紐,任意
服之.其會集之日,著欄衣而著長紐.唯男子者有圭冠冠,而著括緒褌.女年四十以上,髮之結不
結,及乘馬縱橫,並任意也.別巫、祝之類,不在結髮之例.」

壬辰,三野王等進信濃國之圖.
丁酉,設齋于宮中.因以赦有罪舍人等.
乙巳,作飛鳥寺僧-福揚以下獄.
庚戌,僧-福揚自刺頸而死.
五月,辛亥朔甲子,化來百濟僧尼及俗人男女并二十三人,皆安置于武藏國.
戊寅,三輪引田君-難波麻呂為大使,桑原連-人足為小使,遣高麗.
六月,辛巳朔甲申,雩之.
秋七月,庚戌朔癸丑,幸于廣瀨.

癸卯,天皇巡行于京師.
乙巳,祭廣瀨、龍田神.
是月始至八月,旱之.百濟僧-道藏雫之得與.
八月,丙辰朔庚申,大赦天下.大伴連-男吹負卒.以壬申年之功,贈大錦中位.
九月,乙酉朔丙戌,大風.
丁未,倭直、栗隈首、水取造、矢田部造、藤原部造、刑部造、福草部造、凡山內直、川
內漢直、物部首、山背直、葛城直、殿服部造、門部直、錦織造、縵造、鳥取造、來目舍
人造、檜隈舍人造、大狛造、秦造、川瀨舍人造、倭馬飼造、川內馬飼造、黃文造、蓆集
造、勾筥作造、石上部造、財日奉造、泥部造、穴穗部造、忍海造、羽束造、文首、小泊
瀨造、百濟造、語造凡三十八氏,賜姓曰-連.
冬十月,乙卯朔己未,三宅吉士、草壁吉士、伯耆造、船史、壹伎史、娑羅羅馬飼造、菟
野馬飼造、吉野首、紀酒人直、采女造、阿直使、高市縣主、磯城縣主、鏡作造并十四氏,
賜姓曰-連.
丁卯,天皇狩于倉梯.
十一月,甲申朔丁亥,詔諸國,習陣法.
丙申,新羅遣沙餐-金主山、大那末-金長志進調.
十二月,甲寅朔丙寅,遣諸王五位-伊勢王、大錦下-羽田公-八國、小錦下-多臣-品治、小錦
下-中臣連-大島并判官、錄史、工匠者等,巡行天下,而限分諸國之境界.
然是年,不堪限分.
庚午,詔曰:「諸文武官人及畿內有位人等,四孟月,必朝參.若有死病,不得集者,當司具記申
送法官.」又詔曰:「凡都城、宮室非一處,必造兩參.故先欲都難波.是以百寮者各往之請家
地.」



白海石榴 即,白椿.



信濃國地圖
信濃,今之長野縣全域.朔及前文,十
三年二月庚辰,遣三野王與筑羅視察
信濃,而國圖於今獻上.見於十一年六
月,信濃雙降,而十四年三月,灰零.可
知方時信濃國天地之氣絮亂不整,天
武天皇或欲建都以鎮其地氣.

戊午,祭廣瀨、龍田神。

壬申,彗星出于西北,長丈餘。

冬十月,己卯朔,詔曰:「更改諸氏之族姓,作八色之姓,以混天下万姓。一曰,真人。二曰,朝臣。三曰,宿禰。四曰,忌寸。五曰,道師。六曰,臣。七曰,連。八曰,稻置。」

是日,守山公、路公、高橋公、三國公、當麻公、茨城公、丹比公、豬名公、阪田公、羽田公、息長公、酒人公、山道公十三氏,賜姓曰-真人。

辛巳,遣伊勢王等,定諸國界。

是日,縣犬養連-手纏為大使,川原連-家尼為小使,遣耽羅。

壬辰,逮于人定,大地震。舉國男女叫唱,不知東西,則山崩河湧。諸國郡官舍及百姓倉屋、寺塔、神社,破壞之類,不可勝數。由是人民及六畜多死傷之。

時伊豫湯泉沒而不出,土左國田苑五十餘万頃,沒為海。古老曰:「若是地震,未曾有也!」

是夕,有鳴聲,如鼓聞于東方。有人曰:「伊豆島西北二面,自然增益三百余丈,更為一島。則如鼓者,神造是島響也。」

甲午,諸王卿等賜祿。

十一月,戊申朔,大三轮君、大春日臣、阿倍臣、巨勢臣、膳臣、紀臣、波多臣、物部連、平群臣、雀部臣、中臣連、大宅臣、栗田臣、石川臣、櫻井臣、采女臣、田中臣、小墾田臣、穗積臣、山背臣、鴨君、小野臣、川邊臣、櫛井臣、柿本臣、輕部臣、若櫻部臣、岸田臣、高向臣、肉人臣、來目臣、犬上君、上毛野君、角臣、星川臣、多臣、胸方君、車持君、綾君、下道臣、伊賀臣、阿閉臣、林臣、波彌臣、下毛野君、佐味君、道守臣、大野君、阪本臣、池田君、玉手臣、笠臣凡五十二氏,賜姓曰-朝臣。

庚戌,土左國司言:「大潮高騰,海水飄蕩。由是運調船多放失焉。」

戊辰,昏時,七星俱流東北而隕之。

庚午,日沒時,星隕東方。大如盆。

逮于戌,天文悉亂,以星隕如雨。

是月,有星,孛于中央。與昴星雙而行之。

及月盡,失焉。

十二月,戊寅朔己卯,大伴連、佐伯連、阿曇連、忌部連、尾張連、倉連、中臣酒人連、土師連、掃部連、境部連、櫻井田部連、伊福部連、巫部連、忍壁連、草壁連、三宅連、兒部連、手纏丹比連、韃丹比連、漆部連、大湯人連、若湯人連、弓削連、神服部連、額田部連、津守連、縣犬養連、稚犬養連、玉祖連、新田部連、倭文連。倭文,此云……、冰連、凡海連、山部連、矢集連、狹井連、爪公連、阿刀連、茨田連、田目連、小子部連、菟道連、小治田連、豬使連、海犬養連、間人連、春米連、美濃矢集連、諸會臣、布留連五十氏,賜姓曰-宿禰。

癸未,大唐學生土師宿禰-甥、白豬史-實然,及百濟役時沒大唐者豬使連-子首、筑紫三宅連-得許,傳新羅至。則新羅遣大奈末-金物儒,送甥等於筑紫。

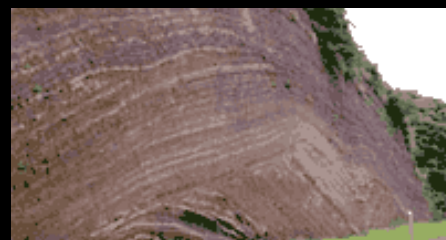
庚寅,除死刑以下罪人,皆咸赦焉。

是年,詔:「伊賀、伊勢、美濃、尾張四國,自今以後,調年免役,役年免調。」

倭葛城下郡言:「有四足雞。」亦丹波國冰上郡言:「有十二角犢。」



武藏國地圖
今東京,埼玉縣及神奈川縣東北域。



伊豆大島 地層斷面
天武十三年十月壬辰,白鳳大地震。山崩河湧,家屋社寺倒潰,人畜多死傷。海嘯起,土佐舟船多數沉默,同國田苑處土地沒海。震源約在高知東南方250km處。而伊豆島西北有島生成。



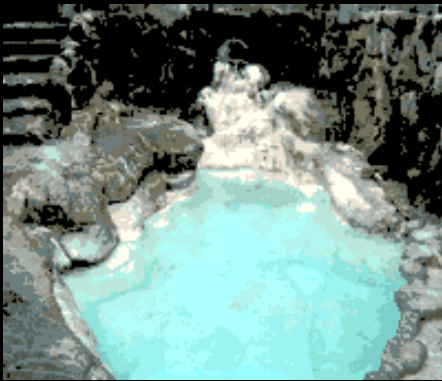
『漢書』卷廿六、天文志有云:「飛星,大如缶。」寓大小,此盆如缶之意。



流星雨
流星,即計都。『左傳』莊公七年條云:「夏,恆星不見,夜明也。星隕如雨,與雨偕也。」是為天文亂象,大不吉。



火山灰
十四年三月,灰零信濃國,草木皆枯.



牟婁溫湯
今和歌山縣西牟婁郡白濱町湯崎溫湯.有間皇子佯狂時所行之處.亦名作紀溫湯,武漏溫湯.『續日本紀』大寶元年條云:「車架至武漏溫泉」



飛鳥寺
今在奈良縣高市郡明日香村.



山田寺復原圖
淨土寺,山田寺之別名也.



束間(豆加万)之地

十一.改定爵位 . 服制諸制

十四年春正月,丁未朔戊申,百寮拜朝廷.

丁卯,更改爵位之號.仍增加階級.

明位二階,淨位四階,每階有大、廣,并十二階.以前諸王已上之位.

正位四階,直位四階,勤位四階,務位四階,追位四階,進位四階,每階有大、廣,并四十八階.以前諸臣之位.

是日,草壁皇子尊授淨廣壹位,大津皇子授淨大貳位,高市皇子授淨廣貳位,川島皇子、忍壁皇子授淨大參位.自此以下諸王、諸臣等增加爵位各有差.

二月,丁丑朔庚辰,大唐人、百濟人、高麗人并百四十七人賜爵位.

三月,丙午朔己未,饗金物儒於筑紫.即從筑紫歸之.仍流著新羅人七口附物儒還之.

辛酉,京職大夫直大參-許勢朝臣-辛檀努卒.

壬申,詔:「諸國每家,作佛舍,乃置佛像及經,以禮拜供養.」

是月,灰零於信濃國,草木皆枯焉.

夏四月,丙子朔己卯,紀伊國司言:「牟婁湯泉沒而不出也.」

丁亥,祭廣瀨、龍田神.

壬辰,新羅人金主山歸之.

庚寅,始請僧尼,安居于宮中.

五月,丙午朔庚戌,射於南門.

天皇幸于飛鳥寺,以珍寶奉於佛而禮敬.

甲子,直大肆-栗田朝臣-真人讓位于父.然敕不聽矣.

是日,直大參-當麻真人-廣麻呂卒.以壬申年之功,贈直大壹位.

辛未,高向朝臣-麻呂、都努朝臣-牛飼等至自新羅.乃學問僧-觀常、靈觀從至之.

新羅王獻物,馬二匹、犬三頭、鸚鵡二隻、鵲二隻及種種物.

六月,乙亥朔甲午,大倭連、葛城連、凡川內連、山背連、難波連、紀酒人連、倭漢連、河內漢連、秦連、大隅連、書連并十一氏,賜姓曰-忌寸.

秋七月,乙巳朔乙丑,祭廣瀨、龍田神.

庚午,敕定明位已下進位已上之朝服色.淨位已上並著朱華.朱華,此云…….正位深紫,直位淺紫,勤位深綠,務位淺綠,追位深蒲萄,進位淺蒲萄.

辛未,詔曰:「東山道美濃以東,東海道伊勢以東諸國有位人等,並免課役.」

八月,甲戌朔乙酉,天皇幸于淨土寺.

丙戌,幸于川原寺.施稻於眾僧.

癸巳,遣耽羅使人等還之.

九月,甲辰朔壬子,天皇宴于舊宮安殿之庭.

是日,皇太子以下至于忍壁皇子,賜布各有差.

甲寅,遣宮處王、廣瀨王、難波王、竹田王、彌努王於京及畿內,各令校人夫之兵.

戊午,直廣肆-都努朝臣-牛飼為東海使者,直廣肆-石川朝臣-虫名為東山使者,直廣肆-佐味朝臣-少麻呂為山陽使者,直廣肆-巨勢朝臣-栗持為山陰使者,直廣參-路真人-跡見為南海使者,直廣肆-佐伯宿禰-廣足為筑紫使者.各判官一人、使一人,巡察國司、郡司及百姓之消息.

是日,詔曰:「凡諸歌男、歌女、笛吹者,即傳己子孫,令習歌笛.」

辛酉,天皇御大安殿,喚王卿等於殿前,以令博戲.

是日,宮處王、難波王、竹田王、三國真人-友足、縣犬養宿禰-大侶、大伴宿禰-御行、境部宿禰-石積、多朝臣-品治、采女朝臣-竹羅、藤原朝臣-大島凡十人,賜御衣褲.

壬戌,皇太子以下及諸王卿並四十八人,賜羆皮、山羊皮.各有差.

癸亥,遣高麗國使人等還之.

丁卯,為天皇体不豫之,三日誦經於大官大寺、川原寺、飛鳥寺.因以稻納三寺.各有差.

庚午,化來高麗人等,賜祿各有差.

冬十月,癸酉朔丙子,百濟僧-常輝封三十戶.是僧壽百歲.

庚辰,遣百濟僧-法藏、優婆塞益直-金鍾於美濃,令煎白朮.因以賜絕、綿、布.

壬午,遣輕部朝臣-足瀨、高田首-新家、荒田尾連-麻呂於信濃,令造行宮.蓋擬幸束間溫湯歟.

甲申,以淨大肆-泊瀨王、直廣肆-巨勢朝臣-馬飼、判官以下并二十八人,任於畿內之役.

己丑,伊勢王等亦向于東國.因以賜衣褲.

是月,說金剛般若經於宮中.

十一月,癸卯朔甲辰,儲用鐵一万斤送於周芳總令所.

『和名抄』云「信濃國筑摩郡,豆加万。」筑摩郡為今松本市,鹽尻市,東摩郡一帶,其地有淺間溫泉,入山邊溫泉之儔,束間湯當為其中之一。



金剛般若經開題

大乘經典之一,後秦之鳩摩羅什,譯有『金剛般若波羅蜜經』一卷。

十二.天皇患病與朱鳥改元,崩御

朱鳥元年春正月,壬寅朔癸卯,御大極殿,而賜宴於諸王卿。

是日,詔曰:「朕問王卿,以無端事,仍對言得實,必有賜。」

於是高市皇子被問以實對,賜綦措御衣三具、錦褲二具、并絁二十匹、絲五十斤、綿百斤、布一百端。

伊勢王亦得實,即賜皁御衣三具、紫褲二具、絁七匹、絲二十斤、綿四十斤、布四十端。

是日,攝津國人百濟-新興獻白馬璫。

庚戌,請三綱律師及大官大寺知事佐官并九僧,以俗共養養之,仍施絁、綿、布,各有差。

辛亥,諸王卿各賜袍褲一具。

甲寅,召諸才人、博士、陰陽師、醫師者并二十餘人,賜食及祿。

乙卯,酉時,難波大藏省失火,宮室悉焚,或曰:「阿斗連藥家失火之引,及宮室,唯兵庫職不焚焉。」

丁巳,天皇御於大安殿,喚諸王卿賜宴,因以賜絁、綿、布,各有差。

是日,天皇問群臣,以無端事,則當時得實,重給絁、綿。

戊午,宴後宮。

己未,朝廷大酺。

是日,御窟殿前,而倡優等賜祿有差,亦歌人等賜袍褲。

庚申,地震。

是月,為饗新羅金智祥,遣淨廣肆-川內王、直廣參-大伴宿禰-安麻呂、直大肆-藤原朝臣-大島、直廣肆-境部宿禰-鯨魚、直廣肆-穗積朝臣-虫麻呂等于筑紫。

二月,辛未朔甲戌,御大安殿,侍臣六人授-勤位。

乙亥,敕,選諸國司有功者九人,授勤位。

三月,辛丑朔丙午,大辨官-直大參-羽田真人-八國病,為之度僧三人。

庚戌,雪之。

乙丑,羽田真人-八國卒,以壬申年之功,贈直大壹位。

夏四月,庚午朔丁丑,侍醫-桑原村主-訶都授直廣肆,因以賜姓曰-連。

壬午,為饗新羅客等,運川原寺伎樂於筑紫,仍以皇后宮之私稻五千束,納于川原寺。

戊子,新羅進調從筑紫貢上,細馬一匹、騾一頭、犬二狗、鏤金器及金、銀、霞錦、綾羅、虎豹皮及藥物之類,并百餘種,亦智祥、健勳等別獻物,金、銀、霞錦、綾羅、金器、屏風、鞍皮、絹布、藥物之類,各六十餘種,別獻皇后、皇太子及諸親王等之物,各有數。

丙申,遣多紀皇女、山背姬王、石川夫人於伊勢神宮。

五月,庚子朔戊申,多紀皇女等至自伊勢。

是日,侍醫者-百濟人-億人病之臨死,則授勤大壹位,仍封一百戶。

癸丑,敕之,大官大寺封七百戶,乃納稅三十万束。

丙辰,宮人等增加爵位。

癸亥,天皇始体不安,因以於川原寺說藥師經,安居于宮中。

戊辰,饗金智祥等於筑紫,賜祿各有差,即從筑紫退之。

是月,敕,遣左右大舍人等,掃清諸寺堂塔,則大赦天下,囚獄已空。

是日,筑紫大宰請儲用物,絁一百匹、絲一百斤、布三百端、庸布四百常、鐵一万斤、箭竹二千連,送下於筑紫。

丙午,詔四方國曰:「大角、小角、鼓、吹、幡旗及弩、拋之類,不應存私家,咸收于郡家。」

戊申,幸白錦後苑。

丙寅,法藏法師、金鍾獻白朮煎。

是日,為天皇招魂之。

己巳,新羅遣波珍餐-金智祥、大阿餐-金建勳請政,仍進調。

十二月,壬申朔乙亥,遣筑紫防人等,飄蕩海中,皆失衣裳,則為防人衣服,以布四百五十端給下於筑紫。

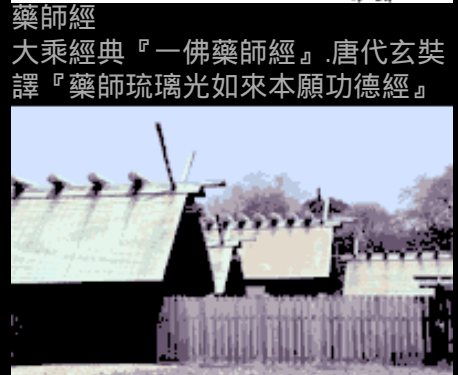
辛巳,自西發之地震。

丁亥,絁、綿、布以施大官大寺僧等。

庚寅,皇后命以,王卿等五十五人,賜朝服各一具。

足玉。一。死。反玉。一。
痛。忍。者。今。世。十。一。
生。矣。即。是。布。端。之。一。
本。而。神。樂。歌。時。尤。是。
無。端。事。
是。方。案。之。今。世。何。何。歟。
秦。措。御。衣。
秦。東。宮。切。頭。目。校。知。十。
廣。東。云。又。音。緒。緒。案。
服。色。白。黃。丹。紫。蘇。
『釋日本紀』卷十五、述義十一
『釋紀』云:「無端事,兼方案之,今世何何歟。」端,緒也,無端之事,謎也。

藥師經
大乘經典『一佛藥師經』,唐代玄奘譯『藥師琉璃光如來本願功德經』



熱田神宮
草薙劍本置熱田神宮,然天智七年為僧道行所盜,欲逃新羅而遇風雨,芒迷歸朝,是後,草薙劍安於宮中至此。



六月,己巳朔,槻本村主-勝麻呂賜姓曰-連.仍加-勤大壹位,封二十戶.
庚午,工匠、陰陽師、侍醫、大唐學生及一二宮人并三十四人,授爵位.
乙亥,選諸司人等有功二十八人,增加爵位.
戊寅,卜天皇病,崇草薙劍.
即日,送置于尾張國熱田社.
庚辰,雩之.
甲申,遣伊勢王及官人等於飛鳥寺,敕眾僧曰:「近者朕身不和.願,賴三寶之威,以身体欲得安和.是以僧正、僧都及眾僧應誓願.」則奉珍寶於三寶.
是日,三綱律師及四寺和上、知事,并現有師位僧等,施御衣、御被各一具.
丁亥,敕之,遣百官人等於川原寺,為燃燈供養,仍大齋之悔過也.
丙申,法忍僧、義照僧,為養老,各封三十戶.
庚寅,名張廚司災之.
秋七月,己亥朔庚子,敕:「更男夫著脛裳,婦女垂髮于背,猶如故.」
是日,僧正、僧都等參赴宮中,而悔過矣.
辛丑,召諸國大解除.
壬寅,半減天下之調.仍悉免徭役.
癸卯,奉幣於居紀伊國國懸神、飛鳥四社、住吉大神.
丙午,請一百僧,讀金光明經於宮中.
戊申,雷光南方而一大鳴.則天災於民部省藏庸舍屋,或曰:「忍壁皇子宮失火延,燒民部省.」
癸丑,敕曰:「天下之事,不問大小,悉啟于皇后及皇太子.」
是日,大赦之.
甲寅,祭廣瀨、龍田神.
丁巳,詔曰:「天下百姓由貧乏而貸稻及資財者,乙酉年十二月三十日以前,不問公私,皆免原.」
戊午,改元曰-朱鳥元年.朱鳥,此云…….仍名宮曰-飛鳥淨御原宮.
丙寅,選淨行者七十人以出家.乃設齋於宮中御廄院.
是月,諸王臣等為天皇造觀世音像,則說觀世音經於大官大寺.
八月,己巳朔,為天皇度八十僧.
庚午,度僧尼并一百.因以坐百菩薩於宮中,讀觀世音經二百卷.
丁丑,為天皇体不豫,祈于神祇.
辛巳,遣秦忌寸-石勝,奉幣於土左大神.
是日,皇太子、大津皇子、高市皇子各加封四百戶.川島皇子、忍壁皇子各加百戶.
癸未,芝基皇子、磯城皇子各加二百戶.
己丑,檜隈寺、輕寺、大湫寺各封百戶.限三十年.
辛卯,巨勢寺封二百戶.
九月,戊戌朔辛丑,親王以下逮于諸臣,悉集川原寺,為天皇病誓願,云云.
丙午,天皇病遂不差,崩于正宮.
戊申,始發哭.則起殯宮於南庭.
辛酉,殯於南庭,及發哀.
當是時,大津皇子謀反於皇太子.
甲子,平旦,諸僧尼發哭於殯庭,乃退之.
是日,肇進奠,即誅之.第一,大海宿禰-芻蒲誅壬生事.次,淨大肆-伊勢王誅諸王事.次,直大參-縣犬養宿禰-大伴總誅宮內事.次,淨廣肆-河內王誅左右大舍人事.次,直大參-當摩真人-國見誅左右兵衛事.次,直大肆-采女朝臣-竺羅誅內命婦事.次,直廣肆-紀朝臣-真人誅膳職事.
乙丑,諸僧尼亦哭於殯庭.
是日,直大參-布勢朝臣-御主人誅大政官事.次,直廣參-石上朝臣-麻呂誅法官事.次,直大肆-大三輪朝臣-高市麻呂誅理官事.次,直廣參-大伴宿禰-安麻呂誅大藏事.次,直大肆-藤原朝臣-大島誅兵政官事.
丙寅,僧尼亦發哀.
是日,直廣肆-阿倍久努朝臣-麻呂誅刑官事.次,直廣肆-紀朝臣-弓張誅民官事.次,直廣肆-穗積朝臣-虫麻呂誅諸國司事.次,大隅、阿多隼人及倭、河內馬飼部造,各誅之.
丁卯,僧尼發哀之.
是日,百濟王-良虞代百濟王-善光而誅之.次,國國造等隨參赴,各誅之.仍奏種種歌舞.

日本書紀卷廿九 終

加夜奈留美命神社
飛鳥四社者,當為飛鳥坐神社、飛鳥山口坐神社、飛鳥川上坐宇須多伎比賣神社、加夜奈留美命神社,四社皆載於延喜式神名帳.此外,加夜奈留美命神社,尚以賀夜奈留美命之名載於『[出雲國造神賀詞](#)』之中.



法華經

觀世音經者,是為『法華經』卷八、題「觀世音菩薩普門品」是也.



前賢故實

石上朝臣麻呂

石上朝臣麻呂

傳原名物部麻呂,後改石上.天智朝至近江朝之貴族.天武五年,任遣新羅大使.累官至左大臣.傳為『[竹取物語](#)』中納言石上麻呂足之原型.

前賢故實 大 三輪朝臣高市麻呂

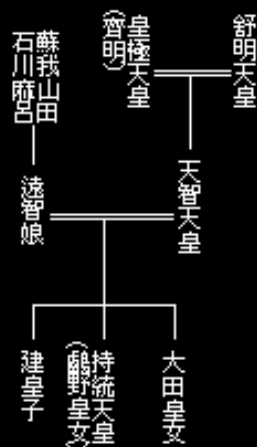


壬申亂時,於箸陵擊退近江軍之功臣.累官至中納言.持統六年,脫帽諫言未效.大寶二年方再任為長門守.『日本靈異記』述農民讚譽有加.

[\[久遠・絆\]](#) [\[其之一\]](#) [\[卷三十\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷三十 持統紀

高天原廣野姬天皇 持統天皇



持統天皇家系圖

持統天皇家系圖

二.大津皇子事件

冬十月,戊辰朔己巳,皇子-大津謀反發覺.

逮捕皇子-大津,并捕為皇子-大津所誣誤直廣肆-八口朝臣-音櫃、小山下-壹伎連-博德,與大舍人-中臣朝臣-臣麻呂、巨勢朝臣-多益須、新羅沙門-行心及帳內-礪杵道作等,三十餘人.

庚午,賜死皇子-大津於譯語田舍.時年二十四.

妃皇女-山邊被髮徒跣,奔赴殉焉.見者皆歔歔.

皇子-大津,天淳中原瀛真人天皇第三子也.容止墻岸,音辭俊朗,為天命開別天皇所愛.及長,

辨有才學,尤愛文筆.詩賦之興,自大津始也.

丙申,詔曰:「皇子大津謀反,誣誤吏民、帳內不得已.今皇子大津已滅,從者當坐皇子大津者,皆赦之.但礪杵道作流伊豆.」又詔曰:「新羅沙門-行心與皇子大津謀反,朕不忍加法.從飛驒國伽藍.」

十一月,丁酉朔壬子,奉伊勢神祠皇女-大來,還至京師.

癸丑,地震.

十二月,丁卯朔乙酉,奉為天淳中原瀛真人天皇,設無遮大會於五寺大官、飛鳥、川原、小墾田豐浦、阪田.

壬辰,賜京師孤獨、高年、布、帛各有差.

閏十二月,筑紫大宰獻三國高麗、百濟、新羅百姓男女并僧尼六十二人.

是歲,蛇犬相交,俄而俱死.



大津皇子像

『懷風藻』云皇子狀貌魁梧,器宇峻遠.博覽以能屬文,愛武而能擊劍.降節禮士,而人多附託.新羅僧行心解天文卜筮,言皇子非人臣之相,進逆謀誣誤.遂圖不軌,事敗,賜死於譯語田舍,享年廿四.其妃-山邊皇女被髮徒跣,奔赴殉死.見者無不唏噓.嗚呼蘊彼良才,聽於奸人,卒以戮辱自終.古人所以戒慎交遊之意,蓋論此乎.



常陸國、下總國郡圖

常陸國,今茨城縣北東一帶.『續日本紀』靈龜二年五月條云:「以駿河、甲斐、相模、上總、下總、常陸、下野七國高麗人-千七百九十九人遷于武藏國,始置高麗郡焉.」可知其投

三.天武天皇殯宮儀禮與大葬

元年春正月,丙寅朔,皇太子率公卿、百寮人等,適殯宮而慟哭焉.

納言-布勢朝臣-御主人誄之.禮也.誄畢眾庶發哀.次,梵眾發哀.於是奉膳-紀朝臣-真人等奉奠.奠畢,膳部、采女等發哀.樂官奏樂.

庚午,皇太子率公卿、百寮人等,適殯宮而慟哭焉.梵眾隨而發哀.

庚辰,賜京師年自八十以上及篤癯、貧不能自存者,絕、綿各有差.

甲申,使直廣肆-田中朝臣-法麻呂與追大貳-守君-刈田等,使於新羅,赴天皇喪.

三月,乙丑朔己卯,以投化高麗五十六人,居于常陸國,賦田受稟,使安生業.

甲申,以華縵進于殯宮.此曰-御蔭.

是日,丹比真人-麻呂誄之.禮也.

丙戌,以投化新羅十四人,居于下毛野國.賦田受稟,使安生業.

化高麗人後被遷往武藏國。『後漢書』光武帝紀[下]云:「給稟高年,鰥寡,孤,獨及篤癯,無家屬貧不能自存者。」又云:「賦田受稟,使安生業。」『說文』曰:「稟,賜穀也。」



龍象壺瓶

『潛確居類書』云:「佛法曰之,智度論曰:『水行之中,龍力為大;陸行之中,象力為大。』故負荷大法者,比為龍象。」是以龍象大德,諭高僧也。



天武天皇 檜隈大內陵

『延喜式』諸陵云:「檜隈大內陵,在大和國高市郡.兆域東西五町,南北四町.陵戶.五煙。」『墓陵要覽』云:「高市郡明日香村大字野口。」嘉禎三年,遭盜掘.是以時頃之書物諸如『明月記』『阿不幾之山陵記』等,載有其陵規模.墳丘八角,徑約50m,石室全長7.5m,玄室壁面以朱紅塗之,天武遺骸納於夾紵棺中.持統天皇歿後,火葬後同葬其陵中。

夏四月,甲午朔癸卯,筑紫大宰獻投化新羅僧尼及百姓男女二十二人.居于武藏國,賦田受稟,使安生業。

五月,甲子朔乙酉,皇太子率公卿、百寮人等,適殯宮而慟哭焉.於是隼人-大隅、阿多-魁帥,各領己眾,互進誅焉。

六月,癸巳朔庚申,赦罪人。

秋七月,癸亥朔甲子,詔曰:「凡負債者,自乙酉年以前物,莫收利也.若既役身者,不得役利。」

辛未,賞賜隼人-大隅、阿多-魁帥等三百三十七人.各有差。

八月,壬辰朔丙申,嘗于殯宮.此曰-御青飯也。

丁酉,京城耆老、男女,皆臨慟哭於橋西。

己未,天皇使直大肆-藤原朝臣-大島、直大肆-黃書連-大伴,請集三百龍象大德等於飛鳥寺,奉施袈裟.人別一領.曰:「此以天淳中原瀛真人天皇御服所縫作也。」詔詞酸割,不可具陳。

九月,壬戌朔庚午,設國忌齋於京師諸寺。

辛未,設齋於殯宮。

甲申,新羅遣王子-金霜林、級餐-金薩慕及級餐-金仁述、大舍-蘇陽信等,奏請國政,且獻調賦.學問僧-智隆附而至焉.筑紫大宰便告天皇崩於霜林等。

即日,霜林等皆著喪服,東向三拜三發哭焉。

冬十月,辛卯朔壬子,皇太子率公卿、百寮人等并諸國司、國造及百姓男女,始築大內陵。

十二月,辛卯朔庚子,以直廣參-路真人-跡見,為饗新羅敕使.是年也,太歲丁亥。

二年春正月,庚申朔,皇太子率公卿、百寮人等,適殯宮而慟哭焉。

辛酉,梵眾發哀於殯宮。

丁卯,設無遮大會於藥師寺。

壬午,以天皇崩,奉宣新羅金霜林等.金霜林等乃三發哭。

二月,庚寅朔辛卯,大宰獻新羅調賦,金、銀、絹、布、皮、銅、鐵之類十餘物,并別所獻佛像,種種彩絹,鳥、馬之類十餘種,及霜林所獻金、銀、彩色,種種珍異之物,并八十餘物。

己亥,饗霜林等於筑紫館.賜物各有差。

乙巳,詔曰:「自今以後,每取國忌日,要須齋也。」

戊午,霜林等罷歸。

三月,己未朔己卯,以華縵進于殯宮.藤原朝臣-大島誅焉。

五月,戊午朔乙丑,以百濟-敬須德那利,移甲裴國。

六月,戊子朔戊戌,詔:「令天下,繫囚極刑減本罪一等.輕繫皆赦除之.其令天下皆半入今年調賦。」

秋七月,丁巳朔丁卯,大雪.旱也。

丙子,命百濟沙門-道藏請雨。

不崇朝,遍雨天下。

八月,丁亥朔丙申,嘗于殯宮而慟哭焉.於是大伴宿禰-安麻呂誅焉。

丁酉,命淨大肆-伊勢王,奉宣葬儀。

辛亥,耽羅王遣佐平-加羅,來獻方物。

九月,丙辰朔戊寅,饗耽羅-佐平-加羅等於筑紫館.賜物各有差。

冬十一月,乙卯朔戊午,皇太子率公卿、百寮人等與諸蕃賓客,適殯宮而慟哭焉.於是奉奠,奏楯節舞.諸臣各舉己先祖等所仕狀,遞進誅焉。

己未,蝦夷百九十餘人,負荷調賦而累焉。

乙丑,布勢朝臣-御主人、大伴宿禰-御行,遞進而誅.直廣肆-當麻真人-智德,奉誅皇祖等之騰極次第.禮也.古云-日嗣也.畢葬于大內陵。

十二月,乙酉朔丙申,饗蝦夷男女二百一十三人於飛鳥寺西槻下.仍授冠位,賜物各有差。

四.草壁皇子之死與淨御原令之施行

三年春正月,甲寅朔,天皇朝万國于前殿.

乙卯,大學寮獻杖八十枚.

丙辰,務大肆陸奧國優嗜曇郡城養蝦夷脂利古男,麻呂與鐵折,請剔鬢髮為沙門.詔曰:「麻呂等少而閑雅寡欲,遂至於此,蔬菜持戒,可隨所請出家修道.」

庚申,宴公卿賜袍褲.

辛酉,新羅使人-田中朝臣-法麻呂等,還自新羅.

壬戌,詔出雲國司,上送遭值風浪蕃人.

是日,賜越蝦夷沙門-道信,佛像一軀,灌頂幡、鍾、鉢各一口,五色綵各五尺,綿五屯,布一十端,鍬一十枚,鞍一具.筑紫大宰栗田真人朝臣等,獻隼人一百七十四人,并布五十常,牛皮六枚,鹿皮五十枚.

戊辰,文武官人進薪.

己巳,賜百官人等食.

辛未,天皇幸吉野宮.

甲戌,天皇至自吉野.

二月,甲申朔丙申,詔:「筑紫防人,滿年限者替.」

己酉,以淨廣肆-竹田王、直廣肆-土師宿禰-根麻呂、大宅朝臣-麻呂、藤原朝臣-史、務大肆-當麻真人-櫻井、穗積朝臣-山守、中臣朝臣-臣麻呂、巨勢朝臣-多益須、大三輪朝臣-安麻呂,為判事.

三月,癸丑朔丙子,大赦天下.唯常赦所不免,不在赦例.

夏四月,癸未朔庚寅,以投化新羅人,居于小毛野.

乙未,皇太子-草壁皇子尊薨.

壬寅,新羅遣級餐-金道那等,奉弔瀛真人天皇喪,并上送學問僧-明聰、觀智等.別獻金銅阿彌陀像,金銅觀世音菩薩像、大勢至菩薩像各一軀,綵帛、錦、綾.

甲辰,春日王薨.

己酉,詔:「諸司仕丁,一月放假四日.」

五月,癸丑朔甲戌,命土師宿禰-根麻呂,詔新羅弔使-級餐-金道那等曰:「太政官卿等奉敕奉宣,二年,遣田中朝臣-法麻呂等,相告大行天皇喪.時新羅言:『新羅奉敕人者元來用蘇判位.今將復爾.』由是法麻呂等不得奉宣訃告之詔.若言前事者,在昔難波宮治天下天皇崩時,遣巨勢-稻持等,告喪之日,翳餐-今春秋奉敕.而言用蘇判奉敕,即違前事也.又於近江宮治天下天皇崩時,遣一吉餐-金薩儒等奉弔.而今以級餐奉弔,亦違前事.又新羅元來奏云:『我國自日本遠皇祖代,並舐不干楫奉仕之國.』而今一艘,亦乖故典也.又奏云:『自日本遠皇祖代,以清白心仕奉.』而不惟竭忠宣揚本職,而傷清白,詐求幸媚,是故調賦與別獻,並封以還之.然自我遠皇祖代,廣慈汝等之德,不可絕之.故彌勤彌謹,戰戰兢兢,修其職任,奉尊法度者,天朝復廣慈耳.汝道那等奉斯所敕,奉宣汝王!」

六月,壬午朔,賜衣裳筑紫大宰等.

癸未,以皇子-施基、直廣肆-佐味朝臣-宿那麻呂、羽田朝臣-齊、齊,此云・・・、勤廣肆-伊余部連-馬飼、調忌寸-老人、務大參-大伴宿禰-手拍與巨勢朝臣-多亦須等,拜撰善言司.

庚子,賜大唐續守言、薩弘恪等稻,各有差.

辛丑,詔筑紫大宰-栗田真人朝臣等,賜學問僧-明聰、觀智等,為送新羅師友綿,各一百四十斤.

乙巳,於筑紫小郡設新羅弔使-金道那等.賜物各有差.

庚戌,班賜諸司令一部二十卷.

秋七月,壬子朔,付賜陸奧蝦夷沙門自得所請金銅藥師佛像、觀世音菩薩像各一軀,鍾、娑羅、寶帳、香爐、幡等物.

是日,新羅弔使-金道那等罷歸.

丙寅,詔左右京職及諸國司,築習射所.

辛未,流偽兵衛河內國澀川郡人-柏原廣山于土佐國.以追廣參,授捉偽兵衛廣山兵-衛生部連-虎.

甲戌,賜越蝦夷-八釣魚等.魚,此云・・・各有差.

秋八月,辛巳朔壬午,百官會集於神祇宮,而奉宣天神地祇之事.

甲申,天皇幸吉野宮.

丙申,禁斷漁獵於攝津國武庫海一千步內,紀伊國阿提郡那耆野二万頃,伊賀國伊賀郡身野二万頃,置守護人,准河內國大鳥郡高腳海.



卯杖舞

卯杖者,上月上卯時擊地以驅惡鬼之杖.以梅、桃、椿之木,切作五尺三寸,卷五色絲而由大學寮向宮中獻上.



粟原寺跡

為中臣朝臣大島為弔草壁皇子而建,後有比賣朝臣額田續建,歷22年建成.



武庫海

指攝津國西部武庫郡武庫川出口.而西宮市至神戶市東之海岸則為武庫海.『養老』雜令云:「凡度地,以五尺為一步.」阿提郡亦名安諦郡,在紀伊國東部,名草,那賀二郡南.『和名抄』云那耆野:「在田郡奈鄉」,所在不詳.高腳海原為天皇漁獵區,是以禁斷一般百姓禁獵.在此解禁.



讚吉國御城郡

讚吉國,即讚岐國,或作紗拔國.御城郡,『和名抄』云讚岐國三木郡.今香川縣木田郡牟禮町與三木町一帶.

丁酉,賞賜公卿.各有差.

辛丑,詔伊豫總領-田中朝臣-法麻呂等曰:「讚吉國御城郡所獲白鷺,宜放養焉。」

癸卯,觀射.

閏八月,辛亥朔庚申,詔諸國司曰:「今冬,戶籍可造.宜限九月,糾捉浮浪.其兵士者,每於一國四分而點其一,令習武事。」

丁丑,以淨廣肆-河內王,為筑紫大宰帥.授兵杖及賜物.以直廣壹,授直廣參-石上朝臣-麻呂、直廣肆-石川朝臣-虫名等於筑紫,給送位記.且監新城.

冬十月,庚戌朔庚申,天皇幸高安城.辛未,直廣肆-下毛野朝臣-子麻呂,奏欲免奴婢陸百口.奏可.

十一月,己卯朔丙戌,於中市,褒美追廣貳-高田首-石成之閑於三兵賜物.

十二月,乙酉朔丙辰,禁斷雙六.



雙六

盤雙六,源起於埃及與印度,在奈良時代之前經中國傳入日本的室內遊戲.於盤上置黑白十五子,以筒中搖出之二采之目決定駒子的前進數,以最早侵入敵陣者獲勝.『養老律令』雜令云:「博戲而賭財物,故禁。」又云:「雙六樗蒲,雖不賭即坐。」可見方時過盛,影響風氣,不惜連坐禁之.



持統天皇

天武天皇死後,皇后臨朝稱制.然稱制三年四月,草壁皇子薨.故,於稱制四年正月,即天皇位,是為持統天皇.



葛城川

腋上陂,此者或指腋上池之堤或葛城川之堤防.約在鴨都波神社一帶.

五.持統天皇即位與新政

四年春正月,戊寅朔,物部麻呂朝臣,樹大盾.神祇伯-中臣大島朝臣,讀天神壽詞.畢,忌部宿禰-色夫知,奉上神璽劍、鏡於皇后.皇后即天皇位.公卿、百寮羅列匝拜而拍手焉.

己卯,公卿、百寮拜朝,如元會儀.

丹比島真人與布勢御主人朝臣,奉賀騰極.

庚辰,宴公卿於內裏.仍賜衣裳.

壬辰,百寮進薪.

甲午,大赦天下.唯常赦所不免,不在赦例.

賜有位人爵一級.鰥寡、孤獨、篤癰,貧不能自存者,賜稻,蠲服調役.

丁酉,以解部一百人,拜刑部省.

庚子,班幣於畿內天神地祇,及增神戶、田地.

二月,戊申朔壬子,天皇幸于腋上陂,觀公卿大夫之馬.

戊午,新羅沙門-詮吉、級餐-北助知等五十人歸化.

甲子,天皇幸吉野宮.

丙寅,設齋於內裏.

壬申,以歸化新羅韓奈末-許滿等十二人,居于武藏國.

三月,丁丑朔丙申,賜京與畿內人,年八十以上者,島宮稻,人二十束.其有位者,加賜布二端.

夏四月,丁未朔己酉,遣使祭廣瀨大忌神與龍田風神.

癸丑,賜京與畿內耆老、耆女五千三十一人,稻,人二十束.

庚申,詔曰:「百官人及畿內人,有位者限六年,無位者限七年.以其上日,選定九等.四等以上者,依考仕令,以其善、最、功、能、氏、姓大小,量授冠位.其朝服者,淨大壹已下,廣貳已上黑紫.淨大參已下,廣肆已上赤紫.直八級緋.勤八級深綠.務八級淺綠.追八級深縹.進八級淺縹.別淨廣貳以上,一幅一部之綾羅等,種種聽用.淨大參已下,直廣肆已上,一幅二部之綾羅等,種種聽用.上下通用綺帶、白褲,其餘者如常。」

戊辰,始祈雨於所.旱也.

五月,丙子朔戊寅,天皇幸吉野宮.

乙酉,百濟男女二十一人歸化.

庚寅,於內裏始安居講說.

六月,丙午朔辛亥,天皇幸泊瀨.

庚午,盡召有位者,唱知位次與年齒.

秋七月,丙子朔,公卿、百寮人等,始著新朝服.

戊寅,班幣於天神地祇.

庚辰,以皇子高市,為太政大臣.以正廣參,授丹比島真人,為右大臣.并八省、百寮,皆遷任焉.

天武・持統朝時期文官朝服



天武、持統朝之文官朝服格式
舒明紀,大派王提案始朝卯初(午前
五時),終於巳末(午前十一時).孝德
紀則定寅刻(午前四時)需羅列南門
外,待日出之.『養老』宮衛令「義
解」述,寅一剋開諸門,卯二剋開大
門.蓋昔...朝服乎一句,為持統紀編者
加注.

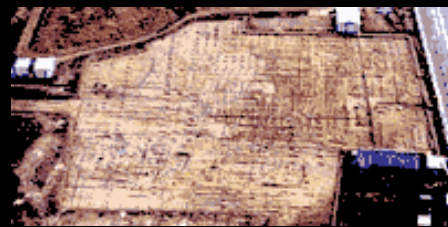


特別史蹟藤原宮跡
藤原京首次採用中國條坊制規劃.

六.增加食封,十八氏墓記上進,新益京鎮祭

五年春正月,癸酉朔,賜親王、諸臣、內親王、女王、內命婦等位.
己卯,賜公卿飲食、衣裳.優賜正廣肆-百濟王-余禪廣、直大肆-遠寶、良虞與難典,各有差.
乙酉,增封,皇子高市二千戶,通前三千戶.淨廣貳-皇子穗積五百戶,淨大參-皇子川島百戶,通
前五百戶.正廣參-右大臣-丹比島真人三百戶,通前五百戶.正廣肆-百濟王-禪廣百戶,通前二百
戶.直大壹-布勢御主人朝臣與大伴御行宿禰八十戶,通前三百戶.其餘增封各有差.
丙戌,詔曰:「直廣肆-筑紫史-益,拜筑紫大宰府典以來,於今二十九年矣.以清白忠誠,不敢怠
惰.是故賜食封五十戶、絁十五匹、綿二十五屯、布五十端、稻五千束.」
戊子,天皇幸吉野宮.
乙未,天皇至自吉野宮.
二月,壬寅朔,天皇詔公卿等曰:「卿等於天皇世,作佛殿、經藏,行月六齋.天皇時遣大舍人
問訊.朕世亦如之.故,當勤心奉佛法也.」
是日,授宮人位記.
三月,壬申朔甲戌,宴公卿於西廳.
丙子,天皇觀公私馬於御苑.
癸巳,詔曰:「若有百姓弟為兄見賣者,從良.若子為父母見賣者,從賤.若准貸倍沒賤者,從良.
其子雖配奴婢所生,亦皆從良.」

辛巳,大宰、國司皆遷任焉.
壬午,詔:「令公卿、百寮,凡有位者,自今以後,於家內著朝服,而參上未開門以前.」蓋昔者
到宮門而著朝服乎.
甲申,詔曰:「凡朝堂座上,見親王者如常.大臣與王起立堂前.二王以上下座而跪.」
己丑,詔曰:「朝堂座上,見大臣,動坐而跪.」
是日,以絁、絲、綿、布,奉施七寺安居沙門三千三百六十三.別為皇太子,奉施於三寺安居
沙門三百二十九.
癸巳,遣使者,祭廣瀨大忌神與龍田風神.
八月,乙巳朔戊申,天皇幸吉野宮.
乙卯,以歸化新羅人等,居于下毛野國.
九月,乙亥朔,詔諸國司等曰:「凡造戶籍者,依戶令也.」
乙酉,詔曰:「朕將巡行紀伊之.故勿收今年京師田租口賦.」
丁亥,天皇幸紀伊.
丁酉,大唐學問僧-智宗、義德、淨願、軍丁-筑紫國上陽咩郡大伴部-博麻,從新羅送使-大
奈末-金高訓等,還至筑紫.
戊戌,天皇至自紀伊.
冬十月,甲辰朔戊申,天皇幸吉野宮.
癸丑,大唐學問僧-智宗等,至于京師.
戊午,遣使者,詔筑紫大宰-河內王等曰:「饗新羅送使-大奈末-金高訓等,准上送學生-土師宿
禰-甥等送使之例.其慰勞賜物,一依詔書.」
乙丑,詔軍丁-築後國上陽咩郡人大伴部-博麻曰:「於天豐財重日足姬天皇七年,救百濟之
役,汝為唐軍見虜.泊天命開別天皇三年,土師連-富杼、冰連-老、筑紫君-薩夜麻、弓削連-元
寶兒,四人,思欲奏聞唐人所計,緣無衣糧,憂不能答.於是博麻謂土師-富杼等曰:『我欲共汝還
向本朝,緣無衣糧,俱不能去.願賣我身,以充衣食.』富杼等,依博麻計,得通天朝.汝獨淹滯他界,
於今三十年矣.朕嘉厥尊朝愛國,賣己顯忠,故賜-務大肆,并絁五匹、綿十一屯、布三十端、稻
一千束、水田肆町.其水田及至曾孫也.免三族課役,以顯其功.」
壬申,高市皇子觀藤原宮地.公卿、百寮從焉.
十一月,甲戌朔庚辰,賞賜送使-金高訓等,各有差.
甲申,奉敕始行元嘉曆與儀鳳曆.
十二月,癸卯朔乙巳,送使-金高訓等罷歸.
甲寅,天皇幸吉野宮.
丙辰,天皇至自吉野宮.
辛酉,天皇幸藤原,觀宮地.公卿、百寮皆從焉.
乙丑,賞賜公卿以下,各有差.



藤原京跡 左京六條三坊鳥瞰



藤原京跡 左京七坊一條鳥瞰

夏四月,辛丑朔,詔曰:「若氏祖時所免奴婢既除籍者,其眷族等,不得更訟,言我奴婢。」
賜大學博士-上村主-百濟,大稅一千束,以勸其學業也。
辛亥,遣使者,祭廣瀨大忌神與龍田風神。
丙辰,天皇幸吉野宮。
壬戌,天皇至自吉野宮。
五月,辛未朔辛卯,褒美百濟淳武-微子壬申年功,賜直大參,仍賜絁、布。
六月,京師及郡國四十雨水。
戊子,詔曰:「此夏陰雨過節,懼必傷害,夕惕迄朝憂懼,思念厥愆,其令公卿、百寮人等,禁斷酒、肉,攝心悔過,京及畿內諸寺梵眾,亦當五日誦經,庶有補焉。」自四月雨,至于是月。
己未,大赦天下,但盜賊不在赦例。
秋七月,庚午朔壬申,天皇幸吉野宮。
是日,伊豫國司-田中朝臣-法麻呂等獻宇和郡御馬山白銀三斤八兩、礦一籠。
丙子,宴公卿,仍賜朝服。
辛巳,天皇至自吉野。
甲申,遣使者,祭廣瀨大忌神與龍田風神。
八月,己亥朔辛亥,詔十八氏,大三輪、雀部、石上、藤原、石川、巨勢、膳部、春日、上毛野、大伴、紀伊、平群、羽田、阿倍、佐伯、采女、穗積、阿曇,上進其祖等墓記。
辛酉,遣使者,祭龍田風神,信濃須波、水內等神。
九月,己巳朔壬申,賜音博士-大唐續守言、薩弘恪,書博士-百濟末士-善信,銀人二十兩。
丁丑,淨大參-皇子川島薨。
辛卯,以直大貳,贈佐伯宿禰-大目,并賜賻物。
冬十月,戊戌朔,日有蝕之。
乙巳,詔曰:「凡先皇陵戶者,置五戶以上,自餘王等有功者,置三戶,若陵戶不足,以百姓充,免其徭役,三年一替。」
庚戌,畿內及諸國,置長生地各一千步。
是日,天皇幸吉野宮。
丁巳,天皇至自吉野。
甲子,遣使者,鎮祭新益京。
十一月,戊辰,大嘗,神祇伯-中臣朝臣-大島,讀天神壽詞。
壬辰,賜公卿袞。
乙未,饗公卿以下至主典,并賜絹等各有差。
丁酉,饗神祇官長上以下至神部等,及供奉播磨國、因幡國郡司以下至百姓男女,并賜絹等各有差。
十二月,戊戌朔己亥,賜醫博士-務大參-德自珍、咒禁博士-木素丁武、沙宅-万首,銀人二十兩。
乙巳,詔曰:「賜右大臣宅地四町,直廣貳以上二町,大參以下一町,勤以下至無位,隨其戶口,其上戶一町,中戶半町,下戶四分之一,王等亦准此。」



藤原京跡 京城北面中門鳥瞰



諏訪大社下社
信濃須波,今諏訪大社『延喜式』神名信濃國諏訪郡:「南方刀美神社二座」祭建御名方神與八坂刀賣神。



建御名方富命彥神別神社
水內等神,『延喜式』神名帳云信濃國水內郡建御名方富命彥神別神社。



藤原京跡 京城內裏區域鳥瞰
冬十月甲子條,新益京,即藤原京也。

[\[久遠・絆\]](#) [\[卷廿九\]](#) [\[其之二\]](#) [\[再臨詔\]](#)

日本書紀 卷三十 持統紀

高天原廣野姬天皇 持統天皇

七.伊勢行幸與三輪高市麻呂之諫爭

六年春正月,丁卯朔庚午,增封皇子-高市二千戶,通前五千戶。

癸酉,饗公卿等,仍賜衣裳。

戊寅,天皇觀新益京路。

壬午,饗公卿以下至初位以上。

癸巳,天皇幸高宮。

甲午,天皇至自高宮。

二月,丁酉朔丁未,詔諸官曰:「當以三月三日,將幸伊勢.宜知此意,備諸衣物。」

賜陰陽博士-沙門-法嚴、道基銀二十兩。

乙卯,詔刑部省,赦輕繫。

是日,中納言-直大貳-三輪朝臣-高市麻呂上表敢直言,諫爭天皇欲幸伊勢,妨於農時。

三月,丙寅朔戊辰,以淨廣肆-廣瀨王、直廣參-當麻真人-智德、直廣肆-紀朝臣-弓張等,為留守官.於是中納言-大三輪朝臣-高市麻呂,脫其冠位,擎上於朝,重諫曰:「農作之節,車駕未可以動!」

辛未,天皇不從諫,遂幸伊勢。

壬午,賜所過神郡及伊賀、伊勢、志摩國造等冠位,并免今年調役,復免供奉騎士、諸司荷丁、造行宮丁今年調役,大赦天下.但盜賊不在赦例。

甲申,賜所過志摩百姓男女年八十以上,稻人五十數。

乙酉,車駕還宮.每到行,則會郡縣吏民,務勞賜作樂。

甲午,詔免近江、美濃、尾張、參河、遠江等國供奉騎士戶及諸國荷丁、造行宮丁今年調役。

詔令天下百姓困乏窮者稻.男三束,女二束。

夏四月,丙申朔丁酉,贈大伴宿禰-友國直大貳,并賜贈物。

庚子,除四畿內百姓為荷丁者今年調役。

甲寅,遣使者,祭廣瀨大忌神與龍田風神。

丙辰,賜有位親王以下至進廣肆,難波大藏鍬各有差。

庚申,詔曰:「凡繫囚、見徒,一皆原散。」

五月,乙丑朔庚午,御阿胡行宮時,進贄者-紀伊國牟婁郡人-阿古志海部-河瀨麻呂等兄弟三戶服十年調役、雜徭.復免挾抄八人今年調役。

辛未,相模國司獻赤烏雞二隻,言:「獲於御浦郡。」

丙子,幸吉野宮。

庚辰,車駕還宮。

辛巳,遣大夫、謁者,祠名山岳瀆,請雨。

甲申,贈文忌寸-智德直大壹,并賜贈物。

丁亥,遣淨廣肆-難波王等,鎮祭藤原宮地。

庚寅,遣使者,奉幣于四所-伊勢、大倭、住吉、紀伊大神,告以新宮。

閏五月,乙未朔丁酉,大水.遣使,循行郡國,乘貸災害不能自存者,令得漁採山林池澤.詔令京師及四畿內,講說金光明經。

戊戌,賜沙門-觀成絕十五匹、綿三十屯、布五十端,美其所造鉛粉。

丁未,伊勢大神奏天皇曰:「免伊勢國今年調役.然應輸其二神郡赤引絲參拾伍斤,於來年當折其代。」

己酉,詔筑紫大宰率-河內王等曰:「宜遣沙門於大隅與阿多,可傳佛教.復,上送大唐大使-郭務棕為御近江大津宮天皇所造阿彌陀像。」

六月,甲子朔壬申,敕郡國長吏,各禱名山岳瀆。

甲戌,遣大夫、謁者,詣四畿內,請雨。

甲申,賜直丁八人官位,美其造大內陵時勤而不懈。

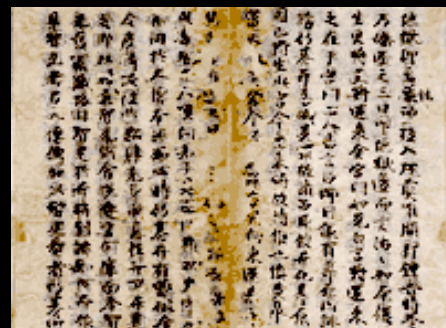
癸巳,天皇觀藤原宮地。

秋七月,甲午朔乙未,大赦天下.但十惡、盜賊,不在赦例。

賜相模國司-布勢朝臣-色布智等、御浦郡少領,闕姓名.與獲赤烏者-鹿島臣-豫樟,位及祿,服



史蹟 藤原京朱雀大路跡

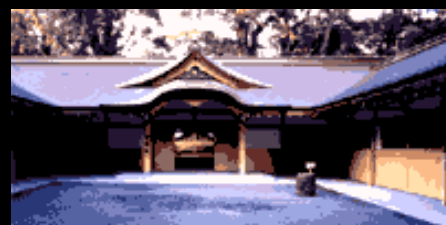


日本靈異記

藥師寺僧景戒著,全名『日本國現報善惡靈異記』為日本最古說話集.高市麻呂賭上官位,脫冠進諫持統勿在農忙之時遊幸,然未效.在之後十數年間,於正史上不見其名.當事因為犯天皇興而遭免官.然而,高市麻呂卻也因此博得民間極高的評價.『靈異記』中敘述高市麻呂堵塞己田之取水口,而將水讓給農民.又述龍神只將雨降在高市麻呂的屬田之中。



藤原京跡 前方為香具山



伊勢神宮外宮 神樂殿
當一郡全體作為神社封戶時,稱作神

御浦郡二年調役。

庚子,宴公卿。

壬寅,幸吉野宮。

甲辰,遣使者,祭廣瀨與龍田。

辛酉,車駕還宮。

是夜,熒惑與歲星,於一步內乍光乍沒,相近相避四遍。

八月,癸亥朔乙丑,赦罪。

己卯,幸飛鳥皇女田莊。

即日,還宮。

九月,癸巳朔辛丑,遣班田大夫等於四畿內。

丙午,神祇官奏上神寶書四卷、鑰九箇、木印一箇。

癸丑,伊勢國司獻嘉禾二本,越前國司獻白蛾。

戊午,詔曰:「獲白蛾於角鹿郡浦上之濱,故增封筭飯神二十戶,通前。」

冬十月,壬戌朔壬申,授山田史-御形務廣肆,前為沙門,學問新羅。

癸酉,幸吉野宮。

庚辰,車駕還宮。

十一月,辛卯朔戊戌,新羅遣級餐-朴憶德、金深薩等進調,賜擬遣新羅使-直廣肆-息長真人-老、務大貳-川內忌寸-連等祿,各有差。

辛丑,饗祿新羅-朴憶德於難波館。

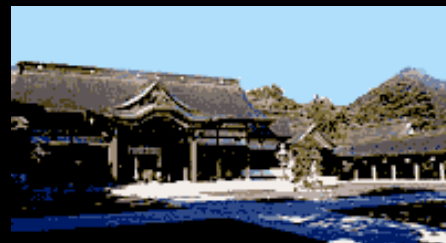
十二月,辛酉朔甲戌,賜音博士-續守言、薩弘恪,水田人四町。

甲申,遣大夫等,奉新羅調於五社-伊勢、住吉、紀伊、大倭、菟名足。

郡,依『皇太神宮儀式帳』方時度會郡,多氣郡二郡為伊勢神宮之神郡。



初生衣神社
境內織殿負責將三河產赤引絲(閏五月丁未條)織成奉皇大神宮之御衣。



氣比神宮
筭飯神,此指敦賀市之氣比神宮,其祭神為伊奢沙和氣命是也。



踏歌 河南廣播電視大學演出

『舊唐書』睿宗紀云:「上元日夜,上皇御安福門觀燈,出內人連袂踏歌,縱百僚觀之,一夜方罷。」原為中國民間行事,傳入日本後,成為男踏歌女踏歌之宮中行事,歌舞最後必述「万年阿良禮」祈生命萬年存之。

『養老令』制服條云無位著黃袍,家人奴婢著橡墨衣(皂衣),賻物,為助喪主而贈之布帛財貨總稱,所掘尸,營造藤原京時所破壞之墳墓之屍體。



多武嶺

亦,田身嶺,櫻井南部,與寺川上游之明日香村交界之山,最高峰御破裂山

八.頻繁行幸吉野,新宮整地,軍事整備

七年春正月,辛卯朔壬辰,以淨廣壹授皇子-高市,淨廣貳授皇子-長與皇子-弓削。

是日,詔令天下百姓服黃色衣,奴皂衣。

丁酉,饗公卿大夫等。

癸卯,賜京師及畿內有位年八十以上人衾一領、絁二匹、綿二屯、布四端。

乙巳,以正廣參贈百濟王-善光,并賜賻物。

丙午,賜京師男女年八十以上及困貧窮者,布各有差,賜船瀨沙門-法鏡,水田三町。

是日,漢人等奏踏歌。

二月,庚申朔壬戌,新羅遣沙餐-金江南、韓奈麻-金陽元等,來赴王喪。

己巳,詔造京司-衣逢王等,收所掘尸。

己丑,以流來新羅人-牟自毛禮等三十七人,付賜憶德等。

三月,庚寅朔,日有蝕之。

甲午,賜大學博士-勤廣貳-上村主-百濟,食封三十戶,以優儒道。

乙未,幸吉野宮。

庚子,賜直大貳-葛原朝臣-大島賻物。

壬寅,天皇至自吉野宮。

乙巳,賜擬遣新羅使-直廣肆-息長真人-老、勤大貳-大伴宿禰-子君等及學問僧-辨通、神觀等,絁、綿、布各有差,又賜新羅王賻物。

丙午,詔令天下,勸殖桑、紵、梨、栗、蕪菁等草木,以助五穀。

夏四月,庚申朔丙子,遣大夫、謁者,詣諸舍祈雨,又遣使者,祀廣瀨大忌神與龍田風神。

辛巳,詔:「內藏寮允-大伴-男人坐臧,降位二階,解見任官,典鑰-置始-多久與菟野-大伴,益坐臧,降位一階,解見任官,監物-巨勢-邑治雖物不入於己,知情令盜之,故降位二階,解見任官,然置始-多久有勤勞於壬申年役之,故赦之,但臧者依律徵納。」

五月,己丑朔,幸吉野宮。

乙未,天皇至自吉野宮。

癸卯,設無遮大會於內裏。

六月,己未朔,詔高麗沙門-福嘉還俗。

壬戌,以直廣肆授引田朝臣-廣白、守君-刈田、巨勢朝臣-麻呂、葛原朝臣-臣麻呂、巨勢



仁王經曼荼羅

仁王經,即為『仁王般若波羅密經』

東越青丘南踰丹微
內終以文德懷遠人
億兆始以武功壹海
四方通乎立年撫臨

歐陽詢 九成宮醴泉銘

醴,一夜釀且未分粕之濃酒,甘酒。醴泉,味如甘酒之泉。『爾雅』云:「甘雨時降,萬物以嘉,謂之醴泉。」又,疏云:「醴泉者,水泉之味甘如醴也。」

九.遷都藤原京

八年春正月,乙酉朔丙戌,以正廣肆,授直大壹-布勢朝臣-御主人與大伴宿禰-御行.增封人二百戶,通前五百戶.並為氏上.

辛卯,饗公卿等.

己亥,進御薪.

庚子,饗百官人等.

辛丑,漢人奏踏歌.五位以上射.

壬寅,六位以下射.四日而畢.

癸卯,唐人奏踏歌.

乙巳,幸藤原宮.

即日,還宮.

丁未,以務廣肆等位,授大唐七人與肅慎二人.

戊申,幸吉野宮.

三月,甲申朔,日有蝕之.

乙酉,以直廣肆-大宅朝臣-麻呂、勳大貳-台忌寸-八島、黃書連-本實等拜鑄錢司.

甲午,詔曰:「凡以無位人任郡司者,以進廣貳授大領,以進廣參授小領。」

己亥,詔曰:「粵以七年歲次癸己,醴泉涌於近江國益須郡都賀山.諸疾病人停宿益須寺,而療差者眾.故入水田四町、布六十端,原除益須郡今年調役、雜徭,國思頭至目,進位一階.賜其初驗醴泉者葛野羽衝、百濟土羅羅女,人絕二匹、布十端、鍬十口。」

乙巳,奉幣於諸舍.

丙午,賜神祇官頭至祝部等一百六十四人,絕、布各有差.

夏四月,甲寅朔戊午,以淨大肆,贈筑紫大宰率-河內王,并賜賻物.

庚申,幸吉野宮.

丙寅,遣使者,祀廣瀨大忌神與龍田風神.

丁亥,天皇至自吉野宮.

庚午,贈律師-道光賻物.

五月,癸未朔戊子,饗公卿大夫於內裏.

癸巳,以金光明經一百部,送置諸國.必取每年正月上玄讀之.其布施以當國官物充之.

朝臣-多益須、丹比真人-池守、紀朝臣-麻呂,七人.

秋七月,戊子朔甲午,幸吉野宮.

己亥,遣使者,祀廣瀨大忌神與龍田風神.

辛丑,遣大夫、謁者,詣諸舍請雨.

是日,天皇至自吉野.

八月,戊午朔,幸藤原宮地.

甲戌,幸吉野宮.

戊寅,車駕還宮.

九月,丁亥朔,日有蝕之.

辛卯,幸多武嶺.

壬辰,車駕還宮.

丙申,為清御原天皇,設無遮大會於內裏.繫囚悉原遣.

壬寅,以直廣參,贈蚊屋忌寸-木間,并賜賻物.以褒壬申年之役功.

冬十月,丁巳朔戊午,詔:「自今年,始於親王,下至進位,觀所儲兵.淨冠至直冠,人甲一領、大刀一口、弓一張、矢一具、陌一枚、鞍馬、勤冠至進冠,人大刀一口、弓一張、矢一具、陌一枚,如此預備。」

己卯,始講仁王經於百國,四日而畢.

十一月,丙戌朔庚寅,幸吉野宮.

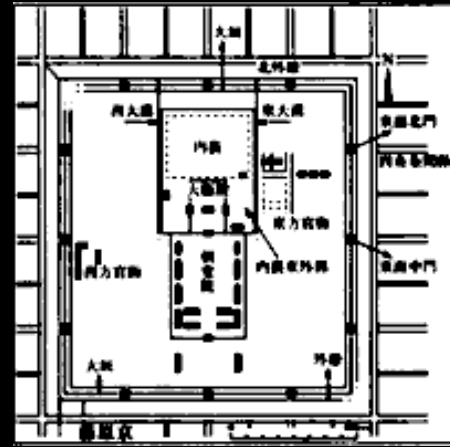
壬辰,賜耽羅王子、佐平等各有差.

乙未,車駕還宮.

己亥,遣沙門-法員、善往、真義等,試飲近江國益須郡醴泉.

戊申,以直大肆,授直廣肆-引田朝臣-少麻呂.仍賜食封五十戶.

十二月,丙辰朔丙子,遣陣法博士等,教習諸國.



藤原宮圖

六月,癸丑朔庚申,河內國更荒郡獻白山雞.賜更荒郡大領、小領,位人一級,并賜物.以進廣貳,賜獲者刑部造-韓國,并賜物.

秋七月,癸未朔丙戌,遣巡查使於諸國.

丁酉,遣使者,祀廣瀨大忌神與龍田風神.

八月,壬子朔戊辰,為皇女-飛鳥,度沙門一百四口.

九月,壬午朔,日有蝕之.

乙酉,幸吉野宮.

癸卯,以淨廣肆-三野王,拜筑紫大宰率.

冬十月,辛亥朔庚午,以進大肆,賜獲白蝙蝠者飛驒國荒城郡弟國部-弟日,并賜絁四匹、布十端.其戶課役限身悉免.

十一月,辛巳朔丙午,赦殊死以下.

十二月,庚戌朔乙卯,遷居藤原宮.

戊午,百官拜朝.

己未,賜親王以下至郡司等,絁、綿、布各有差.

辛酉,宴公卿大夫.



前賢故實 葛野羽衝

前賢故實
葛野羽衝



藤原京復原圖

持統天皇八年十二月,遷居藤原宮.自此開啟藤原京時代.藤原京當為天武天皇所企劃,北,東,西各有耳成,香久,畝傍三山,南臨飛鳥川,可謂龍穴.其規模之大,更甚平城京與平安京.



前賢故實
舍人親王

十.新藤原宮之政治情勢

九年春正月,庚辰朔甲申,以淨廣貳授皇子-舍人.

丙戌,饗公卿大夫於內裏.

甲午,進御薪.

乙未,饗百官人等.

丙申,射.四日而畢.

閏二月,己卯朔丙戌,幸吉野宮.

癸巳,車架還宮.

三月,戊申朔己酉,新羅遣王子-金良琳、補命-薩餐-朴強國等及韓奈麻-金周漢、金忠仙等,奏請國政.且進調獻物.

己未,幸吉野宮.

壬戌,天皇至自吉野.

庚午,遣務廣貳-文忌寸-博勢、進廣參-下譯語-諸田等於多禰,求蠻所居.

夏四月,戊寅朔丙戌,遣使者,祀廣瀨大忌神與龍田風神.

甲午,以直廣參,贈賀茂朝臣-蝦夷,并賜賻物.本位,勤大壹.以直大肆,贈文忌寸-赤麻呂,并賜賻物.本位,大山中.

五月,丁未朔己未,饗隼人大隅.

丁卯,觀隼人相撲於西槻下.

六月,丁丑朔己卯,遣大夫、謁者,詣京師及四畿內諸舍,請雨.

壬辰,賞賜諸臣年八十以上及痼疾各有差.

甲午,幸吉野宮.

壬寅,至自吉野.

秋七月,丙午朔戊辰,遣使者,祀廣瀨大忌神與龍田風神.

舍人親王,養老二年正月昇一品.參與天武天皇所發案『日本書紀』之製作,成為其責任編輯者,以養老四年,完成奏上.同年,官拜知太政官事.天平七年十一月薨,追贈太政大臣.為淳仁天皇之父.天平寶字三年六月,追尊以「崇道盡敬皇帝」之號.



隼人盾

九年五月丁卯,觀隼人相撲西槻下.

辛未,賜擬遣新羅使-直廣肆-小野朝臣-毛野、務大貳-伊吉連-博德等物各有差.

八月,丙子朔己亥,幸吉野.

乙巳,至自吉野.

九月,乙巳朔戊申,原放行獄徒繫.

庚戌,小野朝臣-毛野等發向新羅.

十月,乙亥朔乙酉,幸菟田吉隱.

丙戌,至自吉隱.

十二月,甲戌朔戊寅,幸吉野宮.

丙戌,至自吉野.賜淨大肆-泊瀨王賻物.

十一.高市皇子之死,功臣之死

十年春正月,甲辰朔庚戌,饗公卿大夫.

甲寅,以直大肆,授百濟王-南典.

戊午,進御薪.

己未,饗公卿、百寮人等.

辛酉,公卿、百寮射於南門.

二月,癸酉朔乙亥,幸吉野宮.

乙酉,至自吉野.

三月,癸卯朔乙巳,幸二槻宮.

甲寅,賜越度島蝦夷-伊奈理武志與肅慎-志良守叡草,錦袍褲、緋紺絕、斧等.

夏四月,壬申朔辛巳,遣使者,祀廣瀨大忌神與龍田風神.

戊戌,以追大貳,授伊豫國風速郡物部-藥與肥後國皮石郡壬生-諸石,并賜人絶四匹、絲十絢、布二十端、鋤二十口、稻一千束、水田四町,復戶調役,以慰久苦唐地.

己亥,幸吉野宮.

五月,壬寅朔甲辰,詔大錦上-秦造-綱手,賜姓為忌寸.

乙巳,至自吉野.

己酉,以直廣肆,授尾張宿禰-大隅,并賜水田四十町.

甲寅,以直廣肆,贈大貳連-百枝,并賜賻物.

六月,辛未朔戊子,幸吉野宮.

丙申,至自吉野宮.

秋七月,辛丑朔,日有蝕之.

壬寅,赦罪人.

戊申,遣使者,祀廣瀨大忌神與龍田風神.

庚戌,後皇子尊薨.

八月,庚午朔甲午,以直廣壹,授多臣-品治,并賜物褒美元從之功與堅守關事.

九月,庚子朔甲寅,以直大壹,贈若櫻部朝臣-五百瀨,并賜賻物,以顯元從之功.

冬十月,己巳朔乙酉,賜右大臣-丹比真人輿、杖,以哀致事.

庚寅,假賜政廣參位-右大臣-丹比真人資人一百二十人,正廣肆-大納言-阿倍朝臣-御主人、大伴宿禰-御行並八十人,直廣壹-石上朝臣-麻呂、直廣貳-藤原朝臣-不比等並五十人.

十一月,己亥朔戊申,賜大官大寺沙門-辨通,食封四十戶.

十二月,己巳朔,敕旨,緣讀光明經,每年十二月晦日,度淨行者十一人.



津輕半島

度島或作渡島,有北海道南部說及津輕半島說,就本段而言後者較有利.



風速郡

『和名抄』云在伊豫國中央偏北,今愛媛縣北條市與溫泉郡之忽那群島.



高市皇子歌碑

相對於草壁皇子尊,同務太政大臣之高市皇子因而被稱作後皇子尊.『延喜式』諸陵有云:「三立岡墓.高市皇子墓,在大和國廣瀨郡.兆域東西六町,南北四町.無守戶.」然而,亦有比定為高松塚古墳被葬者之說.



長岡京春宮坊跡地

春宮坊(皇太子役所)長官稱大夫.草壁皇子嫡子輕皇子,立太子.『續日本紀』文武天皇即位前紀云:「高天原廣野姬天皇十一年,立皇太子.」『釋日本紀』云:「持統天皇十一年春二月丁卯朔壬午,立為皇太子.」



文武天皇像 「阿騎野之朝」
持統讓位與輕皇子,是為文武天皇.

十二.讓位予文武天皇

十一年春正月,甲辰,饗公卿大夫等.

戊申,賜天下鰥寡、孤獨、篤癰,貧不能自存者稻各有差.

癸丑,饗公卿、百寮.

二月,丁卯朔甲午,以直廣壹-當麻真人-國見為東宮大傅,直廣參-路真人-跡見為春宮大夫,直大肆-巨勢朝臣-栗持為亮.

三月,丁酉朔甲辰,設無遮大會於春宮.

夏四月,丙寅朔己巳,授滿選者淨位至直位各有差.

壬申,幸吉野宮.

己卯,遣使者,祀廣瀨與龍田.

是日,至自吉野.

五月,丙申朔癸卯,遣大夫、謁者,詣神社,請雨.

六月,丙寅朔丁卯,赦罪人.

辛未,詔讀經於京畿諸寺.

辛巳,遣五位以上,掃灑京寺.

甲申,班幣於神祇.

辛卯,公卿、百寮始造為天皇並所願佛像.

癸卯,遣大夫、謁者,詣神社,請雨.

秋七月,乙未朔辛丑,夜半,赦常銕盜賊一百九人.仍賜布人四常.但外國者,稻人二十束.

丙午,遣使者,祀廣瀨與龍田.

癸亥,公卿、百寮,設開佛眼會於藥師寺.

八月,乙丑朔,天皇定策禁中,禪天皇位於皇太子.

日本書紀卷三十 終

[\[久遠・絆\]](#) [\[其之一\]](#) [\[卷第一\]](#) [\[再臨詔\]](#)